

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論 (エマージング・テクノロジーのもたらす社会変革と公共政策)

担当教員/Instructor: 道下 徳成/MICHISHITA Narushige

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

技術の飛躍的な進歩は、多くの情報の瞬時伝達を可能とし、ネット空間で異質なものがぶつかり合う中、多くのイノベーションを生みだしている。また、いたるところにゲームチェンジャーと呼ばれる社会を一新する技術の萌芽があり、これからも世界を変え続けていくと予想される。

本講義は、①そのようなエマージング・テクノロジーの概要と動向、②それらがどのような社会変革をもたらすのかについての見積もり、③それらに対応する公共政策のあり方について学ぶことを目的とするものである。内容は、それぞれの分野の専門家による講義を中心とするが、質疑応答とディスカッションの時間を十分確保することで、より理解を深められるよう配慮する。

講義形態はハイブリッド（対面およびオンライン）とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1講 導入：コースの概要と日本のイノベーション環境について

政策研究大学院大学 客員研究員 井手達夫

東京工業大学大学院 環境・社会理工学院 イノベーション科学系 特定教授/日立コンサルティング

代表取締役社長 八尋俊英

第2講 概要：ゲームチェンジャー技術の動向と影響（人工知能領域）

野村総合研究所 研究理事 桑津浩太郎

第3講 概要：ゲームチェンジャー技術の動向と影響（ビッグデータ領域）

マイクロソフト パブリックセクター事業本部 部長 柴田貴嗣

第4講 概要：エマージング・テクノロジーの動向と影響（量子技術領域）

日立情報通信エンジニアリング 主管技師長 原澤克嘉

第5講 各論：エマージング・テクノロジーの動向と影響（宇宙領域）

JAXA 宇宙科学研究所教授/日本大学特任教授 宮崎康行

第6講 各論：エマージング・テクノロジーの動向と影響（IoT 領域）

一般社団法人サイバースマートシティ創造協議会 代表理事 豊崎禎久

第7講 各論：エマージング・テクノロジーの動向と影響（海外の動向）

NATO 科学技術機構 Nico Pos

第8講 総括：総合討論

政策研究大学院大学 客員研究員 井手達夫

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、リアクション・ペーパーと期末レポートで評価する。

◆リアクション・ペーパー (80%)

- ・各講義につき 400～600 字のリアクション・ペーパーを作成
- ・毎回、講義後の月曜日 2400 時までに提出
- ・内容は以下の通りとする。
 - ①講義や必読文献から学んだことのなかから自身が重要であると感じたポイント一点
 - ②重要であると感じた理由
 - ③それについての自身の所見
- ・リアクション・ペーパーは以下のメール・アドレスに提出すること。

michi@grips.ac.jp; Tatsuo.ide55@gmail.com; ko-takahashi@grips.ac.jp

◆期末レポート (20%)

- ・分量 1,000～1,500 字
- ・提出期限 12月3日(日)
- ・講座全体あるいは重要な一部を踏まえつつ、以下の項目について論述する。
 - ①自身の活動の場(専門分野、職場、家庭など)においてどのようなエマージング・テクノロジーがどのような影響を与えるか
 - ②それに公共政策あるいは個人・社会がどのように対応していくべきか
- ・期末レポートは以下のメール・アドレスに提出すること。

michi@grips.ac.jp; Tatsuo.ide55@gmail.com; ko-takahashi@grips.ac.jp

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

後日通知

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: Selected Topics in Policy Studies (Data Science for Public Policy)

担当教員/Instructor: 後藤 潤/GOTO Jun

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course will provide hands-on experience in applying machine learning and statistical techniques to analyze economic data. We will cover a range of methodologies including automated data collection (web scraping to construct empirical data), causal inference with machine learning, classification methods, and text analysis. By the end of the course, you will be equipped with the skills and knowledge to independently conduct machine learning analyses to answer important questions in the field of economics. We will use R and Python as programming language.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

We will cover the following topics:

- Basic introduction of R and Python

- Data construction with web scraping methods

- Causal Inference with machine learning

- The Natural Language Processing Approach

 - Tokenization

 - Supervised learning

 - Unsupervised learning

- Frontiers in empirical studies with machine learning methods

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Problem sets and classroom participation (40%), Term paper (60%)

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

Reading list will be provided in the first class.

Reference book:

Aurelien Geron, Hands-on Machine Learning with Scikit-Learn, Keras, and TensorFlow (2019)

5. 履修上の注意/ **Note:**

Knowledge of basic econometrics such as OLS will be required.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論 (国際経済法)

担当教員/Instructor: 米谷 三以/KOMETANI Kazumochi

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義は、緊張関係の高まる国際経済関係を健全に発展させる国際ルール及びレジームを形成するために有用な法的・政策的パースペクティブを得ることを狙いとして、そのバックボーンとして機能している WTO 協定を中核とする国際経済法について、基本的な事項を紹介し、システムとして理解する視点の探究を試みる。

今日の国際経済関係においては、一方で、貿易・投資の自由化により経済の相互依存が深化し、また地球温暖化、感染症の蔓延などの対策として国際的な協力関係が構築されるなど求心力が働き、環境保護・人権保護など他国の国内政策に対する関心も高まっている。他方で、重要資機材の国内生産確保を含む経済安全保障の主張など、遠心力の増大も観察され、グローバリゼーションの動きに疑問を投げかけている。これら対立する二つの力に加え、米中対立の根底にある体制の違い、また関係する複数の政策間の不整合などが問題を複雑化しており、様々な紛争が発生している。

これらの具体的問題について、WTO 協定、EPA、投資協定のどの部分に関わるかを理解し、具体的問題をどのように扱うべきかの視点を獲得するために、まず、基本的事項・条文の意義、さらにこれらの国際経済法がどのようなシステムを構成しているかを理解することをまず目標とする。そのうえで、各規定の基礎にある政策思考を探求することにより、国際経済分野における国際レジーム・国際協定の発展方向を考えるパースペクティブを獲得することを目指す。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各授業が取り扱う可能性のあるテーマは以下の通りであるが、いずれの回においても基本事項・規定の解説を中心とする。なお、2～7については順序を変更することがある。

1 自由貿易体制 (WTO と FTA) 概観と沿革: ①国際経済体制の歴史 (ブレトンウッズ、財政・金融分野の国際ルールの発展概要)、関税交渉の歴史、FTA 例外 (2 4 条) と授権条項 (GSP 開発問題)、労働問題その他の取り扱い (ITO 憲章); ②ルール形成と紛争解決—紛争処理手続 (対抗措置の回避) (DSU) と組織法 (コンセンサス問題、改正、ウェイバー、TPR) (WTO 設立協定) の概要—米国通商法 3 0 1 条問題、上級委員会問題、CPTPP 加盟、ビジネス環境整備 (EPA); ③その他ガバナンス問題—ソフト・ローに拠るルール形成 (例: ビジネスと人権にかかわる国連指導原則)、国際法の国内法的効力、私人の地位 (ルールテイカーからルールメイカーへ)、フラグメンテーションと統合 (Friedmann の視点)

2 貿易自由化の枠組み (経済依存を強化: 貿易措置を政治的措置として使わない) と経済安全保障 (経済依存を弱める): ①関税譲許 (2 条)、最恵国待遇義務 (1 条)、関税譲許の修正 (28 条)、セーフガード (1 9 条・セーフガード協定) —米国 232 条&301 条問題; ②関税分類と原産地規則—WCO の役割、EUITA ケース、特惠原産地規則問題; ③貿易制限禁止とその例外 (1 1 条 1・2 項) —コロナ輸出制限、食糧安全保障問題; ④EPA における貿易自由化—FTA 例外 (2 4 条) における「制限的通商規

則」の範囲、輸出制限・関税の撤廃可能性。

3 外国政府に対する干渉（異質な国との距離拡大）の規律： ①一般例外（20条）と PPM 措置（環境、人権保護）－EC アザラシケース、国境税調整（CBAM その他）、ビジネスと人権； ②安全保障例外（21条）－ロシアウクライナケース、輸出管理レジーム； ③経済制裁－レアアース／天然ガス輸出規制と金融制裁の違い、経済的威圧(economic coercion)措置の問題

4 国内政策に対する規律I（実体的規律から手続的規律へ／規制と税制との統合可能性）： ①内国規制－内国民待遇義務（3条）と TBT 協定－「同種の産品」の意義、保護すべき「競争関係」、米国タバコケース、プレーンパッケージケース、TBT 委員会実務、手続的規律の発展（TBT 協定、EPA における規律等）、投資協定（規制の合理性とリードタイム）－ISDS、②租税－日本酒税ケース、BEPS； ③財政金融の面での規律強化。

5 国内政策に対する規律II（産業政策・政府の経済活動と市場メカニズム）： ①補助金規制（補助金協定）と国有企業（17条）－エアバス／ボーイングケース、カナダ FIT ケース、AD/CVD ケース、CPTPP 等の規律； ②政府調達（3条8項a）と民営化－公立病院の医療機器調達問題、GPA 削除通報問題。

6 インターフェース問題－貿易救済法と検疫等： ①AD と CVD 関税－AD/CVD 措置の概要と意義、NME 問題、市場ベンチマーク問題、国内産業定義、因果関係論（中国 AD ケース、中国ステンレスケース、累積の実務）、サンセット手続； ②セーフガード（19条・セーフガード協定）－政策的意義。FTA の経過的 SG との関係； ③検疫措置、水際措置－一般例外（20条）、韓国水産物ケース、模倣品対策； ④PPM 措置の規律と関税譲許の修正可能性の意義。

7 サービスと知財－サービス貿易と投資保護： ①GATS－概要、サービス自由化交渉のフォーマット、参照文書方式の意義、デジタルスキーム（GATS5条の意義）、個人情報保護と GDPF； ②TRIPS－概要、強制技術移転問題と投資規制・国有企業規律、技術輸出規制と不正競争防止法、強制実施権と知財ウェイバー、禁訴令問題； ③投資協定－概要、ISDS と SSDS、投資仲裁裁判所問題、安全保障例外の意義。

8 グループ発表： 課題は第1回講義時に発表する。小グループに分かれて課題に対する回答をパワポ数枚にまとめてプレゼンし、質疑応答に備える。

3. 成績の評価方法/ Grading:

第8回に行うグループ発表を7割、出欠を含め講義中の貢献度（質問・コメント等）を3割として成績を評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1 松下満雄・米谷三以『国際経済法』（東京大学出版会、2015年）。

4.2 Peter Van den Bossche and Werner Zdouc, The Law and Policy of the World Trade Organization: Text, Cases, and Materials (Cambridge University Press, 2021 (5th ed.))

経済産業省通商政策局編『不公正貿易報告書（2023年版）－WTO 協定及び経済連携協定・投資協定から見た主要国の貿易政策』近刊。

5. 履修上の注意/Note:

なし。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論（国際法と安全保障）

担当教員/Instructor: 古谷 健太郎/FURUYA Kentaro

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では日本の安全保障と国際法について議論を行う。講義では安全保障にかかる国際法や国内法を概観したのち、過去の不審船事件や外国の事例などを取り上げ、安全保障上の脅威と国際法の機能について理解を深める。その上で、日本が直面するグレーゾーン事態、とりわけ尖閣諸島周辺における領海警備や中国の海上民兵問題を取り上げ、国際法に合致したより優れた安全保障政策について検討する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1) イントロダクション～国際法概要
- 2) 国際紛争法概要と法執行の国際法
- 3) 日本における武器使用法制
- 4) 日本海不審船事件・奄美大島沖不審船事件
- 5) ケルチ海峡事件とガイアナ・スリナム事件
- 6) 尖閣諸島周辺海域における領海警備と国際法
- 7) 海上民兵に対する措置
- 8) 総括

3. 成績の評価方法/ Grading:

質問・コメントなど授業に対する貢献 20%

小論文形式のタームペーパー 80%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1

黒崎将広(eds.), 「防衛実務国際法」 弘文堂, 2021

小松一郎, 実践国際法, 信山社, 2011

大沼保昭, 国際社会における法と力, 日本評論社, 2008

大沼保昭, 国際法 初めて学ぶ人のための, 東信堂, 2005

James Kraska and Raul Pedrozo, International Maritime Security Law, Martinus Nijhoff, 2013

Natalie Klein, Maritime Security and the Law of the Sea, Oxford University Press, 2011

Lindsay Black, Japan's Maritime Security Strategy, Palgrave Macmillan, 2014

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論(情報と安全保障)

担当教員/Instructor: 道下 徳成、外部講師/MICHISHITA Narushige, et al.

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

講義の目的・内容・進め方

- ・毎回、講義当日までに「必読文献」を読んでおいてください。「推薦文献」は読まなくてもよいですが、各自、関心があれば参考にしてください。文献は図書館にあると思いますが、入手が困難な場合は講師に相談してください。
- ・講義を中心に授業を進めますが、質疑応答・討議の時間も設けるようにします。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

◆講義内容（予定。必読文献等は後日通知）

8月5日（土）0900～1030時 情報と安全保障—総論（道下徳成）

小谷賢『日本インテリジェンス史—旧日本軍から公安、内調、NSC まで』中公新書、2022年、第4、5、終章。

【推薦文献】

麻生幾『情報、官邸に達せず』新潮文庫、2001年。6～7章

朝日新聞「自衛隊50年」取材班『自衛隊—知られざる変容』朝日新聞社、2005年。第8章（327～365ページ）

マーク・M・ローエンタール『インテリジェンス—機密から政策へ』茂田宏監訳、慶応大学出版会、2011年、第1章、第2章、第8章

大森義夫『日本のインテリジェンス機関』文春新書、文藝春秋、2005年。

江畑謙介『情報と国家—収集・分析・評価の落とし穴』講談社現代新書、講談社、2004年。1および3章

野田敬生『CIA スパイ研修—ある公安調査官の体験記』現代書館、2000年。

8月5日（土）1040～1210時 情報と政策決定（兼原信克）

【必読文献】

兼原信克「第6章 日本のインテリジェンス」『安全保障戦略』日本経済新聞出版社、2020年。

兼原信克他「第5章 インテリジェンス」『官邸官僚が本音で語る権力の使い方』新潮新書、2023年

【推薦文献】

マーク・ローエンタール『インテリジェンス』慶應義塾大学出版会、2011年。
ミルト・ベアデン『ザメイン・エネミー（上・下）』ランダムハウス講談社、2003年。
リチャード・サミュエルズ『特務』日経出版社、2020年。
ティム・ワイナー『CIA 秘録（上・下）』文芸春秋、2011年。

8月5日（土）1320～1450時 中国外交・安全保障政策の分析手法（峯村健司）

【必読文献】

石平、峯村健司『習近平・独裁者の決断—台湾有事は絶対に現実化する』ビジネス社、2023年。
峯村健司他『ウクライナ戦争と米中対立—帝国主義に逆襲される世界』幻冬舎新書、2022年。

【推薦文献】

峯村健司『宿命 習近平闘争秘史』文春文庫、2018年。

●8月26日（土）0900～1030時 ロシア外交・安全保障政策の分析手法（小泉悠）

【必読文献】

エリオット・ヒギンズ「第2章 〈ベリングキャット〉の誕生—探偵チームの形が整う」『ベリングキャット—デジタルハンター、国家の嘘を暴く』筑摩書房、2022年

【推薦文献】

小泉悠『ウクライナ戦争』ちくま新書 1697、2022年
小泉悠『ウクライナ戦争の200日』文春新書 1378、2022年
小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』ちくま新書、2021年

8月26日（土）1040～1210時 防衛産業についての情報収集と分析（堀地徹）

【必読文献】

安保3文書（令和4年）防衛産業部分

「国家安全保障戦略」（令和4年12月16日 国家安全保障会議・閣議決定）
<https://www.cas.go.jp/jp/siryou/221216anzenhoshou/nss-j.pdf>

「国家防衛戦略」（令和4年12月16日 国家安全保障会議・閣議決定）
<https://www.cas.go.jp/jp/siryou/221216anzenhoshou/boueisenryaki.pdf>

「防衛力整備計画」（令和4年12月16日 国家安全保障会議・閣議決定）
<https://www.cas.go.jp/jp/siryou/221216anzenhoshou/boueiryokuseibi.pdf>

「防衛省が調達する装備品等の開発及び生産のための基盤の強化に関する法律」（令和5年）
https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_gian.nsf/html/gian/honbun/houan/g21109020.htm あるいは
<https://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/gian/211/pdf/t0802110202110.pdf>
日本経済団体連合会「防衛計画の大綱に向けた提言」2022年4月、
<http://www.keidanren.or.jp/policy/2022/035.html>
「装備移転三原則の運用方針」平成26年 国家安全保障会議及び閣議決定、令和4年3月8日 一部改正、
<https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/pdf/bouei3.pdf>

【推薦文献】

<装備移転三原則決定時の背景等>

森本敏『武器輸出三原則はどうして見直されたのか?』海竜社、2014年

森本敏『防衛装備庁—防衛産業とその将来』海竜社、2015年

<防衛装備調達の財務会計面での分析書>

櫻井通晴『契約価格、原価、利益—管理会計の視点による防衛装備品の効率的・効果的な開発と生産』同文館出版、2017年

<防衛産業関連の特集>

「軍事ビジネス&自衛隊」『週刊ダイヤモンド』2022年8月27日号

「大解剖 防衛産業&安全保障 ウクライナで世界一変」『週刊エコノミスト』2022年5月17日号

「沈むな防衛産業 技術革新の種 守れるか」『日経ビジネス』2021年10月25日号

「自衛隊と軍事ビジネスの秘密」『週刊ダイヤモンド』2014年6月21日号

●8月26日（土）1320～1450時 米国の軍事戦略の分析手法（布施哲）

【必読文献】

布施哲「ASBM（対艦弾道ミサイル）対処能力の発展と前方展開兵力の脆弱性の克服—米海軍の新型電子戦システムを中心に」『海幹校戦略研究』第12巻第1号、通巻第24号、2022年6月、
https://www.mod.go.jp/msdf/navcol/assets/pdf/ssg2022_06_10.pdf

布施哲「米国による対中制裁関税発動の背景—オバマ政権期における『経済諜報型』サイバー攻撃を中心に」『戦略研究』第28号、2021年3月

【推薦文献】

布施哲『先端技術と米中戦略戦争—宇宙、AI、極超音速兵器が変える戦い方』秀和システム、2020年

9月2日（土）0900～1030時 軍事情報の収集・分析手法（高橋杉雄）

【必読文献】

高橋杉雄『日本で軍事を語るということ—軍事分析入門』中央公論新社、2023年7月、終章

【推薦文献】

高橋杉雄『日本で軍事を語るということ—軍事分析入門』中央公論新社、2023年7月、終章以外の部分

9月2日（土）1040～1210時 ウクライナ戦争の分析手法（高橋杉雄）

【必読文献】

高橋杉雄編著『ウクライナ戦争はなぜ終わらないのか—デジタル時代の総力戦』文藝春秋、2023年、第5章

【推薦文献】

高橋杉雄編著『ウクライナ戦争はなぜ終わらないのか—デジタル時代の総力戦』文藝春秋、2023年、第5章以外の部分

9月2日（土）1320～1450時 危機の研究—ケース：黄海における南北朝鮮の交戦（道下徳成）

【必読文献】

ROK Ministry of National Defense, "Naval Campaigns in the Northern Limit Line (NLL) Waters," "Attack against the ROKS Cheonan," and "Artillery Firing at Yeonpyeongdo [Island]", in 2010 Defense White Paper, Seoul: MND, 2010, pp. 314-336.

道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年、プロローグ、第4章、第8章

ジョン・ルイス・ギャディス「第9章 キューバ・ミサイル危機」『歴史としての冷戦—力と平和の追求』慶應義塾大学出版会、2004年

【推薦文献】

Joel S. Wit, Daniel B. Poneman, and Robert L. Gallucci, *Going Critical: The First North Korean Nuclear Crisis*, Brookings Institution Press, 2004.

ケネス・キノネス『北朝鮮—米國務省担当官の交渉秘録』伊豆見元監修、山岡邦彦・山口瑞彦訳、中央公論新社、2000年。

船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン—朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年。

9月9日（土）0900～1030時 北朝鮮問題の分析手法（坂井隆）

【必読文献】

坂井隆、平岩俊司『独裁国家・北朝鮮の実像—核・ミサイル・金正恩体制』朝日新聞出版、2017年、117

～160 頁、255～263 頁

【推薦文献】

小林良樹『インテリジェンスの基礎理論』立花書房、2011 年

グレアム・アリソン、フィリップ・ゼリコウ『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析 (I、II)』日経 BP 社、2016 年

フィリップ・E・テトロック、ダン・ガードナー『超予測力』早川書房、2018 年

上田篤盛『武器になる情報分析力』並木書房、2019 年

9 月 9 日 (土) 1040～1210 時 中国の軍事戦略の分析手法 (山本勝也)

【必読文献】

山本勝也「海洋安全保障雑感～米国東海岸便り (No.04) —現役海軍将校が提言：第 2 列島線の向こうへ新たな海軍戦略 (コラム 091)」2017 年 7 月 20 日、
<https://www.mod.go.jp/msdf/navcol/index.html?c=columns&id=091>

Ryan Martinson and Katsuya Yamamoto, "How Chinas Navy Is Preparing to Fight in the Far Seas: Two PLA Navy officers might have a clue," The National Interest, July 18, 2017, <https://nationalinterest.org/feature/how-chinas-navy-preparing-fight-the-far-seas-21583>

【推薦文献】

山本勝也「公設武装漁民と文民の保護」『人道研究ジャーナル』第 9 号、2020 年、32-41 頁、
https://www.jrc.ac.jp/application/files/5616/2305/0795/journal_vol9.pdf

山本勝也「安全保障の空白域としての台湾正面」『海軍校戦略研究』第 10 巻第 1 号 (通巻第 20 号)、2020 年 7 月、40-58 頁、
https://www.mod.go.jp/msdf/navcol/assets/pdf/ssg2020_07_04.pdf

9 月 9 日 (土) 1320～1450 時 米国の対外政策の分析手法 (吉崎達彦)

【必読文献】

吉崎達彦「特集：バイデン政権『ミドルクラス』の桎梏」『溜池通信』2021 年 6 月 4 日号、
<http://tameike.net/pdfs8/tame717.PDF>

吉崎達彦「バイデンの戦争としてのウクライナ」『溜池通信』2022 年 5 月 13 日号、
<http://tameike.net/pdfs8/tame740.PDF>

吉崎達彦「2023 年の国際情勢カレンダー」『溜池通信』2022 年 11 月 25 日号、
<http://tameike.net/pdfs8/tame753.PDF>

【推薦文献】

吉崎達彦「ウクライナ戦争が世界経済に与える影響」『SSDP 安全保障・外交政策研究会』2022 年 7 月、
<http://ssdpaki.la.coocan.jp/proposals/113.html>

9月16日(土) 0900~1030時 安全保障に関するデータ分析手法(綱嶋亨)

【必読文献】

後日通知

【推薦文献】

後日通知

9月16日(土) 1040~1210時 日本の防衛政策の分析手法(道下徳成)

【必読文献】

後日通知

【推薦文献】

後日通知

9月23日(土) 0900~1030時 軍事バランスの分析と政策的インプリケーション(道下徳成)

【必読文献】

Michael O'Hanlon, "Stopping a North Korean Invasion: Why Defending South Korea Is Easier than the Pentagon Thinks," *International Security*, vol. 22, no. 4 (Spring 1998), pp. 135-170.

マーク・M・ローエンタール『インテリジェンス—機密から政策へ』茂田宏監訳、慶応大学出版会、2011年、第11章

【推薦文献】

金元奉・光藤修編著『最新朝鮮半島軍事情報の全貌—北朝鮮軍、韓国軍、在韓米軍のパワーバランス』講談社、2000年。

Global Security.org, "Military Options," "OPLAN 5027 - Major Theater War," "OPLAN 5026 - Air Strikes," "OPLAN 5029 - Collapse of DPRK," "OPLAN 5030 - Rollback of DPRK,"

3. 成績の評価方法/ Grading:

【修士・科目等履修生】

◆安全保障に関するインテリジェンス分析レポート（100%）

提出期限： 10月1日（日）

分量：本文 10,000字以内

（図表や注はカウントしない。但し、 unnecessaryな図表を入れることはマイナス評価につながるので注意すること。過不足なく情報を盛り込むこと。）

*1つの具体的な出来事や課題について、日本の安全保障政策の策定・実施に役立つ内容のレポートを作成する。レポートは以下の内容を含むものとする。

①テーマ設定と政策上の意義

②必要な情報・データの提示と分析

③分析結果

④分析結果から論理的に導き出される、とるべき政策・予算上の措置

- ・執筆を始める前に、主担当講師（道下）からテーマについての許可を得ること。
- ・本課題で最も難しいのはテーマ設定である。
- ・テーマを決めるにあたっては、自分が興味をもっている課題で、かつ情報やデータが十分存在するものを探すのが良い。いくら関心のあるテーマでも、情報やデータがなければレポートを執筆するのは不可能である。
- ・すでに同様のテーマについての報告書などが存在する場合は、目的を再設定したり、異なる切り口で分析したりすることで、バッティングするのを回避することが可能な場合がある。例えば、米国政府向けの報告書があるテーマについて、日本政府向けの報告書を作成するのは可能であろう。また、同じテーマについて異なるアプローチで分析を行うことも可能であろう。但し、そのような場合には、既存の報告書の存在を明記したうえで、自身のレポートはオリジナリティの高いものであることを説明しなければならない。なお、既存の報告書とあまりに共通点が多くなってしまう場合は、当該のテーマは避けるのが好ましい。その意味でも、「ほとんど書き終わってから同じような報告書が見つかった」ということにならないように、事前に十分調べた上でテーマ設定を行うこと。

（注意事項） ChatGPTなどのツールは積極的に使用してもよい。

【博士課程の学生】

◆安全保障に関するインテリジェンス分析レポート（90%）

- ・修士・科目等履修生の課題と同じ内容

◆書評（10%）

提出期限：10月1日（日）

・情報と安全保障に関する専門書1冊あるいは本格的な論文・レポート（50ページ以上のもの）について、2,000字以内の書評を執筆する。

・図書等の選定については主担当講師（道下）の許可が必要。できるだけ早く講師に対象としたい図書等をメールなどで提案し、許可を取ること。図書の選定にあたっては、単なる歴史や教科書的な図書は避け、特定の具体的なテーマについて深く分析する内容のものを選定すること。言い換えれば、自身が執筆する分析レポートのモデルになるようなものを選ぶのが好ましい。

4. 参考文献等/Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- ・各授業のテーマを参照

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論 (サイバーセキュリティーと公共政策)

担当教員/Instructor: 道下 徳成、外部講師/MICHISHITA Narushige, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

今日、世界人口の半数以上がインターネットを利用し、エネルギー、交通、金融といった社会基盤もネットの上に再構築され、各種公共サービスもまたネットを介して提供されるようになってきている。だが利便性が向上する一方で、その弊害も拡大しつつあり、ネット上におけるサイバー攻撃は単に個人の財産を窃取するのみならず、公共機関からの機微情報の窃取、重要インフラを麻痺させ社会を混乱させるテロ、また紛争と並行して行われる攻撃が行われるまでに至っている。このような脅威に対応するためには、官民を挙げ、分野を超えた努力を行い、国際的な連携を強化する必要がある。

本講座では、各講その分野の有識者を招聘する形で実施し、国内外のサイバーセキュリティーへの取組について学ぶとともに、今後のサイバー空間における政策のあり方を考えていく。

到達目標として、教務終了時に学生は以下の3点の概要について理解するものとする。

- 1 サイバー領域の特性と課題
- 2 日本におけるサイバーセキュリティーの政策状況
- 3 国際的なサイバーセキュリティーの政策動向

各回、講師による講義を中心とするが、質疑応答とディスカッションの時間を十分確保する。

なお、講師が外国人の際は英語（通訳なし）で実施する。但し、講師には日本人の学生を対象とする講義であることを事前に伝え、分かりやすい英語で実施してもらうこととする。

*講義は対面とオンラインのハイブリッド講義を基本としつつ、講師の都合やコロナの感染状況によってオンラインのみで実施する。講義をオンラインのみで実施する場合は、事前に通知する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1講 (4/6 (木)) 序論：講座の概要と視座

講義説明：政策研究大学院大学 教授 道下徳成

政策研究大学院大学 客員研究員 井手達夫

講師：NTT データ先端技術株式会社 フェロー、筑波大学客員教授 三宅功

第2講 (4/13 (木)) 世界の動向

講師：内閣サイバーセキュリティーセンター (NISC) 国際戦略グループ 企画官 渡邊修宏

第3講 (4/20 (木)) 政府の動向 A

講師：日本電信電話株式会社 チーフ・サイバーセキュリティストラテジスト 松原実穂子

第4講（4/27（木）） 政府の動向 B

講師：東海大学 情報通信学部 学部長 教授 三角育生（元 NISC 副本部長）

第5講（5/11（木）） 外交の動向 A

講師：外務省 サイバー政策担当大使 石月英雄

第6講（5/18（木）） 外交の動向 B

講師：ベルギー 王立エグモント国際問題研究所 教授 Bernard Siman, O.B.E.

（使用言語：英語）

第7講（5/25（木）） 防衛の動向 A

講師：株式会社富士通システム統合研究所 主席研究員 田中達浩

第8講（6/1（木）） 防衛の動向 B

講師：海上自衛隊 システム通信隊群司令 1等海佐 近藤匡

第9講（6/8（木）） 治安の動向 A

講師：警察庁 サイバー警察局サイバー企画課 課長 佐野朋毅

第10講（6/15（木）） 治安の動向 B

講師：ドイツ ESMT Berlin 大学 デジタルソサエティ研究所 教授 Sandro Gaycken

（使用言語：英語）

第11講（6/22（木）） 経済の動向 A

講師：一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会 代表理事 梶浦敏範

第12講（6/29（木）） 経済の動向 B

講師：経済産業省 サイバーセキュリティ課 課長補佐 塚本大介

第13講（7/6（木）） 技術の動向 A

講師：株式会社サイバーディフェンス研究所 最高技術責任者 ラウリ コルツパルン

第14講（7/13（木）） 技術の動向 B

講師：トレンドマイクロ株式会社 サイバーセキュリティ・イノベーション研究所 庄子正洋

第15講（7/20（木）） 総括・総合討議

講師：政策研究大学院大学 客員研究員 井手達夫

3. 成績の評価方法/ Grading:

本講義の成績は、リアクション・ペーパーと期末レポートによって評価する。

◆リアクション・ペーパー (80%)

- ・各講義につき 400～600 字のリアクション・ペーパーを作成
- ・各回の必読・参考文献や講義のなかで特に興味をもった事項にフォーカスして、各自が独自の考察を行う。歴史的事象や、最近のニュース、あるいは自身の経験などに関連づけて論じるのも良い方法である。なお、講義のまとめは不要であり、加対象にならない（但し、講義の内容に関連付けて議論する場合には、当然、その内容に簡単に触れること）。
- ・毎回、講義後の日曜日 2400 時まで提出
- ・リアクション・ペーパーは以下のメール・アドレスに提出すること。

michi@grips.ac.jp; Tatsuo.ide55@gmail.com; ko-takahashi@grips.ac.jp

◆期末レポート (20%)

- ・講座全体の内容を踏まえつつ、1,000～1,500 字で以下の 3 つの項目について記述する。
 - ①自身あるいは所属先のサイバーセキュリティ上の課題はなにか
 - ②これらの課題に対し、本講義で学んだ内容をどのように用いて対応することができるか
 - ③本講の内容以外で、サイバーセキュリティについて学びたい事項はなにか
- ・提出期限は 8 月 6 日（日）とする。
- ・期末レポートは以下のメール・アドレスに提出すること。

michi@grips.ac.jp; Tatsuo.ide55@gmail.com; ko-takahashi@grips.ac.jp

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

後日通知

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: Selected Topics in Policy Studies(Diplomatic Communication)

担当教員/Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Course Description

This course explores the communicative competencies that good diplomats need in order to communicate successfully with people from different cultures and language communities. Such skills are especially important for diplomatic staff because the issues they discuss are often affectively sensitive and must be managed carefully. The stakes are high and miscommunication is consequential. Students will learn about how and why communication works and sometimes doesn't work. They will learn strategies for managing interpersonal relations, while achieving their communication goals. They will also have opportunities to practice those strategies in realistic simulation scenarios. About half of the course will be practical.

This course will be useful for students who work in government in roles that deal with overseas counterparts, and more generally, for students who deal professionally with foreign partners (or who wish to do so in the future).

Course Goals

To raise awareness of linguistic, interpersonal, and communicative barriers to successful communication outcomes in professional diplomatic contexts.

To develop communicative strategies to overcome those barriers through instruction and communication practice.

Course Requirements

Students must attend all sessions punctually and actively participate in class communication tasks.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline

1

Language and communication

How do miscommunications occur, and how can they be avoided or repaired?

Lectures and communicative awareness raising tasks

2

Discursive competence

How do people take part in professional discourse, and exert influence while managing their interpersonal relations?

Lectures and communicative awareness raising tasks

3

Consensus building

How are differences overcome and group consensus achieved?

Lectures and communicative awareness raising tasks

4

Simulation I

How do professionals overcome assertive and competitive opposition?

A negotiation simulation in which participants adopt contrasting positions

5

Simulation II (part 1)

How are conflicts resolved through direct and mediated communications?

A diplomatic simulation in which participants roleplay protagonists and mediators

6

Simulation II (part 2)

How are conflicts resolved through direct and mediated communications?

A diplomatic simulation in which participants roleplay protagonists and mediators

7

Simulation III

Round table discussion on "Japan's Foreign Policy in Asia"

8

Simulation IV

Panel discussion on "Global Food Security"

9

Effective lessons for international conferences

Key points to improve communication at international conferences

10

Simulation V(Part 1)

UN General Assembly Style Discussion on "Climate Change"

11

Simulation V(Part 2)

UN General Assembly Style Discussion on "Climate Change"

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation method

In-class test, performance observation report, and class participation assessment.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

必要なテキスト、タスクは毎回事前に通知

5. 履修上の注意/Note:

※この科目は GLD 学生のみ受講可能です。

※外交アカデミーの実施期間中の 11 月 14 日以降の原則火曜日（計 11 回）に Diplomatic Communication を実施します。出席のカウントや成績判定は外交アカデミーとは別となりますので、履修希望者は必ず Diplomatic Communication の履修登録をしてください。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論 (構造変化の下での財政金融政策)

担当教員/Instructor: 黒田 東彦/KURODA Haruhiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

財政政策は政府・国会が決定し、金融政策は新日銀法（1998 年施行）により政府から独立した日本銀行が決定しており、それぞれの目的も、財政政策は公共財の供給・景気の調整・所得再分配と幅広く、金融政策は物価の安定・金融システムの安定と限定されている。しかし、マクロ経済政策の面では重なっており、経済金融が国際化する中で、その協調がますます大きな課題となっている。経済史をたどることによって、こうした制度変化と構造変化を理解することが求められる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第 1 回：財政金融政策の理論と歴史

第 2 回：1970 年代の石油危機の下での財政金融政策

第 3 回：1980 年代の「プラザ合意」や「ルーブル合意」の下での財政金融政策

第 4 回：1990 年代前期のバブル崩壊による不良債権急増の下での財政金融政策

第 5 回：1990 年代中期の日米経済摩擦激化の下での財政金融政策

第 6 回：1990 年代後期のアジア通貨危機と国内金融危機の下での財政金融政策

第 7 回：1990 年代末の「財金分離」の下で財政金融政策

第 8 回：1998 年に施行された新日銀法の下での財政金融政策

第 9 回：1998～2012 年の持続的なデフレの下での財政金融政策

第 10 回：2008 年のリーマンショック及び 2011 年の東日本大震災の下での財政金融政策

第 11 回：2012～2020 年の「アベノミクス」の下での財政金融政策

第 12 回：2020～2021 年のコロナ感染症拡大の下での財政金融政策

第 13 回：2022 年以降のウクライナ戦争の下での財政金融政策

第 14 回：今後の財政再建と金融正常化の道筋

第 15 回：全体を総括したうえでの財政金融政策のあるべき姿

3. 成績の評価方法/ Grading:

評価項目としては、レポートや授業への貢献も必要であるが、最終的には筆記試験が重要である。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

財政政策や金融政策に関する理論書（たとえば、ジョー・スティグリッツ『公共経済学』、石弘光『財政理論』、福田慎一『金融論』など）は理解している必要があるが、講義の性質上、IMF の World Economic Outlook、政府の経済見通しや財政見通し、日銀の展望レポートなどが参考文献として挙げられよう。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:

科目名/Course Name: 政策研究特論（世界経済の見方：国際的政策協調の中で）

担当教員/Instructor: 鷲見 周久/SUMI Chikahisa

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国際通貨基金（IMF）の世界経済見通しや国別審査報告書、G7 コミュニケのマクロ経済関係部分などを素材に、各国のマクロ経済政策の立案過程を概観し、経済運営上のリスク、国際的な政策協調とセーフティネットなどの枠組みを学ぶ。修了時には上記の素材を読んで、その時点での世界経済の状況と見通し及びリスクや今後の諸課題、各主要国の政策の方向性が理解できるようになることを目指す。政策担当者として自国の政策立案能力を向上させるほか、金融市場参加者として投資環境の見通し能力を向上し、また、有権者として政策を適切に批評する能力の向上にも資することが期待される。（該当する SDGs : 1, 2, 3, 8, 9, 10, 13, 17）

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第1回 講義の全体像と目的
- 第2回 マクロ経済政策の目的と手段
- 第3回 マクロ経済分析の枠組み
- 第4回 マクロ経済分析の実例
- 第5回 財政政策の現状と課題
- 第6回 金融政策の現状と課題
- 第7回 構造政策の現状と課題
- 第8回 IMF レポートの読み方
- 第9回 各国の危機の原因と構造
- 第10回 国際的な政策協調の枠組み
- 第11回 サーベイランスの実例
- 第12回 セーフティネット発動の実例
- 第13回 政策協調の今後の課題
- 第14回 まとめ、質疑
- 第15回 試験

3. 成績の評価方法/ Grading:

教室内の議論への参加を重視し、成績は試験と議論への参加を同比率で勘案する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

入手可能

G7 Leaders' Communique (マクロ部分)

外務省のサイトから入手可能

4-2

IMF Global Financial Stability Report IMF のサイト (Global Financial Stability Report (imf.org)) から入手可能

5. 履修上の注意/Note:

授業は日本語で行うが、資料などは英語のものも多く使用。質問歓迎。

経済学、財政学の講義の既習は必要としないが、授業前のある程度の予習が望ましい。

学生は名札を掲示。聴講可。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:CUL1000J

科目名/Course Name: 文化政策研究の基礎

担当教員/Instructor: 垣内 恵美子/KAKIUCHI Emiko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

文化政策を取り巻くさまざまな問題を、現実の行政の観点から論点整理し検討するとともに、今後の文化振興の方向と具体的な方策を探る。そのため、授業の前半では、文化政策の基礎となる法体系及び各種制度、文化政策を巡る理論と方法論を確認し、現状理解と課題の整理を行う。後半にかけては、いくつかのフィールドワークを通してより深い実践的知識を得る。あわせて、文化政策の重要課題について、外部の専門家、実践家などを招聘した特別セミナーを開催し、最新の情報を得るように努める。以上を通して、文化政策を多角的に理解する基礎を培う。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

木曜日 18 : 20－19 : 50 zoom

1. オリエンテーション
2. 文化政策の変遷 part1
3. 文化政策の変遷 part2
4. 文化政策の変遷 part3
5. 文化政策の必要性
6. 文化政策各論： 劇場
7. 文化政策各論： ミュージアム
8. 文化政策各論： ミュージアム
9. 文化政策各論： 文化財保護
10. 文化と地域再生

11～14. FT 及び特別セミナー (学生からのリクエストを考慮し、フィールドトリップ及び特別セミナーそれぞれ2回程度実施予定)

これまでの FT 及びセミナーについては以下 URL アーカイブの各年を参照されたい。

<https://www.culture.grips.ac.jp/news>

15. プレゼンテーション&総括

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席 (50%)、講義終了後のレポート作成 (30%) 及び授業での貢献度 (20%) による。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

適宜、資料、レジュメ等を配布する。

なお、英語の文献としては、必須ではないが、以下を参照されたい。

The Economics of Cultural Policy、D.Throsby、Cambridge University Press, 2010

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:CUL2020J

科目名/Course Name: 文化資源論

担当教員/Instructor: 垣内 恵美子/KAKIUCHI Emiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

春学期の授業を踏まえ、本講義では、具体的かつ事例に則した政策論の展開を試みる。なお、授業は講義とディスカッション、及び on site research によって行う。授業は対面及び zoom のハイブリッド形式とする。本講義は、春学期文化政策研究の基礎の受講を済ませた者で文化政策コース所属の学生に限る。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. オリエンテーション
2. 文化資本と持続可能性（スロスビー「文化経済学入門」輪読）★
3. 経済発展と文化（同上）★
4. 社会的共通資本の考え方（宇沢弘文「社会的共通資本」輪読）★
5. 文化資源と地域課題：シアターマネジメント☆
6. ケーススタディ☆
7. 文化資源と地域課題：ミュージアム★
8. ケーススタディ★
9. 文化資源と文化観光★
10. 文化資源の評価：非利用価値・利用価値★
11. 文化資源の評価：ロジックモデル☆
- 12～14. フィールドトリップ及び特別セミナー
15. 総括

※★垣内担当、☆小川担当。無印は両名による。以下、同じ。

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績評価は、出席及びディスカッションへの貢献（50%）及び、期末のエッセイ（50%）を総合して行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

毎回、資料、レジュメ等を配布する。なお、受講生の関心に応じ、「文化財の価値を評価する」（垣内編著、水曜社）あるいは「チケットを売り切る劇場」（垣内／林編著、水曜社）などの文献を参照する。必須ではないが、英語の文献として以下を参照されたい。

Culture, Creativity and Cities, E.Kakiuchi & X.Greffé, eds., Suiyo-sha, 2013

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:CUL2110J

科目名/Course Name: 21世紀博物館工学

担当教員/Instructor: 森 洋久/MORI Hirohisa

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

博物館の業務や、資料の収集・研究に関わる様々な技術の理論や事例といった実用的な問題もあるが、本講義の目標は「ものの見方」の転回である。受講者には、都内の博物館、美術館における、実際の展示を見学することを奨励する。講義において、見学の感想や、意見をまとめ発表する機会を設ける。受講者全員で発表についてディスカッションすることによって、博物館とはなにか、どうあるべきかを、受講者とともに考えていく。本講義担当者にとっても初めての講義であり、試行錯誤であることをお許しいただきたい。受講者のご意見や理解度を伺いながら授業のシナリオを変えることもあり得る。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1,2 回目 総合研究博物館の企画展紹介 1

特別展示『アートか、サイエンスか——知られざる四高遺産から』

MOBILE MUSEUM TOKYOTOWER 『音景夜景 --- トウキョウヘオモイヲハセル』

(見学会)

3 回目 ディスカッション 1

受講者による見学してきた博物館、美術館の感想・意見の発表とディスカッション。

3,4 回目 総合研究博物館の企画展紹介 1

東京大学=ヴェルツブルク大学連携特別展示『レントゲン——新種の光線について』

特別展示『疎と密 --- 音景 x コレクション』

5 回目 ディスカッション 2

受講者による見学してきた博物館、美術館の感想・意見の発表とディスカッション。

6,7 回目 現代アートと展示・博物館

講演者が見てきた、総合研究博物館以外で開催された展示を紹介。

8 回目 ディスカッション 3

受講者による見学してきた博物館、美術館の感想・意見の発表とディスカッション。

9,10 回目 サウンド・スケープと展示

展示音声解説などの技術の紹介。それと同時に、音や音楽という目に見えないものについて考える。もしくは、サウンド・スケープというアプローチ。

11 回目 ディスカッション 4

受講者による見学してきた博物館、美術館の感想・意見の発表とディスカッション。

12,13,14 回目 地図と展示

地図というものは不思議なもので、日常暮らしている地域を真上から描いたものである。本講義担当者がかつて行った子供達と地図を描くイベントの紹介などを通して、地域や世界の見方の転回方法を探る。

15 回目 ディスカッション 5

受講者による見学してきた博物館、美術館の感想・意見の発表とディスカッション。
および、講義全体を通してのまとめ。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義における発表とディスカッション。および、期末レポートによる評価。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義において、適宜指定

Dolores Hayden, The Power of Place: Urban Landscapes as Public History The MIT Press

5. 履修上の注意/Note:

常日頃、博物館、美術館を回ること、あるいは、博物館や美術館ではないところを周り、見たものに興味を持ちましょう。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:CUL2140J

科目名/Course Name: シアター・マネジメント

担当教員/Instructor: 小川 由美子/OGAWA Yumiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、文化政策の枠組みのもとで行われるシアターマネジメントの実態を多角的に把握し、地域における劇場の役割、その持続可能な運営について考察します。劇場とは、どのような場であると考えられ、人々は劇場に何を期待しているのでしょうか。近年、産業構造の変化、少子高齢化、価値観の多様化等が進む社会状況の下、文化芸術により生み出される様々な価値が注目されるようになり、劇場も地域の資源として、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の各関連分野における施策とも有機的に連携することも求められるようになりました。そのような中で、劇場は何をすべきで、そのためには、どのような仕組みや組織が必要なのでしょうか。公立劇場における現場の状況を客観的に捉えながら、事例をもとに、さまざまな視点から一緒に考えていけたらと思います。

※この講義は、SDGs の目標 3（福祉）、目標 4（教育機会）、目標 11（都市環境）に関連します。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- ①オリエンテーション
- ②芸術団体の運営 現状と政策課題
- ③公立文化施設と指定管理者制度
- ④文化施設の組織、業務
- ⑤ミッション：アクセスの拡大及び観客創出
- ⑥公演事業：企画制作上の課題
- ⑦マーケティング：広報・宣伝・営業
- ⑧アウトリーチプログラム
- ⑨アートマネジメント人材育成について 文化庁大学における芸術文化推進事業の取り組みから
- ⑩文化施設の評価について
- ⑪ロジックモデルによる劇場評価
- ⑫地域と劇場 復興のシンボル 兵庫県立芸術文化センター
- ⑬地域と劇場 地域の文化拠点 北九州芸術劇場
- ⑭プレゼンテーション
- ⑮総括

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への参加および貢献度合い 60%

期末考査 (プレゼンテーション) 40%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必携のテキスト：とくに無し

4-2 参考文献：

『チケットを売り切る劇場：兵庫県立芸術文化センターの軌跡』垣内恵美子・林 伸光（2012 年）水曜社

The Economics of Cultural Policy、D.Throsby、Cambridge University Press, 2010

上記以外にも、適宜、講義で論文・文献紹介を行います。

5. 履修上の注意/Note:

授業の一環として、実際の劇場見学などのフィールドワーク等を組み込む場合があります。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:CUL2150J

科目名/Course Name: グローバリゼーションと文化政策

担当教員/Instructor: 垣内 恵美子/KAKIUCHI Emiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

グローバリゼーションの進展は、文化にも大きな影響を与え、また、広義の文化はグローバリゼーションの諸課題とも複雑に関係しており、文化財や文化遺産などに関連する各種条約や、創造産業のグローバルチェーン、自由貿易の文脈と文化多様性、持続可能な発展等、さまざまな切り口からのアプローチが可能である。本授業では、受講生の関心も踏まえて課題を絞り、現況確認と対応する各国文化政策、国際機関のプログラム等を概観し、グローバリゼーションの中での文化とそれを支える制度に関する理解を深める。

この講義は、SDGs の目標 1, 3, 4, 5, 8, 11, 16 に直接的、あるいは間接的に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1～5 イントロダクション、グローバリゼーションとそのインパクト、現状確認を行う。具体的には、いくつかの主要文献の輪読も想定 (Nye 他)。

6～10 各分野での現況把握、ステークホルダーの動きを理解する。受講者による調査発表も想定。

11～13 関係するステークホルダーについて、受講者のリクエストにより、ヒアリングや意見交換、現地視察 (オンラインを含む) を想定。

14～15 プレゼンテーション及び総括

講義は、現地ヒアリング等を含め、基本オンラインで行う。

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席 (50%)、プレゼンテーション (30%)、授業終了後のレポート (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必携のテキスト 適宜資料を配布する。

4-2 (参考図書)

Nye, J. Soft Power: The Means To Success In World Politics, 2005

5. 履修上の注意/Note:

春学期「文化政策研究の基礎」受講済みであることが望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2020E

科目名/Course Name: Supply Chain Management for Infrastructure Planners

担当教員/Instructor: 井上 聡史/INOUE Satoshi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Today, global supply chain plays an indispensable role to the world economy. Strategic initiatives and proactive approaches to improve supply chain should be placed at the center of national and regional development planning. Moreover, once any single part of this global system gets stuck, our life and economic activities would come to an immediate halt. Understanding of supply chain management, therefore, is now a prerequisite for infrastructure planners. This course aims to discuss the basics of supply chain planning and practical application of major logistics strategies, and also a range of their implications to infrastructure planning and management. This course is related to Goals 9, 11, and 13 (industry, innovation, infrastructure/sustainable cities and communities/climate action) of the SDGs.

今日、グローバルなサプライチェーンは、世界経済にとって欠くことのできない重要な役割を果たしている。サプライチェーンを強化する戦略的な取組みは、国家や地域の開発計画において中心的なテーマとして位置付けられるべき状況にある。さらにこの地球的なシステムのたった一部でも滞れば、われわれの生活や経済活動は即座に停止してしまう。したがって、今やサプライチェーン・マネジメントを理解することは、インフラ計画に関わる者にとって必修事項になっている。この科目はサプライチェーン計画の基礎や主要なロジスティクス戦略の適用に関して学ぶとともに、インフラの計画や経営に与える幅広い影響と示唆について考察する。この科目はSDGsのゴール9（産業、革新、インフラストラクチャ）、11（持続可能な都市と社会）、13（気候対策）に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The course consists of the following four parts. Parts 1, 2 and 4 are mainly based on lectures with class discussion on key issues. Part 3 is based on presentations by student groups. Every student is required to form up a group and to conduct a case study on suggested leading companies of manufacturing and retailing with respect to their business model and supply chain strategy.

この科目は次の4部から構成される。1, 2, 4部は講義を主体としながらも重要な課題については全員で討議する。3部は学生による事例研究の発表を行う。このため各学生は数名からなるグループを編成し、講師が示す製造業及び小売業のグローバル企業について、そのビジネスモデルとサプライチェーン戦略を研究する。

Part 1 Introduction

Supply Chain and Infrastructure Planning

The Age of Supply Chain Management

Part 2 Supply Chain Planning and Strategies

3. Integration of Supply Chain and Strategic Alliance
4. Logistics Planning and Distribution Strategy
5. Inventory Management and Strategy
6. Strategy of Design and Production
7. Information Technology Revolution and Supply Chain
8. Risk Management of Supply Chain
9. Strategy of Supply Chain Sustainability

Part 3 Case Study: Supply Chain Strategy of Leading Companies

10. Study Group Presentations
11. Study Group Presentations
12. Study Group Presentations

Part 4 Infrastructure Management in Supply Chain Age

13. Global Supply Chain and Containerization
14. Strategic Management of Global Gateway Port
15. Japan's National Land Development Strategy in the Age of Supply Chain

第1部 インTRODクシヨN

サプライチェーンとインフラ計画

サプライチェーン・マネジメント時代の到来

第2部 サプライチェーン計画と戦略

3. サプライチェーンの統合と戦略的連携
4. ロジスティクス計画と配送戦略
5. 在庫の管理と戦略
6. 設計と生産の戦略
7. 情報革新とサプライチェーン
8. サプライチェーンのリスク管理
9. サプライチェーンの持続性戦略

第3部 事例研究<グローバル企業のサプライチェーン戦略>

10. 研究グループ発表
11. 研究グループ発表
12. 研究グループ発表

第4部 サプライチェーン時代のインフラ経営

13. 国際サプライチェーンとコンテナ輸送システム
14. 国際ゲートウェイ港湾の戦略的経営

15. サプライチェーン時代の日本の国土開発

3. 成績の評価方法/ Grading:

By the end of the course, each student is also required to submit a term paper on Supply Chain Management related topics which the instructor will provide in December. In final grading, class attendance is given 15%, participation in class discussion 15%, group study and presentation 30% and term paper 40%.

成績評価

各学生は、講師が出題するサプライチェーン・マネジメントに関する課題について、学期末までにレポートを提出する。成績の評価は、出席状況（15%）、クラス討議への参加（15%）、グループ研究（30%）、レポート（40%）を考慮して決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

David Simchi-Levi, Philip Kaminsky, & Edith Simchi-Levi; Designing & Managing the Supply Chain 3rd edition, McGraw-Hill/Irwin, 2008.

David Frederick Ross; Distribution Planning and Control – Managing in the Era of Supply Chain Management 3rd edition, Springer, 2015.

Martin Christopher; Logistics & Supply Chain Management – Creating Value-Adding Networks, Butterworth-Heinemann, 2003.

C. John Langley, Jr., Robert A. Novack, Brian J. Gibson, John J. Coyle; Supply Chain Management: A Logistics Perspective, 11th edition, Cengage, 2021.

Additional references will be introduced in the course as required.

必要に応じて追加の参考文献がコースの中で紹介される。

5. 履修上の注意/Note:

This course will be conducted in English and, as necessary, complemented in Japanese. International interaction of views and discussions between foreign and Japanese students is highly expected.

注記:

この科目は英語をベースに必要なに応じて日本語を交えて行われ、海外留学生と日本人学生相互の国際的な意見交換

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2040J

科目名/Course Name: 国土政策と社会資本整備

担当教員/Instructor: 森地 茂/MORICHI Shigeru

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国土計画の歴史的展開と、東アジアを含めた将来動向に対応した国土政策とその手段としての社会資本整備政策及び関連する分析方法について講ずる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回：国土計画と社会資本整備の歴史的評価とコロナ禍後の課題

第2回：日本の鉄道 150 年を振り返る

第3回：海外インフラ展開と人材育成

第4回：人口減少と地域創生

第5回：東京圏の人口動向と沿線格差

第6回：国土景観と観光

第7-8回：産業構造分析

第9-10回：プロジェクト評価の方法（財務分析）

第11-12回：都市・地域モデル

第13-14回：人間の思考モデル、モデル分析と計画

第15回：現象記述の演習

3. 成績の評価方法/ Grading:

試験 70%とレポート 30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

森地茂編著：国土の未来、日経新聞社

森地茂編著：人口減少時代の国土ビジョン、日経新聞社

国土政策と高速道路の未来研究会：国土と高速道路の未来、日経B P社

森地茂：鉄道 150 年の歴史を振り返る、交通と統計

森地茂、Pat choate：未来への投資、土木学会

国土形成計画（国土交通省 国土政策局）

森地茂、伊東誠、毛塚宏：魅力ある観光地と交通、交通安全学会

Shigeru Morichi et al, Transport Development in Asian Megacities, Springer

National Audit Office: PFI and PF2, HC 718 Session 2017-2019, 2018

Pat Chote, Susan Walter : America in Ruins : The Decaying Infrastructure, ,

Duke Press Policy Studies Paperbacks, 1981

Power Point, 配布資料

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2080E

科目名/Course Name: Infrastructure Systems Management

担当教員/Instructor: 小澤 一雅/OZAWA Kazumasa

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Infrastructure systems can be defined as systems including physical facilities and such social systems as legislative, financial, organizational, and technical systems to deliver infrastructure service. It is important to construct and to manage infrastructure systems for good practices at sites. The objective of this course is to learn the concept of Infrastructure Systems and to understand its management for infrastructure development and operation.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Day 1 ; Project Management for Infrastructure Development

(1) : Framework of Project Management (Cost & Time)

(2) : Resource Management

(3) : Risk Management

Assignment #1

Day 2 ; Project Delivery and Procurement Management

(4) : Project Delivery Method

(5) : Procurement Management

(6) : Financing & PPP for Infrastructure Project

Assignment #2

Day 3 ; Asset Management for Infrastructure

(7) : Maintenance Management

(8) : Concept of Asset Management

(9) : Practices of Asset Management

Assignment #3

Day 4 ; Infrastructure Systems Management

(10) : Case of Expressway Development Project in Japan

(11) : Case of International Infrastructure Project

(12) : Infrastructure Systems Management

Day 5 ; Development of Project Managers and Case Method

(13) ; Case Method for International Projects (1)

(14) ; Case Method for International Projects (2)

(15) ; Examination

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance + Assignments (45%), Examination (55%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

「Infrastructure Systems Management」 M. Horita & K. Ozawa, Gihoudou Shuppan, (in Japanese)

「Managing Projects for Success」 Albert Hamilton, Thomas Telford

「Construction Management」 D. W. Halpin and R. W. Woodhead John Wiley & Sons, Inc.

「Financing Infrastructure Projects」 T. Merna and C. Njiru, Thomas Telford Ltd.

「Infrastructure Management」 W. R. Hudson and et.al., McGraw-Hill, Inc.

「Infrastructure-System-Management of National Expressways」 Dr. Motohiro Nozoe, Nippon Expressway Research Institute Co., Ltd.

「Construction Communication」 S. Emmitt & S. Gorse, Wiley-Blackwell

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2100E

科目名/Course Name: Transportation Planning and Policy

担当教員/Instructor: 日比野 直彦/HIBINO Naohiko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

In this course students will learn the fundamental principles of transportation planning and policy primarily focusing on railway, highway, and aviation. Topics to be covered include history of transportation network development, statistics, travel behavior analysis, demand forecast, and project evaluation. The course will also introduce students to recent research topics on transportation and tourism.

In the second half of the course students will give group presentations based on the content of the lectures. All students should participate in the Q&A and class discussion following presentations.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Part 1 – Course Lectures

Part 2 – Group Presentations and Discussions

One group will consist of 3-4 members. Each group will present on one topic assigned by the professor, and another transportation topic of their choice.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Presentations	50%
Q&A, Discussion	20%
Exam/Report	30%

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

Moshe Ben-Akiva and Steven R. Lerman, Discrete Choice Analysis: Theory and Application to Travel Demand, The MIT Press, 1985.

Kenneth E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation Second Edition, Cambridge University Press, 2009.

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2140J

科目名/Course Name: 景観・デザイン論

担当教員/Instructor: 福井 恒明/FUKUI Tsuneaki

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、国土や地域に関する景観論や公共事業を中心としたデザインの考え方を取り扱う。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観とデザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

本講義の到達目標は次の3点である。(1)景観論を構成する基本的な概念を修得する。(2)地域景観形成や公共事業デザインの分野における良好な事例を知り、評価の考え方を理解する。(3)公共事業デザインにおける良好なデザインがどのように実現しているかを理解する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1)イントロダクション／景観・デザインの範疇

(2)景観のとらえ方

(3)景観に関する規範

(4)グループディスカッション 1

(5)景観の価値観

(6)グループディスカッション 2

(7)景観の歴史観／近年の景観政策

(8)グループディスカッション 3

(9)形を決める論理 1

(10)形を決める論理 2

(11)グループディスカッション 3

(12)デザイン事例紹介 1

(13)デザイン事例紹介 2

(14)デザイン事例現地見学会 1

(15)デザイン事例現地見学会 2

講義の中でグループディスカッションを実施する。グループディスカッションは1グループ4名程度で実施する。

講義は実施時の状況により対面または zoom にて行う。(12)～(13)の現地見学会は対面にて実施する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

グループディスカッション1～3の成果に関する小レポート、現地見学会に関する小レポートの内容をそれぞれ15%で評価する。またグループディスカッション4のプレゼンテーションを20%、レポート20%

で評価する。合計 50%以上取得したものに単位を与え、全体の約 3 割を A 評価とする。

レポートは講義内容を理解した上で自らの意見を論理的に説明しているかどうかを評価する。プレゼンテーションは内容の論理性と発表内容の伝わりやすさを評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 : 必携のテキスト

佐々木葉「景観とデザイン」オーム社, 2015

4-2 : その他

福井恒明他「土木デザイン ひと・まち・自然をつなぐ仕事」学芸出版社, 2022

篠原修編「景観用語事典 増補改訂第二版」彰国社, 2021

篠原修「土木デザイン論」東京大学出版会, 2003

Hideo NAKAMURA, Kotaro NAGASAWA, et.al., Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices, Asian Development Bank Institute, 2019

5. 履修上の注意/Note:

現地見学会の実施日程については日程変更となる場合がある。

講義が zoom 開催となった場合にはオンデマンド授業を併用する可能性がある。

詳細は開講時に説明する。

実施予定日 :

3/6 (水) 3,4,5,6 限 / 13 (水) 3,4,5,6 限 / 20 (水) 3,4,5,6 限 / 27 (水) 3,4,5 限

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2150J

科目名/Course Name: 都市学の理論と実践

担当教員/Instructor: 岸井 隆幸, 家田 仁/KISHII Takayuki and IEDA Hitoshi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

現代都市を構成する様々な空間要素・非空間要素についてその特性や相互の関係を歴史的な視点や社会経済的視点を踏まえて多角的に学ぶとともに、現代都市が抱えている様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために必要な社会制度の在り方そして課題を解決するために各要素を適切に組織化する実践的方法論について、講義及び受講者自らが参加する討論（ディベート）を通じて学ぶ。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義は以下の4つのパートで構成される。

- I. 都市学原論
- II. 都市計画を支える理論と制度の変遷
- III. 現代都市の課題に関する討論
- IV. 都市プロジェクト実践論

それぞれのパートは以下のような内容と方法で行われる。

I. 都市学原論 家田教授による講義、テーマは以下の通り

- 1) 都市の本質
- 2) 都市の形成・変容のメカニズム
- 3) 都市を制御することの重要性と限界性

II. 都市計画を支える理論と制度の変遷

岸井客員教授による講義、テーマは以下の通り

- 1) 近代都市計画の潮流
- 2) わが国都市計画制度の歩み
- 3) 現代都市の再生・再構築

III. 現代都市の課題をめぐる討論

受講生によるグループディベートと岸井客員教授による解説
討論の課題と討論方法は授業中に示す

IV. 都市プロジェクト実践論

- 1) 東京の都市再生プロジェクト：渋谷他
- 2) 地方都市の駅前整備：熊本・長野
- 3) 東日本大震災からの復興プロジェクト

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義内で行われるディベートで発表される内容で 40%、課題に対するレポートの内容で 60%が判定される。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 : 岸井隆幸・大沢昌玄他、「都市計画」(四訂版)、コロナ社、2020

4-2 : Tokyo Metropolitan Office、「The Changing Face of Tokyo: From Edo to Today, and into the Future」、Tokyo Metropolitan Office、2020

5. 履修上の注意/Note:

III.の討論は、講義内で提示された課題について、受講生で構成される二つのグループが PPT を用いて発表し討論する。この部分だけはグループ作業となる。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2160J

科目名/Course Name: 社会基盤整備の PPP/PFI

担当教員/Instructor: 日比野 直彦/HIBINO Naohiko

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

社会基盤整備の方法は多様化しており，PPP（Public Private Partnerships）/ PFI（Private Finance Initiative）の適用が進んでいる．本講義では，このような背景を踏まえ，PPP/PFI についての基礎的な内容（現状，制度，課題等）を理解することを目標として講義を行う．なお，後半は，受講者をいくつかのグループに分け，発表，討議を行う．

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

前半 概論，基本用語の解説， PPP/PFI の現状，事業プロセス，リスクマネジメント，課題等に関する講義

後半 発表，討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

発表および討議での発言，課題の成果を基に評価。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

必携のテキストは特になし。必要に応じて講義内で配布。

5. 履修上の注意/Note:

社会基盤整備についての基礎的な知識を有していることが望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2170J

科目名/Course Name: 現代インフラ政策特論

担当教員/Instructor: 家田 仁/IEDA Hitoshi

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国土及びインフラストラクチャーに関わる現代の政策的・施策的課題と動向について、個々の分野における具体的トピックを取り上げながら紹介し、さらに多くの具体に通底する本質的な課題は何か？今後の発展に向けて不可欠な革新は何か？について、講師による講義に加えて受講者参加型のディスカッションを重視しながら論じる。受講者が国土及びインフラストラクチャーに関して俯瞰的かつ統合的に論じることの重要性を認識しそのための基本的資質を要請することを目標とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 インフラのプロジェクト評価にみるインフラ事業へのまなざし」

第2回 地政学的視点から見たグローバルサプライチェーンの中の物流システム

第3回 東日本大震災の初動と教訓

第4回 日本の直面する課題への対処—災害・疫病・戦争・温暖化・DX ほか—

第5回 地域モビリティ問題の本質

第6回 インフラ整備・インフラ経営と民間力

第7回 土木学会の取り組み（仮題）

第8回 政策策定の基本姿勢

3. 成績の評価方法/ Grading:

数回にわたって出題されるレポートによる。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

テキストは用いない。参考文献はその都度提示する。

英語参考文献として以下を挙げる。

Hideo NAKAMURA et al., "Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices", 2019

5. 履修上の注意/Note:

本講義は、俯瞰的視野・統合的議論をモットーとしており、理工系・社会科学系・人文系のいずれの受講者も歓迎する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2180J

科目名/Course Name: 水圏国土学

担当教員/Instructor: 知花 武佳/CHIBANA Takeyoshi

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義は、日本全国の河川および流域の風景を紹介しつつ、日本の国土に見られる自然環境には、各地域どのような特徴があり、それがどのようなメカニズムで形成されるのか、そしてその上で人と自然との間にどのような相互作用があったのかを紹介するものである。

ダム建設、護岸、取水・排水等の河道内のインパクトに加え、森林伐採や都市開発など河川流域における人間活動は、日本中の河川および流域環境をかつての姿とはかけ離れたものにしてしまった。さらには、これからの人口減少と都市への一極集中で、人と自然との関わり方が大きく変化しようとしている。こうした中、環境の保全・再生、天然資源の利用、および安全対策の三つが調和した川づくり・国土形成が求められているが、その際には地域固有の自然環境特性を理解し、その特性に調和した河川・流域管理手法を考えなければならない。この河川・流域の管理手法、ひいては日本の風土を踏まえた国土計画、さらには日本の自然に根ざした日本人の特徴とは何かを考えられるようになるため、日本各地の河川およびその流域の自然環境の特徴や、それに関わる種々の基礎知識をお伝えしたい。本講義が、我が国の国土を今後どのように整備していくべきかを考える一助となることを期待している。

ただし一番の目的は、川あるいはその流域を見る楽しみを知ってもらうことである。この講義で川に立ち寄りながら旅することの楽しみが伝わればありがたい。

なお、本講義は、SDGs の目標 9, 11, 14, 15 (産業基盤, まちづくり, 海の豊かさ, 陸の豊かさ) に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

PART1～日本列島の成り立ちと流域の特徴～

0 1. 「日本の川に見る地域特性」 (08/09)

0 2. 「日本列島の成り立ち」 (08/09)

PART2～地形区分と人の暮らし～

0 3. 「土砂で捉える流域の特徴」 (08/16)

0 4. 「山地の特徴と森林管理」 (08/16)

0 5. 「丘陵地・台地の特徴と里山管理」 (08/23)

0 6. 「低地の特徴と氾濫原管理」 (08/23)

PART3～流域開発の歴史—法制度と技術—～

0 7. 「明治以前の国土開発と河川」 (08/30)

0 8. 「明治以降の河川関連制度」 (08/30)

PART4～治水対策と水防の実践～

0 9. 「地形図から川と土地を知る」 (09/06)

1 0. 「流域治水の基礎知識」 (09/06)

1 1. 実習「マイタイムラインを作る 1」 (09/13)

1 2. 実習「マイタイムラインを作る 2」 (09/13)

PART5～日本の国土にみる自然～

1 3. 「日本川めぐり 1」 (09/20)

1 4. 「日本川めぐり 2」 (09/20)

1 5. 「日本の国土 (まとめ)」 (09/20)

3. 成績の評価方法/ Grading:

「市区町村の地理的・歴史的特徴に関する課題」で評価。出席状況も考慮。締切は 10/11 (水) 頃を予定。
(昨年度課題例) 以下の課題について、A4 で 2～4 ページ (図や写真を含めて結構ですが、多くなる場合や参考資料がある場合は別添可) でまとめて下さい。自然の側面と人間活動の側面の双方、及びそれらの相互作用について特徴を考え、講義で話したことと関連づけて記述して下さい。

1. ある市区町村を選定し、その地形的特徴 (山地・丘陵地・段丘・低地 (扇状地・蛇行原・三角州) の別とその形態的特徴) およびその形成過程 (隆起・沈降、縄文海進による海底堆積物、火山灰、川や海による侵食など) を簡潔に紹介して下さい。対象地は、居住地、実家、親戚の家、かつて行ったことのある場所に加え、これから訪問する (したい) 場所でも構いません。

2. その市区町村の地形的 (場合によっては地質的) 特徴に根ざした歴史的な人の生活や生業としてどのようなものが見られるかを述べて下さい。例えば、遺跡、古墳、条里制遺構、荘園跡、城跡、灌漑施設と農業、林業や薪炭林管理、炭鉱、漁業、集落の発展や都市化、インフラ整備、河道の付け替えや地形改変など。そこに貢献した人物がいればその名前も紹介して下さい。(いれぱで結構です。)

3. その地域にかつておこった自然災害 (豪雨・台風・地震に伴う土砂災害 (土石流・崖崩れ・地這り) や水災害 (洪水・渇水・津波・高潮) など) や今後想定されるリスクについて状況を説明して下さい。

4. これら地理的・歴史的特徴を踏まえた上で、今後の人口変化や気候変動なども考慮し、その地域におけるこれからの住まい方やまちづくりのあり方について自由に論じて下さい。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(4-1:) なし

(4-2:)

- ・「日本列島の誕生」 平朝彦 岩波新書 (同タイトルの動画が YouTube で閲覧可能。)
- ・「日本の地形—特質と由来—」 貝塚爽平 岩波新書
- ・図解雑学「河川の科学」 末次忠司 ナツメ社
- ・日本史の謎は「地形」で解ける (三部作) 竹村公太郎 PHP 文庫
- ・Hideo NAKAMURA, Kotaro NAGASAWA, et.al., Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices, Asian Development Bank Institute, 2019

5. 履修上の注意/Note:

「これくらい知っていて当然」と思う問題について「あてる」ことはありません。たぶん知らないだろう、間違えてもらった方が説明しやすい、ということについてのみ、時々「話しかける」ので、気軽にお話ししましょう。また、講義のスピードが速い、あるいは説明がわかりにくかったという場合は、その場で教

えてください。「ちょっと聞き漏らしたのでもう一回説明して下さい。」でも結構です。（一人がわからなければ、数人わからない or わかってないことにすら気づいていない。二回以上聞いて真の意味がわかるのが普通。）一緒に対話形式の講義を目

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV2500E

科目名/Course Name: Infrastructure and Regional Development: Lessons from the Past

担当教員/Instructor: 家田 仁/IEDA Hitoshi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

LAND is the wide-range field where people create community and live along with the nature, and on which infrastructure such as road or waterway etc. shoulder industry and people's life. They have been created and managed by a sort of centralized power like realms and governments with particular wills, as well as decentralized activities of individuals. This course will discuss how human being has been struggling to find the narrow way to achieve the better future under the limited natural and social conditions through an comprehensive and extensive case methods.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

This course consists of the following parts:

Part 1: Basic Lectures

Part 2: Group Presentations and Discussions

Part 3: Comprehensive Discussion

Part 1 will be lecturing classes, while Part 2 is discussion-based classes followed by the wrap-up and integration part. Time schedule and the detail of each classes will be announced right before the beginning of the class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

A final assignment, the quality of group presentations in part 2 will be the basis of the grading.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

No textbook will be used, however, references will be announced step by step. The following is an essential material. Hideo NAKAMURA, "Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices", 2019

5. 履修上の注意/Note:

This course will be operated in bi-lingual settings, basically in English and secondarily in Japanese.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV4040J

科目名/Course Name: インフラ政策特論

担当教員/Instructor: 家田 仁, 日比野 直彦/IEDA Hitoshi and HIBINO Naohiko

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本科目は秋学期及び冬学期に行われる修士論文研究に関わる諸活動に宛てたものです。

特に、インフラ政策コースの学生のうち、1年3カ月コースの諸君が2年目の4月から6月までに行われる研究関連諸活動に宛てられます。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

インフラ政策コースで行われる全体ゼミや個々の指導教員によって行われる個別ゼミ、修士論文成果発表などが該当します。

3. 成績の評価方法/ Grading:

上記の活動状況や研究成果ならびに発表の出来栄などを総合評価して採点します。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

科目の性質上特に指定しません。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV7041J

科目名/Course Name: 国土政策と社会資本整備特論(Advanced Topics in National Development Policy and Infrastructure Investment)

担当教員/Instructor: 森地 茂/MORICHI Shigeru

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国土計画の歴史的展開と、東アジアを含めた将来動向に対応した国土政策とその手段としての社会資本整備政策及び関連する分析方法について講ずる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回：国土計画と社会資本整備の歴史的評価とコロナ禍後の課題

第2回：日本の鉄道 150 年を振り返る

第3回：海外インフラ展開と人材育成

第4回：人口減少と地域創生

第5回：東京圏の人口動向と沿線格差

第6回：国土景観と観光

第7-8回：産業構造分析

第9-10回：プロジェクト評価の方法（財務分析）

第11-12回：都市・地域モデル

第13-14回：人間の思考モデル、モデル分析と計画

第15回：現象記述の演習

この他に、下記参考文献購読と討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

試験 60%とレポート 40%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

森地茂編著：国土の未来、日経新聞社

森地茂編著：人口減少時代の国土ビジョン、日経新聞社

国土政策と高速道路の未来研究会：国土と高速道路の未来、日経B P社

森地茂、Pat choate：未来への投資、土木学会

国土形成計画（国土交通省 国土政策局）

森地茂、伊東誠、毛塚宏：魅力ある観光地と交通、交通安全学会

Shigeru Morichi et al, Transport Development in Asian Megacities, Springer

National Audit Office: PFI and PF2, HC 718 Session 2017-2019, 2018

Pat Chote, Susan Walter : America in Ruins : The Decaying Infrastructure, ,

Duke Press Policy Studies Paperbacks, 1981

Power Point, 配布資料

5. 履修上の注意/Note:

履修者は文献購読について第2回の講義までに教員と打ち合わせをすること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DEV7501E

科目名/Course Name: Advanced Infrastructure and Regional Development: Lessons from the Past

担当教員/Instructor: 家田 仁/IEDA Hitoshi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

LAND is the wide-range field where people create community and live along with the nature, and on which infrastructure such as road or waterway etc. shoulder industry and people's life. They have been created and managed by a sort of centralized power like realms and governments with particular wills, as well as decentralized activities of individuals. This course will discuss how human being has been struggling to find the narrow way to achieve the better future under the limited natural and social conditions through an comprehensive and extensive case methods.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

This course consists of the following parts:

Part 1: Basic Lectures

Part 2: Group Presentations and Discussions

Part 3: Comprehensive Discussion

Part 1 will be lecturing classes, while Part 2 is discussion-based classes followed by the wrap-up and integration part. Time schedule and the detail of each classes will be announced right before the beginning of the class.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

A final assignment, the quality of group presentations in part 2 will be the basis of the grading.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

No textbook will be used, however, references will be announced step by step. The following is an essential material. Hideo NAKAMURA, "Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices", 2019

5. 履修上の注意/Note:

This course will be operated in bi-lingual settings, basically in English and secondarily in Japanese.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP1800E

科目名/Course Name: Computer Programming

担当教員/Instructor: 牛山 朋來, 原田 大輔/USHIYAMA Tomoki and HARADA Daisuke

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides general knowledge on Fortran90 computer programming and its skills for solving water-related problems covered in Course No. DMP2800E "Hydrology", No. DMP2810E "Hydraulics", No. DMP3800E, No. DMP3810E "Flood Hydraulics and Sediment Transport" and No. DMP2860E "Basic Practice on Flood Forecasting & Inundation Analysis". In addition to Fortran, Python is introduced which is nowadays popular in data file handling, etc.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Introduction of Computer Programming with Fortran90
- 2 : Variables, Arithmetic Calculation
- 3 : Program Structure (if)
- 4 : I/O Statement
- 5 : Program Structure (do loop)
- 6 : Arrays (vectors)
- 7 : Arrays (matrix)
- 8 : Procedures and Structured Programming (subroutine, function)
- 9 : Hydrologic Application Exercise (1) Tank model
- 10 : Numerical approximations in hydrological application Exercise (2)
- 11 : Advanced Hydrologic modeling (RRI algorithm and structures)
- 12 : Introduction to Python
- 13 : Application of Python (1)
- 14 : Application of Python (1)
- 15 : Quiz

3. 成績の評価方法/ Grading:

Quiz (50%), Reports (50%)

If a report is late for the deadline, it will be not evaluated.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Reference: Fortran95/2003 for Scientists and Engineers (Third Ed.), by Stephen J. Chapman, McGraw-Hill,

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2000E

科目名/Course Name: Disaster Management Policies A: from Regional and Infrastructure Aspect

担当教員/Instructor: 日比野 直彦/HIBINO Naohiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course deals with the various aspects of disaster management policies from the viewpoint of nation-wide or wide range regional and infrastructure development. The course consists of four parts: I) introductory lecture to overlook disaster management policies, II) lectures in specialized fields on practical measures against natural disasters, III) site-visiting in central Tokyo, and IV) presentations by students and overall discussions. The 3rd and 4th are jointly managed with DMP(B).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

I. Introduction to Disaster Management

II. Disaster Management in Individual Fields (by various experts)

1. Wind and Rain Disaster Management in Railway Operation
2. Storm Surge, Tsunami and Other Disasters in Port, Coast and Airport
3. History of Water-Disasters and Flood Management in Japan
4. Disasters and Restoration in Rural Area
5. Heavy Rain, Snow and Other Disasters in Road Systems, etc.

III. Site-Based Study in Tokyo Metropolitan District

(Together with DMP(B))

IV. Presentations and Discussion

(Together with DMP(B))

3. 成績の評価方法/ Grading:

Final Presentation and Contribution to Discussion

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Necessary materials will be provided by instructors.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2010E

科目名/Course Name: Disaster Management Policies B: from Urban and Community Aspect

担当教員/Instructor: 片山 耕治/KATAYAMA Koji

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to provide a broad understanding of disaster risk management, policies related to urban, housing and community aspects. It emphasizes application of appropriate and practical measures, reflecting social, economic and environmental conditions of each country. This course also attempts to discuss the following issues;

- Basic issues of the disaster management policies
- Lessons from the past large disasters in the world
- Urban Disaster risk management policy in Japan
- Policies and regulations to secure building safety

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Disasters in the World
2. Basics of Disaster Risk Management
3. Lessons from 2011 Tohoku and 1995 Kobe
4. Urban disaster risk management policy
5. Building / housing policy and disaster management
6. Development of disaster risk management
7. Special Lecture "Weather and Disasters"
8. Special Lecture "Sediment-related Disasters"
9. Special Lecture "Augmented Reality disaster management training."
10. Presentation and Discussion 1) (Together with DMP(A))
11. Presentation and Discussion 2) (Together with DMP(A))
12. Presentation and Discussion 3) (Together with DMP(A))
13. Site-Based Study 1) (Together with DMP(A))
14. Site-Based Study 2) (Together with DMP(A))
15. Site-Based Study 3) (Together with DMP(A))

3. 成績の評価方法/ Grading:

Final Presentation and Contribution to Discussion

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Necessary materials will be provided by instructors

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2800E

科目名/Course Name: Hydrology

担当教員/Instructor: 宮本 守, 小池 俊雄/MIYAMOTO Mamoru and KOIKE Toshio

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Water is a key which makes a bridge between the socio benefit areas including agriculture and forestry, health, energy and human settlement and the geophysical and bio-geochemical water cycle processes in atmosphere, land and oceans. To establish a physical basis on water cycle, this course aims to introduce important roles of water in climatological and meteorological processes and the basic concepts of hydrology including understanding, observing and modeling of hydrologic processes. Remote sensing and statistic and stochastic approaches are introduced as advanced facets of hydrology.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Water Cycle and Climate System

Hydrology, creating environmental diversity in the world

Water Cycle as a part of the climate system

Hydrological Processes; Observation and Modeling

Atmosphere-Land Interaction

Soil Moisture

Snow Hydrology

Remote sensing of hydrology

Data assimilation of water cycle among atmosphere, land, and biosphere

Surface Flow

Stream Flow

Ground Water

Runoff Modeling

River Basin Hydrological Processes

Water Resources Planning and Management

Statistical Hydrology

River Planning
Climate Change Adaptation

3. 成績の評価方法/ Grading:

Active participation (30%), Final Examination (70%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 Roland B.Stull: An Introduction to Boundary Layer Meteorology, KLUWER ACADEMIC PUBLISHERS

4-2 J.R.Holton: An Introduction to Dynamic Meteorology, Academic Press.

4-2 Wilfried Brutsaert: Hydrology: An Introduction, Cambridge University Press

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2810E

科目名/Course Name: Hydraulics

担当教員/Instructor: 原田 大輔, 江頭 進治/HARADA Daisuke and EGASHIRA Shinji

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All flows formed in water environments such as river channels, irrigation channels, lakes and seas are subjected to conservation laws of mass, momentum and energy, and are described by means of partial differential equations. This course aims to obtain knowledge on water flows formed in river channels and flood plains, and discusses methods to evaluate such flows. Special attention are paid on open channel flow.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Basic mathematical tools

○Partial differential equation

○Integral of the Partial differential equation

2. Governing equations for water flow -Conservation principles

○Mass conservation law

○Momentum conservation law

○Energy conservation law

3. Open channel flows

○Velocity profile and friction law

○Governing equations for open channel flow

○Water surface profile

4. Flood waves

○Flow and wave

○Dynamic wave, diffusive wave, kinematic wave

5. Flows over flood plains

○Modeling of depth-integrated flows with various obstacles

6. Transportation of substances (Mass conservation equations)

○Convective diffusion equation

○Dispersion equation

7. Similarity principle

3. 成績の評価方法/ Grading:

50 points for reports and short quizzes

50 points for the examination at the end of semester

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Egashira, S. (2016): Hydraulics, Lecture Note

4-2 Others

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2820E

科目名/Course Name: Basic Concepts of Integrated Flood Risk Management (IFRM)

担当教員/Instructor: 竹内 邦良/TAKEUCHI Kuniyoshi

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides the basic concepts of "Integrated Flood Risk Management (IFRM)" as part of Integrated Disaster Risk Management and Integrated Water Resources Management (IWRM). The formation of disaster risk will be explained in relation to natural hazard, exposure, basic vulnerability and coping capacity. The concepts of IWRM and IFRM will be introduced with the recent global challenges of sustainable development policy. As concrete examples, IWRM at basin scale, Japanese flood management experiences and some examples of overseas application of the concept of IWRM will be introduced. Anticipated future direction of risk management to cope with societal and other global changes will also be touched upon.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction: There is no such thing as a natural disaster. Disaster risk, hazard, exposure, vulnerability and coping capacity.

PAR Model: Root causes, dynamic pressure and unsafe conditions.

ACCESS Model: Disaster impacts on household levels.

UN policies (1) UN initiatives on environment and development: From Stockholm to Stockholm+50.

UN policies (2) UN initiatives on disaster reduction: From Yokohama to Sendai.

IWRM and IFRM (1) Concept of IWRM.

IWRM and IFRM (2) Guideline for IWRM at basin scale. (3) IFM.

Japanese experiences (1) Overview of hydrology and water resources.

Japanese experiences (2) Dark post-war period.

Japanese experiences (3) Comprehensive flood control measures and concepts from river to basin.

Japanese experiences (4) Current challenges and GEJET (L1 and L2 approach).

Japanese experiences (5) Ground subsidence, water pollution and wastewater recycling; transdisciplinary approach.

Application examples of IFRM overseas (by Masayuki Watanabe).

Future Issues of IFRM: Climate change adaptation; Aging society; Depopulation; Social capital.

Final Examination.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Active participation (20%), Reports (30%), Final Examination (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Ben Wisner, Piers Blaikie, Terry Cannon and Ian Davis: At Risk -natural hazards, people's vulnerability and disasters- (Routledge, London & NY, 2004)

Kuniyoshi Takeuchi: Integrated Flood Risk Management Basic Concepts and the Japanese Experience (Routledge, London & NY, 2023)

UNESCO IWRM guidelines steering committee, IWRM Guidelines at River Basin Level: Part 1-1 Principles, 2-1 Part 2-1 Coordination, 2-2 Flood Management, 2-3 Irrigation. (UNESCO, 2009)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2870E

科目名/Course Name: Urban Flood Management and Flood Hazard Mapping

担当教員/Instructor: 田中 茂信/TANAKA Shigenobu

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is specifically designed to study urban flood management. In the first stage of the course, students will learn about Japanese systems for flood risk management, such as relevant laws, extreme rainfalls, flood control planning and geographical aspect of flood plain. The second stage aims to acquire knowledge required to promote early public evacuation with a flood hazard map. Students will also study flood frequency analysis and psychological aspects underlying public behavior during disaster.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

1 : Laws for flood risk management and local disaster management plan in Japan	Prof. TANAKA	
2 : Extreme rainfall and Flood control planning		Prof. TANAKA
3 : Geomorphology around rivers and alluvial plain (1)		Prof. SUGAI
4 : Geomorphology around rivers and alluvial plain (2)		Prof. SUGAI
5 : Geomorphology around rivers and alluvial plain (3)		Prof. SUGAI
6 : Regional analysis based on geographic information (1)		Dr. NAGUMO
7 : Regional analysis based on geographic information (2)		Dr. NAGUMO
8 : Regional analysis based on geographic information (3)		Dr. NAGUMO
9 : Flood hazard map		Prof. TANAKA
10 : Flood frequency analysis(1)		Prof. TANAKA
11 : Flood frequency analysis(2)		Prof. TANAKA
12 : Flood frequency analysis(3)		Prof. TANAKA
13 : Flood frequency analysis(4)		Prof. TANAKA
14 : Evacuation Plan with Flood Forecast		Prof. TANAKA
15 : Examination		

3. 成績の評価方法/ Grading:

Final Exam (70%) , Attitude in the class(30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Local Disaster Management and Hazard Mapping (2009), ICHARM

Hydrological Frequency Analysis (2019), Tanaka

4-2 Others

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2890E

科目名/Course Name: Practice on Integrated Flood Analysis System(IFAS)

担当教員/Instructor: 佐山 敬洋, RASMY Mohamed/SAYAMA Takahiro and RASMY Mohamed

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to introduce the ICHARM's Integrated Flood Analysis System (IFAS) for undertaking hydrological flow, flood inundation, and sediment related simulations and analysis in poorly-gauged basins using the state-of-the-art global information and technologies. The course consists of following components: introduction to hydrological, hydrodynamic, and sediment processes and modeling, practice on PWRI's distributed tank modeling, Rainfall-Runoff-Inundation (RRI) modeling, Rainfall-Sediment-Runoff (RSR) modeling, and Water and Energy budget Rainfall-Runoff-Inundation (WEB-RRI) modeling at different scales.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Basics of Flood Hazard Models
- 2 : Runoff analysis with PWRI's distributed tank model (1) Basic concept
- 3 : Runoff analysis with PWRI's distributed tank model (2) Data preparation
- 4 : Runoff analysis with PWRI's distributed tank model (3) Running model
- 5 : Runoff analysis with PWRI's distributed tank model Parameter setting and analysis of simulation results
- 6 : Rainfall-Runoff-Inundation modeling (1) Data preparation
- 7 : Rainfall-Runoff-Inundation modeling (2) Running model
- 8 : Rainfall-Runoff-Inundation modeling (3) Command User Interface
- 9 : Rainfall-Runoff-Inundation modeling (4) Parameter setting
- 10 : Rainfall-Runoff-Inundation modeling (5) Analysis of simulation results
- 11 : Rainfall-Runoff-Inundation modeling (6) Advanced model settings
- 12 : Introduction to Rainfall-Sediment-Runoff (RSR) processes modeling
- 13 : Rainfall-Sediment-Runoff (RSR) model setup and simulation
- 14: Water and Energy flux estimation in Simple Biosphere Model 2 (SiB2) and Modified Hydro-SiB2 model
- 15 : Water and Energy budget Rainfall-Runoff-Inundation (WEB-RRI) modeling

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports (100%)

If a report is late for the deadline, it will be not evaluated.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

4-2 Others

Material made by the instructors

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP2900E

科目名/Course Name: Socio-economic and Environmental Aspects of Sustainability-oriented Flood Management

担当教員/Instructor: 大原 美保, 角 哲也/OHARA Miho and SUMI Tetsuya

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides the basic understanding of socio-economic and environmental aspects of flood management. The first stage of the course aims to study how to assess socio-economic impacts of disasters and manage the identified risk. The second stage of the course introduces environmental aspects of flood management.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction: Socio-economic aspects of disasters
2. Framework of Disaster Risk Reduction
3. Methodology for assessing socio-economic impacts (1)
4. Methodology for assessing socio-economic impacts (2)
5. Example of assessing socio-economic impacts
6. Disaster information dissemination in Japan (1)
7. Disaster information dissemination in Japan (2)
8. Disaster information dissemination in Asia, Guest lecturer, Dr. Mikami, Waseda University
9. Effective use of information for disaster risk reduction (1)
10. Effective use of information for disaster risk reduction (2)
11. Environmental impacts of dams, Guest lecturer, Dr. Umino, ICHARM
12. Environmental impacts of dams, Guest lecturer, Professor Sumi, Kyoto University
13. Sediment management in reservoirs, Guest lecturer, Professor Sumi, Kyoto University
14. Sediment management in reservoirs, Guest lecturer, Professor Sumi, Kyoto University
15. Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

50% Assignments and participation

50% Exams and short quizzes

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Provided by the instructor

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3000E

科目名/Course Name: Earthquake Hazard Assessment A

担当教員/Instructor: 中川 博人/NAKAGAWA Hiroto

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The earthquake hazard differs quite affected by several conditions. This subject gives fundamental ideas on earthquake hazard evaluation for specific locations when an earthquake and soil environment is given.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Soil Test and Survey to get Soil Properties

Dynamics Characteristics of Soil

Evaluation of Strong Earthquake Ground Motion

Observation of Strong Earthquake Motion

Seminar for Earthquake Hazard Assessment

3. 成績の評価方法/ Grading:

Discussion in the class: 50%

Exams: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3010E

科目名/Course Name: Earthquake Risk Assessment

担当教員/Instructor: 小豆畑 達哉/AZUHATA Tatsuya

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This class deals with basic theories and concrete technologies for seismic risk management of buildings. To mitigate seismic disasters due to collapse of buildings, you will learn seismic diagnosis methods which should be conducted before an earthquake and quick inspection methods of damaged buildings which should be conducted after it. Also, you will learn various techniques for retrofitting and repairing vulnerable buildings and strategies for urban disaster prevention and earthquake disaster reconstruction.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Basic Theories for Earthquake Risk Assessment

Seismic Diagnosis Method of Existing Buildings

Quick Inspection Method of Damaged Buildings

Techniques for Retrofit and Repair of Buildings

Strategies for Urban Disaster Prevention and Earthquake Disaster Reconstruction

Seminar for Earthquake Risk Assessment

3. 成績の評価方法/ Grading:

Discussions & exercises in the classes: 50%

Reports: 50%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3030E

科目名/Course Name: Tsunami Hazard Assessment

担当教員/Instructor: 芝崎 文一郎/SHIBAZAKI Bunichiro

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

To manage tsunami risk and to administrate the tsunami disaster prevention, it is essential for us to prepare a tsunami hazard map that identifies the areas that are likely to get flooded and sustain damage under different tsunami scenarios. The objective of this course is to study the knowledge and the techniques necessary for assessing the hazards of a tsunami and the damage, preparing a tsunami hazard map, administrating tsunami disaster prevention, managing the risk of a tsunami, planning for evacuation, and educating the residents about disaster prevention in case of a tsunami.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Tsunami Hazard Map

Tsunami Hazard Assessment

Tsunami Hazard Assessment —Tsunami Disaster Prevention Administration

Tsunami Hazard Assessment —Theory of Tsunami Propagation and Inundation Simulation

Numerical Simulation of Tsunami Inundation and Its Application

Tsunami Disaster Mitigation

Tsunami Disaster Mitigation Policy and Risk Management in Japan

Tsunami Evacuation Planning and Simulation

Scenario Earthquakes

Tsunami Damage Survey

Lessons from the Great East Japan Earthquake of March 11, 2011

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports (40%)

Discussions and performance in the classes (20%)

Performance in exercises (40%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3040E

科目名/Course Name: Tsunami Countermeasures

担当教員/Instructor: 藤井 雄士郎/FUJII Yushiro

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to study the techniques and methods necessary as tsunami countermeasures. In the first part, tsunami force, various tsunami protection facilities, and tsunami refuge buildings are introduced. A field study in which the tsunami protection facilities will be observed is also included in the course. In the second part, the techniques and methods for tsunami observation, tsunami early warning systems and warning dissemination will be introduced.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Tsunami Protection Facility

Tsunami Damage and Reconstruction

Tsunami Observation

Tsunami Early Warning System and Dissemination

Tsunami Force and Tsunami Resistant Structure

Tsunami Deposit Survey

3. 成績の評価方法/ Grading:

Report of observation visit will be requested.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3050E

科目名/Course Name: Earthquake Hazard Assessment B

担当教員/Instructor: 原 辰彦/HARA Tatsuhiko

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is aimed to learn the techniques to estimate the seismic waves amplification in shallow soil layers and also the way to integrate the existing information for seismic hazard analysis

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Microtremor (Ambient Noise) measurement

Numerical simulation of earthquake ground shaking

Geophysical prospecting

Seismic microzoning

3. 成績の評価方法/ Grading:

Exams 50%

Report 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Lecture notes and necessary materials are provided

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3200E

科目名/Course Name: Earthquake Phenomenology

担当教員/Instructor: 北 佐枝子/KITA Saeko

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, earthquake observation, identification of seismic phases, analyses of local earthquakes, magnitude calculation, seismicity, crust and upper mantle structure, and crustal deformation are covered to understand earthquake phenomena. Lectures on earthquake early warning are also included.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Earthquake Observation

Local Earthquake Analysis

Teleseismic Phases and Magnitudes

Earthquake Early Warning

Seismicity and Statistics

Crust and Upper Mantle Structure

Crustal Deformation

Practice for the Above Mentioned Topics

3. 成績の評価方法/ Grading:

Discussion in Class: 20%

Examinations and/or Reports: 80%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials will be provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3210E

科目名/Course Name: Characteristics of Earthquake Disasters

担当教員/Instructor: 原 辰彦/HARA Tatsuhiko

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course covers knowledge, techniques, and methods necessary for quantitative estimation of physical processes of attenuation and amplification, underground shear waves velocity structure which gives large influences on seismic waves propagation and amplification, and dynamic behavior of soft sedimentary layers near the earth's surface. Determination of earthquake source parameters and seismic tomography are also covered. Lectures, practices and also study day tours will be provided.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Digital Data Processing

Effect of Surface Geology on Seismic Motion

Numerical Simulation of Seismic Wave Propagation

Real Time Determination of Earthquake Parameter

Determination of Broadband Moment Magnitude

Seismic Tomography

Study Tour of Earthquake Monitoring

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports: 50%

Examinations: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Lecture notes and necessary materials are provided

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3220E

科目名/Course Name: Earthquake Circumstance

担当教員/Instructor: 芝崎 文一郎/SHIBAZAKI Bunichiro

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Understanding earthquake circumstance such as crustal deformation associated with earthquake generation processes, source process of earthquakes and tectonic environments, in each place is necessary for preparing proper earthquake disaster prevention strategies. In this course, first, you will learn practical mathematics for seismology. Then, lectures and practices on earthquake focal mechanism, earthquake source process, and relationship between plate tectonics and earthquake are given. Finally, the current situation in earthquake generation and forecasting research such as longterm forecasting will be introduced.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Mathematics for Seismology

Earthquakes and Plate Tectonics

Earthquake Source Process

Earthquake generation and forecasting I, II

Earthquake Focal Mechanism

Analysis of Moment Tensors

Practice for the Above Mentioned Topics

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports (40%)

Examinations (40%)

Discussions in the classes (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3230E

科目名/Course Name: Information Technology Related with Earthquakes and Disasters

担当教員/Instructor: 林田 拓己/HAYASHIDA Takumi

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The aim of this course is to learn basics of information technology related with earthquakes and disasters and acquire the ability to utilize them through a series of lectures and practices. The course topics include subjects of computing (e.g., programming using Fortran language, Generic Mapping Tools, etc), and fundamental theories of seismic waves.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Computer

Unix/Linux basics

GMT (Generic Mapping Tools)

Fortran programming

Theory of Seismic Waves

Surface waves

Scattering and Attenuation

Practices for the above mentioned topics

3. 成績の評価方法/ Grading:

1) The achievement is evaluated based on examinations (60 %) and reports/contribution to classes (40 %).

2) Penalty for delay of submitting reports: considered in evaluation of reports.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3400E

科目名/Course Name: Structural Analysis

担当教員/Instructor: 大塚 悠里/OTSUKA Yuri

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Fundamental concepts and principles for structural analysis, such as the displacement and stress methods, are introduced using matrix formulation. Basic concepts of the finite element method are explained, focusing on solving static linear problems using iso-parametric element models. After that, member models and basic concepts of the direct stiffness method are discussed for non-linear frame analyses of buildings. Then, following the instruction of computer programs, buildings earthquake responses are evaluated. Then, following the instruction of using computer programs, earthquake responses of buildings are evaluated.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Fundamental concepts and principles of structural analysis

Displacement method and stress method by matrix formulation

Exercise for displacement method and stress method

Elasto-plastic analysis of structure

Exercises for elasto-plastic analysis of structure

Basic concept of finite element method

Formulation of element matrices using iso-parametric models

Exercises using computer software for static linear problems

Nonlinear member models for frame analysis of buildings

Evaluation of earthquake responses of buildings

Seminar for Structural Analysis

3. 成績の評価方法/ Grading:

Examination results for structural analysis: 50%

The study report on earthquake response analysis of buildings using computer programs: 50%

(Submission late at the deadline will result in grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes will be provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3410E

科目名/Course Name: Ground Vibration and Structural Dynamics

担当教員/Instructor: 中川 博人/NAKAGAWA Hiroto

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this subject is to study behaviors of grounds and structures subjected to dynamic loadings. For appropriate seismic structural design, it is necessary to understand them. You will learn mathematical backgrounds, numerical analysis methods and field survey methods to evaluate dynamic behaviors of grounds and structures.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Basic Theories of Structural Dynamics

Earthquake Response Analysis of Structures

Amplification by Surface Ground

Dynamic Soil-Structure Interaction

Microtremor Observation

Vibration Test

Seminar for Ground Vibration and Structural Dynamics

3. 成績の評価方法/ Grading:

Examinations: 50%

Reports: 50%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Lecture notes will be provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3420E

科目名/Course Name: Seismic Structures

担当教員/Instructor: 諏訪田 晴彦/SUWADA Haruhiko

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The seismic design of structures should be based on their elastic-to-plastic behaviors under earthquakes and the required performance. In the lectures, at first the mechanical properties of the materials, elastic-to-plastic behaviors of structural members and joints, seismic behaviors of the entire structures and their failure characteristics are introduced through the seismic experiences, results of structural experiments and theoretical approaches. Then, the various design factors which dominate the seismic behavior of structural members and systems are discussed introducing the seismic design methods used in practice. The structural test for RC members will be carried out to understand their actual structural performance.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

RC Structural Members etc.

Steel Structural Members etc.

PC Structural Members etc.

Masonry Structural Members etc.

Foundation Structural Systems

Bridge Structural Systems

Underground Structural Systems

Dam Structural Systems

Structural Systems for Harbor Facilities

Analysis on Static Structural Test of RC Members

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports on Steel structures and RC structures: 60%

Technical report on the structural testing: 40%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes will be provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3430E

科目名/Course Name: Seismic Evaluation and Seismic Design Code

担当教員/Instructor: 小豆畑 達哉/AZUHATA Tatsuya

学期名/Term: 冬、春/Winter, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This subject provides holistic information from conceptual matters to detail in technique on seismic codes, design earthquake ground motion, seismic performance evaluation, and design methodologies of seismic energy dissipation and seismically isolation systems. You can comprehend the specific meanings of these topics well through practical study like code comparison. Lectures show you not only conventional techniques but also newly developed techniques related to the "Seismic Evaluation and Seismic Design Code.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction of Seismic Codes in the World

Methodology of Dynamic Structural Design

Seismic Ground Motions for Dynamic Structural Design

Micro-zonation

Energy Dissipation Systems and Seismically Isolated Systems

New Trend of Seismic Codes and Dynamic Structural Design

3. 成績の評価方法/ Grading:

Discussions and Presentations on Design Code and Seismic Evaluation in the class: 50%

Reports: 50%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes will be provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3600E

科目名/Course Name: Theory of Tsunami

担当教員/Instructor: 藤井 雄士郎/FUJII Yushiro

学期名/Term: 冬、春/Winter, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to study basic theories of tsunami and acquire the techniques for tsunami simulation which are essential to forecast tsunami heights or to prepare a tsunami hazard map around coastal region. In the first part, some lectures about tsunami magnitude, theoretical topics of fluid mechanics for tsunami, tsunami source, tsunami generation and propagation will be undertaken. In the second part, hands-on practices to estimate tsunami source and calculate the tsunami propagation will be given by using Unix emulator on Windows PC or Linux WS.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Tsunami Magnitude and Catalogue

Mathematics for Tsunami

Hydrodynamics for Tsunami

Tsunami Generation and Propagation

Tsunami Source

Tsunami Simulation

Data Processing

Geology for Tsunami

Practice for Theory of Tsunami

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class discussions (20%), reports on practices (60%), and performance in the examinations (20%) will be evaluated.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3802E

科目名/Course Name: Practice on GIS and Remote Sensing Technique

担当教員/Instructor: Rasmy Mohamed/Rasmy Mohamed

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

The objective of this course is to build capacities for undertaking basic tools, which are expecting to be applied in the individual study. This course introduces the basic techniques on Geographic Information System (GIS) and Remote Sensing (RS) applications. The course consists of three components: a) hand-on practice on the GIS, b) introduction of Satellite microwave remote sensing and Satellite rainfall estimation for hydrological simulation, and c) introduction of Remote Sensing (RS) for inundation mapping.

This course is related to SDGs including goal #1, #2, #3, #4, #6, #11, #13, and #15.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week

1 : Geographic Information System (GIS) (1) Understanding GIS data structures

2 : Geographic Information System (GIS) (2) ArcGIS Data management

3 : Geographic Information System (GIS) (3) ArcGIS Data processing

4 : Geographic Information System (GIS) (4) ArcGIS Spatial analysis

5 : Geographic Information System (GIS) (5) ArcGIS Hydrology analysis

6 : Geographic Information System (GIS) (6) Working with ArcGIS and Q-GIS

7 : Remote Sensing (1) Basic principles of satellite image

8 : Remote Sensing (2) Preparation of satellite images from MODIS

9 : Remote Sensing (3) Image analysis with ArcGIS

10 : Basis of Satellite microwave remote sensing & Satellite rainfall estimation

11 : Real-time Satellite rainfall observations (Global Satellite Mapping of Precipitation (GSMaP) and application of bias correction algorithm (1) case study (1)

12 : Real-time Satellite rainfall observations (Global Satellite Mapping of Precipitation (GSMaP) and application of bias correction algorithm (1) case study (2)

13 : Remote Sensing for Inundation Mapping (1) Application to water index

14 : Remote Sensing for Inundation Mapping (2) Case study

15 : Remote Sensing for Inundation Mapping (3) Group project

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Assignments (50%) and Participation (50%)

Late submission (50% reduction)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Material made by the instructors

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3810E

科目名/Course Name: Flood Hydraulics and River Channel Design

担当教員/Instructor: 福岡 捷二/FUKUOKA Shoji

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides the basic knowledge necessary for planning and designing the structural measures for Integrated Flood Risk Management (IFRM). The course first describes the river administration and planning for application of IFRM. Especially the methodology of comprehensive river management will be emphasized that includes planning of flood hydraulics, flood controls, river structures and sediment movement to river channels. This will be followed by specific technologies of channel control and channel improvement.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Characteristics and management of Japanese rivers (1).
2. Characteristics and management of Japanese rivers (2).
3. Hydraulic characteristics of flood flows (1)
4. Hydraulic characteristics of flood flows (2)
5. Time and space propagation characteristics of water level and discharge in flood flows (1) .
6. Time and space propagation characteristics of water level and discharge in flood flows (2) .
7. Flow resistance in rivers with compound channels.
8. Prediction method of flow resistance in compound channels.
9. Effects of channel vegetations on flood propagation.
10. Quasi-two -dimensional analysis of flood flows in rivers with vegetations.
11. Learning from natural rivers – Relationship between dimensionless width, depth versus dimensionless channel forming discharge in stable rivers
12. Channel design harmonizing the flood control and river environment (1)
13. Channel design harmonizing the flood control and river environment (2)
14. Levee vulnerability and foundation vulnerability by the seepage flow
15. Combined effects of levee vulnerability and foundation vulnerability on the seepage failure.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports (20%), Final examination (80%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Textbook will be distributed to students in the class.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3820E

科目名/Course Name: Mechanics of Sediment Transportation and Channel Changes

担当教員/Instructor: 江頭 進治/EGASHIRA Shinji

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Sediment transportation takes place in various forms such as bed-load, suspended load, debris flow etc. and its spatial imbalance causes river bed degradation and aggradation, side bank erosion, sand bar formation and channel shifting. Such channel changes will be suitable for ecological systems, if they are within an allowable level. However, if these are over some critical level, flood and sediment disasters will happen. This course provides methods for evaluating sediment transportation and associated channel changes with attention focused on basic principles of sediment mechanics. In addition, methods of sediment management are discussed for disaster mitigation as well as for developing a suitable channel condition.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Introduction (1)
 - Characteristics of sediment
- 2 : Introduction (2)
 - Sediment transportation and corresponding channel changes
 - Methods to evaluate channel changes
- 3 : Mechanics of sediment transportation (1)
 - Parameters associated with sediment transportation
- 4 : Mechanics of sediment transportation (2)
 - Critical condition for initiating bed load
- 5 : Mechanics of sediment transportation (3)
 - Bed load formulas
- 6 : Mechanics of sediment transportation (4)
 - Bed load formulas
- 7 : Mechanics of sediment transportation (5)
 - Extension of bed load formula to non-uniform sediment
- 8 : Mechanics of sediment transportation (6)
 - Suspended load
- 9 : Mechanics of debris flow (1)
 - Constitutive equations
 - Debris flow characteristics over erodible beds
- 10 : Mechanics of debris flow (2)

- A bed load formula derived from constitutive equations
- 1 1 : Bed forms and flow resistance (1)
 - Geometric characteristics of bed forms
 - Formative domain of bed forms
- 1 2 : Bed forms and flow resistance (2)
 - Flow resistance
- 1 3 : Prediction of channel changes (1)
 - Governing equations employed in steep areas
 - Topographic change in steep areas
- 1 4 : Prediction of channel changes (2)
 - Governing equations employed in alluvial reaches
 - Topographic change in alluvial reaches
- 1 5 : Method to predict sediment transport process in drainage basins
 - Sediment management in drainage basin

3. 成績の評価方法/ Grading:

50 points for reports and short quizzes

50 points for the examination at the end of semester

Notice: Either a report or a short quiz is assigned every two weeks, regarding questions illustrated at the end of each chapter in Lecture Note.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Egashira, S. (2009): Mechanics of Sediment Transportation and River Changes, Lecture Note

4-2 Others

Sturm, T. W. (2001): Open Channel hydraulics, McGraw-Hill.

Graf, W. H. (1997): Fluvial Hydraulics, Wiley.

Julien Pierre: River Mechanics, Cambridge University Press

(Website: <http://www.cambridge.org/us/catalogue/catalogue.asp?isbn=9780521529709>)

(<http://www.amazon.co.jp/River-Mechanics-Pierre-Y-julien/dp/0521529700>)

Albert Gyr and Klaus Hoyer: Sediment Transport, A Geophysical Phenomenon, Springer Netherlands

(<http://www.springerlink.com/content/q0x656/>)

Ashida K., Egashira S. and Nakagawa H. (2008), River Morphodynamics for the 21st Century, Kyoto University Press (in Japanese)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3840E

科目名/Course Name: Control Measures for Landslide & Debris Flow

担当教員/Instructor: 小山内 信智/Osanai Nobutomo

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Debris flows and landslides give serious impacts for human life and infrastructure in many countries. This course provides the necessary knowledge and understanding of landslide and debris flow phenomena and their control measures. The lecture will illustrate the devastating phenomena and the causes of landslides and debris flows and provide the basic concepts of the measures for sediment-related disasters, so-called Sabo Works which is executed in the hill slopes and the channels. It will cover the hazard mapping method for sediment-related disasters.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

1. Outline of sediment-related disasters and Sabo projects	Dr. Ohno
2. Sediment yield, transport and deposition in a river basin (1)	Dr. Nagumo
3. Sediment yield, transport and deposition in a river basin (2)	Dr. Nagumo
4. Sabo planning and control of sediment transport and debris flow	Prof. Uchida
5. Mitigation measures for debris flow and landslide dam	Prof. Uchida
6. Planning and design of Sabo facilities	Prof. Uchida
7. Hazard mapping for debris flow	Prof. Uchida
8. Introduction of landslides	Mr. Takeshi
9. Survey and emergency response for landslides	Mr. Takeshi
10. Permanent measures for landslide	Mr. Takeshi
11. Hazard mapping for landslides and slope failure	Mr. Takeshi
12. Warning and evacuation system for sediment-related disasters	Prof. Osanai
13. Restoration of vegetation on wasteland and its effect	Prof. Osanai
14. Application of Sabo/landslide projects to each country (1)	Prof. Osanai
15. Application of Sabo/landslide projects to each country (2)	Prof. Osanai

Dr. Ohno

Dr.

Ohno

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation(30%) Report and Final discussion(70%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

4-2 Others

SABO in JAPAN : Japan Sabo Association, 2018

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3900E

科目名/Course Name: Site Visit of Water-related Disaster Management Practice in Japan

担当教員/Instructor: 小池 俊雄/KOIKE Toshio

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides opportunities for students to visit actual fields to study structural countermeasure and flood control practice in Japan so that they would experience and understand the concept and ideas that can possibly be introduced to their countries. The course shall provide insight of structural countermeasures, which include but not limited to, river levees, flood retarding basins, dams, and Sabo structures. After each study-visit, students will be requested to submit a report describing the lessons they have learnt and discussion of any possibility to introduce the concept to their countries.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1 : Diversion channel
- 2 : Super levee
- 3 : Weir, Water gate
- 4 : Disaster management station
- 5 : River administration in normal time
- 6 : Awareness enlightening activities for flood (Flood mark, Water level indication tower, etc.)
- 7 : Retarding basin
- 8 : Metropolitan area outer underground discharge channel
- 9 : Integrated flood management in urbanized river
- 10 : Dam
- 11 : Sabo work
- 12 : Traditional river works
- 13 : Pumping station
- 14 : Lake canal

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance (60%), Report (40%)

If a report is late for the deadline, it will be not evaluated.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required - handouts are planned to be provided by corresponding organizations

4-2 Others

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP3910E

科目名/Course Name: Practice on Open Channel Hydraulics

担当教員/Instructor: 萬矢 敦啓/YOROZUYA Atsuhiro

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to understand the basic hydraulics with not only mathematical explanation, but also an experimental study, an field study, as well as other lecture. In this course, students will learn, through the experimental study, 1) hydraulic phenomena, such as hydraulic jump, water surface profile, and 2) usage of the experimental instrumentation. In the field study, student will learn 3) the methodology of flow discharge measurement, such as acoustic Doppler current profiler (ADCP), and non-contact current meter in actual river. In addition to that, some other lecture relating to above two topics will be provided for deep understanding.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Experimental study (1) about experimental study
- 2 : Experimental study (2) Work at experimental facility (1)
- 3 : Experimental study (3) Work at experimental facility (2)
- 4 : Experimental study (4) Work at experimental facility (3)
- 5 : Experimental study (5) Discussion about results
- 6 : Open channel flow (1) Review of governing equations
- 7 : Open channel flow (2) Simplification of momentum equation
- 8 : Open channel flow (3) water surface profile (1)
- 9 : Open channel flow (4) water surface profile (2)
- 1 0 : Open channel flow (5) flow resistance
- 1 1 : Field study (1) principal of ADCP
- 1 2 : Field study (2) principal of non-contact current meter
- 1 3 : Field study (3) work on actual river (1)
- 1 4 : Field study (4) work on actual river (2)
- 1 5 : Field study (5) Discussion about results

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Material made by the instructors

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP4000E

科目名/Course Name: Individual Study

担当教員/Instructor: /

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, you tackle your specific research subject applying knowledge, analysis techniques, etc. acquired in all other lectures. You will meet regularly with a course advisor to formulate and discuss your research topic and determine your supervisor based on your research interest. We request all participants to make a research proposal and to write a research report and its synopsis. We will also hold the interim and the final presentation to manage your research progress and evaluate your research achievements.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Execution of research under your supervisor (analysis, experiment, field survey, observation, etc.)

Presentation of interim results

Presentation of the final report

Submission of the final report

Submission of the synopsis of the final report

3. 成績の評価方法/ Grading:

Presentation and discussion in the final presentation workshop: 60%

Report: 40%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Your supervisor will indicate the literature you should survey concerning your research subject.

5. 履修上の注意/Note:

We will provide the template for the report. You have to make the report following it.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP4800E

科目名/Course Name: Individual Study

担当教員/Instructor: /

学期名/Term: 冬～夏/Winter through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

The objective of this course is to build capacity to propose, formulate, conduct, and produce a master thesis. Students will meet regularly with supervisors to formulate and discuss their research topics, backgrounds, objectives, methodologies, results, and conclusions. Supervisors will be chosen based on their research interest and proposals. Several oral presentation and meeting (e.g. inception, interim, and final) opportunities will be held to improve and evaluate the students research works. The program will also offer a guidance on thesis writing guideline.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Introduction to the research activities in ICHARM: October to November

Inception meeting: December

Selection of supervisors: January

1st interim presentation: February

2nd interim presentation: April

A guidance on thesis writing guideline: May

3rd interim presentation: June

4th interim presentation: July

Submission of a thesis summary: July

Final defense meeting: August

Submission of a thesis: August

Submission of a synopsis: August

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Presentation at the final defense meeting (50%), Thesis (50%)

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

4-1 Required - handouts of thesis writing guideline are planned to be provided in advance

4-2 Others

5. 履修上の注意/ **Note:**

Thesis format will be announced.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP5310E

科目名/Course Name: Case Study (Practice for Earthquake Disaster - Recovery Management Policy
D)

担当教員/Instructor: 中川 博人/NAKAGAWA Hiroto

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

You will make presentations at three colloquiums. Two of them are assigned this class as "Colloquium I & II". Firstly, you will make a presentation on your country report that you had already submitted to us. You will show us the current condition of your country, your organization activity on earthquake disaster prevention, etc. Then you will have discussions with other participants and staff members on them. For second colloquium, you will review a technical/scientific paper recommended by your advisor in order to prepare for your individual study. Through the colloquiums, you are requested to obtain the skill to convey your point to audiences with accuracy, too.

Based on individual interest, participants are requested to practice the topic relating to Earthquake Disaster Mitigation under the guidance of the advisor.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Colloquium I(1st): Presentation of country report
- 2: Colloquium II(2nd): Reviewing a technical/scientific paper
- 3: Practice for Earthquake Disaster Mitigation

3. 成績の評価方法/ Grading:

Presentation and discussion at colloquiums: 60%

Reports: 40%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Handout

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP5320E

科目名/Course Name: Case Study (Practice for Earthquake Disaster - Recovery Management Policy II)

担当教員/Instructor: 林田 拓己/HAYASHIDA Takumi

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Participants are requested to make presentations at three colloquiums based on individuals interest. Presentation topics should be related to Earthquake Disaster Mitigation and are decided after consulting with the advisors. The last one of the colloquiums is assigned to "Colloquium III" and participants introduce a tentative plan of individual study to teachers (including advisor).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1: Colloquium III: Introduction of individual study

2: Practice for Earthquake Disaster Mitigation Seminar

3. 成績の評価方法/ Grading:

Presentation and discussion at colloquium : 50%

Reports : 50%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Necessary materials are provided.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP5330E

科目名/Course Name: Case Study (Practice for Earthquake Disaster - Recovery Management Policy III)

担当教員/Instructor: 的場 萌子/MATOBA Moeko

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Study trips to the past earthquake disaster areas are held.

In the autumn semester, you will visit the Chuetsu and Tohoku districts. The Chuetsu district suffered from the Mid Niigata Prefecture Earthquake so called the Chuetsu Earthquake in 2004: The Tohoku district suffered from the Off the Pacific coast of Tohoku Earthquake in 2011.

In the spring semester, you will visit the Kansai district. This region suffered from the Hyogo-ken Nanbu earthquake so called the Kobe Earthquake in 1995.

During these trips, you will trace earthquake damages on structures and fields, observe a part of seismic faults which caused earthquakes, visit memorial museums of earthquake disasters and research facilities for developing new technologies, attend lectures by professors of Universities and so on. You will learn valuable lessons for earthquake disaster mitigation through the trips.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Visit to:

Damaged areas

Earthquake faults

Disaster-related institutes

3. 成績の評価方法/ Grading:

Discussion in the class: 50%

Reports: 50%

(Submission late at deadline will result in the grading E regardless of its quality.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Handout

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP5340E

科目名/Course Name: Case Study (Practice for Tsunami Disaster Mitigation Policy)

担当教員/Instructor: 原 辰彦/HARA Tatsuhiko

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, lectures and practices on real-time determination of earthquake parameters and determination of the broadband moment magnitude to detect potentially tsunamigenic earthquakes will be provided for tsunami disaster mitigation. Study tours of earthquake monitoring are also included.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Real Time Determination of Earthquake Parameter

Determination of Broadband Moment Magnitude

Study Tour of Earthquake Monitoring

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation in Practices and Observations: 20%

Reports: 80%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lecture notes and necessary materials are provided

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP7001E

科目名/Course Name: Advanced Disaster Management Policies A: from Regional and Infrastructure Aspect

担当教員/Instructor: 日比野 直彦/HIBINO Naohiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course deals with the various aspects of disaster management policies from the viewpoint of nation-wide or wide range regional and Infrastructure development. The course consists of five parts: I) bird-view lectures to overlook disaster management policies, II) field-wise specialized lectures on practical measures against natural disasters, III) a one day site-visiting in central Tokyo, IV) group presentations by students and overall discussions, and V) joint fieldwork and Integrated Student Seminar with Japanese students. The 3rd to 5th are jointly managed with DMP(B).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

I. Introduction to Disaster Management

II. Disaster Management in Individual Fields (by various experts)

1. Wind and Rain Disaster Management in Railway Operation
2. Storm Surge, Tsunami and Other Disasters in Port, Coast and Airport
3. History of Water-Disasters and Flood Management in Japan
4. Disasters and Restoration in Rural Area
5. Heavy Rain, Snow and Other Disasters in Road Systems

III. Site-Based Study in Tokyo Metropolitan District

(Together with DMP(B))

IV. Group Presentations and Discussion

(Together with DMP(B))

V. Joint Fieldwork and Integrated Student Seminar

(Together with DMP(B))

3. 成績の評価方法/ Grading:

Final Group Presentation and Contribution to Discussion (70%)

Final Report (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

(4-1:Required 4-2:Others)

Necessary materials will be provided by instructors.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP7011E

科目名/Course Name: Advanced Disaster Management Policies B: from Urban and Community Aspect

担当教員/Instructor: 片山 耕治/KATAYAMA Koji

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to provide a broad understanding of disaster risk management, policies related to urban, housing and community aspects. It emphasizes application of appropriate and practical measures, reflecting social, economic and environmental conditions of each country. This course also attempts to discuss the following issues;

- Basic issues of the disaster management policies
- Lessons from the past large disasters in the world
- Urban Disaster risk management policy in Japan
- Policies and regulations to secure building safety

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Disasters in the World
2. Basics of Disaster Risk Management
3. Lessons from 2011 Tohoku and 1995 Kobe
4. Urban disaster risk management policy
5. Building / housing policy and disaster management
6. Development of disaster risk management
7. Special Lecture "Weather and Disasters"
8. Special Lecture "Sediment-related Disasters"
9. Special Lecture "Augmented Reality disaster management training."
10. Presentation and Discussion 1) (Together with DMP(A))
11. Presentation and Discussion 2) (Together with DMP(A))
12. Presentation and Discussion 3) (Together with DMP(A))
13. Site-Based Study 1) (Together with DMP(A))
14. Site-Based Study 2) (Together with DMP(A))
15. Site-Based Study 3) (Together with DMP(A))

3. 成績の評価方法/ Grading:

Final Presentation and Contribution to Discussion

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Necessary materials will be provided by instructors

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP7821E

科目名/Course Name: Advanced Integrated Flood Management

担当教員/Instructor: 竹内 邦良/TAKEUCHI Kuniyoshi

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is an extension of DMP282E which teaches the basic concepts of "Integrated Flood Risk Management (IFRM)" as part of Integrated Disaster Risk Management (IDRM) and Integrated Water Resources Management (IWRM). Students are expected to attend the course lessons and apply the basic concepts of IWRM and IDRM to formulate solutions for practical management issues of floods as resources as well as hazards in their own country. The background concepts of sustainable development and resilience building should be fully integrated in the formulation. Required is to write a case report on practical flood management issues in their country and make a policy recommendation for solutions.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction: There is no such thing as a natural disaster. Disaster risk, hazard, exposure, vulnerability and coping capacity.

PAR Model: Root causes, dynamic pressure and unsafe conditions.

ACCESS Model: Disaster impacts on household levels.

UN policies (1) UN initiatives on environment and development: From Stockholm to Stockholm+50.

UN policies (2) UN initiatives on disaster reduction: From Yokohama to Sendai.

IWRM and IFRM (1) Concept of IWRM.

IWRM and IFRM (2) Guideline for IWRM at basin scale. (3) IFM.

Japanese experiences (1) Overview of hydrology and water resources.

Japanese experiences (2) Dark post-war period.

Japanese experiences (3) Comprehensive flood control measures and concepts from river to basin.

Japanese experiences (4) Current challenges and GEJET (L1 and L2 approach)

Japanese experiences (5) Ground subsidence, water pollution and wastewater recycling, transdisciplinary approach.

Application examples of IFRM overseas (by Masayuki Watanabe)

Future Issues of IFRM: Climate change adaptation; Aging society; Depopulation; Social capital

Final Examination

3. 成績の評価方法/ Grading:

Active participation (25%), Report (50%), Final Examination(25%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Ben Wisner, Piers Blaikie, Terry Cannon and Ian Davis: At Risk -natural hazards, people's vulnerability and disasters- (Routledge, London & NY, 2004)

Kuniyoshi Takeuchi: Integrated Flood Risk Management Basic Concepts and the Japanese Experience (Routledge, London & NY, 2023)

UNESCO IWRM guidelines steering committee, IWRM Guidelines at River Basin Level: Part 1-1 Principles, 2-1 Part 2-1 Coordination, 2-2 Flood Management, 2-3 Irrigation. (UNESCO, 2009)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP7871E

科目名/Course Name: Advanced Urban Flood Management and Flood Hazard Mapping

担当教員/Instructor: 田中 茂信/TANAKA Shigenobu

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is specifically designed to study urban flood management. In the first stage of the course, students will learn about Japanese systems for flood risk management, such as relevant laws, extreme rainfalls, flood control planning and geographical aspect of flood plain. The second stage aims to acquire knowledge required to promote early public evacuation with a flood hazard map. Students will also study flood frequency analysis and psychological aspects underlying public behavior during disaster.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 : Laws for flood risk management and local disaster management plan in Japan	Prof. TANAKA
2 : Extreme rainfall and Flood control planning	Prof. TANAKA
3 : Geomorphology around rivers and alluvial plain (1)	Prof. SUGAI
4 : Geomorphology around rivers and alluvial plain (2)	Prof. SUGAI
5 : Geomorphology around rivers and alluvial plain (3)	Prof. SUGAI
6 : Regional analysis based on geographic information (1)	Dr. NAGUMO
7 : Regional analysis based on geographic information (2)	Dr. NAGUMO
8 : Regional analysis based on geographic information (3)	Dr. NAGUMO
9 : Flood hazard map	Prof. TANAKA
10 : Flood frequency analysis(1)	Prof. TANAKA
11 : Flood frequency analysis(2)	Prof. TANAKA
12 : Flood frequency analysis(3)	Prof. TANAKA
13 : Flood frequency analysis(4)	Prof. TANAKA
14 : Evacuation Plan with Flood Forecast	Prof. TANAKA
15 : Report writing	

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports (80%) , Attitude in the class(20%)

If a report is late for the deadline, it will be not evaluated.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Local Disaster Management and Hazard Mapping (2009), ICHARM

Hydrological Frequency Analysis (2019), Tanaka

4-2 Others

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP7901E

科目名 /Course Name: Socio-economic and Environmental Aspects of Advanced Sustainability-oriented Flood Management

担当教員/Instructor: 大原 美保, 角 哲也/OHARA Miho and SUMI Tetsuya

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides the basic understanding of socio-economic and environmental aspects of flood management. The first stage of the course aims to study how to assess socio-economic impacts of disasters and manage the identified risk. The second stage of the course introduces environmental aspects of flood management.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction: Socio-economic aspects of disasters
2. Framework of Disaster Risk Reduction
3. Methodology for assessing socio-economic impacts (1)
4. Methodology for assessing socio-economic impacts (2)
5. Example of assessing socio-economic impacts
6. Disaster information dissemination in Japan (1)
7. Disaster information dissemination in Japan (2)
8. Disaster information dissemination in Asia, Guest lecturer, Dr. Mikami, Waseda University
9. Effective use of information for disaster risk reduction (1)
10. Effective use of information for disaster risk reduction (2)
11. Environmental impacts of dams, Guest lecturer, Dr.Umino, ICHARM
12. Environmental impacts of dams, Guest lecturer, Professor Sumi, Kyoto University
13. Sediment management in reservoirs, Guest lecturer, Professor Sumi, Kyoto University
14. Sediment management in reservoirs, Guest lecturer, Professor Sumi, Kyoto University
15. Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

50% Assignments and participation

50% Exams and short quizzes

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Provided by the instructor

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP8811E

科目名/Course Name: Advanced Flood Hydraulics and River Channel Design

担当教員/Instructor: 福岡 捷二/FUKUOKA Shoji

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides the basic knowledge necessary for planning and designing the structural measures for Integrated Flood Risk Management (IFRM). The course first describes the river administration and planning for application of IFRM. Especially the methodology of comprehensive river management will be emphasized that includes planning of flood hydraulics, flood controls, river structures and sediment movement to river channels. This will be followed by specific technologies of channel control and channel improvement.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Characteristics and management of Japanese rivers (1).
2. Characteristics and management of Japanese rivers (2).
3. Hydraulic characteristics of flood flows (1)
4. Hydraulic characteristics of flood flows (2)
5. Time and space propagation characteristics of water level and discharge in flood flows (1) .
6. Time and space propagation characteristics of water level and discharge in flood flows (2) .
7. Flow resistance in rivers with compound channels.
8. Prediction method of flow resistance in compound channels.
9. Effects of channel vegetations on flood propagation.
10. Quasi-two -dimensional analysis of flood flows in rivers with vegetations.
11. Learning from natural rivers – Relationship between dimensionless width, depth versus dimensionless channel forming discharge in stable rivers
12. Channel design harmonizing the flood control and river environment (1)
13. Channel design harmonizing the flood control and river environment (2)
14. Levee vulnerability and foundation vulnerability by the seepage flow
15. Combined effects of levee vulnerability and foundation vulnerability on the seepage failure.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reports (20%), Final examination (80%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Textbook will be distributed to students in the class.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP8821E

科目名/Course Name: Advanced Mechanics of Sediment Transportation and Channel Changes

担当教員/Instructor: 江頭 進治/EGASHIRA Shinji

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Sediment transportation takes place in various forms such as bed-load, suspended load, debris flow etc. and its spatial imbalance causes river bed degradation and aggradation, side bank erosion, sand bar formation and channel shifting. Such channel changes will be suitable for ecological systems, if they are within an allowable level. However, if these are over some critical level, flood and sediment disasters will happen. This course provides methods for evaluating sediment transportation and associated channel changes with attention focused on basic principles of sediment mechanics. In addition, methods of sediment management are discussed for disaster mitigation as well as for developing a suitable channel condition.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1: Introduction (1) - Characteristics of sediment

2: Introduction (2) - Sediment transportation and corresponding channel changes
- Methods to evaluate channel changes

3: Mechanics of sediment transportation (1) - Parameters associated with sediment transportation

4: Mechanics of sediment transportation (2) - Critical condition for initiating bed load

5: Mechanics of sediment transportation (3) - Bed load formulas

6: Mechanics of sediment transportation (4) - Bed load formulas

7: Mechanics of sediment transportation (5) - Extension of bed load formula to non-uniform sediment

8: Mechanics of sediment transportation (6) - Suspended load

9: Mechanics of debris flow (1) - Constitutive equations

- Debris flow characteristics over erodible beds

10: Mechanics of debris flow (2) - A bed load formula derived from constitutive equations

11: Bed forms and flow resistance (1) - Geometric characteristics of bed forms

- Formative domain of bed forms

12: Bed forms and flow resistance (2) - Flow resistance

13: Prediction of channel changes (1) - Governing equations employed in steep areas

- Topographic change in steep areas

14: Prediction of channel changes (2)-Governing equations employed in alluvial reaches

- Topographic change in alluvial reaches

15: Method to predict sediment transport process in drainage basins - Sediment management in drainage basin

3. 成績の評価方法/ Grading:

50 points for reports and short quizzes

50 points for the examination at the end of semester

Notice: Either a report or a short quiz is assigned every two weeks, regarding questions illustrated at the end of each chapter in Lecture Note.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

- Egashira, S. (2009): Mechanics of Sediment Transportation and River Changes, Lecture Note

4-2 Others

- Sturm, T. W. (2001): Open Channel hydraulics, McGraw-Hill.
- Graf, W. H. (1997): Fluvial Hydraulics, Wiley.
- Julien Pierre: River Mechanics, Cambridge University Press
(Website: <http://www.cambridge.org/us/catalogue/catalogue.asp?isbn=9780521529709>)
(<http://www.amazon.co.jp/River-Mechanics-Pierre-Y-julien/dp/0521529700>)
- Albert Gyr and Klaus Hoyer: Sediment Transport, A Geophysical Phenomenon, Springer Netherlands
(<http://www.springerlink.com/content/q0x656/>)
- Ashida K., Egashira S. and Nakagawa H. (2008), River Morphodynamics for the 21st Century, Kyoto University Press (in Japanese)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP8830E

科目名/Course Name: Advanced Hydrometeorology

担当教員/Instructor: Rasmy Mohamed, 牛山 朋來/Rasmy Mohamed and USHIYAMA Tomoki

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this subject is to establish a physical basis on the Earth's climate and weather systems and their prediction. This course introduces the hydro-meteorological processes associated with the energy and water cycle variability, and the numerical simulation of atmospheric dynamics including governing equations, weather forecasting, and data assimilation methodology. This course also introduces the several applications of numerical approaches for flood and drought forecasting as well as climate change projections.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) Climate system

(2) Radiative processes

(3) General circulations

(4) Precipitation processes

(5) Governing equations

1) Equation for Mean Variables in a Laminar Flow

— Ideal Gas Law and Conservation of Mass

2) Equation for Mean Variables in a Laminar Flow

— Conservation of Momentum

3) Equation for Mean Variables in a Laminar Flow

— Conservation of Moisture, Heat, and Scalar Quantity

4) Equation for Mean Variables in a Turbulent Flow

— Ideal Gas Law and Conservation of Mass and Momentum

5) Equation for Mean Variables in a Turbulent Flow

—Conservation of Moisture, Heat, and Scalar Quantity, and Simplification

(6) Numerical Weather Prediction (NWP)

1) General Circulation Models (GCMs) and regional climate modeling

2) Data assimilation, cumulus parameterization.

(7) Climate change

1) Global warming and projections

2) Dynamical downscaling and/or Bias correction methods

(8) Flood forecasting

(9) Drought forecasting

3. 成績の評価方法/ Grading:

Active participation(25%), Short Reports(25%), Final Examination(50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

1) J.R.Holton: An Introduction to Dynamic Meteorology, Academic Press.

2) Roland B.Stull: An Introduction to Boundary Layer Meteorology, KLUWER ACADEMIC PUBLISHERS.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP8840E

科目名/Course Name: Advanced Hydrodynamics

担当教員/Instructor: 萬矢 敦啓/YOROZUYA Atsuhiko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Objective of this course is understanding the hydrodynamics through numerical model. This course provides River morphology as the basic understanding for the sediment hydraulics, Mathematical tool as well as technique of the numerical simulation. Thereafter, students learn about Depth-integrated 2D governing equations to understand the sediment transport in the river flow. Finally, they learn Sediment transport processes in drainage basins.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

River morphology

Characteristics of sand waves

Hydraulic resistance on the alluvial channels

Characteristics of sand bars and braided channel

Mathematical tool to integrate partial differential equations

Leibniz rule and its simplification, etc.

Depth-integrated 2D governing equations to describe flood flow and sediment transportation

An equation set to evaluate depth integrated 2D-flow, sediment transportation and bed variation

Parameters associated with sediment transportation

Governing equations described in terms of several grid systems

Cartesian coordinate system

General grid system (General coordinate system)

Sediment transport process in drainage basins

Review and Discussion of current topics about Hydrodynamics

3. 成績の評価方法/ Grading:

50 points for reports and short quizzes

50 points for the examination at the end of semester

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Yorozuya, A. (2016):Advanced Hydrodynamics, Lecture Note

4-2 Others

Egashira, S. (2009): Mechanics of Sediment Transportation and River Changes, Lecture Note.

Ashida K., Egashira S. and Nakagawa H. (2008), River Morphodynamics for the 21st Century, Kyoto University Press (in Japanese)

CFD

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:DMP8850E

科目名/Course Name: International Policies on Water and Disasters

担当教員/Instructor: 廣木 謙三/HIROKI Kenzo

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course studies formulation and implementation process of international policies that give concrete impact on local and national practices and field works, and vice versa. Water and disasters, key cross cutting areas of SDGs, will be addressed as a main subject of study in the course. The course intends to help students broaden their knowledge base and enhance their capability to formulate and implement national and international policies and connect them with local practices and projects.

The course will be started by lectures on cases in which practitioners and stakeholders faced actual disasters. Following group discussion will explore how international policies may help local practitioners and stakeholders in meeting diverse local challenges. Afterwards, the course moves to lectures on chronological development of international water and disaster policies in which selected official documents are examined. A recent process of merging water policy and disaster policy will also be studied.

Having learned these basics, students will learn key policy elements such as Climate Change Adaptation and management of transboundary water. Process and methods to connect policy and science at decision making levels will be discussed. Meeting/conference processes will be taken up as a tool to facilitate formulation and implementation of policies. The course will study how those meeting processes determine success and failure of the policies.

As Integrated Water Resources Management (IWRM) is the key for sustainable, inclusive, and resilient water management, students will study basic concept, field cases and national and international policies on IWRM. They will deepen their knowledge on IWRM by presenting their own cases and discuss them in a seminar.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Phase 1 (Week1-4): Overview of status and policies on water and disasters at local and global levels

The course is started by knowing from cases what challenges practitioners and stakeholders are likely to face in actual disasters. Students will learn outline of key international policies on water as well as DRR and their historical background. A recent process of merging water policy and disaster policy will also be visited. Group discussion will explore how international policies may help local practitioners and stakeholders in meeting the local challenges.

Lecture: Global overview on water and disasters

Lecture: International policy on water

Lecture: International DRR policy and merging water and DRR policies

Seminar on DRR Policy (Group discussion on policies to address local challenges on water and disasters)

Read Sendai Framework for Disaster Risk Reduction (DRR) (Pages to be specified by the lecturer):

https://www.preventionweb.net/files/43291_sendaiframeworkfordrren.pdf

Phase 2 (Week 5-7): Bridging international policy, national policy, and field practice

Students will learn how international and national policies are translated into local practices. Practical knowledge and lessons learned from recent cases will be shared through lecture. These will lead to group discussion on status and challenges of current policies on water and disasters.

Lecture: Bridging international policy, national policy, and field practice

Crisis management of water-related disasters

Dam safety policy

Financing and investment on water-related DRR

Lecture: Learning from cases and good practices

Seminar: Looking at the future by visiting the past: Discussing policies which should be created in the future.

Read The 2030 Agenda for Sustainable Development (Pages to be specified by the lecturer):

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/21252030%20Agenda%20for%20Sustainable%20Development%20web.pdf>

Phase 3 (Week 8-11): Methods to create effective international policies

International policies are just a stack of paper without giving real impacts on national and local actions. Students will learn the process of developing effective international policies. Various meetings and conferences are compared as prerequisite tools to build consensus and formulate international policies. Students will discuss The students will discuss building effective international processes that can give intended impact on national and local actions.

Lecture: How international policies and their implementation are connected to conference process

Lecture: Climate change adaptation and DRR

Lecture: Addressing water-related Disaster Risk Reduction under COVID-19

Seminar: Discussing methods to formulate effective international policies that lead to concrete actions

Read UNSGAB Hashimoto Action Plan 1 and UNSGAB Journey

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/8701unsgab-journey-web.pdf>

Read Final Outcome Report of High Level panel on Water (Pages to be specified by the lecturer)

https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/17825HLPW_Outcome.pdf

Phase 4 (Week 12-15): Integrated Water Resources Management (IWRM)

Concept, background, effects and necessary frameworks and process of IWRM will be learned. International guidelines to implement IWRM will be visited to learn how practically IWRM can help integrate various water-related sector including that of DRR for efficient management of water resources.

Lecture: Overview of Integrated Water Resources Management (IWRM)

Lecture: Practicing IWRM

Seminar: Discussing cases of IWRM

Read UN Convention on the Law of the Non-navigational Uses of International Watercourses (Pages to be specified by the lecturer): http://legal.un.org/ilc/texts/instruments/english/conventions/8_3_1997.pdf

3. 成績の評価方法/ Grading:

Performance in class discussion (20%), Presentation (30%), and Final Exam (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4.1

Sendai Framework for Disaster Risk Reduction (DRR):

https://www.preventionweb.net/files/43291_sendaiframeworkfordrren.pdf

The 2030 Agenda for Sustainable Development:

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/21252030%20Agenda%20for%20Sustainable%20Development%20web.pdf>

UN Convention on the Law of the Non-navigational Uses of International Watercourses (Pages to be specified by the lecturer): http://legal.un.org/ilc/texts/instruments/english/conventions/8_3_1997.pdf

UNSGAB Hashimoto Action Plan 1: to be distributed by the lecturer

UNSGAB Journey

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/8701unsgab-journey-web.pdf>

Other materials to be distributed by the lecturer when necessary

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM2000J

科目名/ Course Name: 防災と復旧・復興

担当教員/ Instructor: 森地 茂/MORICHI Shigeru

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

災害多発国である日本の国土の状況、国土計画、土地利用、交通社会資本関連の防災政策、防災教育、及び復旧・復興政策について論じる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1—2回：国土政策としての防災と歴史

第3回：国土強靱化、社会資本の災害復旧制度

第4回：インフラ老朽化

第5回：防災教育

第6—8回：交通ネットワークの防災と災害時対応（鉄道・バス・空港）

第9—10回：リスクマネジメントの数理的方法—Fault Tree Analysis—

第11回：土地利用と規制、三陸地域の観光

第12回：紀伊半島 土砂災害と救援体制

第13回：復旧と復興政策

第14回：意思決定プロセス

第15回：レポート発表と討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

試験 70% レポート 30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

沢本守幸：公共投資 100 年の歩み、大成出版社

国土政策機構編：国土を創った土木技術者たち、鹿島出版会

土木学会：DVD、日本に住むための必須 防災知識

久米邦武：米欧回覧実記 全五冊、岩波文庫

内閣府：国土強靱化基本計画

内閣府：国土強靱化アクションプラン

国土交通省：社会資本老朽化対策

Integrated Research & Survey Team on Disaster Mitigation using Information and Communication Technology, The Japan Society of Civil Engineers and the Institute of Electrical Engineers of Japan, July 13, 2011.

Lessons for the Social Sciences from the 2011 Great East Japan Earthquake (Report of the Social Scientific Research Committee on the Great East Japan Earthquake), Social Scientific Research Committee on the Great East Japan Earthquake Japan Society for the Promotion of Science, May 2015.

Pat Chote, Susan Walter : America in Ruins : The Decaying Infrastructure, ,
Duke Press Policy Studies Paperbacks, 1981

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM2010J

科目名/ Course Name: 災害リスクマネジメント

担当教員/ Instructor: 片山 耕治/ KATAYAMA Koji

学期名/ Term: 春後、夏/ Spring (Session II), Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

災害リスク軽減に関する政策の実施と立案能力を身につけるため、国内外の防災活動や災害、リスクや関連政策に関する基礎的な理解を深めたうえで、春学期には予防防災、減災、応急対応、復旧・復興の各段階における政策、地震・津波防災上特に重要な建築・住宅・都市の防災対策、防災に取り組むための動機づけ等の概要について学習する。また、夏学期には山口修特別講師（MS&AD インターリスク総研株式会社）の担当により、事業継続計画（BCP）の概要とグループワークによる BCP 策定ならびに見直しのプロセス等を学習する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回：世界と日本の災害

第2回：災害リスクマネジメント概論

第3回：東日本大震災の教訓

第4回：阪神・淡路大震災の教訓

第5回：都市防災政策

第6回：建築防災政策

第7回：建築物の被害への対応

第8回：災害リスクマネジメントの展開

第9回：特別講義（国土交通省課長等の講義）

第10回：事業継続計画（BCP）の全体像

第11回：事業継続計画（BCP）の策定（1）BCP方針・目標の設定

第12回：事業継続計画（BCP）の策定（2）BCP戦略と事前対策の整理

第13回：事業継続計画（BCP）の策定（3）緊急時体制・手順等計画の策定

第14回：事業継続計画（BCP）の策定（4）見直しの仕組み構築（訓練体験会）

第15回：事業継続計画（BCP）の普及促進

3. 成績の評価方法/ Grading:

クラスでの議論への参加 30%、レポート 70%で評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1：必携のテキスト

毎回パワーポイントを事前配信し、場合により資料を追加配布。

4-2：その他

Cabinet Office, "Disaster Management in Japan"

http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf

FEMA (2017) "National Incident Management System"

https://www.fema.gov/pdf/emergency/nims/NIMS_core.pdf

FEMA (2018) "Introduction to the Incident Command System (ICS100) Instruction Guide"

https://training.fema.gov/emiweb/is/is100he/instructor%20guide/ics100highered_ig.pdf

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM2050J

科目名/ Course Name: 気象と災害

担当教員/ Instructor: 鈴木 靖/SUZUKI Yasushi

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

豪雨や台風・地震・津波・火山噴火など、気象（地象・水象を含む）情報は災害対策と密接にかかわるものである。また、近年、異常気象や気候変動等の影響を受け、これまでの経験を超えた災害が頻発する状況にある。本講義では、防災対策にとって極めて重要な「気象と災害」について幅広く学ぶ授業を行う。学んだ防災気象情報を実社会で利活用することを目標とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第 1 回(10/11) : 気象と災害概論（気象，災害，防災等についての概説，講義の目的等）

第 2 回(10/18) : 気象情報の活用（官公庁，企業，一般市民，メディア等の利活用等）

第 3 回(10/25) : 気象予報・警報等（予測技術，避難情報，警報・注意報等）※（気象庁外部講師）

第 4 回(11/1) : 気象観測・数値予測等（気象観測と数値予報技術の動向等）※（気象庁外部講師）

第 5 回(11/8) : 雨の災害（豪雨，線状降水帯，外水・内水氾濫，土砂災害等）

第 6 回(11/15) : 風の災害（台風，地形と風，暴風，竜巻，突風等）

第 7 回(11/22) : 気温の災害（熱中症，ヒートアイランド，やませ，霜害等）

第 8 回(11/29) : 防災気象情報の課題（情報の受容，避難行動等）※（気象協会外部講師）

第 9 回(12/6) : 雪の災害（交通障害と豪雪，吹雪，なだれ，路面凍結等）※（気象協会外部講師）

第 10 回(12/13) : 地震災害（地震活動，地震・地殻活動監視体制，警報，津波等）※（気象庁外部講師）

第 11 回(12/20) : 火山災害（火山を知る，火山観測，火山防災情報・体制等）※（気象庁外部講師）

第 12 回(1/10) : 海の災害（高波，高潮と津波，潮位，風波とうねり等）

第 13 回(1/17) : 異常気象と地球温暖化（平年値，極端現象，温室効果，IPCC，緩和策と適応策等）

第 14 回(1/24) : 社会と災害（文明と災害，日本人と自然災害等）

第 15 回(1/31) : 気象と防災（講義の総括，試験）

※は気象庁および気象協会の方に外部講師を依頼する予定

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は試験による評価で算定する。具体的な試験の実施については授業の中で提示する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義においては、テーマに応じ資料を配布し、それをもとに授業を行う。なお、参考文献があれば、授業の中で適宜提示する。

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM3000J

科目名/ Course Name: 災害対策各論 I

担当教員/ Instructor: 小山内 信智/ Osanai Nobutomo

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

災害が多発する我が国においては、防災対策は最も重要な政策の一つである。その実効性を高めるためには、まず各種の災害ごとに対応すべき現象を理解することが必要である。そこで、できるだけ実現象について資料を用いて分かりやすく解説する。また、各論Iでは災害をもたらす現象ごとに一般的な対応方策についても論ずる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 災害対策概論(1)

自然災害が頻発する日本における防災の基本的視点を論ずる。

第2回 災害対策概論(2)

我が国では豪雨、火山噴火、地震等の自然現象に伴って多様な災害が発生する。その自然災害の概要について論ずる。

第3回 防災行政と政策

自然災害に対する防災事業等（ハード対策・ソフト対策）の推移について、政治体制との関係を重ねながら概観する。

第4回 気象災害と情報

豪雨、風、雪、竜巻などの気象災害のメカニズムと一般的な防災情報について論ずる。

第5回 河川計画（河川氾濫）

豪雨に伴って発生する水害の実態及び対策を行うための河川計画論の基本について論ずる。

第6回 砂防の歴史と法律

砂防の歴史を紹介し、我が国の土砂災害対策に必要とされた、ハード・ソフト両面の4つの法律の大枠について論ずる。

第7回 水災害と水防行政

我が国で頻発する水災害の経験を踏まえて講じられてきた水防行政の取組の変遷について学ぶ。

第8回 豪雨に伴う土砂災害（土石流等）

豪雨に伴って発生する土石流災害や洪水時に多量の土砂が流れることに伴う河床上昇による災害について、そのメカニズムと一般的な対策を論ずる。

第9回 地震災害

日本で多くの地震が発生するメカニズムと、地震によって発生する災害に対応するための基本的な考え方について論ずる。

第10回 地震に伴う土砂災害

地震によって発生する土砂災害について、発生現象、その危険度及び一般的な対策について論ずる。

第11回 深層崩壊と天然ダム

地震や大雨によって発生する深層崩壊とそれによって形成される天然ダムの実態について論ずる。

第12回 砂防計画

豪雨、地震、火山噴火等様々な誘因で発生する土砂災害への対策を行うための砂防計画論について、近年の災害を踏まえつつ論ずる。

第13回 土砂災害防止法

土砂災害へのソフト対策を行うための土砂災害防止法について、その概要と課題について論ずる。

第14回 地すべり対策

地すべりは被害の発生形態が間欠的であったり発生原因が特定しにくかったりする。そのため専門的な調査や複合的な対策が必要であり、総合的な対応方法について学ぶ。

第15回 植生と土砂災害

主に山地や自然斜面で発生する土砂災害に対して、植生の存在がどのような影響を与えるのかについて論ずる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、出席点を10分の3、レポートに関する評価点を10分の7として計算する。欠席は3回までは認められるが、その場合でも欠席は出席点に影響するので、できる限り出席することが望ましい。なお、特別の事情が認められる場合は事前の届け出によって配慮し、病気などで出席が足りないときに、別途課題をこなすことによって単位を認めることがある。レポートの課題は1回出題して評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: ダムと緑のダム, 日経 BP, 2019

4-2: Sabo in Japan, JAPAN SABO ASSOCIATION, 2018

5. 履修上の注意/Note:

受講者の予習成果を講義の材料とする場合がある。

メールアドレス n-osanai@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM3010J

科目名/ Course Name: 災害対策各論Ⅱ

担当教員/ Instructor: 小山内 信智/Osanai Nobutomo

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

災害は発生場の状況で被害形態が異なり、対応も異なる。そこでこれまでに実施された代表的な対応事例等についてその概要と具体的な手法を理解する。そして受講生が自分の担当している地域の実態を踏まえ、具体的対応を構築することが可能となるような能力を身につけることを目指す。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 土砂災害警戒情報等

土砂災害警戒区域等における警戒避難の実態と課題について論ずる。

第2回 火山噴火に伴う災害

火山国日本では、火山噴火に伴い多様な現象が発生している。これら各現象の特徴、性質を知るとともに一般的な対策について論ずる。

第3回 津波・高潮対策

地震に伴って発生する津波や台風による高潮災害について、具体的な災害事例を基にその対策について論ずる。

第4回 河川計画（都市水害）

浸水の地下街への影響等、都市インフラに対する水害の特性と対策の考え方、総合治水等の計画論を学ぶ。

第5, 6回 現地実習

防災事業を行っている現地において、事業計画策定・実施上の課題や解決への道筋などについて学ぶ。

第7回 海外の洪水・渇水対策

世界的にも多発している水害、渇水の対策事例を具体的に紹介し、各国の事情にあった対応方策を学ぶ。

第8回 天然ダム対策

2008年6月の岩手・宮城内陸地震や2011年9月の紀伊山地の豪雨等で発生した天然ダム災害とその具体的な対策について論ずる。

第9回 土砂災害対策（復旧・復興）

雲仙普賢岳、有珠山等の火山噴火災害や広島県宮島等の観光地での激甚な災害などに対して、災害形態の特性を踏まえた具体的な復旧・復興対策のあり方を論ずる。

第10回 防災情報と初動対応

実際の防災対策を実施している現場で、具体的な対応体制とその効果について論ずる。（国土交通省の防災センター訪問を計画している。）

第11回 雪災害

雪崩災害等の雪害について、その実態と対応策について論ずる。

第12回 環境と防災

防災工事は環境に負荷を与える場合もある。この課題への対応の考え方を整理する。

第13回 土砂災害緊急調査

土砂災害は発生後にも危険な状態が継続するケースが多くある。そのため、2次的被害を防ぐための緊急的・効率的な調査が求められる。その基本的視点を論ずる。

第14回 試験

防災・危機管理に関する試験を行う。

第15回 試験・フィードバック

本講座のまとめとして、災害対策の基本事項について討議形式で整理する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、出席点を10分の3、レポート・試験に関する評価点を10分の7として計算する。欠席は3回までは認められるが、その場合でも欠席は出席点に影響するので、できる限り出席することが望ましい。なお、特別の事情が認められる場合は事前の届け出によって配慮し、病気などで出席が足りないときに、別途課題をこなすことにより単位を認めることがある。レポートは現地実習の後に1回提出、試験は期末に1回行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: 現代砂防学概論, 古今書院、2014

4-2: 砂防学, 朝倉書店、2019

4-2: Protection of Lives from Sediment Disasters, Sediment Disaster Prevention Publicity Center, 2016

5. 履修上の注意/Note:

受講者の予習成果を講義の材料とする場合がある。

メールアドレス n-osanai@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM3020J

科目名/ Course Name: 危機管理政策

担当教員/ Instructor: 室田 哲男/ MUROTA Tetsuo

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

河村和徳特別講師（東北大学）とともに講義形式を基本とするが、受講者の意見発表等の機会も設けながら授業を進める。災害の緊急対応をはじめ、幅広く危機管理の制度、施策、課題等について学習し、危機管理に関する政策の企画・立案・実施の能力を養う。また、東日本大震災から見えた日本の政治・行政の特徴を把握するとともに、被災地における復旧・復興過程における課題、被災地における住民意識などについても理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第 1 回： 危機管理概論
- 第 2 回： 災害・危機管理に関する法体系
- 第 3 回： 危機管理の組織・体制
- 第 4 回： リスクコミュニケーション
- 第 5 回： 巨大災害と危機管理
- 第 6 回： 豪雨災害と危機管理
- 第 7 回： 新型コロナウイルス感染症と危機管理
- 第 8 回： 原子力・石油コンビナート災害と危機管理
- 第 9 回： 震災対応に対する評価と民主制下における災害対応・復興の課題
- 第 10 回： 東日本大震災からみた日本の中央地方関係
- 第 11 回： 東日本大震災からみた市町村合併・広域行政
- 第 12 回： 復旧・復興に対する力の支援・知恵の支援
- 第 13 回： 被災地における「足」の確保と復旧への課題
- 第 14 回： 復旧・復興を遅らせるもの（住民参加）
- 第 15 回： 復旧・復興を遅らせるもの（訓練された無能力）

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、授業における意見表明・討議評価点を50%、試験またはレポート評価点を50%として算定する。試験またはレポートについては、授業の中で連絡する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義においては、テーマに応じ資料を配布し、それをもとに授業を行う。なお、参考文献があれば、授業の中で適宜提示する。

5. 履修上の注意/Note:

室田（第1回~第8回）は Mon 月／4、河村（第9回~第15回）は Fri 金／6 となっているので、注意すること。なお、変更があれば、その都度連絡する。

担当者

MUROTA Tetsuo / 室田 哲男

メールアドレス

tetsuo.murota@gmail.com

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: DRM3030J

科目名/ Course Name: 消防防災減災・被災地学習

担当教員/ Instructor: 武田 文男/TAKEDA Fumio

学期名/ Term: 春後～秋/Spring (Session II) through Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義においては、室田哲男本学客員教授とともに、訪問学習を含めた授業を行う。夏学期に実施予定の「被災地学習」は、災害の発生した現地を訪れ、直接、被害の状況や被災地における復興の取組み等を学ぶとともに、災害応急対策や復旧・復興対策等に携わる地域のキーパーソンの方々のお話を伺い、意見交換させていただく等により、被災地の現状、課題等について学習するものである。秋学期に実施する「消防防災減災」は、災害危機管理の中核である消防や防災、減災に携わる関係機関の取組み等の学習を通じて、国民の生命・身体・財産を守るリーダーとしての政策能力を培うことを目指し、講義形式のほか、防災関係機関への訪問学習やワークショップを実施する等の授業を行う。(本講義は、SDGs の目標 1、2、11、13 (貧困、飢餓、まちづくり、気候変動) に関連する。)

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

「被災地学習」については、8月下旬～9月上旬の2泊3日実施予定を目途に調整を行い、春学期後期の履修登録期間(6/2～14)までに具体的な日程、訪問先等を決定する。

「消防防災減災」については、秋学期/金/4において、

- 第 1 回： 消防防災減災概論
- 第 2 回： ワークショップ(1)
- 第 3 回： 内閣府 (防災) への訪問学習
- 第 4 回： 総務省消防庁への訪問学習
- 第 5 回： 気象庁への訪問学習
- 第 6 回： 防衛省への訪問学習
- 第 7 回： 消防現場 (麻布消防署) 訪問学習
- 第 8 回： ワークショップ(2)
- 第 9 回： 国民保護
- 第 10 回： 消防防災減災の課題

を予定しているが、訪問学習先との調整等により、変更することがあり得る。

3. 成績の評価方法/ Grading:

「被災地学習」に関する事前準備、現地における学習、事後の報告書作成の評価点を50%、「消防防災減災」に関する試験またはレポートの評価点を50%として算定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

「被災地学習」に必要な資料等は、教員の指導のもと、学生が協力して事前に作成する。「消防防災減災」においては、テーマに応じ資料を配布し、それをもとに授業を行う。なお、参考文献があれば、授業

の中で適宜提示する。

(4-2:講義に関連する英語文献)

- 「Overview of the 2021 White Paper on Fire Service」

The Fire and Disaster Management Agency

- 「Disaster Management in Japan」

Director General for Disaster Management Cabinet Office, Government of Japan

5. 履修上の注意/Note:

「消防防災減災・被災地学習」履修希望者は、春学期後期の履修登録期間（6/2～14）において履修登録する必要がある。すなわち、実際の被災地学習は夏学期に、消防防災減災は秋学期に行われるが、履修登録は、全体について、春学期後期の履修登録期間（6/2～14）において手続きをとること。なお、その際、被災地学習の具体的な日程、訪問先、留意事項等は、教育支援課プログラム運営担当（防災・危機管理コース担当）に確認すること。

担当者

TAKEDA Fumio／武田 文男

メールアドレス

武田 文男 ta

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1000EA

科目名/ Course Name: Microeconomics I

担当教員/ Instructor: XING Yuqing/XING Yuqing

学期名/ Term: 秋前期/ Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is an introduction of microeconomics. It covers basic economic assumptions and concepts used to define behaviors of consumers and firms in markets. The course consists of three parts: consumer theory, firm theory and the equilibrium in a competitive market. In the consumer theory, preference, utility, budget constraints, utility maximization and demand curves will be introduced. In the firm theory, production and cost functions, profit maximization, and supply curves will be discussed. It will also discuss basic concepts of general equilibrium, monopoly and intertemporal allocation of consumption.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline (Course Topics)

1. Economic Models (Chapter 1)
2. Preferences, Choices and Utility Maximization (Chapter 2)
3. Demand Curves and Elasticity (Chapter 3)
4. Production (Chapter 6)
- Midterm
5. Cost Functions (Chapter 7)
6. Profit maximization and supply (Chapter 8)
7. Perfect Competition (chapter 9)
8. General equilibrium and welfare (Chapter 10)
- Final Exam
9. Monopoly (chapter 11)
10. Capital and Time (Chapter 14)

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Course Requirement: Homework (20%), midterm (30%), and final exam (50%). No other alternatives will be given for grading. Overdue homework will not be accepted. Group discussions are encouraged for doing home work. But, each individual student should write his/her answers independently.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Walter Nicholson, Intermediate Microeconomics-and Its Application, 11th edition. This book will be used in Micro II. All students should purchase the required textbook

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1000EB

科目名/ Course Name: Microeconomics I

担当教員/ Instructor: WIE Dainn/WIE Dainn

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course will present the basic theory of analytical tools of microeconomics. The course begins with the neoclassical models of consumer and firm optimization and moves on to the market coordination of these individual decisions. While the course emphasizes basic theory, ample applications will be presented to demonstrate how the tools can be used in a variety of contexts.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

1. Week 1 Oct 10(1): Introduction to Microeconomics

Oct 10 (2): Review of Mathematics

2. Week 2 Oct 17 (1): Preferences and Utility

Oct 17 (2): Utility Maximization and Choice

3. Week 3 Oct 24 (1): Utility Maximization: Lagrangian Approach

Oct 24 (2): Comparative Statistics

4. Week 4 Oct 31 (1): Income and Substitution Effects

Oct 31 (2): Choice under Uncertainty (1)

5. Week 5 Nov 7 (1): Choice under Uncertainty (2)

Nov 7 (2): Production Function

6. Week 6 Nov 14 (1): Cost Function

Nov 14 (2): Profit Maximization and Supply

7. Week 7 Nov 21: Final Exam

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

There will be two home works (40%) and one Final exam (60%). The overall grade will be determined on a curve and will follow Grips assessment policy.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

4-1 Required :

Nicholson, Walter and Christopher M. Snyder, "AISE-Theory and Application of Intermediate Microeconomics", Any international edition

4-2 Recommended for reference

Varian, Hal R. Intermediate Microeconomics: Modern Approach. Any edition

5. Schedule Table

Date

Reading

Pset Posting

Pset Due

Oct 10th (1)

CH 1

Oct 10th (2)

Appendix to NC CH 1 (Optional)

Oct 17th (1)

CH 2

PS #1

Oct 17th (2)

CH 2

Oct 24th (1)

CH 3

Oct 24th (2)
CH 3

Oct 31st (1)

PS #2
PS #1

Oct 31st (2)
CH 4

Nov 7th (1)
CH 4

Nov 7th (2)
CH 6

Nov 14th (2)
CH 7, CH 8

Nov 14th (2)

CH 9

PS #2

Nov 21st

Final Exam

5. 履修上の注意/Note:

Email: wie-dainn@grips.ac.jp, dainnwie@gmail.com

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1000JA

科目名/ Course Name: ミクロ経済学 I

担当教員/ Instructor: 畠中 薫里/HATANAKA Kaori

学期名/ Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

現代日本経済の問題を分析し、その解決策を立案することにミクロ経済学の考え方は有効である。本講義では規制などの現実の諸問題を題材に取り入れながらミクロ経済学の入門的な内容を中心に講義する。時間が限られているため本講義では、需要と供給、市場のメカニズム（長期と短期）、社会的余剰の概念、完全競争などについて学習する予定である。特に余剰最大化という経済学の基本的考え方、および、何らかの外的ショックにより市場がどのように反応するのかについて習得してもらいたい。

また、本講義は「ミクロ経済学 II（田中先生）」、「政府と市場」やその他のミクロ経済学関連科目を履修するための入門として位置づけられる。特に本講義と「ミクロ経済学 II（田中先生）」は一貫した体系のもとでミクロ経済学の基本事項を習得できるように配慮されているため、両講義を連続で受講することが望ましい。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

※ 学生の理解度等を考慮して下記内容を変更することがある。

[授業の日程]

コマ
内容(ハンドアウト)
教科書の章

4/7
序章 市場と政府の役割分担
序章

4/7
1 市場
1 章

4/7 14

2 供給

2 章

4/14

3 余剰と参入規制

3 章

4/21

4 市場介入

4 章

4/28

中間試験(45 分)

4/28

5 弾力性と税金

5 章

5/12

6 長期と最長期均衡

17 章

5/19

7 生産と消費の基礎理論

18 章

5/26

8 厚生経済学の基本定理

19 章

6/2 午前
期末試験

5/5 は休講です。6/2 の3時限目は休講です。
日程変更の可能性があります。

[試験範囲]

中間試験：教科書の序章から4章まで、ハンドアウトの序章から4章までの予定。
期末試験：序章以外の授業で扱った全ての章

3. 成績の評価方法/ Grading:

中間テストを40%、期末テストを60%として評価する。

なお、理解を深めるためと受講生の理解度のチェックのために、毎週、宿題が課される。採点はしない
が、どの程度できているかチェックを行う。

成績評価においては一切、考慮されない。宿題においては、受講者同士の相談可。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

[教科書]

八田達夫『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
八田達夫『ミクロ経済学Ⅱ』東洋経済新報社

[参考文献]

1. 八田達夫『ミクロ経済学 Express way』東洋経済新報社
2. 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』第三版 日本評論社
4. ジョセフ・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学 第4版』東洋経済新報社
5. グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学ミクロ編』東洋経済新報社
5. Paul Krugman and Robin Wells (2018), Microeconomics 5th edition, Worth

1. は指定教科書の簡易版、2は中級者向け 3. 4、5は初学者向けです。

5. 履修上の注意/Note:

一度、授業内容がわからなくなると、ついていけなくなります。復習が何より大事です。毎週の講義を
zoom で録画しますので、理解不足であった箇所は復習するようにしてください。毎週出される課題は、
効率的に復習ができるように作問されていますので、提出するようにしてください。

授業中でも説明いたしますので数学的知識は必要ありません。また、本講義は時間の制約のためマイクロ経済学の基本しかカバーしておりません。政策の経済学的考え方を習得するには、マイクロ経済学Ⅱの履修が必要となります。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1020E

科目名/ Course Name: Essential Microeconomics

担当教員/ Instructor: 黒澤 昌子/ KUROSAWA Masako

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

How do markets work? How do markets set prices, determine what will be produced, how they will be produced, and decide who will get the goods? What should governments do in a market economy? This is an introductory microeconomics course, for those with no previous economics background in particular, which tries to obtain answers to these questions. We will study a concise, consistent methodology for understanding and predicting the economic behavior of people and firms in a variety of markets. The tools developed in this course will prepare you for upper-level courses, as well as for intelligent discussion of issues under public debate.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Classes

(1) Introduction (first principles, economic models)

(chap.1~2)

(2) Supply and Demand

(chap.3)

(3) Supply and Demand

(chap.3)

(4) Consumer and Producer Surplus

(chap.4)

(5) Consumer and Producer Surplus

(chap.4)

(6) The Market Strikes Back
(chap.5)

(7) Elasticity
(chap.6)

(8) Elasticity
(chap.6)

(9) Taxes
(chap.7)

(10) Taxes
(chap.7)

(11) International Trade
(chap. 8)

(12) International Trade
(chap. 8)

(13) Making Decisions
(chap. 9)

(14) The Rational Consumer
(chap.10)

(15) The Rational Consumer
(chap.10)

(16) Behind the Supply Curve: Inputs and Costs
(chap.12)

(17) Behind the Supply Curve: Inputs and Costs
(chap.12)

(18) Perfect Competition and the Supply Curve
(chap.13)

(19) Perfect Competition and the Supply Curve
(chap. 13)

(20) Mid term exam

(21) Monopoly
(chap.14)

(22) Oligopoly
(chap.15)

(23) Monopolistic Competition and Product Differentiation
(chap.16)

(24) Monopolistic Competition and Product Differentiation
(chap.16)

(25) Externatilities
(chap.17)

(26) Externalities

(chap.17)

(27) Public Goods and Common Resources

(chap.18)

(28) Public Goods and Common Resources

(chap. 18)

(29) Private Information

(chap. 21)

(30) Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Examination (final & midterm 70%) & homework (30%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required:

N/A

4-2 Others :

The book below is not necessarily required, but the lectures will very closely follow this book (chapters indicated in the class schedule above refer to this book). Paul Krugman and Robin Wells, Microeconomics (2nd Edition or any edition), Worth Publishers, 2009.

Other book worth referring to.

Walter Nicholson and Christopher Snyder. Intermediate Microeconomics: And Its Application (8th edition), South-Western Publisher, 2010.

5. 履修上の注意/Note:

This course is an introductory course for those with no economics background. Those with some introductory microeconomics background should take Microeconomics 1, followed by Microeconomics 2 instead.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1050J

科目名/ Course Name: マクロ経済学

担当教員/ Instructor: 横山 直/YOKOYAMA Tadashi

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義はマクロ経済学の基本コースである。

本講義の担当者は日本政府や国際機関において長年にわたり経済政策の企画・立案・総合調整や経済分析を担当してきた。本講義では、マクロ経済学を理解するための基本的な考え方や理論を学ぶとともに、受講者の関心も踏まえながら、現実の経済や政策についての解説を行う。講義を通じて、受講者がマクロ経済の動向を理解するための知識を習得するとともに、政策について考える力を養うことを目指す。

なお、講義では図表を多用し、基本的考え方をわかりやすく説明することに主眼を置く。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. イントロダクション
2. マクロ経済学のデータ
3. 国民所得
4. 貨幣システム
5. インフレーション
6. 経済成長
7. 中間試験
8. 中間試験フォローアップ
9. 景気変動
10. 総需要 (1)
11. 総需要 (2)
12. 総需要 (3)
13. 総供給
14. 国際経済
15. 期末試験
16. 期末試験フォローアップ、まとめ

(注) とりあえずテキストに沿った構成としているが、実際の進め方は受講者の関心も踏まえて検討。

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席、中間試験、期末試験を総合的に勘案。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(必携のテキスト)

N・グレゴリー・マンキュー(2017)『マンキュー マクロ経済学I入門篇(第4版)』東洋経済新報社

(その他参考文献等は随時紹介)

5. 履修上の注意/Note:

経済学の基礎的知識が無くても構いません。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1060EA

科目名/ Course Name: Macroeconomics I

担当教員/ Instructor: HSU Minchung/HSU Minchung

学期名/ Term: 秋前期/ Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a first course in the macroeconomics sequence. The course will cover broad topics relating to major macroeconomic variables, e.g. money supply, inflation, unemployment, economic growth. We will use simple macroeconomic models to illustrate the underlying mechanism behind the changes in these variables over time and their differences across countries.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction and Macroeconomic Data
2. National Income
3. Monetary System
4. Midterm evaluation + Monetary System
5. Inflation/Unemployment
6. Economic Growth
7. Review Session
8. Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Problem set (40%); Midterm (20%); Final (40%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Macroeconomics by Mankiw (10th Edition)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1060EB

科目名/ Course Name: Macroeconomics I

担当教員/ Instructor: PORAPAKKARM Ponpoje/PORAPAKKARM Ponpoje

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a first course in the macroeconomics sequence. The course will cover broad topics relating to major macroeconomic variables; eg. money supply, inflation, unemployment, economic growth. Given that these variables can be changed over time and different across countries, we will use simple macroeconomic models to illustrate the underlying mechanism behind the change and difference. The focus of this course is on the long-run equilibrium. Graphs, basic algebra, and multi-variate calculus will be frequently used to analyze the models.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction and Macroeconomic Data and National Income, Chapter 1, 2
2. Economy in the long run (Ch.3)
3. Monetary System (Ch.4) + Inflation (Chapter.5)
4. Unemployment (Chapter 7)
5. Economic Growth (Chapter 8 and 9)
6. Economic Growth (Chapter 8 and 9)
7. Theory of Investment (Chapter 17)
8. Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Problem set (20%)

Final exam (80%)

Each problem set must be handed in at the beginning of class (the due date will be in the problem set sheet). A missing problem set or a late submission will be assigned zero credit. Students are encouraged to have a group discussion but everyone has to hand in your own answers to get credit. The problem set with the lowest score will be dropped off when calculating the courses total score. The final exam must be taken on the assigned schedule. A makeup final exam is allowed only in an extreme case, eg. serious accident or hospitalization.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Mankiw, N. Gregory. Macroeconomics (10th ed.). New York: Worth, 2018. *10th ed. is the latest edition for 2019. Students are required to have the textbook. The previous edition is acceptable but students need to match chapters and problem sets with the 10th Edition. A copy of the 10th Edition is on reserved in our library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1080E

科目名/ Course Name: Essential Macroeconomics

担当教員/ Instructor: 横山 直/YOKOYAMA Tadashi

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is an introductory macroeconomics course.

The lecturer has a rich experience in economic policy planning, coordination and analysis in the Japanese government and at the OECD. The main purpose of this course is to learn basic theories of macroeconomics, but it will also touch upon actual economy and policies depending on students' area of interest. By taking the course, it is expected that students obtain ability to understand macroeconomic developments and policies. Charts and tables will be used extensively to make basic ideas easy to understand.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

1. Introduction
2. Macroeconomic Data
3. National Income
4. Monetary System
5. Inflation
6. Economic Growth
7. Mid-term Exam
8. Review of Midterm Exam
9. Economic Fluctuations
10. Aggregate demand (1) - Goods market and the IS Curve
11. Aggregate demand (2) - Money market and the LM Curve
12. Aggregate demand (3) - IS-LM Analysis
13. Aggregate Supply
14. Open Economy
15. Final Exam
16. Review of Final Exam

* The above course outline is subject to change depending on students' area of interest.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Grades will be based on the attendance, the mid-term and the final exams.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

4-1: Mankiw, N. Gregory. 2021. Macroeconomics. 11th edition. Worth Publishers.

4-2: Additional materials will be provided from time to time.

5. 履修上の注意/Note:

Students without a background in economics are also welcome.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1600E

科目名/ Course Name: Monetary Economics (Money and Banking)

担当教員/ Instructor: 藤本 淳一/ FUJIMOTO Junichi

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to provide an overview of money and banking. The course will discuss both theoretical and institutional issues related to banks and other financial institutions, financial markets, and monetary policy.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(Tentative)

Introduction, Chapters 1-3

Financial markets 1, Chapter 4

Financial markets 2, Chapter 5

Financial markets 3, Chapters 6-7

Financial institutions 1, Chapter 8

Financial institutions 2, Chapter 9

Financial institutions 3, Chapter 9 (continued)

Midterm exam

Central banking and the conduct of monetary policy 1, Chapter 15

Central banking and the conduct of monetary policy 2, Chapter 16

Central banking and the conduct of monetary policy 3, Chapter 17

Monetary theory 1, Chapters 22-23

Monetary theory 2, Chapter 24

Monetary theory 3, Chapter 25

Final Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Course grades will be determined by a midterm exam (50%) and a final exam (50%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1: 必携のテキスト/ Required 4-2: その他/ Others)

4-1: Frederic S. Mishkin. The Economics of Money, Banking, and Financial Markets. 13th (or 12th) Global Edition. Pearson Addison-Wesley.

Please buy the global edition - its content is a bit different from the US edition. Kindle edition is fine too.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO1800E

科目名/ Course Name: Economic Development of Southeast Asia

担当教員/ Instructor: 工藤 年博/ KUDO Toshihiro

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

First, this course provides an overview of economic and industrial development of Asia and Southeast Asia. Second, the course tries to analyze the development factors and mechanism of Asia and Southeast Asia in the globalization era. Third, the course provides an overview of regional integration and cooperation programs including ASEAN Economic Community (AEC) and the Greater Mekong Sub-region (GMS) Economic Cooperation. Fourth, the course discusses FTA networks and Japan's economic cooperation in the Indo-Pacific. Fifth, we will have some country-based studies including Indonesia as an example of a middle income country and Myanmar as a low income country. We also discuss the issue of "middle income trap" and advantages and disadvantages of "late-comers".

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Why do we study economic development of Southeast Asia?
2. Asia and ASEAN in Globalization
3. ASEAN Economic Community (AEC)
4. FTA Networks in Asia and ASEAN
5. Trade in Services
6. Japan's Regional Cooperation
7. Industrial Development and JICA's Cooperation in Southeast Asia
8. Financial Development in Southeast Asia
9. Country Study (1) Indonesia
10. Country Study (2) Myanmar

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading is based on class attendance (50%) and one term paper (50%). The students and participants are requested to write one term paper at the end of the course. The theme of term paper will be chosen through discussion between students/participants and lecturers.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/ Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2000EA

科目名/ Course Name: Microeconomics II

担当教員/ Instructor: XING Yuqing/XING Yuqing

学期名/ Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

In this course, we incorporate information, time and uncertainty into the decision processes of economic agents and analyze the equilibria of imperfect market. Particularly, we will discuss how economic agents make optimal decisions when they face uncertainty, asymmetric information, and choices of consumption over time. In addition, we will introduce basic concepts of game theory and its applications in economics.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline (Course Topics)

1. Uncertainty (Chapter 4)
2. Game Theory (Chapter 5)
3. Imperfect Competition (Chapter 12)
4. Midterm Exam
5. Pricing in Input Markets (Chapter 13)
6. The Economics of Information (Chapter 15)
7. Externalities and Public Goods (Chapter 10)

Final Exam

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Course Requirement: Homework (20%), midterm (30%), and final exam (50%). Over due homework will not be accepted. Group discussions are encouraged for doing home work. But, each individual student should write his/her answers independently. All of the homework should be handwritten. Computer prints will not be accepted

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

Walter Nicholson and Christopher Snyder Theory and Application of Intermediate Microeconomics (11th edition)

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2000EB

科目名/ Course Name: Microeconomics II

担当教員/ Instructor: WIE Dainn/WIE Dainn

学期名/ Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This second session course addresses the broad methodological topics of game theory, information economics, and general equilibrium model. We start with general equilibrium model and move on to game theory and information economics. This course is designed for the dual purposes of giving students a systematic grounding in microeconomics and preparing them to use economic models in their own research.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Dec 5 Perfect Competition
- 2 : Dec 5 Monopoly
- 3 : Dec 12 Imperfect Competition
- 4 : Dec 12 Monopsony and Minimum Wage
- 5 : Dec 19 General Equilibrium
- 6 : Dec 19 Game Theory 1: ISD
- 7 : Dec 26: (ZOOM): Nash Equilibrium
- 8 : Dec 26: (ZOOM): Subgame Perfect Nash Equilibrium
- 9 : Jan 2 or Jan 9: (ZOOM) Game Theory 4: Repeated Game
- 1 0 : Jan 2 or Jan 9: (ZOOM) Externalities and Public Good
- 1 1 : Jan 9 or Jan 16 : Review
- 1 2 : Jan 16 or Jan 23: Final Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

There will be two assignments (40%), and one Final exam (60%). The overall grade will be determined on a curve and will follow Grips assessment policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 Required

Nicholson, Walter and Christopher M. Snyder, Theory and Application of Intermediate Microeconomics, 11th edition, South-Western College Publication, 2009

Gibbons, Robert, Game Theory for Applied Economists, Princeton University Press, 1992

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2000JA

科目名/ Course Name: ミクロ経済学Ⅱ

担当教員/ Instructor: 田中 誠/TANAKA Makoto

学期名/ Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、前期のミクロ経済学Ⅰで扱う知識を前提として、「市場の失敗」に係る諸問題を中心により進んだトピックスを考察する。具体的には、外部性、権利の売買、道路の混雑と投資、独占、寡占、情報の非対称性等を学習する。本講義は、「経済学的思考」を身につけ、経済学的分析の方法を体得することに主眼を置く。数式の使用はできるだけ避け、図解を中心とする予定である。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

※ 進度等を考慮して下記内容を変更することがある。

○ 外部経済と不経済	7 章
○ 減産補助金と環境権	8 章
○ 権利の売買	11 章
○ 混雑	16 章
○ 道路投資	—
○ 労働	13 章
○ 規模の経済：独占	6 章
○ ゲーム理論の基礎	—
○ 寡占	—
○ 情報の非対称性	9 章
○ 社会的厚生	20 章
★ 期末試験	

3. 成績の評価方法/ Grading:

中間レポートを30%、期末テストを70%として評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

[教科書]

八田達夫『ミクロ経済学Ⅰ』 東洋経済新報社

八田達夫『ミクロ経済学Ⅱ』 東洋経済新報社

[参考文献]

○ 伊藤元重『ミクロ経済学』(日本評論社)

○ グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 ミクロ編』(東洋経済新報社)

- 安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』（有斐閣）
- 神取道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社）
- 奥野正寛『ミクロ経済学』（東京大学出版会）
- Gregory Mankiw "Principles of Microeconomics" South-Western Pub

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2020EA

科目名/ Course Name: Government and Market

担当教員/ Instructor: 岡本 亮介/ OKAMOTO Ryosuke

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to acquire an in-depth understanding of the economic roles of government in a modern market-based society. We seek to understand what governments should do (or should not do), what should be left to the market and to private individuals, and what would be the consequences of government policies. This course will help you to apply the principles and knowledge of microeconomics to current policy issues.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline (this is a tentative plan and subject to change)

1. Review of microeconomics: consumption
2. Review of microeconomics: production
3. Review of microeconomics: efficiency and social surplus
4. Increasing returns
5. Market power
6. Public goods
8. Local public goods
9. Externalities: basic framework
10. Externalities: examples
11. Taxation
12. Introduction to the cost benefit analysis
13. Public investment

14. Second best policy

15. Examination

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Examination

4. 参考文献等/ **Textbooks:** (4-1:必携のテキスト/**Required** 4-2:その他/**Others**)

5. 履修上の注意/**Note:**

This is an introductory public economics course. Students are supposed to have the knowledge of microeconomics courses (Microeconomics I and II or Essential Microeconomics).

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2020EB

科目名/ Course Name: Government and Market

担当教員/ Instructor: 畠中 薫里/HATANAKA Kaori

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to obtain skills to think of various kinds of policies in democratic countries, using economic logic or theory. First we will review microeconomics and market failure briefly and treat the various kinds of policies to maximize the social welfare and to relieve inequality, such as environmental policy, public enterprise, the optimal taxation and so on.

*You should have the knowledge of Introductory Microeconomics.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Class

Contents

Chap. of the text

1~2

Market efficiency and general equilibrium

(Review of Microeconomics)

(S)3

3

Market failure

(S) 4

4~5

Efficiency and equity

(S)5

6

Public goods and publicly provided private goods

(S)6

7~8

Externalities and the environment policy

(S)9

9~10

Public Production of goods and services

(Increasing Returns to scale)

(S)8

11~14

Expenditure Programs for the poor

(H)13

15

Final Examination

*The textbook (S) is by Stiglitz and (H) is by Harvey

*This outline is tentative and depends on the students' understanding and preferences.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Homework: 30~40% (3~4 times) Final Examination(open book) 60~70%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Economics of the Public Sector(2015) 4th edition, Stiglitz, J.E. and Jay K.Rosengard Norton
(The 3rd edition can be used, if you have it.)

Public Finance (2014) 10th global edition, Harvey S. Rosen and Ted Gayer McGraw Hill

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2020J

科目名/ Course Name: 政府と市場

担当教員/ Instructor: 細江 宣裕/HOSOE Nobuhiro

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

1.1 目的-あなたの知っている経済学で何が説明できるか・できないか

本講義の目的は2つである。

1つ目は、ミクロ経済学 I(ECO1000J)・同 II(ECO1010J)によって修得した経済学の手法 を用いて、われわれが日々目にする大小の社会・経済的問題を経済学的視点から分析し、その解決策を提示する訓練を行う、一種の経済政策の科目としてある。

ミクロ経済学 I・II では、まず分析手法が解説され、つぎにそれを用いた分析例や応用例 が提示されてきた。ここでは、それぞれの社会・経済現象に対して、どのような手法を適用して考察すべきか、あるいは、そのほかの分析方法はないのかといった視点で検討する訓練を行い、経済学的考え方に関する理解と応用力を高め、一方で、その限界に関する 理解を深める。前者はいわば数学の計算問題にあたり、ここで行われるものは文章題にあ たりと考えると考えればよい。

2つ目は、自分の考えを、よりよく相手に伝える方法(プレゼンテーション等)を学ぶことにある。書籍や論文を読んで自分が理解することと、その内容を他人に理解させることは、まったく異なる事柄である。

ここでは、上で書いたように、経済学の本の中の短い 1 章、あるいは、執筆途中の自らの論文を題材にし、その内容を聴衆に伝える方法、聴衆がそれを聴いて(広い意味で知的に)楽しむことができるようにすることができる方法を学ぶ。

1.2 講義形式と履修要件

報告担当者・グループが下記の文献、または、自らが執筆中の論文(ポリシー・ペーパー 等)を参考にし、その内容を全員に理解できるように解説するゼミ形式で行う。

解説の内容としては、概要、重要または各自が興味を持った箇所の解説、ほかの出席者が一読しただけではわからないであろう箇所の説明、(ほかの出席者に訊いてみたい、助けを求めたい)報告者自身の疑問・質問、日本の社会・経済、あるいは、各自の興味ある分野に照らしたときの示唆といった事柄を含むことになるであろう。担当箇所のすべてをカバーする必要はないし、実際、メリハリ無く平板にすべてをなぞるだけでは出席者は満足しないであろう。報告者以外も、よい質問を通じた講義への貢献のために該当箇所を一読しておくべきことは言うまでもない。

なお、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ないし、同様の科目で講じられる経済学の知識があることが望ましいが、それらの単位取得がなされていなくても受講することは可能である。

この講義は、SDGsの目標8(経済成長),9(産業と技術),11(都市と住宅)等に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義で解説されるモデルの内容と毎週のスケジュールは以下の通りである。

2.1 講義解説: 『20歳の時に知っておきたかったこと』

講義の解説を行い次回以降の報告担当者を決める。報告担当箇所は、可能な限り各自が(先着順等で)志願した箇所になるようにする予定。最後に質疑と、頭の準備体操をする。

2.2 初級編: 『経済学で現代社会を読む』

社会・経済問題に関してどのように経済学的な切り口を与えることができるかを、最も標準的な形で学ぶ。本書後半に各章の解説編がついているので(ただし、最新の改訂新版にはこれがないので本講義には不適)これを参考に議論をすることができる。

2.3 中級編: 『ヤバい経済学: 悪ガキ教授が世の裏側を探検する』

ここで示される経済学的分析手法としては、ミラーほか(1995)中の経済モデルのようにうまく「型にはめた」ものは少ないが、経済学的な考え方(直感)をどのように適用すべきか、それによってどのように「通念」に挑戦するかを学ぶことができるであろう。くわえて、(数学的要素の少ない)簡便な方法で問題に答える方法についても示唆を与える。

2.4 上級編: 『フリーからお金を生み出す新戦略』

一種の IT ビジネス書である一方、経済学的な考え方の有効性とそれに関する各自の理解度を試すよい機会を提供している。Web・デジタル化を通じた「無料」サービスが本当に無料なのか、なぜ可能になるのか、(これまでに学んだ)経済学でこれを説明できるか等、考える課題に事欠かない。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義における貢献で評価する。各自の報告内容を中心に、ほかの報告者による報告内容を補足したり不明点をあぶり出したりする質問等によって、出席者全員の理解と学問的満足度を高める貢献を高く評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必携のテキスト等

・本講義を履修することを検討している場合には、夏学期の間に以下の3つの教科書にあらかじめ目を通しておくといよいであろう。これらの教科書中の1章ないし数章-履修者数に依る-ずつを出席者が報告する。(最終的にこれらのすべての章をカバーしようという意図はない。)

ミラー, R. L. ほか(1995)『経済学で現代社会を読む』, 日本経済新聞社.(改訂新版 2010) ではない方)

レヴィット, S. D., ダブナー, S. J.(2007)『ヤバい経済学: 悪ガキ教授が世の裏側を探検する』, 増補改訂版, 東洋経済新報社.

アンダーソン, C. (2009) 『フリーからお金を生み出す新戦略』, 日本放送出版協会.

Miller, R. L. et al. (2013) The Economics of Public Issues, Pearson.

Levitt, S. D., Dubner, S. J. (2009) Freakonomics, Harper.

Anderson, C. (2009) Free: The Future of a Radical Price, Hyperion.

4 -2 その他

・本講義には直接役立つわけではないが、第1章だけでも GRIPS にいる間に読んでおく(頭の準備体操)

シーリグ, T. (2010) 『20歳の時に知っておきたかったこと』, 阪急コミュニケーションズ. Seelig, T. (2009) What I Wish I Knew When I Was 20, Harparone.

・ミクロ経済学 I(ECO100J)・同 II(ECO101J)の教科書 八田達夫(2008) 『ミクロ経済学 I』, 東洋経済新報社. 八田達夫(2009) 『ミクロ経済学 II』, 東洋経済新報社.

5. 履修上の注意/Note:

教科書の内容を理解することも意義があるが、それ以上に、自分が見聞き・知悉している内容をうまく伝える技術を体得するための訓練の場所でもある。受講者の希望、時間的余裕次第では、教科書の内容に限らず、追加的に、各自の執筆中の論文の内容に関連した事柄を報告する、中間報告、最終報告の練習をすること、また、オーディエンスとしても、ほかの学生によるプレゼンテーションからどのような方法が効果的かを学びつつ、報告者の口頭報告を改善するためによいコメントをする方法を学ぶことも有益である。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2060EA

科目名/ Course Name: Macroeconomics II

担当教員/ Instructor: 松本 英彦/MATSUMOTO Hidehiko

学期名/ Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is the second course in the macroeconomics sequence. The course will cover broad topics, mostly related to short-run behaviors of the economy.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Planned as follows, but subject to changes.

1. Short-run economic fluctuations, Chapter 10
2. Keynesian cross and IS curve, Chapter 11.
3. Real money market and LM curve, Chapter 11.
4. IS-LM Model, Chapters 12.
5. From IS-LM Model to AD-AS model, Chapter 12.
6. Short-run trade-off between inflation and unemployment, Chapter 14.
7. Open economy, Chapter 6.
8. Mundell-Fleming model, Chapter 13.
9. Policies in Open economy, Chapter 13.
10. Topics in stabilization policies, Chapter 16.
11. Financial system and crisis, Chapter 18.
12. Financial policies, Chapter 18.
13. Government debt, Chapter 17.
14. Recap and final exam preparation.
15. Final exam.

3. 成績の評価方法/ Grading:

1. 2 Problem sets (40%)
2. Final exam (60%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Mankiw, N. Gregory. Macroeconomics (10th ed.). New York: Worth, 2018.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2060EB

科目名/ Course Name: Macroeconomics II

担当教員/ Instructor: 藤本 淳一/ FUJIMOTO Junichi

学期名/ Term: 秋後期/ Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is the second course in the macroeconomics sequence. The course will cover broad topics, mostly related to short-run behaviors of the economy.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Economic Fluctuations: Classical and Keynesian, Chapter 10
2. IS-LM Model, Chapters 1012
3. IS-LM Model, Chapters 1012
4. IS-LM Model, Chapters 1012
5. IS-LM Model, Chapters 1012
6. IS-LM Model, Chapters 1012
7. Recitation— Solution of Problem Sets 1 and 2
8. Open Economy, Chapter 6
9. Open Economy, Chapter 13
10. Recitation— Solution of Problem Set 3
11. Short-run Tradeoff between Inflation and Unemployment, Chapter 14
12. Dynamic AD-AS Model, Chapter 15
13. Understanding Consumer Behavior, Chapter 16
14. Recitation— Solution of Problem Sets 4 + Q&A for final exam preparation
15. Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

- Problem set (20%)
- Final exam (80%)

Each problem set must be handed in at the beginning of class (the due date will be in the problem set sheet). A missing problem set or a late submission will be assigned zero credit. Students are encouraged to have a group discussion, but everyone has to hand in your own answers to get credit. The final exam must be taken on the assigned schedule.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

4-1: "Macroeconomics" Eleventh Edition, Gregory Mankiw, Macmillan International.

The textbook is the same as in Macroeconomics I. Students are required to have the textbook.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2100J

科目名/ Course Name: 財政政策

担当教員/ Instructor: 井堀 利宏/ IHORI Toshihiro

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

財政政策の理論と現実に関して、マクロ、ミクロ経済学の理論的な枠組みを用いて、解説する。

講義の水準は学部レベルよりはやや高いが、標準的な大学院レベルよりはやさしい。テクニカルな厳密性よりも、直感的な説明や現実的な政策含意を重視する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. 全体のイントロ(オリエンテーション)
2. マクロ財政理論：ケインズ・モデル
3. マクロ財政理論：新古典派モデル
4. 公債の負担
5. 経済成長と財政
6. 財政規律と財政健全化
7. 社会保障改革
8. 最適課税と消費税
9. 所得税と再分配政策
10. 官と民：公共財の理論
11. 政府間財政
12. コロナ危機と財政政策
13. 選挙制度改革
14. プレゼン
15. 試験

3. 成績の評価方法/ Grading:

① (試験 70%+レポート 20%) 成績判定は期末試験の比重(70%)を重くするが、簡単なレポートを提出してもらい、その内容も考慮する(20%)。

② (プレゼン 10%) 自分のレポートについてプレゼンをする。

レポート：各講義と関連する分野でプレゼンを行った内容について、まとめる

分量：A4で5枚程度

提出期限：プレゼン終了時に回収する

プレゼン：自分のレポート課題について10分程度でプレゼンをする。受講人数によっては時間調整あり

テーマ：各講義のトピックに関連した問題を自分で選択して、その問題に関して、「現状、課題と望まし

い改革のあり方」を議論する

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必携のテキスト

『財政』井堀利宏：岩波書店 2008年

4-2 その他

『消費増税はなぜ経済学的に正しいのか』井堀利宏 ダイヤモンド社 2016年

『教養としての政治経済学』井堀利宏 総合法令出版 2021年

Principles of Public Finance, Springer, 2016

5. 履修上の注意/Note:

ミクロ経済学、マクロ経済学の履修を前提とはしないが、その初歩的な知識は前提とする

文献：必要に応じて紹介する

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2200J

科目名/ Course Name: 現代社会における法と経済

担当教員/ Instructor: 福井 秀夫/FUKUI Hideo

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

法がその運用・判例を通じて経済社会に与える影響を分析する技術が法と経済学である。民事法、刑事法、行政法を問わず、法はその規律する対象となる人々に対して、作為又は不作為やその程度に対して影響を与える。その影響が社会的な富の総量に対してどのように作用するのかを、立法及び法解釈の前提として認識しておくことは有益である。また、同じだけの社会的な富の増大を前提とすれば、どのような属性の人々がその他の属性の人々よりも多く分配を受けているか、それはどの程度かという点も、公正の観点から認識しておくことがやはり有益である。

これまでの法学の中心はいわゆる法解釈学であって、議会で成立した法や条例を与件とし、私的な当事者間の利益衡量等を踏まえて、複雑な法体系の「読み方」としてもっとも論理整合的なものは何か、「リーガルマインド」(法的思考)と呼ばれる価値判断にもっとも適合的なものは何かを議論することが任務であるとされてきた。しかし、つじつま合わせと価値判断の衝突に法解釈が終始する限り、複数の論理整合的な解釈の優劣を論理的に決することは不可能である。立法のどのような仕組みがどのような基準に基づきより優れているかを判断する枠組みを提供することもできない。

法と経済学は、ある立法や法解釈が社会的な富を増大させるのか否か、誰の利得をどれだけ増やし、または損なうのか、などについて反証可能な基準に基づく示唆を与えることができる。法として記述される政策の設計に対して具体的な基準を提供できるのである。

本講義では、法と経済学の基礎的な考え方を解説するとともに、これを踏まえた法の具体的現場に関する各論について政策問題として論じることとする。授業では、予め与えられた課題に即した討論にできるだけ重点を置くこととする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第1回 法解釈学の限界 —— 反証可能性と科学・ドグマ
- 第2回 契約法における立法・司法の失敗 —— 借地借家法・解雇法のパラドックス
- 第3回 行政訴訟・民事訴訟・知財訴訟 —— 取引費用と裁判制度・行政訴訟制度改革
- 第4回 行政の裁量と司法の裁量 —— 裁量統制の基準と手続き
- 第5回 行政上の義務履行確保の実効性 —— 「違法」はなぜ放置されるか
- 第6回 規制改革の法と経済学 —— 規制の論拠としての市場の失敗
- 第7回 景観・日照紛争 —— 権利配分とコースの定理
- 第8回 競売制度の法と経済学 —— 担保法の実効性と公正
- 第9回 土地収用・用地買収の論理と心理 —— なぜ用地取得は困難か
- 第10回 公共政策の基準 —— 公共財・費用便益分析・分配
- 第11回 一極集中は悪か —— 「混雑」への対処とインフラストラクチャー (基盤施設)
- 第12回 行政組織と公務員任用制 —— 「公益」とレントシーキング

第13回 情報の非対称 —— 資格制度・性能表示制度の意味

第14回 司法は誰のものか —— 法律サービスと消費者の利害・裁判所の役割

第15回 資産税・所得税・消費税の設計基準 —— 効率・公正・一貫性

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・3回以上の欠席者には、単位認定をしない。
- ・レポート等の課題の提出期限に遅延した者又は試験を受験しなかった者は、単位認定をしない。
- ・診断書の提出された本人の疾病・傷害又は三親等内の親族の通夜・葬儀の場合は考慮する場合がある。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(テキスト)

ミラー, ロジャー・レロイ=, ベンジャミン, ダニエル・K=ノース, ダグラス・C (2010)

『経済学で現代社会を読む 改訂新版』(赤羽隆夫訳) 日本経済新聞社

福井秀夫 (2004) 『官の詭弁学』 日本経済新聞社

ランズバーク, スティーヴン (2004) 『ランチタイムの経済学』(吉田利子訳) 日経ビジネス人文

庫

ランズバーク, スティーヴン (1998) 『フェアプレイの経済学』(斎藤秀正訳) ダイヤモンド社

ランズバーク, スティーヴン (2018) 『貞節はある種の公害だ! 常識を反転させる実証経済学の

論理 新装版』(清宮真理訳) バジリコ

福井秀夫 (2007) 『ケースからはじめよう法と経済学』 日本評論社

福井秀夫 (2022) 『『行政訴訟による憲法的価値の確保—法治国原理・法と経済学に基づく行政法理論』 日本評論社

(参考文献)

阿部泰隆 (2015) 『住民訴訟の理論と実務、改革の提案』 信山社

阿部泰隆 (2016) 『行政の組織的腐敗と行政訴訟最貧国: 放置国家を克服する司法改革を』 現代人文社

阿部泰隆 (2016) 『行政法再入門上』(第2版) 信山社

阿部泰隆 (2016) 『行政法再入門下』(第2版) 信山社

阿部泰隆 (2018) 『地方自治法制の工夫: 一歩前進を!』 信山社

阿部泰隆 (2019) 『国家補償法の研究I その実践的理論』 信山社

阿部泰隆 (2019) 『国家補償法の研究II 行政の危険防止責任』 信山社

阿部泰隆 (2021) 『処分性・原告適格・訴えの利益の消滅』 信山社

- 福井秀夫 (2010) 『教育の失敗 法と経済学で考える教育改革』 日本評論社
- マンキュー, N. グレゴリー (2019) 『マンキュー経済学Iミクロ編 (第4版)』 (足立英之ほか訳) 東洋経済新報社
- ウィーラン, チャールズ (2003) 『裸の経済学』 日本経済新聞社
- ベッカー, ゲーリーほか (1989) 『ベッカー教授の経済学ではこう考える』 東洋経済新聞社
- 常木淳 (2002) 『公共経済学第2版』 新生社
- クーター, ロバート D. = ユーレン, トーマス S. (1997) 『新版法と経済学』 (太田勝造訳) 商事法務研究会
- 鈴木禄弥・福井秀夫・山本和彦・久米良昭編著 (2001) 『競売の法と経済学』 信山社
- 阿部泰隆・野村好弘・福井秀夫編著 (1998) 『定期借家権』 信山社
- 福井秀夫・川本明編著 (2001) 『司法を救え』 東洋経済新報社
- 八田達夫・八代尚宏編著 (1995) 『東京問題の経済学』 東京大学出版会
- 岩田規久男・八田達夫編著 (1997) 『住宅の経済学』 日本経済新聞社
- 八代尚宏編著 (2000) 『社会的規制の経済分析』 日本経済新聞社
- 福井秀夫 (2001) 『都市再生の法と経済学』 信山社
- 福井秀夫・村田斉志・越智敏裕 (2004) 『新行政事件訴訟法』 新日本法規出版
- 福井秀夫 (2006) 『司法政策の法と経済学』 日本評論社
- 福井秀夫・大竹文雄編著 (2006) 『脱格差社会と雇用法制』 日本評論社
- 福井秀夫 (2001) 『都市再生の法と経済学』 信山社
- 福井秀夫 (2004) 『官の詭弁学』 日本経済新聞社
- 福井秀夫 (2006) 『脱各格差社会と雇用法制』 日本評論社
- 福井秀夫 (2006) 『教育バウチャー』 明治図書出版
- 福井秀夫・村松秀樹・望月一範・吉田修平・福田龍介・遠藤信明 (2007) 『中間省略登記の代替手段と不動産取引』 住宅新報社
- 日本行政書士会連合会中央研修所監修 (2016) 『行政書士のための行政法 [第2版]』 日本評論社
- 浅見泰司・安藤至大・親泊哲・笠谷雅也・福井秀夫・村辻義信・吉田修平 (2017) 『2016年改正新しいマンション標準管理規約』 有斐閣
- 細江守記共著 (2020) 『法と経済学の基礎と展開 民事法を中心に』 勁草書房
- 内藤廣編 (2020) 『クロノデザイン 空間から時間価値へ』 彰国社
- Yasushi Asami Yoshiro Higano Hideo Fukui Editors (2021) 『Frontiers of Real Estate Science in Japan』 Springer
- 鈴木禄弥・福井秀夫・山本和彦・久米良昭編『競売の法と経済学』 信山社
- 宍戸善一・常木淳 (2004) 『法と経済学』 有斐閣
- 八代尚宏 (2003) 「規制改革」 有斐閣
- フリードマン, デイビット (1999) 『日常生活を経済学する』 (上原一男訳) 日本経済新聞社
- ポズナー, A. リチャード = ベッカー, S. ゲーリー (2006) 『ベッカー教授、ポズナー判事のブログで学ぶ経済学』 (鞍谷雅敏+遠藤幸彦訳) 東洋経済新報社
- レヴィット, D. スティーヴン = ダブナー, J. スティーヴン (2008) 『ヤバイ経済学 [増補改訂版]』 (望月衛訳) 東洋経済新報社

レヴィット, D. スティーヴン=ダブナー, J. スティーヴン (2010)『超ヤバイ経済学』(望月衛
訳) 東洋経済新報

5. 履修上の注意/Note:

開講学期・夏学期・8月10日(木)1限、2限・12日(土)1限、2限、3限・14日(月)1限、2限、3
限・9月15日(金)1限、2限・19日(火)1限、2限・20日(水)1限、2限、3限

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2600J

科目名/ Course Name: 経済政策の理論と展開

担当教員/ Instructor: 松谷 明彦/MATSUTANI Akihiko

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

講義の主眼は、応用経済学の学習と、日本の経済構造及び意思決定構造の分析を通じて、経済政策を企画立案する能力を涵養するところにある。

講義においては、急激な人口減少高齢化、欧米先進国との技術格差の拡大及び新興国・途上国の台頭という環境変化に直面する日本経済および地域経済への政策的対応に重点が置かれる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

講義では様々な政策課題を取り上げることになるが、その場合、不可欠の視座であるべきは以下の五点である。

(1) 付加価値の分配と支出

経済政策の主要な目的の一つは最適な資源配分の達成にある。しかし、如何なる資源配分状態をもって最適とするかは、国により社会により異なり、最適性についての一義的な、あるいは万国共通の基準は存在しない。従って経済政策の分析に当たってまずなすべきことは、何を以って最適とするかという価値観と視座の明確化である。

産出された付加価値は企業に於いて各生産要素に分配され、次いで各経済主体によって支出される。従って資源配分の態様は基本的に国民自身の経済行動の結果であるが、経済政策はその分配と支出の過程に関与し、資源配分の態様に一定の影響を与え得る。

付加価値の分配と支出のメカニズムの考察において不可欠であるべきは、生産活動に見合った国民生活水準を達成するために我々は何をなすべきかという視座である。

(2) 開放経済の均衡国民所得

経済は自律的均衡メカニズムを持ち、そのメカニズムによって各国民の経済行動を組み上げつつ、自らの大きさ即ち国民所得を決定する。この場合、多くのパラドックスの存在によって、各国民は自己の経済行動が国民所得にもたらす正確な結果を予め知ることは出来ない。

国民所得は、財・サービス市場、労働市場、金融市場そして対外市場を通じた一般均衡によって、利子率とともに決定される。従って経済政策は、上記のメカニズムに対する認識の下で、それら四市場に均等に対峙しなければならない。

国民所得の決定メカニズムの考察において不可欠であるべきは、自国民の生産活動の成果を自国民自身が最大限享受し得るために我々は何をなすべきかという視座である。

(3) 経済成長

資源は常に有限であり、経済はあくまでその制約の下での効用をもたらすに過ぎず、国民の欲求は必ずしも十分に満たされる訳ではない。従って利用可能な資源の増大である経済成長は、経済社会に於ける多くの問題を解決してきた。

しかし人口減少社会の到来によって、我が国経済の成長率は大幅に低下し、更には傾向的なマイナス成長に転ずることが確実に予見される。加えて人口減少という環境変化は経済の自律的メカニズムそのものを変質させることから、経済成長さらには景気循環における均衡経路は、これまでとは異なったものになる可能性が高い。今後の我が国経済の成長経路の考察において不可欠であるべきは、我々は果たして如何なる経済社会を目指すべであるのか、そしてそのために如何なる手法を用いることがより多くの国民を幸福にし得るのかという視座である。

(4) 企業行動と産業政策

資源配分を規定する最大の要因は企業の行動様式である。そして企業の行動様式はその国の経済を取り巻く固有の環境に於いて、その国の歴史的、文化的基盤の上に成立する。企業は、ミクロ経済学における仮定を遥かに超えて、市場に於ける非対称性と政治的意思決定過程に於ける利益集団の形成を梃子に、経済社会に於けるその存在を拡大し続ける。そして、戦後のわが国特有の企業行動が、現在の経済構造を他国に例を見ない特徴的なものとした。従って、今後の産業政策の考察において不可欠であるべきは、資源制約下の人口減少社会に於いてより多くの国民を幸福にする企業行動とは如何なるものなのかという視座である。

(5) 市場の欠陥と政府の機能

市場が資源配分の最適性を確保し得ない場合、即ち市場の失敗については、公共財、リスク、規模の経済等のケースが知られるが、いずれの場合もそれは市場機能への信頼を揺るがすほどのものではなかった。しかし我々は、市場の価格決定システムそれ自体が本来的に持つ失敗、いわば市場の欠陥とも呼ぶべきものが、資源の有限性や地球環境悪化の急速な進行、社会の不安定性の拡大のなかで、無視出来ぬ大きさをもって顕在化しつつあることを見過している。しかもそれらは、市場機能を前提とした従来の介入手法では十分に治癒されない性質のものであり、ここに市民革命以来、自由社会の旗手であり続けた市場は、いまその存在価値そのものを問われているのである。資源配分の最適性と市場に対する政府の役割の考察において不可欠であるべきは、我々はそうした無視出来ぬ大きさの欠陥を持つ市場に直面しているという視座である。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義においては、講師による日本経済が直面する環境変化及び関連する経済政策理論に関する講義に引き続き、4～5人の小グループ毎に事例研究を発表し、講師を交えた総合ディスカッションを行う。その上で、そうした研究や議論を発展させたレポートを期末に提出するものとし、成績の判定は、当該事例研究、期末レポートによって行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

J. Galbraith & W. Darity Jr. *Macroeconomics* 1994, Houghton Mifflin Co., Boston

(「現代マクロ経済学」塚原康博他訳 TBS ブリタニカ)

N.Gregory Mankiw Macroeconomics 1992, Worth Publishers Inc. New York

(「マクロ経済学 I、II」足立英之他訳 東洋経済新報社)

Joseph E. Stiglitz Microeconomics 1993, W.W.Norton & Company Inc.

(「ミクロ経済学」藪下史郎他訳 東洋経済新報社)

Charles I. Jones Introduction to Economic Growth 1998, W.W.Norton & Company Inc.

(「経済成長理論入門」香西泰訳 日本経済新聞社)

松谷明彦 「人口減少経済」の新しい公式」2004、日本経済新聞社

松谷明彦 「2020年の日本人」2007、日本経済新聞出版社

松谷明彦 「人口流動の地方再生学」2009、日本経済新聞出版社

松谷明彦 「人口減少時代の大都市経済」2010、東洋経済新報社

松谷明彦 「東京劣化」2015、PHP研究所

小宮隆太郎 「現代日本経済」1988、東京大学出版会

浜田宏一他編 「日本経済のマクロ分析」1987、東京大学出版会

日本経済政策学会編 「日本の社会経済システム」1995、有斐閣

岡崎哲二他編 「現代日本経済システムの源流」1993、日本経済新聞社

小宮隆太郎他編 「日本の産業政策」1984、東京大学出版会

小宮隆太郎 「日本の産業・貿易の経済分析」1999、東洋経済新報社

Andrew B. Schmockler The Illusion of Choice 1993, State University of N.Y. Press

(「選択という幻想」河田富司訳 青土社)

5. 履修上の注意/Note:

事例研究のグループ分けは、講師による講義の終了時点で教室で行う。

事例研究への参加は必須とするので、留意されたい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2610E

科目名/ Course Name: Finance and Economic Growth

担当教員/ Instructor: 松本 英彦/MATSUMOTO Hidehiko

学期名/ Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course covers various topics on the relationship between finance and economic growth. The course materials are based on theoretical and empirical academic papers. Basic theories and empirical methods to understand the papers are provided in class.

This course is related to Goal 8 (decent work and economic growth) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Each class is planned as follows, but subject to changes.

1. Does financial development promote economic growth?
2. Non-linear effect of financial development on growth.
3. Economic volatility and growth.
4. Financial innovation and growth.
5. Financial liberalization and growth.
6. Foreign direct investment and growth.
7. Exchange rate and growth.
8. Structural change.
9. Public debt and growth.
10. Firm innovation and growth.
11. Firm dynamics, entry and exit, and growth.
12. Declining growth and business dynamism.
- 13-14. Student presentations and discussions.
15. Final exam.

3. 成績の評価方法/ Grading:

1. (30%) In-class presentation. Each student is supposed to read one academic paper from the list that I will provide in the first class, and present the summary and your own comments in class.
2. (70%) Final exam.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: There is no required textbook for this course.

4-2: Some of the course materials are taken from the following survey paper: Alexander Popov (2017): Evidence on finance and economic growth, ECB Working Paper 2115.

More references will be provided in the first class.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2700JA

科目名/ Course Name: 計量経済学

担当教員/ Instructor: 黒澤 昌子/ KUROSAWA Masako

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

経済現象を表す唯一の情報であるデータという混沌を解釈し、経済現象の姿を帰納的に推論するための統計的手法を学ぶ。最終的には、経済学実証研究分野の学術論文に挑戦できる能力を養うことが狙いである。科学実験とランダム化実験の話から始め、確率的概念を踏まえた回帰分析論を扱う。すなわちモデル・ビルディング、パラメータ推定および各種仮説の検定、さらに理論モデルとリアル・フィールドとの間の乖離問題への対処法の基礎論に及ぶ。コンピューター上の統計ソフト (STATA) を用いたデータの基礎統計処理や回帰分析の手法についても講義で説明し、宿題で実践する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(カッコ内は参考書のうち、田中(2015)の該当章番号)

第 1 回 : 計量経済学はなぜ必要か (科学実験とランダム化実験)、相関と単回帰 (田中 : 1~2 章)

第 2 回 : 標本と母集団 (田中 : 2-3 章)

第 3~4 回 : t 統計量と仮説の検定 (田中 : 3,4 章)

第 5~6 回 : 単回帰モデル (最小二乗推定法、パラメータの解釈) (田中 : 5 章)

第 7~8 回 : 重回帰モデル (欠落変数バイアス、検定) (田中 : 6 章)

第 9 回 : 重回帰分析の応用 (田中 : 第 7 章)

第 10~11 回 : 操作変数法 (田中 : 第 8 章)

第 12~13 回 : パネルデータ分析、DID 推定 (田中 : 第 9 章)

第 14 回 : 回帰不連続デザイン、尤度推定法 (プロビット・ロジットモデル) (田中 : 第 11 章)

3. 成績の評価方法/ Grading:

宿題の提出(30%)、ミニテストおよび最終試験 (70%) によって評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義は毎回講義ノートを配布しながら行うが、以下の参考文献を用いて予習・復習を行うことが望ましい。

参考文献 :

- ・ 田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩 : 実証分析のススメ」 有斐閣ストゥディア
- ・ Wooldridge, J (2000) Introductory Econometrics: A modern approach, South-Western College Publishing.
- ・ Stock J. and Watson M (2003) Introduction to Econometrics, Addison Wesley.
- ・ Joshua D. Angrist & Jorn-Steffen Pischke (2015) Mastering Metrics: the path from cause to effect, Princeton University Press.

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2710J

科目名/ Course Name: 費用便益分析

担当教員/ Instructor: 城所 幸弘/ KIDOKORO Yukihiro

学期名/ Term: 春後期/ Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義は、費用便益分析の基礎理論を習得し、現実の政策分析に応用することを目標とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下は、各回の講義の予定であるが、変更がありうる。

- 1 政策分析のためのミクロ経済学
- 2 費用便益分析の概念的基礎 (テキスト 2 章)
- 3 費用便益分析のミクロ経済学による基礎 (テキスト 3 章)
- 4 便益と費用の計算方法-基礎編- (テキスト 5 章、6 章)
- 5 便益と費用の計算方法-応用編- (テキスト 7 章)
- 6 具体的便益評価事例の検討-神戸空港の事例- (参考資料)
- 7 中間発表 (または中間試験)
- 8 割引 (テキスト 9 章)
- 9 不確実性への対処 (テキスト 11 章)
- 10 オプション価格と存在価値 (テキスト 12 章、13 章)
- 11 間接市場法 (テキスト 15 章)
- 12 仮想市場法 (テキスト 16 章)
- 13 費用効果分析と費用効用分析 (テキスト 18 章)
- 14 費用便益分析の現状と課題 (テキスト 20 章等)
- 15 最終発表 (または期末試験)

社会的割引率 (テキスト 10 章)、社会実験 (テキスト 12 章) に関しては時間に余裕があれば触れる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

中間発表: 30%

最終発表: 30%

レポート: 40%

なお、対面式の講義が可能で、受講者数が多い場合は、発表・レポートに変えて、試験を行う場合がある。

その場合は、

中間試験: 50%

期末試験: 50%

または、

中間試験: 40%

最終発表: 20%

レポート: 40%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

A. E. Boardman, D. H. Greenberg, A. R. Vining, D. L. Weimer (2018), Cost-Benefit Analysis-Concepts and Practice-5th Edition, Cambridge University Press.

4-2

残念ながら日本語で書かれた良い教科書はない。教科書が英語であることに十分留意の上、受講するかしないかを選択してほしい。

5. 履修上の注意/Note:

本講義は、ミクロ経済学の現実の政策分析への応用としての側面をもつため、ミクロ経済学の知識は必須である。したがって、下記の1、2の条件を満たすことを本講義の履修要件とする。

1 「ECO1000JA ミクロ経済学 I」か「ECO1000JB ミクロ経済学 I」の2科目のいずれかを履修済み、または履修中であること。

2 「ECO2000JA ミクロ経済学 II」か「ECO2000JB ミクロ経済学 II」の2科目のいずれかを履修済み、または履修中であること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2720EA

科目名/ Course Name: Introduction to Applied Econometrics

担当教員/ Instructor: WIE Dainn/WIE Dainn

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Econometrics is the useful methodology of economics and other social studies. This course aims to introduce students to multiple regression and related methods to analyze data and connect data from the real world to economic models. We start by learning linear regression model which is widely used tool for economists. Additionally, we will study methods for panel data analysis, instrumental variables regression, and program evaluation.

This course focuses on developing practical methodology and applying them to real data using STATA. The mathematics of econometrics will be introduced only as needed and will not be a central focus.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week

- 1 : Review of Probability Theory and Overview
- 2 : Review of Statistics and Hypothesis Testing
- 3 : Linear Regression + STATA Session
- 4 : Violation of Classical Assumptions
- 5 : Multiple Regression
- 6 : Nonlinear Regression
- 7 : Regression Assessment
- 8 : Panel Data 1
- 9 : Panel Data 2
- 10 : Instrumental Variable 1
- 11 : Instrumental Variable 2
- 12 : Difference-in-differences 1
- 13 : Difference-in-differences 2
- 14 : Review Session
- 15 : Final Examination (in class)

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

There will be four assignments (10% each) and two exams (30% each). The overall grade will be determined on a curve and will follow Grips assessment policy.

Assignments

Problem sets and data will be posted on the course web page. You will be required to use STATA. Please submit your assignment in class on designated due date. Students are welcome to work in groups on their problem sets, but each

student must write up his or her answers separately. The maximum group size is 3. Please list the names of those with whom you worked on your assignments. Please append your STATA "log" files and "do" files to your assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)
(Required)

Stock J. H., and Watson, M.W., Introduction to Econometrics, Addison-Wesley, any Edition.

I will also post written lecture notes (PPT) on the course web site after the lecture.

5. Useful Online Resources for STATA:

STATA Website: <http://www.stata.com/>

UCLA Institute for Digital Research & Education

<https://stats.idre.ucla.edu/stata/>

6. Future Readings

You may find it useful to read other textbooks after you take this course. These textbooks will not be used in the course, but provide ample treatments of topics we cover in class:

Wooldridge, J.M., Introductory Econometrics, Southwestern College Publishing.

Angrist, J., and Pischke, J.S., Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion, Princeton University Press.

7. Future Courses (Strongly recommended)

1) Selected Topics in Policy Studies (Introduction to Policy Evaluation) (Winter): for someone who wants to further develop their micro-econometrics knowledge

2) Applied Time Series Analysis for Macroeconomics (Winter): for someone who wants to further develop their macro-econometrics knowledge.

8. Schedule Table

Week

Date
Topic
Problem Set

Posting
Date
TA Session

1
Oct 11
Introduction
PS #1

2
Oct 18
Statistics+Hypothesis+STATA

PS#1 support +STATA

3
Oct 25
OLS

4

Nov 1

Multiple Regression+Joint hypothesis testing

PS #2

PS #1

5

Nov 8

Violation of Classical Assumptions

6

Nov 15

Non-linear

PS#2 support

7

Nov 22

Review

PS#2

Past exam review+QA

Nov 29

Midterm

8

Dec 6

Internal Validity Threats

PS #3

9

Dec 13

Panel Data (1)

10

Dec 20

Panel Data (2)

PS#3 support

11

Dec 27

Instrument Variable (1)

PS#3

12

Jan 3

Instrument Variable (2)

PS\$4

PS#4 support

13

Jan 10

Difference-in-Differences (1)

PS#4

14

Jan 17

Difference-in-Differences (2) or Review

Past exam review+QA

15

Jan 24

Final Exam

5. 履修上の注意/Note:

Future Courses (Strongly recommended)

1) Selected Topics in Policy Studies (Introduction to Policy Evaluation) (Winter): for someone who wants to further develop their micro-econometrics knowledge

2) Applied Time Series Analysis for Macroeconomics (

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2720EB

科目名/ Course Name: Introduction to Applied Econometrics

担当教員/ Instructor: 泉 佑太郎/IZUMI Yutaro

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Econometrics is a tool commonly used in economics and other social sciences to analyze real-world data. This course introduces basic econometric techniques to equip students with the knowledge and practical skills necessary to read and understand empirical research papers and to plan and execute their own empirical research.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Review of probability theory and statistics

Introduction to Stata

Randomized experiments

Regression

Panel data methods

Difference-in-differences

Instrumental variables

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Four problem sets (30%)

Midterm exam (30%)

Final exam (40%)

The overall grade will be determined on a curve and will follow GRIPS assessment policy.

The problem sets include theoretical questions and data analysis questions using Stata.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

4.1

Stock, J.H. and M.W. Watson, Introduction to Econometrics, Pearson Education

4.2

Angrist, J.D. and J.S. Pischke, Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect, Princeton University Press

Wooldridge, J.M., Introductory Econometrics, Southwestern College Publishing.

5. 履修上の注意/ **Note:**

8. Schedule Table

Week
Date
Topic
Problem Set

Posting
Due date
TA Session

1
Oct 11
Introduction
PS #1

2
Oc

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2760E

科目名/ Course Name: Applied Time Series Analysis for Macroeconomics

担当教員/ Instructor: 宮本 弘暁/MIYAMOTO Hiroaki

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a basic course in time series analysis. The objective of the course is to give students a better understanding of the concepts and the tools in time series analysis. The course develops a comprehensive set of tools and techniques for analyzing various forms of time series and for understanding the current literature in applied time series econometrics. It also teaches how to use EViews to estimate time series models.

The course will include, in addition to lectures, a class to solve exercises and several computer sessions.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Characteristic of Time Series Data

Basic Regression Analysis with Time Series Data
Stationarity, Unit-root tests, Spurious Regressions

2. VAR (Vector Autoregression) model (I)

Granger Causality
Variance decomposition
Impulse Response Function

3. VAR model computer exercises

4. VAR model (II)

5. VAR model (II) computer exercises

6. VECM (Vector Error Correction Model)

7. Structural VAR (I)

8. Structural VAR (II)
9. Structural VAR computer exercises
10. Application (I)
11. Local projection method
12. Local projection method computer exercises
13. Application (II)
14. Application (III)
15. Summary

3. 成績の評価方法/ Grading:

Assessment is based on a 90 minutes examination if the situation permits it. Otherwise the assessment will be done based on homework. An independently written econometrics project is also required for passing the course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no mandatory textbook. You may find that the followings are helpful.

A Guide to Modern Econometrics. Verbeek, M., John Wiley & Sons
Applied Econometric Time Series, Walter Enders, Wiley.
Econometric Analysis (5th edition), William H. Greene, Prentice Hall
Time Series Analysis, James D. Hamilton, Princeton

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2770E

科目名/ Course Name: Applied Econometrics

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan/LITSCHIG Stephan

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to introduce students to the main approaches used for the evaluation of public policies: randomized control trials, natural experiments, the regression discontinuity design, selection on observables, and difference-in-differences. The course presents strengths and weaknesses of each approach in terms of internal and external validity. The course should be taken together with Applied Econometrics Practice (ECO2780E), which uses data from real-world evaluations of specific interventions for practice.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Review of probability and statistics

Causal effects, internal and external validity

Randomized control trials, simple regression

Clustered standard errors

Randomized control trials, multiple regression

Effect heterogeneity, subgroup analysis

Spill-overs, externalities, general-equilibrium effects

Natural experiments

Regression discontinuity design

Regression discontinuity design cont.

Selection on observables

Multiple regression, propensity score matching, weighting and screening, synthetic control

Difference-in-differences and fixed-effects regression

Event study analysis

Weak instruments

Review

3. 成績の評価方法/ Grading:

There will be 6 problem sets, worth 60% of the course grade, and a final exam, worth 40%. The grade will be the same as for the Applied Econometrics Practice course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The two recommended textbooks are Stock and Watson, Introduction to Econometrics, any edition, and Angrist and Pischke Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect.

5. 履修上の注意/Note:

Introduction to Applied Econometrics (ECO2720EA or ECO2720EB) is the pre-requisite for this course and Applied Econometrics Practice (ECO2780E) is a co-requisite.

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2780E

科目名/ Course Name: Applied Econometrics Practice

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan/LITSCHIG Stephan

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

The objective of this course is to familiarize students with practical aspects of the main approaches used for the evaluation of public policies: randomized control trials, natural experiments, the regression discontinuity design, selection on observables, and difference-in-differences. About half the sessions will be devoted to solving problem sets using Stata. The course should be taken together with Applied Econometrics (ECO2770E), which provides the theoretical basis for the practical course.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Krueger, A. B., 1999, Experimental Estimates of Education Production Functions, *Quarterly Journal of Economics*, 114(2): 497-562.

Edward Miguel and Michael Kremer (2004), Worms: Identifying Impacts on Education and Health in the Presence of Treatment Externalities, *Econometrica*, 72(1): 159-217.

John Snow (1855), *On the Mode of Communication of Cholera*, Churchill, London. Reprinted by Hafner, New York (1965).

Angrist J. D. and W. N. Evans, 1998, Children and Their Parents Labor Supply: Evidence from Exogenous Variation in Family size, *American Economic Review*, 88: 450-477.

Angrist, J. D. and V. Lavy, 1999, Using Maimonides Rule to Estimate the Effect of Class Size on Scholastic Achievement, *Quarterly Journal of Economics*, 114(2): 533-775.

Jens Ludwig and Douglas L. Miller (2007), Does Head Start Improve Children's Life Chances? Evidence from a Regression Discontinuity Design, *The Quarterly Journal of Economics*, 122(1): 159-208.

Dehejia, R. and S. Wahba (2002), Propensity Score Matching Methods for Non-experimental Causal Studies, *Review of Economics and Statistics*, 84(1): 151-161.

Esther Duflo (2001), Schooling and Labor Market Consequences of School Construction in Indonesia: Evidence from an Unusual Policy Experiment, *American Economic Review*, 91(4): 795-913.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

There will be 6 problem sets, worth 60% of the course grade, and a final exam, worth 40%. The grade will be the same as for the Applied Econometrics course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None.

5. 履修上の注意/Note:

Introduction to Applied Econometrics (ECO2720EA or ECO2720EB) is the pre-requisite for this course and Applied Econometrics (ECO2770E) is a co-requisite.

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2880E

科目名/ Course Name: Trade and Industrial Development

担当教員/ Instructor: 園部 哲史/ SONOBE Tetsushi

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course offers an introduction to the process of economic development. There are surprisingly many commonalities and similarities in the process of economic development, especially industrial development, between countries with different economic and political systems as well as cultural differences. To understand the reason why and explore policy implications, we begin by studying standard theories of international trade, market failures, transaction costs, contracts and incentives, spatial economics, and business management. The second half of the course will be devoted to the review of case studies of industrial development in different industries in different countries. Because of the great technological progress, globalization, and the fourth industrial revolution, we are observing significant changes in the process of economic development and the relative importance of agriculture, manufacturing, and service sectors in the process today. Because of the upcoming green transformation, we will observe more fundamental changes in the future. The materials provided by this course will give you insights into these changes and hence necessary responses. Toward the end of the course, you are encouraged to develop a strategy for economic development in your country, about which you will make a presentation during the last session or describe as an answer to a part of the final exam. The method of instruction is characterized by class discussion and group work, especially in the second half of the course, which is fun according to many GRIPS graduates who took this course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Basic concept of trade and development (the division of labor, gains from trade, etc.)

Comparative advantage, scale economies, and patterns of international trade

International finance, foreign direct investment, and global value chains

Trade negotiation and national interests

Market competition and market failures

Agglomeration economies and hierarchical structure of cities

Simple theory of cluster-based industrial development

Cases of merchant-led industrial development

Cases of engineer-led industrial development

Global value chains and foreign direct investment

More cases from Asia and Africa

Management in the private and public sectors

Conventional arguments on protectionism and industry promotion

Wrap-up

Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Based on participation in class discussion and group work (50%) and performance in final exam (50%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Books (Enjoy reading as many as you like)

Krugman and Obstfeld, *International Economics: Theory and Policy* (many editions are available). More recent editions have been written by Krugman, Obstfeld, and Melitz. For our purpose, any edition after 3rd will do.

Sonobe and Otsuka (2006) *Cluster-Based Industrial Development: An East Asian Model*, Palgrave Macmillan. [This and the next books are available at the GRIPS library. The manuscripts for their introductory chapters are also available from the GRIPS Repository. Variants of most of the other chapters were published as journal articles. Some of them are included in the list below.]

Sonobe and Otsuka (2011) *Cluster-Based Industrial Development: A Comparative Study of Asia and Africa*, Palgrave Macmillan

Otsuka, Jin, and Sonobe, eds. (2018) *Applying Kaizen in Africa*, Palgrave Macmillan [This is an Open Access book, downloadable free of charge from the Palgrave Macmillans site <https://www.palgrave.com/gp/book/9783319913995>]

Takagi, Kanchochat, and Sonobe, eds. (2019) *Developmental State Building*, Springer [This is an Open Access book, freely downloadable from the Springers website <https://www.springer.com/gp/book/9789811329036>]

Asian Development Bank (2020) *Asias Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology Over 50 Years* [This is also freely downloadable from ADBs website <https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity>]

Papers (Many of my papers below will be used as materials for group work and class discussion)

Long and Zhang Cluster-based Industrialization in China: Financing and Performance *Journal of International Economics*, Vol. 84, Issue 1, May 2011, 112-123.

Long and Zhang Patterns of Chinas Industrialization: Concentration, Specialization, and Clustering *China Economic Review*, Vol. 23, Issue 3, September 2012, 593-612.

Sonobe, Kawakami, and Otsuka Changing Roles of Innovation and Imitation in Industrial Development: The Case of the Machine Tool Industry in Taiwan *Economic Development and Cultural Change*, October 2003, Vol. 52, No. 1, pp. 103- 128. DOI: 10.1086/380105

Sonobe, Hu, and Otsuka From Inferior to Superior Products: An Inquiry into the Wenzhou Model of Industrial Development in China *Journal of Comparative Economics* Vol. 32, Issue 3, September 2004, pp. 542-563, doi:10.1016/j.jce.2004.05.001

Yamamura, Sonobe, and Otsuka Time Paths in Innovation, Imitation, and Growth: The Case of the Motorcycle Industry in Postwar Japan *Journal of Evolutionary Economics* DOI:10.1007/s00191-004-0239-3

Sonobe, Akoten, and Otsuka Growth Process of Informal Enterprises in Sub-Saharan Africa: A Case Study of a Jua Kali Cluster in Nairobi *Small Business Economics*, 36 (3), April 2011, pp. 323-335. DOI: 10.1007/s11187-009-9222

Mottaleb and Sonobe An Inquiry into the Rapid Growth of the Garment Industry in Bangladesh *Economic Development and Cultural Change*, Vol. 60, No.1, October 2011, pp. 67-89. DOI: 10.1086/661218

Mano, Iddrisu, Yoshino, and Sonobe How Can Micro and Small Enterprises in Sub-Saharan Africa Become More productive? The Impacts of Experimental Basic Managerial Training *World Development*, Vol. 40, Issue 3, March 2012, pp. 458-468. Doi:10.1016/j.worlddev.2011.09.013

Bloom, Eifert, Mahajan, McKenzie, and Roberts Does Management Matter? Evidence from India *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 128, Issue 1, February 2013, pp. 1-51.

Higuchi, Mhede, and Sonobe Short- and Medium-run Impacts of Management Training: An Experiment in Tanzania *World Development*, Vol. 114, February 2019, pp. 220-36. <https://doi.org/10.1016/j.worlddev.2018.10.002>

McKenzie et al. Training entrepreneurs *VoxDevLit* <https://voxdev.org/lits/training-entrepreneurs>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO2900J

科目名/ Course Name: ゲーム理論

担当教員/ Instructor: 渡辺 隆裕/WATANABE Takahiro

学期名/ Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

ゲーム理論のうち、特に非協力ゲーム理論について講義する。大学院の経済学で必要となるゲーム理論の知識を身につけ習得すること、および社会・経済・政策・ビジネス上の諸問題を、ゲーム理論的視点でとらえ、戦略的な思考によって解決策を探る力を身に着けることが目標である。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

講義計画は以下のとおりである。

- 第1回 ガイダンス、ゲーム理論の歴史、ゲームの分類
- 第2回 戦略形ゲームの定義、戦略の支配と支配戦略
- 第3回 支配された戦略の繰り返し削除
- 第4回 ナッシュ均衡
- 第5回 代表的なゲーム
- 第6回 クールノー競争とベルトラン競争
- 第7回 混合戦略
- 第8回 展開形ゲーム(1): 完全情報展開形ゲームと一般の展開形ゲーム
- 第9回 展開形ゲーム(2): 戦略形ゲームへの変換、部分ゲーム完全均衡
- 第10回 展開形ゲーム(3): 複数の部分ゲーム完全均衡、フォワードインダクション
- 第11回 展開形ゲーム(4): 不確実性のある展開形ゲーム、混合戦略と行動戦略
- 第12回 不完備情報ゲーム(1): ベイズの定理
- 第13回 不完備情報ゲーム(2): 不完備情報ゲームの戦略形
- 第14回 不完備情報ゲーム(3): 不完備情報ゲームの展開形と完全ベイズ均衡
- 第15回 不完備情報ゲーム(4): シグナリングゲーム

3. 成績の評価方法/ Grading:

宿題によって評価をする。5回実施する予定。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 【教科書】 一歩づつ学ぶゲーム理論、渡辺隆裕 (著)、裳華房

4-2 参考書として、以下を用いて学習せよ。

- (1) S. Tadelis, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press, 2012.
- (2) 渡辺隆裕、ゼミナールゲーム理論入門、日本経済新聞社, 2008
- (3) 岡田章、ゲーム理論 新版、有斐閣、2012

可能であれば講義と並行して(1)によって学習を進めると良い。

(2)は初心者向けに数学をあまり用いずにゲーム理論を説明したテキストで、読んでおくと良い。

更に詳しくゲーム理論を学びたいものは(3)を読むと良い。

レベルは(2)が一番易しく、(1)と講義が同じくらい、(3)が難しい。

5. 履修上の注意/Note:

【web ページ】 講師の web ページ NABENAVI.net (<http://nabnavi.net/>) のゲーム理論のナビゲータ (<http://nabnavi.net/gametheory/>)に参考となる資料が多くある。

本講義 (GRIPS 2023) についての専用ページも開設予定である。

【動画】 講師が提供する youtube の講義動画がある。

NABENAVI.Channel YouTube

<https://www.youtube.com/ch>

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3000E

科目名/ Course Name: Mathematics for Economic Analysis

担当教員/ Instructor: MUNRO Alistair/MUNRO Alistair

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a course in mathematics for Economics students. It is aimed at those who need refreshing in their knowledge of calculus, matrices and optimization as well as students seeking to upgrade their skills. It is particularly useful for PhD students who are looking for specific training in common mathematical techniques. The main learning objective is for students to end up with the skills necessary to navigate their courses in Economics and related fields at GRIPS.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The topics, level and schedule may change, depending on your understanding and interests. Except where stated, all the reading is from the required textbook. Some of the material may be presented in a different order or may be omitted if we run out of time. Some topics will occupy more than 1 lecture and the order may vary from that shown below

Lecture.

Introduction. Partial differentiation

Unconstrained Optimization

Series, graphing functions and approximations

Constrained optimization; Kuhn Tucker

Matrices I

Definite Matrices and second order conditions

The language of topology

Matrices II. Eigenvalues and eigenvectors

Differential Equations

Optimal Control Theory

Dynamic Programming

Final Exam (Weight: 40%)

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Take home problems sets (3): 60% Final Exam: 40%.

The final exam is a standard 80 minute exam which will cover all material from the course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Simon & Blume: Mathematics for Economists, Norton. 2012

Chiang and Wainwright, Fundamental Methods of Mathematical Economics, McGraw-Hill.

There are many other good texts that cover mathematics for economics. These are suitable provided they cover Kuhn-Tucker and other aspects of constrained optimization. I strongly recommend that you buy at least one text.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3102E

科目名/Course Name: Public Finance I

担当教員/Instructor: BRAUN Richard Anton/BRAUN Richard Anton

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The aim of this course is to learn and apply theoretical and empirical economic tools that are used to determine the rationale and scope of government expenditures and how they are financed.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Approximate schedule (Subject to change)

The class meetings have two components.

I. The first component consists of lectures on the economic tools of modern public finance.

(Week 1) Introduction and background

What is public finance?

What are the theoretical tools of public finance?

What are the empirical tools of public finance?

(Weeks 2-3) Social insurance and redistribution

Role of public insurance for

Life expectancy risk

Health risk

Unemployment and informal sector.

Wealth inequality and redistribution.

(Weeks 4-5) Taxation

Taxation objectives and constraints

Taxation of households

Labor supply

Savings

Assets

Consumption

Taxation of firms and property

(Weeks 6-7) Fiscal policy as a tool of macroeconomic stabilization (opportunities and risks)

(Week 8) Externalities and public goods

II. The second component consists of case studies and group projects that are intended to illustrate how the economic tools of public finance are applied to real-life problems. This second component will be integrated into each of the substantive topic areas.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Quizzes (4 in total) (20%)

Final exam (40%)

Group project (25%)

Class participation (15%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: Required readings

Lecture slides will be distributed on the course website (<http://ww3.grips.ac.jp/~braun/courses>) for each class. The slides will be mainly based on textbooks and articles from the list below but the list is subject to change and students should visit the course website for specific readings for each lecture.

Main Textbook. You are very strongly encouraged to purchase: Gruber, Jonathan, Public Finance and Public Policy (International Edition) 7th Edition 2022.

4-2: Supplemental reading list for case studies and student presentations

Harvey Rosen and Ted Gayer, Public Finance 10th edition (McGraw Hill, 2013).

McCluskey, William Roy and Roy Bahl and Riel Franzsen. "Property Tax in Asia, Policy and Practice"

(September 2022).

Nick Barr and Peter Diamond "Reforming Pensions: Principles and Policy Choices." New York: Oxford University Press (2008).

Inter-American Development Bank "Better Pensions, Better Jobs: Towards Universal Coverage in Latin America and the Caribbean" Available at:

<https://publications.iadb.org/en/better-pensions-better-jobs-towards-universal-coverage-latin-america-and-caribbean-0>

"Towards Sustainable Tax Policies in the ASEAN region: The case of corporate tax incentive." Available at: <https://repository.theprakarsa.org/media/publications/314887-towards-sustainable-tax-policies-in-asea-0b554031.pdf>

Manulife Investment Management: "A zoom into Asia's pension reform journey: different perspectives of a multi-pillar approach." <https://www.manulifeim.com.sg/assets/insights/a-zoom-into-asias-pension-reform-journey.pdf>

Public Finance for Poverty Reduction: Concepts and Case Studies from Africa and Latin America. Available at: <https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/6881>.

Impacts of COVID-19 on Households' Business, Employment and School Education: Evidence from Household Survey in CAREC Countries. Available at:

<https://www.adb.org/publications/impacts-of-covid-19-on-households-business-employment-and-school-education-evidence-from-household-survey-in-carec-countries>

Long-Term Care for Older People in View Nam: The Current Scenario and Next Steps Toward a Healthy, Aging Population. Available at:

<https://www.adb.org/publications/long-term-care-older-people-viet-nam>

Argentina's Path to Debt Relief from Private Creditors by Manuel Leon Hoyos (December 1, 2020). Available at: <https://som.yale.edu/blog/argentina-s-path-to-debt-relief-from-private-creditors>

Informal Economy: Case Study of Street Vendors in Bangkok by Kangrij Roeksipiripat, International Journal of Business and Administrative Studies, 2(2), 29036. Available at:

<https://kkgpublications.com/wp-content/uploads/2019/04/ijbas.2.10002-2.pdf>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3104E

科目名/ Course Name: Political Economy

担当教員/ Instructor: 泉 佑太郎/IZUMI Yutaro

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The field of modern political economy applies the framework of standard economic analysis to understand the behavior of political agents, such as voters, politicians, parties, and governments. This course reviews the recent development in the literature on political economy, by introducing both theoretical and empirical studies on the frontier of the literature. The goal of the course is to develop students ability to identify interesting and important questions in related fields and to present these ideas effectively.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The topics and schedule are subject to change.

Voters
Politicians
Media and politics
Political protest
Democratization
Corruption
Civil conflict

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation (10%)
Presentations (40%)
Research proposal (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1.

No textbook is required. Instead, students are expected to read the required papers in the reading list carefully and participate in the discussion. The reading list will be distributed in the first class.

4.2

A. Merlo, *Political Economy and Policy Analysis*, Routledge

T. Persson, and G. Tabellini, *Political Economics: Explaining Economic Policy*, MIT Press

J.A. Robinson, and D. Acemoglu, *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*, Cambridge University Press

5. 履修上の注意/Note:

Introductory-level knowledge of microeconomics and econometrics is required.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:ECO3110E

科目名/Course Name: Fiscal Reform in Japan

担当教員/Instructor: 大田 弘子/OTA Hiroko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, we will discuss the current problems with Japan's public finance policy and the necessary reforms to address them. Japan's public finance faces several important issues. First, making a fiscal consolidation plan to lower the huge amount of government debt is urgent. We will review factors of financial deterioration, Japan's budgeting system, and efforts for fiscal consolidation. Second, amid rapid population aging, implementing social security reform is very important. Although an excellent social security system was established in Japan after World War II, it now requires reforms to overcome rapid population aging. We discuss problems and reforms of the medical care system and pension system. Third, taxation reform in response to globalization and population aging is vital.

In addition to the aforementioned issues, we will discuss other important issues such as local public finance, privatization, and public loan programs in Japan.

Learning about these Japanese experiences in the field of public finance may be of value to your country. Students will be encouraged to discuss and analyze issues and problems in their own countries.

Course Structure:

Mainly lectures. Student is expected to make a short presentation (10 minutes) about fiscal issues and reforms in his/her country once a course. Students' questions and comments are encouraged.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 : Introduction (Course outline and overview of Japan's economy today)

2 : Overview and brief history of Japan's public finance

3 : Population aging and its effects on public finance

4 : Social security system in Japan 1 - Overview of social security-

5 : Social security system in Japan 2 - Medical care system in Japan-

6 : Social security system in Japan 3 - Pension system in Japan -

7 : Taxation system 1 -Basic theory of taxation-

8 : Taxation system 2 -Japan's tax system and corporate tax-

9 : Taxation system 3 -Individual income tax and consumption tax-

1 0 : Decentralization and local public finance

1 1 : Government loan program in Japan (FILP)

1 2 : Privatization

1 3 : Political economy of budget

- Special lecture by Prof. Hideaki Tanaka of Meiji University -

1 4 : Policies for managing and preventing sovereign debt crisis

1 5 : Policy-making process in Japan

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation will be based on a term paper (50%), presentation in the class (30%), and class participation (20%). The theme of term papers should be related to fiscal reforms in Japan or in your country. Examples of term paper themes are as below.

- Analyzing issues related to public finance reform in Japan or in your country
- Comparing issues related to public finance in your country with that of Japan

The term paper is expected to be about 1000 words long. Please use 12 point type and double spacing.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Materials concerning each topic will be provided in class.

【Others】

Hiromitsu Ishi, The Japanese Tax System (Third Edition), Oxford University Press, 1989

Takero Doi and Toshihiro Ihori, The Public Sector in Japan, Edward Elgar Publishing, 2009

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3130E

科目名/ Course Name: Economics of Tax Policy

担当教員/ Instructor: 山崎 晃生/YAMAZAKI Akio

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objectives of this course are to provide an in-depth understanding of the principles of taxation and the tools to analyze tax systems empirically. The final goal of this course is to analyze and evaluate current policy issues on taxation by applying these principles and tools.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Tax incidence
2. Effects of income taxation on labor supply
3. Corporate taxation
4. Externalities: Regulation and taxation

3. 成績の評価方法/ Grading:

Final grade will be based on the referee reports, problem set, and term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Main Reading Materials

Lecture slides will be distributed on the course website (<https://sites.google.com/site/akioayamazaki/teaching>) and discussed in each class. The slides will be based mainly on the textbooks and articles listed in 4-2. The list is subject to change.

4-2: Supplemental Reading List

Textbooks:

Harvey Rosen and Ted Gayer. Public Finance. 10th edition. (McGraw Hill, 2013).

Jonathan Gruber. Public Finance and Public Policy. 4th edition. (Worth, 2012)

Articles (subject to change)

Note: all papers are downloadable using the library database at GRIPS.

Tax Incidence

Kotlikoff, and L. Summers, Tax Incidence, in Handbook of Public Economics, Volume 2, A. Auerbach and M. Feldstein eds., Elsevier Science, 1981. Sections 0, 1, 2 3.1, and 4 (Working paper version available online at NBER)

Atkinson and J. Stiglitz. Lectures on Public Economics, New York: McGraw Hill, 1980. Chapter 6

W. Evans, J. Ringel, and D. Stech. Tobacco Taxes and Public Policy to Discourage Smoking, in Tax Policy and the Economy, vol. 13, ed. J. Poterba, MIT Press: Cambridge, 1999

Hastings, Justine, and Ebonya Washington. 2010. The First of the Month Effect: Consumer Behavior and Store Responses. American Economic Journal: Economic Policy, 2(2): 142-62

Chetty, R., A. Looney, and K. Kroft (2009), Salience and Taxation: Theory and Evidence, American Economic Review 99:4, 1145-1177.

Rivers, N. and Schaufele. B. (2015) Salience of carbon taxes in the gasoline market, Journal of Environmental Economics and Management 74, 23-36.

McKenzie, K.J., and E. Fereder (2017), The Incidence of the Corporate Income Tax on Wages: Evidence from Canadian Provinces, Working Paper

Income Taxation and Labor Supply

J. Hausman Taxes and Labor Supply, in A. Auerbach and M. Feldstein, eds, Handbook of Public Finance, Vol I, North Holland 1985, sections 1-3 Saez, Emmanuel. 2010. Do Taxpayers Bunch at Kink Points? American Economic Journal: Economic Policy, 2(3): 180-212.

M. Feldstein, The Effect of Marginal Tax Rates on Taxable Income: A Panel Study of the 1986 Tax Reform Act, Journal of Political Economy, 103(3), June 1995, 551-572.

T. MaCurdy, H. Paarsch, and D. Green, Assessing Empirical Approaches for Analyzing Taxes and Labor Supply, Journal of Human Resources, Summer 1990

S. Blomquist, Restrictions in Labor Supply Estimation: Is the MaCurdy Critique Correct? Economics Letters 47 (1995), 229-235.

Corporate Income Taxation

Auerbach, Taxation and Corporate Financial Policy, in A. Auerbach and M. Feldstein, eds., Handbook of Public Economics, Volume 3 (Amsterdam: Elsevier, 2002), 1252-1292. Also available as NBER Working Paper No. 8203.

M. Devereux, L. Liu, and S. Loretz, The Elasticity of Corporate Taxable Income: New Evidence from UK

Tax Records, *American Economic Journal: Economic Policy*, 1 May 2014, Vol.6(2), pp.19-53

R. Chetty and E. Saez, Dividend Taxes and Corporate Behavior: Evidence from the 2003 Dividend Tax Cut, *Quarterly Journal of Economics*, 120(3), August 2005, 791-833

D. Yagan, Capital Tax Reform and the Real Economy: The Effects of the 2003 Dividend Tax Cut, *American Economic Review*, 105(12), 2015, 3531-3563

House and M. Shapiro, Temporary Investment Tax Incentives: Theory with Evidence from Bonus Depreciation, *American Economic Review* 98 (2008), 737-768

Dharmapala, C. Foley, and K. Forbes, Watch What I Do, Not What I Say: The Unintended Consequences of the Homeland Investment Act, *Journal of Finance*, (2011), 66(3), 753-787.

Environmental Taxation

Boadway, Robin and J-F Tremblay (2008), Pigouvian Taxation in a Ramsey World, *Asia-Pacific Journal of Accounting and Economics* 15, 183-204. (Working paper version available at Queens Economics Department)

Bovenberg, A. and L. Goulder (2002), Environmental Taxation and Regulation, Chapter 23 in *Handbook of Public Economics*, Volume 3, A. Auerbach and M. Feldstein eds., Elsevier Science sections 1-2. Sections 1 and 2.1-2.4

Bovenberg, A. and L. Goulder (1996), Optimal Environmental Taxation in the Presence of Other Taxes: General Equilibrium Analysis, *American Economic Review* 86(4), 985- 1000.

Boadway, R. and M. Keen (2009), Theoretical Perspectives on Resource Taxation, mimeo. (Working paper version available at Queens Economics Department)

Boadway, R.W., N. Bruce, K.J. McKenzie and J.M. Mintz (1987), Marginal Effective Tax Rates for Capital in the Canadian Mining Industry, *Canadian Journal of Economics* 20(1), 1-16.

Weitzman, M. (1974) Prices vs. Quantities, *Review of Economics Studies*, 41 (4), 477-491

Pizer, W. A. (1997) Prices vs. Quantities Revisited: The Case of Climate Change Resource for the Future Discussion Paper 98-02

Yamazaki, A. (2017), Jobs and Climate Policy: Evidence from British Columbia's Revenue-Neutral Carbon Tax, *Journal of Environmental Economics and Management*, 83, 197-216.

Azevedo, D., Wolff, H., and Yamazaki, A. (Forthcoming) Do Carbon Taxes Kill Jobs? Firm-level Evidence from British Columbia, *Climate Change Economics*.

Yamazaki, A. (2022), Environmental Taxes and Productivity: Lessons from Canadian Manufacturing, *Journal of Public Economics*, 205.

Ahmadi, Y., Yamazaki, A., and Kabore, P. (2022), How Do Carbon Taxes Affect Emissions? Plant-level Evidence from Manufacturing, *Environmental and Resource Economics*, 82, 285-325.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3160E

科目名/ Course Name: Reform of Economic Policy in Japan

担当教員/ Instructor: 大田 弘子/OTA Hiroko

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, we will discuss important topics in Japan's economic policy, which include current conditions and weaknesses in Japan's economy. Japan's economy has three major weaknesses: lagging in globalization, low productivity in the service sector, and inflexibility in the labor market. We will discuss the structural problems behind these weaknesses and issues to be addressed. Economic structural reforms to achieve an increase in productivity or labor market reform will be useful to many Asian countries in which population ageing will proceed rapidly. In addition, we will discuss the role of the government from the viewpoint of economic growth, such as tax reform for economic growth, and the relationship between fiscal consolidation and economic growth.

Course Structure:

Mainly lectures. Students are expected to make a short presentation (10 minutes) about fiscal issues and reforms in their countries once per course. Student questions and comments are encouraged.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1 : Introduction and brief history of Japan's economy
- 2 : Structural change of the world economy since the 1990s
- 3 : Demographic change and its economic significance
- 4 : Lagging in globalization (the first weakness of Japan's economy)
- 5 : Asian growth and the Japanese economy
- 6 : Low productivity in the service sector (the second weakness of Japan's economy)
- 7 : Deregulation in Japan
- 8 : Inflexible labor market (the third weakness of Japan's economy)
- 9 : Competitive power of Japanese companies
- 10 : Local economy and decentralization
- 11 : Tax reform for economic growth
- 12 : Macroeconomic policy for economic growth
- 13 : Redistribution policy and economic growth
- 14 : Japan's taxation
- Special lecture by Prof. Shigeki Morinobu of Tyuo University -
- 15 : Policy-making process in Japan

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grade evaluation will be based on the weight of term paper (50%), presentation in the class (30%), and class attendance (20%). The theme of term papers should be related to economic reforms in Japan or in your country.

Examples of term paper themes are as below.

- Analyzing issues related to economic reform in Japan or in your country
- Comparing issues related to economic policies in your country with that of Japan

The term paper is expected to be about 1000 words long. Please use 12 point type and double spacing.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Materials concerning each topic will be provided in class.

【Others】

Mitsuru Taniuchi, "The Japanese Economy", Cengage Learning, 2014

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3200E

科目名/ Course Name: Economics of Law

担当教員/ Instructor: 畠中 薫里/HATANAKA Kaori

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims at examining laws by using applied microeconomic theory and provides you with the main logic of economic theory to understand the roles of laws. The objective of this course is (1) to evaluate systems or laws in the sense of social welfare (2) to legislate in order to maximize the social welfare. So each provision of laws is not treated in this course. Since we will use simple models of applied microeconomics, comprehension of Microeconomics is necessary.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Class

Contents

Textbook

1,2

3,4

5

6

7.8

I Economics of Property Law

1. Coase Theorem

2. Topics of property Law(Title of stolen goods, First Possession vs. Tied Ownership

etc)

3. Taking

4. Landlord-Tenant Laws

5. Intellectual Property Right

Chap. 4 of C & U

Chap.5 of C&U

Chap. 6-7 of Miceli

Chap.3 of Hirsh

Chap 24 of V.V.H..

9~10

II Corruption

7 Economics of Corruption

Shleifer and Vishny.(1993)

Svensson(2005)

11 12

13

II Economics of Tort Law

8. Basic Accident Model

9. Topics of Tort Law(Punitive Damage)

Chap.2-3 of Miceli

Chap.6. 7 of C&U

14

IV Economic of Criminal Law

10 Economic theory of crime and punishment

Chap. 12-13 of C&U

15

Examination

*The outline is tentative.

We can treat contract law also.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Homework 30%

Final Examination 70% : Open Book.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Recommended Readings

(1)Cooter,R. and Ulen,T (2000)Law and Economics 6th ed. Addison-Wesley

(2)Miceli, Thomas J.(1997) Economics of the Law Oxford University Press

(3)Shavell, Steven. (2004) "Foundations of Economic Analysis of Law"

The Belknap Press of Harvard University Press

(4)Hirsch, Werner Z.(1999) "Law and Economics" 3rd ed. Academic Press

(5)Viscusi, Vernon and Harrington .JR. (2005)"Economics of Regulation and Antitrust"

4th ed. MIT Press

(6)Jean-Jacques Laffont(2005) "Regulation and Development" Cambridge U.P.

(7)Buscaglia,E and Ratliff, W(2000) "Law and Economics in Developing Countries" Hoover Press

(8)Susan Rose-Ackerman(1999)"Corruption and Government" Cambridge U.P.

(9)Dixit(2004) "Lawlessness and Economics" Princeton University Press

(10)Shleifer A. and Vishny, R.(1993) "Corruption" Quarterly Journal of Economics vol.108 pp.599-617)

(11)Svensson J.(2005) "Eight Questions about Corruption" Journal of Economic Perspectives vol.19 No.3 pp.19-42

(12) Lambsdorff, Johann (2007) The institutional economics of corruption and reform: theory, evidence, and policy
Cambridge University Press

I Economics of Property Law

1.Coase Theorem

We verify that whichever party has property right, the efficiency can be achieved by negotiation without transaction costs and asymmetric information.

The government need not intervene. We show that when transaction is costly, the allocation of property right make effects on the social welfare.

When transaction is costly, no negotiation occurs.

What is the best policy when transaction is costly.

2. Topics of property Law

2.1 damages and injunctions

We show the difference between damages and injunctions, using economic theory (the bargaining theory).

2.2 Title of stolen goods

Owner A -----> Thief B ----->Owner C

Does the good belong to Owner A or Owner C?

American rule: The good belongs to Owner A and Owner C can recover the amount he/she paid to B.

European rule: The good belongs to Owner C. The buyer should make reasonable efforts to verify ownership. Owner A can recover money from B.

Each countries have their own rational reason to adopt their own rules.

In U.S. the cost to protect asset from thieves is huge, while in Europe the cost to search for the true owner in the long history is large.

2.3 First Possession vs. Tied Ownership (Cooter & Ulen pp143))

Example: the ownership of gas beneath the private land

First Possession: The first one that can find and possess has ownership.

Example: Fish

Tied Ownership: tied ownership of fugitive property to the settled property.

Example: fruits

We verify that the first possession rule brings about the excess investment.

Example; Gold rush in U.S.A.

3. Land transfer

3.1 The Recording System and the Torrens System(Chap 6. of Miceli)

Current owner VS Claimant

Who should own the property right of lands, the owner according to the record(the claimant) or the current owner occupying the land now?

We will compare the recording system(the current owner is at risk of losing the property) and the Torrens system (The current possessor has title to the property) in the U.S.A.

The two kind of systems have been employed in the United States.

The recording system :The government maintains a record of the entire sequence of consensual transfers. However, if a flaw in the line of title is discovered (for example, theft) the current owner is at risk of losing the property to the last rightful owner. As protection against this possibility, property owners typically purchase title insurance.

(Exception: Adverse Possession[1] P154 of C & U)

The Torrens system : The current possessor has title to the property against all future claims. The difference from possession-based system is that the Torrens system gives a claimant compensation from a public fund. In Japan the recording system is adopted basically.

3.2 Taking

The government should compensate those whose lands have been taken.

How much should be the amount of compensation for obtaining the efficiency when it is financed by land tax or lump-sum tax ?

4. Intellectual Property Right

We consider how to design the patent system(patent duration, patent breadth) to maximize the social welfare, considering incentives of R&D, by using game theory.

We show the rationality of patent renewal fee and joint R&D.

5. Corruption

What is the cost of corruption ?

In order to reduce corruption what kind of organization is desirable ?

What kind of policies are recommended ?

6. Economics of Tort law

How to design tort law to maximize the social welfare, using the concept of Cournot Equilibrium.

Strict liability VS Negligence rule

How to choose damages injurer pay to victims

7. Economics of criminal law

The difference between tort law and criminal law

Considering all of the costs(including the cost to manage prisons), how to choose the probability of detection

The other topics I can treat (You can choose!)

Economics of Contract law

How to choose the efficient amount of penalty when contracts are broken.

Landlord-Tenant Laws

We treat various kinds of laws to protect tenants in the U.S.A. and show that these laws bring about inefficiency. (simple microeconomic theory, welfare analysis)

[1] Example: X purchased a house and land 10 years ago. He has lived there for 10 years, believing that the land and the house belong to him. However, Y suddenly makes a claim that this house and land is of his own. In that case Y's claim is not admitted.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3210E

科目名/ Course Name: Competition and Regulatory Economics

担当教員/ Instructor: 田中 誠/TANAKA Makoto

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course examines firms and industries from the perspectives of industrial organization and regulatory economics. First, we discuss oligopoly and monopoly, with an emphasis on oligopoly theory. Our primary focus will be the strategic behavior of firms. We next discuss the effect of government regulations, focusing on price regulation of public utilities. This course also serves as a foundation course to prepare students for further study in the broad area of industrial organization and regulatory economics.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1 : Perfect Competition and Monopoly
- 2 : Dominant Firm with Competitive Fringe
- 3 : Games and Strategy
- 4 : Oligopolistic Competition
- 5 : Measures of Market Concentration
- 6 : Multi-period Game and Leader-follower Model
- 7 : Midterm Exam
- 8 : Entry and Entry Deterrence
- 9 : Cartel and Tacit Collusion
- 10 : Price Discrimination
- 11 : Ramsey Pricing
- 12 : Rate-of-Return Regulation
- 13 : Incentive Regulation
- 14 : Effects of Deregulation
- 15 : Final Exam

The above course topics and schedule are subject to change.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Midterm Exam: 50%

Final Exam: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

None

4-2 Others (References)

Dennis W. Carlton and Jeffrey M. Perloff, *Modern Industrial Organization*, Addison-Wesley

Luis M. B. Cabral, *Introduction to Industrial Organization*, MIT Press

Don E. Waldman and Elizabeth J. Jensen, *Industrial Organization: Theory and Practice*, Addison-Wesley

Lynne Pepall, Daniel J. Richards and George Norman, *Industrial Organization: Contemporary Theory & Practice*, South-Western

W. Kip Viscusi, John M. Vernon and Joseph E. Harrington, *Economics of Regulation and Antitrust*, MIT Press

Kenneth E. Train, *Optimal Regulation: The Economic Theory of Natural Monopoly*, MIT Press

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3300J

科目名/ Course Name: 都市経済学

担当教員/ Instructor: 岡本 亮介/ OKAMOTO Ryosuke

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

都市経済学は、都市内部の空間構造と地域間（都市間）の関係の両方を経済学的に分析するものである。したがって、本講義は、現実経済を空間的視点で分析するための道具を身につけることを目的とする。本講義を受けた後で、自ら問題を設定して解決することができるようになることを期待する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第 1 回：都市の成立要因
- 第 2 回：古典的産業立地論
- 第 3 回：集積の経済
- 第 4 回：2 地域モデル
- 第 5 回：地方公共財における価格メカニズム
- 第 6 回：単一中心都市モデルI
- 第 7 回：単一中心都市モデルII
- 第 8 回：土地政策・交通政策の効果
- 第 9 回：都心・副都心の形成
- 第 10 回：都市の階層構造
- 第 11 回：交通の混雑費用の計測
- 第 12 回：公共投資の最適性の検証
- 第 13 回：集積の経済の計測
- 第 14 回：予備
- 第 15 回：期末試験

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末試験、レポート等によって評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/ Note:

ミクロ経済学の予備知識を持っていることを前提とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3310E

科目名/ Course Name: Transportation Economics

担当教員/ Instructor: 城所 幸弘/ KIDOKORO Yukihiro

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The purpose of this lecture is to understand the basic theory of transport economics and to apply the method to actual transport policies.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The main topics this course covers are:

- 1 Quick Review of Microeconomics,
- 2 Basic Concepts of Transportation Economics,
- 3 First-best Pricing,
- 4 Congestion Pricing,
- 5 Second-best Pricing,
- 6 Peak-lord Pricing,
- 7 Self-financing,
- 8 Investment,
- 9 Policy Evaluation 1 -Introduction to Cost Benefit Analysis-,
- 10 Policy Evaluation 2 -Cost-benefit analysis for transport projects-,
- 11 Transport and cities.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The grade will be determined by midterm presentation (30%), final presentation (30%), and a term paper (40%).

If many students take the course in face-to-face lectures, I might change presentation/term paper to closed-book midterm and final exams. In this case, the grade will be determined by midterm (50%) and final exams (50%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Unfortunately, there is no textbook that covers my lecture. So my lecture is basically based on Powerpoint slides prepared for this lecture. The following is recommended textbooks on transport economics, for your reference.

4-2

Principles of Transportation Economics (K. D. Boyer, 1997)

The Economics of Transport: A Theoretical and Applied Perspective (J. Cowie, 2009)

Transportation Economics (P. S. McCarthy, 2001)

Transport Economics, 3rd Edition (K. J. Button, 2010)

Transportation Economics (H. Mohring, 1976)

5. 履修上の注意/Note:

Microeconomics I and II or higher level microeconomics courses in GRIPS are required.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3330J

科目名/ Course Name: 都市政策の空間分析

担当教員/ Instructor: 金本 良嗣/ KANEMOTO Yoshitsugu

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、GIS（地理情報システム）と空間データを用いて、都市・地域の空間に関わる政策を分析評価する能力を養うことを目的とします。まず、GIS（地理情報システム）の基礎を習得します。次に、都市・地域の政策分析を行います。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

（変更の可能性がある）

- 第1回 GIS と都市の政策分析
- 第2回 GIS の基礎
- 第3回 GIS の基礎
- 第4回 GIS の基礎
- 第5回 GIS の基礎
- 第6回 GIS の基礎
- 第7回 GIS の基礎
- 第8回 GIS の基礎
- 第9回 GIS の基礎
- 第10回 GIS の応用
- 第11回 都市・地域の政策分析
- 第12回 GIS の応用
- 第13回 GIS の応用
- 第14回 GIS の応用
- 第15回 GIS の応用：都市・地域の政策分析課題 発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

平常点（20%）、課題レポート・発表（80%）によります。

課題提出遅延時は減点のペナルティがあります。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

4-1:必携のテキスト

河端瑞貴（編著）（2022）『事例で学ぶ経済・政策分析のための GIS 入門: QGIS, R, GeoDa 対応』古今書院.

4-2:その他

今木洋大・伊勢 紀（編著）（2022）『QGIS 入門 第3版』古今書院.

Comber, L, Brunson, C. (2020) Geographical Data Science and Spatial Data Analysis: An Introduction in R. (Spatial Analytics and GIS)

Islam, S. Miles, S., Pirelli, L. (2019) Mastering Geospatial Development with QGIS 3.x: An In-Depth Guide to Becoming Proficient in Spatial Data Analysis Using QGIS 3.4 and 3.6 with Python, 3rd Edition. Packt Publishing.

Madry, S. (2021) Introduction to QGIS: Open Source Geographic Information System. Locate Press

その他、講義において適宜指示します。

5. 履修上の注意/Note:

第2回以降の授業では、河端瑞貴(編著)(2022)『事例で学ぶ経済・政策分析のためのGIS入門 QGIS、R、GeoDa 対応』古今書院、およびQGIS、R (base と Rtools)、RStudio (いずれも無料) をインストールしたパソコンを持参してください。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3400E

科目名/ Course Name: International Trade

担当教員/ Instructor: HSU Minchung/HSU Minchung

学期名/ Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course will introduce basic concepts, tools and facts to understand the flow of goods across countries, i.e. international trade. We will investigate why nations trade, what they trade, and who gains from international trade. We will also analyze countries motives for regulating international trade and the effects of such policies on economic welfare.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

This outline is tentative, and will be adjusted depending on how quickly we proceed.

Week

- 4/06 : Introduction and the Ricardian model (Chapter 3 K&O);
- 4/13 : No meeting (makeup: TBA)
- 4/20 : The Ricardian model (Chapter 3 K&O)
- 4/27 : Resources and Trade: The Heckscher-Ohlin Model (Chapter 5 K&O)
- 5/04 : Holiday
- 5/11 : Quiz / Heckscher-Ohlin Model (Chapter 5 K&O)
- 5/18 : Standard Trade Model (Chapter 5-6 K&O); Trade Policy (Chapter 9-10 K&O)
- 5/25 : Trade Policy (Chapter 9-10 K&O)
- 6/01 : Final Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Problem sets (2): 20%; Quiz: 30%; Final: 50% (if your final is improved compared with the quiz, then I will put 60% on the final and 20% on the quiz).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 Required

Paul Krugman and Maurice Obstfeld (K&O), International Economics, Theory and Policy, Addison-Wesley.

4-2 Others

Other readings, if necessary, will be made available later on the class website.

5. 履修上の注意/Note:

TA: Shahida

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3450E

科目名/ Course Name: International Finance

担当教員/ Instructor: XING Yuqing/XING Yuqing

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course introduces basic concepts, tools and facts to understand international financial markets and open economies. It focuses on the theory of exchange rates, the balance of payments and major policies related with open economies. The IS-LM model is used to analyze the dynamics of output, monetary policy and exchange rates. Exchange rate regimes and macroeconomic impacts are also discussed.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1: Exchange Rates and the foreign exchange market (ch. 13)
- 2: Exchange Rates in the long-run: Monetary Approach (ch. 14)
- 3: Exchange Rates in the short-run: the asset approach (ch. 15)
- 4: Output, exchange rates and macroeconomic policies (ch. 18)
- 5: Exchange rate regimes: fixed vs floating (ch. 19)
- 6: Exchange rate crises: how pegs work and how they break (ch. 20)
- 7: The Euro (ch. 21)

3. 成績の評価方法/ Grading:

Homework accounts for 20%, the midterm 30% and the final 50%. Group study is encouraged, but each student should independently finish the final writing of the homework. Overdue homework is not acceptable in general.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 4th edition.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3470E

科目名/ Course Name: Empirics of Macroeconomic Policies and International Finance

担当教員/ Instructor: 松本 英彦/MATSUMOTO Hidehiko

学期名/ Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course covers various topics in macroeconomic policies and international finance. The main focus is put on understanding academic empirical papers on the topics. Basic theories and empirical methods to understand the papers are provided in class.

This course is related to Goal 8 (decent work and economic growth) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Each class is planned as follows, but subject to changes.

1. Basics of international finance and capital flows.
2. Capital flows and crises in emerging economies.
3. Gross capital flows and financial globalization.
4. Monetary and exchange rate policies in open economy.
5. Foreign reserves as a stabilization policy tool.
6. Cost of foreign reserve accumulation.
7. Sovereign debt.
8. Sovereign debt default.
9. Financial crisis.
10. Financial crisis and policies.
11. Economic impacts of financial crisis.
12. Macroprudential policies.
- 13-14. Student presentations and discussions.
15. Final exam.

3. 成績の評価方法/ Grading:

1. (30%) In-class presentation. Each student will read one academic paper from the list that I will provide in the first class, and present the summary and your own comments in class.
2. (70%) Final exam.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: There is no required textbook for this course.

4-2:

The following is a good textbook for the basics of international finance:

Krugman, Obstfeld, and Melitz International Economics: Theory and Policy, 11th

edition, Pearson.

More references will be provided in the first class.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3510E

科目名/ Course Name: Environmental Economics

担当教員/ Instructor: MUNRO Alistair/MUNRO Alistair

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Environmental issues, such as climate change, renewable resource management, air quality and various types of pollution are key problems faced by many nations. The aim of this course to create a basic understanding of how economics can be used to value environmental services and to design environmental policies. The course mixes theory with international examples and a discussion of policy. The sessions will involve lectures and class discussion. There are three main objectives for students (1) obtain a basic understanding of environmental economics; (2) understand the role of economics in environmental valuation and policy through theory, data and case studies; (3) learn how to research the economic aspects of environmental issues.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The topics, level and schedule may change, depending on your understanding and interests. Except where stated, all the reading is from the required textbook. Some of the material may be presented in a different order or may be omitted if we run out of time.

Lecture.

Introduction: Environmental Quality and Economic Growth Chs. 1, 6

Market Failure; Ch. 2

Environmental Policy Ch. 2

Policy II Tradeable Permits Ch. 2

Valuation Methods I Chs. 3,4

Valuation Methods II Chs. 3, 4

Air quality

Midterm presentations (Weight: 40%)

Common-pool problems Ch. 7

International Policy Chs. 7-8

Climate Change Ch. 9

Climate change Ch. 9

Climate change Ch 9.

Ecosystem Services Chs. 4, 6

Final Exam (Weight: 60%)

3. 成績の評価方法/ Grading:

For the mid-term assessment, you should prepare a presentation and a short report using chatGTP on an economic analysis of an issue related to climate change in your home country. You will be guided on how to do this. The final exam is a standard 80 minute exam in which you will need to answer short questions on environmental economics.

Midterm: 40%

Final Exam: 60%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Hanley, White, Shogren, Introduction to Environmental Economics, 4th ed.

Students with more of a background in economics may prefer the text by Perlman et al or Hanley, Shogren and Whites other text. (Environmental Economics in Theory and Practice) which cover more or less the same material.

Alternatives:

Environmental Economics and Policy, 6th Edition, Tom Tietenberg and Lynne Lewis.

Other editions are suitable. Alternatively you can consult Environmental and Natural Resource Economics, 8th Edition, Tom Tietenberg and Lynne Lewis, Pearson. This has almost the same material, but it is written for an audience with slightly more technical training in economics.

I strongly recommend that you buy at least one environmental economics text.

5. 履修上の注意/Note:

Note: This is an applied Microeconomics course. Although the course is not particularly technical, you are strongly recommended to take Microeconomics I and II.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3530E

科目名/ Course Name: Resource and Energy Economics

担当教員/ Instructor: 田中 誠/TANAKA Makoto

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course focuses on theoretical developments in the area of resource, environment, and energy economics. The course is divided into two parts: (1) efficient control of pollution, (2) efficient management of exhaustible (non-renewable) and renewable natural resources. Both static and dynamic frameworks will be discussed.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1 : Market failure: externalities
- 2 : Property rights and Coase theorem 1
- 3 : Property rights and Coase theorem 2
- 4 : Economic instruments for efficient control of pollution 1
- 5 : Economic instruments for efficient control of pollution 2
- 6 : Tradable pollution permits
- 7 : Pollution policy with imperfect information
- 8 : Dynamic resource allocation
- 9 : Renewable resource management 1
- 10 : Renewable resource management 2
- 11 : Exhaustible (non-renewable) resource management 1
- 12 : Exhaustible (non-renewable) resource management 2
- 13 : Exhaustible (non-renewable) resource management 3
- 14 : Application
- 15 : Final exam

The above course topics and schedule are subject to change.

3. 成績の評価方法/ Grading:

One short written report: 30%

Final Exam: 70%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 Required

None

4-2 Others (References)

Jonathan M. Harris, Environmental and Natural Resource Economics: A Contemporary Approach, Houghton Mifflin

Harcourt

David W. Pearce and R. Kerry Turner, *Economics of Natural Resources and the Environment*, Johns Hopkins University Press

Nick Hanley, Jason F. Shogren and Ben White, *Environmental Economics: in Theory and Practice*, Palgrave Macmillan

Roger Perman, Yue Ma, James McGilvray and Michael Common, *Natural Resource and Environmental Economics*, Pearson Education

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3600E

科目名/ Course Name: Contemporary Japanese Economy

担当教員/ Instructor: 中島 厚志/ NAKAJIMA Atsushi

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

After World War II, Japan achieved a miraculous economic recovery. But, after that, Japan entered the lost decades following the collapse of the real estate bubble. In the process, the outstanding public debt has also accumulated, and now it has reached the worst level in the world.

Such a Japan's economy is an interesting subject of study. It offers some of the most interesting experiments and results for policymakers, such as what kind of policies brought about a miraculous economic recovery, why an irreversible real estate bubble arose, why economic policies failed to save the lost decades. Through Japan's economy and policies, we examine the countermeasures and their effectiveness for various economic issues that many countries have in common.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Outline of the Japanese economy after World War II
2. Economic miracle - Japan's high growth from 1950s through 1960s.
3. Oil Crisis -Japan became the winner among developed countries.
4. Japanese yen Strength and weakness.
5. Real estate Bubble Causes and effects.
6. Banking sector reforms
7. Lost decades Why Japan continues to have low economic growth and deflationary pressure.
8. Public debt Japan became among the worst in the World.
9. Economic problems related to ageing population.
10. Challenges and reforms of the Japan Social Security System.
11. Globalization and industrial hollowing out.
12. SME policies Success and failure
13. Climate change Japan's Energy Policy and the Impact of the Nuclear Power Plant Accident
14. Maintaining Japans International Competitiveness and Necessity of New Industrial Policies
15. Wrap up discussion

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading is based of class attendance, active participation to the class discussion. A mid-term report and final term paper are required.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Required

"The Japanese Economy -Then, now, and beyond", by Mitsunori Taniuchi, Cengage, 2013

"Japan: Staff Concluding Statement of the 2023 Article IV Mission", by IMF, 2023

"OECD Economic Surveys Japan December 2021

4-2: Others

"The Japanese Economy" Second Edition, by Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The MIT Press, 2020

"The Japanese Economy" 4th edition, by David Flath, Oxford University Press, 2020

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3610E

科目名/ Course Name: Japanese Economy

担当教員/ Instructor: 仁林 健/NIBAYASHI Ken

学期名/ Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is an introductory macroeconomics course. Learning macroeconomics is challenging. There are so many theories and models that it is difficult to paint a coherent picture of the economy. As for policy implications, different economists suggest different, often contradictory, policy prescriptions.

Against this background, the purpose of this course is as follows: First, learning the basic and standard theories on which most economists agree. Second, learning the controversies concerning which models are appropriate and what policy implications are to be drawn and, through comparison, to obtain the perspectives for evaluating different theories. Third, being able to understand actual economic issues and to conduct macroeconomic policy analyses based on macroeconomics.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The course will cover the topics below.

1. Introduction: Japanese Economy at a Glance
2. Rapid Economic Growth after WW2
3. The Bubble Economy
4. Post Bubble Economy
5. Stagnation and Deflation since 1990s
6. Abenomics and beyond
7. Decreasing Population and Aging Society
8. Labor Market and Employment
9. Japan in the Global Economy
10. Corporate Sectors Competitiveness and Challenges
11. Public Finance and Fiscal Policy
12. Monetary Policy
13. Recent Economic Situation
14. Summary and Conclusion
15. Final Presentation

(Note) The course plan is subject to change.

** The schedule is subject to change.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be based on class participation and the final presentation.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: None

4-2:

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi.2020. Japanese Economy. Second Edition. The MIT Press.

Cabinet Office of Japan. Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance.

Various issues.

OECD. Economic Survey of Japan. Various issues.

International Monetary Fund. Article IV Consultations - Staff Report. Japan. Various issues.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3640E

科目名/ Course Name: Financial Economics

担当教員/ Instructor: CHEN Jau-er/CHEN Jau-er

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course gives a sense of the financial theory which conveys what wonderful things can happen, and how people can let their creativity and goals become reality by using finance. In addition, the second half of the course covers financial econometrics and the characteristics of financial data. Typical topics include risk, diversification, stocks, options, autoregressive and moving-average time-series models, volatility modeling, and factor models. The aforementioned topics concentrate on a large set of issues and concepts to which any finance practitioner should be exposed.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. On the role of financial markets and institutions: risk and diversification
2. Overview of asset pricing approaches
3. Options and the binomial option pricing model
4. Options and the Black-Scholes option pricing model
5. Student Presentation: Do option markets undo restrictions on short sales? Evidence from the 2008 short-sale ban (Journal of Financial Economics, 2012)
6. The challenges of asset pricing - a road map: risk premium and stylized facts
7. The demand of financial assets: the expected utility, risk aversion, and behavioral finance
8. CAPM
9. CAPM rigorously revisited
10. Econometric background - linear regression
11. Econometric background - linear regression and time series
12. Econometric background - volatility modeling

13. Fama-French factors

14. Student Presentations: Does academic research destroy stock return predictability? (Journal of Finance, 2015)

15. Statistical factor models and factor selection via machine learning

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participating in classroom discussions (20%)

Group presentation (40%)

Take-home final exam (40%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

1. Berk and DeMarzo. 2017. Corporate Finance, 4th edition, Pearson.

2. Stock and Watson. 2019. Introduction to Econometrics, 4th edition, Pearson.

3. Instructor's lecture notes / slides

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3700J

科目名/ Course Name: 計量経済学の応用と実践

担当教員/ Instructor: 後藤 潤/GOTO Jun

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では「計量経済学」の単位取得を必修としたうえで、実証経済学で用いられる主要な手法について解説する。現実で生じている社会問題を対象にしながら、一般に利用可能なデータセットを用いて実際に実証分析を行うことで、実践的なスキルを取得することを目的とする。計量経済学的手法を用いた実証論文執筆のために、統計ソフトの演習、データ取得方法、Github を用いたチーム作業の進め方なども解説する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

イントロダクション

OLS の復習

操作変数法、パネル分析

差の差分分析

非連続回帰デザイン (Regression discontinuity design)

ウェブ上でのデータ管理術・チーム単位でのプログラミング管理術

実証論文の構造と書き方

履修者の知的関心とバックグラウンドに応じて上記のテーマの順序や内容を変更することがあります。

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末レポートの提出

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

リーディングリストを講義の最初に提示します。

オリジナルの講義ノートを毎回配布します。

参考文献：Wooldridge (著) Introductory Econometrics: A Modern Approach

5. 履修上の注意/Note:

- ・ 3 回以上の欠席者には、原則として単位認定をしない。
- ・ 診断書の提出された本人の疾病・傷害又は三親等内の親族の通夜・葬儀の場合は考慮する場合がある。
- ・ レポート等の課題の提出期限に遅延した者又は試験を受験しなかった者は、原則として単位認定をしない。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3710E

科目名/ Course Name: Time Series Analysis

担当教員/ Instructor: LEON-GONZALEZ Roberto/ LEON-GONZALEZ Roberto

学期名/ Term: 春前期/ Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course covers topics in advanced time series analysis and therefore it is required that students have taken before an introductory course in time series. Knowledge of dynamic optimization in Macroeconomic models is desirable but not required. The course aims at helping students acquire the practical skills necessary to carry out their own empirical analyses. Through computer sessions, students will learn how to use the methodology with computer code or software.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Bayesian Analysis in the linear regression model

(K Ch. 1 and Ch. 2)

Bayesian Computation: Gibbs sampler and the Metropolis-Hasting algorithm

(K 4.2.3, K 5.5)

Bayesian Model Averaging

(K Ch. 11 and help of the BMS package in R)

Bayesian Vector Autoregressions

(SZ and EUG)

State-Space Models

(K Ch. 8, EUG, help of the CausalImpact package in R, BR)

Dynamic Model Averaging

(RA, KK, help file of fDMA package in R)

Estimation of Dynamic Stochastic General Equilibrium Models

(DUG Ch. 3 and Ch. 5)

Identification through sign restrictions in VAR models

(U and UGR)

3. 成績の評価方法/ Grading:

Assessment is based upon course work (Pas or Fail).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Required Text:

K: Koop, G. (2003) Bayesian Econometrics. Wiley

Other important references:

BR: Brodersen KH, Gallusser F, Koehler J, Remy N, Scott SL. Inferring causal impact using Bayesian structural time-series models. *Annals of Applied Statistics*, 2015, Vol. 9, No. 1, 247-274.
<http://research.google.com/pubs/pub41854.html>

KK: Koop, G., Korobilis, D., 2012. Forecasting inflation using Dynamic Model Averaging. *International Economic Review* 53, 867-886.

RA: Raftery, A. E., Karny, M., Ettler, P., 2010. Online prediction under model uncertainty via Dynamic Model Averaging: Application to a cold rolling mill. *Technometrics* 52, 526-6.

SW: Stock, J.H. and Watson, M.W. *Introduction to Econometrics*, Second Edition, Pearson.

SZ: Sims, C. and T. Zha (1998). Bayesian Methods for Dynamic Multivariate Models, *International Economic Review*, 39, 949-968.

EUG: Eviews User Guide

DUG: Dynare User Guide

U: Uhlig, H. (2005), What Are the effects of monetary policy on output? Results from an agnostic identification procedure, *Journal of Monetary Economics*, 52, 381-419.

UGR: User Guide of VARsignR package in R

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3720E

科目名/ Course Name: Cost Benefit Analysis I

担当教員/ Instructor: 城所 幸弘/ KIDOKORO Yukihiro

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The purpose of this lecture is to understand the basic theory of cost-benefit analysis and to apply the method to actual policy analyses.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Class

- 1 Introduction to Cost-Benefit Analysis (Ch.1)
- 2 Conceptual Foundation of Cost-Benefit Analysis (Ch.2)
- 3 Microeconomic Foundations of Cost-Benefit Analysis (Ch.3)
- 4 Valuing Impacts in Output Markets (Ch.5)
- 5 Valuing Impacts in Input Markets (Ch.6)
- 6 Valuing Impacts in Secondary Markets (Ch.7)
- 7 Midterm Presentation (or Midterm Exam)
- 8 Discounting Future Impacts and Handling Inflation (Ch.9)
- 9 Dealing with Uncertainty: Expected Values, Sensitivity Analysis, and the Value of Information (Ch.11)
- 10 Risk, Option Price and Option Value (Ch.12), Existence Value (Ch.13)
- 11 Valuing Impacts from Observed Behavior: Experiments and Quasi-Experiments (Ch.14)
- 12 Valuing Impacts from Observed Behavior: Indirect Market Methods (Ch.15)
- 13 Contingent Valuation: Using Surveys to Elicit Information About Costs and Benefits (Ch.16)
- 14 Cost-Effectiveness Analysis and Cost-Utility Analysis (Ch. 18)
- 15 Final Presentation (or Final Exam)

I will introduce other chapters, if time permits

I will change my lecture contents and schedule depending on your understanding. The above schedule is an ideal one.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The grade will be determined by midterm presentation (30%), final presentation (30%), and a term paper (40%).

If many students take the course in face-to-face lectures, I might change presentation/term paper to closed-book midterm and final exams. In this case, the grade will be determined by midterm (50%) and final exams (50%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

A. E. Boardman, D. H. Greenberg, A. R. Vining, D. L. Weimer (2018), Cost-Benefit Analysis-Concepts and Practice-5th Edition, Cambridge University Press.

5. 履修上の注意/Note:

Cost-Benefit analysis is a direct application of microeconomics. Thus, Microeconomics I and II or higher level microeconomics courses in GRIPS are required.

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3740E

科目名/ Course Name: Economic Modeling for Policy Simulations

担当教員/ Instructor: 細江 宣裕/HOSOE Nobuhiro

学期名/ Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course exposes students to macro-economic models which are useful to analyze various policy issues for developing countries as well as developed ones by simulating counter-factual situations. The aim of this course is to have students acquire practical modeling skills on PCs for empirical policy analysis and/or for academic research works. Thus, this course is designed so that students can learn both theoretical frameworks of the economic models (as exemplified below), programming with numerical computation software, and their empirical implementation for policy simulation purposes through developing simple and then sophisticated models by themselves.

-Partial equilibrium (PE) model

-Spatial and temporal price and allocation (STPA) model

-Input-output (IO) model

-Computable general equilibrium (CGE) model

These models are developed on PCs and used for simulations where impacts of policies and/or exogenous shocks are quantified in terms of sectoral output, imports and exports, consumption, employment, (re)allocation of primary factors, commodity prices, domestic welfare, etc. Policies and exogenous shocks encompass tariff cuts and phase-out of import/export quotas (e.g., WTO/FTA), fiscal expenditure adjustment and tax reforms (e.g., VAT vs. income tax), price shocks in the world markets (e.g., oil price fluctuation), productivity shocks (e.g., crop failure by drought), changes in international and domestic transportation costs, debt management, and so on.

This course is related to the following SDGs: 7 (Energy), 8 (Economic Growth), and 17 (Partnerships).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

We focus on five types of numerical models. Topics are as follows:

(1) Introduction

(2) Partial Equilibrium Models; Development of Partial Equilibrium Models with GAMS

(3) Spatial and Temporal Price and Allocation Model

(4) Estimation Techniques of These Models

(5) Input-output Models

(6-13) Computable General Equilibrium Models

(6) Introduction: Basic Concept of CGE Models (Ch. 1); Simple CGE Model (Ch. 2)

- (7) Usage of GAMS (Ch. 3)
- (8) Social Accounting Matrix (Ch. 4)
- (9) Model Estimation: Calibration (Ch. 5)
- (10) Standard CGE Model (Ch. 6) (1): Production with Intermediate Input, Government, and Investment
- (11) Standard CGE Model (2): International Trade; Model Development on PC
- (12) Simulating General Equilibrium (Ch. 8)
- (13) Interpretation of Simulation Results (Ch. 9)
- (14) Tentative (Model Extension (Ch. 10) or Simple Dynamics)
- (15) How to Write a (Term) Paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

Lectures are given in the spring semester. After the lectures, students start to develop their own model for policy simulations of their interest. Students are supposed to submit a term paper, with which their performance will be evaluated. They develop their own model, conduct some policy simulation with it, and summarize their analysis in their term paper. The deadline for the term paper submission is to be set in mid-September (or mid-August for those who need to secure the credit of this course for graduation in September).

Models demonstrated in the lecture cannot be used as is but need modification for their original purposes. In the process of their model development, students encounter technical problems in modeling and computation and are strongly recommended to consult the lecturer on their problems in and after the classes.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Lecture materials are provided on Teams.

4-1 Required

Hosoe, N., Gasawa, K., and Hashimoto, H. (2010) Textbook of Computable General Equilibrium Modelling: Programming and Simulations, Palgrave Macmillan, June.

(This textbook is available also in Chinese, Turkish, and Japanese.)

4-2 Others

Burfisher, M.E., (2011) Introduction to Computable General Equilibrium Model, Cambridge.

Chowdhury, A., and C. Kirkpatrick (1994) Development Policy and Planning, Routledge.

Lofgren, H., R. L. Harris, and S. Robinson (2002) A Standard Computable General Equilibrium (CGE) Model in GAMS, International Food Policy Research Institute (IFPRI).

(<http://www.ifpri.org/sites/default/files/publications/mc5.pdf>)

de Melo, J., and D. Tarr (1992) A General Equilibrium Analysis of US Foreign Trade Policy, MIT Press.

Pyatt, G., and J. I. Round (eds.) (1985) Social Accounting Matrices A Basis for Planning, the World Bank.

(http://www-wds.worldbank.org/servlet/WDS_IBank_Servlet?pcont=details&eid=00017883098101901520228)

Miller, R. E., Blair, P. D. (2022) Input-Output Analysis Foundations and Extensions, 3rd Edition, Cambridge.

Takayama, T., and G. G. Judge (1971) Spatial and Temporal Price and Allocation Models, North-Holland.

5. 履修上の注意/Note:

You should bring your PC with you to class for computer exercise.

Before the first lecture, visit the following website to get a demo license and install the GAMS system.

https://www.gams.com/try_gams/

In case of any trouble, we can fix it in

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3750J

科目名/ Course Name: 経済シミュレーション分析

担当教員/ Instructor: 細江 宣裕/HOSOE Nobuhiro

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義の目的は、学生を実証分析のためのさまざまなマクロ・ミクロ経済分析のツールに触れさせることにある。具体的なデータ例として、おもに日本やそれを含むものを取り上げるが、より一般的に、日本以外の先進国や、途上国を対象としたモデル分析をする際にも適用可能なモデル分析の手法を習得することを目指す。経済理論を、実際のデータに当てはめて PC 上のモデルとして表現すること、また、このモデルを用いて定性的な分析を超えて、定量的な政策シミュレーションを行うための実際的な手法について説明する。

モデルとしては、以下の 5 種類を構築しながら学んでいく。

- ・部分均衡モデル
- ・空間均衡モデル
- ・産業連関モデル
- ・応用一般均衡モデル

それぞれのモデルは、実際の政策判断の手助けをするために用いられている。最近の例で

は、TPP の効果分析のために応用一般均衡モデルが広く用いられている。講義の中では、

モデルの構造とその構築方法を間学ぶことで、各モデルの長所・短所も理解できるように配慮する。

この講義は、SDGs の目標 7(エネルギー), 8(経済成長), 17(パートナーシップ)等に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義で解説されるモデルの内容と毎週のスケジュールは以下の通りである。

(1)概説・文献解題

(2)部分均衡(Partial Equilibrium, PE)モデル(理論的枠組み, GAMS の使い方(1))

(3)空間的時的部分均衡(Spatial and Temporal Price and Allocation, STPA)モデル

(4)モデルの非統計的推定手法

(5)産業連関(Input-Output)モデル(産業連関表,産業連関モデルの理論的枠組み,PC 上でのモデル構築実習(Excel))

(6-13)応用一般均衡(Computable General Equilibrium, CGE)モデル

(6) 簡単な応用一般均衡モデル 第 12 章

(7) PC 上でのモデル構築実習(GAMS) (2) 第 3 章

(8) データベースの構築: 社会会計表 第 4 章

(9) モデルの推定: キャリブレーション 第 5 章

(10) 現実的な応用一般均衡モデル(1) 第 6 章

(11) 現実的な応用一般均衡モデル(2), PC 上でのモデル構築実習(GAMS)

(12) シミュレーションの方法 第 8 章

(13) シミュレーション結果の解釈 第 9 章

(14) 講義の進捗次第(モデルの閉じ方 第 7 章、または、簡単な動学分析)

(15) ターム・ペーパーのガイドラインとヒント

上記の 5 種類のモデルは、PC 上で構築され、政策や外部環境の変化といった外生的なショックの影響をシミュレートするものである。たとえば、貿易政策(=関税率の変化)や環境政策(=環境税の導入)、より一般に消費税等の税制改革、債務管理問題といった財政政策についても分析することができる。農業分野であれば、天候不順による生産性の悪化といったこともシミュレートできる。これらは、産業ごとの生産量や生産物価格、輸出入量、国内消費といったさまざまな経済変数に影響を与える。本講義で解説される

経済シミュレーション・モデルを使うことで、こうした影響を定量的に把握することができる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

評価は、期末に提出するターム・ペーパーによって判断する。課題は、(1)講義で説明したモデルのうちの1つ(またはそれに類するもの)を構築して、(2)実際のシミュレーションを行うことである。時間が許せば、(3)その結果をうまく現実の政策課題と結びつけて解釈でいれればなおよい。

なお、Economic Modeling for Policy Simulations (ECO3740E)の単位を取得した者(あるいはその逆も)は、講義内容が重複する部分が多いので、この講義を履修してもあらたに単位を認定しない。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

教科書・資料

講義資料にアクセスできない場合には、別途提供する。連絡先(メールアドレス)を知らせるために、事前に受講登録をすること。

応用一般均衡モデルに関するもの以外については、資料を Teams で配布するので各自で入手すること。

応用一般均衡モデルについては、

細江宣裕, 我澤賢之, 橋本日出男(2016) 『テキストブック応用一般均衡モデリング: プログラムからシミュレーションまで』, 東京大学出版会, 第2版.

の各章をなるべく教科書から離れないように説明する予定である。

参考書

アニス・チョードゥリー, コリン・カークパトリック(1997) 『発展途上国の開発政策と計画—モデル化と計画の立て方』, 古今書院.

Pyatt, G., and Round, J. I. (1985) Social Accounting Matrices: A Basis for Planning, the World Bank., Washington, DC.

http://www-wds.worldbank.org/servlet/WDS_IBank_Servlet?pcont=details&eid=000178830_98101901520228

小長谷・前川(編) (2012) 『経済効果入門: 地域活性化・企画立案・政策評価のツール』, 日本評論社.

Miller, R. E., Blair, P. D. (2022) Input-Output Analysis Foundations and Extensions, 3rd Edition, Cambridge.

Takayama, T., and Judge, G. G. (1971) Spatial and Temporal Price and Allocation Models, North-Holland, Amsterdam.

細江宣裕, 秋山修一(2007) 「送電料金改革の効果分析---パンケーキ方式から郵便切手方式へ---」, 八田達

夫, 田中誠(編著)『規制改革の経済分析』, 日本経済新聞出版社 所収, 第2章: 75-99.

参考 Web

GAMS Development Corporation, <http://www.gams.com/>

Prof. Thomas Rutherfords Webpage, <http://www.mpsge.org/>

ターム・ペーパー 〆切

後日決定

5. 履修上の注意/Note:

講義中で PC 実習を行うので、各自の PC(Windows が望ましいが、Mac でも技術的には可能)を持参すること。

講義開始までに、以下のサイトにアクセスして(1)デモ・ライセンスを入手、(2)GAMS のシステムをダウンロードしてインストールしておく。(できなければ、初回講義等で質問する。)

https://www.gams.com/try_gams/

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3810E

科目名/ Course Name: Economic Development of Japan

担当教員/ Instructor: 大野 健一/ OHNO Kenichi

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Japan is unique in achieving catch-up type industrialization very early among latecomer developing economies. This course will discuss the causes, processes and results of Japan's industrialization from the viewpoints of economics, politics and social change. It will offer large amounts of data and visual materials as well as summaries of scholarly research and debates. We will examine Meiji and Post-WW2 periods, when rapid industrialization took place, as well as other periods and war years. We will pay particular attention to the following questions:

1. Why did Japan succeed in industrialization as the first non-Western latecomer as early as in the late 19th century?
2. Interaction of external influences and domestic capability in the industrialization process.
3. Interaction of economic, political and social factors.
4. How dynamic was the private sector, and how did it respond to new challenges?
5. How did the government support industrialization? What mistakes did it make?

After the initial overview session, lectures will proceed chronologically from the Edo period (17-19c) to present. Questions and comments are encouraged in class.

For more on course information and syllabus, see below (we are in the process of moving from the first website to the second).

<http://www.grips.ac.jp/teacher/oono/hp/course/index.htm>

<https://gdforum.sakura.ne.jp/lecture/index.htm>

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Topic

Textbook

1

Overview: the meaning of modernization for latecomers

ch.1

2

Edo period: pre-conditions for industrialization and modernization
ch.2

3
Meiji 1: key goals of the new government
ch.3

4
Politics of Meiji industrialization & modernization
ch.3

5

Meiji 2: technology and major industries

chs.4,5

6
Meiji 3: budget, finance and macro balance
ch. 6

7

collapse

World War I and the 1920s: export-led boom and

ch.7

8

Showa Financial Crisis of 1927

ch.8

9

The 1930s and the war economy

ch.9

10

Postwar recovery 1945-49

ch.10

11

Postwar high growth 1950s-60s

ch.11

12

MITI and the Japanese Miracle

ch.11

13

Economic maturity and slowdown: 1970s-80s

ch.12

14

Bubble burst and recession: 1990s-2000s

ch.13

15

Abenomics and current issues

ch.13

Note: Subject to change. Any change will be announced in advance.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term paper is required on one of the topics below (choose one):

- (1) Assessment of public-private interaction in industrial development of Japan
- (2) Comparison of Japanese experience and the experience of another (your) country
- (3) Detailed analysis of any aspect of Japanese industrialization (beyond the textbook and class materials)

In each case, one particular period and one particular sector/issue should be selected for analysis. Do not discuss generally or without focus.

Style: 10 pages or less, single-spaced. At least one figure or table, and a list of references must be included. Footnotes/endnotes are optional.

Evaluation criteria: Topic selection (25%), logical flow (25%), depth of analysis (25%), style and English (25%).

Deadline: close of business, Friday, July 28, 2023. Submit both electronically and by paper (bring to the instructor or place in his mailbox on GRIPS third floor).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1. Textbook

Kenichi Ohno, The History of Japanese Economic Development: Origins of Private Dynamism and Policy Competence, Routledge, 2018 (this book is OPEN ACCESS which means downloadable for free).

<https://www.routledge.com/The-History-of-Japanese-Economic-Development-Origins-of-Private-Dynamism/Ohno/p/book/9781138215429>

Or students may purchase a paperback edition from the instructor at the subsidized price of 4,000 yen. The Routledge website paperback price is variable and currently is 52.99 British pound (about 8,530 yen). Instruction for purchase will be given in the first class.

4-2. Other materials

Lecture slides are used for each class. All are downloadable at any time from the website listed above, including instructions, slides and other materials (subject to revision and updates at any time).

5. 履修上の注意/Note:

Nothing is required to take this course except keen interest in Japanese economic development. It will be useful, though not necessary, to have the knowledge of basic economics, development economics and industrial policy debates. No knowledge of Japanese

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3840EA

科目名/ Course Name: Development Economics

担当教員/ Instructor: 山内 慎子/YAMAUCHI Chikako

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to learn some of the basic concepts and tools to consider issues related to economic development and improvement in welfare in low-income settings. In particular, we focus on topics in applied microeconomics, and cover theoretical foundation and empirical tools that are commonly used in the literature. Students are assumed to have acquired basic understanding of introductory microeconomics and econometrics.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Ch.1. What is development? Indicators and issues

Ch.2. State of development

Ch.3. History of thought in development economics

Ch.4. Impact evaluation of development policies and programs

Ch.5. Poverty and vulnerability assessment

Ch.6. Inequality and inequity

Schedule

Week

Class dates

Chapter

Lecture note#

1

April 05

1

Development

1

2

April 12

1
Development/State
1,2

3
April 19
2
State
2

4
April 26
3
History
3

May 03

Holiday

5
May 10
4
History
3

6
May 17
4
History /Evaluation methods
3,4

7

May 24

Mid-term exam

8

May 31

5

Evaluation methods

4

9

June 07

6

Evaluation methods

4

10

June 14

11

Poverty 1

5

11

June 21

12

Poverty 2

5

12

June 28

13

Poverty 3, Inequality 1

5,6

13

July 05

14

Inequality 2

6

14

July 12

14

Inequality 3

6

15

July 19

Final Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation

Master's students

Mid-term 40%

Final 60%

PhD students

Mid-term 35%

Final 55%

Report on an academic article related to development 10%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Textbooks

Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet, 2015, Development Economics: theory and Practice, Routledge.

For Japanese students who wish to study related issues in Japanese, the following are recommended.

福井清一・三輪加奈・高篠仁奈著『開発経済を学ぶ』創成社

黒崎卓・山形辰史『開発経済学：貧困削減へのアプローチ 増補版』日本評論社

黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史『テキストブック開発経済学 第3版』

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3840EB

科目名/ Course Name: Development Economics

担当教員/ Instructor: 木島 陽子/ KIJIMA Yoko

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to study basic concepts and their empirical application to issues of economic development with the focus of household behavior in poor countries. In this course, basic concepts of econometrics, microeconomics, and development economics are reviewed, if necessary, but not fully explained by assuming that you have some basic knowledge. Thus, students are strongly recommended to take courses of econometrics and development economics and/or to read some of the basic textbooks listed below.

This course is related to Goals 1, 2, 3, 10 (poverty, hunger, good health and well-being, inequality) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) What is Development? (Chapter 1)

(2) The State of Development (Chapter 2)

(3) History of thought in development economics (Chapter 3)

(4) Impact evaluation of development policies and programs (Chapter 4)

(5) Poverty and vulnerability analysis (Chapter 5)

(6) Inequality and inequity (Chapter 6)

(7) Human capital: Education and Health (Chapter 17)

[If we still have time, the following will be discussed]

Ch.11. Population and development

Ch.12. Labor and migration

Ch.13. Financial services for the poor

Ch.14. Social assistance programs and targeting

3. 成績の評価方法/ Grading:

Homework (30%), Class participation/ Presentation (20%), and Final exam (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet (2016) Development Economics: Theory and Practice. Routledge.

4-2: Jeffrey Wooldrige. Introductory Econometrics: A Modern Approach

Angus Deaton, The Analysis of Household Surveys : A Microeconomic Approach to Development Policy

<https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/30394>

5. 履修上の注意/Note:

Students should read Introduction of the textbook although it is not covered during the class.

PhD students need to submit a report on an academic article related to development.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3860E

科目名/ Course Name: Development History of Asia: Policy, Market and Technology

担当教員/ Instructor: 中尾 武彦/ NAKAO Takehiko

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Students study through this course 1) how Asian developing economies have developed over the last half century, 2) what were the reasons that many of them could achieve success in terms of growth, poverty reduction, and social progress such as health, education, and gender, and 3) what are remaining challenges going forward.

Lecture is both theoretical and empirical, based on the book *Asias Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology over 50 Years* published by Asian Development Bank (ADB) in January 2020.

Lecture reflects the lecturers long experiences in development and international finance, including as Chairman of the Institute, Mizuho Research & Technologies (current), President of ADB (April 2013-January 2020), Vice-Minister for International Affairs at the Ministry of Finance, Japan (2011-2013), and Advisor at the International Monetary Fund (1994-1997).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Guidance. Experience as ADB President.

Roles of market and government

Industrial transformation and agricultural modernization

Technology and economic growth

Education and health

Impacts of demography

Investment, saving, financial sector, infrastructural development, trade and foreign direct investment

Macroeconomic policies and foreign exchange rate system

Global financial crisis and Asian financial crisis

Poverty reduction and income inequality

Gender equality

Environment protection and climate change

Global governance and regional cooperation

Free discussion on remaining challenges to Asias development

Examination

3. 成績の評価方法/ Grading:

Examination (75%)

Participation (25%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Foreword and Chapter 1 of the textbook.

Is There a Unique Asian Consensus for Development? Presentation by Takehiko Nakao at GRIPS Seminar, December 21, 2020.

Experiences and Perspectives as ADB President in Retrospect

Address by Takehiko Nakao, At the Graduation Ceremony of the GRIPS, September 14, 2017.

Chapter 2.

Chapters 3 & 4.

Chapter 5.

Chapter 6.

Chapter 6.

Chapters 7, 8 & 9.

Chapter 10.

Reforming the International Monetary System Speech by Takehiko Nakao at the Institute for International Monetary Affairs, March 18, 2010

Chapter 10.

Response to the Global Financial Crisis and Future Policy Agenda Keynote Address by Takehiko Nakao at the symposium by Harvard Law School and the International House of Japan, October 23, 2010.

Challenges in International Finance and Japans Responses Speech for delivery by Takehiko Nakao at the symposium by the Institute for International Monetary Affairs, March 15, 2012

Chapter 11.

Chapter 12.

Chapter 13.

Chapters 14 & 15.

5. 履修上の注意/Note:

Students are encouraged to actively participate in class discussion and share their understanding of experiences of their home countries.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3870E

科目名/ Course Name: Agricultural Development

担当教員/ Instructor: 木島 陽子/ KIJIMA Yoko

学期名/ Term: 春前期/ Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Poverty and malnutrition in developing countries are among the most serious issues facing the world. In this course, we will focus on studies of empirical microeconomics in agriculture and rural societies to examine the causes, severity, and effects of these problems.

This course is related to Goals 1, 2, 3, 13, 15 (poverty, hunger, good health and well-being, climate change, environment) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Overview of Agricultural Development

Agricultural Household Model

Other Models

Agricultural Markets

Land Market

Environment

Common Property

Other topics

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grade for master students: Homework (40%), Final exam (60%)

Grade for Ph.D. students: Homework (35%), Final exam (55%), Report (10%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

4-1

de Janvry and Sadoulet (2016) Development Economics: Theory and Practice

Schaffner (2014) Development Economics: Theory, Empirical Research and Policy Analysis. John Wiley and Sons.

Otsuka and Fan (2020) Agricultural Development: New Perspectives in a Changing World

Handbook of Agricultural Economics vol.5 (2021)

(<https://www.sciencedirect.com/handbook/handbook-of-agricultural-economics/vol/5>)

George W. Norton, Jefferey Alwang, and William A. Masters (2015) Economics of Agricultural Development, Routledge.

Angus Deaton (1997). Analyses of Household Survey.

Hayami, Yujiro. 2005. Development Economics: from the poverty to the wealth of nations (3rd ed)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3890E

科目名/ Course Name: Development Econometrics

担当教員/ Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course aims to equip students with practical econometrics skills to write policy and/or research papers. Students are expected to read assigned papers before the class and solve the problem sets offered several times during the course. During the class, the instructor teaches basic methods used in each assigned reading and also skills required to conduct the analysis, using Stata. The basic knowledge of econometrics is pre-requisite. Note that only techniques related to microdata analysis will be covered in this course. Although techniques will be applicable to other contexts, I will focus on the literature and data in developing countries.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Topics covered in this course may include:

- Measurement of poverty and inequality and its decomposition
- Poverty dynamics and vulnerability
- Endogeneity
- Panel analysis : Fixed effect, DID and sample attrition
- Multinomial, ordered and multivariate logit/probit model
- Quantile regression
- Heckit and endogenous switching regression
- Oaxaca-Blinder decomposition
- Mediation analysis

Those topics are subject to change, depending on the interest of students. At the end of the course, students are expected to write a term paper using a technique taught in the course.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Problem sets and classroom participation (50%), Term paper (50%)

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

Required readings will be provided in class.

Students will read the following books as references:

Wooldridge, J.M., Introductory Econometrics, Southwestern College Publishing
Angrist, J., and Pischke, J.S., Mostly Harmless Econometrics, Princeton University Press.
Stock J. H., and Watson, M.W., Introduction to Econometrics, Addison-Wesley, any Edition.
Haughton, J., and Khandker, SR. Handbook on Poverty and Inequality, World Bank
Wooldridge, J.M., Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT Press

5. 履修上の注意/Note:

I assume participants to have basic knowledge of econometrics, such as OLS

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO3920E

科目名/ Course Name: Economic History and Institutions

担当教員/ Instructor: 泉 佑太郎/IZUMI Yutaro

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Why are some countries rich and others poor? This course examines the process of economic and political development from a long-term perspective, with a particular focus on the role of institutions and culture.

Recent empirical studies on the frontier of the literature will be introduced. The goal of the course is to develop students ability to identify interesting and important questions in related fields and to present these ideas effectively.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The topics and schedule are subject to change.

Institutions and development

Culture and development

Interaction of institutions and culture

Geography and development

State capacity

Nation-building

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation (10%)

Presentations (40%)

Research proposal (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1.

No textbook is required. Instead, students are expected to read the required papers in the reading list carefully and participate in the discussion. The reading list will be distributed in the first class.

4.2

Daron Acemoglu and James Robinson, Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty, Crown

Publishers

5. 履修上の注意/Note:

Introductory-level knowledge of microeconomics and econometrics is required.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO4120E

科目名/ Course Name: Thesis Seminar

担当教員/ Instructor: WIE Dainn/WIE Dainn

学期名/ Term: 秋～夏/ Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a course devoted to producing a thesis (policy paper) on a topic related to public finance. In this course, students are provided with personal instruction by a faculty advisor in an intimate environment, and several opportunities to present both their ongoing and completed policy papers. Students are supported in the writing process by individual consultation with faculty members of the Center for Professional Communication (CPC). This course is part of the requirement for all the Public Finance Program students.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Although the actual supervision and writing of the policy paper is expected to start somewhere in February, students need to start thinking about the topic much earlier, and, in particular, need to complete the policy paper proposal and find their advisors by January. In addition, students are required to attend Thesis and Policy Paper Writing course during the spring term, and also to receive private consultations at the CPC at least twice during the course of policy paper preparation/writing—this is a required part of this course. The details about policy paper writing in the Public Finance Program will be explained in early-October at the first tutorial class which is given by the Program Director.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Based on the quality of the policy paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no set textbook.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO4130E

科目名/ Course Name: Tutorial (PF)

担当教員/ Instructor: WIE Dainn/WIE Dainn

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

A tutorial is a small-group consultation course and required part of the degree requirements for the Public Finance programs. Each group will consist of no more than five students, considering whether they are in Japan and the region of their origin. A tutorial is meant to nurture the sense of connectedness with faculty members as well as among fellow students at the early stage of designing their research. To that extent, students are expected to lead and participate in rigorous discussions of their subjects of interest with the instructor and other students and explore different arguments and present and their ideas.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The detailed schedule by each group will be announced later. Note that because this class is heavily discussion-oriented, consistent attendance is essential. You will come to rely on your classmates for comments and insights into your work, and you should not shirk from providing such support and advice to others.

Group Meeting

Tutorial Topic

Written Assignment

Week 1

Research Question

Week 2

Literature Review

Week 3

Small-Group Discussion (1)

Research question in one paragraph

Week 4

Small-Group Discussion (2)

Research question in one paragraph

Week 5

Individual Presentation (1)

Proposal in PPT

Week 6

Individual Presentation (2)

Proposal in PPT

Week 7

Revised Prospectus

Revised Prospectus submission

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. Grading will be based on students contributions to discussions, oral presentations, and written assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6000E

科目名/ Course Name: Advanced Microeconomics I

担当教員/ Instructor: 山崎 晃生/YAMAZAKI Akio

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is the first course in the sequence of advanced microeconomics. The aim is to learn and apply the mathematical framework of individual economic decisions and their interaction. The topics covered include mathematical tools for microeconomics, consumer theory, theory of competitive firms, and market equilibrium.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Mathematical Preliminary

Consumer Theory

Welfare

Aggregation

Theory of Competitive Firms

Market Equilibrium

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course grade will be based on problem sets and final exam.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

The lecture note will be distributed.

There are several self-contained textbooks on advanced microeconomics:

Jehle, G. and Reny, P. (2011): Advanced Microeconomic Theory, 3rd ed.

Varian, H. (1992): Microeconomic Analysis, 3rd edition, 1992

Mas-Colell, A. Whinston, M. and Green, J. (1995): Microeconomic Theory

whereas Jehle and Reny (2011) will be the most relevant textbook to the lecture note. I will use Mas-Colell, A. Whinston, M. and Green, J. (1995) and Varian (1992) for some selected topics.

5. 履修上の注意/Note:

Basic knowledge of multi-variable calculus, linear algebra, and probability is assumed to be the course's prerequisite.

Working on the assigned problem sets is also an essential part of the course.

Instructor will use his website to provide further

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6010E

科目名/ Course Name: Advanced Microeconomics II

担当教員/ Instructor: 山崎 晃生/YAMAZAKI Akio

学期名/ Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is the second course in the sequence of advanced microeconomics. The aim is to learn and apply the mathematical framework of individual economic decisions and their interaction. The topics covered include decision making under uncertainty, and game theory.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

a. Decision Making under Uncertainty

b. Game Theory

i. Static Games with Complete Information

ii. Dynamic games with Complete Information

iii. Incomplete Information Games

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course grade will be based on problem sets and final exam.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

I use the following textbooks as main textbooks for this course.

Gibbons, R. (1992): Game Theory for Applied Economists

Osborne, M (2004): An Introduction to Game Theory

Supplementary textbooks are:

Jehle, G. and Reny, P. (2011): Advanced Microeconomic Theory, 3rd ed.

Tadelis, S.(2013): Game Theory: An Introduction

Fudenberg, D. and Tirole, J (1991): Game Theory

Osborne, M and Rubinstein, A. (1994): A Course in Game Theory

5. 履修上の注意/Note:

Basic knowledge of multi-variable calculus, linear algebra, and probability is assumed to be the prerequisites of the course.

Working on the assigned problem sets is also an essential part of the course.

Instructor will use his website to provide f

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6020E

科目名/ Course Name: Advanced Microeconomics III

担当教員/ Instructor: MUNRO Alistair/MUNRO Alistair

学期名/ Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is an advanced microeconomics course in behavioural and experimental Economics. It is aimed at PhD students making the transition into dissertation research. Behavioural economics brings into economics more realistic elements from psychology, while experimental economics uses a controlled environment to genuinely identify economic aspects of our behaviour ("No causation without manipulation"). Together, behavioural and experimental economics have transformed how policy is made around the world. Many countries, e.g. UK, Japan have 'nudge units' for example, while the invited lecture at the 2015 American Economic Association was on Behavioural Economics and Policy https://www.aeaweb.org/atypon.php?return_to=/doi/pdfplus/10.1257/aer.p20151108. By the end of this course, you should have an understanding of the methods of experimental economics and the main behavioural theories. You will have also learnt how to design fieldwork involving experiments and how behavioural economics feeds into policy design. You will have learnt how to summarize and critique research papers published in leading academic journals.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The topics, level and schedule may change, depending on your understanding and interests. Some of the material may be presented in a different order or may be omitted if we run out of time. In some sessions we will play games and/or go through an article together

Trust

Experimental design

Risk aversion

Intertemporal preferences

Cooperation

Fairness and other regarding preferences.

Behavioural theories to be covered include: Kahneman and Tversky's Prospect theory, reference Dependent Preferences, Quasi-Hyperbolic discounting, theories of fairness

3. 成績の評価方法/ Grading:

Assessment will be based on two take-home problems sets (60%) and a presentation/summary and critique of a

research article (40%). For the article summary, students will need to write a < 600 word summary of the contents of the article followed by a < 600 word critique/evaluation of the article and also present your summary and critique to the class in a presentation that lasts < 10 minutes. Students will lose marks for writing more than 600 words.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook. The reading will be given in lectures, but students may wish to look at:

R. Chetty. Behavioural Economics and Policy. American Economic Review, 2015.

Nick Wilkinson. Introduction to Behavioural Economics. 2012.

Sanjit Dhama, The Foundations of Behavioural Economic Analysis

Dohmen, T., 2014. Behavioral labor economics: Advances and future directions. Labour Economics, 30, pp.71-85.

Croson, R. and Treich, N., 2014. Behavioral environmental economics: promises and challenges. Environmental and Resource Economics, 58(3), pp.335-351.

Cardenas, J.C. and Carpenter, J., 2008. Behavioural development economics: Lessons from field labs in the developing world. The Journal of Development Studies, 44(3), pp.311-338.

5. 履修上の注意/Note:

Note: This is an advanced Microeconomics course. It is designed for students who have done Advanced Micro I and II. On occasion, masters students who have successfully completed Micro I and II plus Game Theory may be allowed to take the course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6050E

科目名/ Course Name: Advanced Macroeconomics I

担当教員/ Instructor: PORAPAKKARM Ponpoje/PORAPAKKARM Ponpoje

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is the first course in the Ph.D. macroeconomics sequence. The course will emphasize the methods to solve dynamic macroeconomic problems. Specifically, we will learn about applied dynamic programming and its application on optimal growth models and dynamic stochastic general equilibrium models (DSGE). Two solution methods, namely value function iteration and log-linearization, will be repeatedly utilized to analyze this class of macro models. The class lectures, assigned problems, and the exam will focus on analytic solutions and the underlying economic intuition. Numerical solutions, which require computer programming skills, will be briefly discussed in class.

Throughout the course, we will assume a representative household/firm and frictionless markets. These assumptions will be relaxed in the later courses in this sequence.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1. Introduction to Dynamic Programming

Week 2. Optimal Growth Model (social planner v.s. competitive equilibrium)

Week 3. Solow Growth Model/Optimal Growth Model (solution methods: value function iteration, log-linearization, and method of undetermined coefficients)

Week 4. Endogenous Growth Model: externality/human capital

Week 5. DSGE Model (solution methods: value function iteration and log-linearization)

Week 6. Some RBC Facts and applied DSGE Model: calibration exercises and its criticism, welfare cost of business cycle

Week 7. Lucass Tree Model and Asset Pricing: equity premium puzzle

Week 8. Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Homework (20%)

Final exam (80%)

There will be around 4 homework assignments. Each must be handed in at the beginning of class (the due date will be in the problem set sheet). A missing problem set or a late submission will be assigned zero credit. One problem set with the lowest score will be dropped out when calculating the courses total score.

Importantly, learning from the homework is as important as learning from the class lecture. So everyone should spend a good amount of time working of the assigned problems. Everyone is encouraged to have a group discussion but has to hand in your own answer sheets to get credit. The final exam must be taken on the assigned schedule. A makeup final exam is allowed only in an extreme case, eg. serious accident or hospitalization.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no single textbook covering all topics in the course. So attending the lectures is very important. There is no required textbook. Summarized lecture note will be posted online. Listed below are recommended textbooks for students who plan to choose macroeconomics as a specialized field. Parts of these textbook will be used to as a reference or additional reading in each lecture. All textbooks are available to use in our library.

David Dejong and Chetan Dave, Structural Macroeconometrics 2nd Eds, Princeton University Press. This textbook gives a comprehensive coverage on the econometric methods used in empirical macroeconomics and DSGE models. This is a must-have textbook for macroeconomists using DSGE models in their research.

Jerome Adda and Russell Copper, Dynamic Economics: Quantitative methods and Application, MIT Press. The textbook covers numerical methods in macroeconomics. It is a nice complementary textbook to Dejong and Dave.

Lars Ljungqvist and Thomas Sargent , Recursive Macroeconomic Theory 3rd Eds, MIT Press. This textbook is considered as a main textbook in many 1st year Ph.D. macroeconomics courses, possibly due to its wide coverage of important topics in modern (classical) macroeconomics.

Thomas Sargent, Dynamic Macroeconomic Theory, Harvard University Press. Chapter 1 of the textbook provides a formal treatment of applied dynamic programming.

Additional reference articles will be mentioned in lecture note.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6060E

科目名/ Course Name: Advanced Macroeconomics II

担当教員/ Instructor: 藤本 淳一/ FUJIMOTO Junichi

学期名/ Term: 秋後期/ Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is the second course in the Ph.D. macroeconomics sequence. In contrast to Advanced Macro I, which discussed RBC models and growth models, the course will cover various models of money. The course will also discuss some models of open economy macroeconomics.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1. Introduction, OLG Model of Money

Week 2. OLG Model of Money

Week 3. Search Model of Money

Week 4. Search Model of Money, Classical Monetary Model

Week 5. Classical Monetary Model, Basic NK Model

Week 6. Basic NK Model, Open Economy Macroeconomics

Week 7. Open Economy Macroeconomics

Week 8. Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Problem set (20%)

Final exam (80%)

Each problem set must be handed in at the beginning of class (the due date will be in the problem set sheet). A missing problem set or a late submission will be assigned zero credit.

Importantly, learning from the problem sets is as important as learning from the class lecture. So everyone should spend a good amount of time working of the assigned problems. Everyone is encouraged to have a group discussion but has to hand in your own answer sheets to get credit.

The final exam must be taken on the assigned schedule.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

4-2

There is no single textbook covering all topics in the course, so attending the lectures is very important. Parts of the textbooks below will be used as a reference in each lecture. These are not required textbooks, but if you are going to choose macroeconomics as a specialized field, you should seriously think of buying the first two.

Ljungqvist, L. and T. Sargent, Recursive Macroeconomic Theory 4th ed., MIT Press.

This textbook is considered as a main textbook in many 1st year Ph.D. macroeconomics courses, possibly due to its wide coverage of important topics in modern (classical) macroeconomics.

Lucas, R. and N. Stokey with E.C. Prescott, Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

As with Ljungqvist and Sargent's textbook above, this textbook is widely used in many Ph.D. macroeconomics courses. It is a good technical reference.

Farmer, R. Macroeconomics of Self-fulfilling Prophecies 2nd ed., MIT Press.

This textbook may be useful for those of you who find the two textbooks above too difficult.

Gali, J., Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle 2nd ed., Princeton University Press.

This is one of the popular textbooks in the field of monetary economics. It is more concise than other famous textbooks on this topic.

Vegh, C., Open Economy Macroeconomics in Developing Countries, MIT Press.

This is a recently published textbook on open economy macroeconomics. The author is very good at using relatively simple models to convey important economic intuitions.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6070E

科目名/ Course Name: Advanced Macroeconomics III

担当教員/ Instructor: BRAUN Richard Anton/BRAUN Richard Anton

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course will teach the empirical tools used in quantitative macroeconomics including MLE, SVARS, GMM, Calibration. It will next consider how these methods are used in quantitative empirical and structural macroeconomic research. An important objective of this course to learn how macroeconomic researchers pose and answer their research questions and to learn how to think critically about recent research. These skills will be developed by asking students to give critical presentations of recent working papers and published research.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1 MLE and SVAR (Theory)

Week 2 GMM and Calibration (Theory)

Week 3 Applications to empirical macroeconomics.

Week 4 Structural applications: representative agent macroeconomic models

Weeks 5-6: Structural applications: heterogenous agent macroeconomic models

Week 7: Applications to growth, trade and financial markets.

Week 8: Final exam

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Computational homework assignments 2 (30%).

Student presentations (40%)

Final exam (30%).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

4-1 Slides and readings for each topic will be distributed via the course website (<http://ww3.grips.ac.jp/~braun/courses>) prior to each class.

There are no required textbooks.

4-2 Recommended readings

Econometrics by Fumio Hayashi, Princeton University Press, 2000.

Econometric Analysis by William Greene (8th Edition) Pearson, 2018.

Recursive Macroeconomic Theory by Lars Ljungqvist and Thomas Sargent (4th Edition) 2018.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6080E

科目名/ Course Name: Advanced Macroeconomics IV

担当教員/ Instructor: HSU Minchung/HSU Minchung

学期名/ Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course will introduce the life-cycle model and study its applications on some selected topics of macroeconomic policy, including social insurance programs (e.g. social security/pension and health care system), income/consumption inequality, population aging, aggregate labor market (e.g. the low female labor participation rate in Japan), and government financing issues. The implications for aggregate economy and social welfare will also be discussed. We will learn from some papers and try to replicate their analysis as a beginning step to develop the knowledge for PhD level research.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 (4/11) : No meeting

2 (4/18) : Introduction of life-cycle models

Social Insurance Reform (HHL2014)

3 (4/25) : Population Aging (MY2019) / Paper selection/assignment

4 (5/02) : Income/Consumption Inequality and Risk Sharing over the Life Cycle;

5 (5/09) : Presentation/Discussion (demographic change, social insurance/pension reform, labor policy)

6 (5/16) : Presentation/Discussion (demographic change, social insurance/pension reform, labor policy)

7 (5/23) : Final project proposal

8 : Individual meeting for final project

3. 成績の評価方法/ Grading:

Problem set (20%); Presentation (30%); Final Project (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Gary Hansen, Minchung Hsu and Junsang Lee (2014) "Health Insurance Reform: The impact of a Medicare buy-in" *Journal of Economic Dynamics & Control* 45, 3153-29

Minchung Hsu and Tomoaki Yamada (2019) "Population Aging, Health Care, and Fiscal Policy Reform: The Challenges for Japan" *Scandinavian Journal of Economics* 121-2, 547-577

Kjetil Storesletten, Chris Telmer, and Amir Yaron (2004) "Consumption and Risk Sharing Over the Life Cycle" *Journal of Monetary Economics* 51:3, 609-633

Other readings will be made available on the course website or during lectures.

5. 履修上の注意/Note:

TA: Shahida

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6090E

科目名/ Course Name: Theoretical Foundation of Economic Policy

担当教員/ Instructor: 高橋 和志/ TAKAHASHI Kazushi

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to provide a better understanding of economics to formulate relevant economic policies in developing and emerging economies. Specifically, we will review basic economic concepts and recent empirical findings on specific issues related to poverty alleviation and economic development. Wherever relevant, we will discuss how to bridge the gap between research and practice (e.g., what scholars are interested in and what practitioners feel relevant) toward evidence-based policy making.

The class is organized around lectures and classroom discussions. The lecture is based on undergrad-level knowledge of macroeconomics, microeconomics, and econometrics, and covers more advanced ones. Students are expected to read the assigned reading materials before lectures. Active learning and participation are highly encouraged.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

We will cover the following topics:

- Immigration and labor market
- International trade
- Economic growth
- Poverty and inequality
- Climate change
- Social assistance program and targeting
- Method of policy evaluation

3. 成績の評価方法/ Grading:

Performance in class participation and assignments (50%), and final exam (50%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

Text book

Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo 2019. Good Economics for Hard Times

Other references

Partha Dasgupta. 2007. Economics: A very short introduction.

Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet. 2016. Development Economics: Theory and Practice.

Julie Schaffner. 2013. Development Economics.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6700E

科目名/ Course Name: Advanced Econometrics I

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan/LITSCHIG Stephan

学期名/ Term: 秋前期/ Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to familiarize students with two widely used statistical methods for empirical analysis: ordinary least squares (OLS) and instrumental variable (IV) regression. Students will also acquire a working knowledge of the software Stata. Elementary notions of probability and statistics are required.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Causal inference vs. forecasting and types of data
2. Conditional expectations and their properties
3. Identification, estimation, and inference in bivariate OLS regression
4. Identification, estimation, and inference in multiple OLS regression
5. Measurement error bias and solutions
6. Sample selection bias and solutions
7. Reverse causality bias and solutions
8. Standard error bias and solutions
9. Identification, estimation, and inference in linear IV regression
10. Weak instrument bias and size distortion and solutions
11. Effect heterogeneity, ATE, ITT, ATT, LATE

3. 成績の評価方法/ Grading:

5-6 problem sets (30%) and final exam (70%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

4-1

Lecture notes

4-2

Stock J. H. and M. W. Watson, Introduction to Econometrics (second or third edition, US or international).

Angrist J. D. and J.-S. Pischke, 2009, Mostly Harmless Econometrics, An Empiricist's Companion, Princeton University Press.

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6710E

科目名/ Course Name: Advanced Econometrics II

担当教員/ Instructor: 林 文夫/HAYASHI Fumio

学期名/ Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a course on time series. The topics covered include: ARMA models, VARs, unit roots, and cointegration.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1, 2: basic concepts in time series

review of large sample theory and basic concepts (Section 2.1, 2.2 of Hayashi)

quick review of OLS (Section 2.3-2.6 of Hayashi)

application: nominal interest rates as predictors of inflation (Section 2.11 of Hayashi)

Week 3: application of OLS

Testing for serial correlation (Section 2.10 of Hayashi)

Application: nominal interest rates as predictors of inflation (Section 2.11 of Hayashi)

Week 4,5: univariate and multivariate time series models

linear processes and MA processes (Section 6.1 of Hayashi)

ARMA processes (Section 6.2 of Hayashi)

vector processes (Section 6.3)

estimating autoregressions (Section 6.4)

asymptotics for sample means of serially correlated processes (Section 6.5)

incorporating serial correlation to OLS (Section 6.6)

application: forward exchange rates as optimal predictors (Section 6.8)

Week 6: GMM

Week 7: ML

Week 8: Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

There will be two or possibly three homework problem sets. The grade will depend on those homework assignments (34%) and the final (66%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

F. Hayashi, Econometrics, Princeton University Press, 2000.

J. Hamilton, Time Series Analysis, Princeton University Press, 1994.

5. 履修上の注意/Note:

The prerequisite is ECO6700E (Advanced Econometrics I). Presentation files will be made available before each

class meeting.

Homepage: <https://sites.google.com/view/fumio-hayashis-hp/teaching/advanced-econometrics-ii>

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6720E

科目名/ Course Name: Advanced Econometrics III

担当教員/ Instructor: LEON-GONZALEZ Roberto/ LEON-GONZALEZ Roberto

学期名/ Term: 春前期/ Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course covers estimation with panel data and multinomial choice models as well as maximum likelihood estimation in R. It aims at helping students acquire the practical skills necessary to carry out their own empirical analyses. Through computer sessions, students will learn how to conduct econometric analysis with STATA and R.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Panel Data:

Fixed Effects and Random Effects Models (W. Ch. 10, CT Ch. 21)

Hausman-Taylor type models (W. Ch. 10, CT Ch. 22)

Dynamic Panel Data models (W. Ch. 11, CT Ch. 22)

Multinomial Choice Models (CT Ch. 15)

Maximum Likelihood estimation in R: An application to GARCH models.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Assessment is based on an independently written econometrics project requiring computer use (pass or fail).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

Required Text:

Jeffrey M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross and Panel Data, The MIT Press.

Recommended Textbooks:

Cameron, A. Colin and Trivedi, P.K., Microeconometrics: Method and Applications

Cameron, A. Colin and Trivedi, P.K., Microeconometrics Using STATA

Verbeek, M. A Guide to Modern Econometrics. John Wiley & Sons

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6730E

科目名/ Course Name: Advanced Econometrics IV

担当教員/ Instructor: 後藤 潤/GOTO Jun

学期名/ Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course covers the advanced data analysis with cutting-edge machine learning and statistical techniques. I will cover a range of methodologies including, but not limited to, penalized regression, Random Forests, k-means clustering, and Latent Dirichlet Allocation. The main focus will be on using these techniques to estimate causal effects, but I will also delve into other practical applications such as forecasting and text analysis. In the practical application session, we will use Python and R as programming language.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

We will cover the following topics:

Statistical learning and regression

Resampling methods

High dimensional methods

Tree based methods

Causal inference with machine learning

Double machine learning

Causal forests

Classification methods

Unsupervised learning

Latent Dirichlet Allocation

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Problem sets and classroom participation (40%), Term paper (60%)

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

Reading list will be provided in the first class.

Reference book:

Chan, Felix, and Laszlo Matyas. Linear Econometric Models with Machine Learning. Econometrics with Machine Learning. Cham: Springer International Publishing, 2022. 1-39.

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6770E

科目名/ Course Name: Computer Programming for Economics

担当教員/ Instructor: PORAPAKKARM Ponpoje/PORAPAKKARM Ponpoje

学期名/ Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The course will cover MATLAB programming. The objective is to make students familiar with MATLAB programming and to introduce some numerical methods used in applied economic research. The covered topics are useful for students who plan to take Advanced Macroeconomics III and IV. The best way to learn about programming is learning-by-doing; so the teaching style of this course emphasizes learning from sample codes used to compute some algorithm or to solve specific economic problems.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

No prerequisite course, prior programming skills, or econometric knowledge is needed for this course.

However, it is strongly recommended that students should be familiar with Optimal Growth Models, taught in Advanced Macroeconomics I (Fall I); examples, homework, and the final project will be related to numerical solutions of this class of models.

In addition, students are expected to have basic knowledge of matrix algebra and multivariate calculus.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Week 1-2. Introduction to MATLAB program

Week 3-4. Root finding and Optimization

Week 5. Interpolation

Week 6. Simulation and Programming application: solving a simple RBC model

Week 7. Programming application: Solving a market equilibrium

Week 8. Final exam

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Homework (40%)

Final exam (60%)

The homework must be handed in at the beginning of class. A missing homework or a late submission will be assigned zero credit. Homework with the lowest score will be dropped out when calculating the courses total score.

Importantly, learning from homework is as important as learning from the class lecture. So everyone should spend a good amount of time working of the assigned problems. Everyone is encouraged to have a group discussion but has to hand in your own answers to get credit.

Tentatively, the final exam will ask you to write a MATLAB program to solve a certain problem using numerical

methods discussed in the class.

5. 履修上の注意/Note:

There is no required textbook. There will be short lecture notes for topics in this course. However, these are useful references.

Moler, C. (2004) Numerical Computing with MATLAB, available at <http://www.mathworks.se/moler/chapters.html>

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6810E

科目名/ Course Name: Advanced Development Economics

担当教員/ Instructor: 山内 慎子/YAMAUCHI Chikako

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to provide some of the basic skills to analyse issues related to economic development and improvement in welfare in low-income settings. In particular, we focus on topics in applied microeconomics, and cover theoretical foundation and empirical tools that are commonly used in the literature. Students are assumed to have acquired basic understanding of the PhD level microeconomics and econometrics.

The course is divided into two parts. First three weeks cover several theoretical topics and the rest of the 12 weeks cover six empirical topics. For each empirical topic, a set of two classes is used. In the first class, a lecture will be given on the empirical theory and application example for the topic. In the following class, students will present and discuss an assigned paper related to the topic.

Students are expected to read the assigned reading materials before each lecture. Before each discussion class, students (except for a presenter) are required to submit a referee report. It should be within three pages with 12 font, single-spacing, and reasonable margins.

In the discussion class, a presenter will present a paper using power point slides (about 30 minutes), a discussant will present comments using power point slides (15 minutes), and all the students will participate in a general discussion on the paper (45 minutes). The papers and presentation dates will be assigned to all the students in the 2nd week. You can find the papers to be presented in the reading list below (the paper with asterisk (*) for the even-numbered weeks).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Date

Content

1

10-Oct

Introduction/Theory

2

17-Oct

Theory

3

24-Oct

Theory

4

31-Oct

DD

5

7-Nov

DD

6

13-Nov

Matching

7

21-Nov

Matching

8

28-Nov

IV

9

5-Dec

IV

10

12-Dec

RD

11

19-Dec

RD

12

26-Dec

Exp

13

9-Jan

Exp

14

16-Jan

Exp

15

23-Jan

Exp

Outline & reading list

The papers with asterisk (*) will be mainly discussed in the lecture weeks, and presented by students in the presentation weeks. Other papers on the list are recommended readings. They include applied studies for developing countries which use the methodology covered in that week, and studies in Econometrics and Statistics which provide

foundations for the methodology.

In order to cover several topics in causal inference and program evaluation, we follow Todd (2008) [Handbook of Development Economics, Chapter 60], Ravallion [Handbook of Development Economics, Chapter 59] and Duflo (2008) Handbook of Economics vol.3 Ch.61].

Week 1: Orientation and Theoretical foundations

* "Household economics" in Bardhan and Udry ed., Development Microeconomics, Oxford University Press.

* Chapter 1, Inderjit Singh, Lyn Squire and John Strauss ed., 1986, Agricultural Household Models: Extensions, Applications, and Policy, Johns Hopkins University Press.

* Thomas, Duncan, 1990 "Intra-household resource allocation: an inferential approach" JHR 25(4) 635-664.

McElroy and Horney, "Nash-bargained household decisions: toward a generalization of the theory of demand" International Economic Review, 22(2).

Becker, Gary 1965 "A theory of the allocation of time," The Economic Journal, 75(299) 493-517.

Browning and Chiappori, 1998 "Efficient intra-household allocations; a general characterization and empirical tests," Econometrica, 66(6) 1241-78.

Week 2: Theoretical foundations continued, Behavioral issues

* A. Banerjee and E. Duflo, 2005, Growth Theory through the Lens of Development Economics, in P. Aghion and S.N. Durlauf ed., Handbook of Economic Growth, Vol. 1A, pp.479-499.

* Strotz, 1956, RES Myopia & inconsistency in dynamic utility maximization

Phelps and Pollak, 1968, RES on second-best national saving and game-equilibrium growth

Laibson 1997 AER, Golden eggs and hyperbolic discounting

Banerjee and Mullainathan, 2010, THE SHAPE OF TEMPTATION: IMPLICATIONS FOR THE ECONOMIC LIVES OF THE POOR, NBER 15973.

* Ashraf, Nava. Spousal Control and Intra-Household Decision Making: An Experimental Study in the Philippines. American Economic Review 99, no. 4 (September 2009): 1245-1277.

Week 3: Behavioral issues continued

Week 4: The evaluation problem and difference-in-differences estimators

* Todd (2008) 1-3.1

* Ravallion (2008) 1-3, 7

* Duflo, E. 2001 "Schooling and labor market consequences of school construction in Indonesia: Evidence from an unusual policy experiment" AER

Week 5: Student presentation and discussion on DD estimators

* Wydick, Glewwe, and Rutledge, 2013, Does international child sponsorship work? A six-country study of impacts on adult life outcomes, JPE, 121(2) 393-436

Emily Oster and Robert Jensen, The Power of TV: Cable Television and Womens Status in India, Quarterly Journal of Economics, August 2009

Robin Burgess and Rohini Pande, "Do Rural Banks Matter? Evidence from the Indian Social Banking Experiment," AER, 95(3), pp.780-795

Glewwe, Kremer, Moulin, Zitzewitz, 2004, Retrospective vs. prospective analyses of school inputs: the case of flip charts in Kenya, JDE, 74, 251-268.

Ashenfelter 1987 "Estimating the effect of training programs on earnings," Review of Economics and Statistics, 60, 47-57

Heckman and Smith 1999 "The pre-program earnings dip and the determinants of participation in a social program+ implications for simple program evaluation strategies," Economic Journal 109 (457) 313-348

Heckman, La Londe and Smith 1999 "The economics and econometrics of active labor market programs," in Ashenfelter, O., Card, D. (Eds.), Handbook of Labor Economics, vol.3. North-Holland, Amsterdam, pp.1865-2097

Rosenzweig and Wolpin 1986 "Evaluating the effects of optimally distributed public programs:

Child health and family planning," AER 76(3) 470-482

Wolpin and Rosenzweig 1988 "Migration selectivity and effects of public programs," J Pub E 37
265-289

Glewwe, Kremer and Moulin 2010 "Teacher incentives," AEJ:AE, 2, 205-227 July

Week 6: Matching estimators

* Todd (2008) 3.2

* Ravallion (2008) 5

* Godtland, Sadoulet, de Janvry, Murgai, Ortiz 2004 "The impact of farmer field schools on knowledge and productivity: a study of potato farmers in the Peruvian Andes," EDCC 53, 63-92.

Week 7: Student presentation and discussion on matching estimators

* Diaz and Handa 2006 An Assessment of Propensity Score Matching as a Nonexperimental Impact Estimator, Journal of Human Resources 72(1) 159-218

Galiani, Gertler and Schargrodsky 2005, "Water for life; the impact of the privatization of water services on child mortality in Argentina" JPE 113 83-120 February.

Buddlemeyer and Skofias (2004) World Bank Policy Research Working Paper 3386

Rosebaum and Rubin (1983) "The central role of the propensity score in observational studies for causal effects," Biometrika 70, 41-55.

Heckman, Ichimura and Todd (1998) Characterizing selection bias using experimental data, Econometrica 66 (5), 1017-1098

Jalan and Ravallion 2001, "Does piped water reduce diarrhea for children in rural India," Journal of Econometrics, 112 153-173.

Gertler, Levine and Ames 2004 "Schooling and parental death," REStat 86(1) 211-225

Angrist and Lavy, 2001 "Does teaching training affect pupil learning? Evidence from matched comparisons in Jerusalem public schools," Journal of Labor Economics, 19(2) 343-369

Chen and Ravallion, 2003 "Hidden impact? Household saving in response to a poor-area development project," Journal of Public Economics 89 11-12 December 2183-2204.

Week 8: Instrumental variables

* Todd (2008) 3.3 and 3.4

* Ravallion (2008) 8

* Duflo and Pande (2007) Dams, Quarterly Journal of Economics, 122(2) 601-646

Angrist and Imbens, 1994, "Identification and Estimation of Local Average Treatment Effects" *Econometrica*, 62(2) 467-475.

Week 9: Student presentation and discussion on IVE and LATE

* Elizabeth Brainerd and Nidhiya Menon, "Seasonal effects of water quality: The hidden costs of the Green Revolution to infant and child health in India," *Journal of Development Economics*, 107, 49-64

Emily Oster, HIV and Sexual Behavior Change: Why Not Africa? *Journal of Health Economics*, January 2012

Claudio Ferraz and Frederico Finan, 2011, Electoral Accountability and Corruption: Evidence from the Audits of Local Governments, *AER*, 101 (June): 1274-1311

Taryn Dinkelman, The Effects of Rural Electrification on Employment: New Evidence from South Africa, *American Economic Review* 101 (December 2011): 3078-3108

Ravallion and Wodon (2000) Does child labor displace schooling? Evidence on behavioural responses to an enrolment subsidy, *Economic Journal* 110 C158-C176

Paxon and Schady (2002) The allocation and impact of social funds: spending on school infrastructure in Peru, *World Bank Economic Review* 16, 297-319

Heckman Ichimura, and Todd 1996, Proceedings of the National Academy of Sciences 93(23) 13416-13420 control function approach

Heckman 1979 *Econometrica* 47(1) 153-61

Heckman and Robb, 1985 Alternative methods for evaluating the impact of interventions, in Heckman, Singer (Eds.) *Longitudinal analysis of labor market data*. Cambridge university press, Cambridge, UK 156-246.

Imbens and Angrist 1994, "Identification of local average treatment effects" *Econometrica* 62 467-75

Week 10: Regression discontinuity

* Todd (2008) 3.5

* Ravallion (2008) 6

* Chay, McEwan and Urquiola 2005 "The central role of noise in evaluating interventions that use test scores to rank schools," AER Sept. 1237-1258.

Hahn, Todd, and Van der Klaauw 2001 "Identification of treatment effects by regression-discontinuity design," *Econometrica*, February 201-209

David S. Lee and Thomas Lemieux, 2010, Regression Discontinuity Designs in Economics, *Journal of Economic Literature* 48 (June): 281355

Lee, David S. 2008. "Randomized Experiments from Non-random Selection in U.S. House Elections." *Journal of Econometrics*, 142(2): 67597.

Week 11: Student presentation and discussion on RD estimators

* Stelios Michalopoulos and Elias Papaioannou 2014 "National Institutions and Subnational Development in Africa", *QJE* 129(1) 151213

Cristian Pop-Eleches and Miguel Urquiola, 2013, Going to a Better School: Effects and Behavioral Responses *American Economic Review* 2013, 103(4): 12891324

Preschool and Maternal Labor Market Outcomes: Evidence from a Regression Discontinuity Design, Berlinski, Samuel; Galiani, Sebastian; McEwan, Patrick J.; *Economic Development and Cultural Change*, January 2011, v. 59, iss. 2, pp. 313-44

Does More Cash in Conditional Cash Transfer Programs Always Lead to Larger Impacts on School Attendance?, Filmer, Deon; Schady, Norbert; *Journal of Development Economics*, September 2011, v. 96, iss. 1, pp. 150-57

Home Computer Use and the Development of Human Capital, Malamud, Ofer; Pop-Eleches, Cristian; *Quarterly Journal of Economics*, May 2011, v. 126, iss. 2, pp. 987-1027

Case and Deaton (1998) Large cash transfers to the elderly in South Africa, *Economic Journal* 108, 1330-1361

Duflo (2003) Grandmothers and granddaughters; old age pension and intrahousehold allocation in South Africa, *World Bank Economic Review* 17(1) 1-26

Buddlemeier and Skoufias, 2004 World Bank Policy Research Working Paper, WPS3386

Pitt and Khandker 1998 JPE

[Morduch 1998 criticism]

Lavy 2004, "Performance Pay and Teachers Effort, Productivity, and Grading Ethics." *American Economic Review* 99(5): 19792011.

Angrist and Lavy 1999 "Using Maimonides rule to estimate the effect of class size on scholastic achievement," *QJE*, May.

Week 12: Experiment 1: Setup, randomization designs and interpretations

* Ravallion (2008) 4, 9

* Duflo (2008) Handbook of Economics vol.3 Ch.61, sections 1-3

Week 13: Student presentation and discussion on experiments: health

* Timothy Powell-Jackson, Kara Hanson, Christopher J.M. Whitty, Evelyn K. Ansah, 2014, "Who benefits from free healthcare? Evidence from a randomized experiment in Ghana, Journal of Development Economics 107, 305-319

Jose Urquieta, Gustavo Angeles, Thomas Mroz, Hector Lamadrid-Figueroa and Bernardo Hernandez, "Impact of Oportunidades on Skilled Attendance at Delivery in Rural Areas" Economic Development and Cultural Change, April 2009, v. 57, iss. 3, pp. 539-58.

Miguel and Kremer 2004 Worms: identifying impacts on education and health in the presence of treatment externalities, Econometrica 72(1) 159-218

Behrman, Parker and Todd 2011 Do conditional cash transfers for schooling generate lasting benefits? A five-year followup of PROGRESA/Oportunidades, Journal of Human Resources

Karlan and Zinman, 2005, Observing unobservables

Week 14: Experiment 2: Sample size and the power of experiments

* Ravallion (2008) 4, 9

* Duflo (2008) Handbook of Economics vol.3 Ch.61, sections 4-6

Deaton (1997) The analysis of household surveys: a microeconomic approach to development policy, Johns Hopkins, 1.1, 1.4.

Bloom, H.S. (1995) "Minimum detectable effects: a simple way to report the statistical power of experimental designs," Evaluation Review, 19(5), pp.547-556.

Bloom, H.S. (2005) "Randomizing groups to evaluate place-based programs," in Learning more from social experiments, Russell Sage Foundation, NY, pp.115-172

Deaton (2010) Instruments, randomization, and learning about development, Journal of

Economic Literature, 48(2), 42455.

Week 15: Student presentation and discussion on experiments: savings

* Ashraf, Karlan and Yin 2006 Tying Odysseus to the mast: evidence from a commitment savings product in the Philippines, QJE 121(2) 635-672

Xavier Gine, Dean Karlan, and Jonathan Zinman, Put Your Money Where Your Butt Is: A Commitment Savings Account for Smoking Cessation, (October 2010) American Economic Journal: Applied Economics, 2(4)

Duflo, Kremer and Robinson, 2011, "Nudging farmers to use fertilizer: theory and experimental evidence from Kenya," AER, 101(6): 2350-90.

Karlan, McConnell, Mullainathan, and Zinman, 2011, "Getting to the top of mind: how reminders increase saving," NBER 16025.

Olken (2007) "Monitoring corruption: evidence from a field experiment in Indonesia" JPE 115(2)

These are not covered in the course, but for your information

Research on education using experiments

Muralidharan and Sundararaman, 2011, "Teacher Performance Pay: Experimental Evidence from India" JPE 119(1) 39-77.

Leonardo Bursztyn and Lucas C. Coffman, 2012, "The Schooling Decision: Family Preferences, Intergenerational Conflict, and Moral Hazard in the Brazilian Favelas," JPE 120(3), pp. 359-397.

Schultz 2004 School subsidies for the poor: evaluating the Mexican Progresa poverty program, JDE 74(1) 199-250

Angrist, Bettinger, Kremer 2006 Long-term educational consequences of secondary school vouchers: evidence from administrative records in Columbia, AER 96(3) 847-862.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation

Referee report 60% (6 papers to read, at most 5 opportunities to write a report [you do not need to submit this report when you are a presenter, but please submit it when you are a discussant])

In-class presentation 20%

In-class discussion as a discussant 20%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Textbooks

There is no specific textbook for the entire course. Relevant reading materials are assigned for each lecture.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO6820E

科目名/ Course Name: Economics of Health and Education

担当教員/ Instructor: 山内 慎子/YAMAUCHI Chikako

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to provide some of the basic skills to analyze issues related to health and education using the applied microeconomics framework. In particular, we focus on topics relevant for developing countries. Students are assumed to have acquired basic understanding of the PhD level microeconomics and econometrics.

Students are expected to read the assigned reading materials (listed below in the outline section) before each lecture. Students are also required to present an academic paper and criticize another paper at least once. Master's students can present in a group of up to two students, and PhD students are required to present alone. After the presentation, students are also required to submit a report on the presented paper following "the guideline for reports". It should be within three pages with 12 font, single-spacing, and reasonable margins. Master's students can work on this report together, but each student needs to submit his/her own report.

In the discussion class, first a presenter or presenters present a paper using power point slides (about 20 minutes). Next, a discussant discusses comments/criticism (no need to summarize the paper, 5 minutes). The presenter(s) then address the comments (10 minutes). After that, all the students participate in a general discussion of the paper (10 minutes). This format will allow us to have two presentations in one class. Alternatively, if the number of students is small, we can have one presentation in one class. This discussion class will take place towards the end of the course, before the final exam. You can find the papers to be presented in the list below.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction W1

- Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet (2015) Development Economics: theory and Practice, Routledge, Ch.17 "Human capital"

- Dupas, Pascaline, 2011, "health behavior in developing countries", Annual Review of Economics, 3, September.

2. Theoretical Frameworks 1 (Unitary Models) W2,3

- Gary S. Becker, A Theory of the Allocation of Time, The Economic Journal, Vol. 75, No. 299 (Sep., 1965), pp. 493-517

- Michael Grossman, On the Concept of Health Capital and the Demand for Health, *Journal of Political Economy*, Vol. 80, No. 2 (Mar. - Apr., 1972), pp. 223-255

- Mark R. Rosenzweig and T. Paul Schultz, Market Opportunities, Genetic Endowments, and Intrafamily Resource Distribution: Child Survival in Rural India *The American Economic Review*, Sep., 1982, Vol. 72, No. 4 (Sep., 1982), pp. 803-815

- Jere R. Behrman, Intrahousehold Allocation of Nutrients in Rural India: Are Boys Favored? Do Parents Exhibit Inequality Aversion? *Oxford Economic Papers*, Mar., 1988, New Series, Vol. 40, No. 1 (Mar., 1988), pp.32-54

- Mwab, Germano, 2008, Health Economics for low-income countries, *Handbook of Development Economics*, Volume 4, 2007, Chapter 53, Pages 3305-3374.

3. Theoretical Frameworks 2 (Collective Models) W3,4

- BEHRMAN, JERE R., POLLAK, ROBERT, and TAUBMAN, PAUL, 1982. Parental Preferences and Provision for Progeny. *Journal of Political Economy* 90:1 (February), 52-73.

- McElroy and Horney, "Nash-bargained household decisions: toward a generalization of the theory of demand" *International Economic Review*, 22(2).

- Thomas, Duncan, 1990 "Intra-household resource allocation: an inferential approach" *JHR* 25(4) 635-664.

- Browning and Chiappori, 1998 "Efficient intra-household allocations; a general characterization and empirical tests," *Econometrica*, 66(6) 1241-78.

4. More general discussion of determinants of health and policy issues - W5, 6

- Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet (2015) *Development Economics: theory and Practice*, Routledge, Ch.17 "Human capital," Health sections.

5. Recent issues on demand for health investment behavior W6,7

- Dupas, Pascaline, 2011, "health behavior in developing countries", *Annual Review of Economics*, 3, September.

6. Investment in clean hands - W8

- Kremer and Zwane, 2007, *Cost-Effective Prevention of Diarrheal Diseases: A Critical Review*

- Kesler and Zhang, Behavioral Economics and Health in Oxford Textbook of Public Health 6th ed. Sec 6.7, edited by Roger Detels, Martin Gulliford, Quarraisha Abdool Karim, and Chorh Chuan Tan

- Bennett et al., 2018, LEARNING, HYGIENE AND TRADITIONAL MEDICINE, Economic Record.

- Tidwell, et al., 2019, Effect of Two Complementary Mass-Scale Media Interventions on Handwashing with Soap among Mothers, Journal of Health Communication.

7. Access to health facilities W9

- Buchmueller, T. C., Jacobson, M., and Wold, C. (2006). How far to the hospital?: The effect of hospital closures on access to care. Journal of Health Economics, 25(4):740 -761.

- Elizabeth Ty Wilde, Health Economics, Volume 22, Issue 7, pages 790806, July 2013, DO EMERGENCY MEDICAL SYSTEM RESPONSE TIMES MATTER FOR HEALTH OUTCOMES?

- Lu, Y. and Slusky, D. J. G. (2016). The impact of womens health clinic closures on preventive care. American Economic Journal: Applied Economics, 8(3):100124.

- Avdic, D. (2016). Improving efficiency or impairing access? health care consolidation and quality of care: Evidence from emergency hospital closures in Sweden. Journal of Health Economics, 48:44-60.

- Rosenzweig, M. R. and Wolpin, K. I. (1982). Governmental interventions and household behavior in a developing country: Anticipating the unanticipated consequences of social programs. Journal of Development Economics, 10(2):209-225.

- Manang and Yamauchi, 2020, Economic Development and Cultural Change, The impact of access to health facilities on maternal care use, travel patterns and health status: Evidence from longitudinal data from Uganda, <https://doi.org/10.1086/702794>

8. Returns to education W10, 11

- David Card, 1999, THE CAUSAL EFFECT OF EDUCATION ON EARNINGS, in Handbook of Labor Economics, Volume 3, Edited by O. Ashenfelter and D. Card, Chapter 30.

- Duflo, E. (2001). Schooling and Labor Market Consequences of School Construction in Indonesia: Evidence From an Unusual Policy Experiment. American Economic Review, 91(4), 795813.

- Mazumder, B. (2008). Does Education Improve Health? A Reexamination of the Evidence from Compulsory

Schooling Laws. *Economic Perspectives*, 32(2), 216.

- Stephens, M. J., & Yang, D.-Y. (2014). Compulsory Education and the Benefits of Schooling. *The American Economic Review*, 104(6), 1777-1792.

- Fee abolition

□ Osili, U. O., & Long, B. T. (2008). Does Female Schooling Reduce Fertility? Evidence from Nigeria. *Journal of Development Economics*, 87(1), 577-5.

□ Keats, A. (2018). Women's Schooling, Fertility, and Child Health Outcomes: Evidence From Uganda's Free Primary Education Program. *Journal of Development Economics*, 135, 142-159

- Entrance exam threshold

□ Ozier, O. (2018). The Impact of Secondary Schooling in Kenya: A Regression Discontinuity Analysis. *Journal of Human Resources*, 53(1), 157-188. Keats

9. Determinants of education W12, 13

Week 12: Student presentation 1

Week 13: Student presentation 2

Week 14: Student presentation 3

Week 15: Final Exam

Papers to be presented by students (to be added more if necessary)

- Dammert, et al., 2014, Preventing dengue through mobile phones: Evidence from a field experiment in Peru, Journal of Health Economics
- Jalan and Somanathan, 2008, The importance of being informed: Experimental evidence on demand for environmental quality, JDE Volume 87, Issue 1, August 2008, Pages 14-28.
- Madajewics, et al., 2007, Can information alone change behavior? Response to arsenic contamination of groundwater in Bangladesh, Journal of Development Economics.
- Jensen and Oster, 2009, THE POWER OF TV: CABLE TELEVISION AND WOMENS STATUS IN INDIA, Quarterly Journal of Economics,
- Osili, U. O., & Long, B. T. (2008). Does Female Schooling Reduce Fertility? Evidence from Nigeria. Journal of Development Economics, 87(1), 5775.
- Keats, A. (2018). Women's Schooling, Fertility, and Child Health Outcomes: Evidence From Uganda's Free Primary Education Program. Journal of Development Economics, 135, 142159
- Ozier, O. (2018). The Impact of Secondary Schooling in Kenya: A Regression Discontinuity Analysis. Journal of Human Resources, 53(1), 157188.
- Zachary Wagner, John Bosco Asiimwe, David I. Levine, 2020, When financial incentives backfire: Evidence from a community healthworker experiment in Uganda, JDE 144, 102437

Class Schedule

Week
Date
Topic

Oct. 11

Introduction

2

Oct. 18

Theoretical Frameworks 1 (Unitary Models)

3

Oct. 25

Theoretical Frameworks 1 & 2

4

Nov. 1

Theoretical Frameworks 2 (Collective Models)

5

Nov. 8

More general discussion of determinants of health and policy issues

6

Nov. 15

More general discussion of determinants of health and policy issues, Recent issues on demand for health investment behavior

7

Nov. 22

Recent issues on demand for health investment behavior

8

Nov. 29

Investment in clean hands

9

Dec. 6

Access to health facilities

10

Dec. 13

Returns to education

11

Dec. 20

Returns to education, Student presentation 1

12

Dec. 27

Student presentation 2

13

Jan. 10

Student presentation 3

14

Jan. 17

Student presentation 4

15

Jan. 24

Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

In-class presentation 20%

In-class discussion 5%

Report 25%

Final exam 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

There is no specific textbook for the entire course. Relevant reading materials are assigned for each lecture.

For those who would like to review the basics of the optimization theory, the following might be useful:

Microeconomic Theory: Basic Principles and Extensions

Walter Nicholson and Christopher Snyder, 2016

Ch.2 Mathematics for Microeconomics

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7010E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar I

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics).

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, in order to provide you with a framework for developing and presenting your own research ideas. You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

see

<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

for developments

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Paper Assignment: Students enrolled in Graduate Seminar I have a paper assignment. As a first step, each student should meet with the Program Director to agree a title and research question for the paper in the early weeks of the term. The deadline for submission (to Program Coordinator) will be the first Monday of August for students taking the Graduate Seminar I in Spring and the first Monday of February for students taking the Graduate Seminar I in the Fall term. (This requirement does not apply to Graduate Seminar III students.) There is no formal word limit to the policy paper, but it should normally be 4-5,000 words or 10-15 pages of A4. This assignment is to provide you with a goal to keep you moving along toward finding a dissertation topic. Your dissertation topic may not yet be well

developed, and in this case you can focus more on background and literature review in your paper. If your topic is more developed, you may wish to focus more on your methodology and even some preliminary results. This paper may be used as a basis for writing your dissertation. For those of you who do not yet hold an MA degree from GRIPS, this paper will also serve as your policy proposal paper for the MA degree.

Originality. The policy paper should not be a piece of work that you have previously submitted at GRIPS or elsewhere for assessment. However you are welcome to build on assignments and on the research proposal that you submitted to GRIPS as part of your admissions application. As usual with written work, you should be careful to avoid plagiarism. The policy paper may be put through plagiarism detection software as part of the assessment process.

Assessment. The policy paper is assessed as a pass or a fail. It will usually be graded by your potential advisor, who will pass a report to the PA program director. If there are significant problems with the paper, you may be asked to redraft some or all sections. The most common areas of weakness are:

Vague or overly general research question.

Failure to have considered the existing literature properly.

Wishful thinking on data sources, particularly when new data collection might be involved or where the relevant data set is unobtainable without payment or the time series is short.

Basic guideline. A paper should include the following:

A clear research question.

Motivation for the relevance, novelty and importance of the research question.

A thorough literature review, in order to show how your proposal will extend the existing body of research.

A detailed discussion of data sources. Where the data is not available you will also need to set out how you will obtain it, the time it will take to do fieldwork and how the work will be funded.

A discussion of your empirical strategy (e.g. issues of identification, the model you will use for estimation or calibration etc.) Note that it is more important that you discuss important challenges rather than the details of a specific model.

A discussion of potential problems and extensions.

Cited references on a separate page at the end. You should cite in one of the standard styles used in economic journals, such as the Chicago or Harvard style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

none

5. 履修上の注意/Note:

You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. If you are interested, please discuss it with an instru

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7010E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar I

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics).

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, in order to provide you with a framework for developing and presenting your own research ideas. You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

see

<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

for developments

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Paper Assignment: Students enrolled in Graduate Seminar I have a paper assignment. As a first step, each student should meet with the Program Director to agree a title and research question for the paper in the early weeks of the term. The deadline for submission (to Program Coordinator) will be the first Monday of August for students taking the Graduate Seminar I in Spring and the first Monday of February for students taking the Graduate Seminar I in the Fall term. (This requirement does not apply to Graduate Seminar III students.) There is no formal word limit to the policy paper, but it should normally be 4-5,000 words or 10-15 pages of A4. This assignment is to provide you with

a goal to keep you moving along toward finding a dissertation topic. Your dissertation topic may not yet be well developed, and in this case you can focus more on background and literature review in your paper. If your topic is more developed, you may wish to focus more on your methodology and even some preliminary results. This paper may be used as a basis for writing your dissertation. For those of you who do not yet hold an MA degree from GRIPS, this paper will also serve as your policy proposal paper for the MA degree.

Originality. The policy paper should not be a piece of work that you have previously submitted at GRIPS or elsewhere for assessment. However you are welcome to build on assignments and on the research proposal that you submitted to GRIPS as part of your admissions application. As usual with written work, you should be careful to avoid plagiarism. The policy paper may be put through plagiarism detection software as part of the assessment process.

Assessment. The policy paper is assessed as a pass or a fail. It will usually be graded by your potential advisor, who will pass a report to the PA program director. If there are significant problems with the paper, you may be asked to redraft some or all sections. The most common areas of weakness are:

Vague or overly general research question.

Failure to have considered the existing literature properly.

Wishful thinking on data sources, particularly when new data collection might be involved or where the relevant data set is unobtainable without payment or the time series is short.

Basic guideline. A paper should include the following:

A clear research question.

Motivation for the relevance, novelty and importance of the research question.

A thorough literature review, in order to show how your proposal will extend the existing body of research.

A detailed discussion of data sources. Where the data is not available you will also need to set out how you will obtain it, the time it will take to do fieldwork and how the work will be funded.

A discussion of your empirical strategy (e.g. issues of identification, the model you will use for estimation or calibration etc.) Note that it is more important that you discuss important challenges rather than the details of a specific model.

A discussion of potential problems and extensions.

Cited references on a separate page at the end. You should cite in one of the standard styles used in economic journals, such as the Chicago or Harvard style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

none

5. 履修上の注意/Note:

You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. If you are interested, please discuss it with an instru

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7020E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar II

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7020E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar II

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7021J

科目名/ Course Name: 政府と市場 (Government and Market)

担当教員/ Instructor: 細江 宣裕/HOSOE Nobuhiro

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

1.1 目的-あなたの知っている経済学で何が説明できるか・できないか

本講義の目的は2つである。

1つ目は、ミクロ経済学 I(ECO1000J)・同 II(ECO1010J)によって修得した経済学の手法 を用いて、われわれが日々目にする大小の社会・経済的問題を経済学的視点から分析し、その解決策を提示する訓練を行う、一種の経済政策の科目としてある。

ミクロ経済学 I・II では、まず分析手法が解説され、つぎにそれを用いた分析例や応用例 が提示されてきた。ここでは、それぞれの社会・経済現象に対して、どのような手法を適用して考察すべきか、あるいは、そのほかの分析方法はないのかといった視点で検討する訓練を行い、経済学的考え方に関する理解と応用力を高め、一方で、その限界に関する 理解を深める。前者はいわば数学の計算問題にあたり、ここで行われるものは文章題にあ たりと考えると考えればよい。

2つ目は、自分の考えを、よりよく相手に伝える方法(プレゼンテーション等)を学ぶことにある。書籍や論文を読んで自分が理解することと、その内容を他人に理解させることは、まったく異なる事柄である。

ここでは、上で書いたように、経済学の本の中の短い 1 章、あるいは、執筆途中の自らの論文を題材にし、その内容を聴衆に伝える方法、聴衆がそれを聴いて(広い意味で知的に)楽しむことができるようにす

ることができる方法を学ぶ。

1.2 講義形式と履修要件

報告担当者・グループが下記の文献、または、自らが執筆中の論文(ポリシー・ペーパー 等)を参考にし、その内容を全員に理解できるように解説するゼミ形式で行う。

解説の内容としては、概要、重要または各自が興味を持った箇所の解説、ほかの出席者が一読しただけではわからないであろう箇所の説明、(ほかの出席者に訊いてみたい、助けを求めたい)報告者自身の疑問・質問、日本の社会・経済、あるいは、各自の興味ある分野に照らしたときの示唆といった事柄を含むことになるであろう。担当箇所のすべてをカバーする必要はないし、実際、メリハリ無く平板にすべてをなぞるだけでは出席者は満足しないであろう。報告者以外も、よい質問を通じた講義への貢献のために該当箇所を一読しておくべきことは言うまでもない。

なお、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ないし、同様の科目で講じられる経済学の知識があることが望ましいが、それらの単位取得がなされていなくても受講することは可能である。

この講義は、SDGsの目標8(経済成長),9(産業と技術),11(都市と住宅)等に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義で解説されるモデルの内容と毎週のスケジュールは以下の通りである。

講義解説: 『20歳の時に知っておきたかったこと』

講義の解説を行い次回以降の報告担当者を決める。報告担当箇所は、可能な限り各自が(先着順等で)志願した箇所になるようにする予定。最後に質疑と、頭の準備体操をする。

初級編: 『経済学で現代社会を読む』

社会・経済問題に関してどのように経済学的な切り口を与えることができるかを、最も標準的な形で学ぶ。本書後半に各章の解説編がついているので(ただし、最新の改訂新版にはこれがないので本講義には不適)これを参考に議論をすることができる。

中級編: 『ヤバい経済学: 悪ガキ教授が世の裏側を探検する』

ここで示される経済学的分析手法としては、ミラーほか(1995)中の経済モデルのようにうまく「型にはめた」ものは少ないが、経済学的な考え方(直感)をどのように適用するべきか、それによってどのように「通念」に挑戦するかを学ぶことができるであろう。くわえて、(数学的要素の少ない)簡便な方法で問題に答える方法についても示唆を与える。

上級編: 『フリーからお金を生み出す新戦略』

一種のITビジネス書である一方、経済学的な考え方の有効性とそれに関する各自の理解度を試すよい機会を提供している。Web・デジタル化を通じた「無料」サービスが本当に無料なのか、なぜ可能になるのか、(これまでに学んだ)経済学でこれを説明できるか等、考える課題に事欠かない。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義における貢献で評価する。各自の報告内容を中心に、ほかの報告者による報告内容を補足したり不明点をあぶり出したりする質問等によって、出席者全員の理解と学問的満足度を高める貢献を高く評価す

る。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必携のテキスト等

・本講義を履修することを検討している場合には、夏学期の間に以下の3つの教科書にあらかじめ目を通しておくといよいであろう。これらの教科書中の1章ないし数章-履修者数に依る-ずつを出席者が報告する。(最終的にこれらのすべての章をカバーしようという意図はない。)

ミラー, R. L. ほか(1995)『経済学で現代社会を読む』, 日本経済新聞社.(改訂新版 2010) ではない方)

レヴィット, S. D., ダブナー, S. J.(2007)『ヤバい経済学: 悪ガキ教授が世の裏側を探検する』, 増補改訂版, 東洋経済新報社.

アンダーソン, C. (2009)『フリーからお金を生み出す新戦略』, 日本放送出版協会.

Miller, R. L. et al. (2013) The Economics of Public Issues, Pearson.

Levitt, S. D., Dubner, S. J. (2009) Freakonomics, Harper.

Anderson, C. (2009) Free: The Future of a Radical Price, Hyperion.

4-2 その他

・本講義には直接役立つわけではないが、第1章だけでもGRIPSにいる間に読んでおく(頭の準備体操)

シーリグ, T. (2010)『20歳の時に知っておきたかったこと』, 阪急コミュニケーションズ. Seelig, T. (2009) What I Wish I Knew When I Was 20, Harperone.

・ミクロ経済学 I(ECO100J)・同 II(ECO101J)の教科書 八田達夫(2008)『ミクロ経済学 I』, 東洋経済新報社. 八田達夫(2009)『ミクロ経済学 II』, 東洋経済新報社.

5. 履修上の注意/Note:

教科書の内容を理解することも意義があるが、それ以上に、自分が見聞き・知悉している内容をうまく伝える技術を体得するための訓練の場所でもある。受講者の希望、時間的余裕次第では、教科書の内容に限らず、追加的に、各自の執筆中の論文の内容に関連した事柄を報告する、中間報告、最終報告の練習をすること、また、オーディエンスとしても、ほかの学生によるプレゼンテーションからどのような方法が効果的かを学びつつ、報告者の口頭報告を改善するためによいコメントをする方法を学ぶことも有益である。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7030E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar III

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research

proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7030E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar III

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research

proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7040E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar IV

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7040E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar IV

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7050E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar V

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7050E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar V

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7060E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar VI

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7060E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar VI

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7070E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar VII

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7070E

科目名/ Course Name: Graduate Seminar VII

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan, 松本 英彦, 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤/LITSCHIG Stephan, MATSUMOTO Hidehiko, YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro and GOTO Jun

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a required seminar course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exam (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students, such as Ph.D. students in the Public Policy program, or Policy Analysis students who have not yet passed a Qualifying Exam, are welcome to attend, but such students will not receive credit.

The purpose of this course is to help prepare Ph.D. students to conduct economics research for your dissertations. We will do this by inviting outside speakers to describe their own research, by discussing research methods, and by having students present their own research progress.

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage (<http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>). We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Each outside speaker will present a paper on a different topic, in the general areas of micro, macro and econometrics. The list of speakers is continually being updated. For the most updated list please see: <http://www3.grips.ac.jp/~econseminar/>

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: Students should not have unexcused absences. If you cannot attend a session, please contact an instructor in advance about it.

(2) Participation: Please participate in discussions and ask questions to presenters about their research and methods.

(3) Presentation: You are not required to give a presentation about your research, but interested students are welcome to do so, either as a full 90 minute seminar, or as half of a seminar along with another student. (Note that we will expect a short research presentation as part of Graduate Student Seminar II in the fall term.)

** Though it is not a specific requirement for this course, students in Graduate Seminar I must submit a research proposal of approximately 10 pages by the end of the spring term. This will serve as the policy paper requirement for the Policy Analysis programs masters degree. (See more details in the syllabus of Graduate Seminar I)

** Students in Graduate Seminar I should also search for their Ph.D. advisor during the spring term.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There is no textbook for this course.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7711J

科目名/ Course Name: 費用便益分析 (Cost-Benefit Analysis)

担当教員/ Instructor: 城所 幸弘/ KIDOKORO Yukihiro

学期名/ Term: 春後期/ Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義は、費用便益分析の基礎理論を習得し、現実の政策分析に応用することを目標とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下は、各回の講義の予定であるが、変更がありうる。

- 1 政策分析のためのミクロ経済学
- 2 費用便益分析の概念的基礎 (テキスト 2 章)
- 3 費用便益分析のミクロ経済学による基礎 (テキスト 3 章)
- 4 便益と費用の計算方法-基礎編- (テキスト 5 章、6 章)
- 5 便益と費用の計算方法-応用編- (テキスト 7 章)
- 6 具体的便益評価事例の検討-神戸空港の事例- (参考資料)
- 7 中間発表 (または中間試験)
- 8 割引 (テキスト 9 章)
- 9 不確実性への対処 (テキスト 11 章)
- 10 オプション価格と存在価値 (テキスト 12 章、13 章)
- 11 間接市場法 (テキスト 15 章)
- 12 仮想市場法 (テキスト 16 章)
- 13 費用効果分析と費用効用分析 (テキスト 18 章)
- 14 費用便益分析の現状と課題 (テキスト 20 章等)
- 15 最終発表 (または期末試験)

社会的割引率 (テキスト 10 章)、社会実験 (テキスト 12 章) に関しては時間に余裕があれば触れる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

中間発表: 30%

最終発表: 30%

レポート: 40%

なお、対面式の講義が可能で、受講者数が多い場合は、発表・レポートに変えて、試験を行う場合がある。

その場合は、

中間試験: 50%

期末試験: 50%

または、

中間試験: 40%

最終発表: 20%

レポート: 40%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

A. E. Boardman, D. H. Greenberg, A. R. Vining, D. L. Weimer (2018), Cost-Benefit Analysis-Concepts and Practice-5th Edition, Cambridge University Press.

4-2

残念ながら日本語で書かれた良い教科書はない。教科書が英語であることに十分留意の上、受講するかしないかを選択してほしい。

5. 履修上の注意/Note:

本講義は、ミクロ経済学の現実の政策分析への応用としての側面をもつため、ミクロ経済学の知識は必須である。したがって、下記の1、2の条件を満たすことを本講義の履修要件とする。

1 「ECO1000JA ミクロ経済学 I」か「ECO1000JB ミクロ経済学 I」の2科目のいずれかを履修済み、または履修中であること。

2 「ECO2000JA ミクロ経済学 II」か「ECO2000JB ミクロ経済学 II」の2科目のいずれかを履修済み、または履修中であること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7721EA

科目名/ Course Name: Introduction to Applied Econometrics (Advanced)

担当教員/ Instructor: WIE Dainn/WIE Dainn

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Econometrics is the useful methodology of economics and other social studies. This course aims to introduce students to multiple regression and related methods to analyze data and connect data from the real world to economic models. We start by learning linear regression model which is widely used tool for economists. Additionally, we will study methods for panel data analysis, instrumental variables regression, and program evaluation.

This course focuses on developing practical methodology and applying them to real data using STATA. The mathematics of econometrics will be introduced only as needed and will not be a central focus.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Review of Probability Theory and Overview
- 2 : Review of Statistics and Hypothesis Testing
- 3 : Linear Regression + STATA Session
- 4 : Violation of Classical Assumptions
- 5 : Multiple Regression
- 6 : Nonlinear Regression
- 7 : Regression Assessment
- 8 : Panel Data 1
- 9 : Panel Data 2
- 10 : Instrumental Variable 1
- 11 : Instrumental Variable 2
- 12 : Difference-in-differences 1
- 13 : Difference-in-differences 2
- 14 : Review Session
- 15 : Final Examination (in class)

3. 成績の評価方法/ Grading:

There will be four assignments (10% each) and two exams (30% each). The overall grade will be determined on a curve and will follow Grips assessment policy.

Assignments

Problem sets and data will be posted on the course web page. You will be required to use STATA. Please submit your assignment in class on designated due date. Students are welcome to work in groups on their problem sets, but each

student must write up his or her answers separately. The maximum group size is 3. Please list the names of those with whom you worked on your assignments. Please append your STATA "log" files and "do" files to your assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)
(Required)

Stock J. H., and Watson, M.W., Introduction to Econometrics, Addison-Wesley, any Edition.

I will also post written lecture notes (PPT) on the course web site after the lecture.

5. Useful Online Resources for STATA:

STATA Website: <http://www.stata.com/>

UCLA Institute for Digital Research & Education

<https://stats.idre.ucla.edu/stata/>

6. Future Readings

You may find it useful to read other textbooks after you take this course. These textbooks will not be used in the course, but provide ample treatments of topics we cover in class:

Wooldridge, J.M., Introductory Econometrics, Southwestern College Publishing.

Angrist, J., and Pischke, J.S., Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion, Princeton University Press.

7. Future Courses (Strongly recommended)

1) Selected Topics in Policy Studies (Introduction to Policy Evaluation) (Winter): for someone who wants to further develop their micro-econometrics knowledge

2) Applied Time Series Analysis for Macroeconomics (Winter): for someone who wants to further develop their macro-econometrics knowledge.

8. Schedule Table

Week
Date
Topic
Problem Set

Posting
Due date
TA Session

1
Oct 11
Introduction
PS #1

2
Oct 18
Statistics+Hypothesis+STATA

PS#1 support +STATA

3
Oct 25
OLS

4

Nov 1

Multiple Regression+Joint hypothesis testing

PS #2

PS #1

5

Nov 8

Violation of Classical Assumptions

6

Nov 15

Non-linear

PS#2 support

7

Nov 22

Review

PS#2

Past exam review+QA

Nov 29

Midterm

8
Dec 6
Internal Validity Threats
PS #3

9
Dec 13
Panel Data (1)

PS#3 support

10
Dec 20
Panel Data (2)

PS#3

11
Dec 27
Instrument Variable (1)
PS\$4

12
Jan 3
Instrument Variable (2)

PS#4 support

13

Jan 10

Difference-in-Differences (1)

PS#4

14

Jan 17

Difference-in-Differences (2) or Review

Past exam review+QA

15

Jan 24

Final Exam

5. 履修上の注意/Note:

Email: wie-dainn@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7721EB

科目名/ Course Name: Introduction to Applied Econometrics (Advanced)

担当教員/ Instructor: 泉 佑太朗/IZUMI Yutaro

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Econometrics is a tool commonly used in economics and other social sciences to analyze real-world data. This course introduces basic econometric techniques to equip students with the knowledge and practical skills necessary to read and understand empirical research papers and to plan and execute their own empirical research.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Review of probability theory and statistics

Introduction to Stata

Randomized experiments

Regression

Panel data methods

Difference-in-differences

Instrumental variables

3. 成績の評価方法/ Grading:

Four problem sets (30%)

Midterm exam (30%)

Final exam (40%)

The overall grade will be determined on a curve and will follow GRIPS assessment policy.

The problem sets include theoretical questions and data analysis questions using Stata.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4.1

Stock, J.H. and M.W. Watson, Introduction to Econometrics, Pearson Education

4.2

Angrist, J.D. and J.S. Pischke, Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect, Princeton University Press

Wooldridge, J.M., Introductory Econometrics, Southwestern College Publishing.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7771E

科目名/ Course Name: Applied Econometrics (Advanced)

担当教員/ Instructor: LITSCHIG Stephan/LITSCHIG Stephan

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

The objective of this course is to introduce students to the main approaches used for the evaluation of public policies: randomized control trials, natural experiments, the regression discontinuity design, selection on observables, and difference-in-differences. The course presents strengths and weaknesses of each approach in terms of internal and external validity. The course should be taken together with Applied Econometrics Practice (ECO2780E), which uses data from real-world evaluations of specific interventions for practice.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Review of probability and statistics

Causal effects, internal and external validity

Randomized control trials, simple regression

Clustered standard errors

Randomized control trials, multiple regression

Effect heterogeneity, subgroup analysis

Spill-overs, externalities, general-equilibrium effects

Natural experiments

Regression discontinuity design

Regression discontinuity design cont.

Selection on observables

Multiple regression, propensity score matching, weighting and screening, synthetic control

Difference-in-differences and fixed-effects regression

Event study graphs

Weak instruments

Review

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

There will be 6 problem sets, worth 60% of the course grade, and a final exam, worth 40%. The grade will be the same as for the Applied Econometrics Practice course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The two recommended textbooks are Stock and Watson, Introduction to Econometrics, any edition, and Angrist and Pischke Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect.

5. 履修上の注意/Note:

Introduction to Applied Econometrics (ECO2720EA or ECO2720EB) is the pre-requisite for this course and Applied Econometrics Practice (ECO2780E) is a co-requisite.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO7881E

科目名/ Course Name: Trade and Industrial Development

担当教員/ Instructor: 園部 哲史/ SONOBE Tetsushi

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course offers an introduction to the process of inclusive economic development through industrial development that provides ordinary people with decent jobs abundantly. Industrial development in this sense is not the growth of a single industry but a series of successful growth of industries into engines of economic growth. Each of these industries can be in agricultural, manufacturing, or service sector or any mixture of them. Since industrial development takes place in the global economy, this course begins by reviewing the very basic theory of international trade and finance. Since many failures in industrial development in the past are attributable to market failures or government failures or both, this course also reviews these concepts before it proceeds to discuss several case studies. The method of instruction is characterized by class discussion and group work, especially in the case study part. Toward the end, participants are encouraged to develop an own strategy for green, resilient, and more prosperous industrial development in their own countries.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Engines of economic development, the division of labor, and gains from trade

Comparative advantage, scale economies, and patterns of international trade

International finance, foreign direct investment, and global value chains

Trade negotiation and national interests

Market competition and market failures

Agglomeration economies and hierarchical structure of cities

Simple theory of cluster-based industrial development

Cases of merchant-led industrial development

Cases of engineer-led industrial development

Global value chains and foreign direct investment

More cases from Asia and Africa

Management in the private and public sectors

Conventional arguments on protectionism and industry promotion

Wrap-up

Final exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Based on participation in class discussion and group work (50%) and final exam (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

Krugman and Obstfeld, *International Economics: Theory and Policy* (its 4th to 8th editions) or Krugman, Obstfeld, and Melitz's textbook with the same title.

Sonobe and Otsuka (2006) *Cluster-Based Industrial Development: An East Asian Model*, Palgrave Macmillan

Sonobe and Otsuka (2011) *Cluster-Based Industrial Development: A Comparative Study of Asia and Africa*, Palgrave Macmillan

Otsuka, Jin, and Sonobe, eds. (2018) *Applying Kaizen in Africa*, Palgrave Macmillan [This is an Open Access book. It can be downloaded free of charge from the Palgrave Macmillan's site <https://www.palgrave.com/gp/book/9783319913995>]

Takagi, Kanchoo, and Sonobe, eds. (2019) *Developmental State Building*, Springer [This is an Open Access book. It can be downloaded free of charge from the Springer's website <https://www.springer.com/gp/book/9789811329036>]

Asian Development Bank (2020) *Asia's Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology Over 50 Years* [This is also freely downloadable from ADB's website <https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity>]

We will read some of the following papers:

Long and Zhang Cluster-based Industrialization in China: Financing and Performance *Journal of International Economics*, Vol. 84, Issue 1, May 2011, 112-123.

Long and Zhang Patterns of China's Industrialization: Concentration, Specialization, and Clustering *China Economic Review*, Vol. 23, Issue 3, September 2012, 593-612.

Sonobe, Kawakami, and Otsuka Changing Roles of Innovation and Imitation in Industrial Development: The Case of the Machine Tool Industry in Taiwan *Economic Development and Cultural Change*, October 2003, Vol. 52, No. 1, pp. 103- 128. DOI: 10.1086/380105

Sonobe, Hu, and Otsuka From Inferior to Superior Products: An Inquiry into the Wenzhou Model of Industrial Development in China *Journal of Comparative Economics* Vol. 32, Issue 3, September 2004, pp. 542-563, doi:10.1016/j.jce.2004.05.001

Yamamura, Sonobe, and Otsuka Time Paths in Innovation, Imitation, and Growth: The Case of the Motorcycle Industry in Postwar Japan *Journal of Evolutionary Economics* DOI:10.1007/s00191-004-0239-3

Sonobe, Akoten, and Otsuka Growth Process of Informal Enterprises in Sub-Saharan Africa: A Case Study of a Jua Kali Cluster in Nairobi *Small Business Economics*, 36 (3), April 2011, pp. 323-335. DOI: 10.1007/s11187-009-9222-6

Mottaleb and Sonobe An Inquiry into the Rapid Growth of the Garment Industry in Bangladesh *Economic Development and Cultural Change*, Vol. 60, No.1, October 2011, pp. 67-89. DOI: 10.1086/661218

Mano, Iddrisu, Yoshino, and Sonobe How Can Micro and Small Enterprises in Sub-Saharan Africa Become More productive? The Impacts of Experimental Basic Managerial Training *World Development*, Vol. 40, Issue 3, March 2012, pp. 458-468. Doi:10.1016/j.worlddev.2011.09.013

Bloom, Eifert, Mahajan, McKenzie, and Roberts Does Management Matter? Evidence from India

Quarterly Journal of Economics, Vol. 128, Issue 1, February 2013, pp. 1-51.

McKenzie and Woodruff What are We Learning from Business Training and Entrepreneurship Evaluations around the Developing World? World Bank Research Observer, Vol. 29, Issue 1, February 2014, 48-82.

Higuchi, Mhede, and Sonobe Short- and Medium-run Impacts of Management Training: An Experiment in Tanzania World Development, Vol. 114, February 2019, pp. 220-36.
<https://doi.org/10.1016/j.worlddev.2018.10.002>

1.Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy (its 4th to 8th editions) or Krugman, Obstfeld, and Melitz s textbook with the same title.

2.Sonobe and Otsuka (2006) Cluster-Based Industrial Development: An East Asian Model, Palgrave Macmillan

3.Sonobe and Otsuka (2011) Cluster-Based Industrial Development: A Comparative Study of Asia and Africa, Palgrave Macmillan

4.Otsuka, Jin, and Sonobe, eds. (2018) Applying Kaizen in Africa, Palgrave Macmillan [This is an Open Access book.It can be downloaded free of charge from the Palgrave Macmillans site <https://www.palgrave.com/gp/book/9783319913995>]

5.Takagi, Kanchoochat, and Sonobe, eds. (2019) Developmental State Building, Springer [This is an Open Access book.It can be downloaded free of charge from the Springers website <https://www.springer.com/gp/book/9789811329036>]

6.Asian Development Bank (2020) Asias Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology Over 50 Years [This is also freely downloadable from ADBs website <https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity>]

We will discuss some of the following papers:

1.Long and Zhang Cluster-based Industrialization in China: Financing and Performance Journal of International Economics, Vol. 84, Issue 1, May 2011, 112-123.

2.Long and Zhang Patterns of Chinas Industrialization: Concentration, Specialization, and Clustering China Economic Review, Vol. 23, Issue 3, September 2012, 593-612.

3.Sonobe, Kawakami, and Otsuka Changing Roles of Innovation and Imitation in Industrial Development: The Case of the Machine Tool Industry in Taiwan Economic Development and Cultural Change, October 2003, Vol. 52, No. 1, pp. 103- 128. DOI: 10.1086/380105

4.Sonobe, Hu, and Otsuka From Inferior to Superior Products: An Inquiry into the Wenzhou Model of Industrial Development in China Journal of Comparative Economics Vol. 32, Issue 3, September 2004, pp. 542-563, doi:10.1016/j.jce.2004.05.001

5.Yamamura, Sonobe, and Otsuka Time Paths in Innovation, Imitation, and Growth: The Case of the Motorcycle Industry in Postwar Japan Journal of Evolutionary EconomicsDOI:10.1007/s00191-004-0239-3

6.Sonobe, Akoten, and Otsuka Growth Process of Informal Enterprises in Sub-Saharan Africa: A Case Study of a Jua Kali Cluster in Nairobi Small Business Economics, 36 (3), April 2011, pp. 323-335.DOI: 10.1007/s11187-009-9222-

6

7.Mottaleb and Sonobe An Inquiry into the Rapid Growth of the Garment Industry in Bangladesh Economic

Development and Cultural Change, Vol. 60, No.1, October 2011, pp. 67-89. DOI: 10.1086/661218

8.Mano, Iddrisu, Yoshino, and Sonobe How Can Micro and Small Enterprises in Sub-Saharan Africa Become More productive? The Impacts of Experimental Basic Managerial Training World Development, Vol. 40, Issue 3, March 2012, pp. 458-468. Doi:10.1016/j.worlddev.2011.09.013

9.Bloom, Eifert, Mahajan, McKenzie, and Roberts Does Management Matter? Evidence from India Quarterly Journal of Economics, Vol. 128, Issue 1, February 2013, pp. 1-51.

10.McKenzie and Woodruff What are We Learning from Business Training and Entrepreneurship Evaluations around the Developing World? World Bank Research Observer, Vol. 29, Issue 1, February 2014, 48-82.

11.Higuchi, Mhede, and Sonobe Short- and Medium-run Impacts of Management Training: An Experiment in Tanzania World Development, Vol. 114, February 2019, pp. 220-36. <https://doi.org/10.1016/j.worlddev.2018.10.002>

12. McKenzie et al. Training entrepreneurs VoxDevLit <https://voxdev.org/lits/training-entrepreneurs>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8001E

科目名/ Course Name: Mathematics for Economic Analysis (Advanced)

担当教員/ Instructor: MUNRO Alistair/MUNRO Alistair

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This is a course in mathematics for Economics students. It is aimed at those who need refreshing in their knowledge of calculus, matrices and optimization as well as students seeking to upgrade their skills. It is particularly useful for PhD students who are looking for specific training in common mathematical techniques. The main learning objective is for students to end up with the skills necessary to navigate their courses in Economics and related fields at GRIPS.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The topics, level and schedule may change, depending on your understanding and interests. Except where stated, all the reading is from the required textbook. Some of the material may be presented in a different order or may be omitted if we run out of time. Some topics will occupy more than 1 lecture and the order may vary from that shown below

Lecture.

Introduction. Partial differentiation

Unconstrained Optimization

Series, graphing functions and approximations

Constrained optimization; Kuhn Tucker

Matrices I

Definite Matrices and second order conditions

The language of topology

Matrices II. Eigenvalues and eigenvectors

Differential Equations

Optimal Control Theory

Dynamic Programming

Final Exam (Weight: 40%)

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Take home problems sets (3): 60% Final Exam: 40%.

The final exam is a standard 80 minute exam which will cover all material from the course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Simon & Blume: Mathematics for Economists, Norton. 2012

Chiang and Wainwright, Fundamental Methods of Mathematical Economics, McGraw-Hill.

There are many other good texts that cover mathematics for economics. These are suitable provided they cover Kuhn-Tucker and other aspects of constrained optimization. I strongly recommend that you buy at least one text.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8010E

科目名/ Course Name: Policy Analysis Research Workshop

担当教員/ Instructor: LEON-GONZALEZ Roberto/ LEON-GONZALEZ Roberto

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a compulsory course for PA students who have passed their basic QE. Students should attend the course, but should only register for the course in the year that they expect to graduate.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Students will take it in turn to present results on their ongoing research. From time to time, visiting speakers or faculty may also present in an informal brown bag style seminar.

3. 成績の評価方法/ Grading:

This course is pass/fail based on attendance, contribution and presentation. To graduate from the PA program, students must present at least twice; usually after they have passed the field QE. Contribution means actively engaged in the class, including asking relevant questions of the speaker. Students may present their work even in a term they are not formally registered. This will still count towards the required two presentations.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/ Note:

It is the students responsibility to set up a workshop by contacting the PA program director and suggesting a suitable date.

It is not necessary (though sometimes useful) for the students advisor to attend the presentation.

Normally, students will pre

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8010E

科目名/ Course Name: Policy Analysis Research Workshop

担当教員/ Instructor: LEON-GONZALEZ Roberto/ LEON-GONZALEZ Roberto

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a compulsory course for PA students who have passed their basic QE. Students should attend the course, but should only register for the course in the year that they expect to graduate.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Students will take it in turn to present results on their ongoing research. From time to time, visiting speakers or faculty may also present in an informal brown bag style seminar.

3. 成績の評価方法/ Grading:

This course is pass/fail based on attendance, contribution and presentation. To graduate from the PA program, students must present at least twice; usually after they have passed the field QE. Contribution means actively engaged in the class, including asking relevant questions of the speaker. Students may present their work even in a term they are not formally registered. This will still count towards the required two presentations.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/ Note:

It is the students responsibility to set up a workshop by contacting the PA program director and suggesting a suitable date.

It is not necessary (though sometimes useful) for the students advisor to attend the presentation.

Normally, students will pre

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8010E

科目名/ Course Name: Policy Analysis Research Workshop

担当教員/ Instructor: LEON-GONZALEZ Roberto/LEON-GONZALEZ Roberto

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a compulsory course for PA students who have passed their basic QE. Students should attend the course, but should only register for the course in the year that they expect to graduate.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Students will take it in turn to present results on their ongoing research. From time to time, visiting speakers or faculty may also present in an informal brown bag style seminar.

3. 成績の評価方法/ Grading:

This course is pass/fail based on attendance, contribution and presentation. To graduate from the PA program, students must present at least twice; usually after they have passed the field QE. Contribution means actively engaged in the class, including asking relevant questions of the speaker. Students may present their work even in a term they are not formally registered. This will still count towards the required two presentations.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

It is the students responsibility to set up a workshop by contacting the PA program director and suggesting a suitable date.

It is not necessary (though sometimes useful) for the students advisor to attend the presentation.

Normally, students will pre

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8010E

科目名/ Course Name: Policy Analysis Research Workshop

担当教員/ Instructor: LEON-GONZALEZ Roberto/ LEON-GONZALEZ Roberto

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a compulsory course for PA students who have passed their basic QE. Students should attend the course, but should only register for the course in the year that they expect to graduate.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Students will take it in turn to present results on their ongoing research. From time to time, visiting speakers or faculty may also present in an informal brown bag style seminar.

3. 成績の評価方法/ Grading:

This course is pass/fail based on attendance, contribution and presentation. To graduate from the PA program, students must present at least twice; usually after they have passed the field QE. Contribution means actively engaged in the class, including asking relevant questions of the speaker. Students may present their work even in a term they are not formally registered. This will still count towards the required two presentations.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/ Note:

It is the students responsibility to set up a workshop by contacting the PA program director and suggesting a suitable date.

It is not necessary (though sometimes useful) for the students advisor to attend the presentation.

Normally, students will pre

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8751J

科目名/ Course Name: 経済シミュレーション分析 (Economic Simulation Analysis)

担当教員/ Instructor: 細江 宣裕/HOSOE Nobuhiro

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義の目的は、学生を実証分析のためのさまざまなマクロ・ミクロ経済分析のツールに触れさせることにある。具体的なデータ例として、おもに日本やそれを含むものを取り上げるが、より一般的に、日本以外の先進国や、途上国を対象としたモデル分析をする際にも適用可能なモデル分析の手法を習得することを目指す。経済理論を、実際のデータに当てはめて PC 上のモデルとして表現すること、また、このモデルを用いて定性的な分析を超えて、定量的な政策シミュレーションを行うための実際的な手法について説明する。

モデルとしては、以下の 5 種類を構築しながら学んでいく。

- ・ 部分均衡モデル
- ・ 空間均衡モデル
- ・ 産業連関モデル
- ・ 応用一般均衡モデル

それぞれのモデルは、実際の政策判断の手助けをするために用いられている。最近の例で

は、TPP の効果分析のために応用一般均衡モデルが広く用いられている。講義の中では、

モデルの構造とその構築方法を間学ぶことで、各モデルの長所・短所も理解できるように配慮する。

この講義は、SDGs の目標 7(エネルギー), 8(経済成長), 17(パートナーシップ)等に関連する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義で解説されるモデルの内容と毎週のスケジュールは以下の通りである。

(1)概説・文献解題

(2)部分均衡(Partial Equilibrium, PE)モデル(理論的枠組み, GAMS の使い方(1))

(3)空間的時的部分均衡(Spatial and Temporal Price and Allocation, STPA)モデル

(4)モデルの非統計的推定手法

(5)産業連関(Input-Output)モデル(産業連関表,産業連関モデルの理論的枠組み,PC 上でのモデル構築実習(Excel))

(6-13)応用一般均衡(Computable General Equilibrium, CGE)モデル

(6) 簡単な応用一般均衡モデル 第 12 章

(7) PC 上でのモデル構築実習(GAMS) (2) 第 3 章

(8) データベースの構築: 社会会計表 第 4 章

(9) モデルの推定: キャリブレーション 第 5 章

(10) 現実的な応用一般均衡モデル(1) 第 6 章

(11) 現実的な応用一般均衡モデル(2), PC 上でのモデル構築実習(GAMS)

(12) シミュレーションの方法 第 8 章

(13) シミュレーション結果の解釈 第 9 章

(14) 講義の進捗次第(モデルの閉じ方 第 7 章、または、簡単な動学分析)

(15) ターム・ペーパーのガイドラインとヒント

上記の 5 種類のモデルは、PC 上で構築され、政策や外部環境の変化といった外生的なショックの影響をシミュレートするものである。たとえば、貿易政策(=関税率の変化)や環境政策(=環境税の導入)、より一般に消費税等の税制改革、債務管理問題といった財政政策についても分析することができる。農業分野であれば、天候不順による生産性の悪化といったこともシミュレートできる。これらは、産業ごとの生産量や生産物価格、輸出入量、国内消費といったさまざまな経済変数に影響を与える。本講義で解説される

経済シミュレーション・モデルを使うことで、こうした影響を定量的に把握することができる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

評価は、期末に提出するターム・ペーパーによって判断する。課題は、(1)講義で説明したモデルのうちの1つ(またはそれに類するもの)を構築して、(2)実際のシミュレーションを行うことである。時間が許せば、(3)その結果をうまく現実の政策課題と結びつけて解釈でいれればなおよい。

なお、Economic Modeling for Policy Simulations (ECO3740E)の単位を取得した者(あるいはその逆も)は、講義内容が重複する部分が多いので、この講義を履修してもあらたに単位を認定しない。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

教科書・資料

講義資料にアクセスできない場合には、別途提供する。連絡先(メールアドレス)を知らせるために、事前に受講登録をすること。

応用一般均衡モデルに関するもの以外については、資料を Teams で配布するので各自で入手すること。

応用一般均衡モデルについては、

細江宣裕, 我澤賢之, 橋本日出男(2016) 『テキストブック応用一般均衡モデリング: プログラムからシミュレーションまで』, 東京大学出版会, 第2版.

の各章をなるべく教科書から離れないように説明する予定である。

参考書

アニス・チョードゥリー, コリン・カークパトリック(1997) 『発展途上国の開発政策と計画—モデル化と計画の立て方』, 古今書院.

Pyatt, G., and Round, J. I. (1985) Social Accounting Matrices: A Basis for Planning, the World Bank., Washington, DC.

http://www-wds.worldbank.org/servlet/WDS_IBank_Servlet?pcont=details&eid=000178830_98101901520228

小長谷・前川(編) (2012) 『経済効果入門: 地域活性化・企画立案・政策評価のツール』, 日本評論社.

Miller, R. E., Blair, P. D. (2022) Input-Output Analysis Foundations and Extensions, 3rd Edition, Cambridge.

Takayama, T., and Judge, G. G. (1971) Spatial and Temporal Price and Allocation Models, North-Holland, Amsterdam.

細江宣裕, 秋山修一(2007) 「送電料金改革の効果分析---パンケーキ方式から郵便切手方式へ---」, 八田達

夫, 田中誠(編著)『規制改革の経済分析』, 日本経済新聞出版社 所収, 第2章: 75-99.

参考 Web

GAMS Development Corporation, <http://www.gams.com/>

Prof. Thomas Rutherford's Webpage, <http://www.mpsge.org/>

ターム・ペーパー 〆切

後日決定

5. 履修上の注意/Note:

講義中で PC 実習を行うので、各自の PC(Windows が望ましいが、Mac でも技術的には可能)を持参すること。

講義開始までに、以下のサイトにアクセスして(1)デモ・ライセンスを入手、(2)GAMS のシステムをダウンロードしてインストールしておく。(できなければ、初回講義等で質問する。)

https://www.gams.com/try_gams/

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: ECO8841E

科目名/ Course Name: Development Economics (Advanced)

担当教員/ Instructor: 山内 慎子/YAMAUCHI Chikako

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The objective of this course is to learn some of the basic concepts and tools to consider issues related to economic development and improvement in welfare in low-income settings. In particular, we focus on topics in applied microeconomics, and cover theoretical foundation and empirical tools that are commonly used in the literature. Students are assumed to have acquired basic understanding of introductory microeconomics and econometrics.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Ch.1. What is development? Indicators and issues

Ch.2. State of development

Ch.3. History of thought in development economics

Ch.4. Impact evaluation of development policies and programs

Ch.5. Poverty and vulnerability assessment

Ch.6. Inequality and inequity

Schedule

Week

Class dates

Chapter

Lecture note#

1

April 05

1

Development

1

2

April 12

1
Development/State
1,2

3
April 19
2
State
2

4
April 26
3
History
3

May 03

Holiday

5
May 10
4
History
3

6
May 17
4
History /Evaluation methods
3,4

7

May 24

Mid-term exam

8

May 31

5

Evaluation methods

4

9

June 07

6

Evaluation methods

4

10

June 14

11

Poverty 1

5

11

June 21

12

Poverty 2

5

12

June 28

13

Poverty 3, Inequality 1

5,6

13

July 05

14

Inequality 2

6

14

July 12

14

Inequality 3

6

15

July 19

Final Exam

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation

Master's students

Mid-term 40%

Final 60%

PhD students

Mid-term 35%

Final 55%

Report on an academic article related to development 10%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Textbooks

Alain de Janvry and Elisabeth Sadoulet, 2015, Development Economics: theory and Practice, Routledge.

For Japanese students who wish to study related issues in Japanese, the following are recommended.

福井清一・三輪加奈・高篠仁奈著『開発経済を学ぶ』創成社

黒崎卓・山形辰史『開発経済学：貧困削減へのアプローチ 増補版』日本評論社

黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史『テキストブック開発経済学 第3版』

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:EPP1010E

科目名/Course Name: East Asian Economies

担当教員/Instructor: 工藤 年博/KUDO Toshihiro

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides an overview of economic dynamism from a miracle to crises, then regionalism since the 1970s to the present in East Asia. It will give you the theoretical frameworks and the empirical evidences for investigating the economic forces and policies by focusing both global sphere and countries contexts.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction
2. Historical resurgence of East Asia
3. Chinese economy 1
4. Chinese economy 2
5. Chinese economy 3
6. Economic crises in Asia
7. Southeast Asian economy 1
8. Southeast Asian economy 2
9. Deeping economic relations between Japan and East Asia
10. Economic integration in East Asia; APEC/TPP/RCEP/EPISA
11. Middle Income Trap (Flying Geese Mechanism vs. "Leapfrog")
12. Population and growth
13. Lecture of SME Bank, Japan
14. Lecture of a Japanese MNE
15. Discussion

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Paper

Analyze your country's economic issue by utilizing the knowledge you learned in this course, and provide policy suggestions. Write your paper within 1500 words.

Due date: April 10, 2023

Please send your term paper to toshihiro.kudo.japan@gmail.com. The title of your mail shall include "East Asian Economies Term Paper", your name and student number.

Grading

Class attendance 30%; Class participation 20%; Term paper 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

World Bank, "The East Asian Miracle: Economic Growth and Public Policy", 1993.

Angus Maddison, "Contours of the World Economy 1—2030 AD", Oxford University Press, 2007.

5. 履修上の注意/Note:

【Instructors】

Prof. Yoshihiro, OTSUJI (GRIPS), email: otsuji@grips.ac.jp

Prof. Toshihiro, KUDO (GRIPS), email: t-kudo@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN3000E

科目名/ Course Name: International Development Policy

担当教員/ Instructor: 大野 泉/OHNO Izumi

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(This course is related to all goals of the SDGs, with special attention to Goals 1, 8, 9, 17 (poverty, decent work & economic growth, industry, and partnerships) of the SDGs.)

This course provides students with an in-depth understanding of international development policy through reading and discussing recent papers and reports, with special attention to global transformation. The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to a range of international development topics and contemporary policy debates, including the 2030 agenda for sustainable development (Sustainable Development Goals: SDGs). The East Asian perspectives of aid and development will also be introduced.

International development has undergone significant changes over the last decades with the progress of globalization. The East Asian economies have achieved rapid growth with poverty reduction, while fragile states continue to struggle with the challenges of nation building. Development agenda have become increasingly complex, and new actors such as emerging donors, civil society, and the business community, are now important players in development. Such global transformation presents challenges to the traditional approach to development and aid.

The first few lectures will give an overview of the evolution of international development policy and development cooperation. Workshops include student presentations and discussions. At each class, one or two students will present the main points of pre-assigned policy-related reports or papers and share his/her perspectives, based on the assigned readings. In some lectures, guest speakers with first-hand experience of development cooperation and policymaking will be invited to interact with students.

Requirements

Students are expected to have basic knowledge of international development. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions. They shall prepare resume or power point slides for presentations.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Date
Topic
Reference

2/5

Mon

Orientation and overview:

Evolution of international development policy

Lecture

2/8

Thur

Development cooperation policy of major donors

Lecture

2/15

Thur

Japanese approach to development cooperation

Lecture

2/19

Mon

Business as a development actor

Lecture

2/22

Thur
Special lecture (1)
Guest L

2/26
Mon
Special lecture (2)
Guest L

2/29
Thur
Special lecture (3)
Guest L

3/4
Mon
Aid and development: why nations fail / does aid work?
Workshop

3/7
Thur
Fragile states, conflicts and development
Workshop

3/11
Mon
The role of government in catch-up and structural transformation
Workshop

3/14
Thur
Technology transfer: how nations learn / the case of Japan as an aid recipient
Workshop

3/18

Mon

Emerging donors and their impacts on international development

Workshop

3/21

Thur

COVID-19 and implications for the 2030 agenda for sustainable development

Workshop

3/25

Mon

Age of globalization: development challenges for 21st century

Workshop

3/28

Thur

Co-creating knowledge for sustainable, inclusive and resilient development (Wrap up)/

Term paper submission

Lecture

Note: Topics and dates may be reordered to accommodate guest speakers or for other reasons.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class attendance and participation (40%), presentation of the assigned readings (30%), and short paper on international development (30%). The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is not allowed.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The following literature will be made available on Prof. Izumi Ohno's website. Students are required to read relevant literature, prior to class. (In the case of books, specific chapters will be selected and assigned for readings.)

For lectures:

Richard Jolly and Ricardo Santo, "From Development of the 'Other' to Global Governance for Universal and Sustainable Development" in *Development Studies: Past, Present and Future*, IDS Bulletin Vol. 47, No.2, May 2016.

Takamasa Akiyama, "Evolution of Ideas on Development," Ch.2 in *International Development Assistance: Evolution and Prospects*, FASID, 2003.

Hiroshi Kato, "Japan's ODA 1954-2014: Changes and Continuities in a Central Instrument in Japan's Foreign Policy," Ch.1 in *Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda* eds. Hiroshi Kato, John Page, and Yasutami Shimomura

Shigeru Ishikawa, "Supporting Growth and Poverty Reduction: Toward Mutual Learning from the British Model in Africa and the Japanese Model in East Asia", GRIPS Development Forum Discussion Paper, No.9, March 2005

Toru Yanagihara, "Development and Dynamic Efficiency: Framework Approach vs. Ingredients Approach," Ch.4 in *Japanese Views on Economic Development: Diverse Paths to the Market*, eds. Kenichi and Izumi Ohno, Routledge, 1998.

Saburo Okita, *The Developing Economies and Japan: Lessons in Growth*, University of Tokyo Press, 1980 (esp. "Developing Economics and the Japanese Experience" (pp.93-104), "Causes and Problems of Rapid Growth in Postwar Japan and Their Implications for Newly Developing Economies" (pp.105-147))

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, "Eastern and Western Ideas for African Growth," in *The World Financial Review*, July/Aug. 2013.

Izumi Ohno, "An Overview: Diversity and Complementarity in Development Aid," Ch.1 and *The Japanese Approach to Growth Support in Developing Countries*, Ch.7 in *Eastern and Western Ideas for African Growth*, eds. Kenichi and Izumi Ohno, Routledge, 2013.

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, "Dynamic Capacity Development: What Africa Can Learn from Industrial Policy Formulation," Ch.7 in *Good Growth and Governance in Africa: Rethinking Development Strategies*, eds. Noman et al, The Initiative for Policy Dialogue Series, Oxford University Press, 2012.

Izumi Ohno, "Network-based Development Cooperation as a Way Forward for Japan," Ch.10 in *Japanese Development Cooperation: The Making of an Aid Architecture Pivoting to Asia*, eds. Andre Asplund and Marie Soderberg, Routledge, 2017

For student workshops:

(The below is a tentative list. Professor Ohno will consult with individual students regarding the assigned readings & presentation topics. Students can propose alternative readings, as relevant.)

Daron Acemoglu and James A. Robinson, *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty*. 2012, Currency NY. (Ch.2-3, Ch.7 & 9, Ch.13-15). Also, see, "The Role of Institutions in Growth and Development," *Review of Economics and Institutions*, 1 (2) Article 1, 2010.

Paul Collier, *The Bottom Billion: Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It*, Oxford University Press, 2007. (Ch. 7-10)

Dambisa Moyo, *Dead Aid: Why Aid is not Working and How There is a better Way for Africa*, 2009, Part I (Ch.1-4), Part II (Ch.5 &10).

The World Bank, *Assessing Aid: What Works, What Doesn't and Why?*, A World Bank Policy Research Report, 1998. (Esp. Overview)

Justin Yifu Lin and Jun Zhang, "Learning to Catch up in a Globalized World," Ch.8 in *How Nations Learn: Technological Learning, Industrial Policy and Catch-up*, eds. Arkebe Oqubay and Kenichi Ohno, Oxford University Press, 2019.

Robert H. Wade, "Rethinking Industrial Policy for Low Income Countries," *African Development Bank*, 2009.

Jose Edgardo Campos and Hilton L. Root, "Leadership and the Economic Bureaucracy, Ch.6&7 and Wooing the Business Sector," Ch.4 in *The Key to the Asian Miracle: Making Shared Growth Credible*, The Brookings Institution, 1996.

Mikiyasu Nakayama and Ryo Fujikura, "Technology Transfer and Technology Development in Post-World II Japan Triggered by World Bank Projects," Ch.4 in *The Rise of Asian Donors*, eds. J. Sato and Y. Shimomura, Routledge, 2012.

Kenichi Ohno, "Meiji Japan: Progressive Learning of Western Technology," Ch.5 in *How Nations Learn: Technological Learning, Industrial Policy and Catch-up*, eds. Arkebe Oqubay and Kenichi Ohno, Oxford University Press, 2019.

Annalisa Prizzon, Romily Greenhil, and Shakira Mustapha, *An Age of Choice for Development Finance: Evidence from Country Case Studies*, Overseas Development Institute, Synthesis Report, 2016.

The World Bank, *A Changing Landscape: Trends in Official Financial Flows and the Aid Architecture*, 2021.

Linda Calabrese and Xiaoyang Tang, *Africa's Economic Transformation: The Role of Chinese Investment*, DEGRP-ODI Synthesis Report, June 2020.

United Nations, *Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development*, 2015.

World Bank, *Reversals of Fortune: Poverty and Shared Prosperity 2020* (esp. Overview, Ch.4), 2020.

United Nations, Department of Social and Economic Affairs. *Sustainable Development Outlook 2021 Overview: From Anguish to Determination* (esp. Ch. 1), 2021.

Jeffrey D. Sachs, *The Age of Globalization: Geography, Technology, and Institutions*, Columbia University Press (esp. Ch.1, Ch.8 & Ch.9), 2020.

Jeffery D. Sachs, Guillaume Lafortune, Christian Kroll, Grayson Fuller, and Finn Woelm *Sustainable Development Report 2022: From Crisis to Sustainable Development: SDGs as a Roadmap to 2030 and Beyond*, 2022.

World Bank, *World Development Report 2016: Digital Dividends* (esp. Overview), 2016.

World Bank, *World Development Report 2019: The Changing Nature of Work* (esp. Overview, Ch. 1, Ch.2 & Ch.7), 2019.

Business and Sustainable Development Commission, *Better Business, Better World*, January 2017.

5. 履修上の注意/Note:

email: i-ohno@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN4000J

科目名/ Course Name: 政策研究演習

担当教員/ Instructor: 増山 幹高/MASUYAMA Mikitaka

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このクラスの目的は、社会現象の実証的な分析方法を習得し、履修者各自の問題意識から、政策的に効果のある提案をいかに政治的に実現していくかという実践的な研究を行うことにあります。とくに履修者独自の研究企画を策定し、仮説を実際のデータから検証し、分析結果を取りまとめることに重点を置きます。また研究成果を説得力のあるプレゼンテーションによって発表し、研究成果を批判的に評価する能力の向上を目指します。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

週毎に主要な論争点を取り上げていきます。また、履修者の関心や希望に応じて課題文献を選定し、参加者の報告、議論を中心としたゼミ形式で進めていきます。

授業前半では履修者それぞれの研究企画を策定することに重点を置きます。後半では履修者それぞれが仮説を立て、実際のデータから検証し、分析結果をとりまとめていきます。

3. 成績の評価方法/ Grading:

平常点に基づきます。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

授業前半では、日本語の課題文献を読んできてもらいます。課題文献は週毎にクラスで案内します。

参考文献：

Brady, Henry E., 2009. Causation and Explanation in Social Science. in Goodin, Robert Edward (ed.) The Oxford Handbook of Political Science. New York: Oxford University Press, 1054-1107.

King, Gary, Robert O. Keohane, and Sidney Verba. 1994. Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research. Princeton Univ Press.

Alexander L. George. 2005. Case Studies and Theory Development in the Social Sciences. The MIT Press.

Henry E. Brady. 2010. Rethinking Social Inquiry: Diverse Tools. Rowman & Littlefield Publishers.

5. 履修上の注意/Note:

スケジュールの詳細は初回のクラスで相談させていただきます。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN5020E

科目名/ Course Name: The World and the SDGs

担当教員/ Instructor: 工藤 年博 他/ KUDO Toshihiro, et al.

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The Sustainable Development Goals (SDGs), adopted by the United Nations General Assembly in September 2015, present challenges that we must all face, both globally and locally. GRIPS students are expected to take on leadership roles in their respective countries and careers and to have a good understanding of the urgent yet complex nature of the challenges that the SDGs present.

The SDGs consist of 17 goals. They include No Poverty, Zero Hunger, Good Health and Well-being, Quality Education, Gender Equality, Clean Water and Sanitation, Affordable and Clean Energy, Decent Work and Economic Growth, Industry, Innovation and Infrastructure, Reduced Inequalities, Sustainable Cities and Communities, Responsible Consumption and Production, Climate Action, Life Below Water, Life On Land, Peace, Justice and Strong Institutions, Partnerships for the Goals.

In the course, GRIPS professors will discuss the respective goals of the SDGs from their areas of expertise. The schedule of lectures is as follows. This course is conducted at Sokairo Hall from 18:20-19:50 on Monday. The first lecture takes place on 16 October 2023.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

No.

Date

Lecturer (tentative)

Title

Venue

1

16 Oct., 2023

Prof. Kudo

Introduction: the World and the SDGs

Sokairo Hall

2

23 Oct., 2023

Prof. Ashiwa

Engaged Buddhism for World Peace; Issues of Values, Religions and SDGs

Sokairo Hall

3

30 Oct., 2023

Prof. Hiroki

Water, Disaster and the SDGs

Sokairo Hall

4

6 Nov., 2023

Prof. Patarapong

SDG 9: Innovation and Industry

Sokairo Hall

5

13 Nov., 2023

Prof. Chey Hytounng Kyu

Digital currencies and the future of money

Sokairo Hall

6

20 Nov., 2023

Prof. Yamazaki

Economics of Carbon Taxes

Sokairo Hall

7

27 Nov., 2023

Prof. Wie

Cracking the Gender Code: Gender and Labor Market Inequalities

Sokairo Hall

8

4 Dec., 2023

Prof. Pressello

Armed Conflicts and Japan's Peace Diplomacy

Sokairo Hall

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades (pass or fail) are based on attendance and submission of reaction notes (500-1000 words). Reaction notes will count as class attendance.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Materials are announced during the first lecture

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN5030E

科目名/ Course Name: GRIPS Forum I

担当教員/ Instructor: 大野 泉/ OHNO Izumi

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(This Forum will cover various topics, providing an opportunity to consider the SDGs goals from multiple perspectives.)

GRIPS makes use of its network to invite eminent Japanese and foreign leaders in various fields as guest speakers to present lectures at GRIPS Forum I (Fall) and GRIPS Forum II (Spring). The primary objective of these two forums is to deepen the knowledge and understanding of various policy issues. They are not only for all GRIPS students but also for faculty members and those coming from outside of GRIPS. Simultaneous interpretation from Japanese to English is provided in case that a guest speaker provides his/her lecture in Japanese.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

GRIPS Forum I (Fall 2023) will consist of approximately 7 special lectures. Speakers and subjects (tentative) are as follows:

Oct. 16

Toward the 2024 U.S. Presidential Election

Mr. Tatsuhiko Yoshizaki

Nov. 6

Connecting Japan and Africa, Space and Community, and Diversity

Dr. Oussouby Sacko

Dec. 4

(tbc)

AI and Business Application (tbc)

tbc

Dec. 11

Community Healthcare, Global Health, Infectious Diseases
Dr. Yoshihiro Takayama

Dec. 25
The Future of the Japanese Economy
(panel discussion)
President Hiroko Ota
Prof. Noriyuki Yanagawa
Ms. Yuri Okina

Jan.15
Stability of the Indo-Pacific International order mid the European Security Crisis
Amb. Bilahari Kausikan

Jan.22
India's Great Power Opportunity, India in the World
Amb. Nirupama Rao

3. 成績の評価方法/ Grading:

Students will be awarded 1 credit by registering to attend GRIPS Forum I and satisfying the following requirements.

- To attend the forum five times or more.
- To submit a term paper on the lecture they think most impressive. The term paper is expected to be 3~5 pages in A4 format. Term papers will be rated on the pass/fail basis.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

There are no special references. But when you write a term paper, it is necessary to organize your thoughts, building on the writings of lecturers and other related materials.

5. 履修上の注意/Note:

- More than ten minutes late is not acceptable.
- You are not allowed to leave the forum early including the Q & A session.
- The modality/venue of the lectures (face-to-face, online, hybrid, etc.) will be announced each time. So, please check the notice.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN5030J

科目名/ Course Name: GRIPS Forum I

担当教員/ Instructor: 大野 泉/ OHNO Izumi

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(本講義は様々なテーマを扱うので、SDGs の目標について多角的に考える機会となる。)

GRIPS Forum I (春学期) 及び GRIPS Forum II (秋学期) は、様々な政策課題について知識と理解を深めるために、国内外の指導的立場にある方々を呼んで行われる特別講演のシリーズである。学生だけではなく、教職員、さらには外部の者にもオープンで行われる。日本人学生にとっては、普段は別のプログラムに属する外国人学生と一緒に授業を受ける貴重な機会であり、日本語から英語への通訳あるが英語から日本語への通訳はないので、英語を学ぶ良い機会ともなる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

GRIPS Forum I (2023 年度春学期) の特別講演は 7 回程度を予定。講演者とテーマ (仮) は、次のとおり。

4/17

日本における難民の受け入れ：課題と展望
石川えり氏

5/1

新興国の台頭と日本の対応
恒川恵市氏

5/15

日本の新安全保障政策を論じる
道下教授・岩間教授・本学博士学生の討論

5/22 or 29

ASEAN 外交：インド太平洋での ASEAN 戦略

Dr. Dino Patti Djalal

6/5

日本の「カイシャ」：今、日本の会社で何がおこっているのか

牛島信氏

(聞き手：太田弘子学長)

6/12

地方から日本を変える、世界を変える

越直美氏

6/26

ベンチャー・エコシステムの構築について

久能祐子氏

3. 成績の評価方法/ Grading:

学生は、授業登録を行うとともに、以下の要件を満たした場合に単位（1単位）を与えられる。

- ・5回以上出席すること
- ・一番印象深かった講演を1つ取り上げターム・ペーパー（A4版で3～5枚）を提出すること

なお、単位は合格又は不合格（Pass or Fail）の形で与えられる。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

特別な参考文献はないが、ターム・ペーパーを書くに当たっては、講師の講演に加えて、講師の書いたものや関連する資料等を読んだ上で、自分の考えをまとめることが必要である。

5. 履修上の注意/Note:

- ・16：50以降に参加した場合は欠席とみなす。
- ・講演中の退席は不可（Q&A含む）。退席した場合は欠席とみなす。
- ・講義の方法・場所（対面、オンライン、ハイブリッド等）は回ごとに案内するので、その都度、通知を確認すること。対面またはハイブリッド開催の場合は、履修学生は原則対面参加とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN5040E

科目名/Course Name: GRIPS Forum II

担当教員/Instructor: 大野 泉/OHNO Izumi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(This Forum will cover various topics, providing an opportunity to consider the SDGs goals from multiple perspectives.)

GRIPS makes use of its network to invite eminent Japanese and foreign leaders in various fields as guest speakers to present lectures at GRIPS Forum I (Fall) and GRIPS Forum II (Spring). The primary objective of these two forums is to deepen the knowledge and understanding of various policy issues. They are not only for all GRIPS students but also for faculty members and those coming from outside of GRIPS. Simultaneous interpretation from Japanese to English is provided in case that a guest speaker provides his/her lecture in Japanese.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

GRIPS Forum II (Spring 2023) will consist of approximately 7 special lectures. Speakers and subjects will be announced as soon as they are decided.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Students can get 1 credit by registering to attend GRIPS Forum I and satisfying the following requirements.

- To attend the forum five times or more.
- To submit a term paper on the lecture they think most impressive. Term paper must be of 3~5 page long in A4 format. Term papers will be rated on the pass/fail basis.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There are no special references. But when you write a term paper, it is necessary to organize your thoughts, building on the writings of lecturers and other related materials.

5. 履修上の注意/Note:

- More than ten minutes late is not acceptable.
- You are not allowed to leave the forum early including the Q & A session.
- The modality/venue of the lectures (face-to-face, online, hybrid, etc.) will be announced each time. So, so please check the notice

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN5040J

科目名/ Course Name: GRIPS Forum II

担当教員/ Instructor: 大野 泉/OHNO Izumi

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(本講義は様々なテーマを扱うので、SDGs の目標について多角的に考える機会となる。)

GRIPS Forum I (春学期) 及び GRIPS Forum II (秋学期) は、様々な政策課題について知識と理解を深めるために、国内外の指導的立場にある方々を呼んで行われる特別講演のシリーズである。学生だけではなく、教職員、さらには外部の者にもオープンで行われる。日本人学生にとっては、普段は別のプログラムに属する外国人学生と一緒に授業を受ける貴重な機会であり、日本語から英語への通訳あるが英語から日本語への通訳はないので、英語を学ぶ良い機会ともなる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

GRIPS Forum II (2023 年度秋学期) の特別講演は 7 回程度を予定。講演者とテーマ (仮) は、次のとおり。

10/16

2024 年米大統領選挙に向けて

吉崎達彦氏

11/6

日本とアフリカをつなぐ、空間とコミュニティ

ウスビ・サコ氏

12/4 (tbc)

AI とビジネスアプリケーション (tbc)

調整中

12/11

地域医療と国際保健、感染症医療

高山義浩氏

12/25

日本経済のゆくえ（座談会）

大田弘子学長、

柳川範之氏、翁百合氏

1/15

欧州の安全保障危機の中でのインド太平洋の国際秩序の安定

Bilahari Kausikan 氏

1/22

大国インドの機会、世界の中のインド

Nirupama Rao 氏

3. 成績の評価方法/ Grading:

学生は、授業登録を行うとともに、以下の要件を満たした場合に単位（1単位）を与えられる。

- ・5回以上出席すること
 - ・一番印象深かった講演を1つ取り上げターム・ペーパー（A4版で3～5枚）を提出すること
- なお、単位は合格又は不合格（Pass or Fail）の形で与えられる。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

特別な参考文献はないが、ターム・ペーパーを書くに当たっては、講師の講演に加えて、講師の書いたものや関連する資料等を読んだ上で、自分の考えをまとめることが必要である。

5. 履修上の注意/Note:

- ・16:50以降に参加した場合は欠席とみなす。
- ・講演中の退席は不可（Q&A含む）。退席した場合は欠席とみなす。
- ・講義の方法・場所（対面、オンライン、ハイブリッド等）は回ごとに案内するので、その都度、通知を確認すること。対面またはハイブリッド開催の場合は、履修学生は原則対面参加とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GEN8001E

科目名/ Course Name: International Development Policy

担当教員/ Instructor: 大野 泉/ OHNO Izumi

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(This course is related to all goals of the SDGs, with special attention to Goals 1, 8, 9, 17 (poverty, decent work & economic growth, industry, and partnerships) of the SDGs.)

This course provides students with an in-depth understanding of international development policy through reading and discussing recent papers and reports, with special attention to global transformation. The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to a range of international development topics and contemporary policy debates, including the 2030 agenda for sustainable development (Sustainable Development Goals: SDGs). The East Asian perspectives of aid and development will also be introduced.

International development has undergone significant changes over the last decades with the progress of globalization. The East Asian economies have achieved rapid growth with poverty reduction, while fragile states continue to struggle with the challenges of nation building. Development agenda have become increasingly complex, and new actors such as emerging donors, civil society, and the business community, are now important players in development. Such global transformation presents challenges to the traditional approach to development and aid.

The first few lectures will give an overview of the evolution of international development policy and development cooperation. Workshops include student presentations and discussions. At each class, one or two students will present the main points of pre-assigned policy-related reports or papers and share his/her perspectives, based on the assigned readings. In some lectures, guest speakers with first-hand experience of development cooperation and policymaking will be invited to interact with students.

Requirements

Students are expected to have basic knowledge of international development. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions. They shall prepare resume or power point slides for presentations.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Date
Topic
Reference

2/5

Mon

Orientation and overview:

Evolution of international development policy

Lecture

2/8

Thur

Development cooperation policy of major donors

Lecture

2/15

Thur

Japanese approach to development cooperation

Lecture

2/19

Mon

Business as a development actor

Lecture

2/22

Thur

Special lecture (1)

Guest L

2/26

Mon
Special lecture (2)
Guest L

2/29
Thur
Special lecture (3)
Guest L

3/4
Mon
Aid and development: why nations fail / does aid work?
Workshop

3/7
Thur
Fragile states, conflicts and development
Workshop

3/11
Mon
The role of government in catch-up and structural transformation
Workshop

3/14
Thur
Technology transfer: how nations learn / the case of Japan as an aid recipient
Workshop

3/18
Mon
Emerging donors and their impacts on international development
Workshop

3/21

Thur

COVID-19 and implications for the 2030 agenda for sustainable development
Workshop

3/25

Mon

Age of globalization: development challenges for 21st century
Workshop

3/28

Thur

Co-creating knowledge for sustainable, inclusive and resilient development (Wrap up)/

Term paper submission

Lecture

Note: Topics and dates may be reordered to accommodate guest speakers or for other reasons.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class attendance and participation (40%), presentation of the assigned readings (30%), and short paper on international development (30%). The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is not allowed.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The following literature will be made available on Prof. Izumi Ohno's website. Students are required to read relevant literature, prior to class. (In the case of books, specific chapters will be selected and assigned for readings.)

For lectures:

Richard Jolly and Ricardo Santo, "From Development of the 'Other' to Global Governance for Universal and Sustainable Development" in *Development Studies: Past, Present and Future*, IDS Bulletin Vol. 47, No.2, May 2016.

Takamasa Akiyama, "Evolution of Ideas on Development," Ch.2 in *International Development Assistance: Evolution and Prospects*, FASID, 2003.

Hiroshi Kato, "Japan's ODA 1954-2014: Changes and Continuities in a Central Instrument in Japan's Foreign Policy," Ch.1 in *Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda* eds. Hiroshi Kato, John Page, and Yasutami Shimomura

Shigeru Ishikawa, "Supporting Growth and Poverty Reduction: Toward Mutual Learning from the British Model in Africa and the Japanese Model in East Asia", GRIPS Development Forum Discussion Paper, No.9, March 2005

Toru Yanagihara, "Development and Dynamic Efficiency: Framework Approach vs. Ingredients Approach," Ch.4 in *Japanese Views on Economic Development: Diverse Paths to the Market*, eds. Kenichi and Izumi Ohno, Routledge, 1998.

Saburo Okita, *The Developing Economies and Japan: Lessons in Growth*, University of Tokyo Press, 1980 (esp. "Developing Economies and the Japanese Experience" (pp.93-104), "Causes and Problems of Rapid Growth in Postwar Japan and Their Implications for Newly Developing Economies" (pp.105-147)

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, "Eastern and Western Ideas for African Growth," in *The World Financial Review*, July/Aug. 2013.

Izumi Ohno, "An Overview: Diversity and Complementarity in Development Aid," Ch.1 and *The Japanese Approach to Growth Support in Developing Countries*, Ch.7 in *Eastern and Western Ideas for African Growth*, eds. Kenichi and Izumi Ohno, Routledge, 2013.

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, "Dynamic Capacity Development: What Africa Can Learn from Industrial Policy Formulation," Ch.7 in *Good Growth and Governance in Africa: Rethinking Development Strategies*, eds. Noman et al, *The Initiative for Policy Dialogue Series*, Oxford University Press, 2012.

Izumi Ohno, "Network-based Development Cooperation as a Way Forward for Japan," Ch.10 in *Japanese Development Cooperation: The Making of an Aid Architecture Pivoting to Asia*, eds. Andre Asplund and Marie Soderberg, Routledge, 2017

For student workshops:

(The below is a tentative list. Professor Ohno will consult with individual students regarding the assigned readings & presentation topics. Students can propose alternative readings, as relevant.)

Daron Acemoglu and James A. Robinson, *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty*. 2012, Currency NY. (Ch.2-3, Ch.7 & 9, Ch.13-15). Also, see, "The Role of Institutions in Growth and Development," *Review of Economics and Institutions*, 1 (2) Article 1, 2010.

Paul Collier, *The Bottom Billion: Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It*, Oxford University Press, 2007. (Ch. 7-10)

Dambisa Moyo, *Dead Aid: Why Aid is not Working and How There is a better Way for Africa*, 2009, Part I (Ch.1-4), Part II (Ch.5 &10).

The World Bank, *Assessing Aid: What Works, What Doesn't and Why?*, A World Bank Policy Research Report, 1998. (Esp. Overview)

Justin Yifu Lin and Jun Zhang, "Learning to Catch up in a Globalized World," Ch.8 in *How Nations Learn: Technological Learning, Industrial Policy and Catch-up*, eds. Arkebe Oqubay and Kenichi Ohno, Oxford University Press, 2019.

Robert H. Wade, "Rethinking Industrial Policy for Low Income Countries," African Development Bank, 2009.

Jose Edgardo Campos and Hilton L. Root, "Leadership and the Economic Bureaucracy, Ch.6&7 and Wooing the Business Sector," Ch.4 in *The Key to the Asian Miracle: Making Shared Growth Credible*, The Brookings Institution, 1996.

Mikiyasu Nakayama and Ryo Fujikura, "Technology Transfer and Technology Development in Post-World II Japan Triggered by World Bank Projects," Ch.4 in *The Rise of Asian Donors*, eds. J. Sato and Y. Shimomura, Routledge, 2012.

Kenichi Ohno, "Meiji Japan: Progressive Learning of Western Technology," Ch.5 in *How Nations Learn: Technological Learning, Industrial Policy and Catch-up*, eds. Arkebe Oqubay and Kenichi Ohno, Oxford University Press, 2019.

Annalisa Prizzon, Romily Greenhil, and Shakira Mustapha, *An Age of Choice for Development Finance: Evidence from Country Case Studies*, Overseas Development Institute, Synthesis Report, 2016.

The World Bank, *A Changing Landscape: Trends in Official Financial Flows and the Aid Architecture*, 2021.

Linda Calabrese and Xiaoyang Tang, *Africa's Economic Transformation: The Role of Chinese Investment*, DEGRP-ODI Synthesis Report, June 2020.

United Nations, *Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development*, 2015.

World Bank, *Reversals of Fortune: Poverty and Shared Prosperity 2020* (esp. Overview, Ch.4), 2020.

United Nations, Department of Social and Economic Affairs. *Sustainable Development Outlook 2021 Overview: From Anguish to Determination* (esp. Ch. 1), 2021.

Jeffrey D. Sachs, *The Age of Globalization: Geography, Technology, and Institutions*, Columbia University Press (esp. Ch.1, Ch.8 & Ch.9), 2020.

Jeffery D. Sachs. Guillaume Lafortune, Christian Kroll, Grayson Fuller, and Finn Woelm *Sustainable Development Report 2022: From Crisis to Sustainable Development: SDGs as a Roadmap to 2030 and Beyond*, 2022.

World Bank, *World Development Report 2016: Digital Dividends* (esp. Overview), 2016.

World Bank, *World Development Report 2019: The Changing Nature of Work* (esp. Overview, Ch. 1, Ch.2 & Ch.7), 2019.

Business and Sustainable Development Commission, *Better Business, Better World*, January 2017.

5. 履修上の注意/Note:

email: i-ohno@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5010EA

科目名/Course Name: Policy Debate Seminar I

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to enhance students analytical and communication skills to become better political leaders or researchers in the field of public administration, political science, or economics. We will discuss how we can apply our academic knowledge to better understand and/or solve the real world problems.

The course takes the active learning style. Students are required to make presentations on assigned readings, topics based on own interest, or progress of own research for Ph.D. thesis. Other students who are not assigned for presentation are required to actively participate in debates.

All G-cube students are required to take this course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

This is 2 credit course held in the fall to winter term. Detailed course outline and schedule will be determined at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading is based on presentations and homeworks (50%), and classroom participation and discussion (50%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

No required textbook.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5010EB

科目名/Course Name: Policy Debate Seminar I

担当教員/Instructor: 田中 誠 他/TANAKA Makoto, et al.

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Policy Debate Seminars (PDS) I and II are required courses for all students in the One-year Public Policy Program (MP1) and Two-year Public Policy Program (MP2), which will be group supervision mainly for their policy report.

Students are expected to develop ideas for the policy report and prepare a proposal of their research in PDS I in the winter term. Based on the proposal, students will conduct their research and write up its results in a policy report in PDS II in the spring term.

Students are required to present and submit the proposal by the end of PDS I. In this process, students are expected to acquire basic skills required for successful policy making.

The policy report, which is to be submitted as the final output of PDS II, will be a cap-stone paper for MP1 students and will be a good etude for MP2 students before writing a full-fledged thesis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Seminars are run separately by each concentration. Students will belong to one of the four concentrations:

- Economic Policy (EP), Leader: Prof. YAMAZAKI, Akio
- International Development Studies (IDS), Leader: Prof. YAMAUCHI, Chikako
- International Relations (IR), Leader: Prof. CHEY, Hyoung-kyu
- Public Policy (PP), Leaders: Prof. MOROHOSI, Hozumi and Prof. OYAMA, Tatsuo

The details are described in their concentration guides, which are provided separately. The concentration guides clarify the scope and objective of these concentrations as well as guidelines for courses that students are required and/or strongly recommended to take in order to successfully achieve the goals set by these concentrations.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Seminar participation, performance at presentation of own research, and its written output are considered.

PDS I will be graded on a pass/fail basis.

PDS II will award students with a letter grade (A-E).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

N/A

5. 履修上の注意/Note:

After taking PDS1 in the winter term, students of MP1/MP2 programs continue their study in PDS2 in the same concentration.

Paper supervision is conducted in each concentration group.

[For MP2 Students]

MP2 students take PDS1 and PDS2 in their first

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5020EA

科目名/Course Name: Policy Debate Seminar II

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is open to G-cube students. It will survey major theories of public administration, political science, and economics and then discuss how these theories are applied to solve major policy issues in the real world. It will also provide communication skill training through students presentation, debates, simulation games, and mock conferences.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

More than 90% of attendance is required to earn a credit. Grading is based on homework (40%) and participation in class discussion (60%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5020EB

科目名/Course Name: Policy Debate Seminar II

担当教員/Instructor: 田中 誠 他/TANAKA Makoto, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Policy Debate Seminars (PDS) I and II are required courses for all students in the One-year Public Policy Program (MP1) and Two-year Public Policy Program (MP2), which will be group supervision mainly for their policy report.

Students are expected to develop ideas for the policy report and prepare a proposal of their research in PDS I in the winter term. Based on the proposal, students will conduct their research and write up its results in a policy report in PDS II in the spring term.

Students are required to present and submit the proposal by the end of PDS I. In this process, students are expected to acquire basic skills required for successful policy making.

The policy report, which is to be submitted as the final output of PDS II, will be a cap-stone paper for MP1 students and will be a good etude for MP2 students before writing a full-fledged thesis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Seminars are run separately by each concentration. Students will belong to one of the four concentrations:

- Economic Policy (EP), Leader: Prof. YAMAZAKI, Akio
- International Development Studies (IDS), Leader: Prof. YAMAUCHI, Chikako
- International Relations (IR), Leader: Prof. CHEY, Hyoung-kyu
- Public Policy (PP), Leaders: Prof. MOROHOSI, Hozumi and Prof. OYAMA, Tatsuo

The details are described in their concentration guides, which are provided separately. The concentration guides clarify the scope and objective of these concentrations as well as guidelines for courses that students are required and/or strongly recommended to take in order to successfully achieve the goals set by these concentrations.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Seminar participation, performance at presentation of own research, and its written output are considered.

PDS I will be graded on a pass/fail basis.

PDS II will award students with a letter grade (A-E).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

After taking PDS1 in the winter term, students of MP1/MP2 programs continue their study in PDS2 in the same concentration.

Paper supervision is conducted in each concentration group.

[For MP2 Students]

MP2 students take PDS1 and PDS2 in their first

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5030EA

科目名/Course Name: Dissertation Proposal Seminar

担当教員/Instructor: 高橋 和志, KARUSIGARIRA Ian/TAKAHASHI Kazushi and KARUSIGARIRA Ian

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to help students with their academic writing. All G-cube students are required to take this course.

The course begins with some general writing skills, such as how to write topic sentence and thesis statement, and goes deeper into more specific skills, such as conducting literature review, developing relevant research questions, writing attractive introduction and successful research proposals that include approaches (methodology) and expected outcomes of students Ph.D. thesis.

Students are required to submit assignments as well as present and discuss their research proposals and progress several times during the course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

This is a 2-credit course held in the fall to winter term. Detailed course outline and schedule will be determined at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading is based on presentations and homeworks (60%), and classroom participation and discussion (40%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5110E

科目名/Course Name: Tutorial I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5110E

科目名/Course Name: Tutorial I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5110E

科目名/Course Name: Tutorial I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5110E

科目名/Course Name: Tutorial I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5120E

科目名/Course Name: Tutorial II

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5120E

科目名/Course Name: Tutorial II

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5120E

科目名/Course Name: Tutorial II

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5120E

科目名/Course Name: Tutorial II

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5130E

科目名/Course Name: Tutorial III

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5130E

科目名/Course Name: Tutorial III

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5130E

科目名/Course Name: Tutorial III

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5130E

科目名/Course Name: Tutorial III

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GGG5140E

科目名/ Course Name: Tutorial IV

担当教員/ Instructor: 関係教員/ Various

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5140E

科目名/Course Name: Tutorial IV

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5140E

科目名/Course Name: Tutorial IV

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5140E

科目名/Course Name: Tutorial IV

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5150E

科目名/Course Name: Tutorial V

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5150E

科目名/Course Name: Tutorial V

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5150E

科目名/Course Name: Tutorial V

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG5150E

科目名/Course Name: Tutorial V

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All G-cube students are required to take three tutorials before taking the qualifying exam. SBED students are required to take two tutorials after passing the qualifying exam.

Tutorials can begin in the following way. Students with a specific topic of study are encouraged to talk to a professor with research interest related to the topic. If the professor agrees to have a tutorial with the students, they make a reading list and schedule. They may also allow some other students sharing the same interest to join them. The tutorial is a small class with one tutor (that is, professor) and 2 to 5 students and no more than 5.

The students participating in a tutorial must be registered with the Academic Support Team during the registration period at the beginning of each term. A tutorial may be Tutorial I for a participant if it is his or her first tutorial, but the same tutorial may be Tutorial III for another participant if it is his or her third. Once a tutorial gets started, it lasts for 15 sessions (each session for 90 minutes) or equivalent class time and has to be completed within that term. Students read materials and form an opinion in advance and discuss with fellow students and the tutor during the class. The tutor listens to students' arguments and guides their discussion. Another important role of tutorials is to provide writing skill training. The tutor should require students to write short essays, summaries, and/or papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline will be provided at the first class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass or fail. 100% of attendance is required to earn a credit.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6010E

科目名/Course Name: Executive Seminar I

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for G-cube students. The details will be announced at the first session.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

To be announced at the first session

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced at the first session

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6010E

科目名/Course Name: Executive Seminar I

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for G-cube students. The details will be announced at the first session.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

To be announced at the first session

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced at the first session

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6020E

科目名/Course Name: Executive Seminar II

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for G-cube students. The details will be announced at the first session.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

To be announced at the first session

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced at the first session

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6020E

科目名/Course Name: Executive Seminar II

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for G-cube students. The details will be announced at the first session.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

To be announced at the first session

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced at the first session

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6030E

科目名/Course Name: Executive Seminar III

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for G-cube students. The details will be announced at the first session.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

To be announced at the first session

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced at the first session

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6030E

科目名/Course Name: Executive Seminar III

担当教員/Instructor: 高橋 和志/TAKAHASHI Kazushi

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for G-cube students. The details will be announced at the first session.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

To be announced at the first session

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced at the first session

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6040E

科目名/Course Name: Policy Workshop

担当教員/Instructor: 岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔/IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6040E

科目名/Course Name: Policy Workshop

担当教員/Instructor: 岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔/IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6040E

科目名/Course Name: Policy Workshop

担当教員/Instructor: 岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔/IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6040E

科目名/Course Name: Policy Workshop

担当教員/Instructor: 岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔/IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6050E

科目名/Course Name: G-cube Workshop

担当教員/Instructor: 木島 陽子, 岩間 陽子, 高木 佑輔/KIJIMA Yoko, IWAMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6050E

科目名/Course Name: G-cube Workshop

担当教員/Instructor: 岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔/IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6050E

科目名/Course Name: G-cube Workshop

担当教員/Instructor: 岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔/IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GGG6050E

科目名/Course Name: G-cube Workshop

担当教員/Instructor: 木島 陽子, 岩間 陽子, 高木 佑輔/KIJIMA Yoko, IWAMA Yoko and TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is one of the most important required courses for the G-Cube students. Only those G-cube students who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, even though other G-cube students and students in other programs are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants. They might face provocative comments but should learn how to balance the ego against them. The students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes as well as the successes made by the presenter. The participants can learn how to learn new things by listening to others, how to make constructive (and hence impressive) comments, how to ask valuable questions and so on.

Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD is somehow similar to having an international driving license, which allows you to attend any international conference or workshop. If you cannot ask any good question or make any good comment, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excel at doing research, presenting their finding, and enriching communication in academic community.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In each week, one of the students will present their own research and participate in discussion to enhance the research of their colleagues and the other will be assigned to be a discussant.

The other students are expected to give constructing comments.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class presentation and submission of a draft paper (one chapter of the thesis)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

None

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD1030J

科目名/Course Name: 外交アカデミー 3 (火木、19:30～21:30)

担当教員/Instructor: 粗 信仁/HOBO Nobuhito

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

- ・本講義は、履修者が日本外交の課題や我が国の発展と技術開発について、分析的・批判的に吟味・評価することで素養として身に付け、将来の国際交渉を行う際に世界的課題を広い視点から自分の頭で考え発信できるようになることを目指す。
- ・講義は多数の学識経験者や実務経験者によってオムニバス方式で行われる。このため、実際の講義は各講師と調整し順不同で行われる。
- ・「必読文献」や「推薦文献」は各講師の判断で提示されたため、事前事後の研鑽に活用ください。
- ・講義を中心に授業を進めるが、質疑応答・討議の時間も十分確保するよう努める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

【日本外交の課題】

第10回 SDG s

我が国自身の課題さらには援助供与国である我が国の課題として、我々はどうのように SDG s を理解し、対応策を実施していくべきかを論じる。

【日本の経済発展・技術開発】

第4回 世界経済史から見た日本の成長と課題

近年の日本経済の停滞を世界史的視点で分析しつつ、日本経済を成長させるためにはどのような政策が必要かを論じる。

第5回 DX の思考法

DX の基礎となる思考法論じ、デジタル時代の歩き方を説く。AI やディープラーニングの思考法を議論しつつ、デジタル化がもたらすインダストリアル・トランスフォーメーション (IX) についての理解を深める。

第6回 デジタル通商とデジタル貿易

国境を越えたデータ流通の分断化と最澄和の動きを追いつつ、我が国のデータ産業の特色とデジタル産業を日本の競争力に結び付ける政策や多国間ルール形成における今日的課題を論じる。

第7回 危機管理と技術開発

技術開発政策に不可欠な危機管理の視点について、実例をもとに理解を深める。その上で改めて技術開発の方向性を論じる。

第8回 先端技術と安全保障

米国における近年の政策と我が国の技術開発を俯瞰しつつ、経済安全保障の観点に基づく先端技術開発政策を論じる。

【日本の社会と文化】

第3回 日本の政治制度

政治制度の変遷とその力学を論じつつ、日本の政治制度の特色と課題は何か、政治家及び公僕である者はそれぞれどのように務めを果たしていくべきかを論考する。

第4回 地方創生の現状と課題

地方創生を実際に担う側の視点から、地方創生が上手くいかない理由、成功事例から得られるレッスン、価値の創造や伝統の創造の重要性やビジネスモデルの転換の重要性などを実証的に論じる。

第5回 仏教・近代・普遍性

多様な形で日本に根付いた仏教について、その根源である古典仏教にまでさかのぼり、その思想・哲学の変化を追いつつ、ユヴァル・ノア・ハラリなど現代の知識人にまで影響を及ぼした仏教の力を論じる。

【国・地域と日本の外交課題】

第3回 危機時代のアジア

世界のパワーバランスの変化と経済情勢の変化を踏まえつつ、ASEAN を中心とした我が国の外交の課題を分析し、具体的対応策をマクロとミクロ(各国ごと)の両面から論じる。

第4回 米中日関係と台湾情勢

台湾を巡る緊張を読み解きつつ、ウクライナ情勢が中国の対外関係に及ぼす影響を見極め、日本としての対応につき論じる。

第5回 中国経済情勢

これまで中国自身の安定と中国による対外関係を支えてきた中国経済の動向を、最新の情報を基に予断を持つことなく分析し、どのように日本の国益を最大化できるかを論じる。

第6回 朝鮮半島情勢

予断の難しい北朝鮮の瀬戸際外交と米中両大国とのはざままで揺れる韓国が、どのような外交オプションを持っているのか、基軸となる分析を示しつつ論じる。

第7回 インドと南西アジア

中長期的に日本を GDP 規模で追い越し世界第3位の経済大国となるとされるインドが、如何に現下の政治、経済的苦境に立ち向かうのか、中国と近隣諸国との関係の変化も踏まえ論じる。

第8回 中東情勢

宗教・宗派、民族、経済的利害が混在し、混乱を続ける中東情勢について、基本的視点を示しつつ分析し読み解くとともに、日本としてどのように対応していくべきかを論じる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への参加・貢献 (70%)

リアクションペーパー (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

授業ごとに事前あるいは事後に指定するのでその都度参照すること。

5. 履修上の注意/Note:

各講義の順番はあくまで仮の設定であり、実際は各講師の方々と調整し、春学期の前期・後期を通して順不同で行われます。2～3か月毎に確定する講義スケジュールを事前に確認してください。

なお、外交アカデミー・プログラム全体で8単位取得するよう設定していますが、6単位分の履修を希望する者は、事前にどの科目を受講しないか等のアレンジメントについて事務局と調整してください。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD1040J

科目名/Course Name: 外交アカデミー 4 (火木、19:30～21:30)

担当教員/Instructor: 粗 信仁/HOBO Nobuhito

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

・本講義は、履修者が「国・地域から見た日本外交の課題」及び「世界の課題と日本」を分析的・批判的に吟味・評価することで素養として身に付けるとともに、国際社会における事象を分析的・批判的に評価でき、将来の国際交渉を行う際の方向性や課題について自分の頭で考えることができるよう備えることを目指す。

・講義は多数の学識経験者や実務経験者によってオムニバス方式で行われる。このため、実際の講義は各講師と調整し順不同で行われる。

講師及び講義名を含む講義日程は、事前に 2～3 か月程度分を通知する。

・「必読文献」や「推薦文献」は各講師の判断で提示されるので、事前事後の研鑽に活用ください。

・講義を中心に授業を進めるが、質疑応答・討議の時間も十分確保するよう努める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

【国・地域と日本の外交課題】

第9回 米国政治情勢

大統領選後の米国の政治的動向や外交政策の動向を、具体的資料を基に分析し、米国の社会や世界への影響力がどう変わるのか、米国と日本がどのように関係を発展させることができるかを論じる。

第10回 米国の対外政策

米国のみならず欧州、中国、ロシアといった国際的プレイヤーの関係の最新情報を基に、国際的な力関係の変化の方向やそれを支配する経済や国内政治の動向を多角的に論じる。

第11回 欧州 (EU の行方)

新型コロナウイルス感染症とブレグジットに揺れる EU が、もう一度求心力を取り戻せるか、ロシアから来る安全保障上の脅威の動向と合わせ、変化する欧州の姿を読み解き論じる。

【世界の課題と日本】

第1回 令和の日本外交とその進路

戦略的外交の視点から世界の現状をどう見るべきか、どういう点を注視し判断していくのか、そこから生まれる日本の政策はどうあるべきかを論じる。

第2回 リベラル国際秩序への挑戦

世界のパワーバランスが大きく変化する中、これまでの「リベラル国際秩序」が権威主義体制国家やポピ

ユリズムの動きによってさまざまな形で挑戦を受けていることを分析し、日本としての対応を論じる。

第3回 食料安全保障

世界人口の増加と気候変動による食糧生産の不確実性に加え、ロシアのウクライナへの進行によって起こされた食料の供給不足、さらには肥料や趣旨の不足により生産が阻害されるなど同時多発する食糧危機どう備えるべきかを論じる。

第4回 法に基づく国際秩序について

法に基づく国際秩序の観点から、ウクライナ問題など国際社会が直面する諸課題に対して、どのような対応がとられるべきかを俯瞰し論じる。

第5回 国際金融体制の揺らぎと日本

大恐慌にも比べられる新型コロナの経済面への影響を国際金融の視点から論じ、日本の対応を考える。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への参加・貢献 (70%)

リアクションペーパー (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

授業ごとに事前または事後に指定するので、その都度参考にすること。

5. 履修上の注意/Note:

各講義の順番はあくまで仮の設定であり、実際は各講師の方々と調整し、春学期の前期・後期を通して順不同で行われます。2～3か月毎に確定する講義スケジュールを事前に確認してください。

なお、外交アカデミー・プログラム全体で8単位取得するよう設定していますが、6単位分の履修を希望する者は、事前にどの科目を受講しないか等のアレンジメントについて事務局と調整してください。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD1050J

科目名/Course Name: 外交アカデミー I (火木、19:30~21:30)

担当教員/Instructor: 粗 信仁/HOBO Nobuhito

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

- ・本講義は、履修者が「国際関係の基本的枠組み」、「日本外交の課題」、「日本外交の系譜」、「日本経済発展」またスピーチ作成など「対外発信力」を強化することで、将来の国際交渉を行う際に世界的課題を広い視点から自分の頭で考え発信できるようになることを目指す。
- ・講義は著名な学識経験者や経験に富む実務家によってオムニバス方式で行われる。このため、実際の講義は各講師と調整し順不同で行われ、秋学期と一部冬学期を通じて科目が完了するよう編成される。講師及び講義名を含む講義日程は、事前に2~3か月程度分を通知する。
- ・「必読文献」や「推薦文献」は各講師の判断で提示されるので、事前事後の研鑽に活用ください。
- ・講義を中心に授業を進めるが、質疑応答・討議の時間も十分確保するよう努める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

【国際関係の基本的枠組み】

第1回 国際関係論の系譜

国際関係論の系譜について、明治期日本の論考やカント等の古典を紐解きつつ、枠組みの全体像を俯瞰し論じる。

第2回 国家と国際関係

国民国家やその関係について、その形成過程を論じることにより、現在の国家や国際関係の概念がどのように発展してきたかを解き明かす。

第3回 経済と国際関係

経済上の力関係の変化が国家間の関係にどのように影響を及ぼすのか、長期的なパワー・トランジション、覇権国の交代や国際秩序といった今後の可能性と我が国の課題を論考する。

第4回～第6回 国際法①②③

国際交渉の基礎であり今や膨大な体系となった国際法につき基本的枠組みとその事例提示しつつ、3回にわたる講義の中で、情報・宇宙といった新たな交際法上の課題についても解説する。

【日本外交の課題】

第1回、第2回 安全保障①②

日本を巡る安全保障の現況と政策を「北朝鮮の核・ミサイル開発、中国の台頭、日本の対応」と「日本の安全保障政策と日米同盟」といった多角的視点から論じる。

第3回、第4回 経済安全保障①②

世界貿易体制の現状を俯瞰するとともに、先端技術開発や新型コロナ後に起こりうる変化をふまえて、我が国の経済安全保障政策を論じる。

第5回 経済連携とルール形成戦略およびビジネスと人権

激動するグローバルな通商への対応は、経営への影響が大きく官民による積極的対応が必要なこと、また、官民連携によるルール形成戦略を通商政策の柱とすることが必要なことを、実証的に論じる。

第6回 国連の抱える課題と日本の対応

戦後のリベラルな国際秩序が政治的、経済的にも社会的にも深刻な挑戦に直面しているが、秩序の守り手である国連はどのような役割を果たしうるのか、また日本はどのように対応すべきかを論じる

第7回 国際交渉の現場と理論

国益をかけ対応しなければならない国際交渉の現場では、何を守りどう対応すべきか、現場での実態を踏まえつつ論考し、実践的な課題（架空の経済的交渉）の研修も合わせ行う。

第8回 エネルギー情勢の変化と日本の対応

急変する世界情勢とエネルギー情勢を俯瞰した上で、技術の急速な変化も踏まえつつ、我が国としての最適なエネルギー政策をどのように考えていくべきかを論じる。

第9回 国連と社会的課題：ジェンダー

開発途上国か先進国化を問わず、世界の共通目標として SDGs に取り上げられているように、ジェンダーの問題は広範な影響を持つことを論じ、多面的な対応を必要としていることを考察する。

【日本外交の系譜】

第1回、第2回 日本外交における対外認識とリーダーシップ①②

明治維新誕生に果たした武士階級の統治者の役割や、日本としての近代国家がどのように作られ、第二次大戦に至るまで政治決定のあり方がどのように変質していったか、また同様に戦後についても政治決定のあり方がどう変遷したかを論じる。

第3回 中印関係の現代史と日本

やがて世界の超大国になるとされる中印関係に秘められた深刻な相克についての現代史と我が国の外交関係をたどりつつ、将来への課題を論じる。

第4回 ODA 政策の軌跡と課題

我が国 ODA を論じる際によくある誤解を正しながら、現在ある ODA 政策の根源を解き明かし、今後の我が国の ODA 政策をどのようなものとするべきかにつき討議する。

第 5 回 アジア外交の展望

世界の富と力の分布といったマクロの趨勢を俯瞰しつつ、米中対立などアジアで起きている変化を論じ、日本として、どのような対アジア外交を展開していくべきかを論じる。

【日本経済発展・技術開発】

第 1 回、第 2 回、第 3 回 日本経済発展史①②③

海外で最もよく質問される日本の経済発展について、時代区分（Economic Development-Meiji Era-Taisyo-Early Syowa, Postwar Recovery and High Growth, Economic Maturity and Slowdown）を追って学びなおす。
（使用言語、英語）

第 4 回 世界経済史から見た日本の成長と課題

近年の日本経済の停滞を世界史的視点で分析しつつ、日本経済を成長させるためにはどのような政策が必要かを論じる。

第 5 回 DX の思考法

DX の基礎となる思考法論じ、デジタル時代の歩き方を説く。AI やディープラーニングの思考法を議論しつつ、デジタル化がもたらすインダストリアル・トランスフォーメーション (IX) についての理解を深める。

第 6 回 デジタル通商とデジタル貿易

国境を越えたデータ流通の分断化と最澄和の動きを追いつつ、我が国のデータ産業の特色とデジタル産業を日本の競争力に結び付ける政策や多国間ルール形成における今日的課題を論じる。

第7回 危機管理と技術開発

技術開発政策に不可欠な危機管理の視点について、実例をもとに理解を深める。その上で改めて技術開発の方向性を論じる。

第8回 先端技術と安全保障

米国における近年の政策と我が国の技術開発を俯瞰しつつ、経済安全保障の観点に基づく先端技術開発政策を論じる。

【国際発信力強化】

第1回～5回 スピーチ作成・対外情報発信

我が国首相や世界のトップ・リーダーのスピーチがどのように作られるのかを分析しつつ、スピーチとは何か、優劣を分かちポイントは何かを論じ、国際的に通用するスピーチを作る手法を説く。

また日本にとって国際的な情報発信が持つ意味の重要性と有効な対外発信とは何かを論じる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への参加・貢献 (70%)

リアクションペーパー (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

授業ごとに事前あるいは事後に指定するのでその都度参照すること。

5. 履修上の注意/Note:

講義の一部は冬学期（2月・3月）にも実施されます。

外交アカデミーIと外交アカデミーIIを通して全体のプログラムを組むため、各講義の順番はあくまで仮の設定であり、実際は各講師の方々と調整し順不同で行われます。

2～3か月毎に確定する講義スケジュールを事前に確認してください。

期間中に Selected Topics in Policy Studies(Diplomatic Communication)（原則火曜日・計11回）を実施します。

外交アカデミーとは別の科目になりますので、履修希望

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2100J

科目名/Course Name: 国際関係の理論と研究方法

担当教員/Instructor: 田中 明彦/TANAKA Akihiko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

「国際関係の理論と研究方法」と「国際関係の理論と研究方法演習」の二つの継続する授業は、GLD 所属学生が英語で修士論文を執筆するために必要な能力と認識を獲得することを補助するプロセスである。「国際関係の理論と研究方法」では、学術論文のあり方、科学的方法の概観を行ったのち、国際関係の理論に関する古典的・代表的な英語論文を読み、どのような理論が存在するかの認識を高める。次いで、さまざまな研究論文に触れることによって、学術論文のさまざまなあり方に触れる。この授業は SDG16、17 におもに関連している。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 授業の概観

久米郁男『原因を推論する-政治分析方法論のすすめ』（有斐閣、2013）（できるだけ早く読了してください）

第2回 科学方法論

配布資料

第3回 国際関係理論

Stephen M. Walt, "International Relations: One World, Many Theories," *Foreign Policy* (Spring, 1998), pp.29-46.

第4回 パワー

Michael Beckley, "The Power of Nations: Measuring What Matters," *International Security*, Vol.43, No.2 (Fall 2018), pp.7-44.

第5回 政策決定のモデル

Graham T. Allison, "Conceptual Models and the Cuban Missile Crisis," *The American Political Science Review*, Vol. 63, No. 3 (Sep., 1969), pp. 689-718

第6回 プロスペクト理論

Daniel Kahneman and Amos Tversky, "Prospect Theory: An Analysis of Decision under Risk," *Econometrica*, Vol. 47, No. 2 (Mar., 1979), pp. 263-292

第7回 交渉・集合行為

Robert D. Putnam, *Diplomacy and Domestic Politics: The Logic of Two-Level Games*, *International Organization*,

Vol. 42, No. 3 (Summer, 1988), pp. 427-460.

Garret Hardin, "The Tragedy of the Commons," *Science*, Vol. 162, December 1968, pp.1243-1248.

第 8 回 民主主義平和論

Michael W. Doyle, "Kant, Liberal Legacies, and Foreign Affairs," *Philosophy & Public Affairs* , Vol. 12, No. 3 (Summer, 1983), pp. 205-235

Michael W. Doyle, "Kant, Liberal Legacies, and Foreign Affairs, Part 2," *Philosophy & Public Affairs* , Vol. 12, No. 4 (Autumn, 1983), pp. 323-353

第 9 回 冷戦後の世界

John J. Mearsheimer, *Back to the Future: Instability in Europe after the Cold War*, *International Security*, (Summer 1990), Vol.15, No.1, pp.5-56.

Charles Krauthammer, "The Unipolar Moment," *Foreign Affairs*, 1990/1991, Vol. 70, No. 1, pp. 23-33

第 10 回 観念と国際政治

Francis Fukuyama, "The End of History?" *The National Interest*, No. 16 (Summer 1989), pp. 3-18

Alexander Wendt, *Anarchy is what States Make of it: The Social Construction of Power Politics*, *International Organization*, Vol. 46, No. 2 (Spring, 1992), pp. 391-425

第 11 回 研究事例:国際秩序、気候変動

Alastair Iain Johnstone, "China in a World of Orders: Rethinking Compliance and Challenge in Beijing's International Relations," *International Security*, Vol.44, No.2 (Fall 2019), pp.9-60.

Robert O. Keohane and Michael Oppenheimer, "Paris: Beyond the Climate Dead End through Pledge and Review?" *Politics and Governance*, Vol.4, Issue 3, pp.142-151.

第 12 回 研究事例:歴史

Stephen D. Krasner, "Organized hypocrisy in nineteenth century East Asia," *International Relations of the Asia-Pacific* , Vol. 1, No. 2 (2001), pp. 173- 197

Shin'ichi Kitaoka, "The Army as a Bureaucracy: Japanese Militarism Revisited," *The Journal of Military History*, Vol. 57, No. 5 (Oct., 1993), pp. 67-86

第 13 回 研究事例:抑止・危機

Bruce M. Russett, "Pearl Harbor: Deterrence Theory and Decision Theory," *Journal of Peace Research*, Vol. 4, No. 2 (1967), pp. 89-106

Mark L. Haas, "Prospect Theory and the Cuban Missile Crisis," *International Studies Quarterly*, Vol.45, No.2 (June 2001). pp.241-270.

第 14 回 研究事例:シンボル・相互依存

Akihiko Tanaka, *The Yasukuni Issue in Japan's International Relations*, Tsuyoshi Hasegawa and Kazuhiko Togo, eds. *East Asia's Haunted Present: Historical Memories and the Resurgence of Nationalism* (Westport, Connecticut: Praeger Security International, 2008)

Henry Farrell and Abraham L. Newman, "Weaponized Interdependence: How Global Economic Networks Shape State Coercion," *International Security*, Vol. 44, No.1 (Summer 2019), pp.42-79.

第15回 研究事例: 数量分析

Helen V. Milner with Keiko Kubota, "Why the Move to Free Trade? Democracy and Trade Policy in the Developing Countries," *International Organization*, 59 (Winter 2005), pp.107-143.

Andrew Chubb, "PRC Assertiveness in the South China Sea: Measuring Continuity and Change, 1970-2015" *International Security*, Vol.45, No.3 (Winter 2020/21), pp.79-121.

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席 (30%)、授業中の発言 (30%)、リサーチ・プロポーザル (40%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

各授業のテーマに記載

5. 履修上の注意/Note:

毎回、指定文献を事前に読んでくることを前提に、ディスカッションを中心に授業を進める。疑問点や討論に値する論点を事前に考えてきて授業に参加することが求められる。最終課題は、受講者が修士論文で取り組む研究に関するリサーチ・プロポーザルである。自らがどんなテーマの研究をどのような方法で行うかについて、この授業の間じっくり考えてみてほしい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2410J

科目名/Course Name: 国際経済交渉論(水、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 篠田 邦彦/SHINODA Kunihiro

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

・本講義では、通商政策、貿易経済協力政策、国際エネルギー・環境政策の戦略や実践について学ぶとともに、1980年代以降のアジアにおける産業サプライチェーンの拡大や消費市場の発展を後押しした二国間・地域的なEPA/FTAなどの経済統合、産業・エネルギー協力の変遷を振り返る。

・また、米中貿易摩擦、パンデミック、ロシアのウクライナ侵略が起きる中での「インド太平洋構想」、「一带一路構想」などアジアを中心とする新たな地域秩序を模索する動きを概観し、通商、技術、デジタル、インフラ等の国際ルール形成や国際協力により連携を進める戦略を分析する。

・本講義は、履修者が国際経済交渉の現実を理解し、自らも効果的かつ建設的な国際交渉を実施することができるようになることを目指す。

・国際経済交渉の進め方（国際経済交渉の事前準備、会議設定、相手国との調整、交渉の進捗管理、交渉とりまとめ等）について、毎回の講義で順次説明を行う。

・在外公館、政府機関、国際機関など海外で活躍する政策担当者を特別講師として招聘し、対外経済政策の現場での政策展開の知見を共有する。（2～3回）

・毎回、講義当日までに「参考文献」を読んでおくこと。「推薦文献」は読まなくてもよいが、各自、関心があれば読むようにすること。

・履修者による質疑応答・討議の時間も十分確保するよう努める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 国際経済交渉（総論）

オリエンテーション（講師、履修者の自己紹介）及び国際経済交渉論の全体像に関する説明（歴史的・地域的な俯瞰）を行う。

◆国際経済交渉の進め方①国際会議の開催(1)

第2回 通商政策の戦略と実践

WTO を中心とする多角的自由貿易体制の維持・強化、FTA による二国間・地域的な市場アクセス・ルール整備、経済安全保障・デジタル・グリーン・人権等の新たな分野でのルール整備など通商政策の戦略と実践について概観する。

◆国際経済交渉の進め方②国際会議の開催(2)

【参考文献】

「新局面の通商政策（上）—メガFTA戦略の展開カギ（日本経済新聞・経済教室）」

（木村福成 慶応義塾大学教授）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO68252940Y1A110C2KE8000/>

「新局面の通商政策（中）—TPP拡大、米復帰後に推進（日本経済新聞・経済教室）」

（中川淳司 中央学院大学教授）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO68294020Z10C21A1KE8000/>

「新局面の通商政策（下）—RCEP、TPPと対立せず（日本経済新聞・経済教室）」

（大庭三枝 神奈川大学教授）

<https://www.nikkei.com/article/DGXKZO68333030Q1A120C2KE8000/>

第3回 貿易経済協力政策の戦略と実践

資金協力によるハード・インフラ整備、技術協力による人材育成・制度整備等を通じた我が国のインフラシステム海外展開の戦略と実践について概観する。

◆国際経済交渉の進め方③インフラシステム海外展開

【参考文献】

「インフラシステム海外展開戦略 2025 (令和4年6月追補版)」第1章・第2章 (経協インフラ戦略会議)

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keikyou/dai54/infra.pdf>

「戦略的なインフラシステムの海外展開に向けてー2021年度版ー」(日本経済団体連合会)

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2022/023.html>

第4回 国際エネルギー・環境政策の戦略と実践

カーボンニュートラル実現、エネルギーセキュリティ確保、アジアでのエネルギー・トランジションに向けた国際エネルギー・環境政策の戦略と実践について概観する。

◆国際経済交渉の進め方④マルチ・プルリ会合のコツ

【参考文献】

「エネルギー白書2022」(資源エネルギー庁)

第2章 カーボンニュートラル実現に向けた課題と対応

https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022/pdf/1_2.pdf

第3章 エネルギーを巡る不確実性への対応

https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022/pdf/1_3.pdf

第5回 国際経済交渉戦略の形成・実施プロセスと政官財関係

通商交渉、貿易経済協力、エネルギー・環境協力を進める際の国内ステークホルダー(国会議員、産業界、大学・研究機関)との調整プロセス、官民一体となった協議プロセス、施策の普及プロセスについて説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑤政策ニーズの取り込み

【参考文献】

「企業戦略としてのルール形成に向けて」（経済産業省）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/pdf/001_03_00.pdf

平成 28 年度外務省外交・安全保障調査研究事業

「ポスト TPP におけるアジア太平洋の経済秩序の新展開」

「第 17 章 FTA 締結に伴う国内対策のあり方ー日米比較を通じた評価ー」（久野新）

https://www2.jiia.or.jp/pdf/research/H28_Post-TPP/17-kuno.pdf

第 6 回 事例研究（★）ASEAN 経済統合とアジア通貨危機への対応

1985 年のプラザ合意以降加速した我が国企業のアジア進出によるサプライチェーンの拡大と ASEAN 経済統合のプロセス、また、1990 年代末に起きたアジア通貨危機への政策的対応について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑥日本の強みの活用

【参考文献】

「アジア経済再生ミッション」報告書（21 世紀のアジアと共生する日本を目指して）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asiakeizai/saisei/hokoku.html>

第 7 回 事例研究（★）日 ASEAN 経済協力、メコン地域開発支援

日本と ASEAN 諸国間の経済・産業協力の歴史を概観するとともに、特に中国・インドとの結節点に位置するメコン地域への開発支援の課題と方向性について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑦相手国の動かし方

【参考文献】

「東アジア経済統合における中国の台頭と東アジア地域秩序の変容」(政策研究大学院大学 大辻義弘、篠田邦彦) (別途配布予定)

第8回 事例研究 (★) 日 ASEAN 包括的経済連携 (AJCEP)、ASEAN との二国間 EPA

2000 年代初めから始まった日本と ASEAN の二国間 EPA 及び日 ASEAN 包括的経済連携 (AJCEP) の交渉の推移について概観するとともに、二国間 FTA と地域的 FTA の両者の相違・相乗効果について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑧海外仕事関係者との付き合い方

【参考文献】

「日 ASEAN 包括的経済連携協定 (AJCEP) ～その概要と二国間 EPA との比較～」(みずほ総合研究所)

<https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/mhri/research/pdf/policy-insight/MSI080512.pdf>

第9回 事例研究 (★) アジア太平洋経済協力 (APEC)

1980 年代末に日本と豪州の提案により始まった APEC の貿易・投資の自由化・円滑化、経済・技術協力等の取組を説明するとともに、アジア太平洋の重層的な地域協力に果たした役割を概観する。

◆国際経済交渉の進め方⑨EPA/FTA 交渉の進め方(1)

【参考文献】

「アジア太平洋経済と通商秩序ー過去、現在、未来ー」(ITI 調査研究シリーズ)

1. 保護主義の台頭に直面する APEC (浦田秀次郎)
2. 揺らぐアジア太平洋の通商秩序と APEC の役割 (馬田啓一)
3. TPP の母体としての APEC の可能性 (石戸光)

http://www.iti.or.jp/report_88_1.pdf

第 10 回 事例研究 (★) 東アジア地域包括的経済連携 (RCEP)

AJCEP など ASEAN+1 の FTA をネットワーク化した RCEP の意義や仕組みについて明らかにするとともに、2021 年発効後の今後の展望について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑩EPA/FTA 交渉の進め方(2)

【参考文献】

「「成長」が課題の RCEP TPP 未満、WTO 以上のメガ FTA」(みずほ総合研究所)

<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/pl201130.pdf>

「国問研戦略コメント (2020-16) インド太平洋の経済連携と RCEP」(日本国際問題研究所)

www.jiia.or.jp/strategic_comment/2020-16.html

第 11 回 事例研究 (★) 包括的および先進的な環太平洋パートナーシップ協定 (CPTPP)、日中韓自由貿易協定 (FTA)、日中韓経済協力

RCEP よりさらに質の高い市場アクセスやルール整備の実現を目指す CPTPP、日中韓 FTA、日 EU・EPA の交渉の経緯や今後の方向性、RCEP との重層的な FTA 交渉の意義について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑪TPP に学ぶ交渉術

【参考文献】

「CPTPP が年末に発効－高度なルールの実現に加え、早期の拡大にも期待－」(菅原淳一 みずほ総合研究所政策調査部主席研究員)

<https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/mhri/research/pdf/insight/pl181101a.pdf>

中国の CPTPP 加入にどう向き合うか (川瀬剛志 上智大学教授)

https://www.rieti.go.jp/jp/columns/a01_0662.html

「日中韓 FTA と日中韓の第三国市場協力の可能性」(石戸光 千葉大学教授)

<http://www.world-economic-review.jp/impact/article1509.html>

第 12 回 事例研究 (★) 日中経済協力

2000 年代以降急速な経済成長を実現し、「世界の工場」から「世界の市場」へと変貌を遂げた中国に対する産業・エネルギー協力やビジネス環境整備の取組について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑫中国との付き合い方

【参考文献】

創られた危機感と「団結」－習体制は現実的課題と向き合えるか（川島真東京大学教授）

http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2022/11/Vol176_p6-15_The_Emphasized_Sense_of_Crisis.pdf

経済正常化を目指す 2023 年の中国－重要会議で「ウイズコロナ」下の経済政策を決定－（月岡直樹みずほリサーチ&テクノロジーズ調査部アジア調査チーム主任エコノミスト）

<https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/report/2022/pdf/insight-as221226.pdf>

中国「一带一路」開発協力戦略の転換（北野尚宏早稲田大学教授）

http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2022/09/Vol175_p24-29_chinas_development_assistance_strategy.pdf

第 13 回 事例研究（★）日印 EPA、日印経済協力

中国に続く新興国として脚光を浴びるインドとの EPA、産業協力、第三国協力の動向について説明するとともに、インド太平洋協力等における連携の可能性について概観する。

◆国際経済交渉の進め方⑬インドとの付き合い方

【参考文献】

「ロシアのウクライナ戦争をめぐるインドの一貫した立場と今後」伊藤融 防衛大学校人文社会科学群国際関係学科教授

https://www.spf.org/iina/articles/toru_ito_11.html

「西進する中国、東進するインド～インド洋太平洋貿易における中国とインド～」大木博巳 国際貿易投資研究所研究主幹

<https://www.iti.or.jp/kikan123/123oki.pdf>

「インドの経済・政治情勢～総じて安定成長が見込まれるも、構造改革推進が課題～」福地亜希 国際通貨研究所経済調査部主任研究員

<https://www.iima.or.jp/docs/newsletter/2022/nl2022.34.pdf>

第 14 回 事例研究 (★) 米中貿易摩擦と新たなルール形成

米中貿易摩擦やパンデミックの中でデカップリングによるサプライチェーン分断リスクを回避し、通商、技術、デジタル、インフラ等の国際ルールを形成し、遵守を働きかける通商戦略の実践について説明する。

◆国際経済交渉の進め方⑭東京・海外間のマネジメント

【参考文献】

「中ロに対峙する 2022 年のバイデン外交と日米同盟の意義」(渡部恒雄 笹川平和財団上席研究員)

https://www.spf.org/jpus-j/spf-america-monitor/spf-america-monitor-document-detail_111.html

「進む米国の対中経済安全保障強化 バイデン政権が目指す優位性・自立性・安全性確保」(菅原淳一 みずほリサーチ&テクノロジーズ調査部主席研究員)

<https://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2021/pdf/insight-pl210630.pdf>

「日本企業の意識「低くない」 政府は機微技術の特定を」(小久保憲一 経団連外交委員長企画部会長)

<https://www.asahi.com/articles/ASP306JTSP3XULZU005.html>

第 15 回 事例研究 (★) 一帯一路構想とインド太平洋協力

【参考文献】

ユーラシア大陸での広域経済圏の形成に向けた中国の「一帯一路構想」と日米豪印 ASEAN が各々進めるインド太平洋構想を説明し、インド太平洋協力の進むべき方向性について概観する。

◆国際経済交渉の進め方⑮広報・プレゼンスの強化

How America Can Shore Up Asian Order Kurt M. Campbell and Rush Doshi

<https://www.foreignaffairs.com/articles/united-states/2021-01-12/how-america-can-shore-asian-order> (→ アクセス制限があるため、電子ファイルの記事を共有します)

「米国のインド太平洋戦略：米国の役割強化と同盟国との協調による実現」(菅原淳一 みずほリサーチ&テクノロジーズ調査部主席研究員)

<https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/report/2022/pdf/insight-pl220215.pdf>

「中国の「一帯一路」と日米のインド太平洋への姿勢－経済的枠組みをめぐるインド太平洋戦略・構想との相互関係性－」(荒木千帆美 外交防衛委員会調査室)

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2022pdf/20221101111_1.pdf

「ASEAN のインド太平洋構想 (AOIP)：求められる構想の具体化と FOIP との連携」(石川幸一 亜細亜大学アジア研究所特別研究員)

http://www.iti.or.jp/report_101.pdf

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末レポート (60%)

質疑・議論への参加・貢献 (40%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

【参考文献】

「2. 各授業のテーマ」の中に記載しているが、2022年度の開講時期が近づいた段階でアップデートする予定。

【推薦文献】

「一帯一路の政治経済学～中国は新たなフロンティアを創出するか」平川均・町田一兵・真家陽一・石川幸一編著 (2019年、文眞堂)

「岐路に立つアジア経済～米中対立とコロナ禍への対応」石川幸一・馬田啓一・清水一史編著 (2021年、文眞堂)

「RCEP と東アジア」石川幸一・清水一史・助川成也編著 (2022年、文眞堂)

「コロナ禍で変わる地政学～グレート・リセットを迫られる日本」国際経済連携推進センター編（2022年、産経新聞出版）

「アジア経済とは何か～躍進のダイナミズムと日本の活路」後藤健太著（2019年、中公新書）

「デジタル化する新興国～先進国を超えるか、監視社会の到来か」伊藤亜聖著（2020年、中公新書）

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2420J

科目名/Course Name: 経済政策分析(金、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 川崎 研一/KAWASAKI Kenichi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義は、現下の経済動向を踏まえ、経済政策の重要な諸課題について、定量的な経済効果の分析を習得することを目的とする。

その際、基礎的な経済学の理論を基に、現実の経済データを踏まえ、経済モデルによるシミュレーションを通じて、Evidence Based Policy Making (EBPM)の応用を図る。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 インTRODダクション

第2～3回 経済活動

国民経済計算の体系、マクロ経済動向

第4～5回 景気変動

景気動向指数の利用、景気動向

第6～7回 マクロ経済政策

財政金融政策の効果、財政金融動向

第8～10回 経済モデル

経済モデルの枠組、マクロ計量モデルの概要、応用一般均衡モデルの構造

第 11～12 回 貿易政策

貿易政策の効果、貿易動向

第 13～14 回 事例研究

第 15 回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート (70%)

討論への参加・貢献 (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

【参考文献】

World Economic Outlook, International Monetary Fund (IMF)

OECD Economic Outlook, Organisation for Economic Co-operation and Development

Global Economic Prospects, World Bank

5. 履修上の注意/Note:

各回の授業は進捗により前後する場合がある。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2430J

科目名/Course Name: 応用国際金融論

担当教員/Instructor: 伊藤 隆敏/ITO Takatoshi

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、次のトピックについて解説、分析、討論を行う。(I) 国際金融の基礎的な概念と理論を解説したあと、日本の国際金融政策の歴史を概観する。(II) 通貨危機の原因、波及経路、他国への伝播。とくに、アジア通貨危機（1997-98 年）はなぜ起きたのか、世界金融危機（2008-09 年）はなぜ起きたかの解明を行う。(III) 通貨危機の予防と、通貨危機管理など政策課題。(IV) 円の国際化と人民元の国際化を比較検討。毎回、指定論文を読んできたうえで、討論を中心に議論を進める。

この授業を履修することにより、国際金融、とくに国際収支、通貨体制、新興市場国の通貨危機、日本円と人民元の国際化などのトピックについての分析能力を学び、国内調整・国際交渉等における論理だった主張を展開する技術を身に着けることができる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

6月10日	I	講義内容の概観
	II	国際収支表、外貨準備、通貨危機（伝統的と21世紀型）
6月17日	I	為替レート（体制）の基礎と円の歴史
	II	メキシコ（1994年）・アジア通貨危機（1997-98年）
6月24日	I	アジア通貨危機におけるIMFの役割
	II	通貨危機・銀行危機・財政危機
7月1日	I	中間試験（内容の理解度チェック、筆記、もしくは口頭）
	II	最後の貸し手（Bail out）期待論と貸し手責任論（Bail in）
7月8日	I	アジアの域内金融協力
	II	アジア諸国の金融政策と通貨体制
7月15日	I	(Zoom) 金融監督政策と資本規制
	II	(Zoom) 円の国際化と元の国際化
7月22日	I	新型コロナ禍、Decoupling と政策対応
	II	まとめ
7月29日	I	グループプロジェクト発表会
	II	グループプロジェクト発表会

（日程については、諸事情で、対面・オンラインの授業形式の変更、休講・補講の措置などが取られることがあるので、メール等の連絡に注意すること。）

3. 成績の評価方法/ Grading:

クラス参加 20%

中間試験（筆記または口頭）30%

期末試験（グループまたは個人発表とレポート提出）50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(I) 国際収支について

「国際収支関連統計」の解説。 <https://www.boj.or.jp/statistics/outline/exp/exbpsm6.htm/>

(* Ito, Takatoshi, (2007), Asian Currency Crisis and the IMF, Ten Years Later: Overview Asian Economic Policy Review, vol. 2, no. 1, June 2007: 16-49.

(* IMF, Independent Evaluation Office (2003) "The IMF and Recent Capital Account Crises: Indonesia, Korea, Brazil"

<https://ieo.imf.org/en/our-work/Evaluations/Completed/2003-0728-the-imf-and-recent-capital-account-crises-indonesia>

(* Park, Cyn-Young and Jong-Wha Lee, (2011), Financial Integration in Emerging Asia: Challenges and Prospects, AEPR, vol.6, no.2: 176-198.

(* Webinar: Central Banking in the COVID-19 Era featuring Haruhiko Kuroda, Governor, Bank of Japan and Janet L. Yellen, former Chair, the Federal Reserve Board.

<https://www8.gsb.columbia.edu/cjeb/webinars/JapaneseEconomyintheCOVID-19era>

(* IMF, Independent Evaluation Office (2020). IMF Advice on Capital Flows, Evaluation Report 2020. Chapters 1-4.

<https://ieo.imf.org/en/our-work/Evaluations/Completed/2020-0930-imf-advice-on-capital-flows>

(* Ito, Takatoshi and Takeo Hoshi, (2020) The Japanese Economy: 2nd Edition, MIT Press: Ch. 5.

(* Ito, Takatoshi (2017). A New Financial Order in Asia: Will a RMB bloc emerge? Journal of International Money and Finance, vol. 74, June: pp. 232-257.

<https://doi.org/10.1016/j.jimonfin.2017.02.019>

(* Huang, Yiping and Xu Wang, 2017. Building an Efficient Financial System in China: A Need for Stronger Market Discipline AEPR vol. 12 (2): 188-205.

5. 履修上の注意/Note:

(1) 講義は日本語で行う。試験・提出物、討論、グループ発表は日本語でも英語でも構わない。

(2) 日程については、諸事情で、対面・オンラインの授業形式の変更、休講・補講の措置などが取られることがあるので、毎週の授業内、メール連絡等に注意する

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2500J

科目名/Course Name: 外交戦略論(金、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 兼原 信克/KANEHARA Nobukatsu

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

日本の国家安全保障政策の決定過程を概観する。特に、2013年に立ち上がった国家安全保障会議、及び、国家安全保障局の意義役割を中心に、総理官邸の国家安全保障組織を理解する。その関連で、平成政治における政治主導の確立が国家安全保障政策決定過程をどう変えたかを考える。また、日本の政軍関係は、戦前は、軍の暴走、戦後は、政治による軍の忌避といういびつな形であった。令和時代の日本に、真の意味のシビリアンコントロール確立のために何が必要かを考える。続いて、国家安全保障政策の策定の仕方について考える。国家安全保障戦略とは、政治、外交、経済、価値観に亘る幅広い国益を実現しようとするものである。国益として、安全 I (戦略的安定と国家の安全)、繁栄、自由主義的価値観を取り上げ、それがなぜ大切なのか、どう守ればよいのかを考える。戦後日本の安全保障の根幹をなす日米同盟の変遷について触れる。また、令和日本の最大の課題である対中関与政策の成否、また、重要な隣国である対韓関係について学ぶ。最後に、個別の問題として、サイバー戦、宇宙戦と経済安全保障、歴史問題、領土問題、尖閣問題について学ぶ。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1講 日本の安全保障政策決定過程における政治主導の復活

第2講 新しい総理官邸と「政と官」

第3講 国家安全保障会議 (NSC) の創設

第4講 国家安全保障局 (NSS) の創設

第5講 シビリアンコントロール貫徹のための具体的提言—政治主導下の「政と軍」

第6講 日本のインテリジェンス

第7講 自由主義的国際秩序と自由主義、民主主義

第8講 戦略的安定と国家の安全

第9講 日米同盟の変遷と成熟

第10講 自由貿易体制、海洋立国戦略、投資立国戦略

第11講 対中大関与戦略と自由主義社会

第12講 日本と韓国—アイデンティティのアジア政治

第13講 サイバー戦、宇宙戦と科学技術・経済安全保障

第14講 国内冷戦から生まれた歴史戦の国際化

第15講 日本の領土と歴史—サンフランシスコ平和条約、北方領土、竹島、尖閣諸島

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末レポートを課します。また、出席状況および講義への積極的な参加ぶりを考慮します。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

【テキスト】

兼原信克『安全保障戦略』(2021年 日本経済新聞出版社)

【参考文献】

兼原信克『戦略外交原論』(2011年 日本経済新聞出版社)

兼原信克『日本の外交と総合安全保障(第一章及び第二章)』(2011年 ウェッジ社)

兼原信克『歴史の教訓』(2020年 新潮新書)

波多野澄夫他『決定版 日中戦争』(2018年 新潮新書)

兼原信克他『決定版 大東亜戦争』(上下)(2021年 新潮新書)

兼原信克『現実主義者のための安全保障のリアル』(2021年 ビジネス社)

兼原信克他『日本の対中大戦略』(2021年 PHP 新書)

兼原信克他『転換期の世界』(2021年 PHP 新書)

高村正彦他『国家の矛盾』(2017年 新潮新書)

(注) 2021年春に2冊読本を出版する予定ですので、刊行されれば、それも読本に加えます。

5. 履修上の注意/Note:

総理大臣の立場に立って、日本政府全体の雲煙を視野に入れて考えること。

国民目線に立って、国民の肚におちる説明が可能かを常に考えること。

国家安全保障上、政策的優先的事項は何かを常に考えること。

政治、外交、経済、価値観の問題を一つもの問題として考えること。

近現代史の大きな常識的知識を持つこと。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2510J

科目名/Course Name: 外交交渉論(月水、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 鶴岡 公二/TSURUOKA Kouji

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

- ・本講義は、履修者が国際交渉の理論と現実を理解し、自らも効果的かつ建設的な国際交渉を実施することができるようになることを目指す。
- ・講義は受講者が議論に積極的に参加する方式で進める予定であり、講師からの一方的な講義にはならないので受講者は課題について事前に十分内容を承知していることが期待される。
- ・講義では実践的な演習を行う。課題について各国の立場から交渉を行う形式であり、受講生は組に分かれてそれぞれ割り振られた国の立場を主張して交渉する。そのために講義時間の前に各組は打ち合わせをして主張をまとめて講義の際に行われる演習に臨む。
- ・組に分かれて交渉をするので講義は基本的にズームで行い、組別の交渉をブレイクアウトルームを活用して行う。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- ・最初の講義で講義の進め方及び受講者に期待される役割などにつき講師より説明し、受講者にその後の講義で果たすべき役割の割り振りを行う。
- ・交渉は科学として未だ確立しているとは言い難く教科書や基本的な学術的な研究をまとめた適切な書物はない。したがって本講義は受講者の出席と積極的な参加が不可欠であり、受講者による講義への貢献が講義内容の質を左右することになる。
- ・下記の項目にある通り講義は交渉の総論と事例研究の二本立てとなる。
- ・総論は講師からの問題提起を受けて議論をする。

- ・事例研究では受講者に報告を求めたのちに議論に移る。

第1回 外交交渉総論

日本政府の外交交渉に臨む意思決定過程と交渉現場について講義し、

議論する。

第2回 国際交渉の理論と現実

講師の現役時代の経験に基づき二国間及び多国間の外交交渉について講義する。

以下の文献は第1回および第2回の講義に共通。

【必読文献】

田村次郎・隅田浩司『戦略的交渉入門』日本経済新聞社

浜本哲史『武器としての交渉思考』星海社

【推薦文献】

ディーパック・マルホトラ、マックス・H・ベイザーマン『交渉の達人 ハーバード流を学ぶ』 Pan Rolling

木村汎『対ロ交渉学』藤原書店

第3回 国際交渉戦略の形成過程と政官財関係

外交交渉と政府の交渉方針策定について前二回の講義のとりまとめを講義して議論する。

第4回 事例研究：日米貿易摩擦総論

多くの文献があるため、1980年代に深刻化した日米貿易摩擦についてその原因や対応策を考える上で有用と思われる文献を以下の文献も含め受講者が選択する。

榊原英資『「経済交渉」から読み解く日米戦後史の真実』詩想社、2016年

鷲尾友春『6つのケースで読み解く日米間の産業軋轢と通商交渉の歴史』関西学院大学出版会、2014年

鈴木一敏『日米構造協議の政治過程—相互依存下の通商交渉と国内対立の構図』ミネルヴァ書房、2013年

Michael Blaker, Paul Giarra, and Ezra F. Vogel, Case Studies in Japanese Negotiating Behavior (US Institute of Peace, 2002).

第5回 事例研究：日米港湾協議（1）

私が関与した交渉の中でも難易度の高い案件でした。

【必読文献】

Japan Ports And Harbor Practices Agreement (1997)

https://tcc.export.gov/Trade_Agreements/All_Trade_Agreements/Japan_Port_Harbor_guide.asp

https://tcc.export.gov/Trade_Agreements/All_Trade_Agreements/exp_001052.asp

日米友好通商航海条約（日本国とアメリカ合衆国との間の友好通商航海条約）

日米友好通商航海条約とは - コトバンク (kotobank.jp)

世界の上位 20 港のコンテナ取扱量の推移

201806.pdf (phaj.or.jp)

国内の港湾の現状と今後の方向性

https://www.smbc.co.jp/hojin/report/investigationlecture/resources/pdf/3_00_CRSDReport077.pdf

One Hundred Container Ports 2020 :: Lloyds List (informa.com)

米国政府の評価

US International Trade Commission, The Year in Trade: Operation of the Trade Agreements Program during 1997, May 1998, pp. 107-110.

THE YEAR IN TRADE: OPERATION OF THE TRADE AGREEMENTS PROGRAM DURING 1997 49th Report
(usitc.gov)

【推薦文献】

港湾産業における労使関係の展開と労働組合運動

専門的な論文なので特に関心があれば参照してください。

eco020201600103.pdf (hit-u.ac.jp)

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/27937/2/eco020201600102.pdf>

第6回 事例研究：日米港湾協議（2）

前回に引き続き議論します。

第7回 事例研究：日米保険協議

【必読文献】

アメリカ合衆国政府及び日本政府による保険に関する措置

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/keizai/framework/pdfs/insurance_9410_j.pdf

日本国政府及びアメリカ合衆国政府による保険に関する補足的措置

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/keizai/framework/pdfs/insurance_9612_j.pdf

木本紘、有地智枝子『図解入門 業界研究最新保険業界の動向とカラクリがよーくわかる本』第4章

<https://books.google.co.jp/books?id=zni70fxPiV8C>

第7回 事例研究：サミットおよび各種国際会議における気候変動関連文書作成

【必読文献】

気候変動に関する国際枠組

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page22_003283.html

G8ハイリゲンダム・サミットの成果（環境関係）

<https://www.env.go.jp/council/06earth/y060-56/mat04.pdf>

G8 北海道洞爺湖サミット首脳宣言（骨子）（仮訳）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/toyako08/doc/index.html>

Hokkaido Toyako Summit Tackles Climate Change

https://www.mofa.go.jp/policy/economy/summit/2008/doc/pdf/Climate_0630.pdf

気候変動、エネルギー安全保障及びクリーン開発に関するシドニーAPEC 首脳宣言

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/apec/2007/ke_koshi.html

第8回 事例研究：ウルグアイ・ラウンドサービス交渉

【必読文献】

サービスの貿易に関する一般協定の解説

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/wto/service/gats.html>

【必読文献】

環太平洋パートナーシップ協定の概要

http://www.cas.go.jp/jp/tpp/pdf/2015/10/151005_tpp_Summary.pdf

T P P 関連情報【交渉会合関連情報】このうちいくつか取り上げる。

<http://www.cas.go.jp/jp/tpp/tppinfo.html#seishikisanka>

【推薦文献】

鯨岡仁『ドキュメントTPP交渉—アジア経済覇権の行方』東洋経済新報社、2016年

第10回 事例研究：環太平洋パートナーシップ協定（TPP）②

第11回 事例研究：捕鯨にまつわる交渉

【必読文献】

Whaling in the Antarctic (Australia v. Japan: New Zealand intervening)

下記資料のうち特に後者の判決部分。参考までに前者にある日豪の政府代理人の陳述

<https://www.icj-cij.org/en/case/148>

18160.pdf (icj-cij.org)

森下丈二『IWC 脱退と国際交渉』成山堂書店、2019年。

第12回 事例研究：境界画定交渉

日本の領土問題を取り上げる

北方領土、竹島及び尖閣諸島に関する外務省ホームページ資料を参照。

【必読文献】

『われらの北方領土』

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000035437.pdf>

【推薦文献】

任意の国際法教科書の領域関連部分

【必読文献】

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/un_kaikaku/j_rijikoku/kaikaku.html

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/unsokai/040921_sei.html

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/unsokai/050916_point.html

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100148189.pdf>

任意の国際法又は国際機構論教科書の国連組織関連部分

第 14 回 南シナ海問題

【必読文献】

gaikou_vol4_27.pdf (mofa.go.jp)

外務省: 第 19 回 ARF (ASEAN 地域フォーラム) 閣僚会合の概要 (mofa.go.jp)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/arf/arf19_kk.html

南シナ海をめぐる問題 (フィリピンによる国連海洋法条約に基づく仲裁手続) (外務報道官談話) | 外務省 (mofa.go.jp)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/danwa/page4_000425.html

南シナ海に関するフィリピンと中国との間の仲裁（仲裁裁判所による最終的な仲裁判断）（外務大臣談話）
| 外務省 (mofa.go.jp)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/danwa/page4_002172.html

第15回 総括

各受講生より講義につき感想を述べ全員で議論する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

事例研究の発表及び作成資料（50%）

最終講義の際の議論の内容（20%）

質疑・議論への参加・貢献（30%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

上記を参照願いたい。

5. 履修上の注意/Note:

受講生による参加が必須である。ただし公務などの事情で欠席する場合には講師は考慮する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2600J

科目名/Course Name: 安全保障論(水、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 廣中 雅之/HIRONAKA Masayuki

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義は、履修学生に対して安全保障の基礎的な理論を紹介した上で、世界の国家的危機の歴史と将来について考えさせ、国家政策、戦略及び軍事作戦の相関関係とダイナミズムを理解させることを狙いとする。さらに、日本の安全保障環境を総括し、脅威認識ゲームと国家的危機を想定した初歩的な事例研究 (Table Top Exercise) を行い、履修学生に国家安全保障戦略のダイナミズムと国家統治の在り方、とりわけ実力組織のコントロールについて深く考えさせる。履修学生には、授業当日までに必読文献を読んでおくこと、また、時間をみつけて推薦文献を読むことを推奨する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、自己紹介など

国家政策、戦略及び軍事作戦の体系

「安全保障とは何か？」

「安全保障論と戦略論の関係をどう理解するか？」

「国家政策、戦略及び軍事作戦には如何なる相関関係があるか？」

「軍隊の存在意義、立ち位置をどう理解するか？」

【必読文献】

Dennis C. Blair, *Military Engagement: Influencing Armed Forces Worldwide to Support Democratic Transitions*, (Brookings Institution Press, 2013) p.17

【推薦文献】

武田康裕、神谷万丈『安全保障学入門（新訂第5版）』亜紀書房（2020年）pp.3-27

道下徳成、石津朋之、長尾雄一郎、加藤朗『現代戦略論：戦争は政治の手段か』勁草書房（2000年）

第2回 安全保障論、戦略論の系譜

古典的な戦略論、現代戦略論及び政軍関係の基礎理論

「孫子、マキャヴェリ及びクラウゼヴィッツの戦争論をどう理解するか？」

「ルトワック、グレイの戦略論をどう理解するか？」

「政軍関係の概念をどう捉えるか？」

「ハンチントンとファイナーの理論をどう理解するか？」

【必読文献】

野中郁次郎『戦略論の名著：孫子、マキアヴェリから現代まで』中公新書（2013年）2～21ページ

John Baylis, James J. Wirtz, and Colin S. Gray, *Strategy in the Contemporary World*, (Oxford University Press, six edition, 2019) pp.60-75

【推薦文献】

野中郁次郎『戦略論の名著：孫子、マキアヴェリから現代まで』中公新書（2013年）

Carl Von Clausewitz, *On War*, Michael Howard and Peter Paret trans. (Oxford University Press, 1984)

Peter D. Feaver and Richard H. Kohn, eds., *Soldiers and Civilians: The Civil- Military Gap and American National Security*, (Cambridge: MIT Press, 2001)

Samuel P. Huntington, *The Soldier and the State: The Theory of Politics of Civil-Military Relations*, (Belknap Press of Harvard University Press, 1957)

Peter Paret, ed., *Makers of Modern Strategy from Machiavelli to the Nuclear Age*, (Princeton University Press, 1986)

Sun Tzu, *The Art of War*, Roger Ames trans., (Random House Publishing Group, 1993)

第3回 制限戦争と総力戦

第一次世界大戦と第二次世界大戦の戦略評価

「軍事革命とは何か？」

「制限戦争とは何か？」

「英国は、Battle of Britain に如何にして勝利したか？」

「米国は、太平洋戦争に如何にして勝利したか？」

【必読文献】

エリオット A. コーエン（中谷和男訳）『戦争と政治とリーダーシップ』大日本印刷、256～335 ページ

※ Eliot A. Cohen, *Supreme Command; Soldiers, Statesmen, and Leadership in Wartime*, (Simon and Schuster, New York, 2013) 原文で読む方が望ましい。

【推薦文献】

Arden Bucholz, *Moltke, Schlieffen, and Prussian War Planning*, (New York; Berg, 1991)

James Corum, *The Roots of Blitzkrieg: Hans von Seeckt and German Military Reform*, (Lawrence KC; University of Press Kansas, 1992)

Millett and Maslowski, *For the Common Defense: A Military History of the United States of America*, (A Division of Macmillan, Inc., The Free Press, 1994)

Williamson Murray and Allan R. Millet, *Military Effectiveness*, (Cambridge University Press, 1988) Vol. 1, First edition

第4回 現代戦と将来戦

冷戦後の戦争と将来戦の見通し

「湾岸戦争、国際テロ戦争を、どう評価するか？」

「ウクライナ戦争をどうみるか？」

「将来戦は如何なる戦いになるか？」

「国家、地域及び国際安全保障にかかる軍隊の役割は変化するか？」

【必読文献】

Christian Brose, *The Kill Chain: Defending America in the Future High-tech Warfare*, (Hachette Book Group, Inc., New York, 2020) pp.225-245

【推薦文献】

伊東寛『サイバー戦争論：ナショナルセキュリティの現在』原書房（2016年）

国際安全保障学会編『米中対立と日本、ロシア、台湾』国際安全保障季報第50巻第2号（2022年9月）
日本再建イニシアティブ『現在日本の地政学』中公新書（2017年）

Lawrence Freedman, *The Revolution in Strategic Affairs*, Adelphi Paper 318, (London, IISS, 1998)

Lawrence Freedman, *The Revolution in Strategic Affairs*, Adelphi Paper 379, (Routledge, 2006)

Edward N. Luttwak, *Strategy: The Logic of War and Peace*, revised and enlarged (Harvard University Press, 2002)

Stephen P. Rosen, *New Ways of War*, (International Security, Summer 1988)

第5回 核戦略の系譜

核のジレンマ、米国の第1～第3の相殺戦略

「核戦力の本質とは何か？」

「核の先制攻撃はあり得るか？」

「拡大抑止の有効性をどう評価するか？」

【必読文献】

U.S. Congressional Research Service, 2022 Nuclear Posture Review, (Washington D.C., December 6, 2023) pp.1-3

【推薦文献】

秋山信将、高橋杉雄『「核の忘却」の終わり-核兵器復権の時代』勁草書房（2019年）

森本敏、高杉杉雄編『新たなミサイル軍拡競争と日本の防衛：INF条約後の安全保障』並木書房（2022年9月）

Department of Defense, Nuclear Posture Review 2022, (Washington D.C., October 2022)

Josiane Gabel, The Role of US Nuclear Weapons after September 11, (The Washington Quarterly, Winter, 2004-2005)

John Lewis Gaddis, Strategies of Containment: A Critical Approach of Postwar American National

Security Policy during the Cold war, (Oxford University Press, 1982)

第6回 日本の政軍関係

日本の政治構造、自衛隊の創設と発展、憲法問題の本質

「自衛隊とは如何なる存在か？」

「自衛隊と警察、軍隊の違いは何か？」

「日本の防衛体制は、国家的危機に機能するか？」

【必読文献】

廣中雅之『軍人が政治家になってはいけない本当の理由：政軍関係を考える』文春新書（2017年10月）
174～207 ページ

細谷雄一編『軍事と政治：日本の選択』文春新書（2019年8月）16～29 ページ、282～297 ページ

【推薦文献】

朝雲新聞社編集局編著『防衛ハンドブック』朝雲新聞社、「防衛に関する統一解釈」関連の章

国際法学会編『安全保障：日本と自衛権-個別的自衛権を中心に』日本と国際法の100年（第10巻）

三省堂（2001年）

「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」報告書（2022年11月）

佐道明広『自衛隊史論-政・官・軍・民の60年』吉川弘文館（2015年）

千々和泰明『戦後日本の安全保障：日米同盟、憲法9条からNSCまで』中公新書（2022年）

内閣官房『国家安全保障戦略』報告書（国家安全保障会議・閣議了解、2022年12月16日）

防衛省・自衛隊『国家防衛戦略』報告書（2022年12月16日）

中島信吾『軍事史学：戦後日本型政軍関係の形成』第34巻1号（1998年6月）

Narushige Michishita, "Myths and Realities of Japan's Security Policy," (Woodrow Wilson Center,

September 2019), <https://www.wilsoncenter.org/event/myths-and-realities-japans-security-policy>

Yoshikazu Watanabe, Masanori Yoshida, and Masayuki Hironaka, The U.S.-Alliance and Roles of

the Japan Self-Defense Force, (Sasakawa U.S.A., January 2016)

第7回 日本の安全保障環境 I

米国の国家安全保障戦略

「米国の国家安全保障戦略をどう捉えるか？」

「米国の国家防衛戦略、国家軍事戦略との関係をどう理解するか？」

【必読文献】

当日、コピー配布

【推薦文献】

令和4年度版防衛白書（各国情勢）

宮脇岑生『現代アメリカの外交と政軍関係』流通経済大学出版社（2004年）

Department of Defense, National Defense Strategy of the United States of America, (Washington D.C., October 2022)

Andrew F. Krepinevich Jr., How to Deter China: The Case for Archipelagic Defense, (Foreign Affairs, March/April 2015)

The White House, National Security Strategy of the United States of America, (Washington D.C., October 2022)

第8回 日米同盟関係

同盟の本質、日米同盟関係の創設と発展（過去、現在と将来）

「日米安全保障条約の締結は必然か？」

「日米安全保障条約には、何が書いてあるか（日本と米国の安全保障上の関係（権利と義務）は、どのように規定されているか）？」

「米軍と自衛隊の過去、現在及び将来の関係は、どのようになるか？」

【必読文献】

細谷雄一編（廣中雅之）『軍事と政治：日本の選択』文春新書（2019年）161～202ページ

当日、コピー配布

【推薦文献】

五百旗頭真『日米関係史-A History of Japanese-American Relations: From Perry to the Present』有斐閣（2008年）

田中明彦『安全保障：戦後50年の模索』読売新聞社（1997年）

田中明彦、日本経済研究センター編『提言 日米同盟を組み直す：東アジアリスクと安全保障改革』日本経済新聞社（2017年）

マイケル・グリーン、パトリック・クローニン編（川上高司監訳）『日米同盟：米国の戦略』勁草書房（1999年）

土山實男『国際政治：日米同盟の国際政治理論～リアリズム・リベラル制度論・コンストラクティヴィズム』通号115号（1997年5月）

西原正、土山實男監修、平和・安全保障研究所編『日米同盟再考：知っておきたい100の論点』亜紀書房（2010年）

山本章子『日米地位協定：在日米軍と「同盟」の70年』中公新書（2019年5月）

第9回 日本の安全保障環境 II

ロシア、中国、韓国及び北朝鮮の国家安全保障戦略

「ロシアの対外戦略をどう捉えるか？」

「中国の対外戦略をどう捉えるか？」

「韓国の対外戦略をどう捉えるか？」

「北朝鮮の対外戦略をどう捉えるか？」

【必読文献】

なし

【推薦文献】

令和4年度版防衛白書（各国情勢）

第10回 日本の安全保障環境 III

インド、オーストラリア、東南アジア、欧州及び中東諸国の国家安全保障戦略

「インド、オーストラリア及び東南アジア諸国の対外戦略をどう捉えるか？」

「欧州諸国の対外戦略をどう捉えるか？」

「中東諸国の対外戦略をどう捉えるか？」

【必読文献】

なし

【推薦文献】

令和4年度版防衛白書（各国情勢）

第11回 脅威認識ゲーム

ネット・アセスメント（Net Assessment）とウォー・ゲーム（War Gaming）

Table Top Exercises の実施（体験）

「ネット・アセスメントとは何か？」

「シナリオ研究とウォー・ゲームはどのように行うか？」

【必読文献】

当日、コピー配布

【推薦文献】

Andrew Krepinevich and Barry D. Watts, *The Last Warrior-Andrew Marshall and the Shaping of Modern American Strategy*, (Perseus books, Tuttle-Mori Agency Inc., Boston Massachusetts, 2015)

第 12 回 事例研究：台湾危機対処

「中国の台湾進攻シナリオ」

「日本政府は、どのように対応すべきか？」

Table Top Exercises の実施（体験）

（授業の冒頭、シナリオ提示）

【必読文献】

当日、コピー配布

【推薦文献】

A Report of the CSIS International Security Group by Mark F. Cancian, Matthew Cancian, and Eric Heginbotham, *The First Battle of the Next War-War gaming a Chinese Invasion of Taiwan*, Washington D.C., (January 2023) The Chapters of Executive Summary and Conclusion-Victory Is Not Everything

https://csis-website-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/230109_Cancian_FirstBattle_NextWar.pdf?WdEUwJYWlySMPIr3ivhFolxC_gZQuSOQ

第 13 回 事例研究：北朝鮮の核・ミサイル危機（朝鮮半島危機）対処

「北朝鮮の核・ミサイル脅威のシナリオ」

「日本政府は、どのように対応すべきか？」

Table Top Exercises の実施（体験）

(授業の冒頭、シナリオ提示)

【必読文献】

当日、コピー配布

【推薦文献】

なし

第 14 回 事例研究：大震災への対処

「首都圏直下型大地震被災シナリオ」

「日本政府は、どのように対応すべきか？」

Table Top Exercises の実施（体験）

(授業の冒頭、シナリオ提示)

【必読文献】

当日、コピー配布

【推薦文献】

磯部晃一『トモダチ作戦の最前線：福島原発事故にみる日米同盟連携の教訓』彩流社（2019年8月）

第 15 回 総合評価及び総括

「安全保障論の基礎理論と国家安全保障にかかる国家政策、戦略及び軍事作戦の相関関係とダイナミズムが理解できているか？」

期末試験 (Essay Question) (60 分)

3. 成績の評価方法/ Grading:

質疑・議論への参加・貢献度 (50%)

期末試験 (Essay Question) (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

参考文献は GRIPS 図書館にて閲覧が可能である。閲覧が困難な文献については、直接、GRIPS 図書館、または、講師に問い合わせられたい。

Eliot A. Cohen, *Supreme Command: Soldiers, Statesman, and Leadership in Wartime*, (The Free Press, 2002)を購入することを推奨する。

諸外国の国家安全保障戦略及び事例研究関連の参考資料は必要に応じ講義前に別途配布する。

5. 履修上の注意/Note:

原則として、履修学生は講義終了後、講師に直接質問をすることができるが、E-mail (mhironaka0525@gmail.com) でコンタクトすることが可能である。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD2900E

科目名/Course Name: Principles of Effective Communication

担当教員/Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This modular course will cover the principles of effective English communication in an environment of multiple stakeholders. Participants will learn the language and techniques for conducting meetings, engaging in negotiations, participating in discussions, making presentations, and writing emails. Both oral and written communication will be covered.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Course Outline

Date
Topic
Instructor

April 8
Course introduction, needs analysis, and assessment
Petchko

April 15
Presentation: Content, language, and delivery
Petchko

April 22
Presentation: Visual aids and Q&A
Petchko

May 6
Presentations
Petchko

May 13

Presentations

Petchko

May 20

Email: Structure and set expressions

ONeill

May 27

Email: Requests in email

ONeill

June 3

Email: Refusals in email

ONeill

June 10

Meetings and discussion: Opinions and agreement

ONeill

June 17

Meetings and discussion: Interaction strategies and

disagreement

ONeill

June 24

Meetings and discussion: Clarifying meaning

ONeill

July 1

Negotiation: Principles and language
Williamson

July 8
Negotiation: Problem-solving and conflict resolution
Williamson

July 15
Negotiation: Simulation 1
Williamson

July 22
Negotiation: Simulation 2
Williamson

3. 成績の評価方法/ Grading:

Each component is worth one third of the final grade and each instructor will use their own grading criteria.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Course materials will be provided by the instructors.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD3100E

科目名/Course Name: Seminar on International Relations Theories and Research Methods

担当教員/Instructor: 田中 明彦, BRUMMER Matthew/TANAKA Akihiko and BRUMMER Matthew

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The primary objective of this course is to further familiarize students with the theories and methodologies of international relations, international political economy, and foreign policy. The learning objectives are focused on how to utilize these theories and methods towards crafting thesis proposals and conducting academic research.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The full outline of the course will be provided on the first day of class. The course consists of both lectures and seminars. In principle, classes will be held in-person on the GRIPS campus. As needs dictate, we may incorporate online meetings via Zoom.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance (30%); Presentations (30%); Participation (20%); Term paper (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

There are no required textbooks for this course. Reading materials will be provided by the instructors.

5. 履修上の注意/Note:

Students should come to the first day of class prepared to discuss their research interests, including: the policy problem related to their topic of interest, the importance of addressing that problem, the primary research question, data and methods of an

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD3110J

科目名/Course Name: 国際関係・外交シミュレーション

担当教員/Instructor: 道下 徳成/MICHISHITA Narushige

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

- ・本講義は、履修者が、安全保障・外交、経済・財政、貿易問題などを題材に、国際関係や外交を体験的に理解し、現実の各種の事案に効果的に対応することができるようになることを目指す。
- ・講義では、シミュレーション作成や、シミュレーション実施に必要な知識を獲得するための講義を行いつつ、各種のシナリオに基づいて実際にシミュレーションを行う。

*講師・履修者の都合や教育上の必要に従い、対面およびオンラインで実施する。

教室：必要に応じて Zoom あるいは 5F 講義室 G

◆オンライン講義用リンク

<https://zoom.us/j/98620434183>

ミーティング ID: 986 2043 4183

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

4月8日 0900～1030時

シミュレーション・ゲームの作成と実施

【必読文献】

Ministry of Defence, Development, Concepts and Doctrine Centre, "Wargaming Handbook," https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/641040/doctrine_uk_wargaming_handbook.pdf (可能な範囲内で、ざっと全体を読んでおくこと)

【推薦文献】

Peter Perla, Peter Perla's The Art of Wargaming: A Guide for Professionals and Hobbyists (Lulu.com, 2011).

Matthew B. Caffrey, Jr., On Wargaming: How Wargames Have Shaped History and How they May Shape the Future (Newport Paper no. 43, January 2019), <https://digital-commons.usnwc.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1043&context=newport-papers>

"Wargaming at CNA," <https://www.cna.org/centers/cna/operational-warfighting/wargaming>.

"CNA Talks: How to Make a Wargame (audio podcast)," January 30, 2019.

Alex Abella, Soldiers of Reason: The Rand Corporation and the Rise of the American Empire (Houghton Mifflin

Harcourt, 2008).

4月8日 1040～1210時

「尖閣・台湾複合危機—その時日本は？」①—準備講義

【必読文献】

岩田清文、武居智久、尾上定正、兼原信克『自衛隊最高幹部が語る台湾有事』新潮新書、2022年
道下徳成作成「資料—尖閣危機—その時日本は？」

森本敏、小原凡司編著『台湾有事のシナリオ—日本の安全保障を検証する』ミネルヴァ書房、2022年、
第2章、第5章。

栗原響子『なぜ日本の「正しさ」は世界に伝わらないのか—日中韓 熾烈なイメージ戦』ウェッジ、2020
年、第1、4、終章。

【推薦文献】

森本敏編著『「海洋国家」中国にニッポンはどう立ち向かうか』日本実業出版社、2016年、156—173、250
—288頁。

潮匡人、北村淳、時任兼作ほか『尖閣諸島が本当に危ない！』宝島社、2020年、12—18、31—41、224—
233頁。

山本皓一『日本の国境を直視する①尖閣諸島、南鳥島、沖ノ鳥島、与那国島』KKベストセラーズ、2012
年。

Mark F. Cancian, Matthew Cancian, and Eric Heginbotham, "The First Battle of the Next War: Wargaming a Chinese
Invasion of Taiwan," A Report of the CSIS International Security Program, January 2023, [https://csis-website-
prod.s3.amazonaws.com/s3fs-](https://csis-website-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/230109_Cancian_FirstBattle_NextWar.pdf?WdEUwJYWIySMPIr3ivhFolxC_gZQuSOQ)

[public/publication/230109_Cancian_FirstBattle_NextWar.pdf?WdEUwJYWIySMPIr3ivhFolxC_gZQuSOQ](https://csis-website-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/230109_Cancian_FirstBattle_NextWar.pdf?WdEUwJYWIySMPIr3ivhFolxC_gZQuSOQ)

春原剛『暗闘 尖閣国有化』新潮社、2013年（新潮文庫、2015年）9—25、44、47—49、105—110、112、
125、130、148—153、167—168、173—175、230—231頁

日本再建イニシアティブ『日本最悪のシナリオ 9つの死角』新潮社、2013年、「第1章 尖閣衝突」。

宮家邦彦『米中戦争—「台湾危機」驚愕のシナリオ』朝日新書、朝日新聞出版、2021年。

岩田清文『中国、日本侵攻のリアル』飛鳥新社、2018年

渡部悦和『米中戦争—そのとき日本は』講談社、2016年

安全保障机上演習プロジェクト『大規模災害を端緒とする台湾危機に対日米共同処を巡る課題』笹川平和
財団、2019年

安田淳『台湾をめぐる安全保障』慶応大学出版会、2016年

『安全保障政策のリアリティチェック』日本国際問題研究所、2017年

トシ・ヨシハラ『中国海軍VS上自衛隊：すでに力は逆転している』ビジネス社、2020年

樋口譲次編著「日本と中国、もし戦わば」S bクリエイティブ、2017年

三好正弘「尖閣諸島周辺海域における執行管轄権行使について」『島嶼研究ジャーナル』第3巻1号、2013年10月、https://www.spf.org/islandstudies/jp/wp/wp-content/uploads/2013/07/3-1_sample.pdf

4月15日 0900～1030時

「尖閣・台湾複合危機—その時日本は？」②—シミュレーション実施

4月15日 1040～1210時

「尖閣・台湾複合危機—その時日本は？」③—シミュレーション実施

4月22日 0900～1030時

交渉学概論

【必読文献】

瀧本哲史『武器としての交渉思考』星海社新書、2012年（可能な範囲内で、ざっと全体を読んでおくこと）

【推薦文献】

藤井一郎『プロフェッショナル・ネゴシエーターの頭の中』東洋経済新報社、2011年。

田村次朗、隅田浩司『戦略的交渉入門』日経文庫、2014年。

ロジャー・フィッシャー、ウィリアム・ユリー『ハーバード流交渉術』三笠書房、1989年。

松浦正浩『おとしどころのを見つけ方—世界一やさしい交渉学入門』クロスメディア・パブリッシング、2018年。

4月22日 1040～1210時

国債暴落・財政破綻（1）—準備講義（講師：大田弘子先生）

【必読文献】

小林慶一郎編著『財政破綻後—危機のシナリオ分析』日本経済新聞出版、2018年（第2、4、5章）。

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版、2020年（第2、3章）

【推薦文献】

真山仁『オペレーションZ』新潮社、2017年

DVD「連続ドラマW オペレーションZ—日本破滅、待ったなし」真山仁作。草刈正雄、溝端淳平出演。
2020 WOWOW INC。発売元:カルチュア・パブリッシャーズ。販売元:TCエンタテインメント

幸田真音『日本国債』講談社、2000年。

石弘光『増税時代』ちくま新書、2012年

4月29日 休講

5月6日 休講

5月13日 0900～1030時

国債暴落・財政破綻（2）—シミュレーション実施①

・シナリオに基づいてシミュレーションを実施。大田弘子先生にコメンテーターとしてご参加頂きます。

5月13日 1040～1210時

国債暴落・財政破綻（3）—シミュレーション実施②

・シナリオに基づいてシミュレーションを実施。大田弘子先生にコメンテーターとしてご参加頂きます。

5月20日 0900～1030時

期末提出用の独自シミュレーションについてディスカッション①

課題の一つである「独自シミュレーション」を3～4人分討議

5月20日 1040～1210時

期末提出用の独自シミュレーションについてディスカッション②

課題の一つである「独自シミュレーション」を3～4人分討議。

●月●日 ●～●時 補講

国際貿易交渉（1）—準備講義（講師：篠田邦彦先生）

【必読文献】

篠田邦彦作成「資料—インド太平洋地域でのメガ FTA や地域協力を巡る主導権争い」

西村博之「中国、TPP 加盟に現実味？ アジア経済覇権の行方」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODK27DPY0X21C21A0000000/>

片田さおり「インド太平洋経済戦略における国内要因」 <https://www.jiia.or.jp/research-report/indo-pacific-fy2021-04.html>

川瀬剛志「中国の CPTPP 加入にどう向き合うか」 https://www.rieti.go.jp/jp/columns/a01_0662.html

渡辺紫乃「「一帯一路」構想の現在」 https://www2.jiia.or.jp/kokusaimondai_archive/2020/2022-02_004.pdf?noprint

【推薦文献】

平川均・町田一兵・真家陽一・石川幸一『一帯一路の政治経済学—中国は新たなフロンティアを創出するか』文真堂、2019年。

石川幸一・馬田啓一・清水一史『岐路に立つアジア経済—米中対立とコロナ禍への対応』文真堂、2021年。

White House, "FACT SHEET: Indo-Pacific Strategy of the United States," <https://www.whitehouse.gov/briefing-room/speeches-remarks/2022/02/11/fact-sheet-indo-pacific-strategy-of-the-united-states/>

鷲尾友春『6つのケースで読み解く 日米間の産業軋轢と通商交渉の歴史—商品・産業摩擦から構造協議、そして広域経済圏域内の共通ルール設定競争へ』関西学院大学出版会、2014年。

三浦秀之『農産物貿易交渉の政治経済学—貿易自由化をめぐる政策過程』勁草書房、2020年。

福田竜一『貿易交渉の多層化と農産物貿易問題—自由貿易体制の進展と停滞』農林水産政策研究叢書、農山漁村文化協会、2010年。

石黒馨『国際貿易交渉と政府内対立—2 レベルゲーム分析』神戸大学経済学叢書、勁草書房、2017年。

日野道啓『環境物品交渉・貿易の経済分析』文真堂、2020年。

5月27日 0900～1030時

国際貿易交渉（2）—シミュレーション実施①

・シナリオに基づいてシミュレーションを実施。篠田邦彦先生にコメンテーターとしてご参加頂きます。

5月27日 1040～1210時

国際貿易交渉（3）—シミュレーション実施②

・シナリオに基づいてシミュレーションを実施。篠田邦彦先生にコメンテーターとしてご参加頂きます。

6月3日 0900～1030時

期末提出用の独自シミュレーションについてディスカッション③

課題の一つである「独自シミュレーション」を3～4人分討議。

6月3日 1040～1210時

総合討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

(1) シミュレーションについてのリアクション・ペーパー (5%×3=15%)

提出期限：各シミュレーションの最終日から15日後（例えば4月15日（土）に終わったシミュレーションであれば4月30日（日）が提出期限。遅れて提出した場合は多少減点する。）

・3回のシミュレーションについて、それぞれ以下の3点を1,500字以内で記述して提出する。（3点全体で1,500字以内）

①政策の立案や実施についてシミュレーションから学んだ教訓を2つ

②現実の世界で（日本政府などが）とるべき具体的措置を2つ

③当該シミュレーションのクオリティを向上させるための具体的な措置2つ

*なお、①、②、③のすべてを記述する必要はあるが、それぞれの分量は各人が自由に決め、重要と思う事項を中心に記述すること。

(2) 独自シミュレーションの作成 (85%)

提出期限：7月2日（日）（遅れて提出した場合は多少減点する）

・各自の専門とする分野について、講義で用いたと同様のフォーマットでシミュレーションを作成する。

（独自のフォーマットでの作成を希望する場合は講師と相談し、許可を得ること。）

・そのまま実際にシミュレーションに使用できるものであればあるほど評価が高い。教育訓練や研究に役に立つ内容であればあるほど評価が高い。良いシミュレーションができれば、今後、本講義で使用することを検討する。各人の所属組織で実際に使用できるようなもの考えるのも良い。

・提出するものは以下の通り。

①実施要領

②参考資料

③リーディングリスト（必読文献および推薦文献）

④シナリオ

⑤講師向けマニュアル

シミュレーションの目的（期待される効果）・主な対象者

各シナリオについて、どのような論点について、どのような議論がなされることを想定しているか（講師用アンチョコ。模擬解答のようなもの）

その他、講師に対する注意事項などを記述

- ・用いる参考資料は、映像などを含む、いかなるものでも構わない。クリエイティブに作成すること。
- ・シナリオの分野は問わない。但し、主体は日本あるいは日本国籍のアクターとし、日本国外の主体とのインターアクションを含むものでなければならない。（もし、日本を主体としないシミュレーションにしたい場合は、講師に相談して許可を得ること。）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

各授業ごとに指定してあるので、そちらを参照すること。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD3900E

科目名/Course Name: Effective Communication for Global Leaders

担当教員/Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a capstone, simulation-based course that brings together the concepts, language, and communication skills that participants have learned in the previous two courses. Participants will go through a series of assignments to develop, present, and negotiate a policy proposal in response to a set of specified requirements.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

4/8 Petchko

Principles of Effective Communication: Review of Presentation Skills

This lesson will introduce the course and review presentation skills.

4/15 O'Neill

Principles of Effective Communication: Review of Meeting Skills

This lesson is a review of meeting skills participants learned in GLD2900E.

4/22 O'Neill

Principles of Effective Communication: Review of Discussion Skills

This lesson is a review of discussion skills participants learned in GLD2900E.

5/6 Petchko

Principles of Effective Communication: Getting to Yes – Part 1

This lesson will introduce the framework for the remaining lessons – the scenarios, negotiation principles and strategies, and language expressions.

5/13 Petchko

Principles of Effective Communication: Getting to Yes – Part 2

5/20 Petchko

Scenario 1: Decision-Making Task

5/27 Petchko

Scenario 2: Scenario introduction, role assignment, and preparation

6/3 Petchko

Scenario 2: Presentation, discussion, and negotiation

6/10 Petchko

Scenario 3: Scenario introduction, role assignment, and review of main points

6/17 Petchko

Scenario 3: Presentation and discussion

6/24 Petchko

Scenario 3: Negotiation and feedback

7/1 Williamson

Principles of Effective Communication: Negotiation

Review of negotiation strategies and rapport management strategies

7/8 Williamson

Scenario 4: Conflict resolution

Scenario introduction, role assignment, team meetings, plenary 1

7/15 Williamson

Scenario 4: Conflict resolution

Bilateral meetings, team meetings

7/22 Williamson

Scenario 4: Conflict resolution

Bilateral meetings, plenary 2, feedback

3. 成績の評価方法/ Grading:

Students will be graded based on their performance in the following areas.

Attendance: 20%

Preparation: 50%

Participation: 30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Course materials will be provided by the instructors.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GLD4000J

科目名/Course Name: 国際関係・外交政策論文演習

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

指導教員との密接な連携をとりつつ英語で修士論文を完成させることが本演習の目的である。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

指導教員と相談の上決定する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

論文のクオリティを基準に、A～E で評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1 テキスト

指導教員と相談の上決定

4.2 参考文献

社会科学方法論、データ分析、英語論文作成などのための参考文献として、以下を紹介する。

久米郁夫『原因を推論する--政治分析方法論のすすめ』有斐閣, 2013.

保城広至『歴史から理論を創造する方法--社会科学と歴史学を統合する』勁草書房, 2015.

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社, 2017.

松原望・飯田啓輔『国際政治の数理・計量分析入門』（東京大学出版会、2012）

King, Gary, Keohane O. Robert, Verba Sidney. Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research. Princeton: Princeton University Press, 1994.

キング G., コヘイン O.R., ヴァーバ S. 『社会科学のリサーチ・デザイン--定性的研究における科学的推論』勁草書房, 2004.

Van Evara, Stephen. Guide to Methods for Students of Political Science. Ithaca: Cornell University Press, 1997.

スティーヴン・ヴァン・エヴェラ『政治学のリサーチ・メソッド』野口和彦、渡辺紫乃訳、勁草書房、2009年

Kaplan, Abraham. The Conduct of Inquiry: Methodology for Behavioral Science. New York: Routledge, 2017.

Stinchcombe L.Arthur. Constructing Social Theories. New York: Harper, Brace, & World, Inc., 1968.

Wickham, Hadley and Garrett Grolemond, R for Data Science. OReilly Media, 2017.

Wooldridge, Jeffrey. Introductory Econometrics: A Modern Approach. 7th Edition. Cengage, 2020.

Angris, Joshua D. and Jorn-Steffen Pischke. Mostly Harmless Econometrics: An Empiricists Companion. Princeton: Princeton University Press, 2009

Katerina Petchko, How to Write about Economics and Public Policy, London: Academic Press, 2018

Strunk, William. The Elements of Style. The Elements of Style Press, 2011.

Pinker, Steven. The Sence of Style:The Thinking Persons Guide to Writing in the 21st Century. New York: Viking Penguin, 2014.

5. 履修上の注意/Note:

指導教員と密接な連絡をとること

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV1400E

科目名/Course Name: International Relations in East Asia

担当教員/Instructor: 高木 佑輔/TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, we study dynamic and complex international relations in Asia Pacific/East Asia/Indo-Pacific. Various policymakers and stakeholders have interacted with each other to achieve their particular goals, which are shaped by the forces of globalization, regionalization/regionalism, and nationalism. The course pays special attention to the grand strategies of several states and their historical evolution. Students are expected to attend all the lectures, do required readings and make presentations of their own collective choice in the week 14 and 15.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- Week 1: Organizational Meeting

- Week 2: International Orders in History

- Ikenberry, G. John. 2001. Ch. 1 The problem of order and Ch. 2 Varieties of order: Balance of power, hegemonic, and constitutional. In *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Building of Order after Major Wars*. Princeton: Princeton UP.

- Week 2: International Orders in History

- Ikenberry, G. John. 2001. Ch. 3 An institutional theory of order formation. In *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Building of Order after Major Wars*. Princeton: Princeton UP.

- Week 4 Grand Strategy: Ideas and Practices

- Trubowitz, Peter. 2011. "Ch. 2 Grand Strategy's Microfoundations". In *Politics and Strategy: Partisan Ambition and American Statecraft*. Princeton: Princeton UP.

- Week 5: Power Politics

- Mearsheimer, John J. 2014. Introduction and Ch. 10 Can China Rise Peacefully? In *The Tragedy of Great Power Politics*. Updated ver. New York: W.W. Norton.

- Bailes, Alyson J. K., Jean-Marc Rickli, and Baldur Thorhallsson. 2014. "Small States, Survival and Strategy." In *Small States and International Security: Europe and Beyond*, edited by Clive Archer, Alyson J. K. Bailes, and Anders Wivel, 2645. London: Routledge.

- Week 6: A World of Regions

- Katzenstein, Peter J. 2005. Ch. 1 American Power in World Politics, Ch. 2 Regional Orders, and Ch. 4 Regional Orders in Economy and Security. In *A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium*. Ithaca: Cornell UP.

- Week 7: Globalization

- Baldwin, Richard. 2016. Ch. 5 What's Really New?, Ch. 9. Rethinking Development Policy. In *The Great Convergence*. Harvard University Press.

- Week 8: Review and consultation on presentation

- Week 9 the U.S.

- Brands, Hal. 2014. Ch. 1 Golden Age Revisited, Ch. 4. The Dangers of Being Grand. In *What Good is Grand Strategy: Power and Purpose in American Statecraft from Harry S. Truman to George W. Bush*. Ithaca: Cornell UP.

- Silove, Nina. 2016. "The Pivot before the Pivot" *International Security* 40 (4), 45-88.

- Week 10: China

- Doshi, Rush. 2014. Introduction, Ch. 1 Coherent body of thought and action: Grand strategy and hegemonic order, Ch. 2 The Party leads everything: Nationalism, Leninism, and the Chinese Communist Party. In *The Long Game: China's Grand Strategy to Displace American Order*. Oxford: Oxford University Press.

- Week 11: Japan

- Katada, Saori. 2020. Introduction, Ch. 1 Japan's Regional Geoeconomic Strategy, Ch.2 Foreign Economic Policy, Domestic Institutions, and Regional Governance. In *Japan's New Regional Reality: Geoeconomic Strategy in the Asia-Pacific*. NY: Columbia UP.

- Week 12: Australia

- Medcalf, Rory. 2020. Ch. 1. Of Names, Maps and Power, Ch. 4. Rise of the Indo-Pacific. In *Indo-Pacific Empire: China, America and the Contest for the World Pivotal Region*. Manchester: Manchester UP.

- Week 13: India

- Scott, David, "India's 'extended neighborhood' concept: Power projection for a rising power" *India Review*, 8(2), 2009: 107-143.

- Chacko, Priya, "The rise of the Indo-Pacific: Understanding Ideational change and continuity in India's Foreign Policy" *Australian Journal of International Affairs*, 68(4), 2014: 433-452.

- Ngaibuakching and Amba Pande, "India's Act East Policy and ASEAN: Building a Regional Order through Partnership in the Indo-Pacific, *International Studies*, 57 (1), 2020: 67-78.

• Week 14 Student Presentation I

• Week 15 Student Presentation II

3. 成績の評価方法/ Grading:

Classroom discussion in general (50%)

Students are required to read a particular portion of a book in each class (approximately 2 to 3 chapters) before the class. Our discussions start with a "cold call." I will ask two or three of you to share your feedback on the reading. Subsequently, we will move to one or two additional questions without cold calls. I mainly play the role of a facilitator of the discussion, though I give you guiding questions to understand the main points, weaknesses, or strengths of each reading.

Presentation (50%)

On the final days, students are required to present their research which has something to do with the course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

There are no required textbooks other than the materials assigned above.

5. 履修上の注意/Note:

The topics and schedule above are subject to change.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV1460E

科目名/Course Name: The Making of Modern Japan

担当教員/Instructor: 北岡 伸一, PRESSELLO Andrea/KITAOKA Shinichi and PRESSELLO Andrea

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course examines major issues in the process of Japans transformation from a feudal society into a modern country in the period between the 19th century and World War II. The focus is on the interplay between Japanese domestic politics, foreign policy, and the changing international relations in East Asia. The Japanese intellectuals perception of the issues and challenges in Japans modernization are also discussed in the course. No background knowledge on these issues is required. Students from different countries are highly encouraged to register for this course; the diverse perspectives that they can contribute is expected to enrich the discussion of Japans experience of modernization. Students with limited English language ability are also welcome. During the course, some videos will be shown and one class might be held in the form of a visit to a site related to the contents of the course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction

Legacies of the Edo period (1603-1868)
Opening of Japan and the Downfall of the Bakufu, 1853-1868
Building a New Nation, 1868-1878
The Intellectuals: Fukuzawa Yukichi and Nakae Chomin
Meiji Constitution
Rise of Political Parties
Field Trip
Sino-Japanese War and Russo-Japanese War, 1894-1905
Relations with the United States
World War I
Rise of Militarism
Road to Pearl Harbor
Presentation on the Term Paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term paper: 50%

Participation in class: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Kitaoka, Shinichi. The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics, Routledge, 2018.

Other reading materials (book chapters, journal articles) will be assigned drawing from a variety of sources, including:

Kitaoka, Shinichi. Gotō Shinpei: statesman of vision: research, public health, and development, Tokyo: Japan Pub. Industry Foundation for Culture, 2021.

Kitaoka, Shinichi. From party politics to militarism in Japan, 1924-1941, Boulder, Colo.: Lynne Rienner Publishers, 2021.

Pyle, Kenneth B. The making of modern Japan, 2nd ed. Lexington, Mass.: Heath, 1996.

Fukuzawa, Yukichi. The Autobiography of Yukichi Fukuzawa, Columbia University Press, 2007.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV1900E

科目名/Course Name: Comparative Development Studies of Asia

担当教員/Instructor: LIM Guanie/LIM Guanie

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course examines major Asian countries as well as the policy tools that they deployed in pursuing economic growth. A comparative angle is emphasized for it helps us better understand what exactly has happened in particular cases, why, and with what effects.

The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to theoretical works and contemporary development issues. The first few lectures will provide an overview of key concepts and their applicability in specific contexts. Subsequently, workshops are held, which include student presentations and discussions. At each workshop, one to three students (depending on the total student population size) will present the main points of pre-assigned readings and share their perspectives on the topics covered.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the modern day development of key Asian economies and how the latter competes on the global stage. The analytical insights gained here should also facilitate the students understanding of economies in other continents.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Industrial Policy

Week 3: Developmental States

Week 4: Globalizing Regional Development

Week 5: From Developmental State to Strategic Coupling

Week 6: Workshop I Rethinking the Chinese Economy

Week 7: Workshop II The Belt and Road Initiative and Its Relationship to Regional Development

Week 8: Summary and General Discussion

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Class attendance and participation (40%), presentation and discussion of the assigned readings in workshops (30%), and term paper (30%). For grading evaluation, a scale of A to E (A,B,C,D,E) would be employed.

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to pick an industry/sector in a country of their own choice. They are then expected to discuss how this particular industry has evolved over a particular period (e.g. post-World War Two), linking its development trajectory with reference to state actions and the related policy measures. The word limit is 3,500. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to deploy empirical material to assess the merits of contending theories and approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in response to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Chang, H.J. (2009). Industrial Policy: Can We Go Beyond an Unproductive Confrontation? A Plenary Paper for Annual World Bank Conference on Development Economics (ABCDE) [RR].

Lin, J., and Chang, H.J. (2009). DPR Debate: Should Industrial Policy in Developing Countries Conform to Comparative Advantage or Defy it? A Debate between Justin and Ha-Joon Chang. *Development Policy Review*. 27(5): 483-502 [RR].

Week 3

Amsden, A. (1989). *Asias Next Giant: South Korea and Late Industrialization*. New York: Oxford University Press [RR].

Johnson, C. (1982). *MITI and the Japanese Miracle: The Growth of Industrial Policy, 1925-1975*. California: Stanford University Press [RR].

Shin, J.S. (2005). Substituting and Complementing Models of Economic Development in East Asia. *Global Economic Review*. 34(1):99-118 [RR].

Evans, P. (1995). *Embedded Autonomy: States and Industrial Transformation*. New Jersey: Princeton University Press [SR].

Week 4

Gereffi, G. (1994). The Organization of Buyer-Driven Global Commodity Chains: How U.S.

Retailers Shape Overseas Production Networks. In *Commodity Chains and Global Capitalism*, G Gereffi and M Korzeniewicz (eds.), 95-122. Westport: Greenwood [RR].

Gereffi, G., Humphrey, J., and Sturgeon, T. (2005). The Governance of Global Value Chains. *Review of International Political Economy*. 12(1):78-104 [RR].

Henderson, J., Dicken, P., Hess, M., Coe, N., and Yeung, H.W.-C (2002). Global Production Networks and the Analysis of Economic Development. *Review of International Political Economy*. 9(3): 436-464 [RR].

Bair, J. (2009). Global Commodity Chains: Genealogy and Review. In *Frontiers of Commodity Chain Research*, J Bair (ed.), 1-34. California: Stanford University Press [SR].

Week 5

Yeung, H.W.-C. (2015). Regional Development in the Global Economy: A Dynamic Perspective of Strategic Coupling in Global Production Networks. *Regional Science Policy & Practice*. 7(1): 1-23 [RR].

Yeung, H.W.-C. (2007). From Followers to Market Leaders: Asian Electronics Firms in the Global Economy. *Asia Pacific Viewpoint*. 48(1): 1-25 [RR].

Yeung, H.W.-C. (2009). Regional Development and the Competitive Dynamics of Global Production Networks: An East Asian Perspective. *Regional Studies*. 43(3): 325-351 [SR].

Week 6

Huang, Y. (2008). *Capitalism with Chinese Characteristics: Entrepreneurship and the State*. New York: Cambridge University Press [RR].

Kennedy, S. (2010). The Myth of the Beijing Consensus. *Journal of Contemporary China*. 19(65): 461-477 [RR].

Nolan, P. (2014). Globalization and Industrial Policy: The Case of China. *The World Economy*. 37(6): 747-764 [RR].

Week 7

Camba, A. (2020). The Sino-Centric Capital Export Regime: State-Backed and Flexible Capital in the Philippines. *Development and Change*. 51(4): 970-997 [RR].

Lim, G. (2017). Chinas Going Out Strategy in Southeast Asia: Case Studies of the Automobile and

Electronics Sectors. *China: An International Journal*. 15(4):157-178 [RR].

Liu, H., and Lim, G. (2019). The Political Economy of a Rising China in Southeast Asia: Malaysias Response to the Belt and Road Initiative. *Journal of Contemporary China*. 28(116): 216-231 [RR].

Nolan, P. (2012). *Is China Buying the World?* Cambridge: Polity Press [RR].

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2100E

科目名/Course Name: Government and Politics in Japan

担当教員/Instructor: 増山 幹高/MASUYAMA Mikitaka

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Why do people vote the way they do? Why do politicians behave the way they do? Why do political organizations operate the way they do? A growing number of political scientists are attempting to answer these and other questions within an integrated intellectual framework known as rational choice, which assumes that individuals have specific goals and strive to satisfy those goals in the most efficient manner possible. This course covers an overview of Japanese politics and themes and writings of interest to political scientists. In particular, this course explores how Japanese politics works from three perspectives: (1) voters, (2) politicians, and (3) political organizations, with a particular emphasis placed on insights from rational choice models of political behavior.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1 : Introduction
- 2 : Recent national elections
- 3 : To vote or not to vote
- 4 : Public opinion and party support
- 5 : Votes and seats
- 6 : Electoral reforms
- 7 : Party systems
- 8 : Candidates: election and re-election seekers
- 9 : Diet members: position and policy seekers
- 10 : Legislature
- 11 : Party realignment
- 12 : Executive
- 13 : Bureaucracy
- 14 : Interest groups
- 15 : Wrap-up

Each week, one or two readings will be assigned, listed at the end of the syllabus. There is no reading assignment for Weeks 1, 2, and 15.

3. 成績の評価方法/ Grading:

This course has three major requirements: class participation, weekly comments, and a take-home exam. Class participation and weekly comments submitted via email, respectively, make up 10% and 60% of your grade. The take-home exam is worth 30% of your final remark.

All students participate in class discussions.

Each week, students write a comment, which addresses the central theoretical or methodological concern in that weeks topic. Each student participates in either of the two groups and submits such a paper once every two weeks. These papers will typically discuss an issue or two, pose questions about the weeks topic, and suggest answers. These weekly comments will usually be two or three paragraphs and never more than one page in length (about 300-400 words). They are due via email (gov2100e@gmail.com) as an attachment MS Word file at noon on the day before the class meeting. Those submitted after that but before the class will receive partial credit. Make sure that you write your name and student ID on your weekly comment. Please do not attempt to confirm whether or not I accept your paper.

A take-home final exam will be distributed in Week 14. It is due in Week 15. You will write an essay to respond to one or two prompts. It should be no more than 1,600 words long, double-spaced, with 12 point font. You can use any sources, but all sources must be appropriately cited using parenthetical citations in the text, i.e. (Richardson, 123), and using endnotes with full-length references for sources other than course readings. The word limit does NOT take into account the endnotes. Failure to follow these basic requirements will result in a substantially lower grade. You must submit your essay via Turnitin. Late penalties will apply.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Weekly Readings

Week 1: Introduction

No reading.

No weekly comment.

Week 2: Recent national elections

No reading.

No weekly comment.

Week 3: To vote or not to vote

Kabashima, Ikuo, and Gill Steel. 2010. *Changing Politics in Japan*, Ch. 3, pp. 28-60.

Week 4: Public opinion and party support

Kabashima, Ikuo, and Gill Steel. 2010. *Changing Politics in Japan*, Ch. 3, pp. 28-60.

Week 5: Votes and seats

Reed, Steven. 1990. Structure and Behaviour. *British Journal of Political Science* 20(3): 335-356.

Cox, Gary. 1997. *Making Votes Count*, Ch. 5, pp. 99-122.

Week 6: Electoral reforms

Reed, Steven and Michael Thies. 2001. The Consequences of Electoral Reform in Japan. in *Mixed-Member Electoral Systems*. pp. 380-403.

Kollner, Patrick. 2002. Upper House Elections in Japan and the Power of the Organized Vote. *Japanese Journal of Political Science*, pp. 113-137.

Week 7: Party systems

Rosenbluth, Frances and Michael Thies. 2010. *Japan Transformed*, Ch. 4, pp. 53-71.

Krauss, Ellis and Robert Pekkanen. 2011. *The Rise and Fall of Japans LDP*, Ch. 4, pp. 100-127.

Week 8: Candidates: election and re-election seekers

Krauss, Ellis and Robert Pekkanen. 2011. *The Rise and Fall of Japans LDP*, Chs. 2-3, pp. 29-64.

Week 9: Diet members: promotion and policy seekers

Krauss, Ellis and Robert Pekkanen. 2011. *The Rise and Fall of Japans LDP*, Chs. 6-7, pp. 154-187.

Week 10: Legislature

Masuyama. 2021. The Japanese Diet: Parliamentary Groups and Lawmaking. in *The Oxford Handbook of Japanese Politics*.

Cox, Masuyama & McCubbins. 2000. Agenda Power in the Japanese House of Representatives. *Japanese Journal of Political Science* 1:1-21.

Week 11: Party Realignment

Rosenbluth, Frances and Michael Thies. 2010. *Japan Transformed*, Ch. 6, pp. 95-122.

Krauss, Ellis and Robert Pekkanen. 2011. *The Rise and Fall of Japans LDP*, Ch. 5, pp. 128-153.

Week 11: Executive

Krauss, Ellis and Robert Pekkanen. 2011. *The Rise and Fall of Japans LDP*, Chs. 8-9, pp. 203-259.

Masuyama and Nyblade. 2014. Japan: ministerial selection and de-selection. in *The Selection of Ministers around the World*. pp. 61-83.

Week 13: Bureaucracy

Kabashima, Ikuo, and Gill Steel. 2010. *Changing Politics in Japan*, Ch. 6, pp. 105-127.

Week 14: Interest Groups

Rosenbluth, Frances and Michael Thies. 2010. *Japan Transformed*, Chs. 5 and 7, pp. 72-94 and pp. 123-154.

Week 15: Wrap-up

No reading.

No weekly comment.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2100J

科目名/Course Name: 政策過程論

担当教員/Instructor: 飯尾 潤/IIO Jun

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

政策過程論は、政策が発案され、決定されて、それが実施に移され、さらに見直されるという一連の過程を解明することにより、政策のあり方そのものを研究する分野である。この講義は、政策過程論において蓄積されてきた多様な知見を提供し、現代日本の政策過程を参照しつつ、現実的・具体的な政策課題について、広く考察するための基盤となる知識を提供することを目指している。関連の文献を紹介するだけでなく、受講者の質問に応じて議論を重ねることで、実地に即した理論理解を進め、受講者が政策過程論関連の知識を吸収するだけでなく、自らの課題について構想力を養うことが最終的な目的である。

講義形式が基本となるが、受講者とのやりとりができるように、要望を聞きながら、授業を進めていく予定である。あらかじめ目を通すべき資料や、重要な参考文献等については、適宜入手できるように配慮し、系統的に学習してもらうことを想定しているが、具体的な学習方法については、初回に説明する。

なお、本講義では、SDGs に関しては、目標 16 あるいは目標 17 が関係しているが、具体例の中には、それ以外の目標に関連するものも含まれている。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回：政策研究の発展と政策過程論の意義（講義の説明）

政策研究の発展経路を回顧するなかで、政策過程を研究することがいかなる意味を持つのかを検討し、政策過程論の意義を確認する。

第2回：政策類型論と政策循環（ポリシー・サイクル）論

政策類型論などを検討したうえで、政策過程を簡明に枠づける思考法としての政策循環論を包括的に論じ、次回以降の講義の構成についてあらかじめ説明する。

第3回：政策課題の発見とアジェンダ設定

政策循環が開始される段階であるアジェンダ設定について論じ、争点の設定と隠れた権力あるいは価値観と政策などの問題を検討する。

第4回：政策立案I（政策とネットワーク）

政策の具体的な内容を作成する段階としての政策立案に関連して、政策を取り巻くネットワークの重要性と、その具体的なあり方を紹介する。

第5回：政策立案II（政策立案における知識）

政策立案における思考法に関して専門家の役割を検討し、行政官および政策研究者にとっての政策立案に関する課題を具体的に検討する

第6回：政策決定I（合理的決定と漸変主義的決定）

政策決定は、政策を正統化し確定する段階であり、長らく政策過程論の中心的な研究対象であった、この段階に関する古典的な理論として合理性に基礎をおくモデルを検討する。

第7回：政策決定II（合理性を前提にしない枠組み）

ゴミ缶モデルの系譜にあるモデルや歴史的記述など、アクターの合理性を前提にしない政策決定モデルを検討する。

第8回：政策決定Ⅲ（理念や言説に基づく枠組み）

理念や人々の信条の変化を基礎にして政策の変化を理解しようとする枠組みについて検討を加える。

第9回：政策実施と組織管理

政策を実際実現する段階（政策実施）において生じる問題を、理論の発展に沿って紹介し、政策の実現と組織との関係を検討する。

第10回：政策手段の選択

政策執行と密接に関係する政策手段の問題を、単なる技術的問題としてではなく、政策過程の質を決める課題であるととらえ、関連する問題を議論する。

第11回：政策評価と政策転換・終了

政策評価の概念の検討とともに、評価に関わる政策過程参加者の動機を検討し、さらに政策が終了するメカニズムについて検討する。

第12回：政権運営Ⅰ（政策の統合と運営）

個別の政策過程を統合する主体として政権の役割を検討し、その課題について論じる中で、総合的に政策過程のあり方を検討する。

第13回：政権運営Ⅱ（政治制度と政策過程）

政策を支える制度の類型を紹介したうえで、政権のあり方を中心に政策過程と制度との関係を説明し、日本における具体的な制度運用を検討する。

第14回：政権運営Ⅲ（民主政と政策過程）

政権への評価を出発点に、政策の正統化という民主政の課題をめぐる問題をまとめて議論し、意識的変革としての政策と民主政の関係を検討する。

第15回：政策関連知識の総合：政策的構想力論

政策に関わる政策分析や政策規範論、執務知識の役割を検討したうえで、政策過程の研究が、政策にとっていかなる意味を持つのかを考察し、政策的構想力の可能性について論じる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、レポートに関する評価点を基準に算定する。ただ、そのほか、学習程度を把握するための小テストなどを実施して、補助的に用いることがあり得る。レポートは、小課題を2回出題して、それぞれの点数を合計したうえで、相対評価を行う。課題の締め切りは、ほかの授業との関係もあるので、講義中で支障を確認した上で、最終決定して通知する。なお、対面での実施のみになるのか、出席点を加味するかどうかなどは、講義開始時期の大学の状況によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1 独自のテキストは、毎回事前に入手できるように、配布する

4.2 参考文献は、毎回の講義の中でそれぞれ紹介するが、全体を通じて、

* Michael Howlett and M. Ramesh, *Studying Public Policy*, Oxford University Press, 1995、

* John W. Kingdon, *Agendas, Alternatives, and Public Policy* 2nd ed., Pearson Education, inc., 2011、

* Christopher M. Weible and Paul A. Sabatier eds., *Theories of The Policy Process* 4th ed., Routledge, 2018 など

はしばしば言及するものと思われる。

5. 履修上の注意/Note:

学生とのやりとりをもとに授業を進めたいので、休まずに授業に参加することが望ましい。また、希望者が一定数以上あれば、政策問題に関する討論を行う補講を行うことも考慮する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2110J

科目名/Course Name: 日本政治と理論分析

担当教員/Instructor: 竹中 治堅/TAKENAKA Harukata

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

現在、日本における権力構造と政策決定は急速に変化しつつある。本講義の目的は、現代日本における権力構造、特に議院内閣制のあり方、と政策決定過程についての理解し、現在起きている変化を捉えることにある。現在の日本の統治構造の最大の特徴は、1990 年代に政治制度が大きく変更された結果、首相の指導力が制度的に拡大したことである。

第一部では、理解の前提として、民主主義の下で、政治制度、特に、統治制度と選挙制度が権力構造に及ぼす影響についての一般的な議論を紹介する。以後、この議論を応用し、戦後日本において権力構造や政策決定過程がどのように変化してきたか分析する。第二部では、1955 年体制のもとにおける変化を、第三部では、政治改革・行政改革が権力構造や政策決定過程に及ぼした影響を分析する。第四部では、まず現代日本の政治過程として、長期政権となった安倍内閣に注目し、内閣が実施した制度改革と政策決定過程について議論する。さらに岸田内閣の政策決定過程を分析する。なお、本講義を理解する上で、戦後日本政治の展開の基本的知識を持っていることが望ましい。従って、受講希望者は、第 5 回講義までに、北岡伸一『自民党』中公文庫を読むことが望ましい。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第 1 回 ガイダンス:日本の議院内閣制の変容と首相権力の増大

第 2 回 統治制度：大統領制と議院内閣制

第 3 回 議院内閣制の構造：選挙制度と国会制度と政治化

第 4 回 1955 年体制下の政党と派閥の変容

第 5 回 1955 年体制下の自民党政権：連立内閣、族議員、国会人事、事前審査制

第 6 回 変容 I:政治改革と自民党の変容の始まり

第 7 回 変容 II:中央省庁再編と小泉内閣、地方分権改革

第 8 回 小泉政権後三政権の混迷と政権交代

第 9 回 安倍政権の制度改革(公務員制度改革と NSC の導入)と官邸

第10回 政治家、大臣、自民党、非自民勢力

第11回 政官関係、利益集団、マスメディア

第12回 第二次安倍政権の下の政策決定過程：官邸主導と安保政策と金融政策

第13回 第二次安倍政権・菅政権の下の政策決定過程：成長戦略、社会・労働政策、コロナ危機対応

第14回 岸田政権の政策決定過程：安全保障政策、ウクライナ

第15回 岸田政権の政策決定過程：コロナ、新しい資本主義、少子化対策

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート（テーマ提出 5% レポート自体 35%）及び (2)試験 (60%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

上神貴佳・三浦まり.2018.『日本政治の第一歩』有斐閣

中北浩嗣.2017.『自民党』中公新書.

飯尾潤.2007.『日本の統治構造』中公新書.

北岡伸一.2008.『自民党』中公文庫.

竹中治堅.2006.『首相支配－日本政治の変貌』中公新書.

竹中治堅編.2017.『二つの政権交代-政策は変わったのか』勁草書房.

竹中治堅.2020.『コロナ危機の政治－安倍政権 vs.知事』中公新書.

4-2 各回毎の読書課題は開校時に指定。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2200EA

科目名/Course Name: International Relations

担当教員/Instructor: 岩間 陽子/IWAMA Yoko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course is intended to provide introduction into the study of international relations for beginners. If you have studied International Relations before, please chose GOV2200EB (This does not apply to YLP students). After introducing you to the major theoretical approaches of IR, we will cover the evolution of the modern state system in order to better understand the nature of the change world system is now facing. Thereafter we will examine different aspects of the challenges we are facing today and compare different perspectives. The purpose of the course is to provide you with basic knowledge about different approaches of IR and the understanding how it brings you different lessons about the problems you are facing.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

1 : Introduction, Orientation

Joseph S. Nye Jr./ David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation, Ch.1. John Baylis/ Steven Smith/Patricia Owens, The Globalization of World Politics, Introduction .

2 : Two basic approaches: Realism and Liberalism

Joseph S. Nye Jr. and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation, (New York : Pearson/Longman, 2013, 9th edition) Ch1-2.

Steven S. Lamy/ John Baylis/ Steven Smith/Patricia Owens, Introduction to Global Politics (Oxford University Press, 2011) Ch. 1-3

John Baylis/ Steve Smith/ Patricia Owens, The Globalization of World Politics: An Introduction to international relations (Oxford University Press, 2014, 6th edition) Ch. 6-7

3 : Contemporary approaches: Neo-Realism, Neo-Liberalism, Constructivism & other approaches

Nye and Welch, *Understanding Global Conflict and Cooperation*, Chapter 1 and 2. Lamy et al., *Introduction to Global Politics*, Chapter 3 and 4

Baylis/Smith/Owens, *The Globalization of World Politics*, Chapter 8, 9, 10

Robert O. Keohane (ed.), *Neorealism and its critics* (New York : Columbia University Press, 1986)

David A. Baldwin (ed.), *Neorealism and neoliberalism: the contemporary debate*, (Columbia University Press, 1993)(New directions in world politics).

Alexander Wendt, *Social Theory of International Politics* (Cambridge University Press, 1999)

4 : Birth of the Modern State System

Paul Gordon Lauren/ Gordon A. Craig/ Alexander L. George, *Force and Statecraft: Diplomatic Challenges of our time* (Oxford University Press, 2007, 4th edition) Ch.1 & 2.

Baylis/Smith/Owens, *The Globalization of World Politics: An introduction to international relations*, Ch.2

Lamy/Baylis/Smith/Owens, *Introduction to Global Politics*, Chapter 2.

5 : 19th Century Concert System

Paul Gordon Lauren/ Gordon A. Craig/ Alexander L. George, Force and Statecraft: Diplomatic Challenges of our time (Oxford University Press, 2007, 4th edition) Ch.1 & 2.

Nye & Welch, Chapter 3

Baylis/Smith/Owens, The Globalization of World Politics, 6th edition, Chapter 2 and 3.

Henry Kissinger, Diplomacy, 1995

6: The First World War

Paul Gordon Lauren/ Gordon A. Craig/ Alexander L. George, Force and Statecraft (Oxford University Press, 2007, 4th edition) Ch.1 & 2.

Nye & Welch, Chapter 3

Lamy/ Baylis/ Smith/ Owens, Introduction to Global Politics, Chapter 2 Baylis/Smith/Owens, The Globalization of World Politics, Ch. 3.

7 : The Legacies of Versailles Peace Conference

8.: The Interwar Period

Nye/ Welch, ch. 4.

Baylis/Smith/Owens, The Globalization of World Politics, Ch. 3. Lauren/Craig/George, ch.3

Zara Steiner, *The Lights that Failed: European International History 1919-1933*, (Oxford U.P., 2005)

9 : The Road to WWII

Nye/ Welch, Ch. 4

Baylis/Smith/Owens, *The Globalization of World Politics*, Ch. 3.

10 : The Cold War, Part 1

Nye/ Welch, ch.5; Lauren/Craig/George, Ch.5

John W. Young/ John Kent, *International Relations since 1945: A Global History*, (Oxford University Press, 2004)
Ch 1-2.

11: The Cold War, Part II Nye/Welch, Ch.5

Odd Arne Westad, *The Global Cold War: Third World Interventions and the Making of Our Times*, Cambridge University Press, 2005.

12: The End of the Cold War Nye/Welch, Ch.5

Globalization of World Politics, Ch.4

13: Post-Cold War World Part I Nye/ Welch, Ch. 6

R. Keohane and J. Nye, Transnational Relations and World Politics, (Harvard U. P., 1972) Stanley Hoffman, Duty Beyond Borders: on the limits and possibilities of ethical international politics(Syracuse University Press, 1981)

Michael Walzer, Just and Unjust Wars: A moral argument with Historical Illustrations, 4th edition (Basic Books, 2004)

14 : Post-Cold War Period Part II Baylis/Smith/Owens, ch. 1

Nye, Ch.7, 8

15 : Post Cold War Period Part III, Final Discussion Nye, Ch. 9.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading will be based on 1 mid-term paper (30%) and 1 term-paper(40%), participation in class and submission of several homeworks(30%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

*Joseph S. Nye Jr., Understanding Global Conflict and Cooperation, (New York : Pearson/Longman, 2016, 10th edition)

4-2

*John Baylis/ Steven Smith/ Patricia Owens, The Globalization of World Politics (7th edition, Oxford University Press, 2017)

*Steven L. Lamy/John Baylis/ Steven Smith/Patricia Owens, Introduction to Global Politics (Oxford University Press, 4th edition, 2016)

*Paul Gordon Lauren/ Gordon A. Craig/ Alexander L. George, Force and Statecraft: Diplomatic Challenges of our time (Oxford University Press, 2013, 5th edition)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2200EB

科目名/Course Name: International Relations

担当教員/Instructor: BRUMMER Matthew/BRUMMER Matthew

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

(This course is designed for students who have either already studied International Relations at the undergraduate or graduate level, or have professional work experience in international affairs, or are Ph.D. students. For MA students without such academic or professional experience, please take Professor Iwama's course (GOV2200EA)).

This course aims to provide students with an advanced introduction to essential concepts and terms of art for the study International Relations (IR). The course explores the role of theory in the study of IR, and examines the discipline's primary theoretical approaches, including Realism, Liberalism, and Constructivism. The course seeks to communicate the character of world politics from diverse perspectives, including system, actor, and normative approaches, with an emphasis on relating theory to questions of public concern and policies in practice. Thus, the course is both macro-theory and micro-policy focused.

The course will draw on core texts in international relations to provide students with a firm grounding from which to think about a range of critical issues in global affairs. By the end of the course, students will: have developed a broad understanding of IR, its terminology and theoretical traditions; be able to assess and apply different IR theories to specific issues in world politics; be able to identify and develop their own inquiries into the core debates in IR; and have developed communication and academic skills necessary to undertake social science research in IR.

The course requires students to be committed to learning and to come prepared to class, having read the assigned texts in advance. The course will be taught over 15 classes and students are expected to attend all classes. Typically, each class will be divided into a lecture and a seminar. The course instructor will lead the lecture at the beginning of each class, after which we will turn to a seminar-based discussion where students will present and critically discuss the assigned reading(s) for that day.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The course is roughly divided into 2 phases. In the first phase, we will examine the core theories of International Relations, including Realism, Liberalism, and Constructivism, as well as their sub-theories. We will also have an introduction to non-Western IR. In the second phase, we will apply theory to practice and current affairs, including the US-China rivalry, AI and technological revolutions, and climate change.

Course Schedule

October 12

Introduction to the course and to each other

October 19	Introduction to the International Relations Discipline
October 26	Why Theory, Elevator Pitches of final papers
November 2	Realism I
November 9	Realism II
November 16	Liberalism
November 23	Equinox, No class
November 30	Constructivism
December 7	Non-Western International Relations
December 14	International Relations and Japan
December 21	Exam: 90-minute take-home
December 28	New Year's, No class
January 4	Technology and Power in International Relations
January 11	The International Politics of Climate Change
January 18	Great Power Rivalry and US-China competition
January 25	Final paper presentations
February 1	No class - Term papers due by 16:40

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation (20%). All students are expected to actively participate in class discussion, and attendance will be taken. Additionally, each student will serve as a Presenter and as a Discussant for at least one of the weekly

reading assignments during the semester. The role of the Presenter is to critically review the weekly reading in a concise manner while the role of the Discussant is to critique the Presenter's review, pose questions to the Presenter and facilitate discussion with the class.

Quizzes (10%). Unannounced multiple choice "pop" quizzes will periodically be taken throughout the semester. These are wholly based on the required reading for that day.

Midterm Exam (25% or 35% or 45%*). A written, 90-minute in-class open-book exam covering all lectures and required readings. Questions will take a variety of forms, including multiple choice and short answer.

Term Paper (25% or 35% or 45%*). Students will write a final term paper on a topic of their choosing and in consultation with the course instructor. Papers will be approximately 3,000 word (5,000 words maximum).

*Because everyone learns differently and has different skillsets e.g., test-taking vs. research and writing all students can select the grade distribution that best fits their preferences within three pre-defined weightings (participation and quizzes are fixed at 20% and 10% respectively).

*Grading scenarios. Each students can select which distribution they prefer.

Grading Scenarios

Participation

Quizzes

Exam

Term Paper

Total

Distribution 1

20

10

25

45

100

Distribution 2

20

10

35

35
100

Distribution 3

20
10
45
25
100

Finally, extra credit may be earned by publishing on an international relations topic related to our course in either a newspaper, magazine, or journal.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

No textbook is required for this course. All readings will be provided by the professor.

5. 履修上の注意/Note:

5.Note: For students wishing to read ahead, please consider the following textbook: Baylis,Smith and Owens, "The Globalization of World Politics," Oxford University Press. Please also read Foreign Affairs.

6.COVID-19 Statement: Although we have emerge

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2210E

科目名/Course Name: International Political Economy

担当教員/Instructor: CHEY Hyoung-kyu/CHEY Hyoung-kyu

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course introduces students to International Political Economy (IPE), the study of the complex interplay of economics and politics in the world arena. The course investigates two main questions: 1) what are the political causes of the evolving structure of the world economy? and 2) what are the implications of this evolving world economic structure for a nation's policy choices and for international and domestic politics? The emphasis of the course is not on the technical aspects of international economics or economic theory, but rather the political and institutional contexts in which they operate.

This course is related to Goal 16 (Peace, Justice and Strong Institutions) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The course is broadly divided into two sections. In the first section, the main perspectives, theoretical approaches and methodological issues in IPE are discussed. In the second we address the major issue areas in IPE and important contemporary issues. The major issue areas covered are the international trade system, the international monetary and financial system, multinational corporations and foreign direct investment, economic development, and economic interdependence.

Each class will consist of two parts. The first part will be a lecture by the instructor, and the second a seminar requiring the active participation of all students in discussing the major issues raised in the lecture. The lecture will account for about two-thirds of the length of each class, and the seminar the remainder.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To be announced later.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Core texts:

Oatley, Thomas. (2023). International Political Economy, 7th edition (New York and London: Routledge).

Ravenhill, John., ed. (2020). Global Political Economy, 6th edition (Oxford: Oxford University Press).

Cohen, Benjamin J. (2008). International Political Economy: An Intellectual History (Princeton: Princeton University Press).

5. 履修上の注意/Note:

A more detailed version of the syllabus, which will include the specific topic and required reading for each week,

will be announced later.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2230E

科目名/Course Name: Japanese Foreign Policy

担当教員/Instructor: 北岡 伸一, PRESSELLO Andrea/KITAOKA Shinichi and PRESSELLO Andrea

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japanese foreign policy in the period between the end of World War II and today. Particular attention will be paid to the relationship between foreign policy and domestic politics. Some of the topics to be discussed in class are the process of building postwar Japanese relations with the United States and Asia, Japan's official development assistance, Japanese security policy, and the issue of historical memory and reconciliation in Japanese foreign relations. No background knowledge on these issues is required. Students from different countries are highly encouraged to register for this course; the diverse perspectives that they can contribute is expected to enrich the discussion of Japan's relations with the world. Students with limited English language ability are also welcome. During the course, a video will be shown and one class might be held in the form of a visit to a site related to the contents of the course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction

Japan's defeat in World War II. Occupation and reforms

Cold War and the San Francisco Peace Treaty

After independence: China, Southeast Asia, and the Soviet Union

Revision of the US-Japan Security Treaty

The reversion of Okinawa

Facing new challenges: Nixon shocks and the Oil Crisis

After Vietnam: Approaches to Southeast Asia

New Cold War and trade disputes with the United States

Field trip

End of the Cold War and new challenges in security policy

Changing Official Development Assistance policy

Historical memory and reconciliation

Presentation on the Term Paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term paper: 50%

Participation in class: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Reading materials (book chapters, journal articles, reference materials) will be assigned by the instructors drawing

from a variety of sources, including:

Kitaoka, Shinichi. *The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics*, Routledge, 2018.

Iokibe, Makoto, ed. *The Diplomatic History of Postwar Japan*, Routledge, 2010.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2240EA

科目名/Course Name: International Security Studies

担当教員/Instructor: 徳地 秀士/TOKUCHI Hideshi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

As part of Japan's attempt to adapt to the enormous change in power balance and intensified geopolitical rivalry, Japan renewed its National Security Strategy at the end of 2023. As it may signal a profound transformation of Japan's national security policy, and affect the peace and stability of the Indo-Pacific region and of the entire international community, a better understanding of Japan's national security policy is important for the students of contemporary international relations.

The main objective of this course is to enable the students to develop a basic understanding of international security issues in both theory and practice, with a focus on the roles of military power. For this purpose, this course will look into some theoretical issues in the first half, and look into Japan's national security and defense policy issues as well as a few current security topics involving the Indo-Pacific region in the latter half.

The instructor will discuss complex realities of international security, based on his previous work experiences for Japan's national defense in the Government of Japan.

This course is related to Goal 16 (Peace) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

PART I: UNDERSTANDING SECURITY ISSUES

Session 1: Introduction

Students' self-introduction

Academic perspectives and practitioners' perspectives on security issues

Scope of "security"

Session 2: Civil-military relations and civilian control of the military

Session 3: Strategic concepts

Session 4: Nuclear issues

Session 5: Roles of international law in international security

Session 6: Non-traditional security challenges

PART II: JAPAN'S NATIONAL SECURITY POLICY

Session 7: Japan's national security strategy and defense policy

Session 8: Japan's security legislation

Session 9: Japan-US Alliance and the bilateral defense cooperation

Session 10: Japan's security cooperation with regional and extra-regional partners

PART III: CURRENT TOPICS

Session 11: North Korea's nuclear and missile development and Japan's response

Session 12: Impact of Russian invasion of Ukraine on the East Asian security

PART IV: WRAP-UP

Session 13: Comments on Japan's national security and defense policy

Each student is required to make a short (depending on the size of the class) presentation on the student's comments on Japan's new national security and defense policy with a sheet of memo. Q&A and discussion will follow suit. (Also refer to the note for Session 14.)

Session 14: Country security policy (presentation and discussion)

Each student is required to make a short presentation on the following questions:

- a. What are the two most important security challenges for your country?
- b. What is your country doing to address those two challenges?

Each student is requested to submit a one-page outline of the presentation in advance to facilitate the understanding of the presentations among the participants. Q&A and discussion will follow suit.

Note: Depending on the class size, presentation and discussion on country security policy may require two sessions. In that case, both Session 13 and Session 14 will be allocated for it and the students will not have to work on "Recommendations on Japan's national security and defense policy" as shown above. The instructor will make the decision during the course.

Session 15: Final examination

A 90-minute open-book examination.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation in the class (20%).

Final Examination (80%).

Note that tardiness and absence without prior notification to the instructor will militate against the students' grades.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The asterisk (*) means required reading.

[Session 1: Introduction]

Gideon Rose, "Foreign Policy for Pragmatists: How Biden Can Learn from History in Real Time," *Foreign Affairs*, Vol. 100, No. 2, March/April 2021, pp. 48-56.

[Session 2: Civil-military relations and civilian control of the military]

*William Rapp, "The Role of Military Leaders in Strategy Making," *Parameters*, Vol. 45, No. 3, Autumn 2015, https://ssi.armywarcollege.edu/pubs/parameters/issues/Autumn_2015/5_rapp.pdf.

Kathleen Hicks, "Civilian Control of the Armed Forces," Testimony before Senate Armed Services Committee, January 10, 2017,

https://csis-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/congressional_testimony/ts170110_Hicks_testimony.pdf.

*Eliot Cohen, "Civilian Control of the Armed Forces," Testimony before the Senate Armed Services Committee, January 10, 2017,

https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/Cohen_01-10-17.pdf.

*Akihiko Tanaka, "INSIGHTS into the WORLD; Use of troops will stifle U.S. democracy," *The Japan News*, June 18, 2020, [https://advance-lexis-com.ezproxy.grips.ac.jp/document/?pdmfid=1516831&crd=b933e565-1f91-43b2-b8f4-751a0fb42fa7&pddocfullpath=%2Fshared%2Fdocument%2Fnews%2Furn%3AcontentItem%3A6055-1JH1-JCF4-60KW-00000-](https://advance-lexis-com.ezproxy.grips.ac.jp/document/?pdmfid=1516831&crd=b933e565-1f91-43b2-b8f4-751a0fb42fa7&pddocfullpath=%2Fshared%2Fdocument%2Fnews%2Furn%3AcontentItem%3A6055-1JH1-JCF4-60KW-00000-00&pdcontentcomponentid=145202&pdteaserkey=sr0&pditab=allpods&ecomp=yzvkn&earg=sr0&prid=b661d3f6-e4b5-4642-a179-1befdfbfe3c1)

[00&pdcontentcomponentid=145202&pdteaserkey=sr0&pditab=allpods&ecomp=yzvkn&earg=sr0&prid=b661d3f6-e4b5-4642-a179-1befdfbfe3c1](https://advance-lexis-com.ezproxy.grips.ac.jp/document/?pdmfid=1516831&crd=b933e565-1f91-43b2-b8f4-751a0fb42fa7&pddocfullpath=%2Fshared%2Fdocument%2Fnews%2Furn%3AcontentItem%3A6055-1JH1-JCF4-60KW-00000-00&pdcontentcomponentid=145202&pdteaserkey=sr0&pditab=allpods&ecomp=yzvkn&earg=sr0&prid=b661d3f6-e4b5-4642-a179-1befdfbfe3c1).

*Dennis Blair, "What Lloyd Austin's critics don't understand about 'civilian control'," *The Washington Post*, December 11, 2020, https://www.washingtonpost.com/opinions/2020/12/10/dennis-blair-lloyd-austin-civilian-control/?utm_medium=email&utm_source=newsletter&wpisrc=nl_opinions&utm_campaign=wp_opinions.

*Lindsay Cohn, "Statement of Lindsay P. Cohn Before the Senate Armed Services Committee Hearing on Civilian Control of the Armed Forces," January 12, 2021, https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/Cohn_01-12-21.pdf.

Kathleen McInnis, "Statement of Kathleen J. McInnis Before Committee on Armed Services U.S. Senate Hearing on "Civilian Control of the Armed Forces"," January 12, 2021, https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/McInnis_01-12-21.pdf.

*"Open Letter: To Support and Defend: Principles of Civilian Control and Best Practices of Civil-Military Relations," *War on the Rocks*, September 6, 2022, <https://warontherocks.com/2022/09/to-support-and-defend-principles-of-civilian-control-and-best-practices-of-civil-military-relations/>.

*Peter Feaver and Michèle Flournoy, "Let's Stop Being Cavalier About Civilian Control of the Military," *Lawfare*, September 13, 2022, <https://www.lawfareblog.com/lets-stop-being-cavalier-about-civilian-control-military>.

*Joseph F. Dunford, Jr., Graham Allison, and Jonah Glick-Unterman, "Guardians of the Republic: Only a Nonpartisan Military Can Protect American Democracy," *Foreign Affairs*, January 5, 2023, <https://www.foreignaffairs.com/united-states/guardians-republic>.

[Session 3: Strategic concepts]

*Robert Jervis, "Cooperation under the Security Dilemma," in Robert Art and Kenneth Waltz, eds., *The Use of Force International Politics and Foreign Policy*, Second Edition, University Press of America, 1983, pp. 34-64.

*Glenn Snyder, "Deterrence and Defense," in Art and Waltz, eds., *The Use of Force*, pp. 123-141.

[Session 4: Nuclear issues]

**Legality of the Threat or Use of Nuclear Weapons*, Advisory Opinion, I.C.J. Reports 1996, p. 266, paragraph 105(2)D, <https://www.icj-cij.org/files/case-related/95/095-19960708-ADV-01-00-EN.pdf>.

*Matake Kamiya, "Nuclear Japan: Oxymoron or Coming Soon?" *The Washington Quarterly*, Vol. 26, No. 1, Winter 2002-2003, pp. 63-75.

Lawrence Freedman, *The Evolution of Nuclear Strategy*, 3rd edition, Palgrave Macmillan, 2003.

Office of the Press Secretary, The White House, "Remarks by President Obama and Prime Minister Abe of Japan at Hiroshima Peace Memorial," May 27, 2016, <https://obamawhitehouse.archives.gov/the-press-office/2016/05/27/remarks-president-obama-and-prime-minister-abe-japan-hiroshima-peace>.

*Address of the Holy Father on Nuclear Weapons, November 24, 2019, http://www.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2019/november/documents/papa-francesco_20191124_messaggio-arminucleari-nagasaki.html.

*Address of the Holy Father, November 24, 2019, http://www.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2019/november/documents/papa-francesco_20191124_messaggio-incontropace-hiroshima.html.

Doug Bandow, "America's Asian Allies Need Their Own Nukes," *Foreign Policy*, December 30, 2020, <https://foreignpolicy.com/2020/12/30/nuclear-weapons-china-great-power-competition-asia/>.

* "Joint Statement of the Leaders of the Five Nuclear-Weapon States on Preventing Nuclear War and Avoiding Arms Races," January 3, 2022, <https://www.whitehouse.gov/briefing-room/statements-releases/2022/01/03/p5-statement-on-preventing-nuclear-war-and-avoiding-arms-races/>.

Masashi Murano, "Responding to the Nuclear Threat," *Security Studies*, Vol. 4, No. 4, December 2022, pp. 85-101. ISBN: 978-4-909962-15-7.

[Session 5: Roles of international law in international security]

*E.H. Carr, *The Twenty Years' Crisis 1919-1939, An Introduction to the Study of International Relations*, Palgrave Macmillan, 2001, Chapters 10 to 13.

Michael Schmitt, ed. *Tallinn Manual on the International Law Applicable to Cyber Warfare*, Cambridge University Press, 2013.

Michael Schmitt, "The Law of Cyber Warfare: Quo Vadis?" *Stanford Law & Policy Review* 269 (2014), <https://www-cdn.law.stanford.edu/wp-content/uploads/2018/03/schmitt.pdf>.

*Permanent Court of Arbitration, Press Release: The South China Sea Arbitration (The Republic of the Philippines V. The People's Republic of China), July 12, 2016, <https://pca-cpa.org/en/news/pca-press-release-the-south-china-sea-arbitration-the-republic-of-the-philippines-v-the-peoples-republic-of-china/>.

*Graham Allison, "Heresy to say great powers don't bow to tribunals on the Law of the Sea?" *The Straits Times*, July 16, 2016, <https://www.straitstimes.com/opinion/heresy-to-say-great-powers-dont-bow-to-international-courts>.

*Tommy Koh, "China's perception of Singapore: 4 areas of misunderstanding," *The Strait Times*, October 21, 2016, <https://www.straitstimes.com/opinion/chinas-perception-of-singapore-4-areas-of-misunderstanding>.

*Oona Hathaway, "International Law Goes to War in Ukraine: The Legal Pushback to Russia's Invasion," *Foreign Affairs*, March 15, 2022, <https://www.foreignaffairs.com/articles/ukraine/2022-03-15/international-law-goes-war-ukraine>.

Tanisha Fazal, "The Return of Conquest? Why the Future of Global Order Hinges on Ukraine," *Foreign Affairs*, Vol.101, No. 3, May/June 2022, pp. 20-27.

*Masahiro Kurosaki, "The Russian Invasion of Ukraine and the Future International Legal Order," *Security Studies*, Vol. 4, No. 2, June 2022, pp. 78-100. ISBN: 978-4-909962-13-3.

[Session 6: Non-traditional security challenges]

*Lester Brown, "An Untraditional View of National Security," Joh Reichart and Steven Sturm, eds., *American Defense Policy Fifth Edition*, The Johns Hopkins University Press, 1982, pp. 21-25.

*Jessica Mathews, "Redefining Security," *Foreign Affairs*, Spring 1989, pp. 166-177.

Office of the Under Secretary of Defense for Acquisition and Sustainment, *Report on effects of a Changing Climate on the Department of Defense*, 2019.

*National Intelligence Council, *National Intelligence Estimate: Climate Change and International Responses Increasing Challenges to US National Security Through 2040*, 2021, pp. 1-15, https://www.dni.gov/files/ODNI/documents/assessments/NIE_Climate_Change_and_National_Security.pdf.

*Hideshi Tokuchi, "The Japan-US Alliance Cooperation on Addressing Climate Security," *Ocean Policy Research Institute, Sasakawa Peace Foundation, Climate Security- Global Warming and a Free and Open Indo-Pacific*, Tokai Education Research Institute, 2022, pp. 155-166. ISBN: 978-4-924523-27-2 C3031.

*Ministry of Defense, "Ministry of Defense Response Strategy on Climate Change," August 2022, https://www.mod.go.jp/j/approach/agenda/meeting/kikouhendou/pdf/taishosenryaku_202208_e.pdf.

[Session 7: Japan's national security strategy and defense policy]

Kenneth Pyle, "Japan's Return to Great Power Politics: Abe's Restoration," *Asia Policy*, Vol. 13, No. 2, April 2018, pp. 69-90.

*Hideshi Tokuchi, "Japans National Security At a Crossroads: Time to craft a new national security strategy," *AJISS-Commentary*, March 30, 2020, https://www.jiia.or.jp/en/ajiss_commentary/japans-national-security-at-a-crossroads-time-to-craft-a-new-national-security-st.html.

National Institute for Defense Studies (NIDS), *East Asian Strategic Review 2021*, "Chapter 7 Japan: Toward a Post-

COVID-19 Security Posture," July 2021, <http://www.nids.mod.go.jp/english/publication/east-asian/e2021.html>.

Yuki Tatsumi, "Japans foreign and national security policy under Kishida: challenges and opportunities," AJISS-Commentary, December 2021, https://www.jiia.or.jp/en/ajiss_commentary/japans-foreign-and-national-security-policy-under-kishida-challenges-and-opportunities.html.

The National Institute for Defense Studies, East Asian Strategic Review 2022, 2022, Chapter 8. ISBN: 978-4-86482-107-0. It is also available at:

http://www.nids.mod.go.jp/english/publication/east-asian/pdf/2022/e2022_all.pdf.

*Hideshi Tokuchi, "Toward a New Blueprint for Japanese Security," nippon.com, October 17, 2022, <https://www.nippon.com/en/in-depth/a08402/toward-a-new-blueprint-for-japanese-security.html>.

Hideshi Tokuchi, "The revision of Japan's National Security Strategy," The European Security and Defence Union, No. 44, November 2022, pp. 12-13, www.magazine-the-european.com.

Ryoichi Oriki, "No Time to Lose for Improving Japan's Defense Capabilities Can the JSDF Defend the Homeland?" Security Studies, Vol. 4, No. 4, December 2022, pp. 102-116.

*Hideshi Tokuchi, "Toward a Formulation of a New "National Security Strategy" and Key Security Policy Documents Expectations, Anxieties, and Some Proposals," Security Studies, Vol. 4, No. 4, December 2022, pp. 117-135.

Christopher Johnstone, "Japan's Transformational National Security Strategy," Center for Strategic and International Studies, December 8, 2022, <https://www.csis.org/analysis/japans-transformational-national-security-strategy>.

*Government of Japan, "National Security Strategy," Approved by the National Security Council and the Cabinet on December 16, 2022,

https://www.mod.go.jp/j/approach/agenda/guideline/pdf/security_strategy_en.pdf.

*Government of Japan, "National Defense Strategy," Approved by the National Security Council and the Cabinet on December 16, 2022,

https://www.mod.go.jp/j/approach/agenda/guideline/strategy/pdf/strategy_en.pdf.

Mirna Galic, "What You Need to Know About Japan's New National Security Strategy," United State Institute of Peace, December 19, 2022, <https://www.usip.org/publications/2022/12/what-you-need-know-about-japans-new-national-security-strategy>.

Yuka Koshino, "Japans transformational national-security documents," International Institute for Strategic Studies, December 21, 2022, <https://www.iiss.org/blogs/analysis/2022/12/japans-transformational-national-security-documents>.

Jennifer Lind, "Japan Steps Up: How Asia's Rising Threats Convinced Tokyo to Abandon Its Defense of Taboos," Foreign Affairs, December 23, 2022, <https://www.foreignaffairs.com/japan/japan-steps>.

[Session 8: Japan's security legislation]

*The Advisory Panel on Reconstruction of the Legal Basis for Security, Report of the Advisory Panel on Reconstruction of the Legal Basis for Security, May 15, 2014,

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/anzenhosyou2/dai7/houkoku_en.pdf.

*Government of Japan, "Cabinet Decision on Development of Seamless Security Legislation to Ensure Japan's Survival and Protect its People," July 1, 2014,

http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/pdf/anpohosei_eng.pdf.

*Hideshi Tokuchi, Implications of Revision of Article 9 of the Constitution of Japan on the Defense Policy of Japan," Columbia Journal of Asian Law, Vol. 33, No. 1, December 31, 2019, pp. 84-93, <https://journals.library.columbia.edu/index.php/cjal/article/view/5453/2637>.

[Session 9: Japan-US Alliance and the bilateral defense cooperation]

*"Guidelines for Japan-US Defense Cooperation," 2015, 1997 and 1978, http://www.mod.go.jp/e/d_act/ampo/.

*Hideshi Tokuchi, "Japan's Quest for a New Security Strategy and the Japan-US Alliance," September 11, 2020, <https://pacforum.org/publication/pacnet-52-japans-quest-for-a-new-security-strategy-and-the-japan-us-alliance>.

Hideshi Tokuchi, "Maintaining the rules-based international order in the age of the US-China rivalry," The European Security and Defence Union, December 2020, p. 23, [ESDU_2020_vol37.pdf](https://www.magazine-the-european.com/ESDU_2020_vol37.pdf) (magazine-the-european.com).

*Matake Kamiya, "Can the Biden Administration Restore America as a Global Leader?" Security Studies, Vol. 3, No. 1, March 2021, pp. 55-72.

*Hideshi Tokuchi, "The Biden Administration and Japan's Security Strategy," Security Studies, Vol. 3, No. 1, March 2021, pp. 73-92.

Sheila Smith and Charles McClean, "A New Prime Minister and a Growing Alliance Agenda," Comparative Connections, Vol. 23, No. 3, January 2022, pp. 21-30, <https://cc.pacforum.org/wp-content/uploads/2022/01/02-US-Japan-23.3-2.pdf>.

*The White House, National Security Strategy, October 2022, <https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2022/10/Biden-Harris-Administrations-National-Security-Strategy-10.2022.pdf>.

The National Institute for Defense Studies, East Asian Strategic Review 2022, Chapter 7, 2022. It is available also at: <http://www.nids.mod.go.jp/english/publication/east-asian/pdf/2022/e07.pdf>.

Christopher Johnstone, "To Make Japan Stronger, America Must Pull It Closer: What Biden and Kishida Should Do to Strengthen the Alliance," Foreign Affairs, January 12, 2023, <https://www.foreignaffairs.com/japan/make-japan-stronger-america-must-pull-it-closer>.

"Joint Statement of the United States and Japan", January 13, 2023, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100446109.pdf>.

[Session 10: Japan's security cooperation with regional and extra-regional partners]

"ASEAN Outlook on the Indo-Pacific," https://asean.org/storage/2019/06/ASEAN-Outlook-on-the-Indo-Pacific_FINAL_22062019.pdf.

*The Ministry of Foreign Affairs of Japan, Japan's effort for a free and open Indo-Pacific, May 2020, <https://www.mofa.go.jp/files/100056243.pdf>.

*The Ministry of Foreign Affairs of Japan, Speech by Prime Minister Suga at the Vietnam-Japan University: Building together the future of Indo-Pacific, October 19, 2020, https://www.mofa.go.jp/s_sa/sea1/vn/page3e_001070.html.

*Hideshi Tokuchi, "EU-Japan Maritime Security Cooperation in East Asia," The European Security and Defence Union, Vol. 34, 2020, p. 35, https://issuu.com/esdu/docs/esdu_2020_vol34.

*Hideshi Tokuchi, "The Quad Plus in the Security of Asia: Its Significance and Outlook," Security Studies, Vol. 3, No. 2, June 2021, pp. 87-102.

*Stephen Nagy, "The Limits of a Securitized Japanese FOIP Vision," PacNet, January 6, 2022, <https://pacforum.org/wp-content/uploads/2022/01/PacNet1.2022.01.06.pdf>.

Security Studies Program, Sasakawa Peace Foundation, Strengthening Japan's Defense Diplomacy: An SPF Policy Proposal, March 2022, https://www.spf.org/en/global-data/user33/SPF_DefenceDiplomacyProposal.Mar2022.pdf.

*Hideshi Tokuchi, "EU-Japan security cooperation in the aftermath of Russia's invasion of Ukraine," The European Security and Defence Union, No. 42, May 2022, pp. 22-23, www.magazine-the-european.com.

Ippeita Nishida and Tsuneo Watanabe, "A New Phase of Defense Diplomacy and Defense Production and Technology Base," Security Studies, Vol. 4, No. 4, December 2022, pp. 55-74.

[Session 11: North Korea's nuclear and missile development and Japan's response]

*Richard Lawless, "Nuclear North Korea and Japan: The INF Option," Website of National Bureau of Asian Research (NBR), December 14, 2020, <https://www.nbr.org/publication/nuclear-north-korea-and-japan-the-inf-option/>.

*Narushige Michishita, "North Korea's Improved Nuclear and Missile Capabilities," Security Studies, Vol. 3, No. 4, December 2021, pp. 1-14.

*Hideshi Tokuchi, "North Korea's Nuclear and Missile Development and Japan's Defense," Security Studies, Vol. 3, No. 4, December 2021, pp. 96-108.

Sue Mi Terry, "North Korea's Nuclear Opportunism: Why Kim Jong Un Chose to Exploit the Ukraine Crisis," Foreign Affairs, March 24, 2022, <https://www.foreignaffairs.com/articles/united-states/2022-03-24/north-koreas-nuclear-opportunism>.

The National Institute for Defense Studies (NIDS), East Asian Strategic Review 2022, "Chapter 4 The Korean Peninsula: Missile Diversification in North and South Korea," 2022. It is available also at: <http://www.nids.mod.go.jp/english/publication/east-asian/pdf/2022/e04.pdf>.

Ministry of Defense, Defense of Japan 2022, Section 4, Chapter 3, Part 1, 2022, https://www.mod.go.jp/en/publ/w_paper/wp2022/DOJ2022_EN_Full_02.pdf.

[Session 12: Impact of Russian invasion of Ukraine on East Asian security]

*Narushige Michishita, "The Russian Invasion of Ukraine and Security in East Asia," Security Studies, Vol. 4, No. 2, June 2022, pp. 101-115. ISBN: 978-4-909962-13-3.

*Yasuhiro Matsuda, "How will the Ukraine War Change the Now US-China Cold War?" Security Studies, Vol. 4, No. 2, pp. 116-134.

*Ministry of Defense, Defense of Japan 2022, Chapter 2, Part 1, 2022, https://www.mod.go.jp/en/publ/w_paper/wp2022/DOJ2022_EN_Full_02.pdf.

5. 履修上の注意/Note:

a. Contacting the Instructor

Students may contact the instructor by email at h-tokuchi@grips.ac.jp. Students must use their GRIPS addresses to communicate with the instructor.

b. Comments to Students

This course focuses on the roles of the m

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2240EB

科目名/Course Name: International Security Studies

担当教員/Instructor: 道下 徳成/MICHISHITA Narushige

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to give students a better understanding of security issues in both theory and practice. We will discuss issues such as civil-military relations, international relations theories, intelligence, and nuclear issues in the first half of the course. In the latter half, we will look at the Japanese security policy as well as contemporary security issues such as cybersecurity and peacebuilding.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1: Orientation

Course Introduction

Students' self-introduction

Recommended Reading:

Hans Rosling, Ola Rosling, and Anna Rosling Ronnlund, *Factfulness: Ten Reasons We're Wrong About The World - And Why Things Are Better Than You Think* (Sceptre, 2018)

Stephen Van Evera, *Guide to Methods For Students of Political Science* (Cornell University Press, 1997) (311.16||V26).

John M. Swales and Christine B. Freak, *Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills* (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes)(University of Michigan Press, 2012)

Hilary Glasman-Deal, *Science Research Writing For Non-Native Speakers of English* (Icp, 2009)

PART I: UNDERSTANDING SECURITY ISSUES

Session 2: Civilian Control and the Use of Force

Required Reading:

"Civilian control of the military," in Wikipedia,

"Civil-military relations," in Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Civilian_control_of_the_military

Eliot A. Cohen, "The Unequal Dialogue: The Theory and Reality of Civil-Military Relations and the Use of Force," in Peter Feaver and Richard Kohn, *Soldiers and Civilians: The Civil-Military Gap and American National Security* (Cambridge, Mass.: MIT Press, 2001), pp. 429-458.

Recommended Reading:

Mark T. Esper, *A Sacred Oath: Memoirs of a Secretary of Defense During Extraordinary Times* (William Morrow & Co, 2022).

Bob Woodward and Robert Costa, *Peril* (Simon & Schuster, 2021).

Bob Woodward, *Fear: Trump in the White House* (Simon & Schuster, 2018). (『FEAR 恐怖の男 トランプ政権の真実』)

Robert Draper, *To Start a War: How the Bush Administration Took America into Iraq* (Penguin Press, 2020).

Brown University's Watson Institute for International and Public Affairs, "The Costs of War Project," <https://watson.brown.edu/costsofwar/>

James M. Dubik, *Just War Reconsidered: Strategy, Ethics, and Theory* (The University Press of Kentucky, 2016).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *The Generals' War: The Inside Story of the Conflict in the Gulf* (Little Brown & Co, 1995).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *Cobra II: The Inside Story of the Invasion and Occupation of Iraq* (Atlantic Books, 2006).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *The Endgame: The Inside Story of the Struggle for Iraq, from George W. Bush to Barack Obama* (Pantheon, 2012).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *Cobra II: The Inside Story of the Invasion and Occupation of Iraq* (Atlantic Books, 2006).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *The Generals' War: The Inside Story of the Conflict in the Gulf* (Little Brown & Co, 1995).

Eliot A. Cohen, *Supreme Command: Soldiers, Statesmen, and Leadership in Wartime* (Free Press, 2002). (エリオット・コーエン『戦争と政治とリーダーシップ』中谷和男訳、アスペクト、2003年の原書。但し、翻訳はあまりよくない)。

Ash Carter, *Inside the Five-Sided Box: Lessons from a Lifetime of Leadership in the Pentagon* (Dutton, 2019)

Robert M. Gates, *Duty: Memoirs of a Secretary at War* (Knopf, 2014)

Tommy R. Franks, *American Soldier* (Harper, 2004).

John Bolton, *The Room Where It Happened: A White House Memoir* (Simon & Schuster, 2020)

James M. Dubik, *Just War Reconsidered: Strategy, Ethics, and Theory* (The University Press of Kentucky, 2016).

Peter Feaver and Richard Kohn, *Soldiers and Civilians: The Civil-Military Gap and American National Security* (Cambridge, Mass.: MIT Press, 2001).

Donald Rumsfeld, *Known and Unknown: A Memoir* (Sentinel, 2011).

Kathleen H. Hicks, "Civilian Control of the Armed Forces," Statement Before the Senate Armed Services Committee, January 10, 2017, https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/Hicks_01-10-17.pdf. (Video: <https://www.armed-services.senate.gov/hearings/17-01-10-civilian-control-of-the-armed-forces>, starting at

00:25:50)

Eliot A. Cohen, "Civilian Control of the Armed Forces," Testimony before the Senate Armed Services Committee, January 10, 2017, https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/Cohen_01-10-17.pdf. (Video: <https://www.armed-services.senate.gov/hearings/17-01-10-civilian-control-of-the-armed-forces>, starting at 00:34:45)

Patricia M. Shields, Sebastiaan Rietjens, and Joseph Soeters, eds., *Routledge Handbook of Research Methods in Military Studies* (Routledge, 2016)

"20 Strategic Studies and Its Critics," "22 The Practice of Strategy," and "23 Does Strategic Studies Have a Future?," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

National Institute for Defense Studies, NIDS China Security Report, .

Noboru Yamaguchi and David A. Welch, "Soldiers, Civilians, and Scholars: Making Sense of the Relationship between Civil-Military Relations and Foreign Policy," *Asian Perspective*, Vol. 29, No. 1 (2005) .

Robert Haddick, "This Week at War: The Long Death of the Powell Doctrine," *Foreign Policy*, March 5, 2010.

Thomas Berger, "From Sword to Chrysanthemum: Japans Culture of Anti-Militarism," *International Security*, Vo. 17, No. 4, Spring, 1993.

James Carroll, *House of War: The Pentagon and the Disastrous Rise of American Power* (Houghton Mifflin Harcourt, 2006).

Kenneth M. Pollack, *Armies of Sand: The Past, Present, and Future of Arab Military Effectiveness* (Oxford University Press, 2019).

Alex Abella, *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire* (Houghton Mifflin Harcourt, 2008)

道下徳成「自衛隊の組織・装備の名称変更案——文民統制強化と透明性向上のために」『外交』 Vol. 16、2012年12月、134～142頁、<https://www.slideshare.net/tujicas/2012-renaming-the-sdf-for-better-civilian-control-and-transparency-full-michishita>。

「道下徳成先生と対談 文民統制のための自衛隊改称案」細野豪志チャンネル、2020年5月7日、<https://youtu.be/gDY8R6IvtZ8>

Giuseppe Caforio and Marina Nuciari, eds., *Handbook of the Sociology of the Military* (Handbooks of Sociology and Social Research) (Springer, 2018).

Donald Alexander Downs and Ilia Murtazashvili, *Arms and the University: Military Presence and the Civic Education of Non-Military Students* (Cambridge University Press, 2012).

Dave Grossman and Loren W. Christensen, *On Combat: The Psychology and Physiology of Deadly Conflict in War and in Peace* (Human Factor Research Group, 2008)

Martha Raddatz, *The Long Road Home: A Story of War and Family* (Putnam Adult, 2007). (Also, watch *The Long Road Home*, an American drama miniseries created by Mikko Alanne)

David Finkel, *Thank You For Your Service* (Scribe Publications, 2013)

David Finkel, *The Good Soldiers* (Farrar Straus & Giroux, 2009)

Session 3: War and Peace in International Relations Theories

Required Reading:

Stephen M. Walt, "International Relations: One World, Many Theories," *Foreign Policy* (Spring 1998), pp. 29-46.
Narushige Michishita and Peter van der Hoest, "Another Cold War in Asia?" *Asan Forum*, July 19, 2013, <http://www.theasanforum.org/another-cold-war-in-asia/>.

Recommended Reading:

Jakub J. Grygiel and A. Wess Mitchell, *The Unquiet Frontier: Rising Rivals, Vulnerable Allies, and the Crisis of American Power* (Princeton University Press, 2016).
Geoffrey Blainey, *The Causes of War*, 3rd ed. (New York: The Free Press, 1988).
Michael Howard, *The Causes of Wars*, 2nd ed. (Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press, 1983).
Michael E. Brown et al, eds., *Theories of War and Peace* (The MIT Press, 1998).
"5 The Causes of War," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).
Richard K. Betts, ed., *Conflict After the Cold War: Arguments on Causes of War and Peace*, 5th ed. (Routledge, 2017).
Michael E. Brown, Sean M. Lynn-Jones, and Steven E. Miller, eds., *East Asian Security (An International Security Reader)* (The MIT Press, 1996).
G. John Ikenberry and Michael Mastanduno, eds., *International Relations Theory and the Asia-Pacific* (Columbia University Press, 2003)

Session 4: Strategic Concepts -- Offense, Defense, Compellence, and Deterrence

Required Reading:

Lawrence Freedman, ed., *Strategic Coercion: Concepts and Cases* (Oxford: Oxford University Press, 1998), pp. 1-60.

Recommended Reading:

Elbridge A. Colby, *The Strategy of Denial: American Defense in an Age of Great Power Conflict* (Yale University Press, 2016).
Thomas C. Schelling, *Arms and Influence: With a New Preface and Afterword* (Yale University Press, 2008).
Edward N. Luttwak, *Strategy: The Logic of War and Peace*, revised and enlarged (Harvard University Press, 2002).
"4 Strategic Theory," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary*

World, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

Lawrence Freedman, The Revolution in Strategic Affairs, Adelphi Paper 318 (London: IISS, 1998).

Lawrence Freedman, Transformation of Strategic Affairs, Adelphi Paper 379 (Routledge, 2006).

Michael B. Oren, Six Days of War: June 1967 and the Making of the Modern Middle East (Oxford University Press, 2002).

Rodger Claire, Raid on the Sun: Inside Israel's Secret Campaign that Denied Saddam the Bomb (Broadway, 2004)
(ロジャー・クレイア『イラク原子炉攻撃!』並木書房、2007年)

Yaakov Katz, Shadow Strike: Inside Israel's Secret Mission to Eliminate Syrian Nuclear Power (St Martins Press, 2019) (ヤーコブ・カツ『シリア原子炉を破壊せよ—イスラエル極秘作戦の内幕』茂木作太郎訳、並木書房、2020年)

道下徳成「戦略論の将来」道下徳成、石津朋之、長尾雄一郎、加藤朗『現代戦略論—戦争は政治の手段か』勁草書房、2000年、139-186ページ。

柳澤協二、道下徳成対談「I 抑止力の意味と日本の防衛政策」柳澤協二著、道下徳成、小川伸一、植木千可子、山口昇、加藤朗、広瀬佳一对談『抑止力を問う—元政府高官と防衛スペシャリスト達の対話』かもがわ出版、2010年。

Session 5: Nuclear Weapons and Their Consequences

Required Reading:

"12 Nuclear Weapons in the Twenty-First Century" and "13 The Control of Weapons of Mass Destruction," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., Strategy in the Contemporary World, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

The White House, "Nuclear Weapons Employment Policy," National Security Decision Directive Number 13, October 19, 1981, <https://fas.org/irp/offdocs/nsdd/nsdd-13.pdf>.

US Department of Defense, "The 2022 National Defense Strategy of the United States of America including the 2022 Nuclear Posture Review and the 2022 Missile Defense Review," October 27, 2022, <https://media.defense.gov/2022/Oct/27/2003103845/-1/-1/1/2022-NATIONAL-DEFENSE-STRATEGY-NPR-MDR.PDF>

"U.S. Nuclear Weapons Policy: Considering 'No First Use'," Congressional Research Service, March 29, 2022, <https://crsreports.congress.gov/product/pdf/IN/IN10553/11>.

Tomiko Inui, Boya, The Little Flying Fish (Tokyo: Kin-no-Hoshi Sha, 1990). (日本語版: いぬいとみこ『トビウオのぼうやはびょうきです』金の星社、1982)

Recommended Reading:

"Nuclear strategy" in Wikipedia, the free encyclopedia

"Physical damage, blast effect, Hiroshima, 1946-03-13 to 1946-04-08,"

<https://www.youtube.com/watch?v=Y2DsH7aQ-cA>

US Department of Defense, "Nuclear Posture Review 2018," pp. V-XVII,
<https://media.defense.gov/2018/Feb/02/2001872886/-1/-1/2018-NUCLEAR-POSTURE-REVIEW-FINAL-REPORT.PDF>.

Hidenori Watanave, "Hiroshima Archive," https://hiroshima.archiving.jp/index_jp.html

Hidenori Watanave, "Nagasaki Archive," https://n.mapping.jp/index_jp.html

Bulletin of the Atomic Scientists (Journal)

Federation of American Scientists (Website)

US Department of Defense, "Fact Sheet: 2022 Nuclear Posture Review and Missile Defense Review,"
<https://media.defense.gov/2022/Mar/29/2002965339/-1/-1/1/FACT-SHEET-2022-NUCLEAR-POSTURE-REVIEW-AND-MISSILE-DEFENSE-REVIEW.PDF>

James M. Smith and Paul J. Bolt, eds., *Chinas Strategic Arsenal: Worldview, Doctrine, and Systems* (Georgetown University Press, 2021).

Lawrence Freedman and Jeffrey Michaels, *The Evolution of Nuclear Strategy: New, Updated and Completely Revised*, 4th ed. (Palgrave Macmillan, 2019)

Paul Bracken, *The Second Nuclear Age: Strategy, Danger, and the New Power Politics* (St. Martin's Griffin, 2013).

T.V. Paul and Patrick M. Morgan, *Complex Deterrence: Strategy in the Global Age* (University of Chicago Press, 2009).

Joseph Cirincione, Jon B. Wolfsthal, and Miriam Rajkumar, *Deadly Arsenals: Nuclear, Biological, and Chemical Threats*, 2nd ed. (Carnegie Endowment for International Peace, 2005)

Michael Dobbs, *One Minute to Midnight: Kennedy, Khrushchev, and Castro on the Brink of Nuclear War* (Knopf, 2008). (マイケル・ドブズ『核時計零時1分前—キューバ危機13日間のカウントダウン』日本放送出版協会、2010年。)

Siegfried S. Hecker, ed., *Doomed to Cooperate: How American and Russian Scientists Joined Forces to Avert Some of the Greatest Post-Cold War Nuclear Dangers* (Bathrub Row Press, 2016).

Hans Kristensen, "Japan Under the US Nuclear Umbrella," Nautilus Institute, 2015, <http://www.nautilus.org/wp-content/uploads/2015/06/Japan-Under-the-US-Nuclear-Umbrella.pdf>.

Yukio Satoh, *US Extended Deterrence and Japans Security*, Livermore Papers on Global Security No. 2, Lawrence Livermore National Laboratory, Center for Global Security Research, October 2017, <https://cgsr.llnl.gov/content/assets/docs/satoh-report-final.pdf>

Wendy R. Sherman, *Not for the Faint of Heart: Lessons in Courage, Power, and Persistence* (PublicAffairs, 2018).

Katsuhisa Furukawa, "Nuclear Option, Arms Control, and Extended Deterrence: In Search of a New Framework for Japan's Nuclear Policy," in Benjamin L. Self and Jeffrey W. Thompson, eds., *Japans Nuclear Option: Security, Politics, and Policy in the 21st Century* (The Henry L. Stimson Center, December 2003) .

Cartoon book: Keiji Nakazawa, *Barefoot Gen (はだしのゲン, Hadashi no Gen)*, vols. 1-10 (Last Gasp of San Francisco, 2004-2009). [A Cartoon Story of the Atomic Bombing of Hiroshima]

TV film: "On the Beach," Directed by Russell Mulcahy, Featuring Bryan Brown and Armand Assante, 2000.

秋山信将、高橋杉雄『「核の忘却」の終わり—核兵器復権の時代』勁草書房、2019年

森本敏、高橋杉雄編著『新たなミサイル軍拡競争と日本の防衛—INF条約後の安全保障』並木書房、2020

年。

Session 6: Intelligence and National Security

Required Reading:

Mark M. Lowenthal, *Intelligence: From Secrets to Policy*, 9th ed. (CQ Press, 2022), pp. 73-216.

Recommended Reading:

"9 Intelligence and Strategy," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

Markus Schiller, "Missile Identification and Assessment," April 2022, <https://www.iiss.org/-/media/files/research-papers/2022/04/missile-identification-and-assessment.pdf?la=en&hash=34152FFA10671B00221C71D6380BE7D7663E0D8C>

Eric O'Neill, *Gray Day: My Undercover Mission to Expose America's First Cyber Spy* (Crown, 2019)

Edward Jay Epstein, *How America Lost Its Secrets: Edward Snowden, the Man and the Theft* (Knopf, 2017).

Stephen Budiansky, *Code Warriors: NSA's Codebreakers and the Secret Intelligence War Against the Soviet Union* (Knopf, 2016).

David E. Hoffman, *The Billion Dollar Spy: A True Story of Cold War Espionage and Betrayal* (Doubleday, 2015).

Ben Macintyre, *The Spy and the Traitor: The Greatest Espionage Story of the Cold War* (Viking, 2018).

Seth G. Jones, *A Covert Action: Reagan, the CIA, and the Cold War Struggle in Poland* (W.W. Norton & Co, 2018).

Sherry Sontag and Christopher Drew, *Blind Man's Bluff: The Untold Story of American Submarine Espionage* (PublicAffairs, 1998)

Daniel Golden, *Spy Schools: How the CIA, FBI, and Foreign Intelligence Secretly Exploit America's Universities* (Henry Holt & Co, 2017)

Jack Barsky, *Deep Undercover: My Secret Life & Tangled Allegiances As a KGB Spy in America* (Tyndale Momentum, 2017).

US Central Intelligence Agency, *Tradecraft Primer: Structured Analytic Techniques for Improving Intelligence Analysis*, March 2009, http://www.au.af.mil/au/AWC/AWCgate/cia/tradecraft_primer_2009.pdf.

Abram N. Shulsky and Gary J. Schmitt, *Silent Warfare: Understanding the World of Intelligence*, 3d ed. (Brassey's, 2002).

Richard K. Betts, *Surprise Attack: Lessons for Defense Planning* (Brookings Institution Press, 1982).

Richard J. Samuels, *Special Duty: A History of the Japanese Intelligence Community* (Cornell University Press, 2019).

David Albright, Sarah Burkhard, and Allison Lach, "Commercial Satellite Imagery Analysis for Countering Nuclear Proliferation," *Annual Review of Earth and Planetary Sciences*, June 8, 2018, <https://www.annualreviews.org/doi/pdf/10.1146/annurev-earth-063016-015704>.

David Wise, *The Seven Million Dollar Spy: How One Determined Investigator, Seven Million Dollars - and a Death Threat by the Russian Mafia - Led to the Capture of the Most Dangerous Mole Ever Unmasked Inside U.S. Intelligence* (Audible.com, 2018).

Mara Hvistendahl, *The Scientist and the Spy: A True Story of China, the FBI, and Industrial Espionage* (Riverhead Books, 2020)

Laura Poitras, Marcel Rosenbach, Fidelius Schmid, Holger Stark and Jonathan Stock, "How the NSA Targets Germany and Europe," *Der Spiegel*, July 1, 2013, <https://www.spiegel.de/international/world/secret-documents-nsa-targeted-germany-and-eu-buildings-a-908609.html>

Session 7: Assessing Military Balance

Required Reading:

Toby Dalton, Narushige Michishita, and Tong Zhao, "Security Spillover: Regional Implications of Evolving Deterrence on the Korean Peninsula," (Carnegie Endowment for International Peace, June 2018), https://carnegieendowment.org/files/CP_336_DaltonMichishitaZhao_Korea_final1.pdf.

Drew Thompson, "Chapter 12: Winning the Fight Taiwan Cannot Afford to Lose," in Joel Wuthnow, Derek Grossman, Phillip C. Saunders, Andrew Scobell, and Andrew N.D. Yang, eds., *Crossing the Strait: China's Military Prepares for War with Taiwan* (National Defense University Press, 2022), <https://ndupress.ndu.edu/Portals/68/Documents/Books/crossing-the-strait/crossing-the-strait.pdf>

Recommended Reading:

Anthony H. Cordesman, *Korean Peninsula Military Modernization Trends* (CSIS, 2016), https://csis-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/160922_Korean_Peninsula_Modernization.pdf.

Michael O'Hanlon, "Stopping a North Korean Invasion: Why Defending South Korea Is Easier than the Pentagon Thinks," *International Security*, vol. 22, no. 4 (Spring 1998), pp. 135-170.

International Institute for Strategic Studies, *North Korean Security Challenges: A Net Assessment* (International Institute for Strategic Studies, 2011).

Stuart K. Masaki, "The Korean Question: Assessing the Military Balance," *Security Studies*, vol. 4, no. 2 (Winter 1994/95).

Phillip A. Karber, Grant Whitley, Mark Herman, and Douglas Komer, *Assessing the Balance of Forces: France 1940* (McLean, VA: BDM Corporation, June 18, 1979), p. 2-9.

Martin S. Alexander, "The Fall of France 1940," *Journal of Strategic Studies*, vol. 13, no. 1 (March 1990), pp. 10-44.

Malcolm Smith, "The Allied Air Offensive," *Journal of Strategic Studies*, vol. 13, no. 1 (March 1990), pp. 67-83.

Barry O'Neill, "How to Measure the Military Worth of a Weapon, at Least in Theory," April 1991, revised March 1996 .

Fred Frostic and Christopher J. Bowie, "Conventional Campaign Analysis of Major Regional Conflicts," in Paul K.

Davis, ed., *New Challenges for Defense Planning: Rethinking How Much is Enough* (Santa Monica: RAND, 1994), pp. 351-392.

US Department of Defense, "Military and Security Developments Involving the Democratic People's Republic of Korea, 2017" Report to the Congress, February 13, 2018, <https://media.defense.gov/2018/May/22/2001920587/-1/-1/1/REPORT-TO-CONGRESS-MILITARY-AND-SECURITY-DEVELOPMENTS-INVOLVING-THE-DEMOCRATIC-PEOPLES-REPUBLIC-OF-KOREA-2017.PDF>.

Kathleen J. McNinn et al., "The North Korean Nuclear Challenge: Military Options and Issues for Congress," Congressional Research Service, 2017, <https://fas.org/sgp/crs/nuke/R44994.pdf>.

Global Security.org, "Military Options," "OPLAN 5015," "OPLAN 5027 - Major Theater War," "OPLAN 5026 - Air Strikes," "OPLAN 5029 - Collapse of DPRK," "OPLAN 5030 - Rollback of DPRK,"

金元奉・光藤修編著，2000『最新朝鮮半島軍事情報の全貌—北朝鮮軍，韓国軍，在韓米軍のパワーバランス』講談社。

PART II: NATIONAL SECURITY POLICY

Session 8: Japan's Military Power - Video Materials & Discussion

Required Reading:

Narushige Michishita, "Myths and Realities of Japans Security Policy," (article), Woodrow Wilson Center, February 18, 2020, <https://www.wilsoncenter.org/blog-post/myths-and-realities-japans-security-policy>.

Narushige Michishita, "Update - Renaming the Self-Defense Force for Better Civilian Control and Transparency."

Narushige Michishita, "Japan faces tricky entry into world arms market," Straits Times, December 3, 2014, p. A24.

Recommended Reading:

Narushige Michishita, "Myths and Realities of Japan's Security Policy," Lecture, Woodrow Wilson Center, September 26, 2019, <https://www.wilsoncenter.org/event/myths-and-realities-japans-security-policy>.

Narushige Michishita, "Japan Must Reject Isolationism," New York Times, August 18, 2015, <https://www.nytimes.com/roomfordebate/2015/08/18/should-japan-allow-its-military-to-fight-in-foreign-wars/japan-must-reject-isolationism>.

Government of Japan, "National Defense Program Guidelines for FY 2019 and beyond," Approved by the National Security Council and the Cabinet on December 18, 2018, http://www.cas.go.jp/jp/siryuu/pdf/2019boueikeikaku_e.pdf.

Japan Ministry of Defense, *Defense of Japan: White Paper*, available at the Ministry of Defense website.

Richard J. Samuels, *Securing Japan: Tokyos Grand Strategy and the Future of East Asia* (Cornell University Press, 2007).

Makoto Iokibe, ed., *The Diplomatic History of Postwar Japan* (Routledge, 2010).

Yasuhiro Izumikawa, "Explaining Japanese Antimilitarism: Normative and Realist Constraints on Japan's Security Policy," *International Security*, Vol. 35, No. 2 (Fall 2010), pp. 123-160 .

Masataka Oguro, "Ensuring Japan's Future Air Security: Recommendations for Enhancing the JASDF's Readiness to Confront Emerging Threats," Brookings Institution, September 2018, https://www.brookings.edu/wp-content/uploads/2018/09/FP_20180925_JASDF_readiness.pdf.

Yoshihide Soeya, Masayuki Tadokoro, and David A. Welch, eds., *Japan as a 'Normal Country'?: A Nation in Search of Its Place in the World* (University of Toronto Press, 2011), Introduction, and Chapters 1 and 3.

Ministry of Defense, "Guidebook to the Ministry of Defense / Manga-Style Defense of Japan (Comic)," <https://www.mod.go.jp/j/kids/comic/e/2019/all.pdf>.

道下徳成「第6章 自衛隊のエア・パワーの発展と意義」石津朋之、山下愛仁編著『エア・パワー—空と宇宙の戦略原論』日本経済新聞出版社、2019年。

道下徳成「第7章 自衛隊のシー・パワーの発展と意義」石津朋之、立川京一、道下徳成、塚本勝也編著『シー・パワー—その理論と実践』シリーズ・軍事力の本質②、芙蓉書房出版、2008年、219-279頁。

道下徳成「『いずも』空母化をもたらす3つのメリット—新たな防衛大綱を評価する」『日経ビジネスオンライン』2018年12月21日。

Session 9: Country Security Policy (Presentation & Discussion)

Students are asked to get together and organize a country team (one team for one country) based on their nationality, and make a 5-minute presentation on the following questions:

- (1) What are the two most important security challenges for your country?
- (2) What are the two things that your country is doing to deal with these challenges?

Each team must select one representative and have her/him make the entire presentation. You can use handouts or slides (maps, etc) as long as you keep the 5-minute time limit.

After the presentations, we will open the floor for Q&A and discussion.

Session 10: North Korea's Nuclear/Missile Development and Japan's Response

Required Reading:

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), chapter 9. (韓国語版: 『북한의 벼랑 끝 외교사, 1966-2013년』 이원경 옮김, 한울, 2014년, 제9장. 日本

語版：『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年、第9章)

Recommended Reading:

National Air and Space Intelligence Center, "Ballistic and Cruise Missile Threat," Defense Intelligence Ballistic Missile Analysis Committee, June 2017, <https://fas.org/irp/threat/missile/bm-2017.pdf>.

Ronald O'Rourke, "Navy Aegis Ballistic Missile Defense (BMD) Program: Background and Issues for Congress," CRS Report, August 29, 2022, <https://sgp.fas.org/crs/weapons/RL33745.pdf>.

Jeffrey Lewis, *The 2020 Commission Report on the North Korean Nuclear Attacks Against The United States* (WH Allen, 2018). (ジェフリー・ルイス『2020年・米朝核戦争』文春文庫、2020年)

Narushige Michishita, "The Trump-Kim Summit, Future Scenarios, and Japan's Policy toward the Korean Peninsula," *Asia-Pacific Review*, Vol. 25, No. 2, 2018, pp. 6474, <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13439006.2018.1545490>.

Narushige Michishita, "What can North Korea's ICBM do?" *Straits Times*, July 8, 2017.

Narushige Michishita, "Japan's Response to Nuclear North Korea," in Gilbert Rozman, ed., *Asia at A Tipping Point: Korea, the Rise of China, and the Impact of Leadership Transitions* (Korea Economic Institute, 2012). (韓国語版 :

「북한의 핵 미사일 위협에 대한 일본의 군사 외교적 대응」『新亞細亞』19卷4号、2012年冬季号, pp. 7-26. 日本語版 : 「北朝鮮の核・ミサイル開発と日本の対応」『海外事情』2013年6月号、12～28頁。)

Narushige Michishita, "Japan and South Korea, the Friendly Foes of East Asia," *New York Times*, February 9, 2018, <https://www.nytimes.com/2018/02/09/opinion/japan-south-korea-friendly.html>.

Ryo Hinata-Yamaguchi, *Defense Planning and Readiness of North Korea: Armed to Rule* (Routledge, 2021).

Session 11: The Rise of China and Japan's Response

Required Reading:

Narushige Michishita, "Japan's Grand Strategy for a Free and Open Indo-Pacific," *The Oxford Handbook of Japanese Politics* (Oxford University Press, 2021).

Andrew F. Krepinevich Jr., "How to Deter China: The Case for Archipelagic Defense," *Foreign Affairs*, March/April 2015 .

Recommended Reading:

Sugio Takahashi, "Strategic Stability and the Impact of China's Modernizing Strategic Strike Forces," and Hans M. Kristensen, "China's Strategic Systems and Programs," in James M. Smith and Paul J. Bolt, eds., *China's Strategic Arsenal: Worldview, Doctrine, and Systems* (Georgetown University Press, 2021).

Sugio Takahashi, "Development of gray-zone deterrence: concept building and lessons from Japan's experience," *The*

Pacific Review, November 2018.

Michael Fabey, *Crashback: The Power Clash Between the U.S. and China in the Pacific* (Scribner, 2017). 邦訳は、マイケル・ファベイ著、徳地秀士監修、赤根洋子訳『米中海戦はもう始まっている—21世紀の太平洋戦争』文藝春秋、2018年。

Ian Easton, *The Chinese Invasion Threat: Taiwans Defense and American Strategy in Asia* (Project 2049 Institute, 2017).

Toshi Yoshihara, *Red Star over the Pacific: China's Rise and the Challenge to US Maritime Strategy, Second Edition* (Naval Institute Press, 2019).

GRIPS Webinar: "Dragon against the Sun: Chinese Views of Japanese Seapower," Toshi Yoshihara (CSBA) discusses his recent report with Narushige Michishita (GRIPS), June 24, 2020, <https://www.youtube.com/watch?v=QrfzwapczEw&t=4770s>

Elliot Ackerman and James Stavridis, *2034: A Novel of the Next World War* (Penguin Press, 2021). (エリオット・アッカーマン、ジェイムズ・スタヴリディス『2034 米中戦争』熊谷千寿訳、二見文庫、2021年)

Tsuyoshi Sunohara, *Fencing in the Dark: Japan, China, and the Senkakus* (Tokyo: Japan Publishing Industry Foundation for Culture, 2020). (春原剛『暗闘 尖閣国有化』新潮文庫、2015年。)

Col. Qiao Liang and Col. Wang Xiangsui, *Unrestricted Warfare: Chinas Master Plan to Destroy America* (Echo Point Books & Media, 2015). (喬良、王湘穗『超限戦—21世紀の「新しい戦争」』坂井臣之助監修、Liu Ki 訳)

Eric Heginbotham, et al., *The U.S.-China Military Scorecard: Forces, Geography, and the Evolving Balance of Power, 1996-2017* (RAND, 2015), https://www.rand.org/content/dam/rand/pubs/research_reports/RR300/RR392/RAND_RR392.pdf.

Office of the Secretary of Defense, "Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2021," Annual Report to Congress, November 2021, <https://media.defense.gov/2021/Nov/03/2002885874/-1/-1/0/2021-CMPR-FINAL.PDF>.

Jonathan F. Solomon, "Defending the Fleet from China's Anti-Ship Ballistic Missile: Naval Deception's Roles in Sea-Based Missile Defense," A Master Thesis, Georgetown University, April 15, 2011, .

Yoshikazu Watanabe, Masanori Yoshida, and Masayuki Hironaka, "The US-Japan Alliance and Roles of the Japan Self-Defense Forces: Past, Present, and Future," (Sasakawa Peace Foundation USA, 2016), .

J. Ashley Roach and Robert W. Smith, *Excessive Maritime Claims*, 3rd ed. (Leiden: Martinus Nijhoff Publishers, 2012).

James Kraska and Raul Pedrozo, *International Maritime Security Law* (Martinus Nijhoff, 2013).

Tetsuo Maeda, *The Hidden Army: The Untold Story of Japan's Military Forces*, trans. by Steven Karpa (Edition Q, 1994), pp. 229-268. (前田哲男『自衛隊の歴史』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、1994年)

Andrew Oros and Yuki Tatsumi, *Global Security Watch: Japan* (Praeger, 2010).

National Institute for Defense Studies, *NIDS China Security Report*, .

Narushige Michishita, "Deciphering China's Security Intentions: The Japanese Debate," in Gilbert Rozman, ed., *Joint U.S.-Korea Academic Studies*, Vol. 27, 2016, http://www.keia.org/sites/default/files/publications/final_kei_jointus-korea_2016_161010.pdf.

Narushige Michishita, "Japan's Grand Strategy for a Free and Open Indo-Pacific," *The Oxford Handbook of Japanese Politics* (Oxford University Press, forthcoming).

道下徳成「第8章 インド太平洋地域のパワーシフト—中国の台頭と日本の対応」庄司潤一郎、石津朋之編著『地政学原論』日本経済新聞出版社、2020年。

Robert Spalding, *Stealth War: How China Took Over While Americas Elite Slept* (Portfolio, 2019)

出入管理庁撮影『尖閣列島写真集』1970年、
<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/shiryo/senkaku/detail/s1970070000103/s1970070000103-p02.pdf>

Narushige Michishita, "Cooperate and compete: Abe's new approach to China," *Straits Times*, November 13, 2018, p. A17.

Narushige Michishita, "Land of setting sun meets rising dragon," *Straits Times*, October 3, 2012, p. A22.

Session 12: U.S.-Japan Alliance

Required Reading:

Emma Chanlett-Avery, et al., "The U.S.-Japan Alliance," April 6, 2021, <https://sgp.fas.org/crs/row/RL33436.pdf>.

Stephen M. Walt, "Why Alliances Endure or Collapse," *Survival*, vol. 39, no. 1 (1997), pp. 156-179.

Narushige Michishita, Peter M. Swartz, and David F. Winkler, *Lessons of the Cold War in the Pacific: U.S. Maritime Strategy, Crisis Prevention, and Japan's Role* (Woodrow Wilson Center, 2016), https://www.wilsoncenter.org/sites/default/files/lessons_of_the_cold_war_in_the_pacific_one_page.pdf.

Recommended Reading:

Michael J. Green, *By More Than Providence: Grand Strategy and American Power in the Asia Pacific since 1783* (Columbia University Press, 2017), pp. 400-408.

Jennifer M. Lind, "Pacifism or Passing the Buck? Testing Theories of Japanese Security Policy," *International Security*, Vol. 29, No. 1 (Summer, 2004), pp. 92-121.

Narushige Michishita, "The US Maritime Strategy in the Pacific during the Cold War," in Sebastian Bruns and Sarandis Papadopoulos, eds., *Conceptualizing Maritime and Naval Strategy: Festschrift for Captain Peter M. Swartz, United States Navy, Retired* (Baden-Baden: Nomos, 2020).

"Fukushima: The Worst-Case Scenario," Part 1 and 2, *NHK World*, May 22, 2021. (Ask Prof. Michishita for DVDs.)

Richard L. Armitage and Joseph S. Nye, co-chairs, "More Important Than Ever: Renewing the U.S.-Japan Alliance for the 21st Century," October 2018, https://csis-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/181011_MorethanEver.pdf?mqdj.CUqu88cv69VWESL7wICl9e9GqCh.

Michael J. Green, "The Search for an Active Security Partnership: Lessons from the 1980s," in Akira Iriye and Robert A. Wampler, eds., *Partnership: the United States and Japan, 1951-2001* (Tokyo: Kodansha International, 2001), pp. 135-160.

John F. Lehman, *Oceans Ventured: Winning the Cold War at Sea* (Norton, 2018).

David F. Winkler, *Incidents at Sea: American Confrontation and Cooperation With Russia and China 1945-2016* (Naval Institute Press, 2017).

"Toward a Greater Alliance: A Policy Proposal of the Mt. Fuji Dialogue Special Task Force," April 2017, https://www.jcer.or.jp/jcer_download_log.php?post_id=28034&file_post_id=28235

Institute for International Policy Studies, "The Trump Administration and Japan: Challenges and Visions for Japan's Foreign and Security Policy in the New Era," Japan-US Alliance Study Group Report, January 2017, . (世界平和研究所 日米同盟研究委員会「米国新政権と日本—新時代の外交安保政策」2017年1月)

Narushige Michishita and Andrea Pressello, "Japan-US Joint Disaster Relief Operations: Achievement, Limitations, and Impacts," in Keiichi Tsunekawa, ed., *Five Years After: Reassessing Japan's Responses to the Earthquake, Tsunami, and the Nuclear Disaster* (University of Tokyo Press, 2016).

Edward J. Marolda, *Ready Seapower: A History of the U.S. Seventh Fleet* (Naval History & Heritage Command, 2012), <https://www.history.navy.mil/content/dam/nhhc/research/publications/Publication-PDF/ReadySeapower.pdf>

Glenn Herald Snyder, *Alliance Politics* (Cornell Studies in Security Affairs) (Cornell University Press, 1997), chapters 1, 2, 5, 6, and 9.

Kent E. Calder, *Embattled Garrisons: Comparative Base Politics and American Globalism* (Princeton University Press, 2008).

Shinji Kawana and Minori Takahashi, eds., *Exploring Base Politics: How Host Countries Shape the Network of U.S. Overseas Bases* (Routledge, 2020).

川名晋史編『基地問題の国際比較—「沖縄」の相対化』明石書店、2021年。

川名晋史『基地の政治』学白桃書房、2012年。

Shinji Kawana, *Kichi No Seijigaku (Base Politics: The Origins of the Post War U.S. Overseas Bases Expansion Policy)* (Tokyo: Hakutō Shobō, 2012).

Alexander Cooley, *Base Politics: Democratic Change and the U.S. Military Overseas* (Ithaca, NY: Cornell University Press, 2008).

Christopher Sandars, *America's Overseas*

3. 成績の評価方法/ Grading:

Requirements

For GOV2240E International Security Studies (MA):

Final exam (100%)

A 60-minute in-class closed-book written exam (scheduled for January 31, 2023)

For GOV7240E Advanced International Security Studies (Ph.D.):

Book Review (10%)

Ph.D. students are asked to write one 800 to 1,000-word review on one or two book(s) by January 31, 2023. Find one or two academic books relevant to the subjects dealt with in this course (books on the recommended reading list are

acceptable, but not those on the required reading list). If you choose two books, you should choose two books on more or less the same topic and write a comparative review. You are not allowed to choose edited volumes. You must obtain approval from the instructor before you start writing the review.

Book review must consist of (a) a summary of the book (10%), (b) one or two most important argument(s) (30-40%), (c) a critical assessment (both positive and negative) of the book's main argument(s) (40-50%), and (d) comparison of the book with other similar books if any (0-10%).

Reaction Papers (90%)

Ph.D. students will also be asked to submit one 600 to 800-word reaction paper for each session except for Sessions 1, 8, 14, and 15 to michi@grips.ac.jp by midnight on the first Sunday after the class (2400 hours on Sundays). Use "word count" and indicate the number of words in your paper. Only the number of words in the main text counts. The title and notes do not.

I ask you to write reaction papers to enhance your ability to ask good questions, collect relevant information quickly (mainly online), construct your analytical framework, and find answers to those questions logically. It is not about writing academic papers but about conducting intellectual exercises on topics related to national or international security.

In writing the paper, identify one (or maybe two) facts, issues, or analyses that struck you most in the required reading materials and lectures, and provide your analytical observations. The subject of the paper must be relevant to the topic of the particular session. For example, write about civilian control in the paper for the session on civilian control. Do not write about military balance in the paper for the session on civilian control even if the required reading materials for the session touch upon military balance.

The title of the paper must be original. Do not use the title of the session as the title of your paper. You must entitle your paper based on the topic you chose to write about.

To make your argument clear in reaction papers, you may choose to state one or two questions at the beginning and answer them in the following main text. This is not a universal format, but it may be helpful to make your argument solid and cogent.

Do not simply summarize the lecture or the reading materials. Neither should you plagiarize (copy materials in full or partially from somebody else's work and use it). When you borrow ideas from others' work, make sure you paraphrase and cite the original work by using the footnoting function available in MS-WORD.[1] Please take a look at the link below to understand how to avoid plagiarism. Plagiarism will result in disqualification from this course.

"Plagiarism: What It is and How to Recognize and Avoid It"

<https://wts.indiana.edu/writing-guides/plagiarism.html>

In writing the paper, use the format sent by the instructor. Do not change the font size (12 points) or margins. When you send the file, name the file like the following: "Your first name or nickname (session number).docx," for

example"Joe (Session 5).docx."

You are not a specialist in the field yet (although you are going to be), and writing an essay on some random topics must be a challenge. However, I ask you to do this because that's what you will be asked to do in the future. Try to do the following when you write your paper:

- Identify some interesting topics/issues in the reading materials/class lecture and discussion, and come up with one tentative question for the paper;
- Find some related information, articles, and papers on the website;
- Read them, modify your question, and write an essay on the topic.
- I expect you to spend about eight hours on this.

You are a Ph.D. student. Ph.D. students must become capable of finding good questions instead of simply finding good answers to the questions provided by their advisors. You don't have to be "right" on everything. Reaction papers are a means of developing your ideas and arguments. So, be creative and aggressive.

Reaction papers will be graded on a scale of 1 to 10 with 10 being the best grade.

Finding Reading Materials

Required reading materials are available at the Moodle academic support website (Password: michishita). While Moodle is not available, I will provide them on the Teams groups for this course. Most of the recommended reading materials are available in the library (including the library database). If you cannot find the materials, please let me know by e-mail.

[1] For the definition of plagiarism, see "Plagiarism," .

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

See the course schedule

5. 履修上の注意/Note:

Getting in Touch with the Instructor

Students may contact me either by simply talking to me after the class or by sending e-mails to michi@grips.ac.jp. If urgent, you can call me at 090-5491-0170.

michi@grips.ac.jp

Room #: C1309 (ext. 6236)

P

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2260E

科目名/Course Name: Politics in Africa

担当教員/Instructor: KARUSIGARIRA Ian/KARUSIGARIRA Ian

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is an introduction to advanced analysis of African politics for graduate level research students. At the very basic level, we examine how politics is ordered in Africa and address a wide-range of research agendas with a social scientific interdisciplinary approach. We not only examine how states have survived the turbulent processes of colonization, decolonization and contemporary excesses but also the politics that take place outside the state formations. An attention on the African intellectuality—the insider—related to decolonization and a critical analysis of Africanist scholarship — analysts, friends, and protagonists of Africa — could inspire ingenuity toward understanding of African agency in pursuit of decoloniality and critical thought on political development amid western colonizing and neo-colonial discourses.

With the deep knowledge of the political mechanisms in African, we then interrogate the topical issues in African political landscape including; the regime types (pseudo-democratic, authoritarian and hybrid regimes), and alternative sources of power (civil society and resistance), identity politics (religious, political parties, and ethnic), policy alternatives etc.,. The course will help encourage critical reflections on popular and academic representations of "Africa", instigate inter-disciplinary explanatory approach to the study of public policy and empiricism, and facilitate an opening for networking theories and concepts with in-depth analyses of contextual African cases.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction to African Politics

Week 1 (Feb 1 Thurs): Winter Term General orientation (Students' backgrounds, goals, and expectations); An Introduction to African Politics (Nic Cheeseman 2016), in African Politics: Critical Concepts in Political Science (Volume One), Nic Cheeseman (ed.), pp. 1-26.

Week 2 (Feb 8 Thurs) "Introduction" (Larry Diamond 2010), in Democratization in Africa: Progress and Retreat (Second Edition), (Larry Diamond and Marc F. Plattner (eds.). Baltimore: The Johns Hopkins University Press. pp. ix-xxviii; Why African Politics matter (Kevin C. Dunn and Pierre Englebert (eds.) 2019), in Inside African Politics. Chap.1, pp. 1-17.

Week 3 (Feb 15 Thurs) : Decoloniality as a Combative Ontology in African Development (William Mpfu 2018), in Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development, Ojo Oloruntoba and Toyin Falola (eds.). Chap. 5, pp.83-102).

Political Cultures: Electoral politics, and political systems

Week 4 (Feb 22 Thurs): The Evolution of African States (Kevin C. Dunn and Pierre Englebert (eds.) 2019), in Inside African Politics. Chap.1, pp. 17-66.; Subverting Democracy: The Advantages of Incumbency and the Political Violence (Niv Cheeseman 2015) in Democracy in Africa: Successes, Failures, and the Struggle for Political Reforms, Chap. 5, pp. 143-171.

Week 5 (Feb 29 Thurs): Fragments of Democracy: Participation and Control in Authoritarian Africa (Nic Cheeseman 2015), in Democracy in Africa: Successes, Failures, and the Struggle for Political Reforms, Chap.1, pp. 32-56; The puzzle of Electoral Continuity (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change. Chap.1, pp. 1-30

Week 6 (March 7 Thurs): The Impact of Elections on Democracy (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change. Chap.1, pp. 62-100; Analyzing Issues in Presidential Campaigns (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change. Chap.1, pp. 62-100; "The Institutionalization of Political Power in Africa", (Posner and Young 2007), The Journal of Democracy Vol.18, No.3, pp. 126-140 (additional reading)

Week 7 (Mar 14 Thurs): Do African Elections Matter? (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change. Chap.8, pp. 261-284; "The African Vote" (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change. Chapter 7, pp.218-260.

Ethnic and identity politics

Week 8 (Mar 21 Thurs): Rethinking Ethnicity (Jenkins 2008 [1997]), Chap 1 and 2, pp.3-27); Violence and Social Construction of Ethnic Identity Fearon and Laitin 2000) pp.845-877.

Important date: March 28 2024 (Thursday) at 16:00 – Exam submission

3. 成績の評価方法/ Grading:

Please continue to the completion once you have registered and passed the stipulated withdrawal period. No withdrawal from the class in the midcourse. The required assignments are (a) weekly readings and active seminar participation, and (b) writing a well-thought "review essay" on any topic related to politics in Africa. The expected length is between 3,000 and 5,000 words. Class attendance, active classroom participation, and weekly assignments: 50%. Final assignment (a draft paper): 50%. Please follow the shared instructor's guidelines on the structure of your exam paper. Also, follow the recommended citation guidelines provided at the beginning of this course.

Required Readings

- Barany, Zoltan. 2012. *The Soldiers and the Changing Society: Building Democratic Armies in Africa, Asia, Europe, and the Americas*. Princeton: Princeton University Press.
- Bleck, Jaimie and Nicolas van de Walle 2019. *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Cheeseman, Nic (ed). 2016. *African Politics: Critical Concepts in Political Science (Volume One)*. Park Square: Routledge.
- Cheeseman, Nic (ed). 2018. *Institutions and Democracy in Africa: How the Rules of the Game Shape the Political Development*. New York: Cambridge University Press.
- Diamond, Larry. 2010. "Introduction". In *Democratization in Africa: Progress and Retreat (Second Edition)*, Larry Diamond and Marc F. Plattner (eds.). Baltimore: The Johns Hopkins University Press. pp. 59-72.
- Dunn, C. Kevin and Pierre Englebert. 2019. *Inside African Politics*. London: Lynne Rienner Publishers.
- Fearon, D. James and David D. Laitin. "Violence and Social Construction of Ethnic Identity", *International Organizations* 54, 4, Autumn, 2000, pp. 845-877.
- Jenkins, Richard. 2008 [1997]. *Rethinking Ethnicity (Second Edition)*. Sage.
- Mpofu, William. 2018. "Decoloniality as a Combative Ontology in African Development". In *Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development*, Samuel Olorunfoba Ojo and Toyin Falola (eds.). New York: Nature America Inc. pp.83-102.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- Aiyede, E. Remi and Afeaye A. Igbafe. "Institutions, Neopatrimonial Politics and Democratic Development", *Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development*, Ojo Olorunfoba and Toyin Falola (eds.). New York: Nature America Inc.
- Alvarez, Mike., José Antonio Cheibub., Fernando Limongi, and Adam Przeworski. "Classifying Political regimes", *Studies in Comparative International Development*. 31, 1996. pp.1-3-36.
- Amutebi, N. Maurice and Shadrack Wanjala Nasong'o 2013. *Regime Change and Succession Politics in Africa: Five Decades of Misrule*. New York: Routledge.
- Bach, C. Daniel and Mamoudou Gazibo (eds.). 2012. *Neopatrimonialism in Africa and Beyond*. Taylor and Francis.
- Bayart, Jean-Francois, Stephen Ellis & Beatrice. Hibou. 1999. *The Criminalization of the State in Africa (Illustrated Version)*. Oxford: Currey.
- Bayart, Jean-Francois. 1993. *The State in Africa*. London: Longman.
- Bayart, Jean-Francois. "Africa in the World: A history of Extraversion". *African Affairs*, no. 99, 2000.
- Berman, Bruce. "Ethnicity, Patronage and the African State:The Politics of Uncivil Nationalism", *African Affairs*, Vol. 97, 1998, pp. 305-341.
- Bratton, Michael. and Nicholas vande de Walle (eds.) 1997, "Introduction". In *Democratic Experiments in Africa: Regime Transitionsin Comparative Perspective*, Cambridge University Press.
- Cheeseman, Nic and Jonathan Fisher. 2019. *Authoritarian Africa: Repression, Resistance, and the Power of Ideas*.

Oxford: Oxford University Press.

Colombo, Silvia. 2018. *Political & Institutional Transition in North Africa Egypt & Tunisia in Comparative Perspective*. S.L.: Routledge.

Crawford, Young. 2013. "The Heritage of colonialism", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press. pp.15-34 (Chap2)

Crawford, Young. "The End of the Post Colonial State in Africa? Reflections on Changing African Political Dynamics", *African Affairs*. 103, Issue 410, 2004, pp. 23-49

Davenport, Christian. 2015. *How Social Movements Die: Repression and Demobilization of the New Republic of Africa*. New York: Cambridge University Press.

Eisenstadt, N. Shmuel. 1973. *Traditional Patrimonialism and Modern Neopatrimonialism*. Beverly Hills: Sage Publications,

Ekeh, Peter. "Colonialism and the Two Publics in Africa: A theoretical statement". *Comparative Studies in Society and History* 17, no. 1, 1975, pp. 91-112.

Englebert, Pierre. 2000. *State Legitimacy and Development in Africa*. Boulder (CO)/ London: Lynne Rienner Publishers.

Francis, M. Deng. 1995. *War of Visions: Conflict of Identities in the Sudan*. Washington, D.C.: Brookings Institution.

G&eacutard, Prunier. 1995. *The Rwanda Crisis: History of a Genocide*. New York: Columbia University Press.

Goran, Hyden. (July 2008 Discussion paper). *Institutions, Power and Policy Outcomes in Africa*.

Green, Penny and Tony Ward. 2004. *State Crime: Governments, Violence and Corruption*. London: Pluto Press.

Hall, A. John. "State Failure". In the *Oxford Handbook of Comparative Institutional Analysis*, Glenn Morgan, John L. Campbell, Colin Crouch and Ove Kaj Pedersen (eds.). pp. 586-600.

Harbeson, W. John. 2013, "Democracy, Autocracy, and the Sub-Saharan African State", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press, pp.83-123

Herbst, Jeffrey. "War and the State in Africa", *International Security*, 14 (4), 1990, pp. 117-139.

Herbst, Jeffrey. 2000. *State and Power in Africa: Comparative Lessons in Authority and Control*. Princeton: Princeton University Press.

Herbst, Jeffrey. 2000. *State Politics in Zimbabwe*. Harare: University of Zimbabwe Publications. Zimbabwe.

Jackson, Robert and Carl G. Rosberg. "Why Africa's Weak States Persist", *World Politics*. Vol 35, 1. 1982, pp 1-24.

Jackson, H. Robert and Carl G. Rosberg. "Personal Rule: Theory and Practice in Africa" *Comparative Politics*., Vol. 16, No. 4. 1984, pp. 421-442.

Kelsall, Tim. "Towards a universal political settlement concept: A response to Mustaq Khan", *African Affairs* 469, 2018, pp. 656-69.

Khan, H. Mushtaq. "Political Settlements and the Analysis of Institutions", *African Affairs* 469, 2018, pp. 636-55.

Lemarchand, René. 1988. "The State, the Parallel Economy, and the Changing Structure of Patronage Systems". In *The Precarious Balance: State and Society in Africa*, D. Rothchild and N. Chazan (eds). London: Westview Press.

Mamdani, Mahmood. 1996. *Citizen and Subject: Contemporary Africa and the Legacy of Late Colonialism*. Princeton University Press.

Mamdani, Mahmood. 2010. *Saviors and Survivors: Darfur, Politics and the War on Terror*. New York: Pantheon

Books.

- Medard, Jean-Francois. 1982. "The Underdeveloped State in Tropical Africa: Political Clientelism or Neopatrimonialism". In *Private Patronage and Public Power: Political Clientelism in the Modern State*, Christopher Clapham (ed.). London: Frances Printer.
- Migdal, S. Joel. 1988. *Strong Societies and Weak States: State-Society Relations and State Capabilities in the Third World*. Princeton: Princeton University Press.
- Moss, Todd, 2013, "Reflections on Africa's Rocky Love-Hate Relationship with International Capital", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press, pp.35-51
- Mueller, Lisa. 2018. *Political Protests in Contemporary Africa*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nugent, Paul. "States and Social Contracts in Africa", *New Left Review*, 63, 2010, pp. 35-67.
- Perrot, Sandrine, Sabiti Makara, J&eacut;rôme Lafargue Marie-Aude Fou&eacut;r&eacut; (eds.). 2014. *Elections in a Hybrid Regime. Revisiting the 2011 Ugandan Poll*. Kampala: Fountain Publishers.
- Pitcher, Ann., Mary H. Moran and Michael Johnston "Rethinking Patrimonialism and Neopatrimonialism in Africa", *African Studies Review*, 52 (1): 2009, pp. 125-156.
- Posner, N. Daniel and Daniel J Young "The Institutionalization of Political Power in Africa", *The Journal of Democracy* Vol.18, No.3, 2007, pp. 126-140. (Soft copy)
- Posner, N. Daniel. 2005. *Institutions and Ethnic Politics in Africa*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Randall, Vicky and Robin Theobald 1998 [1985]. *Political Change and Underdevelopment: A Critical Introduction to Third World Politics (Second Edition)*. Durham: Duke University Press.
- Ranger, Terrence. 1996. "The Invention of Tradition in Africa", in *The Invention of Tradition*, Eric Hobsbawm and Terence Ranger (eds.). Cambridge: Cambridge University Press.
- Riedl, B. Rachel. "Transforming Politics, Dynamic religion: Religion's Political Impact in Contemporary Africa", *African Conflict and Peacebuilding Review*, Vol. 2, No. 2. 2012. pp. 29-50. Available at <https://www.jstor.org/stable/10.2979/africonfpeacrevi.2.2.29>
- Sciortino, Giuseppe. "From Homogeneity to Difference? Comparing Multiculturalism as a Description and a Field for Claim-Making", *Comparative Social Research*, Vol. 22, 2003, pp.263- 285.
- Szeftel. Morris. "Misunderstanding African politics: Corruption and the Governance Agenda". *Review of African Political Economy*. 25, 76, 1998, pp. 221-40.
- Taylor, Ian. 2013, "The Growth of China in Africa", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, John W. Harbeson and Donald Rothchild (Eds). Boulder: Westview Press, pp. 285-309.
- Van de Walle, Nicolas. "Presidentialism and Clientelism in Africa's Emerging Party Systems", *Journal of Modern African Studies*., Vol. 41, 2003, pp. 297-321.
- Wainaina, Binyavanga. 2008. *How to Write about Africa*. Nairobi: Kwani Trust.
- Weber, Max. 1968. *Economy and Society*. Berkeley: University of California Press.
- Zartman, I. William, 2013, "The Diplomacy of African Boundaries," In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press, pp.173-185.

5. 履修上の注意/Note:

Things to note when dealing with primary materials

A balance must be drawn when using policy literature and theoretical-academic studies. Policy-based literature has some particularities that make it different from purely academic works. Policy actors t

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2310E

科目名/Course Name: Comparative Politics

担当教員/Instructor: 竹中 治堅/TAKENAKA Harukata

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a graduate course on comparative politics chiefly for the YLP and public policy. The course aims to expose students to major issues on political regimes and democratization with particular focus on political institutions. The course puts weights on discussions based on the readings. You will get basic understandings of democratization and authoritarian regimes with concrete examples as well as key mechanism of democracy.

1. Emphasis on extensive readings, and critical analysis, of the literature.
2. All students are expected to actively participate in discussions in the seminar.
3. I ask every student to submit a paper that cover following points by 10:00 am Monday morning via e-mail to harukatat@nifty.com. The PRESENTER should write 7-8 pages while other students write about 2 pages.
 - (1)What are issues and questions covered by the readings? In other words, why do these scholars bother to write lengthy books and papers? These should be put into several sentences.
 - (2)What are answers to the issues and questions raised by the scholars? Do they come up with the same answers? Highlight differences among the readings.
 - (3)Evaluate points that contribute to understanding of the topics addressed by the readings.
 - (4) criticize the reading by referring to points that are missing or that need to be further explored by future research.

I will ask one or two students to make presentations.

4. Students have to write a paper with between 4000 and 6000 words on one theme in comparative politics, namely, some issue related to democratization or democracy discussed in this course. They have to prepare their paper under the following schedule.

December 5. Paper Topic Due.

December 26. Paper Outline Due. Outline Presentation.

January 23. Paper Due. -

There will be NO exam. The weekly assignments account for 40% of the grade. 20% will be determined by presentation and participation in the seminar sessions. The research paper count for 40%.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. October 10. Introduction: Logistics

I. Political Regimes

2. October 17. Political Regimes: Recent Developments

Larry Diamond 2019. *Ill Winds*. New York: Penguin Press. 41-58.

Scott Mainwaring and Fernando Bizzarro. 2019. The Fates of Third-Wave Democracies, *Journal of Democracy*, vol. 30 (1). 99-113.

Andrew J. Nathan. 2020. The Puzzle of Authoritarian Legitimacy, *Journal of Democracy*, vol. 31 (1). 158-168.

Takis S. Pappas. 2019. Populist in Power, *Journal of Democracy*, Vol 30, (2). 70-84

Robert Person and Michael McFaul. 2022. What Putin Fears Most, *Journal of Democracy*, vol. 33 (2). 18-27.

Kim Lane Scheppelle. 2022. How Viktor Orban Wins, *Journal of Democracy*, vol. 33 (3). 45-61.

3. October 24. Definitions

Robert Dahl. 1971. *Polyarchy: Participation and Opposition*. New Haven:

Yale University Press. 1-16.

Juan Linz and Alfred Stepan. 1996. *Problems of Democratic Transition and Consolidation: Southern Europe, South America and Post-Communist Europe*.

Baltimore: Johns Hopkins University Press. 38-54.

Stephen Haber. 2006. "Authoritarian Government," in Barry Weingast and Donald Wittman, eds., *The Oxford Handbook of Political Economy*. Oxford. Oxford University Press: 693-707.

Steven Levitsky and Lucan Way. 2011. *Competitive Authoritarianism*. New York: Cambridge University Press. 3-36.

Cas Mudde and Cristóbal Rovira Kaltwasser. 2017. *Populism: A Very Short Introduction*. New York: Oxford University Press. 1-20.

Jan-Werner Müller. 2017. *What is Populism*. New York: Penguin Book. 7-30.

II. How do we explain changes?

4. October 31. Structural Approach:

Barrington Moore. 1967. *Social Origins of Dictatorship and Democracy*. Boston: Beacon Press. ix-xxv. 3-39. 111-161. 228-313. 433-452. (Read if possible 40-110 on France.)

Robert Dahl. 1971. *Polyarchy: Participation and Opposition*. New Haven:

Yale University Press. 33-47.

5. November 7. Structural Approach: Is redistribution really an issue?

Charles Boix. 2003. *Democracy and Redistribution*. New York: Cambridge University Press. 1-59. (Read pages from 59 to 109 if possible.)

Charles Boix and Susan Stokes. 2003. "Endogenous Democratization." *World Politics*. 55(4) 517-549.

Stephan Haggard and Robert Kaufman. 2012. "Inequality and Regime Change: Democratic Transitions and the Stability of Democratic Rule," *American Political Science Review*. 106(3). 495-516.

Stephan Haber and Victor Menaldo 2011. "Do Natural Resources Fuel Authoritarianism?" *American Political Science*

Review. 105.(1) 1-26.

Ben Ansell. 2014. *Inequality and Democratization*. New York: Cambridge University Press. 1-60, 61-72. 95-123.

6. November 14. Transition to Democracy

Samuel P. Huntington. 1993. *The Third Wave*. Norman: University of Oklahoma Press. 3-46. Larry Diamond. 2008. *Spirit of Democracy*. New York: Time Books. 39-87.

G. O'Donnel, P. Schmitter and L. Whitehead. 1985. *Transitions from Authoritarian Rule. Tentative Conclusions about Uncertain Democracies*. Baltimore:

Johns Hopkins University Press. 1-72.

7. November 21. Consolidation of Democracy

Larry Diamond. 1999. *Developing Democracy*. 64-77.

Juan J. Linz and Alfred Stepan, 2001. "Toward Consolidated Democracies," *Global Divergence of Democracies*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.

93-112.

Guillermo O'Donnel. 2001. "Illusions about Consolidation." *Global Divergence of Democracies*. Baltimore: Johns Hopkins University Press. 113-130.

Thomas Carothers, 2002. "The End of the Transition Paradigm," *Journal of Democracy* 13 (1):5-21.

Milan Svolik, 2009. "Authoritarian Reversals and Democratic Consolidation." *American Political Science Review*, 102 (2), 153-168.

8. November 28. Crisis of Democracies and Democratic Breakdowns

Juan Linz. 1978. *The Breakdown of Democratic Regimes: Crisis, Breakdown & Reequilibration*. Baltimore: Johns Hopkins University Press. 1-74.

Steven Levitsky and Daniel Ziblatt. 2018. *How Democracies Die*. New York: Crown. 11-32.

Stephan Haggard and Robert Kaufman. 2021. *Backsliding: Cambridge Elements*. Cambridge. Cambridge University Press 1-84.

Harukata Takenaka, 2014. *Failed democratization in prewar Japan : breakdown of a hybrid regime*. Stanford, California: Stanford University Press.

Dan Slater and Aries A. Aruguay. "Polarizing Figures: Executive Power and Institutional Conflict in Asian Democracies." *American Behavioral Scientist*, vol. 62

(1):92-106.

9. December 5. Populism and Polarization

Cas Mudde and Cristóbal Rovira Kaltwasser. 2017. *Populism: A Very Short Introduction*. New York: Oxford University Press. 21-41, 79-108.

Pippa Norris and Ronald Inglehart. 2019. *Cultural Backlash*. New York: Cambridge University Press. 3-64.

Bart Bonikowski. 2019. *Trumps Populism. When Democracy Trumps Populism: Lessons from Europe & Latin America*, edited by Kurt Weyland and Raúl Madrid, 110-131. New York: Cambridge University Press.

Jennifer McCoy, Tahmina Rahman and Murat Somer. 2018. "Polarization and the Global Crisis of Democracy: Common Patterns, Dynamics, and Pernicious Consequences for Democratic Polities." *American Behavioral Scientist*, vol. 62 (1):16-42.

Alan Abramowitz and Jennifer McCoy. "United States: Racial Resentment, Negative Partisanship, and Polarization in Trump's America." *The ANNALS of American Academy of Political and Social Science*, vol. 681, January 2019: 137-153.

10. December 12. Persistence of Authoritarian Regimes.

Barbara Geddes. 1999. "Authoritarian Breakdown: Empirical Test of a Game Theoretic Argument."

Beatriz Magaloni. 2006. *Voting for Autocracy*. New York: Cambridge University Press. 1-81.

Jason Brownlee. 2007. *Authoritarianism in an Age of Democratization*. New York: Cambridge University Press. 25-43.202-222.

Milan W. Svoblik. 2013. *Politics of Authoritarian Rule*. New York: Cambridge University Press. 1-18.53-100, 110-117.162-195.

Barbara Geddes, Joseph Wright, and Erica Frantz. 2018. *How Dictatorship Works*. New York: Cambridge University Press. 61-152.

Steven Levitsky and Lucan Way. 2011. *Competitive Authoritarianism*. New York: Cambridge University Press. 37-82.

11. December 19. Presidential and Parliamentary Systems

Arend Liphart. 1999. *Patterns of Democracy*. New Haven: Yale University Press. 116-142.

Terry Moe and Michael Caldwell. 1994. "The Institutional Foundation of Democratic Government: A Comparison of Presidential and Parliamentary Systems" *Journal of Institutional and Theoretical Economics*. 150(1), 171-195.

Kaare Strom. 2000. "Parliamentary Democracy and Delegation." *Delegation and Accountability in Parliamentary Democracies*. New York: Oxford University Press. 55-106.

Juan Linz. 1993. "The Perils of Presidentialism" and the exchange between

Juan Linz, Donald Horowitz and Seymour Martin Lipset in Larry Diamond and Mark Platter. *Global Resurgence of Democracy*. Baltimore: John Hopkins University Press. 124-149.

Mathew Shugart and John Carey. 1992. *Presidents and Assemblies*. New York: Cambridge University Press. 28-54, 107-166.

12. December 26. Paper Outline Due and Presentation

13. January 9. Political Parties and Party System Development

Richard Gunther and Larry Diamond. 2001. "Types and Functions of Parties." In Larry Diamond and Richard Gunther ed. *Political Parties and Democracy*. Baltimore:

Johns Hopkins University Press. 3-40.

Gary Cox. 1997. *Making Votes Count*. New York: Cambridge University Press. 13-33.

Seymour Martin Lipset and Stein Rokkan. 1967. "Cleavages Structures, Party Systems, and Voter Alignments: An Introduction." *Party Systems and Voter Alignments* edited by Seymour M. Lipset and Stein Rokkan. New York: Free Press. 1-64.

Herbert Kitschelt. 1994. *The Transformation of European Social Democracy*. New York: Cambridge University Press. 1-39.

Allen Hicken. 2009. *Building Party Systems in Developing Countries*. New York: Cambridge University Press, 1-47.

Allen Hicken and Erik Kuhonta. 2015. "Introduction: Rethinking Party System Institutionalization in Asia" in *Party System Institutionalization in Asia*, eds., Allen Hicken and Erik Kuhonta. New York: Cambridge University Press, 1-24.

14. January 16. Political Parties and Distribution

Karen Long Jusko. 2017. *Who Speaks for the Poor?*. New York: Cambridge University Press, 1-49, 154-178.

John D. Huber. 2017. *Exclusion by Elections*. New York: Cambridge University Press, 1-16, 35-98.

Herbert Kitschelt and Steven I. Wilkinson. 2007. "Citizen-politician linkages: an introduction" in *Patrons, Clients, and Politics* edited by Herbert Kitschelt and Steven I. Wilkinson. New York: Cambridge University Press, 1-49.

Ethan Scheiner. 2005. "Pipelines of Pork: Japanese Politics and a Model of Local Opposition Party Failure." *Comparative Political Studies* 38: 799-823.

15. January 23. Party Discipline

Christopher Kam, William Bianco, Itai Sened, and Regina Smyth. 2010. "Ministerial Selection and Intraparty Organization in Contemporary British Parliament," *American Political Science Review* 104, 289-306.

Gary Cox. 1987. *Efficient Secret*. New York: Cambridge University Press. 45-67, 80-87, 91-112, 137-147.

Christopher Kam, 2009. *Party Discipline and Parliamentary Politics*. New York: Cambridge University Press, 1-38, 75-103..

Michael Gallagher. 1988. "Introduction," *Candidate Selection in Comparative Perspective*, edited by Michael Gallagher and Michael Marash, Newbury Park. Sage Publications. 1-19

Shaun Bowler, D. M. Farrell and R. S. Katz. 1999. *Party Cohesion, Party Discipline, and Parliaments*. *Party Discipline and Parliamentary Government*. Shaun. Bowler, D. M. Farrell and R. S. Katz. Columbus, eds., Columbus: Ohio State University Press: 3-22.

3. 成績の評価方法/ Grading:

There will be NO exam. The weekly assignments account for 40% of the grade. 20% will be determined by presentation and participation in the seminar sessions. The research paper count for 40%.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Look at the course schedule.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2320E

科目名/Course Name: Comparative State Formation

担当教員/Instructor: LIM Guanie/LIM Guanie

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course unpacks how states were formed in the modern era, covering Europe, Africa, and East Asia. A comparative angle is emphasized for it helps us better understand what exactly has happened in particular cases, why, and with what effects. Through this process, we aim to specify concepts, categorize types, and understand power dynamics that lead to similarities and differences in experience.

The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to theoretical works and contemporary development issues. The first few lectures will provide an overview of the evolution of states across time and space. Subsequently, workshops are held, which include student presentations and discussions. At each workshop, several students will present the main points of pre-assigned readings and share their perspectives on the topics covered.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the history, politics, and development of major countries, developed the tools to think about what is typical and/or unusual about these states, and to explain the main similarities and differences between them.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Anarchy, Order, and the State

Week 3: National Identities and Nationalism

Week 4: State Formation in Europe

Week 5: State Formation in Africa

Week 6: State Formation in Southeast Asia

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (I): Taiwan and Korea

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (II): Malaysia and Singapore

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (III): Brazil and Chile

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (IV): Botswana and Somalia

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Peter Evans, Dietrich Rueschemeyer, and Theda Skocpol (eds). 1985. *Bringing the State Back In*. Cambridge University Press. Introduction and Conclusion [RR].

Douglas North. 1981. *Structure and Change in Economic History*. New York: Norton. Chapters 1-3 [RR].

Mancur Olson. 2000. *Power and Prosperity*. New York: Basic Books. Chapters 1-4 [SR].

Daron Acemoglu and James Robinson. 2012. *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity and Poverty*. New York: Crown Business [SR].

Francis Fukuyama. 2004. *State-Building: Governance and World Order in the 21st Century*. Ithaca: Cornell University Press [SR].

Week 3

Benedict Anderson. 1983. *Imagined Communities. Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. New York: Verso [RR].

Ernest Gellner. 1983. *Nations and Nationalism*. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-7 [RR].

Week 4

Charles Tilly. 1990. *Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992*. New Jersey: Blackwell. Chapters 1-6 [RR].

Week 5

Jeffrey Herbst. 2000. *States and Power in Africa*. Princeton: Princeton University Press. Chapters 1-6 [RR].

Crawford Young. 1994. *The African Colonial State in Comparative Perspective*. New Haven: Yale University Press. Chapters 4-5 [RR].

Samuel Decalo. 1976. *Coups and Army Rule in Africa*. New Haven: Yale University Press [SR].

Week 6

Thongchai Winichakul. 1994. *Siam Mapped: A History of the Geo-body of a Nation*. Hawaii: University Hawaii Press [RR].

Oliver William Wolters. 1999. *History, Culture, and Region in Southeast Asian Perspectives*. Southeast Asia Program. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-6 [SR].

Week 7

Alice Amsden. 1989. *Asias Next Giant: South Korea and Late Industrialization*. New York: Oxford University Press [RR].

Michelle Hsieh. 2011. Similar Opportunities, Different Responses: Explaining Divergent Patterns of Development between Taiwan and South Korea. *International Sociology*, 26(3): 364-391 [RR].

Tuong Vu. 2010. *Paths to Development in Asia: South Korea, Vietnam, China, and Indonesia*. New York: Cambridge University Press. Chapters 1, 2, 4, and 10 [RR].

Robert Wade. 2004. *Governing the Market: Economic Theory and the Role of Government in East Asian Industrialization*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Week 7

Heidi Dahles. 2008. Entrepreneurship and the Legacies of a Developmental State: Singapore Enterprises Venturing Across National Borders. *Journal of Developmental Entrepreneurship*, 13(4): 485-508 [RR].

Edmund Terence Gomez and Kwame Sundaram Jomo. 1999. *Malaysia's Political Economy: Politics, Patronage and Profits*. Cambridge: Cambridge University Press [RR].

Kwame Sundaram Jomo. 1986. *A Question of Class: Capital, the State and Uneven Development in Malaya*. Singapore: Oxford University Press [RR].

Linda Low. 2001. The Singapore Developmental State in the New Economy and Polity. *Pacific Review*, 14(3): 411-441 [RR].

Alexius Pereira. 2000. State Collaboration with Transnational Corporations: The Case of Singapore's Industrial Programmes (1965-1999). *Competition and Change*, 4: 423-451 [RR].

Garry Rodan. 1989. *The Political Economy of Singapore's Industrialization: National State and International Capital*. Basingstoke: Macmillan [RR].

Week 8

Peter Evans. 1979. *Dependent Development: The Alliance of Multinational, State, and Local Capital in Brazil*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Atul Kohli. 2004. *State-Directed Development: Political Power and Industrialization in the Global Periphery*. Cambridge: Cambridge University Press. Chapters 4 and 5 [RR].

Amir Lebdioui. 2019. Chiles Export Diversification since 1960: A Free Market Miracle or Mirage? *Development and Change*, 50: 1624-1663 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2014. Towards Post-Neoliberal Resource Politics? The International Political Economy (IPE) of Oil and Copper in Brazil and Chile. *New Political Economy*, 19(3): 329-358 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2012. Who Owns the Minerals? Repoliticizing Neoliberal Governance in Brazil and Chile. *Journal of Developing Societies*, 28(2): 229-256 [RR].

Week 8

Ornulf Gulbrandsen. 2012. *The State and the Social: State Formation in Botswana and its Pre-Colonial and Colonial Genealogies*. New York: Berghahn Books [RR].

Charles Harvey. 1992. Botswana: Is the Economic Miracle Over? *Journal of African Economies*, 1(3): 335-368 [RR].

Helge-Mari Loubser and Hussein Solomon. 2014. Responding to State Failure in Somalia. *Africa Review*, 6(1): 1-17 [RR].

Bashi Mothusi and Kenneth Dipholo. 2008. Privatisation in Botswana: The Demise of a Developmental State? *Public Administration and Development*, 28: 239-249 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1997. Leadership and Ethnicity in the Making of African State Models: Botswana versus Somalia. *Third World Quarterly*, 18(4): 687-708 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1993. Structural Adjustment as Development Strategy? Bananas, Boom, and Poverty in Somalia. *Economic Geography*, 69(1): 25-43 [RR].

Ian Taylor. 2012. Botswana as a Development-Oriented Gate-Keeping State: A Response. *African Affairs*, 111(444): 466-476 [RR].

Christian Webersik. 2005. Fighting for the Plenty: The Banana Trade in Southern Somalia. *Oxford Development Studies*, 33(1): 81-97 [RR].

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class attendance and participation (40%), presentation and discussion of the assigned readings in workshops (30%), and term paper (30%). For grading evaluation, a scale of A to E (A,B,C,D,E) would be employed.

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to read and discuss the reading assignments of a week of their choice. While a summary of the readings is important, what matters more is how the students critically analyze them. The students are expected to cover both the required and supplementary readings. Additional literature is also welcome, especially if value is added to the discussion. The word limit is 2,000. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to deploy empirical material to assess the merits of contending theories and approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in respond to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please refer to 2. Course Outline.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2460E

科目名/Course Name: State and Politics in Southeast Asia

担当教員/Instructor: LIM Guanie/LIM Guanie

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course focuses on Southeast Asia, one of the worlds fastest-growing regions. It puts the states and politics of the region on center stage. Topics discussed include legacies of colonial rule, ethnic relations, nation building, and development paradigms. These topics would be discussed in a comparative and multidisciplinary manner so that the students can develop a broad understanding of some of the regions most pressing themes.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the past and present challenges confronting Southeast Asia, in addition to new opportunities opened up by the evolving international economic order.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Overview of the Political Economy of Southeast Asia

Week 3: Ethnic Chinese Minorities and Nation Building

Week 4: Ethnic Chinese Businesses

Week 5: Southeast Asia and the 1997 Asian Financial Crisis

Week 6: Vietnam: Between Southeast Asia and Northeast Asia

Week 7: A Tale of Two Asias: More Different than Ever

Week 8: Summary and General Discussion

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Gary Hawes and Hong Liu. 1993. Explaining the Dynamics of the Southeast Asian Political Economy. *World Politics*, 45(4): 629-660 [RR].

Akira Suehiro. 2008. *Catch-Up Industrialization: The Trajectory and Prospects of East Asian Economies*. Singapore: NUS Press. Introduction, Chapters 1-2, and 5-7 [RR].

Hal Hill, Siew Yean Tham, and Haji Mat Zin Ragayah (eds). 2012. *Malaysias Development Challenges: Graduating from the Middle*. Oxford: Routledge. Chapter 1 [SR].

Week 3

James Chin. 2009. The Malaysian Chinese Dilemma: The Never Ending Policy (NEP). *Chinese Southern Diaspora Studies*, 3: 167-182 [RR].

Jonathan Rigg. 2003. Exclusion and Embeddedness: The Chinese in Thailand and Vietnam in Laurence Ma and Carolyn Cartier (eds). *The Chinese Diaspora: Space, Place, Mobility, and Identity*: 97-115 [RR].

Leo Suryadinata (ed.) 2004. *Ethnic Relations and Nation-Building in Southeast Asia: The Case of the Ethnic Chinese*. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies. Chapters 1,2,3, 5,8, and 11 [RR].

Yuk Wah Chan (ed). (2011). *The Chinese/Vietnamese Diaspora: Revisiting the Boat People*. Oxford: Routledge. Chapters 1-4 [SR].

Rosey Wang Ma. 2005. Shifting Identities: Chinese Muslims in Malaysia. *Asian Ethnicity*, 6(2): 89-107 [SR].

Week 4

Edmund Terence Gomez. 2006. Chinese Networks and Enterprise Development: Malaysian Investments in China. *Journal of Contemporary Asia*, 36(3): 350-363 [RR].

John Kao. 1993. The Worldwide Web of Chinese Business. *Harvard Business Review*, March-April: 24-36 [RR].

Esther Zwart. 2007. (Re)Creating the Comfort Zone: From Common Ethnicity towards Commonwealth: The Transnationalisation Process of Malaysian Chinese Small and Medium Enterprises. *East Asia*, 24(2): 195-211 [RR].

Hong Liu and Guanie Lim. 2019. The Political Economy of a Rising China in Southeast Asia: Malaysias Response to the Belt and Road Initiative. *Journal of Contemporary China*, 28(116): 216-231 [SR].

Lotte Thomsen. 2009. Internal Business Organisation in the Private Garment Industry in Vietnam: The Roles of Ethnicity, Origin and Location. *Competition & Change*, 13(1): 29-50 [SR].

Week 5

Hoe Ee Khor, Diwa Guinigundo, and Masahiro Kawai (eds). 2022. *Trauma to Triumph: Rising from the Ashes of the Asian Financial Crisis*. Singapore: World Scientific. Parts I and II [RR].

Andrew Sheng. 2009. *From Asian to Global Financial Crisis: An Asian Regulators View of Unfettered Finance in the 1990s and 2000s*. Cambridge: Cambridge University Press. Introduction, Chapters 1-6 [RR].

William Case. 2009. After the Crisis: Capital and Regime Resilience in the ASEAN Three. *Journal*

of Contemporary Asia, 39(4): 649-672 [SR].

Week 6

Khoo Boo Teik, Keiichi Tsunekawa, and Motoko Kawano (eds). 2017. Southeast Asia beyond Crises and Traps: Economic Growth and Upgrading. Basingstoke: Palgrave Macmillan, Chapter 4 [RR].

Martin Painter. 2005. The Politics of State Sector Reforms in Vietnam: Contested Agendas and Uncertain Trajectories. Journal of Development Studies, 41(2):261-283 [RR].

Jonathan Pincus. 2015. Why Doesn't Vietnam Grow Faster? State Fragmentation and the Limits of Vent for Surplus Growth. Journal of Southeast Asian Economies, 32(1):265-281 [RR].

Guanie Lim. 2021. The Political Economy of Growth in Vietnam: Between States and Markets. New York: Routledge. Chapter 5 [SR].

Week 7

Dwight Perkins. 2013. East Asian Development: Foundations and Strategies. Cambridge: Harvard University Press. Chapters 4-6 [RR].

Jan Nederveen Pieterse. 2015. What Happened to the Miracle Eight? Looking East in the Twenty-First Century. Canadian Journal of Development Studies, 36(3): 263-282 [RR].

Joe Studwell. 2014. How Asia Works: Success and Failure in the World's Most Dynamic Region. Profile Books: London [SR].

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class attendance and participation (60%) and term paper (40%).

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to read and discuss the reading assignments of a week of their choice. While a summary of the readings is important, what matters more is how the students critically analyze them. The students are expected to cover both the required and supplementary readings. Additional literature is also welcome, especially if value is added to the discussion. The word limit is 2,500. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in response to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please refer to 2.Course Outline

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2500J

科目名/Course Name: 公共経営と制度・組織設計

担当教員/Instructor: 吉牟田 剛/YOSHIMUTA Tsuyoshi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

近年、グローバル化が飛躍的に進展する一方で、各国とも固有の国内政治・行政の構造が存在する。このため、公共経営の在り方及びその変化についても、一定の共通する特徴、異なる特徴などを見出すことができる。国際的なルール・交渉の重要性が増す中、各国の特徴などを理解することは有益であり、比較行政学の国際的標準教科書といわれる "Public Management Reform" (Christopher Pollitt & Geert Bouckaert) の邦訳「行政改革の国際比較」(監訳：縣公一郎／稲継裕昭) にそって、授業は進められる。邦訳は各国の制度・改革についての記述が省略されているため、原書と併用する(教員が必要部分をハンドアウトとして配布する)。

授業の後半では、わが国の行政改革の歴史、概要について概観し、その特徴を考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 (10/11) : イントロダクション

第2回 (10/18) : 比較公共マネジメント改革 - 中心論点の紹介

第3回 (10/25) : 公共マネジメント改革の過程モデル

第4回 (11/1) : 政治・行政の型

第5回 (11/8) : 現代化と改革の軌道 (1)

第6回 (11/15) : 現代化と改革の軌道 (2)

第7回 (11/22) : 改革の結果と評価

第8回 (11/29) : 政治とマネジメント

第9回 (12/6) : トレードオフ、バランス、限界、ジレンマ、矛盾、パラドックス

第10回 (12/13) : 考察

第11回 (12/20) : 日本の行政改革 (1)

第12回 (12/27) : 日本の行政改革 (2)

第13回 (1/10) : 日本の行政改革 (3)

第14回 (1/17) : 予備

第15回 (1/24) : まとめとレビュー

3. 成績の評価方法/ Grading:

※授業への出席、発言、発表等 : 50%

※期末ペーパー : 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(教科書) : 「行政改革の国際比較」(監訳：縣公一郎／稲継裕昭)

(副教科書) : "Public Management Reform" (Christopher Pollitt & Geert Bouckaert)第4版 (巻末の各国に関する資料。講義で配布する予定)

(参考) : OECD "Government at a glance"など

5. 履修上の注意/Note:

インタラクティブな講義となるよう運営する (初回に説明)

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: GOV2520J

科目名/ Course Name: 行政の改革・革新と政策評価

担当教員/ Instructor: 吉牟田 剛/YOSHIMUTA Tsuyoshi

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

2001 年 1 月の中央省庁再編は、内閣機能の強化、中央省庁の半減、独立行政法人制度の創設など政府全体を対象とした大規模な改革であった。一方、その後、社会経済環境の変化、特に情報化、グローバル化の進展は著しく、これに対応するため、省庁等の設置、政策手段の深化・多様化、人事管理の変化、省庁外部とのネットワーキング、データ社会への対応など行政の革新が続いている。

このような変化を理解するために、本講義では、まず、行政の基本的な制度、行政機関の運用などについての基本的な事項を確認し、その上で、主として過去 20 年間に起きている行政の変化の概要を学ぶ。

具体的には、政府・行政の役割、行政の手段・方法、公共政策を担う組織、公務員制度・人事管理、政府と国民の関係等に関する制度、運営とその改善・改革・革新について幅広く学ぶ。講義の中では、最近の事例も紹介し、問題解決のための実践的・実務的な基礎知識を獲得することを目標とする。

なお、SDGs はバックキャスト手法を採用した改革として、「Transforming our world」のために、持続可能な開発の 2030 年目標を定めたものである。本講義を担当する教員は SDGs 目標の進展を測る指標のとりまとめを行う国連統計委員会への参加経験を有するため、本講義では、SDGs の概念について簡単に説明する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第 1 回 (4/5) : 講義の概要、 政府・行政の役割の変化
- 第 2 回 (4/12) : 統治機構
- 第 3 回 (4/19) : 中央政府と地方政府
- 第 4 回 (4/26) : 政府・行政の手段・手法
- 第 5 回 (5/10) : 公共政策の形成、執行、評価
- 第 6 回 (5/17) : 政策評価、EBPM
- 第 7 回 (5/24) : 公共政策を担う組織と組織管理 (1 : 中央省庁)
- 第 8 回 (5/31) : 公共政策を担う組織と組織管理 (2 : 独立行政法人など公的法人)
- 第 9 回 (6/7) : 人事管理と定員管理
- 第 10 回 (6/14) : 政治と行政の関係
- 第 11 回 (6/21) : 政府と国民とメディア
- 第 12 回 (6/28) : 行政改革が求める価値の変遷
- 第 13 回 (7/5) : これからの政府、行政、公務員の在り方
- 第 14 回 (7/12) : 予備
- 第 15 回 (7/19) : まとめとレビュー

3. 成績の評価方法/ Grading:

※授業への出席、発言、発表等：50%

※期末ペーパー：50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

本講義は、近年の行政の変化を実務的観点から説明するものであり、一冊の教科書に沿ったものではない。このため、毎回、担当教員が準備するハンドアウトを基本素材とする。ただし、行政学関係の知識を整理するため、教科書等のいくつかを読むことは理解の助けになるので、初回に簡単に紹介する。

英語文献については、MHM 社から出版される "Handbook of Japanese Public Administration and Bureaucracy" を挙げるができるが、刊行予定が遅れており、2023 年秋となっている。

5. 履修上の注意/Note:

インタラクティブな講義となるよう運営する（初回に説明）

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV2580E

科目名/Course Name: Structure and Process of Government

担当教員/Instructor: 吉牟田 剛/YOSHIMUTA Tsuyoshi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is intended to study the systems and operations of structures and processes of government from comparative viewpoints and to contribute to the reform of government and public administration. Major issues of administrative reform will be discussed from theoretical as well as practical viewpoints.

While the cases in Japan will be dealt with in detail, based on academic studies and practical experiences of the instructor, students are also expected to make a contribution to the discussion by infusing their first-hand information and analyses on the topics of discussion.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

① April 7

Introduction

- Systems and Operations of Government
- Structures, Processes and Human Factors of Government
- Comparative Studies
- Key Features of Politico-administrative System

② April 14

Basic Structure of the State

- Vertical and Horizontal Relations
- Central Government and Local Governments

③ April 21

Executive Government

- Parliament and Administration
- Political Parties and Administration

④ April 28

Organizations for Public Administration and Public Service (1)

- Cabinet and Ministries
- Other Organizations : Public and Non-public Organizations
- Organization Management

⑤ May 12

Organization for Public Administration and Public Service (2)

- Organization Management
- "Principles"
- Regulation of Public Organizations
- Aggregation or Disaggregation
- Control and Coordination
- N P M (New Public Management)

⑥ May 19

Minister and Civil Service

- Profile of Ministers and Mandarins
- Minister and Mandarin Relations
- Civil Service System and Personnel Management

⑦ May 26

Philosophy and Culture of Governance & Tools of Government

(1) Philosophy and Culture of Governance

- "Rechtsstaat Model" and "Public Interest Model"
- Administrative Culture—Culture of Government and Culture of Ministry
- Third Category

(2) Tools of Government

⑧ June 2

Policy Making and Policy Advice

- Policy Making
- Formal Advisory Systems
- Informal Consultation and Advice

⑨ June 9

Policy Implementation and Evaluation

⑩ June 16

Government and Citizen Relations

- Administrative Procedure
- Complaints and Grievances
- Ombudsman, Administrative Counsellor, etc.
- Citizen Participation

⑪ June 23

Governing by Network and Administrators in the Network
Government and Mass Media

⑫～⑭ June 30、 July 7、 July 14

Administrative Reform

- Theory and Practice
- Reform in Specific Context
- Keys to the Success of Reform

⑮ July 21

Review of lectures and wrap-up

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading of each student is determined by

- attendance and contribution to the discussion in the class: 30%
- country report by each student on features of government and administration of his/her country and its reform efforts : 70%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

(1) 4-2 References:

- Christopher Pollitt and Geert Bouckaert, Public Management Reform : A Comparative Analysis (2nd, 3rd and 4th editions), Oxford University Press. (available in the library)

(2) Handouts:

On most of the subjects to be dealt with in the course, handouts will be prepared by the instructor.

5. 履修上の注意/Note:

The schedule is tentative and subject to change.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3220E

科目名/Course Name: Politics of Global Money and Finance

担当教員/Instructor: CHEY Hyoung-kyu/CHEY Hyoung-kyu

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course addresses the international political economy of money and finance, a central issue area in International Political Economy (IPE). The course has two main objectives: 1) to understand the political causes of the evolving structure of the international monetary and financial system over time, and 2) to analyze the implications of this evolving structure for a nation's policy choices and for international and domestic politics. The focus of the course is not on the technical aspects of international financial market operations or international finance theories, but rather on the political and institutional contexts in which they function.

This course is related to Goal 16 (Peace, Justice and Strong Institutions) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The course is broadly divided into three sections. The first section addresses fundamental concepts and major theoretical issues in IPE, with specific reference to monetary and financial issues in the world economy. The second section considers the historical development of the international monetary and financial system, dating from the era of the classical gold standard. The final section discusses central issues relating to the international political economy of money and finance in the contemporary world, including financial globalization, international financial regulation, the future of the US dollar as the leading international currency, the internationalization of the Chinese renminbi, cryptocurrencies and central bank digital currencies.

Each class will consist of two parts. The first part will be a lecture by the instructor, and the second a seminar requiring the active participation of all students in discussing the major issues raised in the lecture. The lecture will account for about two-thirds of the length of each class, and the seminar the remainder.

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced later.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Introductory texts:

Eichengreen, Barry. (2019). Globalizing Capital: A History of the International Monetary System, 3rd edition (Princeton and Oxford: Princeton University Press).

Oatley, Thomas. (2023). International Political Economy, 7th edition (New York and London: Routledge), Chapters 10 to 15.

Major IPE journals:

Review of International Political Economy; New Political Economy; International Studies Quarterly; International Organization; International Studies Review

5. 履修上の注意/Note:

A more detailed version of the syllabus, which will include the specific topic and required reading for each week, will be announced later.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3240E

科目名/Course Name: Non-Traditional Security

担当教員/Instructor: クロス 京子/CROSS Kyoko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to learn about the changing paradigm of security studies in the 21st Century. New security concepts, such as human security, non-traditional security, and women's security, are discussed in the class in order to highlight major security challenges in the age of globalism. Students are expected to understand how and why new security challenges have emerged in the post-Cold War era and how the international community deals with these security issues.

This course is related to Goals 1, 2, 3, 5, 6, 7, 10, 13, and 16 (poverty, hunger, good health and well-being, gender equality, clean water and sanitation, energy, inequalities, climate, and peace, justice and strong institutions) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction and Class Guidance
2. Lecture: Development of Security Studies during and after the Cold War
3. Lecture: Human Security and Non-Traditional Security
4. Conflict and Community Security
5. Poverty and Economic Security
6. Environmental Security
7. Food Security
8. Energy Security
9. Water Security
10. Health Security
11. Migration and Movements of People
12. Transnational Crime
13. Cyber Security
14. Gender and Security
15. Designing Essay: presentations and discussion on research paper proposals

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation (25%), contribution to discussion (25%), and final essay (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Mely Caballero-Anthony (ed.), An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach, Sage Publications, 2015.

4-2: Alan Collins (ed.), Contemporary Security Studies, Oxford: Oxford University Press, 2022.

5. 履修上の注意/Note:

This is a reading-intensive course. No prior knowledge on security studies is required. The course welcomes students from any concentrations. However, all students are required to fully prepare for each class in reading materials and discussing issues. To

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3280E

科目名/Course Name: Analysis of Great Power Politics

担当教員/Instructor: 岩間 陽子、外部講師/IWAMA Yoko, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This lecture will deal with the rise of China and how the Great Powers have till now tried to deal with this challenge. We will invite leading experts of each topic to speak on aspects of Chinese, American, Indian, and other powers' policy regarding this monumental power shift that is taking place before our eyes. Students are expected to actively take part in the discussion.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1. Introduction to the course

Major IR theories and the Rise of China

Session 2. Europe and the Rise of China

Session 3. ~6 The rise of China from the eyes of Chinese Experts

Experts (TBC): Chisako Masuo (Kyushu University)

Takayuki Igarashi (National Defense University)

Shinji Yamaguchi (National Institute of Defense Studies)

Session 7~10. US-China Relationship: History, current status, Issue of Taiwan.

Experts (TBC): Ryo Sahashi (Professor, Tokyo University)

Satoshi Mori (Professor, Keio University)

Tsuneo Watanabe (Sasakawa Foundation)

Session 11~12. Sino-Russian Relationship: History, Effect of the Ukraine War

Expert (TBC): Dr. Marcin Kacumarski (University of Glasgow)

Session 13 India and the Rise of China

Session 14 Japan and the Rise of China

Session 15 Rap up discussion

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading will be based on participation in the class, readings and discussions and a term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3310E

科目名/Course Name: Comparative Political Economy

担当教員/Instructor: KANCHOOCHAT Veerayooth/KANCHOOCHAT Veerayooth

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course explores key analytical approaches, major debates, and empirical analyses in the field of comparative political economy. The course is organized into three parts: Part I surveys three main analytical approaches to political economy, focusing on interests, ideas, and institutions as alternative explanatory variables. Part II reviews contemporary debates that cover the varieties of capitalism in developed and developing economies; state-led growth and consequences in East Asia; and comparative welfare state-building in Europe and Asia. Part III discusses international political economy issues. It begins with global production networks and the impact of neoliberalism across regions before an exploration of the digital platform economy to understand its dynamics and impacts on work and labour.

Key questions the course explores:

Why do countries make different policy choices, despite facing the same challenge?

Have all industrialized democracies the same kind of capitalism?

What lessons do the "East Asian Miracle" debate hold for the "middle-income trap"?

How to understand the global economy through the production network framework?

Have the digital platform economy benefited all the stakeholders?

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Part I Three Approaches: Interests, Ideas, and Institutions

Week 1 Introduction

Week 2 Approaches to Political Economy (Interests)

Week 3 Approaches to Political Economy (Ideas)

Week 4 Approaches to Political Economy (Institutions)

Week 5 Student's first book review

Part II Developmental and Welfare State-Building

Week 6 Varieties of Capitalism

Week 7 Hierarchical Capitalism in Latin America

Week 8 State-led Growth and consequences in East Asia

Week 9 Comparative Welfare State-Building

Week 10 Student's second book review

Part III Globalisation, Neoliberalism and Platform Economy

Week 11 Global Production Networks

Week 12 Neoliberal Capitalism

Week 13 The Rise of Platform Economy

Week 14 Concluding Review

Week 15 In-class examination

3. 成績の評価方法/ Grading:

(1) Class participation and weekly discussion (20%)

You are expected to finish required readings before class and actively participate in lectures and class discussion.

(2) Two book reviews (20% + 20%)

You are required to choose two books from either (a) any book referred to in this syllabus; or (b) your own interest with the consent of the instructor. A review article should summarize and assess the book's argument(s) with critical reflections, and should be 1,500-2,000 words in length. It should follow the style of book reviews you would find in any major journal.

(3) In-class Exam (40%)

You are required to take an in-class, closed book, written examination. To answer two questions within two hours.

Part I Analytical Approaches: Interests, Ideas, and Institutions

Approaches to Political Economy (Interests)

Blyth, Mark. 2009. "An Approach to Comparative Analysis, or a Sub-Field Within a Sub-Field? Political Economy." in Mark Lichbach and Alan Zuckerman, eds. *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure* (2nd ed), Cambridge: Cambridge University Press. (GRIPS Library 311 L61)

<http://dx.doi.org/10.1017/CBO9780511804007.009>

Acemoglu, Daron and James A. Robinson. 2006. *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*. Cambridge: Cambridge University Press. (GRIPS Library 313.7 A15)

<http://down.cenet.org.cn/upfile/29/201053112253116.pdf>

Approaches to Political Economy (Ideas)

Rodrik, Dani 2014. When Ideas Trump Interests: Preferences, Worldviews, and Policy Innovations. *Journal of Economic Perspectives*, 28(1):189-208.

<http://drodrik.scholar.harvard.edu/files/dani-rodrik/files/jep2e282e12e189.pdf>

Blyth, Mark. 2002. *Great Transformations: Economic Ideas and Institutional Change in the Twentieth Century*. New York: Cambridge University Press, Chapter 2. (GRIPS Library 332.06 B59)

<http://books.google.co.jp/books?id=sNXT0rpJuDkC&printsec=frontcover#v=onepage&q&f=false>

Approaches to Political Economy (Institutions)

North, Douglass. 1995. "The New Institutional Economics and Third World Development." in John Harriss, Janet Hunter and Colin M. Lewis, eds. *The New Institutional Economics and Third World Development*. New York: Routledge. (GRIPS Library 333.8 H33)

<http://www2.econ.iastate.edu/tesfatsi/NewInstE.North.pdf>

Parsons, Craig. 2007. *How to Map Arguments in Political Science*. Oxford: Oxford University Press, Chapter 3. (GRIPS Library 311 P25)

<http://www.dpllahore.org/How%20to%20map%20arguments%20political%20science.pdf>

Part II Developmental and Welfare State-Building

Varieties of Capitalism

Hall, Peter and David Soskice, eds. 2001. *Varieties of Capitalism: The Institutional Foundations of Comparative Advantage*. Oxford: Oxford University Press (GRIPS Library 332.06 H21)

www.lse.ac.uk/government/whosWho/Academic%20profiles/dwsoskice@lse.ac.uk/Hall-Soskice-Intro-VoC-2001.pdf

Keun Lee and Hochul Shin (2018) "Varieties of capitalism and East Asia: Long-term evolution, structural change, and the end of East Asian capitalism." *Structural Change and Economic Dynamics*, <https://doi.org/10.1016/j.strueco.2018.06.006>

Hierarchical Capitalism in Latin America

Schneider, Ben Ross. 2009. "Hierarchical Market Economies and Varieties of Capitalism in Latin America." *Journal of Latin American Studies*, 41(3):553-575. <http://journals.cambridge.org/action/displayAbstract?fromPage=online&aid=6096068>

Palma, Gabriel. 2009. "Flying-Geese and Waddling-Ducks: The Different Capabilities of East Asia and Latin America." in Mario Cimoli et al., *Industrial Policy and Development: The Political Economy of Capabilities Accumulation*. Oxford: Oxford University Press.

http://unctad.org/Sections/gds_ecidc/docs/gds_ecidc_2010d07Palma_en.pdf

State-led Growth and Consequences in East Asia

Veerayooth Kanchoochat (2019) "Tigers at Critical Junctures: How South Korea, Taiwan and Singapore Survived Growth Led Conflicts." in Yusuke Takagi et al (eds). *Developmental State Building: Politics of Emerging Economies*. Singapore: Springer.

https://link.springer.com/chapter/10.1007/978-981-13-2904-3_3

Doner, Richard, Ritchie, Bryan, and Slater, Dan. 2005. "Systemic Vulnerability and the Origins of Developmental States: Northeast and Southeast Asia in Comparative Perspective." *International Organization*, 59(2):327361.

<http://www.jstor.org/stable/3877907>

Comparative Welfare State-Building

Veerayooth Kanchoochat (2019) "Social Protection and Welfare State Building: Fast and Slow Lessons." United Nations ESCAP Social Development Working Papers No. 2019/07.

<https://www.unescap.org/sites/default/files/Welfare.pdf>

Mkandawire, T. (2004). "Social Policy in a Development Context: Introduction" in Mkandawire, T. (ed) Social Policy in a Development Context. London: Palgrave.

<https://www.unrisd.org/80256B3C005BCCF9/search/C83739F8E9A9AA0980256B5E003C5225>

Part III Globalisation, Neoliberalism and Platform Economy

Global Production Networks

Gereffi, G., Humphrey, J., and Sturgeon, T. (2005) "The Governance of Global Value Chains." *Review of International Political Economy*, 12(1): 78-104. <https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/09692290500049805>

Dedrick Jason and Kenneth L. Kraemer (2017) "Intangible assets and value capture in global value chains: the smartphone industry." World Intellectual Property Organization, Economic Research Working Paper No.41.

https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_econstat_wp_41.pdf

Neoliberal Capitalism

Saad-Filho, Alfredo and Lecio Morais (2018) *Brazil: Neoliberalism versus Democracy*. London: Pluto Press.

Appel, Hilary and Mitchell A. Orenstein (2018) *From Triumph to Crisis: Neoliberal Economic Reform in Postcommunist Countries*. New York: Cambridge University Press.

The Rise of Platform Economy

Codagnone, Cristiano et al., (2018) *Platform Economics: Rhetoric and Reality in the Sharing Economy*. Bingley, UK: Emerald Publishing.

Andez, Lourdes Mella (2020) *Regulating the Platform Economy: International Perspectives On New Forms Of Work*. New York: Routledge.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lichbach, Mark and Alan Zuckerman, eds. 2009. *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure*, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

Parsons, Craig. 2007. *How to Map Arguments in Political Science*. Oxford: Oxford University Press.

Barma, Naazneen and Steven Vogel, eds. 2008. *The Political Economy Reader: Markets as Institutions*. New York: Routledge.

Chang, Ha-Joon. 2014. *Economics: The User's Guide*. Penguin: London.

Rodrik, Dani. 2008. *One Economics, Many Recipes: Globalization, Institutions, and Economic Growth*. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Hall, Peter and David Soskice, eds. 2001. *Varieties of Capitalism: The Institutional Foundations of Comparative Advantage*. Oxford: Oxford University Press.

Takagi, Yusuke, Veerayooth KanchooChat and Tetsushi Sonobe, eds. 2019. Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies. Singapore: Springer.

Jones, Daniel Stedman. 2014. Masters of the Universe: Hayek, Friedman, and the Birth of Neoliberal Politics. Princeton NJ: Princeton University Press.

Baccaro, Lucio, Mark Blyth and Jonas Pontusson. 2022. Diminishing Returns: The New Politics of Growth and Stagnation. Oxford: Oxford University Press.

5. 履修上の注意/Note:

Email Address: kanchooChat@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3320E

科目名/Course Name: States, Regimes, and Institutions in Contemporary Africa

担当教員/Instructor: KARUSIGARIRA Ian/KARUSIGARIRA Ian

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is an analytical approach to graduate level research and writing on Africa. It covers a number of cutting-edge research agendas on States, Regimes, and Institutions in Contemporary Africa. All African Ph.D. scholars at GRIPS are advised to pick interest in this course. However, please continue to the completion once you have registered and passed the stipulated withdrawal period. No withdrawal from the class in the midcourse.

The course is structured into two sessions. In the first session we delve into the inner tensions within the African states as well as explain regimes' dynamics. Here, we examine the contemporary African states and regimes while subtly reflecting on the negative modernist/civilizing/dependency epistemologies, drawing from the post-colonial historical analyses and present state-society political relations. With the deep knowledge of the political mechanisms in African states and regimes, we then interrogate the contemporary themes such as; the structure of states and regimes, reasonable policy alternatives, and possible violent conflicts that seem pervasive. Session two attempts to analyze the institutions with a theoretical aid from New-Sociological Institutionalism. This will help explain the cultural entanglements in African states and regimes' relations. We shall interrogate a broader overview of states, regimes and institutions in Africa, facilitate an opening for networking theories and concepts with in-depth analysis of contextual cases, instigate inter-disciplinary approaches to the study of African states, regimes, and institutions, and encourage critical reflections on popular and scholarly representations of Africa. In session one, we shall handle States and Regimes in Africa. Session two of the semester will cover institutional analysis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1 (April 6): Spring Term (Session 1) General orientation (Students' backgrounds, goals, and expectations).

Week 2 (April 13): The evolution of African states (Dunn and Englebert (eds.) 2019). In *Inside African Politics*. Chap 2, pp. 17-66); After colonial rule in Africa: Ghana, Tanzania, and Botswana (Zoltan Barany 2012). In *The Soldiers and the Changing Society: Building Democratic Armies in Africa, Asia, Europe, and the Americas*. Chap 9, pp. 275-302. (Optional).

Week 3 (April 20): Patrimonialism and Neopatrimonialism by Daniel Bach, 2012. In *Neopatrimonialism in Africa and Beyond*, Daniel Bach and Mamoudou Gazibo (eds.), Taylor and Francis. Chap. 2, pp. 25-45.

Week 4 (April 27): The challenges of state-building in Africa (Jeffrey Herbst (ed.) 2000). In *State and Power in Africa*. Chap. 1, pp. 11-32; Power and Space in Precolonial Africa (Jeffrey Herbst (ed.) 2000). In *State and Power in Africa*. Chap. 2, pp. 35-57; The Europeans and the African Problem (Jeffrey Herbst (ed.) 2000). In *State and Power*

in Africa. Chap. 3, pp.58-96.

Week 5 (May 11): Regime types across the spectrum (Dunn and Englebert (eds.) 2019). In Inside African Politics Dunn. Chap. 5, pp. 199-230.

Week 6 (May 18): Regime dynamics and democratic consolidation in Lesotho (Oscar G. Mwangi 2013). In Regime Change and Succession Politics in Africa: Five Decades of Misrule, Maurice Amutebi and Shadrack Wanjala Nasong'o (eds.). Chap. 1, pp. 98-109.

Week 7 (May 25): The emergence of a politics of order (Vicky Randall and Robin Theobald (eds.) 1998 [1985]) In Political change and underdevelopment: A critical Introduction to Third World Politics (Second edition). Chap. 3 pp.86-188.

Week 8 (June 1): Beyond Settler and Native as political Identities: Overcoming the Political legacy of Colonialism (Mahmood Mamdani 2016) In African Politics: Critical Concepts in Political Science (volume one), Nic Cheeseman (ed.). Chap. 2, pp. 71-108

Week 9 (June 8): Orientation to Spring term (Session 2)

Week 10 (June 15): Understanding African Politics: Bringing the State back in. (Nic Cheeseman 2018) In Institutions and Democracy in Africa: How the rules of the game shape the Political development, Nic Cheeseman (ed). Chap. 1, pp. 1-38.

Week 11 (June 22): Introduction (Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio 1991 (eds.)). In the New Institutionalism in Organizational Analysis. Chap. 1, pp.1-38.

Week 12 (June 29): Unpacking Institutional Arguments (Richard Scott 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis. Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 7, pp. 164-82.

Week 13 (July 6): Institutions, Institutional Effect and institutionalism (Ronald Jepperson 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis, Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 6, pp.143-63.

Week 14 (July 13): The Role of Institutionalization in Cultural Persistence (Lynne G. Zucker 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis, Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 4, pp.143-63.

Week 15 (July 20) Bringing Society Back in: Symbols, Practices, and Institutional contradictions (Roger Friedman and Robert R. Alford 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis. (Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 10, pp. 232-266.

Important date: Exam submission, 28th July 2023

3. 成績の評価方法/ Grading:

Please continue to the completion once you have registered and passed the stipulated withdrawal period. No withdrawal from the class in the midcourse. The required assignments are (a) weekly readings and active seminar participation, and (b) writing a well-thought "review essay" on any topic related to states, regimes, or institutions in Africa. The expected length is between 5,000 and 7,000 words. Class attendance, active classroom participation, and weekly assignments: 50%. Final assignment (a draft paper): 50%. Please follow the shared instructor's guidelines on the structure of your exam paper. Also, follow the recommended citation guidelines that are provided at the beginning of this course. The final exam is due on Friday, July 28, 2023 via email.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Amutebi, N. Maurice and Shadrack Wanjala Nasong'o 2013. *Regime Change and Succession Politics in Africa: Five Decades of Misrule*. New York: Routledge.

Bach, C. Daniel and Mamoudou Gazibo (eds.). 2012. *Neopatrimonialism in Africa and Beyond*. Taylor and Francis.

Barany, Zoltan. 2012. *The Soldiers and the Changing Society: Building Democratic Armies in Africa, Asia, Europe, and the Americas*. Princeton: Princeton University Press.

Cheeseman, Nic (ed). 2016. *African Politics: Critical Concepts in Political Science (Volume One)*. Park Square: Routledge.

Cheeseman, Nic (ed). 2018. *Institutions and Democracy in Africa: How the Rules of the Game Shape the Political Development*. New York: Cambridge University Press.

Dunn, C. Kevin and Pierre Englebert. 2019. *Inside African Politics*. London: Lynne Rienner Publishers.

Herbst, Jeffrey. 2000. *State and Power in Africa: Comparative Lessons in Authority and Control*. Princeton: Princeton University Press.

Powell, W. Walter and Paul J. DiMaggio 1991 (eds.). *The New Institutionalism in Organizational Analysis*. Chicago: University of Chicago Press.

Randall, Vicky and Robin Theobald 1998 [1985]. *Political Change and Underdevelopment: A Critical Introduction to Third World Politics (Second Edition)*. Durham: Duke University Press.

Recommended Readings

Aiyede, E. Remi and Afeaye A. Igbafe 2018. "Institutions, Neopatrimonial Politics and Democratic Development", *Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development*, Ojo Oloruntoba and Toyin Falola (eds.). New York: Nature America Inc.

Alvarez, Mike., José Antonio Cheibub., Fernando Limongi, and Adam Przeworski. "Classifying Political regimes", *Studies in Comparative International Development*. 31, 1996. pp.1-3-36.

Aydinli, Ersel. "Governments vs States: Decoding Dual Governance in the Developing World", *Third World Quarterly*, Vol.31, No. 5, 2010, pp. 693-707.

Bayart, Jean-Francois, Stephen Ellis & Beatrice. Hibou. 1999. *The Criminalization of the State in Africa (Illustrated*

Version). Oxford: Currey.

Bayart, Jean-Francois. 1993. *The State in Africa*. London: Longman.

Bayart, Jean-Francois. "Africa in the World: A history of Extraversion". *African Affairs*, no. 99.

Berman, Bruce. 1998. "Ethnicity, Patronage and the African State: The Politics of Uncivil Nationalism" *African Affairs*, Vol. 97, 2000, pp. 305-341.

Bratton, Michael. and Nicholas vande de Walle (eds.) 1997, "Introduction". In *Democratic Experiments in Africa: Regime Transitions in Comparative Perspective*, Cambridge University Press.

Cheeseman, Nic and Jonathan Fisher. 2019. *Authoritarian Africa: Repression, Resistance, and the Power of Ideas*. Oxford: Oxford University Press.

Crawford, Young. "The End of the Post Colonial State in Africa? Reflections on Changing African Political Dynamics", *African Affairs*. 103, Issue 410, 2004, pp. 23-49

Eisenstadt, N. Shmuel. 1973. *Traditional Patrimonialism and Modern Neopatrimonialism*. Beverly Hills: Sage Publications,

Ekeh, Peter. "Colonialism and the Two Publics in Africa: A theoretical statement". *Comparative Studies in Society and History* 17, no. 11975, pp. 91-112.

Englehart, A. Neil. "Governments against States: The Logic of Self-Destructive Despotism", *International Political Science Review*. Vol. 28, No. 2, 2007, pp.133-153.

Goran, Hyden. (July 2008 Discussion paper). *Institutions, Power and Policy Outcomes in Africa*.

Hall, A. John. "State Failure". In the *Oxford Handbook of Comparative Institutional Analysis*, Glenn Morgan, John L. Campbell, Colin Crouch and Ove Kaj Pedersen (eds.). pp. 586-600.

Herbst, Jeffrey. "War and the State in Africa", *International Security*, 14 (4), 1990, pp. 117-139.

Jackson, Robert and Carl G. Rosberg. "Why Africa's Weak States Persist", *World Politics*. Vol 35, 1. 1982, pp 1-24.

Jackson, H. Robert and Carl G. Rosberg. "Personal Rule: Theory and Practice in Africa", *Comparative Politics*., Vol. 16, No. 4. 1984, pp. 421-442.

Kelsall, Tim. "Towards a universal political settlement concept: A response to Mustaq Khan", *African Affairs* 469, 2018. pp. 656-69.

Khan, H. Mushtaq. "Political Settlements and the Analysis of Institutions", *African Affairs* 469, 2018, pp.636-655.

Lemarchand, René. 1988. "The State, the Parallel Economy, and the Changing Structure of Patronage Systems". In *the Precarious Balance: State and Society in Africa*, D. Rothchild and N. Chazan (eds). London: Westview Press.

Lindberg, I. Staffan. "Forms of States, Governance, and Regimes: Reconceptualizing the Prospects for Democratic Consolidation in Africa", *International Political Science Review*, Vol. 22, No. 2, 2001, pp. 173-199.

Mamdani, Mahmood. 1996. *Citizen and Subject: Contemporary Africa and the Legacy of Late Colonialism*. Princeton University Press.

Mamdani, Mahmood. 2010. *Saviors and Survivors: Darfur, Politics and the War on Terror*. New York: Pantheon Books.

Medard, Jean-Francois. 1982. "The Underdeveloped State in Tropical Africa: Political Clientelism or Neopatrimonialism". In *Private Patronage and Public Power: Political Clientelism in the Modern State*, Christopher Clapham (ed.). London: Frances Printer.

Migdal, S. Joel. 1988. *Strong Societies and Weak States: State-Society Relations and State Capabilities in the Third*

World. Princeton: Princeton University Press.

Nugent, Paul. "States and Social Contracts in Africa", *New Left Review*, 63, 2010, pp. 35-67.

Perrot, Sandrine, Sabiti Makara, Jérôme Lafargue Marie-Aude Fouéré (eds.). 2014. *Elections in a Hybrid Regime. Revisiting the 2011 Ugandan Poll*. Kampala: Fountain Publishers.

Pitcher, Ann., Mary H. Moran and Michael Johnston. "Rethinking Patrimonialism and Neopatrimonialism in Africa", *African Studies Review*, 52 (1), 2009, pp. 125-156.

Posner, N. Daniel and Daniel J Young 2010. "The Institutions of Political Power in Africa". In *Democratization in Africa: Progress and Retreat (Second Edition)*, Larry Diamond and Marc F. Plattner (eds.). Baltimore: The Johns Hopkins University Press. pp. 59-72.

Ranger, Terrence. 1996. "The Invention of Tradition in Africa". In *The Invention of Tradition*, Eric Hobsbawm and Terence Ranger (eds.). Cambridge: Cambridge University Press.

Sciortino, Giuseppe. "From Homogeneity to Difference? Comparing Multiculturalism as a Description and a Field for Claim-Making", *Comparative Social Research*, Vol. 22, 2003, pp.263- 285.

Szeftel. Morris. "Misunderstanding African politics: corruption and the governance agenda", *Review of African Political Economy*. 25, 76, 1998, pp. 221-40.

Van de Walle, Nicolas. "Presidentialism and Clientelism in Africas Emerging Party Systems", *Journal of Modern African Studies.*, Vol. 41, 2003, pp. 297-321.

Wainaina, Binyavanga. 2008. *How to Write about Africa*. Nairobi: Kwani Trust.

Weber, Max. 1968. *Economy and Society*. Berkeley: University of California Press.

5. 履修上の注意/Note:

Things to note when dealing with primary materials

A balance must be drawn when using policy literature and theoretical-academic studies. Policy-based literature has some particularities that make it different from purely academic works. Policy actors te

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3400E

科目名/Course Name: International Relations in Europe

担当教員/Instructor: 岩間 陽子/IWAMA Yoko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is intended to provide basic knowledge about the structure and the working of the European Union and NATO. Through studying these two institutions, students will gain understanding about the issues facing postwar Europe and how they were overcome. In addition we will cover Europe's relationship with other parts of the world including Russia, China and Japan.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Orientation

2. April 14 History of the European Integration: the beginnings

Dinan, Origins and Evolution,

Chapter 2: Dividing Europe: the Cold War and European Integration pp.35-59.

Chapter 3, The German Problem and European Integration pp.60-90.

3. April 21 The Choices of the Post War Years

Alternative Paths: European Integration, North Atlantic Treaty and the Neutrals

Choices for Sweden/ Finland/ Norway; Choices for Germany/Austria/ From treaty to Organization

4. May 12, Foundations of the Cold War: NATO in 1950s and early 1960s

Timothy Ashton Sayle, Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order, Cornell University Press, 2019, Chapters 1~4

5. May 19: Early Years of European Integration: Rome Treaty, Common Market and Common Agricultural Policy

* Dinan, Chapter 4 Liberalization, Convertibility, and the Common Market

Chapter 8 European integration in the Image and Shadow of Agriculture

*Wallace, Chapter 8 The Common Agricultural Policy: The Fortress Challenged

6. May 26: Europe 1958-1968

Making of the European and global Nuclear order and the German question.

Sayle, Ch. 4~5

7. 2 June: Europe in the 1970s

Dinan, Chapter 6 Charles de Gaulle's Uncertain Idea of Europe

Chapter 7 Under the Shadow of Stagflation: European Integration in the 1970s.

Sayle, Chapter 6 The New Tripartitism

Chapter 7 An Alliance for Peace

8. 9 June: European Integration theories

9. 16 June : Europe from the 60s to 80s: From stagnation to prosperity: Economic and Monetary Union, single market

*Wallace, Chapter 5 The Single Market: From Stagnation to Renewal?

Chapter 7 Policy-Making under Economic and Monetary Union: Crisis, Change and Continuity.

*Dinan, Chapter 9 From Deadlock to Dynamism: The European Community in the 1980s Chapter 10 from Single Market to the Single Currency.

10. 23 June: Europe in the 1980s, Part 2: Military tension and alliance management

NATO in e 1980s: From doble track decision to INF treaty

Sayle, Chapter 8 Busting Europe

Chapter 9 Leaderless Men

11. 30 June: NATO Madrid Summit

12. 7 July Single Market and Single European Currency

The End of the Cold War, German Unification, single currency

*Dinan, Chapter 11 The European Union, the Soviet Union, and the End of the Cold War

*Mary E. Sarotte, Not one inch

13. 14 July NATO and the End of the Cold War;

Foreign and Security Policy, Trade Policy, EU-China relationship, EU-Japan relationship

*Wallace, Chapter 18 Foreign and Security Policy: Civilian Power Europe and American Leadership.

14. 19 July: EU enlargement

Dinan Chapter 12 The Enlarging European Union

*Wallace, Chapter 17 Enlargement: Constituent Policy and Tool for External Governance

*Richardson, Chapter 11 EU Enlargement

15. 21 July: NATO-Russia-Ukraine problem; NATO and China

3. 成績の評価方法/ Grading:

Assessment will be based on class discussion, several presentations (depending on the size of the class), and a term paper

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

*Hellen Wallace and William Wallace (eds.) Policy-Making in the European Union, 7th edition, 2015, Oxford University Press. 319.99 W36

*Desmond Dinan (ed), Origins and Evolution of the European Union, 2nd edition, Oxford University Press, 2006. 329.37 D76

*Jeremy Richardson, European Union: Power and Policy-Making, 4th edition, Routledge: 2015.

*Antje Wiener, Tanja A. Borzel and Thomas Risse (ed.) European integration theory, 3rd edition, Oxford : Oxford University Press, c2019

*Lawrence S. Kaplan, The long entanglement: NATO's first fifty years, Westport, Conn. : Praeger, 1999, 319.53 Ka61

*Timothy Andrew Sayle, Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order, Cornell University Press, 2019, 329.37||Sa99

* Mary E. Sarotte, Not one Inch: America, Russia and the Making of the Post-Cold War Stalemate, Yale University Press, 2021.

5. 履修上の注意/Note:

This course will be held together with masters course International Relations in Europe. PhD students will be asked to do additional reading and writing

メールアドレス iwama@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV3500J

科目名/Course Name: 経済社会統計の整備と課題：国際的整備の潮流と日本の対応

担当教員/Instructor: 西村 清彦, 萩野 覚/NISHIMURA Kiyohiko and HAGINO Satoru

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、統計の制度設計や作成実務に興味を持つ日本人学生、および公的機関等から派遣されている社会人学生を主要なターゲットとし、今後、政策運営に必要な統計をどのように整備していけば良いのについて、基本的な考え方や手法を講義する。我が国の政府や日銀が、どのような統計整備に注力してきたのかを、世界的な政策ニーズの変遷と日本固有の問題の変化と併せて理解し、今後の方向性を探る。現在、OECD や IMF といった国際機関が先進的な国際的統計整備を企画する中で、日本としてどのような統計整備が必要になるのかを理解することは、受講生がそれぞれ経済社会統計を作成し利用する職を得たとき、あるいは旧職に戻って統計関係の部署に配置されたとき、不可欠の知識である。特に、我が国において、府省における国際統計人材の育成が課題とされている中、統計整備の重要性を理解する幹部候補を教育することは、日本の統計基盤充実に資することとなる。

西村は、日本銀行副総裁や内閣府の総括政策研究官として、政策決定プロセスに関与するとともに、統計委員会委員長として、政策に役立つ公的統計整備を推進してきた。そうした経験に基づき、公的統計の整備プロセスや、統計データを活用した政策のコミュニケーションについて説明する。萩野は、現在、統計委員会担当室長を務めるが、日銀や内閣府での公的統計整備のほか、IMF、OECD において、国際的な統計整備プロジェクトに参画している。清水は、物価統計や不動産価格指数に関する国際マニュアルの作成を行っている。両者は、国際的な統計整備への対応を意識しつつ、日本の統計事情について説明する。

講義では、日本の統計について、横断的・縦断的に説明する。すなわち、横断面では、欧米主要国での統計作成の現状や、統計作成方法に関する国際的な議論・ガイドラインを幅広く紹介し、それらとの対比で、日本の統計の特徴を明らかにする。一方、縦断面では、日本の統計作成体制が分散型に設計されたことに起因して、統計調査の体系化や行政記録の有効活用が課題であることを明らかにする。

講義の進め方（下表）は、統計制度を概観した後、国民経済計算や物価・数量指数について整理したうえで、産業連関表、資金循環表等の部門勘定、財政金融統計、国際収支・貿易統計を説明する。次に、これらの基本的枠組みを踏まえて資産やイノベーションに焦点を当て、グローバルフローオブファンズや不動産市場に係る統計整備、知識資本と資産境界の整理、デジタルライゼーションの統計的把握について、国際的な議論を交え説明する。さらに、経済統計では捉えきれない側面に着目し、環境・災害統計や、医療、教育、雇用、ウェルビーイングといった社会統計について説明する。最後に、統計のデータ収集・作成方法に関し、デジタルツールの利用拡充について議論する。

この講義では、SDGs に関連する統計を講義する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. 統計制度

(1) 主要国の統計制度：中央集権型 vs 分散型

世界には、日本や米国のように、各府省が政策ニーズに基づき統計を作成する分散型の制度を採っている

国のほか、英・独・仏のように、政府統計局が幅広い分野をカバーする中央集権型の制度を採っている国がある。中央集権型は、統計作成が効率的になり、行財政記録の活用が進むほか、国民経済計算の基礎データとして一次統計を体系的に整備できる等のメリットがあるが、政策ニーズを統計整備や統計調査に反映しにくいといったデメリットもあることを説明する。

(2) 日本の統計制度・統計史

日本の統計作成体制について、現在の枠組みを概観するとともに、その形成過程を振り返る。戦後、また、2000年以降、統計委員会を通じ体制の集権化を試みていること、等を説明する。

(3) 公的統計基本計画の概要

我が国の公的統計基本計画の目的と内容、第四期計画における、中央統計機構の強化、国際比較可能性の向上、国際統計人材の育成といった新たな方向性について説明したうえで、更なる課題を議論する。

2. 国民経済計算

(1) GDP 計算の概要と帰属計算

GDP は、一国経済の分析に最も頻繁に用いられるものであるが、その概念や焦点は、一定ではない。特に、付加価値の総額と定義されつつ、付加価値を生み出す生産の範囲が、これまでの SNA の改定の都度、帰属計算等を通じ拡大されてきている点を議論する。

(2) 分配側 GDP

三面等価の原則を踏まえ、営業余剰の独立推計の可能性と分配 GDP 測定の有用性について議論する。また、自然人や法人の国境を跨ぐ移動が進む中で、投資収益や雇用者報酬の国際的取引が増加し、GDP と GNI の乖離が拡大していることを説明する。

(3) GDP の推計方法

四半期 GDP 速報 (Quick Estimate、QE) が、経済動向を示す指標として利用されるが、欧州では、生産面の QE が作成・公表されているのに対し、日本や米国では、支出面の QE が作成・公表されていることを示す。そのうえで、対象の違いにより基礎データの重点が異なること、特に、支出面の QE では、固定資本形成や在庫純増の推計が鍵になることを説明する。

3. 物価・数量指数

(1) 価格・数量指数の概要と作成方法

OECD データベースに掲載されている物価・数量指数を概観したうえで、生産者物価指数における日米における焦点の違いや、段階別指数の作成について議論する。また、アップデートされた CPI マニュアルについて説明する。物価・数量指数の理論については、様々な類型 (ラスパイレス、パーシェ等) がある中で、実務的な観点から、多くの統計で、ラスパイレス型が採られるとともに、そのバイアスを回避すべく、連鎖指数の作成が行われてきたことを説明する。

(2) 物価指数やデフレーター整備

消費者物価指数、企業物価指数、企業向けサービス価格指数の作成方法について、データ収集方法や品質調整を中心に整理する。また、小売・卸売や建築・土木に関し、アウトプットベースの物価指数の開発が行われていることについても説明する。

(3) 数量指数の種類と作成方法

鉱工業生産指数や第3次産業活動指数といった数量指数の作成方法を整理し、廃止された建設業活動指数や全産業活動指数についても、作成方法まで遡って長所、短所を議論する。

4. 産業連関表と供給使用表

(1) 産業連関表の概要

産業連関表が、生産技術を一定と仮定したモデルであることを説明したうえで、日本の商品×商品の正方形のマトリックスを用い、レオンティエフ逆行列を用いた波及効果表等を説明する。

(2) 産業連関表から供給使用表へ

他方、欧州では、産業×商品の長方形のマトリックスである供給使用表の作成が主流となっており、国連 IO マニュアルでも、産業連関表を供給使用表から派生的に作成するよう提言するに至っている。我が国でも、サービス業のウェイトが高まる中、基礎データの収集のし易さから、供給使用表を作成する予定（2020年表：サービス業、2025年表：全体）である。供給使用表が、GDP の計算にあたり有用であること等を議論する。

(3) 地域産業連関表と観光産業の統計的把握

地域産業連関表の特徴を説明するとともに、産業連関表で独立した分類となっていない観光・文化活動に焦点を当て、観光イベントの波及効果分析や、国連観光機関が主導している観光サテライト勘定の整備や観光庁の取り組み、ユネスコが主導している文化 GDP や文化サテライト勘定の整備や文化庁の取り組みを説明する。

5. 資金循環表と部門別勘定

(1) 資金循環表の概要

部門×金融資産負債項目の長方形の資金循環表の概要と、その活用方法を整理する。この点、国際的に、資金循環表に相手方部門を導入することによる詳細資金循環表の作成や、部門×部門の正方形のマトリックスの作成についての取り組みもみられることを説明する。後者は、金融連関表と呼称するべきものであるが、欧州を中心とした整備の動きや、産業連関分析手法の適用した波及効果分析の可能性について議論する。

(2) 制度部門別勘定の概要

SNA において実体経済と金融が、所得支出勘定、資本勘定、金融勘定（資金循環表）を通じ、どのように接合するのかを、貯蓄投資差額と資金過不足に焦点を当てて説明する。また、欧州を中心に、四半期部門別勘定が整備されていることを踏まえ、その有用性も検討する。

(3) 家計部門の経済格差と統計整備

部門のうち家計部門に焦点を当て、家計債務について概観したうえで、経済格差をジニ係数や富裕層の所得シェア等によって把握する。そのうえで、家計部門に関する OECD による国際的な統計整備や、国内での構造統計整備について議論する。

6. 財政金融統計

(1) 政府財政統計

一般政府や中央政府の財政収支、基礎的財政収支、債務残高について、日本、米国、ドイツに焦点を当てて整理する。この間、財政統計については、

IMF 財政統計マニュアルが、国際的なガイドラインを定めている。同マニュアルは、現金主義から発生主義への移行、フロー重視からストック重視への移行のほか、公的部門連結勘定等を提言しており、そうした取り組みの有用性や実現可能性を議論する。また、コロナ禍で明らかとなった社会保障関連統計の課題を、ストックである年金債務の統計的把握も含め議論する。

(2) 金融統計

金融統計については、IMF 金融統計マニュアル等が国際的なガイドラインを定めている。マニュアルで

は、近年の金融革新に伴い、ブロードマネーや信用・債務集計量を重視していることを説明する。

(3) GDP 計測における政府・金融サービスの取り扱い

GDP 計測において、政府の生産が費用によって把握される一方、金融仲介機関については、間接的に計測される金融仲介サービス (FISIM) の方法によって計測されることを説明したうえで、経済変動を機動的に反映しない政府・金融サービスを含める GDP の特性について再考する。

7. 国際収支統計と貿易統計

(1) 国際収支統計の計上・作成方法

国際収支統計の枠組みや、国際的ガイドラインである IMF 国際収支統計マニュアルの改定について整理する。グローサーの国際収支発展段階説とマニュアル改定への対応を説明し、アジア太平洋地域の先進国・発展途上国について、何れの段階にあるのか議論する。また、国際収支の基礎統計について、我が国のように国際決済報告を用いる場合と、米英加豪のように企業サーベイを用いる場合について、各々のメリット・デメリットを整理する。

(2) 企業特性格別貿易統計と付加価値貿易統計

財貨別・相手国別の貿易統計に対し、貿易企業の異質性に着目する企業特性格別貿易統計について説明し、日本の貿易の特徴を欧米主要国と比較しつつ議論する。また、グローバルバリューチェーンの表章に関し、加工用財貨、仲介貿易、工場のない製造の取り扱いや、国民ベースの貿易統計を議論する。また、グローバルバリューチェーンに係る新たな指標として、OECD が開発した付加価値貿易指標の概要と活用方法を説明する。

(3) サービス供給のモード別分類

国際的なサービスの供給形態を第 1・2・3・4 モードに区分する枠組みについて整理し、デジタル貿易との関係について議論する。

8. 国際資本移動統計と移民統計

(1) 国際資金循環表 (グローバルフローオブファンズ) の作成

金融面では、G20 データギャップイニシアチブに基づき、グローバルフローオブファンズ (資金循環勘定の国際表化) への取り組みをみられる。こうした国際的な統計整備について、概観する。

(2) 多国籍企業に関する統計整備

多国籍企業の重要性の高まり、国境を越えた利益シフトに伴うマクロ統計の歪み等を踏まえ、多国籍企業、直接投資、特別目的会社に関する統計整備、雇用に与える影響について議論する。

(3) 労働者送金の統計整備

国境を越えた労働移動、これに伴う労働者送金の統計的把握について、近年のデジタルライゼーションに伴う国際送金手段の多様化も踏まえ、議論する。

9. 知識資本と資産境界

(1) SNA における無形資産と知識資本の概要

NA 改定にあたり、無形資産の範囲が徐々に拡大していることを説明したうえで、知識資本の概念との関係について議論する。

(2) 情報化投資、革新的資産、経済的競争力に係る無形資産の取り扱い

情報化投資として、ソフトウェア・データベース、データ、研究開発資産を、革新的資産として、芸術・娯楽の原本、マーケティング資産を、経済的競争力として、人的資本、組織構造変革を取り上げ、これらに係る無形資産の SNA での取り扱いや、日本での対応、GDP への影響等を議論する。

(3) 知識資本と生産性

付加価値を生産要素の投入で説明する生産関数、成長会計、全要素生産性の概念を説明し、その推計を示しつつ、生産性上昇の要因について議論する。また、全要素生産性変化の要因分析を照会しつつ、全要素生産性と技術進歩との関係を議論する。

10. デジタイゼーションの統計的把握

(1) デジタル SUT の整備

デジタル企業やデジタル生産物をどのように分類・整理するかを議論したうえで、これら産業連関表／供給使用表で明示する取り組みが、国際的に進められていることを説明し、米国、カナダ、オランダ等の取り組みを示す。

(2) デジタル取引・資産の把握

インターネットや SNS といった、デジタルフリー財をどのように扱うかといった論点や、NFT、暗号資産、FINTEC、情報銀行、といった、新たな資産や主体の統計的把握について議論する。また、デジタル取引や資産について、数量と価格を区別する方法を議論する。

(3) デジタルトランスフォーメーションの統計的把握

電子商取引への取り組みのほか、ビッグデータ分析、AI、クラウドコンピューティング、IoT、3Dプリンターの活用といった、ビジネスプロセスのデジタルトランスフォーメーションについて、統計的把握の意義と方法を議論する。

11. 不動産・住宅関連統計

(1) 土地・建物の統計的把握

土地・建物の統計的把握として、国民経済計算の貸借対照表の非金融資産評価のあり方を示す。日本については、家計、法人、政府が保有する建物・土地について、構造調査や動態調査が行われていることを説明する。この点、不動産登記や、市町村の固定資産税データといった行政記録の活用も議論する。

(2) 不動産価格指数

不動産取引の実情や統計作成可能性の観点から、ユーロスタット不動産価格指数マニュアルについて議論する。この際、不動産取引の実情や統計作成可能性の観点から、同マニュアルで推奨されているヘドニック法（国土交通省が開発した不動産価格指数も採用）と、米国 S&P ケース・シラー価格指数で用いられているリピートセールス法を比較検討する。また、欧州では、北欧諸国を中心に、自国の不動産についてセンサス調査を行い、人口、企業と並ぶレジスターを作成している国が少なくない。我が国でも、不動産ベースレジストリーを整備する動きがあることを説明する。

(3) 住宅に関する統計

生活の質を測る観点から、住宅や居住環境に関する統計や、OECD の幸福度指標と住宅・居住環境の関係について議論する。

12. 環境・災害統計

(1) 環境経済統合勘定

SNA の環境経済統合勘定や環境産業連関表の作成について説明したうえで、OECD が進めている、脱炭素の観点から経済活動の環境への影響を GDP に反映させる指標について議論する。

(2) 排出物や自然資産の統計的把握

OECD の幸福度指標と環境・災害の関係や、国連の SDG 指標に含まれる環境関連指標について説明するとともに、OECD による排出物の統計的把握の方法、世界銀行による自然資産を国富の一部として把握す

るアプローチについて検討する。

(3) 災害統計整備の国際的取り組み

SDG 指標に含まれる災害関連指標について説明するとともに、国連防災機関の主導により、東北大学災害統計グローバルセンターが進めている災害統計グローバルデータベースについて議論する。

1.3. 社会統計

(1) 医療・教育・雇用のマクロ的把握

医療・教育サービスの生産や価格変化、またその質の変化をどのように捉えるべきか、概念面・実務面から整理する。雇用については、国際労働機構が策定した雇用統計の国際的ガイドラインを踏まえ、労働力調査や賃金統計について議論する。賃金統計全般について、労働者の構成変化（高学歴化層の増加等）や、雇用形態の多様化（フリーランスの増加等）を反映する方法を検討する。

(2) 主観的統計の整備

OECD では、ウェルビーイング（幸福度）指標の整備を進めている。英国や大陸欧州諸国では、主観的統計の整備に積極的に取り組んでおり、社会経済への影響把握に活用されていることを説明する。

(3) 領域統合型世帯調査の実施

EUROSTAT による EU-SILC（所得・生活状態統計）、英国家計生活力調査、米国コミュニティサーベイといった、貧困・格差や医療・教育を含み生活の客観的状況や個人の満足度を総合的に把握する世帯統計調査について説明する。

1.4. デジタルツールを用いた統計作成

(1) 統計作成プロセスのモジュール化とそのデジタル化

オンラインによる統計データ収集方法の拡充や、デジタルツールの活用によるデータの収集・蓄積のモジュール化について、議論する。

(2) 行財政記録のデジタル化とその活用

行財政記録のデジタル化やマイクロデータリンケージについて、日本の状況や、米国、英国の事例、豪における SPINE 等、北欧における X-ROAD について議論する。

(3) 民間データ入手のデジタル化やビッグデータの利用

ビッグデータの活用による公的統計の補完・代替について議論する。特に、ウェブスクレイピングによる小売物価の把握や、企業間の電子データ交換（Electronic Data Interchange、EDI）を活用した在庫の把握等を議論する。

1.5. 期末試験

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への積極的参加・貢献（30%） 期末試験の成績（70%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

本講義全体をカバーするテキストはない。配布する講義資料に従って講義する。講義資料は、講義の前に、履修者がアクセスできる形にする予定である。

4-1 必携のテキスト

本講義全体をカバーするものではないが、以下の2つは、本講義の主要な部分をカバーしている。

西村清彦・山澤成康・肥後雅博『統計 危機と改革』（日本経済新聞社、2020年9月）

萩野覚『グローバル化の統計的把握』（三恵社、2022年4月）

4-2 その他

以下の英語文献は、日本の統計制度を震撼させた統計不正問題から日本の統計制度改革の状況を分析している。

Nishimura, Kiyohiko G., Masahiko Higo and Yuikie Sakuragawa "Reforms and Crises in Government Statistics: The Case of Japan," *Asian Economic Papers*, 19 (2), pp.21-37, 2020.

以下の英語文献は、グローバルフローオブファンズ作成や、付加価値貿易指標精緻化を目的とする産業連関表の拡張について検討している。

Hagino, Satoru and Jiyoung Kim "Compilation and Analysis of International From-Whom-to-Whom Financial Stock Table for Japan, Korea, the United States, and China," *Journal of Economic Structures*, No.23, 2021.

Hagino, Satoru and Jiyoung Kim "The Usefulness of Extended Input-output Tables Incorporating Firm Heterogeneity," *Journal of Economic Structures*, No.25, 2021.

以下の英語文献は、不動産価格指数の理論や作成実務について検討している。

Diewert, W. Erwin, Kiyohiko G. Nishimura, Chihiro Shimizu, Tsutomu Watanabe, *Property Price Index: Theory and Practice*, Springer Advances in Japanese Business and Economics, Vol.11, 2020.

5. 履修上の注意/Note:

本講義は、8月19日開講の、土曜日5週間の集中講義なので、履修登録期間中に講義はない。このため、履修を希望する者は、このシラバスを熟読し、そして4-1及び4-2に載せた文献を参照して、履修するかどうかを決めてほしい。受講にあたっては、基礎的なマクロ・ミクロ経済学の学習を終えていることが望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV5910E

科目名/Course Name: Leadership and Knowledge Creation

担当教員/Instructor: 西原 文乃/NISHIHARA Ayano

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Knowledge creation and innovation are the key drivers for creating new and sustainable value for both business and society. In the VUCA world today with the COVID-19 pandemic and global climate crisis, etc., it is becoming more and more important to create new knowledge for innovation with wise leadership. In such context, this course aims at making students to; a) understand the theory and the practice of knowledge creation and innovation, and b) apply them to the actual situation as a leader.

This is an active learning course in which students will; a) learn theory and concepts on knowledge creation and innovation, b) understand their practices through case studies, and c) apply them to the actual situation in the final project. Students are requested to share and utilize their knowledge and experience gained from the work experiences and the other courses.

In addition, this course will touch upon some of the goals of SDGs, such as Goals 3 (Good health and well-being), 8 (Decen work and economic growth), 11 (sustainable cities and communities), 12 (responsible consumption and production) and 18 (partnership for the goals).

Students are requested to do pre-assignments (read material, watch videos, or do research, etc) before coming to the class and submit reaction after the class.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

15 sessions are currently planned as below.

1. Course orientation and introduction
2. Knowledge Creation Theory: Knowledge
3. Knowledge Creation Theory: SECI
4. Guest Speaker
5. Knowledge Creation Theory: Ba and Ecosystem
6. Knowledge Creation Theory: Dynamic Model
7. Gemba Watching
8. Concept Creation Workshop 1
9. Knowledge Creation Theory: Wise Leadership 1
10. Knowledge Creation Theory: Wise Leadership 2
13. Guest Speaker
11. Knowledge Creation Theory: Social Innovation 1
12. Knowledge Creation Theory: Social Innovation 2
14. Concept Creation Workshop 2

15. Wrap-up: Relentless pursuit

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class contribution (20%)

After class reaction (20%)

Final Presentation (30%)

Final report (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1. To be advised in class

4-2. Supplement readings

Knowledge Creation in Public Administrations: Innovative Government in Southeast Asia and Japan

Knowledge Creation in Community Development: Institutional Change in Southeast Asia and Japan

Ikujiro, N., & Takeuchi, H. (1995). *The knowledge-creating company: How Japanese companies create the dynamics of innovation*. Oxford University Press.

Nonaka, I., & Takeuchi, H. (2019). *The wise company: How companies create continuous innovation*. Oxford University Press.

Nonaka, I., Toyama, R., & Hirata, T. (2008). *Managing flow: A process theory of the knowledge-based firm*. Springer.

Takeuchi, H., & Nonaka, I. (1986). The new new product development game. *Harvard business review*, 64(1), 137-146.

Nonaka, I., & Takeuchi, H. (1991). The knowledge-creating company. *Harvard business review*, November-December 1991.

Nonaka, I., & Konno, N. (1998). The concept of Ba: Building a foundation for knowledge creation. *California management review*, 40(3), 40-54.

Nonaka, I., Toyama, R., & Konno, N. (2000). SECI, Ba and leadership: a unified model of dynamic knowledge creation. *Long range planning*, 33(1), 5-34.

Nonaka, I., & Toyama, R. (2003). The knowledge-creating theory revisited: knowledge creation as a synthesizing process. *Knowledge Management Research & Practice*, 1(1), 2-10.

Nonaka, I., & Toyama, R. (2005). The theory of the knowledge-creating firm: subjectivity, objectivity and synthesis. *Industrial and corporate change*, 14(3), 419-436.

Nonaka, I., & Toyama, R. (2007). Strategic management as distributed practical wisdom (phronesis). *Industrial and corporate change*, 16(3), 371-394.

Nonaka, I., & Takeuchi, H. (2011). The wise leader. *Harvard business review*, 89(5), 58-67.

Nonaka, I., & Hirose, A. (2015). Practical strategy as a co-creating collective narrative: A perspective of organizational knowledge-creating theory. *Kindai Management Review*, 3, 9-24.

Further supplement readings will be introduced in class.

5. 履修上の注意/Note:

Depending on the size of the class, contents of the course may be changed.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6100J

科目名/Course Name: 政策過程論特別演習 (Special Seminar for Policy Process)

担当教員/Instructor: 飯尾 潤/IIO Jun

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義は、主として博士課程の学生を念頭においたフィールド・セミナーであって、政策過程論に関する文献（主として英語文献）を読破し、それを前提に討論を行い、政策過程論の考え方を身につけることを目的とする。この授業に参加することで、政策過程論についての基本的な考え方を深く理解するとともに、自ら研究を進めるための分析枠組みなどを作り出す能力をつけることを目指している。なお、SDGs に関しては、目標 16 あるいは目標 17 に関連している

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

初回は、科目の狙いや授業の進め方（レポート作成の仕方など）を示すとともに、政策過程論の概要について講義する。また、受講者の関心に応じて、取り上げる課題や文献を調整する予定である。第2回以降は、適宜講義を織り込みながら、初回の相談に基づいて課題文献を配当し、受講者が毎回それに関するレジュメを提出し、それをもとに質疑応答や討論を行うことで進行する。文献を精読することで、理論的な発想を理解していくことを目指している。

3. 成績の評価方法/ Grading:

評価方法は、出席して報告することに対する評価点を 80%、期末の課題に対するレポートの評価点を 20%として、合算して評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

使用する文献に関しては、初回に参加者の研究課題などに応じて取捨して、その上で調整して指定する。現時点では、次のような文献から選択することを想定している。

* Christopher M. Weible and Paul A. Sabatier eds. *Theories of The Policy Process* 4th ed., Routledge, 2018

* John Kingdon, *Agendas, Alternatives, and Public Policy* 2nd ed., Pearson Pub., 2011 (ジョン・キングダン『アジェンダ・選択し・公共政策』勁草書房、2017)

* Michael Howlett, *Designing Public Policies* 2nd ed., Routledge, 2019

* James Mahony and Kathleen Thelen eds., *Explaining Institutional Change*, Cambridge U.P. 2010

* Mathew D. McCubbins and Thomas Schwartz, "Oversight, Overlooked: Police Patrols versus Fire Alarms," *American Journal of Political Science*, Vol.28., No.1 (1984)

5. 履修上の注意/Note:

博士課程の在籍する学生を主な対象としているが、修士課程に在籍する学生で、博士課程進学を考えているとか、特にこの分野を深く掘り下げて勉強したいという学生は参加を認めることがあるので、希望者は、初回に出席して申し出ること。また、参加者は原則として、政策過程論の講義を受講する（した）

ことが求められる。なお、少人数講義であるために、参加者の都合を聞いたうえで、週によって授業時間を変更することがある。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6110J

科目名/Course Name: 日本政治研究特別演習 (Special Seminar for Japanese Politics)

担当教員/Instructor: 竹中 治堅/TAKENAKA Harukata

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本演習は、現代日本政治について理解を深めること、特に日本の権力構造の理解を深めることを目的とする。そのために、主要な日本語および英語文献を講読する。現代日本政治は比較政治論全体でおこなわれる議論の影響を次第にうけるようになってきている。従って、まず、特に関連するテーマについて比較政治論における主要な議論を取り上げる。その後、現代日本政治の各論を取り上げる。演習の進め方は次の通りである。毎回、発表の担当者を決める。発表者は、下に記す内容をまとめた発表を行う。発表を行わない受講者は毎回、議論を A4 1 枚程度に簡潔にまとめたものを提出する。発表者、発表を行わない受講者ともに前日の 10 時までにメールで提出する。当日はコピーを用意し、受講者全員に配布する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 ガイダンス

第2回 民主主義と統治制度

第3回 統治制度の見方

第4回 政治家と政党

第5回 選挙制度と政党システム、政党規律

第6回 日本の統治構造

第7回 日本の国会

第8回 1955 年体制とその崩壊

第9回 1990 年代以降の政治

第10回 首相

第11回 政党システムと政党の変容

第 12 回 政治改革後の政党制(1)

第 13 回 政治改革後の政党制(2)

第 14 回 大臣、国会議員

第 15 回 政官関係

第 16 回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

特に試験は行わない。毎回、発表及び要約をもとに判定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

アレンド・ライプハルト. 2005. 『民主主義対民主主義』. 勁草書房.

Richard Fenno. 1978. Home Style. House Members in their Districts. New York: Harper Collins.

Gary Cox. 1997. Making Votes Count. Cambridge: Cambridge University Press.

飯尾潤.2007. 『日本の統治構造』.中公新書

竹中治堅.2006. 『首相支配』 中公新書

竹中治堅.2010. 『参議院とは何か 1947～2010』 中央公論新社

Ellis S. Krauss and Robert J. Pekkanen.2011. The Rise and Fall of Japans LDP. Ithaca. Cornell University Press.

竹中治堅.2020. 『コロナ危機の政治』 中公新書 など。

週ごとの読書課題リストは初回時に提示する。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6210E

科目名/Course Name: International Political Economy Workshop

担当教員/Instructor: CHEY Hyoung-kyu/CHEY Hyoung-kyu

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course is a PhD seminar course, which explores the major theoretical debates in the study of International Political Economy (IPE) through the intensive reading and discussion of select works. The primary goals of this course are to strengthen students' theoretical and methodological capacities for the study of IPE, and to thereby help them to design their own research frameworks.

This course is related to Goal 16 (Peace, Justice and Strong Institutions) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1. Introduction of the course and organization of seminars

Week 2. How to design causal inferences (I)

Week 3. How to design causal inferences (II)

Week 4. Case study methods

Week 5. Qualitative vs. quantitative research

Week 6: Traditional approaches to IPE: Mercantilism, economic liberalism and Marxism

Week 7: Systemic approaches to IPE (I): Realism

Week 8: Systemic approaches to IPE (II): Neoliberal institutionalism

Week 9: Domestic approaches to IPE (I): Interest-based approach

Week 10: Domestic approaches to IPE (II): Institutional approach

Week 11: Transnational approaches to IPE

Week 12: Rationalism vs. constructivism

Week 13: American IPE vs. British IPE

Week 14: Globalizing IPE

Week 15: Student presentations of PhD research proposals

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To be announced later.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Basic texts:

King, Gary, Robert O. Keohane and Sidney Verba. (1994). *Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research* (Princeton: Princeton University Press).

Johnson, Janet Buttolph, H. T. Reynolds and Jason D. Mycoff. (2020). *Political Science Research Methods*, 9th

Edition (Sage).

Cohen, Benjamin J. (2008). *International Political Economy: An Intellectual History* (Princeton: Princeton University Press).

Oatley, Thomas. (2023). *International Political Economy*, 7th edition (New York and London: Routledge).

Ravenhill, John., ed. (2020). *Global Political Economy*, 6th edition (Oxford: Oxford University Press).

5. 履修上の注意/Note:

A more detailed version of the syllabus, which will include the discussion topics and suggested reading of each week, will be announced later.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6220E

科目名/Course Name: Strategic Studies Research Seminar

担当教員/Instructor: 道下 徳成/MICHISHITA Narushige

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to allow students to better understand methods for conducting a doctoral-level study in security issues. In the class, we will discuss (a) how to use different source materials, (b) how to use different analytical tools, and (c) practical policy issues.

In addition, students will be asked to participate in a crisis simulation game designed to enhance their understanding of the difficulties involved in security decision-making.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1: Introduction

Session 2: Writing a Good Political Science Dissertation

Required reading

Stephen Van Evera, Guide to Methods for Students of Political Science (Cornell University Press, 1997), all chapters [311.16 V26].

Required work

Make a 15-minute presentation in the class on your dissertation discussing the following issues.

Q1. What is/are the laws, hypotheses, theories, and explanations that you are to prove?

Q2. What are the independent and dependent variables as well as intervening/condition variables if any?

Q3. Do you have a good hypothetical theory, tested against the seven attributes listed on pp. 17-21?

Q4. Which of the nine theory types does your theory fall into?

Q5. Is your dissertation going to be a large-N "statistical" analysis or case-study analysis, or a combination of the two?

Q6. If you are using cases, which of the following do they fall into, a) controlled comparison, b) congruence procedures, or c) process tracing? In each case, what will your cases prove?

Q7. Which of the ten types of case studies does yours fall into?

Q8. Which of the eight types of the dissertation does yours fall into?

What is Academic Contribution?

a) New facts, new materials, and sources (Declassified documents, archival discoveries, foreign language materials)

b) New interpretation (replacement or supplement) based on the same available information

c) New subject/topic/issue

*If you have all of them, it is going to be a great dissertation!

Session 3: Source Materials - Archival Materials, Official Documents, Diaries, Memoirs, Oral History, and Interviews

Required reading

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), ch. 3 "The Pueblo Incident." [392.21 Mi13]

U.S. Department of State, *Foreign Relations of the United States, 1964-1968*, vol. 29, part 1, Korea (Washington, D.C., U.S. Government Printing Office, 2000), document nos. 217, 218, 220, 221, 223, 225, 226, 235, 237, 247, 256. Central Intelligence Agency, Center for the Study of Intelligence, "Looking for the Pueblo," .

"On the current problems of the international situation and on the struggle of the CPSU for the unity of the international communist movement," Excerpt from a speech by Leonid Brezhnev at the April (1968) CC CPSU Plenum, April 9, 1968, in Sergey S. Radchenko, "The Soviet Union and the North Korean Seizure of the USS Pueblo: Evidence from Russian Archives," *Cold War International History Project*, Woodrow Wilson International Center for Scholars, Working Papers Series #47, pp. 61-68 .

Kim Il Sung, "On Making Good Preparations for War so as to Cope with the Prevailing Situation," March 21, 1968, in *Kim Il Sung Works*, vol. 22, 2d ed. (Pyongyang: Foreign Languages Publishing House, 1992) [available at Moodle]. Christian F. Ostermann and James F. Person, eds., *Crisis and Confrontation on the Korean Peninsula, 1968-1969: A Critical Oral History* (Woodrow Wilson International Center for Scholars, 2011), pp. 17-59.

Recommended reading

"Findings of Fact, Opinions and Recommendations of a Court of Inquiry, Convened by Order of Commander in Chief, United States Pacific Fleet to Inquire into the Circumstances relating to the Seizure of USS Pueblo (AGER-2) by North Korean Naval Forces which Occurred in the Sea of Japan on 23 January 1968 and the Subsequent Detention of the Vessel and the Officers and Crew," from Harold G. Bowen, Jr. to Commander in Chief, U.S. Pacific Fleet, April 9, 1969; U.S. Congress, House, Hearings before the Special Subcommittee on the U.S.S. Pueblo of the Committee on Armed Services, *Inquiry into the U.S.S. Pueblo and EC-121 Plane Incidents*, 91st Congress, First Session, March 4, 5, 6, 10, 14, 17, 19, 20, April 25, and 28, 1969, H.A.S.C. no. 91-101 (Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1969), pp. 669-672, 790-791.

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How do you evaluate the relative strengths and weaknesses of different source materials?

Q2. Discuss two important discrepancies between different sources.

Q3. Discuss what kind of materials you are planning to use in your dissertation. (It would be nice if you could come up with preliminary bibliography.) What are the strengths and weaknesses?

Session 4: Assessing Military Crises

Required reading

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), pp. 145-162.

(If you can read Japanese or Korean, better read the following: 道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年、プロローグ、第8章 or 『북한의 벼랑 끝 외교사, 1966-2013년』

이원경 옮김, 한울, 2014년, 제8장, 보론)

Recommended reading

ROK Ministry of National Defense, "Naval Campaigns in the Northern Limit Line (NLL) Waters," "Attack against the ROKS Cheonan," and "Artillery Firing at Yeonpyeongdo [Island]", in 2010 Defense White Paper (Seoul: Ministry of National Defense, 2010), pp. 314-336.

Required work in the class

No presentation is required. Participate in class discussions.

Session 5: Negotiating Nuclear Deals Comparing the 1994 Agreed Framework and the 2007 Action Plan

Required reading

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), chapters 6 and 9.

(If you can read Japanese or Korean, better read the following: 『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』

ミネルヴァ書房、2013年、第6章、第9章, or 『북한의 벼랑 끝 외교사, 1966-2013년』이원경 옮김, 한울,

2014년, 제6장, 제9장.)

For the 1994 nuclear deal, read:

Don Oberdorfer, *The Two Koreas: A Contemporary History* (Addison-Wesley, 1997), pp. 281-368.

For the 2007 nuclear deal, read:

Mike Chinoy, *Meltdown: The Inside Story of the North Korean Nuclear Crisis* (St. Martin's Press, 2010), pp. 305-366.

Recommended reading

Joel S. Wit, Daniel B. Poneman, and Robert L. Gallucci, *Going Critical: The First North Korean Nuclear Crisis*, Brookings Institution Press, 2004.

Yoichi Funabashi, *The Peninsula Question: A Chronicle of the Second Korean Nuclear Crisis* (Brookings Institution, 2007). (or 船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン——朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年。)

ケネス・キノネス『北朝鮮——米国務省担当官の交渉秘録』伊豆見元監修、山岡邦彦・山口瑞彦訳、中央公論新社、2000年。

Required work in the class

One person makes a 10-minute presentation on the 1994 nuclear deal and another person on the 2007 deal.

Session 6: Simulation Game "A Mouse that Roared" (1)

Session 7: Simulation Game "A Mouse that Roared" (2)

Required reading

Fact sheets will be distributed.

Recommended reading

Required work in the class

Participate in the simulation game and try to outdo the other team.

Session 8: Consequences of Power Shift

Required reading

Paul Kennedy, *The Rise and Fall of the Great Powers: Economic Change and Military Conflict from 1500 to 2000* (Random House, 1987), chapter 5 [332 Ke48].

Aaron Friedberg, *The Weary Titan: Britain and the Experience of Relative Decline, 1895-1905* (Princeton University Press, 1988), all chapters [319.33 F47].

Stephen R. Rock, *Why Peace Breaks Out: Great Power Rapprochement in Historical Perspective* (University of North Carolina Press, 1989), chapters 1, 2, and 6 [319.8 R57].

Recommended reading

Robert Ross, "The 1996 Taiwan Strait Confrontation: Coercion, Credibility and Use of Force," *International Security*, Vol. 25, No. 2 (Fall 2002), pp. 87-123.

Thomas J. Christensen, "Fostering Stability or Creating a Monster? The Rise of China and U.S. Policy toward East Asia," *International Security*, Vol. 31, No. 1 (Summer 2006), pp. 81-126.

Aaron L. Friedberg, "The Future of U.S.-China Relations: Is Conflict Inevitable?" *International Security*, Vol. 30, No. 2 (Fall 2005), pp. 745.

G. John Ikenberry, *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Rebuilding of Order after Major Wars* (Princeton University Press, 2001), chapters 1-3, 6-8.

Michael E. Brown, et al., ed., *The Rise of China (International Security Readers)* (The MIT Press, 2000)

Michael E. Brown, Sean M. Lynn-Jones, and Steven E. Miller, eds., *East Asian Security (An International Security*

Reader) (The MIT Press, 1996).

Jessica T. Mathews, "Power Shift," in Robert J. Art and Robert Jervis, eds., *International Politics: Enduring Concepts and Contemporary Issues* (New York: HarperCollins, 2000), pp. 534-546.

Gordon A. Craig and Alexander L. George, *Force and Statecraft* 3rd ed. (New York: Oxford University Press, 1995)

Robert J. Art and Robert Jervis, editors, *International Politics: Enduring Concepts and Contemporary Issues* 5th ed. (New York: Longman, 2000)

Stephen Walt, "Alliances: Balancing and Bandwagoning," in Art & Jervis, *International Politics*, pp. 110-117.

Robert O. Keohane, "Big Influence of Small Allies," *Foreign Policy* no. 2 1971, pp. 161-82.

Glen Snyder, *Alliance Politics* (Ithaca: Cornell University Press, 1997)

Gerald Segal, "East Asia and the "Containment of China," Michael Brown, ed., *East Asian Security* (Cambridge: MIT Press, 1996), pp. 159-187.

Robert S. Ross, "Engagement in US China Policy," in Robert S. Ross, ed., *Engaging China: The Management of an Emerging Power* (London: Routledge, 1999), pp. 176-206.

Robert J. Art, "The Four Functions of Force," Thomas Schelling, "The Diplomacy of Violence," Robert O. Keohane and Joseph S. Nye, "Complex Interdependence and the Role of Force" in Art & Jervis, pp. 156-183, 229-244.

The rise of China and regional response

Michael Sheehan, *Balance of Power* (Routledge, 1995).

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How do Kennedy, Friedberg, and Rock agree or disagree as to how the United States successfully took over supremacy from Britain in a relatively peaceful manner? Whose work do you like best and why?

Q2. In your opinion, what kind of factor(s) made the successful power shift possible?

Q3. Does any of the materials have any implication and/or relevance for your dissertation? If so, what is it?

Session 9: Utility of International Regimes and Institutions

Required reading

Etel Solingen, *Nuclear Logics: Contrasting Paths in East Asia and the Middle East* (Princeton Studies in International History and Politics) (Princeton University Press, 2007), pp. 1-53, 249-299, and case study chapters on Japan, South Korea, and North Korea [319.8 So33].

Recommended reading

Michael E. Brown, et al., ed., *Going Nuclear: Nuclear Proliferation and International Security in the 21st Century* (International Security Readers) (The MIT Press, 2010).

Keohane, Robert O. *After Hegemony: Cooperation and Discord in the World Political Economy*. Princeton: Princeton University Press, 1984.

Krasner, Stephen D., ed. *International Regimes*. Ithaca and London: Cornell University Press, 1983.

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How does Solingen explain the non-nuclear policy of Japan and South Korea? How does she explain North Korea's decision to go nuclear?

Q2. Where does her argument fit in the spectrum of international relations theories?

Q3. Are you going to use some of the methods and approaches that Solingen used in her book? If so, what are they and how would you operationally incorporate them in your dissertation?

Q3. What are the weaknesses of her argument? If you are asked to challenge her argument, how would you do that?

Q4. How would it be possible to improve her argument?

Session 10: Perception and Norms in International Politics

Required reading

Jacques E. C. Hymans, *The Psychology of Nuclear Proliferation: Identity, Emotions and Foreign Policy* (Cambridge University Press, 2006), pp. 1-84, 204-235, and one case study chapter [319.8 H99].

Nina Tannenwald, *The Nuclear Taboo: The United States and the Non-Use of Nuclear Weapons Since 1945* (Cambridge Studies in International Relations) (Cambridge University Press, 2007), pp. 1-72, 327-396, and one case study chapter [392.53 Ta88].

Recommended reading

Chapter 9 "Securitization," in Alan Collins, *Contemporary Security Studies*, 2nd ed. (Oxford University Press, 2010).

Robert Jervis, *Perception and Misperception in International Politics* (Harvard University Press, 1976).

Robert Jervis, "Hypotheses on Misperception," *World Politics* (April 1968)

Required work

Read one of the required books and make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. What does the book say?

Q2. What are the strengths and weaknesses of the argument?

Q3. Does this book have any implication and/or relevance for your dissertation? Does your dissertation deal with the issue of perception? If so, what is that and what is your methodology to analyze that?

Nuclear taboo

Security communities = Variant of constructivism

"Securitization/de-securitization" = More a policy action/measure than an analytical tool. How are they different from "vital national security interest/issue"?

Session 11: Bringing Area Studies Back In

Required reading

Hans Kristensen, "Japan Under the US Nuclear Umbrella," <http://oldsite.nautilus.org/archives/library/security/papers/Nuclear-Umbrella-1.html>.

Byung-Kook Kim, ed., *The Park Chung Hee Era: The Transformation of South Korea* (Harvard University Press, 2011), chapter 17 [312.21 Ki31].

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), ch. 9 "Nuclear Diplomacy, Round Two, 2002-2008." [392.21 Mi13]

Recommended reading

John B. Hattendorf and Peter M. Swartz, eds., *U.S. Naval Strategy in the 1980s: Selected Documents* (Naval War College Newport Papers, 2008), pp. 45-104.

Kent E. Calder, *Embattled Garrisons: Comparative Base Politics and American Globalism* (Princeton University Press, 2008), chaps. 1-5 [392.53 C13].

Paul Collier, *The Bottom Billion: Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It* (Oxford University Press, 2007).

Zbigniew Brzezinski, *The Grand Chessboard: American Primacy And Its Geostrategic Imperatives* (Basic Books, 1998).

John M. Collins, *Military Geography for Professionals and the Public* (Brassey's, 1998).

Katsuhisa Furukawa, "Nuclear Option, Arms Control, and Extended Deterrence: In Search of a New Framework for Japan's Nuclear Policy," in Benjamin L. Self and Jeffrey W. Thompson, eds., *Japans Nuclear Option: Security, Politics, and Policy in the 21st Century* (The Henry L. Stimson Center, December 2003) [Obtain this from the instructor].

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How do you compare Solingen's analysis of Japan, South Korea, and North Korea cases with the area-studies-based explanations provided by Kristensen, Hong, and Michishita?

Q2. What are the strengths and weaknesses of the area-studies approach?

Q3. Does any of the materials have any implication and/or relevance for your dissertation? If so, in what way?

Session 12: Country Security Policy (1) Presentation

Required reading

Recommended reading

Required work in the class

A designated presenter will make a 20-minute presentation on the session topic in the class and participate in

discussions.

Session 13: Country Security Policy (2) Presentation

Required reading

Required work in the class

A designated presenter will make a 20-minute presentation on the session topic in the class and participate in discussions.

Session 14: Country Security Policy (3) Presentation

Required reading

Presenters must identify books and articles, and notify the instructor and other students ASAP.

Required work in the class

A designated presenter will make a 20-minute presentation on the session topic in the class and participate in discussions.

Session 15: Wrap-up

3. 成績の評価方法/ Grading:

Presentations (50%)

Participation in discussions (40%)

Performance in simulation games (10%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please see the 2. Course Outline

5. 履修上の注意/Note:

Students may contact the instructor either by simply talking to him after class or by sending e-mails to

bya04745@nifty.com. If urgent, you can call me at 090-5491-0170.

Students interested in taking this course are requested to send via e-mail his/h

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6300E

科目名/Course Name: State and Governance

担当教員/Instructor: 高木 佑輔/TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In an age of globalization, states may experience economic growth without functional institutional arrangements to mitigate the byproducts of growth, such as income gap and environmental deterioration. How to govern the growth? What kinds of state and state systems do we have? In this course, we go back to history to understand the origin of the modern nation state and state system in the current developed economy as well as the development of state and state systems in the rest of the world. The course aims to show a clearer picture of state and governance in the world.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: State and State System

Tilly, Charles. 1992. *Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992*, Rev. ed. Cambridge: Blackwell. (Chap. 1, 3, 5)

State and Political Development

Fukuyama, Francis. 2014. *Political Order and Political Decay*. London: Profile Books. (Introduction, Chap. 1, 35 and 36).

Week 4: State and Nationalism

Anderson, Benedict. 1991. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*, Rev. ed. London: Verso. (Chap. 3 to 6)

Week 5: State and Economic Development

Evans, Peter. 1995. *Embedded Autonomy: States and Industrial Transformation*. Princeton: Princeton UP. (Chap. 1 to 3)

Week 6: Mid-term presentation and consultation I

Week 7: Mid-term presentation and consultation II

Week 8: Authoritarianism

Frantz, Erica. 2018. *Authoritarianism: What Everyone Needs to Know*. Oxford: Oxford UP. ()

Week 9: Counter-authoritarianism?

Larry Diamond 2019. *Ill Winds: Saving Democracy from Russian Rage, Chinese Ambition, and American Complacency*. Penguin Press. (Chaps. 1, 11, and 12)

Week 10: Varieties of State Capacity

Centeno, M. A., Atul Kohli, and Deborah J. Yashar. eds. 2017. *States in the Developing World*. Cambridge: Cambridge UP. (Chap. 1, 14, and 15)

Week 11: Varieties of liberalization

Thelen, Kathleen. 2014. *Varieties of Liberalization and the New Politics of Social Solidarity*. Cambridge: Cambridge UP. (Chap. 1, 5, and 6)

Week 12: Varieties of social policy

Haggard, Stephen and Robert R. Kaufman. 2008. *Development, Democracy and Welfare States: Latin America, East Asia, and Eastern Europe*. Princeton: Princeton UP, (Introduction, Chap. 1 and 5)

Week 13: Varieties of Regions

Katzenstein, Peter J. 2005. *A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium*. Ithaca: Cornell UP. (Ch. 1, 2, and 4)

Week 14: Developmental State Building

Baldwin, Richard. 2016. *The Great Convergence*. Harvard University Press. (Ch. 5 and 9)

Week 15: the Developmentalist States in Africa

Akbar Noman, Kwesi Botchwey, Howard Stein, Joseph E. Stiglitz. eds. 2012. *Good Growth and Governance in Africa: Rethinking Development Strategies*. Oxford: Oxford UP. (Ch. 1, 10, and 13).

3. 成績の評価方法/ Grading:

Classroom discussion in general (40%)

Students are required to read a certain portion of a book in each class (approximately 2 to 3 chapters) and to kick off classroom discussion by asking questions or criticizing the reading. The instructor mainly plays the role of a facilitator of the discussion, though he gives them guiding questions to understand each reading's main points, weakness, or strength.

*Tips to make questions and comments

1. Sort out the reading to figure out the topic, research questions, argument/hypothesis, methodology/data, and academic contribution.
2. Think about the points you find interesting, not interesting, and don't understand why you see them in particular ways.
3. Ask if the structure, case/data selection are supportive or counter supportive. What would you do if you were the author?
4. To structure your statement with CCF/NLC: Conclusion Comes First / Numbering, Labeling and Contents.

Presentation (20%)

In weeks 6 and 7, students are required to present their research (15mins), which has something to do with the course. Topic, research questions, argument/hypothesis, methodology/data, and academic contribution are to be clearly presented.

Term paper (40%)

A week after the final meeting, students are required to submit their term paper (no less than 2000 words). Topic,

research questions, argument/hypothesis, methodology/data, and academic contribution are to be clearly written.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

See the materials assigned above.

5. 履修上の注意/Note:

Topics and schedule above are subject to change.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6460E

科目名/Course Name: Advanced International Relations in East Asia

担当教員/Instructor: 高木 佑輔/TAKAGI Yusuke

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In this course, we study dynamic and complex international relations in Asia Pacific/East Asia/Indo-Pacific. Various policymakers and stakeholders have interacted with each other to achieve their particular goals, which are shaped by the forces of globalization, regionalization/regionalism, and nationalism. The course pays special attention to the grand strategies of several states and their historical evolution. Students are expected to attend all the lectures, do required readings, give constructive comments on the MA students' presentations in the week 14 and 15, and submit a term paper.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- Week 1: Organizational Meeting

- Week 2: International Orders in History

Ikenberry, G. John. 2001. Ch. 1 The problem of order and Ch. 2 Varieties of order: Balance of power, hegemonic, and constitutional. In *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Building of Order after Major Wars*. Princeton: Princeton UP.

- Week 2: International Orders in History

Ikenberry, G. John. 2001. Ch. 3 An institutional theory of order formation. In *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Building of Order after Major Wars*. Princeton: Princeton UP.

- Week 4 Grand Strategy: Ideas and Practices

Trubowitz, Peter. 2011. "Ch. 2 Grand Strategy's Microfoundations". In *Politics and Strategy: Partisan Ambition and American Statecraft*. Princeton: Princeton UP.

- Week 5: Power Politics

Mearsheimer, John J. 2014. Introduction and Ch. 10 Can China Rise Peacefully? In *The Tragedy of Great Power Politics*. Updated ver. New York: W.W. Norton.

Bailes, Alyson J. K., Jean-Marc Rickli, and Baldur Thorhallsson. 2014. "Small States, Survival and Strategy." In *Small States and International Security: Europe and Beyond*, edited by Clive Archer, Alyson J. K. Bailes, and Anders Wivel, 2645. London: Routledge.

- Week 6: A World of Regions

Katzenstein, Peter J. 2005. Ch. 1 American Power in World Politics, Ch. 2 Regional Orders, and Ch. 4 Regional Orders in Economy and Security. In *A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium*. Ithaca: Cornell UP.

- Week 7: Globalization

Baldwin, Richard. 2016. Ch. 5 What's Really New?, Ch. 9. Rethinking Development Policy. In *The Great Convergence*. Harvard University Press.

- Week 8: Review and consultation on presentation

- Week 9 the U.S.

Brands, Hal. 2014. Ch. 1 Golden Age Revisited, Ch. 4. The Dangers of Being Grand. In *What Good is Grand Strategy: Power and Purpose in American Statecraft from Harry S. Truman to George W. Bush*. Ithaca: Cornell UP.

Silove, Nina. 2016. "The Pivot before the Pivot" *International Security* 40 (4), 45-88.

- Week 10: China

Doshi, Rush. 2014. Introduction, Ch. 1 Coherent body of thought and action: Grand strategy and hegemonic order, Ch. 2 The Party leads everything: Nationalism, Leninism, and the Chinese Communist Party. In *The Long Game: Chinas Grand Strategy to Displace American Order*. Oxford: Oxford University Press.

- Week 11: Japan

Katada, Saori. 2020. Introduction, Ch. 1 Japan's Regional Geoeconomic Strategy, Ch.2 Foreign Economic Policy, Domestic Institutions, and Regional Governance. In *Japan's New Regional Reality: Geoeconomic Strategy in the Asia-Pacific*. NY: Columbia UP.

- Week 12: Australia

Medcalf, Rory. 2020. Ch. 1. Of Names, Maps and Power, Ch. 4. Rise of the Indo-Pacific. In *Indo-Pacific*

Empire: China, America and the Contest for the World Pivotal Region. Manchester: Manchester UP.

- Week 13: India

Scott, David, "India's 'extended neighborhood' concept: Power projection for a rising power" *India Review*, 8(2), 2009: 107-143.

Chacko, Priya, "The rise of the Indo-Pacific: Understanding Ideational change and continuity in India's Foreign Policy" *Australian Journal of International Affairs*, 68(4), 2014: 433-452.

Ngaihiakching and Amba Pande, "India's Act East Policy and ASEAN: Building a Regional Order through Partnership in the Indo-Pacific, *International Studies*, 57 (1), 2020: 67-78.

- Week 14 Student Presentation I

- Week 15 Student Presentation II

3. 成績の評価方法/ Grading:

- Classroom discussion in general (50%)

Students are required to read a particular portion of a book in each class (approximately 2 to 3 chapters) before the class. Our discussions start with a "cold call." I will ask two or three of you to share your feedback on the reading. Subsequently, we will move to one or two additional questions without cold calls. I mainly play the role of a facilitator of the discussion, though I give you guiding questions to understand the main points, weaknesses, or strengths of each reading.

- Comments on presentation (10%)

On the week 14 and 15, Ph.D. students are required to be discussants for the presentation given by the research groups.

- Term paper (40%)

A week after the final meeting, students are required to submit their term paper (no less than 2000 words).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

See the materials assigned above.

5. 履修上の注意/Note:

The topics and schedule above are subject to change.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6461E

科目名/Course Name: The Making of Modern Japan (Advanced)

担当教員/Instructor: 北岡 伸一, PRESSELLO Andrea/KITAOKA Shinichi and PRESSELLO Andrea

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course examines major issues in the process of Japans transformation from a feudal society into a modern country in the period between the 19th century and World War II. The focus is on the interplay between Japanese domestic politics, foreign policy, and the changing international relations in East Asia. The Japanese intellectuals perception of the issues and challenges in Japans modernization are also discussed in the course. No background knowledge on these issues is required. Students from different countries are highly encouraged to register for this course; the diverse perspectives that they can contribute is expected to enrich the discussion of Japans experience of modernization. Students with limited English language ability are also welcome. During the course, some videos will be shown and one class might be held in the form of a visit to a site related to the contents of the course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction

Legacies of the Edo period (1603-1868)

Opening of Japan and the Downfall of the Bakufu, 1853-1868

Building a New Nation, 1868-1878

The Intellectuals: Fukuzawa Yukichi and Nakae Chomin

Meiji Constitution

Rise of Political Parties

Field Trip

Sino-Japanese War and Russo-Japanese War, 1894-1905

Relations with the United States

World War I

Rise of Militarism

Road to Pearl Harbor

Presentation on the Term Paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term paper: 50%

Participation in class: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Kitaoka, Shinichi. The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics, Routledge, 2018.

Other reading materials (book chapters, journal articles) will be assigned drawing from a variety of sources, including:

Kitaoka, Shinichi. Gotō Shinpei: statesman of vision: research, public health, and development, Tokyo: Japan Pub. Industry Foundation for Culture, 2021.

Kitaoka, Shinichi. From party politics to militarism in Japan, 1924-1941, Boulder, Colo.: Lynne Rienner Publishers, 2021.

Pyle, Kenneth B. The making of modern Japan, 2nd ed. Lexington, Mass.: Heath, 1996.

Fukuzawa, Yukichi. The Autobiography of Yukichi Fukuzawa, Columbia University Press, 2007.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6901E

科目名/Course Name: Advanced Comparative Development Studies of Asia

担当教員/Instructor: LIM Guanie/LIM Guanie

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course examines major Asian countries as well as the policy tools that they deployed in pursuing economic growth. A comparative angle is emphasized for it helps us better understand what exactly has happened in particular cases, why, and with what effects.

The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to theoretical works and contemporary development issues. The first few lectures will provide an overview of key concepts and their applicability in specific contexts. Subsequently, workshops are held, which include student presentations and discussions. At each workshop, one to three students (depending on the total student population size) will present the main points of pre-assigned readings and share their perspectives on the topics covered.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the modern day development of key Asian economies and how the latter competes on the global stage. The analytical insights gained here should also facilitate the students understanding of economies in other continents.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Industrial Policy

Week 3: Developmental States

Week 4: Globalizing Regional Development

Week 5: From Developmental State to Strategic Coupling

Week 6: Workshop I Rethinking the Chinese Economy

Week 7: Workshop II The Belt and Road Initiative and Its Relationship to Regional Development

Week 8: Summary and General Discussion

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Class attendance and participation (40%), presentation and discussion of the assigned readings in workshops (30%), and term paper (30%). For grading evaluation, a scale of A to E (A,B,C,D,E) would be employed.

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to pick an industry/sector in a country of their own choice. They are then expected to discuss how this particular industry has evolved over a particular period (e.g. post-World War Two), linking its development trajectory with reference to state actions and the related policy measures. The word limit is 3,500. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to deploy empirical material to assess the merits of contending theories and approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in response to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Chang, H.J. (2009). Industrial Policy: Can We Go Beyond an Unproductive Confrontation? A Plenary Paper for Annual World Bank Conference on Development Economics (ABCDE) [RR].

Lin, J., and Chang, H.J. (2009). DPR Debate: Should Industrial Policy in Developing Countries Conform to Comparative Advantage or Defy it? A Debate between Justin and Ha-Joon Chang. *Development Policy Review*. 27(5): 483-502 [RR].

Week 3

Amsden, A. (1989). *Asias Next Giant: South Korea and Late Industrialization*. New York: Oxford University Press [RR].

Johnson, C. (1982). *MITI and the Japanese Miracle: The Growth of Industrial Policy, 1925-1975*. California: Stanford University Press [RR].

Shin, J.S. (2005). Substituting and Complementing Models of Economic Development in East Asia. *Global Economic Review*. 34(1):99-118 [RR].

Evans, P. (1995). *Embedded Autonomy: States and Industrial Transformation*. New Jersey: Princeton University Press [SR].

Week 4

Gereffi, G. (1994). The Organization of Buyer-Driven Global Commodity Chains: How U.S.

Retailers Shape Overseas Production Networks. In *Commodity Chains and Global Capitalism*, G Gereffi and M Korzeniewicz (eds.), 95-122. Westport: Greenwood [RR].

Gereffi, G., Humphrey, J., and Sturgeon, T. (2005). The Governance of Global Value Chains. *Review of International Political Economy*. 12(1):78-104 [RR].

Henderson, J., Dicken, P., Hess, M., Coe, N., and Yeung, H.W.-C (2002). Global Production Networks and the Analysis of Economic Development. *Review of International Political Economy*. 9(3): 436-464 [RR].

Bair, J. (2009). *Global Commodity Chains: Genealogy and Review*. In *Frontiers of Commodity Chain Research*, J Bair (ed.), 1-34. California: Stanford University Press [SR].

Week 5

Yeung, H.W.-C. (2015). Regional Development in the Global Economy: A Dynamic Perspective of Strategic Coupling in Global Production Networks. *Regional Science Policy & Practice*. 7(1): 1-23 [RR].

Yeung, H.W.-C. (2007). From Followers to Market Leaders: Asian Electronics Firms in the Global Economy. *Asia Pacific Viewpoint*. 48(1): 1-25 [RR].

Yeung, H.W.-C. (2009). Regional Development and the Competitive Dynamics of Global Production Networks: An East Asian Perspective. *Regional Studies*. 43(3): 325-351 [SR].

Week 6

Huang, Y. (2008). *Capitalism with Chinese Characteristics: Entrepreneurship and the State*. New York: Cambridge University Press [RR].

Kennedy, S. (2010). The Myth of the Beijing Consensus. *Journal of Contemporary China*. 19(65): 461-477 [RR].

Nolan, P. (2014). Globalization and Industrial Policy: The Case of China. *The World Economy*. 37(6): 747-764 [RR].

Week 7

Camba, A. (2020). The Sino-Centric Capital Export Regime: State-Backed and Flexible Capital in the Philippines. *Development and Change*. 51(4): 970-997 [RR].

Lim, G. (2017). *Chinas Going Out Strategy in Southeast Asia: Case Studies of the Automobile and*

Electronics Sectors. *China: An International Journal*. 15(4):157-178 [RR].

Liu, H., and Lim, G. (2019). The Political Economy of a Rising China in Southeast Asia: Malaysias Response to the Belt and Road Initiative. *Journal of Contemporary China*. 28(116): 216-231 [RR].

Nolan, P. (2012). *Is China Buying the World?* Cambridge: Polity Press [RR].

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6910J

科目名/Course Name: 事例研究方法論 (Scope and Methods of Case Studies)

担当教員/Instructor: 飯尾 潤/HIO Jun

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義は、事例研究の進め方について、実際の事例研究による博士論文のうち、優れたものとして刊行されている書籍を題材にしながら、実例に則して学ぶことを内容とする。そこで、具体的には、先行研究の検討方法、政策デザインの仕方、基礎的な調査の進め方、集めたデータの用い方、論述のあり方、注記などの表現技術など幅広く取り扱う。到達目標としては、受講者が、事例研究のさまざまなあり方を学ぶとともに、自らの問題意識に沿った事例研究の形を探り、そのほか研究手法的な面についても、必要な知識を身につけ、事例研究を始める準備を整えるところを目指している。方法論的な講義であるため、特定の SDGs 目標に限定されないが、取り上げる事例研究は関連のさまざまな問題を扱っているほか、そうした研究の根底をなす方法について論じるという点で、一定の関連がある。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

初回においては、事例研究のあり方などについて講義を行い、そのほか授業の受け方などについて指導を行う。その後は、2 コマをつないで、時間的にゆとりを持たせた上で、適宜講義を織り込みながら、毎回受講生が作成するレジュメやレポートを用いて、受講生に報告を求め、それを踏まえて質疑を繰り返すなかで、具体的なテーマを掘り下げていく。そこで、第2回から第13回までは、各回1冊ずつ合わせて6つの事例研究を検討する。そして第14から第15回で自身の研究について、その構成や調査方法についての報告を行うことで、具体化することで学んだことを自らのものとするように構成している。

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業において毎回提出を求めているレジュメあるいはレポートをもとにした平常点を80%、最終レポートの評価を20%として評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4.1 必携テキスト

本年度について、次のような文献を候補として考えているが、参加者の興味関心に応じて、適宜、差し替えることがある。これについては初回到相談する。

- * 手塚洋輔『戦後行政の構造とディレンマ：予防接種行政の変遷』（藤原書店、2010年）
- * 内藤恵久『地理的表示の保護制度の創設：どのように政策は決定されたのか』（筑波書房、2022年）
- * 林嶺那『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』（東京大学出版会、2020年）
- * 杉谷和哉『政策にエビデンスは必要なのか：EBPMと政治のあいだ』（ミネルヴァ書房、2022年）
- * 小林悠太『分散化時代の政策調整：内閣府構想の展開と転回』（大阪大学出版会、2021年）
- * 三谷宗一郎『戦後日本の医療保険制度改革：改革論議の記録・継承・消失』（有斐閣、2022年）

4.2 その他参考文献

方法論的に、次のような文献を参照することがある。

Robert K. Yin, Case Study Research: Design and Methods 2nd ed. SAGE Publications, 1994

5. 履修上の注意/Note:

この講義は、基本的には博士課程のうち政策プロフェッショナルプログラム所属の学生を対象とする。夏学期のうちどのような日取りに開講するかは、受講予定者の都合を聞きながら調整し、夏学期前に決定する。政策プロフェッショナルプログラムに所属しない博士課程学生であっても、博士論文作成のために特別の必要のある学生には、受講を許可することがありうるので、受講希望者は7月上旬までに担当者に連絡を取ること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6920J

科目名/Course Name: 社会科学方法論＝質的分析 (Social Science Methodology for Qualitative Analysis)

担当教員/Instructor: 飯尾 潤/IIO Jun

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義では、質的分析とりわけ政治学や行政学・国際関係論などで事例研究を行うことを念頭に、社会科学のうち質的分析（定性的分析）を行う際の方法論的問題および研究デザインの課題を、丁寧に紹介する。この際、標準的な方法論を紹介しつつ、その多様性についても紹介して、受講者が自らの研究課題に応じた方法を選ぶことができるよう配慮する。受講者が、博士レベルの研究に求められる方法論的素養を身につけるとともに、問題意識を学術的な問いに変換し、自ら研究計画をデザインできるようになることを目指している。

授業においては、いくつかの方法論的な基礎文献を精読して、毎回レポートを提出し、それをもとに質疑や討論を通じて、段階を追って問題を理解し、疑問点を解消するようする。主な文献と項目は、後で掲げる通りであるが、参加者の課題あるいは必要性に応じて、内容や文献を一部差し替えることがあるが、この点については、初回に相談をする。

この講義は、方法論上の講義であるため、SDGs の目標に直接関係するわけではないが、それぞれの目標を達成するための研究活動の基盤となるものである。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- (01) 社会科学の領域と方法論 :
- (02) 科学的推論の基礎 1 : (文献 1) 序-6 章
- (03) 科学的推論の基礎 2 : (文献 1) 7-終章
- (04) 量的研究をもとにした方法論 1 : (文献 2) 1-2 章
- (05) 量的研究をもとにした方法論 2 : (文献 2) 3 章
- (06) 量的研究をもとにした方法論 3 : (文献 2) 4 章
- (07) 量的研究をもとにした方法論 4 : (文献 2) 5-6 章
- (08) 事例研究による理論構築 1 : (文献 3) 1-2 章
- (09) 事例研究による理論構築 2 : (文献 3) 3-6 章
- (10) 事例研究による理論構築 3 : (文献 3) 7-8 章
- (11) 事例研究による理論構築 4 : (文献 3) 9-10 章
- (12) 事例研究による理論構築 5 : (文献 3) 11-12 章
- (13) 歴史的研究 1 (文献 4) あるいは学問と実践 1 (文献 5)
- (14) 歴史的研究 2 (文献 4) あるいは学問と実践 2 (文献 5)
- (15) 研究手法紹介 : 注記・文献操作、オーラルヒストリーなど

3. 成績の評価方法/ Grading:

評価は、全員毎回レジュメを用いて行う報告に対する平常点と、期末の課題に対するレポート評価点を合わせて行う（配点は60：40）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1 必携テキスト

（文献1）久米郁男『原因を推論する』（有斐閣）

（文献2）Gary King, Robert O. Keohane and Sidney Verba, Designing Social Inquiry, Princeton U.P. = キング／コヘイン／ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン』（勁草書房）

（文献3）Alexander L. George and Andrew Bennet, Case Studies and Theory Development, The MIT Press = ジョージ／ベネット『社会科学のケース・スタディ』（勁草書房）

（文献4）John Lewis Gaddis, The Landscape of History, Oxford U.P. ギャディス『歴史の風景』（大月書店）

（文献5）Alexander L. George, Bridging the Gap: Theory and Practice in Foreign Policy, USIP Press

4.2 参考文献

参加者の興味に応じて、追加で読むべき書籍・論文を授業中に言及する

5. 履修上の注意/Note:

原則として、博士課程のうち政策プロフェッショナルプログラムに所属する学生を対象とするが、博士課程のほかのプログラムの学生についても、その希望などを聞いた上で参加を認めることがある。また、履修上の便宜を考えて、参加者と相談のうえ、開講日を変えることがある。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV6930J

科目名/Course Name: 社会科学方法論＝量的分析 (Social Science Methodology for Quantitative Analysis)

担当教員/Instructor: 増山 幹高/MASUYAMA Mikitaka

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このクラスは計量政治分析の入門的な演習として、政治現象を計量的に分析するにあたって、いかなる方法論的問題があり、それらがどのように対処されてきたのかを検討していく。また、そうしたトレーニングを通じて、公共政策や政策形成に関する実証的な分析を実施するうえでの方法論的課題を理解し、計量分析の応用可能性を探っていく。

具体的には、三つの目的がある。第一の目的は計量分析の基礎的手法の習得にあり、履修者自身に基礎的な分析事例を体験してもらう。統計学的な知識は必ずしも必要ではないが、表計算ソフトや統計ソフトを操作することに履修者自身が積極的に取り組むことが条件となる。第二に、政治現象を計量的に分析した実例をとりあげ、それらで扱われている方法論的問題を浮き彫りにし、その対処方法について評価・検討を加えていく。第三の目的は、こうした分析実習などを通じて、履修者が進める政策分析に関して計量分析的にアプローチする独自の方法を考案・実施することである。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

履修者の関心や希望に応じて、基礎的な統計手法から具体的な応用例まで、1～2 週毎に取り上げていきます。

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席・平常点に基づきます。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

参考文献：増山・山田著『計量政治分析入門』東京大学出版会（2004 年）

Brady, Henry E., David Collier, and Janet M. Box-Steffensmeier. 2009. Overview of Political Methodology: Post-behavioral Movements and Trends. in Goodin,

Robert Edward (ed.) The Oxford Handbook of Political Science. New York: Oxford University Press, 1005-1053.

King, Gary, Robert O. Keohane, and Sidney Verba. 1994. Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research. Princeton Univ Press.

Henry E. Brady. 2010. Rethinking Social Inquiry: Diverse Tools. Rowman & Littlefield Publishers.

5. 履修上の注意/Note:

スケジュールの詳細は初回のクラスで相談させていただきます。

この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7101J

科目名/Course Name: 政策過程論 (Policy Process)

担当教員/Instructor: 飯尾 潤/IIO Jun

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

政策過程論は、政策が発案され、決定されて、それが実施に移され、さらに見直されるという一連の過程を解明することにより、政策のあり方そのものを研究する分野である。この講義は、政策過程論において蓄積されてきた多様な知見を提供し、現代日本の政策過程を参照しつつ、現実的・具体的な政策課題について、広く考察するための基盤となる知識を提供することを目指している。関連の文献を紹介するだけでなく、受講者の質問に応じて議論を重ねることで、実地に即した理論理解を進め、受講者が政策過程論関連の知識を吸収するだけでなく、自らの課題について構想力を養うことが最終的な目的である。

講義形式が基本となるが、受講者とのやりとりができるように、要望を聞きながら、授業を進めていく予定である。あらかじめ目を通すべき資料や、重要な参考文献等については、適宜入手できるように配慮し、系統的に学習してもらうことを想定しているが、具体的な学習方法については、初回に説明する。

なお、本講義では、SDGs に関しては、目標 16 あるいは目標 17 が関係しているが、具体例の中には、それ以外の目標に関連するものも含まれている。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回：政策研究の発展と政策過程論の意義（講義の説明）

政策研究の発展経路を回顧するなかで、政策過程を研究することがいかなる意味を持つのかを検討し、政策過程論の意義を確認する。

第2回：政策類型論と政策循環（ポリシー・サイクル）論

政策類型論などを検討したうえで、政策過程を簡明に枠づける思考法としての政策循環論を包括的に論じ、次回以降の講義の構成についてあらかじめ説明する。

第3回：政策課題の発見とアジェンダ設定

政策循環が開始される段階であるアジェンダ設定について論じ、争点の設定と隠れた権力あるいは価値観と政策などの問題を検討する。

第4回：政策立案I（政策とネットワーク）

政策の具体的な内容を作成する段階としての政策立案に関連して、政策を取り巻くネットワークの重要性と、その具体的なあり方を紹介する。

第5回：政策立案II（政策立案における知識）

政策立案における思考法に関して専門家の役割を検討し、行政官および政策研究者にとっての政策立案に関する課題を具体的に検討する

第6回：政策決定I（合理的決定と漸変主義的決定）

政策決定は、政策を正統化し確定する段階であり、長らく政策過程論の中心的な研究対象であった、この段階に関する古典的な理論として合理性に基礎をおくモデルを検討する。

第7回：政策決定II（合理性を前提にしない枠組み）

ゴミ缶モデルの系譜にあるモデルや歴史的記述など、アクターの合理性を前提にしない政策決定モデルを検討する。

第8回：政策決定Ⅲ（理念や言説に基づく枠組み）

理念や人々の信条の変化を基礎にして政策の変化を理解しようとする枠組みについて検討を加える。

第9回：政策実施と組織管理

政策を実際実現する段階（政策実施）において生じる問題を、理論の発展に沿って紹介し、政策の実現と組織との関係を検討する。

第10回：政策手段の選択

政策執行と密接に関係する政策手段の問題を、単なる技術的問題としてではなく、政策過程の質を決める課題であるととらえ、関連する問題を議論する。

第11回：政策評価と政策転換・終了

政策評価の概念の検討とともに、評価に関わる政策過程参加者の動機を検討し、さらに政策が終了するメカニズムについて検討する。

第12回：政権運営Ⅰ（政策の統合と運営）

個別の政策過程を統合する主体として政権の役割を検討し、その課題について論じる中で、総合的に政策過程のあり方を検討する。

第13回：政権運営Ⅱ（政治制度と政策過程）

政策を支える制度の類型を紹介したうえで、政権のあり方を中心に政策過程と制度との関係を説明し、日本における具体的な制度運用を検討する。

第14回：政権運営Ⅲ（民主政と政策過程）

政権への評価を出発点に、政策の正統化という民主政の課題をめぐる問題をまとめて議論し、意識的変革としての政策と民主政の関係を検討する。

第15回：政策関連知識の総合：政策的構想力論

政策に関わる政策分析や政策規範論、執務知識の役割を検討したうえで、政策過程の研究が、政策にとっていかなる意味を持つのかを考察し、政策的構想力の可能性について論じる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、レポートに関する評価点を基準に算定する。ただ、そのほか、学習程度を把握するための小テストなどを実施して、補助的に用いることがあり得る。レポートは、修士課程と共通の小課題を2回出題するほか、期末に博士課程用の課題を出題し、それぞれの点数を合計して評価を行う。課題の締め切りは、講義中で支障を確認した上で、最終決定して通知する。なお、対面での実施のみになるのか、出席点を加味するかどうかなどは、講義開始時期の大学の状況によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4.1 独自のテキストは、毎回事前に入手できるように、配布する

4.2 参考文献は、毎回の講義の中でそれぞれ紹介するが、全体を通じて、

* Michael Howlett and M. Ramesh, *Studying Public Policy*, Oxford University Press, 1995、

* John W. Kingdon, *Agendas, Alternatives, and Public Policy* 2nd ed., Pearson Education, inc., 2011、

* Christopher M. Weible and Paul A. Sabatier eds., *Theories of The Policy Process* 4th ed., Routledge, 2018 など

はしばしば言及するものと思われる。

5. 履修上の注意/Note:

学生とのやりとりをもとに授業を進めたいので、休まずに授業に参加することが望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7201EB

科目名/Course Name: Advanced International Relations

担当教員/Instructor: BRUMMER Matthew/BRUMMER Matthew

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

(This course is designed for students who have either already studied International Relations at the undergraduate or graduate level, or have professional work experience in international affairs, or are Ph.D. students. For MA students without such academic or professional experience, please take Professor Iwama's course (GOV2200EA)).

This course aims to provide students with an advanced introduction to essential concepts and terms of art for the study International Relations (IR). The course explores the role of theory in the study of IR, and examines the discipline's primary theoretical approaches, including Realism, Liberalism, and Constructivism. The course seeks to communicate the character of world politics from diverse perspectives, including system, actor, and normative approaches, with an emphasis on relating theory to questions of public concern and policies in practice. Thus, the course is both macro-theory and micro-policy focused.

The course will draw on core texts in international relations to provide students with a firm grounding from which to think about a range of critical issues in global affairs. By the end of the course, students will: have developed a broad understanding of IR, its terminology and theoretical traditions; be able to assess and apply different IR theories to specific issues in world politics; be able to identify and develop their own inquiries into the core debates in IR; and have developed communication and academic skills necessary to undertake social science research in IR.

The course requires students to be committed to learning and to come prepared to class, having read the assigned texts in advance. The course will be taught over 15 classes and students are expected to attend all classes. Typically, each class will be divided into a lecture and a seminar. The course instructor will lead the lecture at the beginning of each class, after which we will turn to a seminar-based discussion where students will present and critically discuss the assigned reading(s) for that day.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The course is roughly divided into 2 phases. In the first phase, we will examine the core theories of International Relations, including Realism, Liberalism, and Constructivism, as well as their sub-theories. We will also have an introduction to non-Western IR. In the second phase, we will apply theory to practice and current affairs, including the US-China rivalry, AI and technological revolutions, and climate change.

Course Schedule

October 12

Introduction to the course and to each other

October 19	Introduction to the International Relations Discipline
October 26	Why Theory, Elevator Pitches of final papers
November 2	Realism I
November 9	Realism II
November 16	Liberalism
November 23	Equinox, No class
November 30	Constructivism
December 7	Non-Western International Relations
December 14	International Relations and Japan
December 21	Exam: 90-minute take-home
December 28	New Year's, No class
January 4	Technology and Power in International Relations
January 11	The International Politics of Climate Change
January 18	Great Power Rivalry and US-China competition
January 25	Final paper presentations
February 1	No class - Term papers due by 16:40

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation (20%). All students are expected to actively participate in class discussion, and attendance will be taken. Additionally, each student will serve as a Presenter and as a Discussant for at least one of the weekly

reading assignments during the semester. The role of the Presenter is to critically review the weekly reading in a concise manner while the role of the Discussant is to critique the Presenter's review, pose questions to the Presenter and facilitate discussion with the class.

Quizzes (10%). Unannounced multiple choice "pop" quizzes will periodically be taken throughout the semester. These are wholly based on the required reading for that day.

Midterm Exam (25% or 35% or 45%*). A written, 90-minute in-class open-book exam covering all lectures and required readings. Questions will take a variety of forms, including multiple choice and short answer.

Term Paper (25% or 35% or 45%*). Students will write a final term paper on a topic of their choosing and in consultation with the course instructor. Papers will be approximately 3,000 word (5,000 words maximum).

*Because everyone learns differently and has different skillsets e.g., test-taking vs. research and writing all students can select the grade distribution that best fits their preferences within three pre-defined weightings (participation and quizzes are fixed at 20% and 10% respectively).

*Grading scenarios. Each students can select which distribution they prefer.

Grading Scenarios

Participation

Quizzes

Exam

Term Paper

Total

Distribution 1

20

10

25

45

100

Distribution 2

20

10

35

35
100

Distribution 3

20
10
45
25
100

Finally, extra credit may be earned by publishing on an international relations topic related to our course in either a newspaper, magazine, or journal.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

No textbook is required for this course. All readings will be provided by the professor.

5. 履修上の注意/Note:

5.Note: For students wishing to read ahead, please consider the following textbook: Baylis,Smith and Owens, "The Globalization of World Politics," Oxford University Press. Please also read Foreign Affairs.

6.COVID-19 Statement: Although we have emerge

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7231E

科目名/Course Name: Politics and Diplomacy in Postwar Japan

担当教員/Instructor: 北岡 伸一, PRESSELLO Andrea/KITAOKA Shinichi and PRESSELLO Andrea

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japanese foreign policy in the period between the end of World War II and today. Particular attention will be paid to the relationship between foreign policy and domestic politics. Some of the topics to be discussed in class are the process of building postwar Japanese relations with the United States and Asia, Japan's official development assistance, Japanese security policy, and the issue of historical memory and reconciliation in Japanese foreign relations. No background knowledge on these issues is required. Students from different countries are highly encouraged to register for this course; the diverse perspectives that they can contribute is expected to enrich the discussion of Japan's relations with the world. Students with limited English language ability are also welcome. During the course, a video will be shown and one class might be held in the form of a visit to a site related to the contents of the course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Introduction

Japan's defeat in World War II. Occupation and reforms

Cold War and the San Francisco Peace Treaty

After independence: China, Southeast Asia, and the Soviet Union

Revision of the US-Japan Security Treaty

The reversion of Okinawa

Facing new challenges: Nixon shocks and the Oil Crisis

After Vietnam: Approaches to Southeast Asia

New Cold War and trade disputes with the United States

Field trip

End of the Cold War and new challenges in security policy

Changing Official Development Assistance policy

Historical memory and reconciliation

Presentation on the Term Paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term paper: 50%

Participation in class: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Reading materials (book chapters, journal articles, reference materials) will be assigned by the instructors drawing

from a variety of sources, including:

Kitaoka, Shinichi. *The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics*, Routledge, 2018.

Iokibe, Makoto, ed. *The Diplomatic History of Postwar Japan*, Routledge, 2010.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7241E

科目名/Course Name: Advanced International Security Studies

担当教員/Instructor: 道下 徳成/MICHISHITA Narushige

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to give students a better understanding of security issues in both theory and practice. We will discuss issues such as civil-military relations, international relations theories, intelligence, and nuclear issues in the first half of the course. In the latter half, we will look at the Japanese security policy as well as contemporary security issues such as cybersecurity and peacebuilding.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1: Orientation

Course Introduction

Students' self-introduction

Recommended Reading:

Hans Rosling, Ola Rosling, and Anna Rosling Ronnlund, *Factfulness: Ten Reasons We're Wrong About The World - And Why Things Are Better Than You Think* (Sceptre, 2018)

Stephen Van Evera, *Guide to Methods For Students of Political Science* (Cornell University Press, 1997) (311.16||V26).

John M. Swales and Christine B. Freak, *Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills* (Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes)(University of Michigan Press, 2012)

Hilary Glasman-Deal, *Science Research Writing For Non-Native Speakers of English* (Icp, 2009)

PART I: UNDERSTANDING SECURITY ISSUES

Session 2: Civilian Control and the Use of Force

Required Reading:

"Civilian control of the military," in Wikipedia,

"Civil-military relations," in Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Civilian_control_of_the_military

Eliot A. Cohen, "The Unequal Dialogue: The Theory and Reality of Civil-Military Relations and the Use of Force,"

in Peter Feaver and Richard Kohn, *Soldiers and Civilians: The Civil-Military Gap and American National Security* (Cambridge, Mass.: MIT Press, 2001), pp. 429-458.

Recommended Reading:

Mark T. Esper, *A Sacred Oath: Memoirs of a Secretary of Defense During Extraordinary Times* (William Morrow & Co, 2022).

Bob Woodward and Robert Costa, *Peril* (Simon & Schuster, 2021).

Bob Woodward, *Fear: Trump in the White House* (Simon & Schuster, 2018). (『FEAR 恐怖の男 トランプ政権の真実』)

Robert Draper, *To Start a War: How the Bush Administration Took America into Iraq* (Penguin Press, 2020).

Brown University's Watson Institute for International and Public Affairs, "The Costs of War Project," <https://watson.brown.edu/costsofwar/>

James M. Dubik, *Just War Reconsidered: Strategy, Ethics, and Theory* (The University Press of Kentucky, 2016).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *The Generals' War: The Inside Story of the Conflict in the Gulf* (Little Brown & Co, 1995).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *Cobra II: The Inside Story of the Invasion and Occupation of Iraq* (Atlantic Books, 2006).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *The Endgame: The Inside Story of the Struggle for Iraq, from George W. Bush to Barack Obama* (Pantheon, 2012).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *Cobra II: The Inside Story of the Invasion and Occupation of Iraq* (Atlantic Books, 2006).

Michael R. Gordon and Bernard E. Trainor, *The Generals' War: The Inside Story of the Conflict in the Gulf* (Little Brown & Co, 1995).

Eliot A. Cohen, *Supreme Command: Soldiers, Statesmen, and Leadership in Wartime* (Free Press, 2002). (エリオット・コーエン『戦争と政治とリーダーシップ』中谷和男訳、アスペクト、2003年の原書。但し、翻訳はあまりよくない)。

Ash Carter, *Inside the Five-Sided Box: Lessons from a Lifetime of Leadership in the Pentagon* (Dutton, 2019)

Robert M. Gates, *Duty: Memoirs of a Secretary at War* (Knopf, 2014)

Tommy R. Franks, *American Soldier* (Harper, 2004).

John Bolton, *The Room Where It Happened: A White House Memoir* (Simon & Schuster, 2020)

James M. Dubik, *Just War Reconsidered: Strategy, Ethics, and Theory* (The University Press of Kentucky, 2016).

Peter Feaver and Richard Kohn, *Soldiers and Civilians: The Civil-Military Gap and American National Security* (Cambridge, Mass.: MIT Press, 2001).

Donald Rumsfeld, *Known and Unknown: A Memoir* (Sentinel, 2011).

Kathleen H. Hicks, "Civilian Control of the Armed Forces," Statement Before the Senate Armed Services Committee, January 10, 2017, https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/Hicks_01-10-17.pdf. (Video: <https://www.armed-services.senate.gov/hearings/17-01-10-civilian-control-of-the-armed-forces>, starting at 00:25:50)

Eliot A. Cohen, "Civilian Control of the Armed Forces," Testimony before the Senate Armed Services Committee, January 10, 2017, https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/Cohen_01-10-17.pdf. (Video: <https://www.armed-services.senate.gov/hearings/17-01-10-civilian-control-of-the-armed-forces>, starting at 00:34:45)

Patricia M. Shields, Sebastiaan Rietjens, and Joseph Soeters, eds., *Routledge Handbook of Research Methods in Military Studies* (Routledge, 2016)

"20 Strategic Studies and Its Critics," "22 The Practice of Strategy," and "23 Does Strategic Studies Have a Future?," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

National Institute for Defense Studies, NIDS China Security Report, .

Noboru Yamaguchi and David A. Welch, "Soldiers, Civilians, and Scholars: Making Sense of the Relationship between Civil-Military Relations and Foreign Policy," *Asian Perspective*, Vol. 29, No. 1 (2005) .

Robert Haddick, "This Week at War: The Long Death of the Powell Doctrine," *Foreign Policy*, March 5, 2010.

Thomas Berger, "From Sword to Chrysanthemum: Japans Culture of Anti-Militarism," *International Security*, Vo. 17, No. 4, Spring, 1993.

James Carroll, *House of War: The Pentagon and the Disastrous Rise of American Power* (Houghton Mifflin Harcourt, 2006).

Kenneth M. Pollack, *Armies of Sand: The Past, Present, and Future of Arab Military Effectiveness* (Oxford University Press, 2019).

Alex Abella, *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire* (Houghton Mifflin Harcourt, 2008)

道下徳成 「自衛隊の組織・装備の名称変更案——文民統制強化と透明性向上のために」『外交』 Vol. 16、2012年12月、134～142頁、<https://www.slideshare.net/tujicas/2012-renaming-the-sdf-for-better-civilian-control-and-transparency-full-michishita>。

「道下徳成先生と対談 文民統制のための自衛隊改称案」細野豪志チャンネル、2020年5月7日、<https://youtu.be/gDY8R6IvtZ8>

Giuseppe Caforio and Marina Nuciari, eds., *Handbook of the Sociology of the Military* (Handbooks of Sociology and Social Research) (Springer, 2018).

Donald Alexander Downs and Ilia Murtazashvili, *Arms and the University: Military Presence and the Civic Education of Non-Military Students* (Cambridge University Press, 2012).

Dave Grossman and Loren W. Christensen, *On Combat: The Psychology and Physiology of Deadly Conflict in War and in Peace* (Human Factor Research Group, 2008)

Martha Raddatz, *The Long Road Home: A Story of War and Family* (Putnam Adult, 2007). (Also, watch *The Long Road Home*, an American drama miniseries created by Mikko Alanne)

David Finkel, *Thank You For Your Service* (Scribe Publications, 2013)

David Finkel, *The Good Soldiers* (Farrar Straus & Giroux, 2009)

Session 3: War and Peace in International Relations Theories

Required Reading:

Stephen M. Walt, "International Relations: One World, Many Theories," *Foreign Policy* (Spring 1998), pp. 29-46.
Narushige Michishita and Peter van der Hoest, "Another Cold War in Asia?" *Asan Forum*, July 19, 2013, <http://www.theasanforum.org/another-cold-war-in-asia/>.

Recommended Reading:

Jakub J. Grygiel and A. Wess Mitchell, *The Unquiet Frontier: Rising Rivals, Vulnerable Allies, and the Crisis of American Power* (Princeton University Press, 2016).
Geoffrey Blainey, *The Causes of War*, 3rd ed. (New York: The Free Press, 1988).
Michael Howard, *The Causes of Wars*, 2nd ed. (Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press, 1983).
Michael E. Brown et al, eds., *Theories of War and Peace* (The MIT Press, 1998).
"5 The Causes of War," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).
Richard K. Betts, ed., *Conflict After the Cold War: Arguments on Causes of War and Peace*, 5th ed. (Routledge, 2017).
Michael E. Brown, Sean M. Lynn-Jones, and Steven E. Miller, eds., *East Asian Security (An International Security Reader)* (The MIT Press, 1996).
G. John Ikenberry and Michael Mastanduno, eds., *International Relations Theory and the Asia-Pacific* (Columbia University Press, 2003)

Session 4: Strategic Concepts -- Offense, Defense, Compellence, and Deterrence

Required Reading:

Lawrence Freedman, ed., *Strategic Coercion: Concepts and Cases* (Oxford: Oxford University Press, 1998), pp. 1-60.

Recommended Reading:

Elbridge A. Colby, *The Strategy of Denial: American Defense in an Age of Great Power Conflict* (Yale University Press, 2016).
Thomas C. Schelling, *Arms and Influence: With a New Preface and Afterword* (Yale University Press, 2008).
Edward N. Luttwak, *Strategy: The Logic of War and Peace*, revised and enlarged (Harvard University Press, 2002).
"4 Strategic Theory," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

Lawrence Freedman, *The Revolution in Strategic Affairs*, Adelphi Paper 318 (London: IISS, 1998).

Lawrence Freedman, *Transformation of Strategic Affairs*, Adelphi Paper 379 (Routledge, 2006).

Michael B. Oren, *Six Days of War: June 1967 and the Making of the Modern Middle East* (Oxford University Press, 2002).

Rodger Claire, *Raid on the Sun: Inside Israel's Secret Campaign that Denied Saddam the Bomb* (Broadway, 2004)
(ロジャー・クレイア『イラク原子炉攻撃!』並木書房、2007年)

Yaakov Katz, *Shadow Strike: Inside Israel's Secret Mission to Eliminate Syrian Nuclear Power* (St Martins Press, 2019) (ヤーコブ・カッツ『シリア原子炉を破壊せよ—イスラエル極秘作戦の内幕』茂木作太郎訳、並木書房、2020年)

道下徳成「戦略論の将来」道下徳成、石津朋之、長尾雄一郎、加藤朗『現代戦略論—戦争は政治の手段か』勁草書房、2000年、139-186ページ。

柳澤協二、道下徳成対談「I 抑止力の意味と日本の防衛政策」柳澤協二著、道下徳成、小川伸一、植木千可子、山口昇、加藤朗、広瀬佳一对談『抑止力を問う—元政府高官と防衛スペシャリスト達の対話』かもがわ出版、2010年。

Session 5: Nuclear Weapons and Their Consequences

Required Reading:

"12 Nuclear Weapons in the Twenty-First Century" and "13 The Control of Weapons of Mass Destruction," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

The White House, "Nuclear Weapons Employment Policy," National Security Decision Directive Number 13, October 19, 1981, <https://fas.org/irp/offdocs/nsdd/nsdd-13.pdf>.

US Department of Defense, "The 2022 National Defense Strategy of the United States of America including the 2022 Nuclear Posture Review and the 2022 Missile Defense Review," October 27, 2022, <https://media.defense.gov/2022/Oct/27/2003103845/-1/-1/2022-NATIONAL-DEFENSE-STRATEGY-NPR-MDR.PDF>

"U.S. Nuclear Weapons Policy: Considering 'No First Use'," Congressional Research Service, March 29, 2022, <https://crsreports.congress.gov/product/pdf/IN/IN10553/11>.

Tomiko Inui, *Boya, The Little Flying Fish* (Tokyo: Kin-no-Hoshi Sha, 1990). (日本語版: いぬいとみこ『トビウオのぼうやはびょうきです』金の星社、1982)

Recommended Reading:

"Nuclear strategy" in Wikipedia, the free encyclopedia

"Physical damage, blast effect, Hiroshima, 1946-03-13 to 1946-04-08," <https://www.youtube.com/watch?v=Y2DsH7aQ-cA>

US Department of Defense, "Nuclear Posture Review 2018," pp. V-XVII, <https://media.defense.gov/2018/Feb/02/2001872886/-1/-1/2018-NUCLEAR-POSTURE-REVIEW-FINAL-REPORT.PDF>.

Hidenori Watanave, "Hiroshima Archive," https://hiroshima.archiving.jp/index_jp.html

Hidenori Watanave, "Nagasaki Archive," https://n.mapping.jp/index_jp.html

Bulletin of the Atomic Scientists (Journal)

Federation of American Scientists (Website)

US Department of Defense, "Fact Sheet: 2022 Nuclear Posture Review and Missile Defense Review," <https://media.defense.gov/2022/Mar/29/2002965339/-1/-1/1/FACT-SHEET-2022-NUCLEAR-POSTURE-REVIEW-AND-MISSILE-DEFENSE-REVIEW.PDF>

James M. Smith and Paul J. Bolt, eds., *Chinas Strategic Arsenal: Worldview, Doctrine, and Systems* (Georgetown University Press, 2021).

Lawrence Freedman and Jeffrey Michaels, *The Evolution of Nuclear Strategy: New, Updated and Completely Revised*, 4th ed. (Palgrave Macmillan, 2019)

Paul Bracken, *The Second Nuclear Age: Strategy, Danger, and the New Power Politics* (St. Martin's Griffin, 2013).

T.V. Paul and Patrick M. Morgan, *Complex Deterrence: Strategy in the Global Age* (University of Chicago Press, 2009).

Joseph Cirincione, Jon B. Wolfsthal, and Miriam Rajkumar, *Deadly Arsenals: Nuclear, Biological, and Chemical Threats*, 2nd ed. (Carnegie Endowment for International Peace, 2005)

Michael Dobbs, *One Minute to Midnight: Kennedy, Khrushchev, and Castro on the Brink of Nuclear War* (Knopf, 2008). (マイケル・ドブズ『核時計零時1分前—キューバ危機13日間のカウントダウン』日本放送出版協会、2010年。)

Siegfried S. Hecker, ed., *Doomed to Cooperate: How American and Russian Scientists Joined Forces to Avert Some of the Greatest Post-Cold War Nuclear Dangers* (Bathrub Row Press, 2016).

Hans Kristensen, "Japan Under the US Nuclear Umbrella," Nautilus Institute, 2015, <http://www.nautilus.org/wp-content/uploads/2015/06/Japan-Under-the-US-Nuclear-Umbrella.pdf>.

Yukio Satoh, *US Extended Deterrence and Japans Security*, Livermore Papers on Global Security No. 2, Lawrence Livermore National Laboratory, Center for Global Security Research, October 2017, <https://cgsr.llnl.gov/content/assets/docs/satoh-report-final.pdf>

Wendy R. Sherman, *Not for the Faint of Heart: Lessons in Courage, Power, and Persistence* (PublicAffairs, 2018).

Katsuhisa Furukawa, "Nuclear Option, Arms Control, and Extended Deterrence: In Search of a New Framework for Japan's Nuclear Policy," in Benjamin L. Self and Jeffrey W. Thompson, eds., *Japans Nuclear Option: Security, Politics, and Policy in the 21st Century* (The Henry L. Stimson Center, December 2003) .

Cartoon book: Keiji Nakazawa, *Barefoot Gen (はだしのゲン, Hadashi no Gen)*, vols. 1-10 (Last Gasp of San Francisco, 2004-2009). [A Cartoon Story of the Atomic Bombing of Hiroshima]

TV film: "On the Beach," Directed by Russell Mulcahy, Featuring Bryan Brown and Armand Assante, 2000.

秋山信将、高橋杉雄『「核の忘却」の終わり—核兵器復権の時代』勁草書房、2019年

森本敏、高橋杉雄編著『新たなミサイル軍拡競争と日本の防衛—INF条約後の安全保障』並木書房、2020年。

Session 6: Intelligence and National Security

Required Reading:

Mark M. Lowenthal, *Intelligence: From Secrets to Policy*, 9th ed. (CQ Press, 2022), pp. 73-216.

Recommended Reading:

"9 Intelligence and Strategy," in John Baylis, James J. Wirtz, and Jeannie L. Johnson, eds., *Strategy in the Contemporary World*, 7th ed. (Oxford University Press, 2022).

Markus Schiller, "Missile Identification and Assessment," April 2022, <https://www.iiss.org/-/media/files/research-papers/2022/04/missile-identification-and-assessment.pdf?la=en&hash=34152FFA10671B00221C71D6380BE7D7663E0D8C>

Eric O'Neill, *Gray Day: My Undercover Mission to Expose Americas First Cyber Spy* (Crown, 2019)

Edward Jay Epstein, *How America Lost Its Secrets: Edward Snowden, the Man and the Theft* (Knopf, 2017).

Stephen Budiansky, *Code Warriors: NSAs Codebreakers and the Secret Intelligence War Against the Soviet Union* (Knopf, 2016).

David E. Hoffman, *The Billion Dollar Spy: A True Story of Cold War Espionage and Betrayal* (Doubleday, 2015).

Ben Macintyre, *The Spy and the Traitor: The Greatest Espionage Story of the Cold War* (Viking, 2018).

Seth G. Jones, *A Covert Action: Reagan, the CIA, and the Cold War Struggle in Poland* (W.W. Norton & Co, 2018).

Sherry Sontag and Christopher Drew, *Blind Man's Bluff: The Untold Story of American Submarine Espionage* (PublicAffairs, 1998)

Daniel Golden, *Spy Schools: How the CIA, FBI, and Foreign Intelligence Secretly Exploit Americas Universities* (Henry Holt & Co, 2017)

Jack Barsky, *Deep Undercover: My Secret Life & Tangled Allegiances As a KGB Spy in America* (Tyndale Momentum, 2017).

US Central Intelligence Agency, *Tradecraft Primer: Structured Analytic Techniques for Improving Intelligence Analysis*, March 2009, http://www.au.af.mil/au/AWC/AWCgate/cia/tradecraft_primer_2009.pdf.

Abram N. Shulsky and Gary J. Schmitt, *Silent Warfare: Understanding the World of Intelligence*, 3d ed. (Brassey's, 2002).

Richard K. Betts, *Surprise Attack: Lessons for Defense Planning* (Brookings Institution Press, 1982).

Richard J. Samuels, *Special Duty: A History of the Japanese Intelligence Community* (Cornell University Press, 2019).

David Albright, Sarah Burkhard, and Allison Lach, "Commercial Satellite Imagery Analysis for Countering Nuclear Proliferation," *Annual Review of Earth and Planetary Sciences*, June 8, 2018, <https://www.annualreviews.org/doi/pdf/10.1146/annurev-earth-063016-015704>.

David Wise, *The Seven Million Dollar Spy: How One Determined Investigator, Seven Million Dollars - and a Death*

Threat by the Russian Mafia - Led to the Capture of the Most Dangerous Mole Ever Unmasked Inside U.S. Intelligence (Audible.com, 2018).

Mara Hvistendahl, *The Scientist and the Spy: A True Story of China, the FBI, and Industrial Espionage* (Riverhead Books, 2020)

Laura Poitras, Marcel Rosenbach, Fidelius Schmid, Holger Stark and Jonathan Stock, "How the NSA Targets Germany and Europe," *Der Spiegel*, July 1, 2013, <https://www.spiegel.de/international/world/secret-documents-nsa-targeted-germany-and-eu-buildings-a-908609.html>

Session 7: Assessing Military Balance

Required Reading:

Toby Dalton, Narushige Michishita, and Tong Zhao, "Security Spillover: Regional Implications of Evolving Deterrence on the Korean Peninsula," (Carnegie Endowment for International Peace, June 2018), https://carnegieendowment.org/files/CP_336_DaltonMichishitaZhao_Korea_final1.pdf.

Drew Thompson, "Chapter 12: Winning the Fight Taiwan Cannot Afford to Lose," in Joel Wuthnow, Derek Grossman, Phillip C. Saunders, Andrew Scobell, and Andrew N.D. Yang, eds., *Crossing the Strait: China's Military Prepares for War with Taiwan* (National Defense University Press, 2022), <https://ndupress.ndu.edu/Portals/68/Documents/Books/crossing-the-strait/crossing-the-strait.pdf>

Recommended Reading:

Anthony H. Cordesman, *Korean Peninsula Military Modernization Trends* (CSIS, 2016), https://csis-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/160922_Korean_Peninsula_Modernization.pdf.

Michael O'Hanlon, "Stopping a North Korean Invasion: Why Defending South Korea Is Easier than the Pentagon Thinks," *International Security*, vol. 22, no. 4 (Spring 1998), pp. 135-170.

International Institute for Strategic Studies, *North Korean Security Challenges: A Net Assessment* (International Institute for Strategic Studies, 2011).

Stuart K. Masaki, "The Korean Question: Assessing the Military Balance," *Security Studies*, vol. 4, no. 2 (Winter 1994/95).

Phillip A. Karber, Grant Whitley, Mark Herman, and Douglas Komer, *Assessing the Balance of Forces: France 1940* (McLean, VA: BDM Corporation, June 18, 1979), p. 2-9.

Martin S. Alexander, "The Fall of France 1940," *Journal of Strategic Studies*, vol. 13, no. 1 (March 1990), pp. 10-44.

Malcolm Smith, "The Allied Air Offensive," *Journal of Strategic Studies*, vol. 13, no. 1 (March 1990), pp. 67-83.

Barry O'Neill, "How to Measure the Military Worth of a Weapon, at Least in Theory," April 1991, revised March 1996 .

Fred Frostic and Christopher J. Bowie, "Conventional Campaign Analysis of Major Regional Conflicts," in Paul K. Davis, ed., *New Challenges for Defense Planning: Rethinking How Much is Enough* (Santa Monica: RAND, 1994),

pp. 351-392.

US Department of Defense, "Military and Security Developments Involving the Democratic People's Republic of Korea, 2017" Report to the Congress, February 13, 2018, <https://media.defense.gov/2018/May/22/2001920587/-1/-1/1/REPORT-TO-CONGRESS-MILITARY-AND-SECURITY-DEVELOPMENTS-INVOLVING-THE-DEMOCRATIC-PEOPLES-REPUBLIC-OF-KOREA-2017.PDF>.

Kathleen J. McNinn et al., "The North Korean Nuclear Challenge: Military Options and Issues for Congress," Congressional Research Service, 2017, <https://fas.org/sgp/crs/nuke/R44994.pdf>.

Global Security.org, "Military Options," "OPLAN 5015," "OPLAN 5027 - Major Theater War," "OPLAN 5026 - Air Strikes," "OPLAN 5029 - Collapse of DPRK," "OPLAN 5030 - Rollback of DPRK,"

金元奉・光藤修編著, 2000『最新朝鮮半島軍事情報の全貌—北朝鮮軍, 韓国軍, 在韓米軍のパワーバランス』講談社。

PART II: NATIONAL SECURITY POLICY

Session 8: Japan's Military Power - Video Materials & Discussion

Required Reading:

Narushige Michishita, "Myths and Realities of Japan's Security Policy," (article), Woodrow Wilson Center, February 18, 2020, <https://www.wilsoncenter.org/blog-post/myths-and-realities-japans-security-policy>.

Narushige Michishita, "Update - Renaming the Self-Defense Force for Better Civilian Control and Transparency."

Narushige Michishita, "Japan faces tricky entry into world arms market," Straits Times, December 3, 2014, p. A24.

Recommended Reading:

Narushige Michishita, "Myths and Realities of Japan's Security Policy," Lecture, Woodrow Wilson Center, September 26, 2019, <https://www.wilsoncenter.org/event/myths-and-realities-japans-security-policy>.

Narushige Michishita, "Japan Must Reject Isolationism," New York Times, August 18, 2015, <https://www.nytimes.com/roomfordebate/2015/08/18/should-japan-allow-its-military-to-fight-in-foreign-wars/japan-must-reject-isolationism>.

Government of Japan, "National Defense Program Guidelines for FY 2019 and beyond," Approved by the National Security Council and the Cabinet on December 18, 2018, http://www.cas.go.jp/jp/siryoku/pdf/2019boueikeikaku_e.pdf.

Japan Ministry of Defense, Defense of Japan: White Paper, available at the Ministry of Defense website.

Richard J. Samuels, Securing Japan: Tokyo's Grand Strategy and the Future of East Asia (Cornell University Press, 2007).

Makoto Iokibe, ed., The Diplomatic History of Postwar Japan (Routledge, 2010).

Yasuhiro Izumikawa, "Explaining Japanese Antimilitarism: Normative and Realist Constraints on Japan's Security

Policy," *International Security*, Vol. 35, No. 2 (Fall 2010), pp. 123-160 .

Masataka Oguro, "Ensuring Japan's Future Air Security: Recommendations for Enhancing the JASDF's Readiness to Confront Emerging Threats," Brookings Institution, September 2018, https://www.brookings.edu/wp-content/uploads/2018/09/FP_20180925_JASDF_readiness.pdf.

Yoshihide Soeya, Masayuki Tadokoro, and David A. Welch, eds., *Japan as a 'Normal Country'?: A Nation in Search of Its Place in the World* (University of Toronto Press, 2011), Introduction, and Chapters 1 and 3.

Ministry of Defense, "Guidebook to the Ministry of Defense / Manga-Style Defense of Japan (Comic)," <https://www.mod.go.jp/j/kids/comic/e/2019/all.pdf>.

道下徳成「第6章 自衛隊のエア・パワーの発展と意義」石津朋之、山下愛仁編著『エア・パワー—空と宇宙の戦略原論』日本経済新聞出版社、2019年。

道下徳成「第7章 自衛隊のシー・パワーの発展と意義」石津朋之、立川京一、道下徳成、塚本勝也編著『シー・パワー—その理論と実践』シリーズ・軍事力の本質②、芙蓉書房出版、2008年、219-279頁。

道下徳成「『いずも』空母化がもたらす3つのメリット—新たな防衛大綱を評価する」『日経ビジネスオンライン』2018年12月21日。

Session 9: Country Security Policy (Presentation & Discussion)

Students are asked to get together and organize a country team (one team for one country) based on their nationality, and make a 5-minute presentation on the following questions:

- (1) What are the two most important security challenges for your country?
- (2) What are the two things that your country is doing to deal with these challenges?

Each team must select one representative and have her/him make the entire presentation. You can use handouts or slides (maps, etc) as long as you keep the 5-minute time limit.

After the presentations, we will open the floor for Q&A and discussion.

Session 10: North Korea's Nuclear/Missile Development and Japan's Response

Required Reading:

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), chapter 9. (韓国語版: 『북한의 벼랑 끝 외교사, 1966-2013년』 이원경 옮김, 한울, 2014년, 제9장. 日本語版: 『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966~2012年』 ミネルヴァ書房、2013年、第9章)

Recommended Reading:

National Air and Space Intelligence Center, "Ballistic and Cruise Missile Threat," Defense Intelligence Ballistic Missile Analysis Committee, June 2017, <https://fas.org/irp/threat/missile/bm-2017.pdf>.

Ronald O'Rourke, "Navy Aegis Ballistic Missile Defense (BMD) Program: Background and Issues for Congress," CRS Report, August 29, 2022, <https://sgp.fas.org/crs/weapons/RL33745.pdf>.

Jeffrey Lewis, *The 2020 Commission Report on the North Korean Nuclear Attacks Against The United States* (WH Allen, 2018). (ジェフリー・ルイス 『2020年・米朝核戦争』文春文庫、2020年)

Narushige Michishita, "The Trump-Kim Summit, Future Scenarios, and Japan's Policy toward the Korean Peninsula," *Asia-Pacific Review*, Vol. 25, No. 2, 2018, pp. 6474, <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13439006.2018.1545490>.

Narushige Michishita, "What can North Korea's ICBM do?" *Straits Times*, July 8, 2017.

Narushige Michishita, "Japan's Response to Nuclear North Korea," in Gilbert Rozman, ed., *Asia at A Tipping Point: Korea, the Rise of China, and the Impact of Leadership Transitions* (Korea Economic Institute, 2012). (韓国語版 :

「북한의 핵 미사일 위협에 대한 일본의 군사 외교적 대응」『新亞細亞』19卷4号、2012年冬季号, pp. 7-26. 日本語版 : 「北朝鮮の核・ミサイル開発と日本の対応」『海外事情』2013年6月号、12~28頁。)

Narushige Michishita, "Japan and South Korea, the Friendly Foes of East Asia," *New York Times*, February 9, 2018, <https://www.nytimes.com/2018/02/09/opinion/japan-south-korea-friendly.html>.

Ryo Hinata-Yamaguchi, *Defense Planning and Readiness of North Korea: Armed to Rule* (Routledge, 2021).

Session 11: The Rise of China and Japan's Response

Required Reading:

Narushige Michishita, "Japan's Grand Strategy for a Free and Open Indo-Pacific," *The Oxford Handbook of Japanese Politics* (Oxford University Press, 2021).

Andrew F. Krepinevich Jr., "How to Deter China: The Case for Archipelagic Defense," *Foreign Affairs*, March/April 2015 .

Recommended Reading:

Sugio Takahashi, "Strategic Stability and the Impact of China's Modernizing Strategic Strike Forces," and Hans M. Kristensen, "China's Strategic Systems and Programs," in James M. Smith and Paul J. Bolt, eds., *China's Strategic Arsenal: Worldview, Doctrine, and Systems* (Georgetown University Press, 2021).

Sugio Takahashi, "Development of gray-zone deterrence: concept building and lessons from Japan's experience," *The Pacific Review*, November 2018.

Michael Fabey, *Crashback: The Power Clash Between the U.S. and China in the Pacific* (Scribner, 2017). 邦訳は、マイケル・ファベイ著、徳地秀士監修、赤根洋子訳『米中海戦はもう始まっている—21世紀の太平洋戦争』文藝春秋、2018年。

Ian Easton, *The Chinese Invasion Threat: Taiwan's Defense and American Strategy in Asia* (Project 2049 Institute, 2017).

Toshi Yoshihara, *Red Star over the Pacific: China's Rise and the Challenge to US Maritime Strategy*, Second Edition (Naval Institute Press, 2019).

GRIPS Webinar: "Dragon against the Sun: Chinese Views of Japanese Seapower," Toshi Yoshihara (CSBA) discusses his recent report with Narushige Michishita (GRIPS), June 24, 2020, <https://www.youtube.com/watch?v=QrfzwapczEw&t=4770s>

Elliot Ackerman and James Stavridis, *2034: A Novel of the Next World War* (Penguin Press, 2021). (エリオット・アッカーマン、ジェイムズ・スタヴリディス『2034 米中戦争』熊谷千寿訳、二見文庫、2021年)

Tsuyoshi Sunohara, *Fencing in the Dark: Japan, China, and the Senkakus* (Tokyo: Japan Publishing Industry Foundation for Culture, 2020). (春原剛『暗闘 尖閣国有化』新潮文庫、2015年。)

Col. Qiao Liang and Col. Wang Xiangsui, *Unrestricted Warfare: China's Master Plan to Destroy America* (Echo Point Books & Media, 2015). (喬良、王湘穗『超限戦—21世紀の「新しい戦争」』坂井臣之助監修、Liu Ki 訳)

Eric Heginbotham, et al., *The U.S.-China Military Scorecard: Forces, Geography, and the Evolving Balance of Power, 1996-2017* (RAND, 2015), https://www.rand.org/content/dam/rand/pubs/research_reports/RR300/RR392/RAND_RR392.pdf.

Office of the Secretary of Defense, "Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2021," Annual Report to Congress, November 2021, <https://media.defense.gov/2021/Nov/03/2002885874/-1/1/0/2021-CMPR-FINAL.PDF>.

Jonathan F. Solomon, "Defending the Fleet from China's Anti-Ship Ballistic Missile: Naval Deception's Roles in Sea-Based Missile Defense," A Master Thesis, Georgetown University, April 15, 2011, .

Yoshikazu Watanabe, Masanori Yoshida, and Masayuki Hironaka, "The US-Japan Alliance and Roles of the Japan Self-Defense Forces: Past, Present, and Future," (Sasakawa Peace Foundation USA, 2016), .

J. Ashley Roach and Robert W. Smith, *Excessive Maritime Claims*, 3rd ed. (Leiden: Martinus Nijhoff Publishers, 2012).

James Kraska and Raul Pedrozo, *International Maritime Security Law* (Martinus Nijhoff, 2013).

Tetsuo Maeda, *The Hidden Army: The Untold Story of Japan's Military Forces*, trans. by Steven Karpa (Edition Q, 1994), pp. 229-268. (前田哲男『自衛隊の歴史』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、1994年)

Andrew Oros and Yuki Tatsumi, *Global Security Watch: Japan* (Praeger, 2010).

National Institute for Defense Studies, *NIDS China Security Report*, .

Narushige Michishita, "Deciphering China's Security Intentions: The Japanese Debate," in Gilbert Rozman, ed., *Joint U.S.-Korea Academic Studies*, Vol. 27, 2016, http://www.keia.org/sites/default/files/publications/final_kei_jointus-korea_2016_161010.pdf.

Narushige Michishita, "Japan's Grand Strategy for a Free and Open Indo-Pacific," *The Oxford Handbook of Japanese Politics* (Oxford University Press, forthcoming).

道下徳成「第8章 インド太平洋地域のパワーシフト—中国の台頭と日本の対応」庄司潤一郎、石津朋之

編著『地政学原論』日本経済新聞出版社、2020年。

Robert Spalding, *Stealth War: How China Took Over While Americas Elite Slept* (Portfolio, 2019)

出入管理庁撮影『尖閣列島写真集』1970年、

<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/shiryo/senkaku/detail/s1970070000103/s1970070000103-p02.pdf>

Narushige Michishita, "Cooperate and compete: Abe's new approach to China," *Straits Times*, November 13, 2018, p. A17.

Narushige Michishita, "Land of setting sun meets rising dragon," *Straits Times*, October 3, 2012, p. A22.

Session 12: U.S.-Japan Alliance

Required Reading:

Emma Chanlett-Avery, et al., "The U.S.-Japan Alliance," April 6, 2021, <https://sgp.fas.org/crs/row/RL33436.pdf>.

Stephen M. Walt, "Why Alliances Endure or Collapse," *Survival*, vol. 39, no. 1 (1997), pp. 156-179.

Narushige Michishita, Peter M. Swartz, and David F. Winkler, *Lessons of the Cold War in the Pacific: U.S. Maritime Strategy, Crisis Prevention, and Japan's Role* (Woodrow Wilson Center, 2016), https://www.wilsoncenter.org/sites/default/files/lessons_of_the_cold_war_in_the_pacific_one_page.pdf.

Recommended Reading:

Michael J. Green, *By More Than Providence: Grand Strategy and American Power in the Asia Pacific since 1783* (Columbia University Press, 2017), pp. 400-408.

Jennifer M. Lind, "Pacifism or Passing the Buck? Testing Theories of Japanese Security Policy," *International Security*, Vol. 29, No. 1 (Summer, 2004), pp. 92-121.

Narushige Michishita, "The US Maritime Strategy in the Pacific during the Cold War," in Sebastian Bruns and Sarandis Papadopoulos, eds., *Conceptualizing Maritime and Naval Strategy: Festschrift for Captain Peter M. Swartz, United States Navy, Retired* (Baden-Baden: Nomos, 2020).

"Fukushima: The Worst-Case Scenario," Part 1 and 2, *NHK World*, May 22, 2021. (Ask Prof. Michishita for DVDs.)

Richard L. Armitage and Joseph S. Nye, co-chairs, "More Important Than Ever: Renewing the U.S.-Japan Alliance for the 21st Century," October 2018, https://csis-prod.s3.amazonaws.com/s3fs-public/publication/181011_MorethanEver.pdf?mqdj.CUqu88cv69VWESL7wICl9e9GqCh.

Michael J. Green, "The Search for an Active Security Partnership: Lessons from the 1980s," in Akira Iriye and Robert A. Wampler, eds., *Partnership: the United States and Japan, 1951-2001* (Tokyo: Kodansha International, 2001), pp. 135-160.

John F. Lehman, *Oceans Ventured: Winning the Cold War at Sea* (Norton, 2018).

David F. Winkler, *Incidents at Sea: American Confrontation and Cooperation With Russia and China 1945-2016* (Naval Institute Press, 2017).

"Toward a Greater Alliance: A Policy Proposal of the Mt. Fuji Dialogue Special Task Force," April 2017,

https://www.jcer.or.jp/jcer_download_log.php?post_id=28034&file_post_id=28235

Institute for International Policy Studies, "The Trump Administration and Japan: Challenges and Visions for Japan's Foreign and Security Policy in the New Era," Japan-US Alliance Study Group Report, January 2017, . (世界平和研究所 日米同盟研究委員会「米国新政権と日本—新時代の外交安保政策」2017年1月)

Narushige Michishita and Andrea Pressello, "Japan-US Joint Disaster Relief Operations: Achievement, Limitations, and Impacts," in Keiichi Tsunekawa, ed., Five Years After: Reassessing Japan's Responses to the Earthquake, Tsunami, and the Nuclear Disaster (University of Tokyo Press, 2016).

Edward J. Marolda, Ready Seapower: A History of the U.S. Seventh Fleet (Naval History & Heritage Command, 2012), <https://www.history.navy.mil/content/dam/nhhc/research/publications/Publication-PDF/ReadySeapower.pdf>

Glenn Herald Snyder, Alliance Politics (Cornell Studies in Security Affairs) (Cornell University Press, 1997), chapters 1, 2, 5, 6, and 9.

Kent E. Calder, Embattled Garrisons: Comparative Base Politics and American Globalism (Princeton University Press, 2008).

Shinji Kawana and Minori Takahashi, eds., Exploring Base Politics: How Host Countries Shape the Network of U.S. Overseas Bases (Routledge, 2020).

川名晋史編『基地問題の国際比較—「沖縄」の相対化』明石書店、2021年。

川名晋史『基地の政治』学白桃書房、2012年。

Shinji Kawana, Kichi No Seijigaku (Base Politics: The Origins of the Post War U.S. Overseas Bases Expansion Policy) (Tokyo: Hakutō Shobō, 2012).

Alexander Cooley, Base Politics: Democratic Change and the U.S. Military Overseas (Ithaca, NY: Cornell University Press, 2008).

Christopher Sandars, America's Overseas

3. 成績の評価方法/ Grading:

Requirements

For GOV2240E International Security Studies (MA):

Final exam (100%)

A 60-minute in-class closed-book written exam (scheduled for January 31, 2023)

For GOV7240E Advanced International Security Studies (Ph.D.):

Book Review (10%)

Ph.D. students are asked to write one 800 to 1,000-word review on one or two book(s) by January 31, 2023. Find one or two academic books relevant to the subjects dealt with in this course (books on the recommended reading list are

acceptable, but not those on the required reading list). If you choose two books, you should choose two books on more or less the same topic and write a comparative review. You are not allowed to choose edited volumes. You must obtain approval from the instructor before you start writing the review.

Book review must consist of (a) a summary of the book (10%), (b) one or two most important argument(s) (30-40%), (c) a critical assessment (both positive and negative) of the book's main argument(s) (40-50%), and (d) comparison of the book with other similar books if any (0-10%).

Reaction Papers (90%)

Ph.D. students will also be asked to submit one 600 to 800-word reaction paper for each session except for Sessions 1, 8, 14, and 15 to michi@grips.ac.jp by midnight on the first Sunday after the class (2400 hours on Sundays). Use "word count" and indicate the number of words in your paper. Only the number of words in the main text counts. The title and notes do not.

I ask you to write reaction papers to enhance your ability to ask good questions, collect relevant information quickly (mainly online), construct your analytical framework, and find answers to those questions logically. It is not about writing academic papers but about conducting intellectual exercises on topics related to national or international security.

In writing the paper, identify one (or maybe two) facts, issues, or analyses that struck you most in the required reading materials and lectures, and provide your analytical observations. The subject of the paper must be relevant to the topic of the particular session. For example, write about civilian control in the paper for the session on civilian control. Do not write about military balance in the paper for the session on civilian control even if the required reading materials for the session touch upon military balance.

The title of the paper must be original. Do not use the title of the session as the title of your paper. You must entitle your paper based on the topic you chose to write about.

To make your argument clear in reaction papers, you may choose to state one or two questions at the beginning and answer them in the following main text. This is not a universal format, but it may be helpful to make your argument solid and cogent.

Do not simply summarize the lecture or the reading materials. Neither should you plagiarize (copy materials in full or partially from somebody else's work and use it). When you borrow ideas from others' work, make sure you paraphrase and cite the original work by using the footnoting function available in MS-WORD.[1] Please take a look at the link below to understand how to avoid plagiarism. Plagiarism will result in disqualification from this course.

"Plagiarism: What It is and How to Recognize and Avoid It"

<https://wts.indiana.edu/writing-guides/plagiarism.html>

In writing the paper, use the format sent by the instructor. Do not change the font size (12 points) or margins. When you send the file, name the file like the following: "Your first name or nickname (session number).docx," for

example"Joe (Session 5).docx."

You are not a specialist in the field yet (although you are going to be), and writing an essay on some random topics must be a challenge. However, I ask you to do this because that's what you will be asked to do in the future. Try to do the following when you write your paper:

- Identify some interesting topics/issues in the reading materials/class lecture and discussion, and come up with one tentative question for the paper;
- Find some related information, articles, and papers on the website;
- Read them, modify your question, and write an essay on the topic.
- I expect you to spend about eight hours on this.

You are a Ph.D. student. Ph.D. students must become capable of finding good questions instead of simply finding good answers to the questions provided by their advisors. You don't have to be "right" on everything. Reaction papers are a means of developing your ideas and arguments. So, be creative and aggressive.

Reaction papers will be graded on a scale of 1 to 10 with 10 being the best grade.

Finding Reading Materials

Required reading materials are available at the Moodle academic support website (Password: michishita). While Moodle is not available, I will provide them on the Teams groups for this course. Most of the recommended reading materials are available in the library (including the library database). If you cannot find the materials, please let me know by e-mail.

[1] For the definition of plagiarism, see "Plagiarism," .

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

See the course schedule

5. 履修上の注意/Note:

Students may contact me either by simply talking to me after the class or by sending e-mails to michi@grips.ac.jp. If urgent, you can call me at 090-5491-0170.

michi@grips.ac.jp

Room #: C1309 (ext. 6236)

Phone: 090-5491-0170

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7261E

科目名/Course Name: Politics in Africa

担当教員/Instructor: KARUSIGARIRA Ian/KARUSIGARIRA Ian

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is an introduction to advanced analysis of African politics for graduate level research students. At the very basic level, we examine how politics is ordered in Africa and address a wide-range of research agendas with a social scientific interdisciplinary approach. We not only examine how states have survived the turbulent processes of colonization, decolonization and contemporary excesses but also the politics that take place outside the state formations. An attention on the African intellectuality—the insider—related to decolonization and a critical analysis of Africanist scholarship — analysts, friends, and protagonists of Africa — could inspire ingenuity toward understanding of African agency in pursuit of decoloniality and critical thought on political development amid western colonizing and neo-colonial discourses.

With the deep knowledge of the political mechanisms in African, we then interrogate the topical issues in African political landscape including; the regime types (pseudo-democratic, authoritarian and hybrid regimes), and alternative sources of power (civil society and resistance), identity politics (religious, political parties, and ethnic), policy alternatives etc.,. The course will help encourage critical reflections on popular and academic representations of "Africa", instigate inter-disciplinary explanatory approach to the study of public policy and empiricism, and facilitate an opening for networking theories and concepts with in-depth analyses of contextual African cases.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction to African Politics

Week 1 (Feb 1 Thurs): Winter Term General orientation (Students' backgrounds, goals, and expectations); An Introduction to African Politics (Nic Cheeseman 2016), in African Politics: Critical Concepts in Political Science (Volume One), Nic Cheeseman (ed.), pp. 1-26.

Week 2 (Feb 8 Thurs) "Introduction" (Larry Diamond 2010), in Democratization in Africa: Progress and Retreat (Second Edition), (Larry Diamond and Marc F. Plattner (eds.). Baltimore: The Johns Hopkins University Press. pp. ix-xxviii; Why African Politics matter (Kevin C. Dunn and Pierre Englebert (eds.) 2019), in Inside African Politics. Chap.1, pp. 1-17.

Week 3 (Feb 15 Thurs) Decoloniality as a Combative Ontology in African Development (William Mpfu 2018), in Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development, Ojo Olorunjoba and Toyin Falola (eds.). Chap. 5, pp.83-102).

2. Political Cultures: Electoral politics, and political systems

Week 4 (Feb 22 Thurs): The Evolution of African States (Kevin C. Dunn and Pierre Englebert (eds.) 2019), in *Inside African Politics*. Chap.1, pp. 17-66.; *Subverting Democracy: The Advantages of Incumbency and the Political Violence* (Niv Cheeseman 2015) in *Democracy in Africa: Successes, Failures, and the Struggle for Political Reforms*, Chap. 5, pp. 143-171.

Week 5 (Feb 29 Thur): *Fragments of Democracy: Participation and Control in Authoritarian Africa* (Nic Cheeseman 2015), in *Democracy in Africa: Successes, Failures, and the Struggle for Political Reforms*, Chap.1, pp. 32-56; *The puzzle of Electoral Continuity* (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Chap.1, pp. 1-30

Week 6 (March 7 Thur): *The Impact of Elections on Democracy* (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Chap.1, pp. 62-100; *Analyzing Issues in Presidential Campaigns* (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Chap.1, pp. 62-100; "The Institutionalization of Political Power in Africa", (Posner and Young 2007), *The Journal of Democracy* Vol.18, No.3, pp. 126-140 (additional reading)

Week 7 (Mar 14 Thurs): *Do African Elections Matter?* (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Chap.8, pp. 261-284; "The African Vote" (Jaimie Bleck and Nicolas van de Walle 2019), in *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Chapter 7, pp.218-260.

3. Ethnic and identity politics

Week 8 (Mar 21 Thurs): *Rethinking Ethnicity* (Jenkins 2008 [1997]), Chap 1 and 2, pp.3-27); *Violence and Social*

Construction of Ethnic Identity Fearon and Laitin 2000) pp.845-877.

Important date: March 28 2024 (Thursday) at 16:00—Exam submission

3. 成績の評価方法/ Grading:

Please continue to the completion once you have registered and passed the stipulated withdrawal period. No withdrawal from the class in the midcourse. The required assignments are (a) weekly readings and active seminar participation, and (b) writing a well-thought "review essay" on any topic related to politics in Africa. The expected length is between 3,000 and 5,000 words. Class attendance, active classroom participation, and weekly assignments: 50%. Final assignment (a draft paper): 50%. Please follow the shared instructor's guidelines on the structure of your exam paper. Also, follow the recommended citation guidelines provided at the beginning of this course.

Required Readings

Barany, Zoltan. 2012. *The Soldiers and the Changing Society: Building Democratic Armies in Africa, Asia, Europe, and the Americas*. Princeton: Princeton University Press.

Bleck, Jaimie and Nicolas van de Walle 2019. *Electoral Politics in Africa since 1990: Continuity in Change*. Cambridge: Cambridge University Press.

Cheeseman, Nic (ed). 2016. *African Politics: Critical Concepts in Political Science (Volume One)*. Park Square: Routledge.

Cheeseman, Nic (ed). 2018. *Institutions and Democracy in Africa: How the Rules of the Game Shape the Political Development*. New York: Cambridge University Press.

Diamond, Larry. 2010. "Introduction". In *Democratization in Africa: Progress and Retreat (Second Edition)*, Larry Diamond and Marc F. Plattner (eds.). Baltimore: The Johns Hopkins University Press. pp. 59-72.

Dunn, C. Kevin and Pierre Englebert. 2019. *Inside African Politics*. London: Lynne Rienner Publishers.

Fearon, D. James and David D. Laitin. "Violence and Social Construction of Ethnic Identity", *International Organizations* 54, 4, Autumn, 2000, pp. 845-877.

Jenkins, Richard. 2008 [1997]. *Rethinking Ethnicity (Second Edition)*. Sage.

Mpofu, William. 2018. "Decoloniality as a Combative Ontology in African Development". In *Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development*, Samuel Olorunfoba Ojo and Toyin Falola (eds.). New York: Nature America Inc. pp.83-102.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Aiyede, E. Remi and Afeaye A. Igbafe. "Institutions, Neopatrimonial Politics and Democratic Development", *Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development*, Ojo Olorunfoba and Toyin Falola (eds.). New York: Nature America Inc.

Alvarez, Mike., José Antonio Cheibub., Fernando Limongi, and Adam Przeworski. "Classifying Political regimes", *Studies in Comparative International Development*. 31, 1996. pp.1-3-36.

Amutebi, N. Maurice and Shadrack Wanjala Nasong'o 2013. *Regime Change and Succession Politics in Africa: Five Decades of Misrule*. New York: Routledge.

Bach, C. Daniel and Mamoudou Gazibo (eds.). 2012. *Neopatrimonialism in Africa and Beyond*. Taylor and Francis.

Bayart, Jean-Francois, Stephen Ellis & Beatrice. Hibou. 1999. *The Criminalization of the State in Africa (Illustrated Version)*. Oxford: Currey.

Bayart, Jean-Francois. 1993. *The State in Africa*. London: Longman.

Bayart, Jean-Francois. "Africa in the World: A history of Extraversion". *African Affairs*, no. 99, 2000.

Berman, Bruce. "Ethnicity, Patronage and the African State: The Politics of Uncivil Nationalism", *African Affairs*, Vol. 97, 1998, pp. 305-341.

Bratton, Michael. and Nicholas vande de Walle (eds.) 1997, "Introduction". In *Democratic Experiments in Africa: Regime Transitions in Comparative Perspective*, Cambridge University Press.

Cheeseman, Nic and Jonathan Fisher. 2019. *Authoritarian Africa: Repression, Resistance, and the Power of Ideas*. Oxford: Oxford University Press.

Colombo, Silvia. 2018. *Political & Institutional Transition in North Africa Egypt & Tunisia in Comparative Perspective*. S.L.: Routledge.

Crawford, Young. 2013. "The Heritage of colonialism", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press. pp.15-34 (Chap2)

Crawford, Young. "The End of the Post Colonial State in Africa? Reflections on Changing African Political Dynamics", *African Affairs*. 103, Issue 410, 2004, pp. 23-49

Davenport, Christian. 2015. *How Social Movements Die: Repression and Demobilization of the New Republic of Africa*. New York: Cambridge University Press.

Eisenstadt, N. Shmuel. 1973. *Traditional Patrimonialism and Modern Neopatrimonialism*. Beverly Hills: Sage Publications,

Ekeh, Peter. "Colonialism and the Two Publics in Africa: A theoretical statement". *Comparative Studies in Society and History* 17, no. 1, 1975, pp. 91-112.

Englebert, Pierre. 2000. *State Legitimacy and Development in Africa*. Boulder (CO)/ London: Lynne Rienner Publishers.

Francis, M. Deng. 1995. *War of Visions: Conflict of Identities in the Sudan*. Washington, D.C.: Brookings Institution.

Géard, Prunier. 1995. *The Rwanda Crisis: History of a Genocide*. New York: Columbia University Press.

Goran, Hyden. (July 2008 Discussion paper). *Institutions, Power and Policy Outcomes in Africa*.

Green, Penny and Tony Ward. 2004. *State Crime: Governments, Violence and Corruption*. London: Pluto Press.

Hall, A. John. "State Failure". In the *Oxford Handbook of Comparative Institutional Analysis*, Glenn Morgan, John L. Campbell, Colin Crouch and Ove Kaj Pedersen (eds.). pp. 586-600.

Harbeson, W. John. 2013, "Democracy, Autocracy, and the Sub-Saharan African State", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press, pp.83-123

Herbst, Jeffrey. "War and the State in Africa", *International Security*, 14 (4), 1990, pp. 117-139.

Herbst, Jeffrey. 2000. *State and Power in Africa: Comparative Lessons in Authority and Control*. Princeton: Princeton University Press.

Herbst, Jeffrey. 2000. *State Politics in Zimbabwe*. Harare: University of Zimbabwe Publications. Zimbabwe.

Jackson, Robert and Carl G. Rosberg. "Why Africa's Weak States Persist", *World Politics*. Vol 35, 1. 1982, pp 1-24.

Jackson, H. Robert and Carl G. Rosberg. "Personal Rule: Theory and Practice in Africa" *Comparative Politics*., Vol. 16, No. 4. 1984, pp. 421-442.

Kelsall, Tim. "Towards a universal political settlement concept: A response to Mustaq Khan", *African Affairs* 469, 2018, pp. 656-69.

Khan, H. Mushtaq. "Political Settlements and the Analysis of Institutions", *African Affairs* 469, 2018, pp. 636-55.

Lemarchand, René. 1988. "The State, the Parallel Economy, and the Changing Structure of Patronage Systems". In *the Precarious Balance: State and Society in Africa*, D. Rothchild and N. Chazan (eds). London: Westview Press.

Mamdani, Mahmood. 1996. *Citizen and Subject: Contemporary Africa and the Legacy of Late Colonialism*. Princeton University Press.

Mamdani, Mahmood. 2010. *Saviors and Survivors: Darfur, Politics and the War on Terror*. New York: Pantheon Books.

Medard, Jean-Francois. 1982. "The Underdeveloped State in Tropical Africa: Political Clientelism or Neopatrimonialism". In *Private Patronage and Public Power: Political Clientelism in the Modern State*, Christopher Clapham (ed.). London: Frances Printer.

Migdal, S. Joel. 1988. *Strong Societies and Weak States: State-Society Relations and State Capabilities in the Third World*. Princeton: Princeton University Press.

Moss, Todd, 2013, "Reflections on Africa's Rocky Love-Hate Relationship with International Capital", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press, pp.35-51

Mueller, Lisa. 2018. *Political Protests in Contemporary Africa*. Cambridge: Cambridge University Press.

Nugent, Paul. "States and Social Contracts in Africa", *New Left Review*, 63, 2010, pp. 35-67.

Perrot, Sandrine, Sabiti Makara, J&eacut;rôme Lafargue Marie-Aude Fou&eacut;r&eacut; (eds.). 2014. *Elections in a Hybrid Regime. Revisiting the 2011 Ugandan Poll*. Kampala: Fountain Publishers.

Pitcher, Ann., Mary H. Moran and Michael Johnston "Rethinking Patrimonialism and Neopatrimonialism in Africa", *African Studies Review*, 52 (1): 2009, pp. 125-156.

Posner, N. Daniel and Daniel J Young "The Institutionalization of Political Power in Africa", *The Journal of Democracy* Vol.18, No.3, 2007, pp. 126-140. (Soft copy)

Posner, N. Daniel. 2005. *Institutions and Ethnic Politics in Africa*, Cambridge: Cambridge University Press.

Randall, Vicky and Robin Theobald 1998 [1985]. *Political Change and Underdevelopment: A Critical Introduction to Third World Politics (Second Edition)*. Durham: Duke University Press.

Ranger, Terrence. 1996. "The Invention of Tradition in Africa", in *the Invention of Tradition*, Eric Hobsbawm and Terence Ranger (eds.). Cambridge: Cambridge University Press.

Riedl, B. Rachel. "Transforming Politics, Dynamic religion: Religion's Political Impact in Contemporary Africa", *African Conflict and Peacebuilding Review*, Vol. 2, No. 2. 2012. pp. 29-50. Available at <https://www.jstor.org/stable/10.2979/africonfpeacrevi.2.2.29>

Sciortino, Giuseppe. "From Homogeneity to Difference? Comparing Multiculturalism as a Description and a Field for Claim-Making", *Comparative Social Research*, Vol. 22, 2003, pp.263- 285.

Szeftel, Morris. "Misunderstanding African politics: Corruption and the Governance Agenda". *Review of African Political Economy*. 25, 76, 1998, pp. 221-40.

Taylor, Ian. 2013, "The Growth of China in Africa", In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, John W. Harbeson and Donald Rothchild (Eds). Boulder: Westview Press, pp. 285-309.

Van de Walle, Nicolas. "Presidentialism and Clientelism in Africa's Emerging Party Systems", *Journal of Modern African Studies*., Vol. 41, 2003, pp. 297-321.

Wainaina, Binyavanga. 2008. *How to Write about Africa*. Nairobi: Kwani Trust.

Weber, Max. 1968. *Economy and Society*. Berkeley: University of California Press.

Zartman, I. William, 2013, "The Diplomacy of African Boundaries," In *Africa in World Politics: Engaging a Changing Global Order*, Ed. John W. Harbeson and Donald Rothchild, Boulder: Westview Press, pp.173-185.

5. 履修上の注意/Note:

Things to note when dealing with primary materials

A balance must be drawn when using policy literature and theoretical-academic studies. Policy-based literature has some particularities that make it different from purely academic works. Policy actors t

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7311E

科目名/Course Name: Comparative Politics

担当教員/Instructor: 竹中 治堅/TAKENAKA Harukata

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a graduate course on comparative politics chiefly for the YLP and public policy. The course aims to expose students to major issues on political regimes and democratization with particular focus on political institutions. The course puts weights on discussions based on the readings. You will get basic understandings of democratization and authoritarian regimes with concrete examples as well as key mechanism of democracy.

Emphasis on extensive readings, and critical analysis, of the literature.

All students are expected to actively participate in discussions in the seminar.

I ask every student to submit a paper that cover following points by 10:00 am Monday morning via e-mail to harukatat@nifty.com. The PRESENTER should write 7-8 pages while other students write about 2 pages.

(1)What are issues and questions covered by the readings? In other words, why do these scholars bother to write lengthy books and papers? These should be put into several sentences.

(2)What are answers to the issues and questions raised by the scholars? Do they come up with the same answers? Highlight differences among the readings.

(3)Evaluate points that contribute to understanding of the topics addressed by the readings.

(4) criticize the reading by referring to points that are missing or that need to be further explored by future research.

I will ask one or two students to make presentations.

Students have to write a paper with between 4000 and 6000 words on one theme in comparative politics, namely, some issue related to democratization or democracy discussed in this course. They have to prepare their paper under the following schedule.

December 5. Paper Topic Due.

December 26. Paper Outline Due. Outline Presentation.

January 23. Paper Due. -

There will be NO exam. The weekly assignments account for 40% of the grade. 20% will be determined by

presentation and participation in the seminar sessions. The research paper count for 40%.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. October 10. Introduction: Logistics

I. Political Regimes

2. October 17. Political Regimes: Recent Developments

Larry Diamond 2019. *Ill Winds*. New York: Penguin Press. 41-58.

Scott Mainwaring and Fernando Bizzarro. 2019. The Fates of Third-Wave Democracies, *Journal of Democracy*, vol. 30 (1). 99-113.

Andrew J. Nathan. 2020. The Puzzle of Authoritarian Legitimacy, *Journal of Democracy*, vol. 31 (1). 158-168.

Takis S. Pappas. 2019. Populist in Power, *Journal of Democracy*, Vol 30, (2). 70-84

Robert Person and Michael McFaul. 2022. What Putin Fears Most, *Journal of Democracy*, vol. 33 (2). 18-27.

Kim Lane Scheppele. 2022. How Viktor Orban Wins, *Journal of Democracy*, vol. 33 (3). 45-61.

3. October 24. Definitions

Robert Dahl. 1971. *Polyarchy: Participation and Opposition*. New Haven: Yale University Press. 1-16.

Juan Linz and Alfred Stepan. 1996. *Problems of Democratic Transition and Consolidation: Southern Europe, South America and Post-Communist Europe*.

Baltimore: Johns Hopkins University Press. 38-54.

Stephen Haber. 2006. "Authoritarian Government," in Barry Weingast and Donald Wittman, eds., *The Oxford Handbook of Political Economy*. Oxford. Oxford University Press: 693-707.

Steven Levitsky and Lucan Way. 2011. *Competitive Authoritarianism*. New York: Cambridge University Press. 3-36.

Cas Mudde and Cristóbal Rovira Kaltwasser. 2017. *Populism: A Very Short Introduction*. New York: Oxford University Press. 1-20.

Jan-Werner Müller. 2017. *What is Populism*. New York: Penguin Book. 7-30.

II. How do we explain changes?

4. October 31. Structural Approach:

Barrington Moore. 1967. *Social Origins of Dictatorship and Democracy*. Boston: Beacon Press. ix-xxv. 3-39. 111-161. 228-313. 433-452. (Read if possible 40-110 on France.)

Robert Dahl. 1971. *Polyarchy: Participation and Opposition*. New Haven: Yale University Press. 33-47.

5. November 7. Structural Approach: Is redistribution really an issue?

Charles Boix. 2003. *Democracy and Redistribution*. New York: Cambridge

University Press. 1-59. (Read pages from 59 to 109 if possible.)

Charles Boix and Susan Stokes. 2003. "Endogenous Democratization." *World Politics*. 55(4) 517-549.

Stephan Haggard and Robert Kaufman. 2012. "Inequality and Regime Change: Democratic Transitions and the Stability of Democratic Rule," *American Political Science Review*. 106(3). 495-516.

Stephan Haber and Victor Menaldo 2011. "Do Natural Resources Fuel Authoritarianism?" *American Political Science Review*. 105.(1) 1-26.

Ben Ansell. 2014. *Inequality and Democratization*. New York: Cambridge University Press. 1-60, 61-72. 95-123.

6. November 14. Transition to Democracy

Samuel P. Huntington. 1993. *The Third Wave*. Norman: University of Oklahoma Press. 3-46. Larry Diamond. 2008.

Spirit of Democracy. New York: Time Books. 39-87.

G. O'Donnel. P. Schmitter and L. Whitehead. 1985. *Transitions from Authoritarian Rule. Tentative Conclusions about Uncertain Democracies*. Baltimore:

Johns Hopkins University Press. 1-72.

7. November 21. Consolidation of Democracy

Larry Diamond. 1999. *Developing Democracy*. 64-77.

Juan J. Linz and Alfred Stepan, 2001. "Toward Consolidated Democracies," *Global Divergence of Democracies*.

Baltimore: Johns Hopkins University Press.

93-112.

Guillermo O'Donnel. 2001. "Illusions about Consolidation." *Global*

Divergence of Democracies. Baltimore: Johns Hopkins University Press. 113-130.

Thomas Carothers, 2002. "The End of the Transition Paradigm," *Journal of Democracy* 13 (1):5-21.

Milan Svobik, 2009. "Authoritarian Reversals and Democratic Consolidation." *American Political Science Review*, 102 (2), 153-168.

8. November 28. Crisis of Democracies and Democratic Breakdowns

Juan Linz. 1978. *The Breakdown of Democratic Regimes: Crisis, Breakdown & Reequilibration*. Baltimore: Johns Hopkins University Press. 1-74.

Steven Levitsky and Daniel Ziblatt. 2018. *How Democracies Die*. New York:

Crown. 11-32.

Stephan Haggard and Robert Kaufman. 2021. *Backsliding: Cambridge Elements*. Cambridge. Cambridge University Press 1-84.

Harukata Takenaka, 2014. *Failed democratization in prewar Japan :*

breakdown of a hybrid regime. Stanford, California: Stanford University Press.

Dan Slater and Aries A. Aruguay. "Polarizing Figures: Executive Power and Institutional Conflict in Asian Democracies." *American Behavioral Scientist*, vol. 62

(1):92-106.

9. December 5. Populism and Polarization

Cas Mudde and Cristóbal Rovira Kaltwasser. 2017. *Populism: A Very Short Introduction*. New York: Oxford University Press. 21-41,79-108.

Pippa Norris and Ronald Inglehart. 2019. *Cultural Backlash*. New York: Cambridge University Press. 3-64.

Bart Bonikowski. 2019. *Trumps Populism. When Democracy Trumps Populism: Lessons from Europe & Latin America*, edited by Kurt Weyland and Raúl Madrid, 110-131. New York: Cambridge University Press.

Jennifer McCoy, Tahmina Rahman and Murat Somer. 2018. "Polarization and the Global Crisis of Democracy: Common Patterns, Dynamics, and Pernicious Consequences for Democratic Polities." *American Behavioral Scientist*, vol. 62 (1):16-42.

Alan Abramowitz and Jennifer McCoy. "United States: Racial Resentment, Negative Partisanship, and Polarization in Trump's America." *The ANNALS of American Academy of Political and Social Science*, vol. 681, January 2019: 137-153.

10. December 12. Persistence of Authoritarian Regimes.

Barbara Geddes. 1999. "Authoritarian Breakdown: Empirical Test of a Game Theoretic Argument."

Beatriz Magaloni. 2006. *Voting for Autocracy*. New York: Cambridge University Press. 1-81.

Jason Brownlee. 2007. *Authoritarianism in an Age of Democratization*. New York: Cambridge University Press. 25-43,202-222.

Milan W. Svobik. 2013. *Politics of Authoritarian Rule*. New York: Cambridge University Press. 1-18,53-100, 110-117,162-195.

Barbara Geddes, Joseph Wright, and Erica Frantz. 2018. *How Dictatorship Works*. New York: Cambridge University Press. 61-152.

Steven Levitsky and Lucan Way. 2011. *Competitive Authoritarianism*. New York: Cambridge University Press. 37-82.

11. December 19. Presidential and Parliamentary Systems

Arend Lijphart. 1999. *Patterns of Democracy*. New Haven: Yale University Press. 116-142.

Terry Moe and Michael Caldwell. 1994. "The Institutional Foundation of Democratic Government: A Comparison of Presidential and Parliamentary Systems" *Journal of Institutional and Theoretical Economics*. 150(1), 171-195.

Kaare Strom. 2000. "Parliamentary Democracy and Delegation." *Delegation and Accountability in Parliamentary Democracies*. New York: Oxford University Press. 55-106.

Juan Linz. 1993. "The Perils of Presidentialism" and the exchange between

Juan Linz, Donald Horowitz and Seymour Martin Lipset in Larry Diamond and Mark Platter. *Global Resurgence of Democracy*. Baltimore: John Hopkins University Press.

124-149.

Mathew Shugart and John Carey. 1992. *Presidents and Assemblies*. New York: Cambridge University Press. 28-54, 107-166.

12. December 26. Paper Outline Due and Presentation

13. January 9. Political Parties and Party System Development

Richard Gunther and Larry Diamond. 2001. "Types and Functions of Parties." In Larry Diamond and Richard Gunther ed. *Political Parties and Democracy*. Baltimore:

Johns Hopkins University Press. 3-40.

Gary Cox. 1997. *Making Votes Count*. New York. Cambridge University Press.13-33.

Seymour Martin Lipset and Stein Rokkan. 1967. "Cleavages Structures, Party Systems, and Voter Alignments: An Introduction." *Party Systems and Voter Alignments* edited by Seymour M. Lipset and Stein Rokkan. New York. Free Press.

1-64.

Herbert Kitschelt.1994. *The Transformation of European Social Democracy*.

New York. Cambridge University Press. 1-39.

Allen Hicken. 2009. *Building Party Systems in Developing Countries*. New York: Cambridge University Press, 1-47.

Allen Hicken and Erik Kuhonta. 2015. "Introduction: Rethinking Party

System Institutionalization in Asia" in *Party System Institutionalization in Asia*, eds., Allen Hicken and Erik Kuhonta. New York: Cambridge University Press, 1-24.

14.January 16. Political Parties and Distribution

Karen Long Jusko. 2017. *Who Speaks for the Poor?*. New York: Cambridge University Press, 1-49,154-178.

John D. Huber. 2017. *Exclusion by Elections*. New York: Cambridge University Press, 1-16,35-98.

Herbert Kitschelt and Steven I. Wilkinson. 2007. "Citizen-politician linkages: an introduction" in *Patrons, Clients, and Politics* edited by Herbert Kitschelt and Steven I. Wilkinson. New York: Cambridge University Press, 1-49.

Ethan Scheiner. 2005. "Pipelines of Pork: Japanese Politics and a Model of Local Opposition Party Failure." *Comparative Political Studies* 38: 799-823.

15.January 23. Party Discipline

Christopher Kam, William Bianco, Itai Sened, and Regina Smyth. 2010. "Ministerial Selection and Intraparty Organization in Contemporary British Parliament," *American Political Science Review* 104, 289-306.

Gary Cox. 1987. *Efficient Secret*. New York: Cambridge University Press.

45-67 80-87.91-112.137-147.

Christopher Kam, 2009. *Party Discipline and Parliamentary Politics*. New York: Cambridge University Press, 1-38. 75-103..

Michael Gallagher. 1988. "Introduction," *Candidate Selection in Comparative Perspective*, edited by Michael Gallager and Michael Marash, Newbury Park. Sage Publications.1-19

Shaun Bowler, D. M. Farrell and R. S. Katz.1999. *Party Cohesion, Party Discipline, and Parliaments*. *Party Discipline and Parliamentary Government*. Shaun. Bowler, D. M. Farrell and R.

S. Katz. Columbus, eds., Columbus: Ohio State University Press: 3-22.

3. 成績の評価方法/ Grading:

There will be NO exam. The weekly assignments account for 40% of the grade. 20% will be determined by presentation and participation in the seminar sessions. The research paper count for 40%.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Look at the course schedule.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7321E

科目名/Course Name: Comparative State Formation (Advanced)

担当教員/Instructor: LIM Guanie/LIM Guanie

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course unpacks how states were formed in the modern era, covering Europe, Africa, and East Asia. A comparative angle is emphasized for it helps us better understand what exactly has happened in particular cases, why, and with what effects. Through this process, we aim to specify concepts, categorize types, and understand power dynamics that lead to similarities and differences in experience.

The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to theoretical works and contemporary development issues. The first few lectures will provide an overview of the evolution of states across time and space. Subsequently, workshops are held, which include student presentations and discussions. At each workshop, several students will present the main points of pre-assigned readings and share their perspectives on the topics covered.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the history, politics, and development of major countries, developed the tools to think about what is typical and/or unusual about these states, and to explain the main similarities and differences between them.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Anarchy, Order, and the State

Week 3: National Identities and Nationalism

Week 4: State Formation in Europe

Week 5: State Formation in Africa

Week 6: State Formation in Southeast Asia

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (I): Taiwan and Korea

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (II): Malaysia and Singapore

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (III): Brazil and Chile

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (IV): Botswana and Somalia

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Peter Evans, Dietrich Rueschemeyer, and Theda Skocpol (eds). 1985. *Bringing the State Back In*. Cambridge University Press. Introduction and Conclusion [RR].

Douglas North. 1981. *Structure and Change in Economic History*. New York: Norton. Chapters 1-3 [RR].

Mancur Olson. 2000. *Power and Prosperity*. New York: Basic Books. Chapters 1-4 [SR].

Daron Acemoglu and James Robinson. 2012. *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity and Poverty*. New York: Crown Business [SR].

Francis Fukuyama. 2004. *State-Building: Governance and World Order in the 21st Century*. Ithaca: Cornell University Press [SR].

Week 3

Benedict Anderson. 1983. *Imagined Communities. Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. New York: Verso [RR].

Ernest Gellner. 1983. *Nations and Nationalism*. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-7 [RR].

Week 4

Charles Tilly. 1990. *Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992*. New Jersey: Blackwell. Chapters 1-6 [RR].

Week 5

Jeffrey Herbst. 2000. *States and Power in Africa*. Princeton: Princeton University Press. Chapters 1-6 [RR].

Crawford Young. 1994. *The African Colonial State in Comparative Perspective*. New Haven: Yale University Press. Chapters 4-5 [RR].

Samuel Decalo. 1976. *Coups and Army Rule in Africa*. New Haven: Yale University Press [SR].

Week 6

Thongchai Winichakul. 1994. *Siam Mapped: A History of the Geo-body of a Nation*. Hawaii: University Hawaii Press [RR].

Oliver William Wolters. 1999. *History, Culture, and Region in Southeast Asian Perspectives*. Southeast Asia Program. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-6 [SR].

Week 7

Alice Amsden. 1989. *Asias Next Giant: South Korea and Late Industrialization*. New York: Oxford University Press [RR].

Michelle Hsieh. 2011. Similar Opportunities, Different Responses: Explaining Divergent Patterns of Development between Taiwan and South Korea. *International Sociology*, 26(3): 364-391 [RR].

Tuong Vu. 2010. *Paths to Development in Asia: South Korea, Vietnam, China, and Indonesia*. New York: Cambridge University Press. Chapters 1, 2, 4, and 10 [RR].

Robert Wade. 2004. *Governing the Market: Economic Theory and the Role of Government in East Asian Industrialization*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Week 7

Heidi Dahles. 2008. Entrepreneurship and the Legacies of a Developmental State: Singapore Enterprises Venturing Across National Borders. *Journal of Developmental Entrepreneurship*, 13(4): 485-508 [RR].

Edmund Terence Gomez and Kwame Sundaram Jomo. 1999. *Malaysia's Political Economy: Politics, Patronage and Profits*. Cambridge: Cambridge University Press [RR].

Kwame Sundaram Jomo. 1986. *A Question of Class: Capital, the State and Uneven Development in Malaya*. Singapore: Oxford University Press [RR].

Linda Low. 2001. The Singapore Developmental State in the New Economy and Polity. *Pacific Review*, 14(3): 411-441 [RR].

Alexius Pereira. 2000. State Collaboration with Transnational Corporations: The Case of Singapore's Industrial Programmes (1965-1999). *Competition and Change*, 4: 423-451 [RR].

Garry Rodan. 1989. *The Political Economy of Singapore's Industrialization: National State and International Capital*. Basingstoke: Macmillan [RR].

Week 8

Peter Evans. 1979. *Dependent Development: The Alliance of Multinational, State, and Local Capital in Brazil*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Atul Kohli. 2004. *State-Directed Development: Political Power and Industrialization in the Global Periphery*. Cambridge: Cambridge University Press. Chapters 4 and 5 [RR].

Amir Lebdioui. 2019. Chiles Export Diversification since 1960: A Free Market Miracle or Mirage? *Development and Change*, 50: 1624-1663 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2014. Towards Post-Neoliberal Resource Politics? The International Political Economy (IPE) of Oil and Copper in Brazil and Chile. *New Political Economy*, 19(3): 329-358 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2012. Who Owns the Minerals? Repoliticizing Neoliberal Governance in Brazil and Chile. *Journal of Developing Societies*, 28(2): 229-256 [RR].

Week 8

Ornulf Gulbrandsen. 2012. *The State and the Social: State Formation in Botswana and its Pre-Colonial and Colonial Genealogies*. New York: Berghahn Books [RR].

Charles Harvey. 1992. Botswana: Is the Economic Miracle Over? *Journal of African Economies*, 1(3): 335-368 [RR].

Helge-Mari Loubser and Hussein Solomon. 2014. Responding to State Failure in Somalia. *Africa Review*, 6(1): 1-17 [RR].

Bashi Mothusi and Kenneth Dipholo. 2008. Privatisation in Botswana: The Demise of a Developmental State? *Public Administration and Development*, 28: 239-249 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1997. Leadership and Ethnicity in the Making of African State Models: Botswana versus Somalia. *Third World Quarterly*, 18(4): 687-708 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1993. Structural Adjustment as Development Strategy? Bananas, Boom, and Poverty in Somalia. *Economic Geography*, 69(1): 25-43 [RR].

Ian Taylor. 2012. Botswana as a Development-Oriented Gate-Keeping State: A Response. *African Affairs*, 111(444): 466-476 [RR].

Christian Webersik. 2005. Fighting for the Plenty: The Banana Trade in Southern Somalia. *Oxford Development Studies*, 33(1): 81-97 [RR].

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class attendance and participation (40%), presentation and discussion of the assigned readings in workshops (30%), and term paper (30%). For grading evaluation, a scale of A to E (A,B,C,D,E) would be employed.

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to read and discuss the reading assignments of a week of their choice. While a summary of the readings is important, what matters more is how the students critically analyze them. The students are expected to cover both the required and supplementary readings. Additional literature is also welcome, especially if value is added to the discussion. The word limit is 2,000. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to deploy empirical material to assess the merits of contending theories and approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in respond to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please refer to 2. Course Outline.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV7461E

科目名/Course Name: State and Politics in Southeast Asia (Advanced)

担当教員/Instructor: LIM Guanie/LIM Guanie

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course focuses on Southeast Asia, one of the worlds fastest-growing regions. It puts the states and politics of the region on center stage. Topics discussed include legacies of colonial rule, ethnic relations, nation building, and development paradigms. These topics would be discussed in a comparative and multidisciplinary manner so that the students can develop a broad understanding of some of the regions most pressing themes.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the past and present challenges confronting Southeast Asia, in addition to new opportunities opened up by the evolving international economic order.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Overview of the Political Economy of Southeast Asia

Week 3: Ethnic Chinese Minorities and Nation Building

Week 4: Ethnic Chinese Businesses

Week 5: Southeast Asia and the 1997 Asian Financial Crisis

Week 6: Vietnam: Between Southeast Asia and Northeast Asia

Week 7: A Tale of Two Asias: More Different than Ever

Week 8: Summary and General Discussion

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Gary Hawes and Hong Liu. 1993. Explaining the Dynamics of the Southeast Asian Political Economy. *World Politics*, 45(4): 629-660 [RR].

Akira Suehiro. 2008. *Catch-Up Industrialization: The Trajectory and Prospects of East Asian Economies*. Singapore: NUS Press. Introduction, Chapters 1-2, and 5-7 [RR].

Hal Hill, Siew Yean Tham, and Haji Mat Zin Ragayah (eds). 2012. *Malaysias Development Challenges: Graduating from the Middle*. Oxford: Routledge. Chapter 1 [SR].

Week 3

James Chin. 2009. The Malaysian Chinese Dilemma: The Never Ending Policy (NEP). *Chinese Southern Diaspora Studies*, 3: 167-182 [RR].

Jonathan Rigg. 2003. Exclusion and Embeddedness: The Chinese in Thailand and Vietnam in Laurence Ma and Carolyn Cartier (eds). *The Chinese Diaspora: Space, Place, Mobility, and Identity*: 97-115 [RR].

Leo Suryadinata (ed.) 2004. *Ethnic Relations and Nation-Building in Southeast Asia: The Case of the Ethnic Chinese*. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies. Chapters 1,2,3, 5,8, and 11 [RR].

Yuk Wah Chan (ed). (2011). *The Chinese/Vietnamese Diaspora: Revisiting the Boat People*. Oxford: Routledge. Chapters 1-4 [SR].

Rosey Wang Ma. 2005. Shifting Identities: Chinese Muslims in Malaysia. *Asian Ethnicity*, 6(2): 89-107 [SR].

Week 4

Edmund Terence Gomez. 2006. Chinese Networks and Enterprise Development: Malaysian Investments in China. *Journal of Contemporary Asia*, 36(3): 350-363 [RR].

John Kao. 1993. The Worldwide Web of Chinese Business. *Harvard Business Review*, March-April: 24-36 [RR].

Esther Zwart. 2007. (Re)Creating the Comfort Zone: From Common Ethnicity towards Commonwealth: The Transnationalisation Process of Malaysian Chinese Small and Medium Enterprises. *East Asia*, 24(2): 195-211 [RR].

Hong Liu and Guanie Lim. 2019. The Political Economy of a Rising China in Southeast Asia: Malaysias Response to the Belt and Road Initiative. *Journal of Contemporary China*, 28(116): 216-231 [SR].

Lotte Thomsen. 2009. Internal Business Organisation in the Private Garment Industry in Vietnam: The Roles of Ethnicity, Origin and Location. *Competition & Change*, 13(1): 29-50 [SR].

Week 5

Hoe Ee Khor, Diwa Guinigundo, and Masahiro Kawai (eds). 2022. *Trauma to Triumph: Rising from the Ashes of the Asian Financial Crisis*. Singapore: World Scientific. Parts I and II [RR].

Andrew Sheng. 2009. *From Asian to Global Financial Crisis: An Asian Regulators View of Unfettered Finance in the 1990s and 2000s*. Cambridge: Cambridge University Press. Introduction, Chapters 1-6 [RR].

William Case. 2009. After the Crisis: Capital and Regime Resilience in the ASEAN Three. *Journal of Contemporary Asia*, 39(4): 649-672 [SR].

Week 6

Khoo Boo Teik, Keiichi Tsunekawa, and Motoko Kawano (eds). 2017. *Southeast Asia beyond Crises and Traps: Economic Growth and Upgrading*. Basingstoke: Palgrave Macmillan, Chapter 4 [RR].

Martin Painter. 2005. The Politics of State Sector Reforms in Vietnam: Contested Agendas and Uncertain Trajectories. *Journal of Development Studies*, 41(2):261-283 [RR].

Jonathan Pincus. 2015. Why Doesn't Vietnam Grow Faster? State Fragmentation and the Limits of Vent for Surplus Growth. *Journal of Southeast Asian Economies*, 32(1):265-311 [RR].

Guanie Lim. 2021. *The Political Economy of Growth in Vietnam: Between States and Markets*. New York: Routledge. Chapter 5 [SR].

Week 7

Dwight Perkins. 2013. *East Asian Development: Foundations and Strategies*. Cambridge: Harvard University Press. Chapters 4-6 [RR].

Jan Nederveen Pieterse. 2015. What Happened to the Miracle Eight? Looking East in the Twenty-First Century. *Canadian Journal of Development Studies*, 36(3): 263-282 [RR].

Joe Studwell. 2014. *How Asia Works: Success and Failure in the World's Most Dynamic Region*. Profile Books: London [SR].

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class attendance and participation (60%) and term paper (40%).

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to read and discuss the reading assignments of a week of their choice. While a summary of the readings is important, what matters more is how the students critically analyze them. The students are expected to cover both the required and supplementary readings. Additional literature is also welcome, especially if value is added to the discussion. The word limit is 2,500. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in respond to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please refer to 2.Course Outline.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV8221E

科目名/Course Name: Politics of Global Money and Finance (Advanced)

担当教員/Instructor: CHEY Hyoung-kyu/CHEY Hyoung-kyu

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course addresses the international political economy of money and finance, a central issue area in International Political Economy (IPE). The course has two main objectives: 1) to understand the political causes of the evolving structure of the international monetary and financial system over time, and 2) to analyze the implications of this evolving structure for a nation's policy choices and for international and domestic politics. The focus of the course is not on the technical aspects of international financial market operations or international finance theories, but rather on the political and institutional contexts in which they function.

This course is related to Goal 16 (Peace, Justice and Strong Institutions) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The course is broadly divided into three sections. The first section addresses fundamental concepts and major theoretical issues in IPE, with specific reference to monetary and financial issues in the world economy. The second section considers the historical development of the international monetary and financial system, dating from the era of the classical gold standard. The final section discusses central issues relating to the international political economy of money and finance in the contemporary world, including financial globalization, international financial regulation, the future of the US dollar as the leading international currency, the internationalization of the Chinese renminbi, cryptocurrencies and central bank digital currencies.

Each class will consist of two parts. The first part will be a lecture by the instructor, and the second a seminar requiring the active participation of all students in discussing the major issues raised in the lecture. The lecture will account for about two-thirds of the length of each class, and the seminar the remainder.

3. 成績の評価方法/ Grading:

To be announced later.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Introductory texts:

Eichengreen, Barry. (2019). Globalizing Capital: A History of the International Monetary System, 3rd edition (Princeton and Oxford: Princeton University Press).

Oatley, Thomas. (2023). International Political Economy, 7th edition (New York and London: Routledge), Chapters 10 to 15.

Major IPE journals:

Review of International Political Economy; New Political Economy; International Studies Quarterly; International Organization; International Studies Review

5. 履修上の注意/Note:

A more detailed version of the syllabus, which will include the specific topic and required reading for each week, will be announced later.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV8241E

科目名/Course Name: Non-Traditional Security (advanced)

担当教員/Instructor: クロス 京子/CROSS Kyoko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to learn about the changing paradigm of security studies in the 21st Century. New security concepts, such as human security, non-traditional security, and women's security, are discussed in the class in order to highlight major security challenges in the age of globalism. Students are expected to understand how and why new security challenges have emerged in the post-Cold War era and how the international community deals with these security issues.

This course is related to Goals 1, 2, 3, 5, 6, 7, 10, 13, and 16 (poverty, hunger, good health and well-being, gender equality, clean water and sanitation, energy, inequalities, climate, and peace, justice and strong institutions) of the SDGs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction and Class Guidance
2. Lecture: Development of Security Studies during and after the Cold War
3. Lecture: Human Security and Non-Traditional Security
4. Conflict and Community Security
5. Poverty and Economic Security
6. Environmental Security
7. Food Security
8. Energy Security
9. Water Security
10. Health Security
11. Migration and Movements of People
12. Transnational Crime
13. Cyber Security
14. Gender and Security
15. Designing Essay: presentations and discussion on research paper proposals

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation (25%), contribution to discussion (25%), and final essay (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Mely Caballero-Anthony (ed.), An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach, Sage Publications, 2015.

4-2: Alan Collins (ed.), Contemporary Security Studies, Oxford: Oxford University Press, 2022.

5. 履修上の注意/Note:

This is a reading-intensive course. No prior knowledge on security studies is required. The course welcomes students from any concentrations. However, all students are required to fully prepare for each class in reading materials and discussing issues. To

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV8281E

科目名/Course Name: Analysis of Great Power Politics

担当教員/Instructor: 岩間 陽子、外部講師/IWAMA Yoko, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This lecture will deal with the rise of China and how the Great Powers have till now tried to deal with this challenge. We will invite leading experts of each topic to speak on aspects of Chinese, American, Indian, and other powers' policy regarding this monumental power shift that is taking place before our eyes. Students are expected to actively take part in the discussion.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1. Introduction to the course

Major IR theories and the Rise of China

Session 2. Europe and the Rise of China

Session 3. ~6 The rise of China from the eyes of Chinese Experts

Experts (TBC): Chisako Masuo (Kyushu University)

Takayuki Igarashi (National Defense University)

Shinji Yamaguchi (National Institute of Defense Studies)

Session 7~10. US-China Relationship: History, current status, Issue of Taiwan.

Experts (TBC): Ryo Sahashi (Professor, Tokyo University)

Satoshi Mori (Professor, Keio University)

Tsuneo Watanabe (Sasakawa Foundation)

Session 11~12. Sino-Russian Relationship: History, Effect of the Ukraine War

Expert (TBC): Dr. Marcin Kacamarski (University of Glsgow)

Session 13 India and the Rise of China

Session 14 Japan and the Rise of China

Session 15 Rap up discussion

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading will be based on participation in the class, readings and discussions and a term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV8311E

科目名/Course Name: Advanced Comparative Political Economy

担当教員/Instructor: KANCHOOCHAT Veerayooth/KANCHOOCHAT Veerayooth

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course explores key analytical approaches, major debates, and empirical analyses in the field of comparative political economy. The discussion is organized into two parts:

Part I introduces the ways we accumulate knowledge through qualitative research. It undertakes a survey of three main analytical approaches to political economy, focusing on interests, ideas, and institutions as alternative explanatory variables. It also reviews nine schools of thought in economics to understand a difference in the unit of analysis as well as strengths and weaknesses of each approach.

Part II explores contemporary debates in which students of political economy are expected to engage in their doctoral research. The discussion begins with the varieties of capitalism frameworks that capture industrialized democracies and developing countries. It then discusses catch-up processes and welfare evolution in East and Southeast Asia, before a thematic debate on state capacity and rent-seeking.

Key questions the course explores:

How can we make an academic argument in qualitative research?

Why did countries make different policy choices, despite facing the same challenge?

What determines success and failure of economic catch-up?

Have all industrialized democracies the same kind of capitalism?

Is it possible for a poor country to develop the so-called 'welfare state'?

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Part I Argument Mapping

Week 1 Introduction

Week 2 Making Argument in Qualitative Research

Week 3 Approaches to Political Economy (Interests)

Week 4 Approaches to Political Economy (Ideas)

Week 5 Approaches to Political Economy (Institutions)

Week 6 Nine Schools of Thought in Economics

Week 7 First essay: submission and presentation

Part II Contemporary Debates

Week 8	Varieties of Capitalism in Industrialized Democracies
Week 9	Hierarchical Capitalism in Latin America
Week 10	East Asian Catch-up and Consequences
Week 11	Middle-income trap in Southeast Asia
Week 12	Models of Welfare State-Building
Week 13	State and State Capacity
Week 14	Rent-seeking and Good Governance
Week 15	Second essay: submission and presentation

3. 成績の評価方法/ Grading:

(1) Weekly presentation (20%)

All students are required to read assigned papers before class. Students will take turns in presenting each week's key paper. Presentation slides are optional, but will be helpful.

(2) Two essays (40% each and 80% in total)

Students are required to write two essays, each of which about 3,000 words in length. The first essay should engage in the theoretical/analytical debate inspired by topics discussed in Part I of the course. The second essay should get involved in the empirical/contemporary debate discussed in Part II.

Part I Argument Mapping

* denotes a key paper to present on that week

Knowledge Accumulation in Qualitative Research

*Kuhonta, Erik Martinez, Dan Slater, and Tuong Vu (2008) "Introduction: The Contributions of Southeast: Asian Political Studies" in Erik Kuhonta et al., eds. *Southeast Asia in Political Science: Theory, Region, and Qualitative Analysis*. Stanford: Stanford University Press. (GRIPS Library 312.23 Ku22)

Pierson, Paul. 2003. "Big, Slow-Moving, and...Invisible: Macrosocial Processes in the Study of Comparative Politics" in James Mahoney and Dietrich Rueschemeyer, eds. *Comparative Historical Analysis in the Social Sciences*. New York: Cambridge University Press. (GRIPS Library 301.6 Ma29)

Approaches to Political Economy (Interests)

*Blyth, Mark. 2009. "An Approach to Comparative Analysis, or a Sub-Field Within a Sub-Field? Political Economy." in Mark Lichbach and Alan Zuckerman, eds. *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure* (2nd ed), Cambridge: Cambridge University Press. (GRIPS Library 311 L61)

<http://dx.doi.org/10.1017/CBO9780511804007.009>

Acemoglu, Daron and James A. Robinson. 2006. *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*. Cambridge: Cambridge University Press, Chapter 1. (GRIPS Library 313.7 A15)
<http://down.cenet.org.cn/upfile/29/201053112253116.pdf>

Approaches to Political Economy (Ideas)

*Rodrik, Dani 2014. "When Ideas Trump Interests: Preferences, Worldviews, and Policy Innovations." *Journal of Economic Perspectives*, 28(1):189-208.
<http://drodrik.scholar.harvard.edu/files/dani-rodrik/files/jep2e282e12e189.pdf>

Blyth, Mark. 2002. *Great Transformations: Economic Ideas and Institutional Change in the Twentieth Century*. New York: Cambridge University Press, Chapter 2. (GRIPS Library 332.06 B59)
<http://books.google.co.jp/books?id=sNXT0rpJuDkC&printsec=frontcover#v=onepage&q&f=false>

Approaches to Political Economy (Institutions)

*Parsons, Craig. 2007. *How to Map Arguments in Political Science*. Oxford: Oxford University Press, Chapter 3. (GRIPS Library 311 P25)
<http://www.dpllahore.org/How%20to%20map%20arguments%20political%20science.pdf>

Hall, Peter, ed. 1989. *The Political Power of Economic Ideas: Keynesianism across Nations*. Princeton, NJ: Princeton University Press, Chapter 14. (GRIPS Library 331.74 H21)

Nine Schools of Thought in Economics

*Chang, Ha-Joon. 2014. *Economics: The User's Guide*. Penguin: London. Chapter 4 "Let a Hundred Flowers Bloom: How to 'do' Economics", pp.109-170. (GRIPS Library 331 C33)

Part II Contemporary Debates

Varieties of Capitalism in Industrialized Democracies

*Hall, Peter and David Soskice, eds. 2001. *Varieties of Capitalism: The Institutional Foundations of Comparative Advantage*. Oxford: Oxford University Press (GRIPS Library 332.06 H21)
www.lse.ac.uk/government/whosWho/Academic%20profiles/dwsoskice@lse.ac.uk/Hall-Soskice-Intro-VoC-2001.pdf

Hope, David and Soskice, David. 2016. "Growth Models, Varieties of Capitalism and Macroeconomics." *Politics and Society*, 44 (2): 209-226.
<http://eprints.lse.ac.uk/66531/1/Binder1.pdf>

Hierarchical Capitalism in Latin America

*Schneider, Ben Ross. 1999. "Hierarchical Market Economies and Varieties of Capitalism in Latin America." *Journal of Latin American Studies*, 41(3):553-575.
<http://journals.cambridge.org/action/displayAbstract?fromPage=online&aid=6096068>
Centeno, Miguel. 2002. *Blood and Debt: War and the Nation-State in Latin America*. University Park, PA: Pennsylvania University Press, Chapter 1. (GRIPS Library 312.55 C29)

East Asian Catch-up and Consequences

*Jeon, Jei Guk (1995) "Exploring the Three Varieties of East Asia's State-guided Development Model: Korea, Singapore, and Taiwan." *Studies in Comparative International Development*, 30(3): 7088.
<https://link.springer.com/article/10.1007/BF02717495>

Veerayooth Kanchoochat (2019) "Tigers at Critical Junctures: How South Korea, Taiwan and Singapore Survived Growth Led Conflicts." in Yusuke Takagi et al, eds. *Developmental State Building: Politics of Emerging Economies*. Singapore: Springer.
https://link.springer.com/chapter/10.1007/978-981-13-2904-3_3

Middle-income Trap in Southeast Asia

*Doner, Richard, Bryan Ritchie, and Dan Slater (2005) "Systemic Vulnerability and the Origins of Developmental States: Northeast and Southeast Asia in Comparative Perspective." *International Organization*, 59(2): 327361.
https://www.jstor.org/stable/3877907?seq=1#metadata_info_tab_contents

Rodan, Garry Kevin Hewison and Richard Robison (2006) "Theorising Markets in South-East Asia: Power and Contestation." In Garry Rodan et al (eds) *The Political Economy of South-East Asia: Markets, Power and Contestation*. Oxford: Oxford University Press.
<https://kevinhewison.files.wordpress.com/2011/02/rodan-hewison-robison-2006.pdf>

Models of Welfare State-Building

*Veerayooth Kanchoochat (2019) "Social Protection and Welfare State Building: Fast and Slow Lessons." United Nations ESCAP Social Development Working Papers No. 2019/07.
<https://www.unescap.org/sites/default/files/Welfare.pdf>

Mkandawire, Thandika. (2004). "Social Policy in a Development Context: Introduction" in Thandika Mkandawire, ed. *Social Policy in a Development Context*. London: Palgrave.

<https://www.unrisd.org/80256B3C005BCCF9/search/C83739F8E9A9AA0980256B5E003C5225>

State and State Capacity

*Vu, Tuong. 2010. "Studying the State through State Formation." *World Politics*, 62(1):148175.

<http://journals.cambridge.org/action/displayAbstract?fromPage=online&aid=6866180&fileId=S0043887109990244>

Evans, Peter. 1989. "Predatory, Developmental, and Other Apparatuses: A Comparative Political Economy Perspective on the Third World State." *Sociological Forum*, 4(4):561587.

<http://www.jstor.org/stable/pdf/684425.pdf>

Rent Seeking and Good Governance

*Dellepiane-Avellaneda, Sebastian. 2010. "Good Governance, Institutions and Economic Development: Beyond the Conventional Wisdom." *British Journal of Political Science*, 40(1): 195-224.

http://journals.cambridge.org/abstract_S0007123409990287

Khan, Mushtaq. 2011. "Governance, Growth and Poverty Reduction." in Jomo KS and Anis Chowdhury, eds. *Poor Poverty: The Impoverishment of Analysis, Measurement and Policies*. London: Bloomsbury Academic.

http://un.org/esa/desa/papers/2009/wp75_2009.pdf

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Lichbach, Mark and Alan Zuckerman, eds. 2009. *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure*, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

Parsons, Craig. 2007. *How to Map Arguments in Political Science*. Oxford: Oxford University Press.

Chang, Ha-Joon. 2014. *Economics: The User's Guide*. Penguin: London.

Rodrik, Dani. 2008. *One Economics, Many Recipes: Globalization, Institutions, and Economic Growth*. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Hall, Peter and David Soskice, eds. 2001. *Varieties of Capitalism: The Institutional Foundations of Comparative Advantage*. Oxford: Oxford University Press.

Takagi, Yusuke, Veerayooth Kanchoochat and Tetsushi Sonobe, eds. *Developmental State Building: Politics of Emerging Economies*. Singapore: Springer.

5. 履修上の注意/Note:

Email Address: kanchoochat@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV8321E

科目名/Course Name: States, Regimes, and Institutions in Contemporary Africa

担当教員/Instructor: KARUSIGARIRA Ian/KARUSIGARIRA Ian

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is an analytical approach to graduate level research and writing on Africa. It covers a number of cutting-edge research agendas on States, Regimes, and Institutions in Contemporary Africa. All African Ph.D. scholars at GRIPS are advised to pick interest in this course. However, please continue to the completion once you have registered and passed the stipulated withdrawal period. No withdrawal from the class in the midcourse.

The course is structured into two sessions. In the first session we delve into the inner tensions within the African states as well as explain regimes' dynamics. Here, we examine the contemporary African states and regimes while subtly reflecting on the negative modernist/civilizing/dependency epistemologies, drawing from the post-colonial historical analyses and present state-society political relations. With the deep knowledge of the political mechanisms in African states and regimes, we then interrogate the contemporary themes such as; the structure of states and regimes, reasonable policy alternatives, and possible violent conflicts that seem pervasive. Session two attempts to analyze the institutions with a theoretical aid from New-Sociological Institutionalism. This will help explain the cultural entanglements in African states and regimes' relations. We shall interrogate a broader overview of states, regimes and institutions in Africa, facilitate an opening for networking theories and concepts with in-depth analysis of contextual cases, instigate inter-disciplinary approaches to the study of African states, regimes, and institutions, and encourage critical reflections on popular and scholarly representations of Africa. In session one, we shall handle States and Regimes in Africa. Session two of the semester will cover institutional analysis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1 (April 6): Spring Term (Session 1) General orientation (Students' backgrounds, goals, and expectations).

Week 2 (April 13): The evolution of African states (Dunn and Englebert (eds.) 2019). In *Inside African Politics*. Chap 2, pp. 17-66); After colonial rule in Africa: Ghana, Tanzania, and Botswana (Zoltan Barany 2012). In *The Soldiers and the Changing Society: Building Democratic Armies in Africa, Asia, Europe, and the Americas*. Chap 9, pp. 275-302. (Optional).

Week 3 (April 20): Patrimonialism and Neopatrimonialism by Daniel Bach, 2012. In *Neopatrimonialism in Africa and Beyond*, Daniel Bach and Mamoudou Gazibo (eds.), Taylor and Francis. Chap. 2, pp. 25-45.

Week 4 (April 27): The challenges of state-building in Africa (Jeffrey Herbst (ed.) 2000). In *State and Power in Africa*. Chap. 1, pp. 11-32; Power and Space in Precolonial Africa (Jeffrey Herbst (ed.) 2000). In *State and Power in Africa*. Chap. 2, pp. 35-57; The Europeans and the African Problem (Jeffrey Herbst (ed.) 2000). In *State*

and Power in Africa. Chap. 3, pp.58-96.

Week 5 (May 11): Regime types across the spectrum (Dunn and Englebort (eds.) 2019). In Inside African Politics Dunn. Chap. 5, pp. 199-230.

Week 6 (May 18): Regime dynamics and democratic consolidation in Lesotho (Oscar G. Mwangi 2013). In Regime Change and Succession Politics in Africa: Five Decades of Misrule, Maurice Amutebi and Shadrack Wanjala Nasong'o (eds.). Chap. 1, pp. 98-109.

Week 7 (May 25): The emergence of a politics of order (Vicky Randall and Robin Theobald (eds.) 1998 [1985]) In Political change and underdevelopment: A critical Introduction to Third World Politics (Second edition). Chap. 3 pp.86-188.

Week 8 (June 1): Beyond Settler and Native as political Identities: Overcoming the Political legacy of Colonialism (Mahmood Mamdani 2016) In African Politics: Critical Concepts in Political Science (volume one), Nic Cheeseman (ed.). Chap. 2, pp. 71-108

Week 9 (June 8): Orientation to Spring term (Session 2)

Week 10 (June 15): Understanding African Politics: Bringing the State back in. (Nic Cheeseman 2018) In Institutions and Democracy in Africa: How the rules of the game shape the Political development, Nic Cheeseman (ed). Chap. 1, pp. 1-38.

Week 11 (June 22): Introduction (Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio 1991 (eds.)). In the New Institutionalism in Organizational Analysis. Chap. 1, pp.1-38.

Week 12 (June 29): Unpacking Institutional Arguments (Richard Scott 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis. Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 7, pp. 164-82.

Week 13 (July 6): Institutions, Institutional Effect and institutionalism (Ronald Jepperson 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis, Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 6, pp.143-63.

Week 14 (July 13): The Role of Institutionalization in Cultural Persistence (Lynne G. Zucker 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis, Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 4, pp.143-63.

Week 15 (July 20) Bringing Society Back in: Symbols, Practices, and Institutional contradictions (Roger Friedman and Robert R. Alford 1991). In the New Institutionalism in Organizational Analysis. (Walter W. Powell and Paul J. DiMaggio (eds.). Chap. 10, pp. 232-266.

Important date: Exam submission, 28th July 2023

3. 成績の評価方法/ Grading:

Please continue to the completion once you have registered and passed the stipulated withdrawal period. No withdrawal from the class in the midcourse. The required assignments are (a) weekly readings and active seminar participation, and (b) writing a well-thought "review essay" on any topic related to states, regimes, or institutions in Africa. The expected length is between 5,000 and 7,000 words. Class attendance, active classroom participation, and weekly assignments: 50%. Final assignment (a draft paper): 50%. Please follow the shared instructor's guidelines on the structure of your exam paper. Also, follow the recommended citation guidelines that are provided at the beginning of this course. The final exam is due on Friday, July 28, 2023 via email.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Amutebi, N. Maurice and Shadrack Wanjala Nasong'o 2013. Regime Change and Succession Politics in Africa: Five Decades of Misrule. New York: Routledge.

Bach, C. Daniel and Mamoudou Gazibo (eds.). 2012. Neopatrimonialism in Africa and Beyond. Taylor and Francis.

Barany, Zoltan. 2012. The Soldiers and the Changing Society: Building Democratic Armies in Africa, Asia, Europe, and the Americas. Princeton: Princeton University Press.

Cheeseman, Nic (ed). 2016. African Politics: Critical Concepts in Political Science (Volume One). Park Square: Routledge.

Cheeseman, Nic (ed). 2018. Institutions and Democracy in Africa: How the Rules of the Game Shape the Political Development. New York: Cambridge University Press.

Dunn, C. Kevin and Pierre Englebert. 2019. Inside African Politics. London: Lynne Rienner Publishers.

Herbst, Jeffrey. 2000. State and Power in Africa: Comparative Lessons in Authority and Control. Princeton: Princeton University Press.

Powell, W. Walter and Paul J. DiMaggio 1991 (eds.). The New Institutionalism in Organizational Analysis. Chicago: University of Chicago Press.

Randall, Vicky and Robin Theobald 1998 [1985]. Political Change and Underdevelopment: A Critical Introduction to Third World Politics (Second Edition). Durham: Duke University Press.

Recommended Readings

Aiyede, E. Remi and Afeaye A. Igbafe 2018. "Institutions, Neopatrimonial Politics and Democratic Development", Palgrave Handbook of African Politics, Governance and Development, Ojo Olorunfemi and Toyin Falola (eds.). New York: Nature America Inc.

Alvarez, Mike., José Antonio Cheibub., Fernando Limongi, and Adam Przeworski. "Classifying Political regimes", Studies in Comparative International Development. 31, 1996. pp.1-3-36.

Aydinli, Ersel. "Governments vs States: Decoding Dual Governance in the Developing World", Third World Quarterly, Vol.31, No. 5, 2010, pp. 693-707.

Bayart, Jean-Francois, Stephen Ellis & Beatrice. Hibou. 1999. *The Criminalization of the State in Africa (Illustrated Version)*. Oxford: Currey.

Bayart, Jean-Francois. 1993. *The State in Africa*. London: Longman.

Bayart, Jean-Francois. "Africa in the World: A history of Extraversion". *African Affairs*, no. 99.

Berman, Bruce. 1998. "Ethnicity, Patronage and the African State: The Politics of Uncivil Nationalism" *African Affairs*, Vol. 97, 2000, pp. 305-341.

Bratton, Michael. and Nicholas vande de Walle (eds.) 1997, "Introduction". In *Democratic Experiments in Africa: Regime Transitions in Comparative Perspective*, Cambridge University Press.

Cheeseman, Nic and Jonathan Fisher. 2019. *Authoritarian Africa: Repression, Resistance, and the Power of Ideas*. Oxford: Oxford University Press.

Crawford, Young. "The End of the Post Colonial State in Africa? Reflections on Changing African Political Dynamics", *African Affairs*. 103, Issue 410, 2004, pp. 23-49

Eisenstadt, N. Shmuel. 1973. *Traditional Patrimonialism and Modern Neopatrimonialism*. Beverly Hills: Sage Publications,

Ekeh, Peter. "Colonialism and the Two Publics in Africa: A theoretical statement". *Comparative Studies in Society and History* 17, no. 11975, pp. 91-112.

Englehart, A. Neil. "Governments against States: The Logic of Self-Destructive Despotism", *International Political Science Review*. Vol. 28, No. 2, 2007, pp.133-153.

Goran, Hyden. (July 2008 Discussion paper). *Institutions, Power and Policy Outcomes in Africa*.

Hall, A. John. "State Failure". In the *Oxford Handbook of Comparative Institutional Analysis*, Glenn Morgan, John L. Campbell, Colin Crouch and Ove Kaj Pedersen (eds.). pp. 586-600.

Herbst, Jeffrey. "War and the State in Africa", *International Security*, 14 (4), 1990, pp. 117-139.

Jackson, Robert and Carl G. Rosberg. "Why Africa's Weak States Persist", *World Politics*. Vol 35, 1. 1982, pp 1-24.

Jackson, H. Robert and Carl G. Rosberg. "Personal Rule: Theory and Practice in Africa", *Comparative Politics*., Vol. 16, No. 4. 1984, pp. 421-442.

Kelsall, Tim. "Towards a universal political settlement concept: A response to Mustaq Khan", *African Affairs* 469, 2018. pp. 656-69.

Khan, H. Mushtaq. "Political Settlements and the Analysis of Institutions", *African Affairs* 469, 2018, pp.636-655.

Lemarchand, René. 1988. "The State, the Parallel Economy, and the Changing Structure of Patronage Systems". In *The Precarious Balance: State and Society in Africa*, D. Rothchild and N. Chazan (eds). London: Westview Press.

Lindberg, I. Staffan. "Forms of States, Governance, and Regimes: Reconceptualizing the Prospects for Democratic Consolidation in Africa", *International Political Science Review*, Vol. 22, No. 2, 2001, pp. 173-199.

Mamdani, Mahmood. 1996. *Citizen and Subject: Contemporary Africa and the Legacy of Late Colonialism*. Princeton University Press.

Mamdani, Mahmood. 2010. *Saviors and Survivors: Darfur, Politics and the War on Terror*. New York: Pantheon Books.

Medard, Jean-Francois. 1982. "The Underdeveloped State in Tropical Africa: Political Clientelism or Neopatrimonialism". In *Private Patronage and Public Power: Political Clientelism in the Modern State*, Christopher Clapham (ed.). London: Frances Printer.

- Migdal, S. Joel. 1988. *Strong Societies and Weak States: State-Society Relations and State Capabilities in the Third World*. Princeton: Princeton University Press.
- Nugent, Paul. "States and Social Contracts in Africa", *New Left Review*, 63, 2010, pp. 35-67.
- Perrot, Sandrine, Sabiti Makara, Jérôme Lafargue Marie-Aude Fouéré (eds.). 2014. *Elections in a Hybrid Regime. Revisiting the 2011 Ugandan Poll*. Kampala: Fountain Publishers.
- Pitcher, Ann., Mary H. Moran and Michael Johnston. "Rethinking Patrimonialism and Neopatrimonialism in Africa", *African Studies Review*, 52 (1), 2009, pp. 125-156.
- Posner, N. Daniel and Daniel J Young 2010. "The Institutions of Political Power in Africa". In *Democratization in Africa: Progress and Retreat (Second Edition)*, Larry Diamond and Marc F. Plattner (eds.). Baltimore: The Johns Hopkins University Press. pp. 59-72.
- Ranger, Terrence. 1996. "The Invention of Tradition in Africa". In *The Invention of Tradition*, Eric Hobsbawm and Terence Ranger (eds.). Cambridge: Cambridge University Press.
- Sciortino, Giuseppe. "From Homogeneity to Difference? Comparing Multiculturalism as a Description and a Field for Claim-Making", *Comparative Social Research*, Vol. 22, 2003, pp.263- 285.
- Szeftel. Morris. "Misunderstanding African politics: corruption and the governance agenda", *Review of African Political Economy*. 25, 76, 1998, pp. 221-40.
- Van de Walle, Nicolas. "Presidentialism and Clientelism in Africas Emerging Party Systems", *Journal of Modern African Studies.*, Vol. 41, 2003, pp. 297-321.
- Wainaina, Binyavanga. 2008. *How to Write about Africa*. Nairobi: Kwani Trust.
- Weber, Max. 1968. *Economy and Society*. Berkeley: University of California Press.

5. 履修上の注意/Note:

Things to note when dealing with primary materials

A balance must be drawn when using policy literature and theoretical-academic studies. Policy-based literature has some particularities that make it different from purely academic works. Policy actors te

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:GOV8401E

科目名/Course Name: Advanced International Relations in Europe

担当教員/Instructor: 岩間 陽子/IWAMA Yoko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is intended to provide basic knowledge about the structure and the working of the European Union and NATO. Through studying these two institutions, students will gain understanding about the issues facing postwar Europe and how they were overcome. In addition we will cover Europe's relationship with other parts of the world including Russia, China and Japan.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Orientation

2. April 14 History of the European Integration: the beginnings

Dinan, Origins and Evolution,

Chapter 2: Dividing Europe: the Cold War and European Integration pp.35-59.

Chapter 3, The German Problem and European Integration pp.60-90.

3. April 21 The Choices of the Post War Years

Alternative Paths: European Integration, North Atlantic Treaty and the Neutrals

Choices for Sweden/ Finland/ Norway; Choices for Germany/Austria/ From treaty to Organization

4. May 12, Foundations of the Cold War: NATO in 1950s and early 1960s

Timothy Ashton Sayle, Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order, Cornell University Press, 2019, Chapters 1~4

5. May 19: Early Years of European Integration: Rome Treaty, Common Market and Common Agricultural Policy

* Dinan, Chapter 4 Liberalization, Convertibility, and the Common Market

Chapter 8 European integration in the Image and Shadow of Agriculture

*Wallace, Chapter 8 The Common Agricultural Policy: The Fortress Challenged

6. May 26: Europe 1958-1968

Making of the European and global Nuclear order and the German question.

Sayle, Ch. 4~5

7. 2 June: Europe in the 1970s

Dinan, Chapter 6 Charles de Gaulle's Uncertain Idea of Europe

Chapter 7 Under the Shadow of Stagflation: European Integration in the 1970s.

Sayle, Chapter 6 The New Tripartitism

Chapter 7 An Alliance for Peace

8. 9 June: European Integration theories

9. 16 June : Europe from the 60s to 80s: From stagnation to prosperity: Economic and Monetary Union, single market

*Wallace, Chapter 5 The Single Market: From Stagnation to Renewal?

Chapter 7 Policy-Making under Economic and Monetary Union: Crisis, Change and Continuity.

*Dinan, Chapter 9 From Deadlock to Dynamism: The European Community in the 1980s Chapter 10 from Single Market to the Single Currency.

10. 23 June: Europe in the 1980s, Part 2: Military tension and alliance management

NATO in e 1980s: From doble track decision to INF treaty

Sayle, Chapter 8 Busting Europe

Chapter 9 Leaderless Men

11. 30 June: NATO Madrid Summit

12. 7 July Single Market and Single European Currency

The End of the Cold War, German Unification, single currency

*Dinan, Chapter 11 The European Union, the Soviet Union, and the End of the Cold War

*Mary E. Sarotte, Not one inch

13. 14 July NATO and the End of the Cold War;

Foreign and Security Policy, Trade Policy, EU-China relationship, EU-Japan relationship

*Wallace, Chapter 18 Foreign and Security Policy: Civilian Power Europe and American Leadership.

14. 19 July: EU enlargement

Dinan Chapter 12 The Enlarging European Union

*Wallace, Chapter 17 Enlargement: Constituent Policy and Tool for External Governance

*Richardson, Chapter 11 EU Enlargement

15. 21 July: NATO-Russia-Ukraine problem; NATO and China

3. 成績の評価方法/ Grading:

Assessment will be based on class discussion, several presentations (depending on the size of the class), and a term paper

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

*Hellen Wallace and William Wallace (eds.) Policy-Making in the European Union, 7th edition, 2015, Oxford University Press. 319.99 W36

*Desmond Dinan (ed), Origins and Evolution of the European Union, 2nd edition, Oxford University Press, 2006. 329.37 D76

*Jeremy Richardson, European Union: Power and Policy-Making, 4th edition, Routledge: 2015.

*Antje Wiener, Tanja A. Borzel and Thomas Risse (ed.) European integration theory, 3rd edition, Oxford : Oxford University Press, c2019

*Lawrence S. Kaplan, The long entanglement: NATO's first fifty years, Westport, Conn. : Praeger, 1999, 319.53 Ka61

*Timothy Andrew Sayle, Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order, Cornell University Press, 2019, 329.37||Sa99

* Mary E. Sarotte, Not one Inch: America, Russia and the Making of the Post-Cold War Stalemate, Yale University Press, 2021.

5. 履修上の注意/Note:

This course will be held together with masters course International Relations in Europe. PhD students will be asked to do additional reading and writing

メールアドレス iwama@grips.ac.jp

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0030E

科目名/ Course Name: Thesis and Policy Paper Writing

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a 2-credit course designed to support masters students in the culminating writing task that they must undertake at the end of their study at GRIPS. It guides students through the key competencies needed to complete the final paper according to the discourse conventions in their field. These key competencies are drawn from the work of professional academics in the students respective fields. Adjustments may be made to the syllabus to meet the specific needs of the students. This course is required for all one-year masters students and two-year masters students in their first year.

In addition to this course, students will have the opportunity to attend writing tutorials to receive feedback on their writing.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1 : Course Introduction

Week 2 : Research in Public Policy and Economics

Week 3 : Writing the Literature Review I

Week 4 : Writing the Literature Review II

Week 5 : The Body of the Paper I

Week 6 : The Body of the Paper II

Week 7 : The Body of the Paper III

Week 8 : The Introduction I

Week 9 : The Introduction II

Week 10: Abstract

Week 11: Writing Skills I

Week 12: Writing Skills II

Week 13: Writing Skills III

Week 14: Writing Skills IV

Week 15: Q&A and Course Wrap-up

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass/Fail

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Course materials will be provided by the instructors.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0150E

科目名/ Course Name: Thesis Writing for MSP

担当教員/ Instructor: O'NEILL Gavin/O'NEILL Gavin

学期名/ Term: 秋後期/ Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course is designed to support Maritime Safety and Security Policy Program (MSP) students in the culminating writing task that they must undertake at the end of their study at GRIPS and the Japan Coast Guard Academy (JCGA). The course guides students through the key competencies needed to complete the final paper according to the discourse conventions in their field. First among the competencies taught will be the skills and knowledge needed to reference existing research without plagiarizing the ideas or words of other researchers. These skills include summarizing, paraphrasing, and citing practices. All student work will be examined closely for its similarity to existing research in the students field, and students will be expected to explain and indicate clearly the sources of their information and ideas.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Course Introduction Review of Research Projects

 Literature Review and Gaps

 RQs and Methodologies

 Results/Thematic Sections

 Tables and Figures

 Discussions and Conclusions

 Introductions

 Abstracts & Course Wrap-Up

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

This is a pass/fail course.

 Textbook digests: 35%

 Attendance & participation: 15%

 Outlines of paper: 50%

Students will be expected to produce an outline of each section of their final paper: Abstract/Executive Summary; Introduction (including a review of literature if appropriate); Methodology; Results, Discussion, or thematic sections; and a Conclusion.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Petchko, K. (2018). How to write about economics and public policy. Academic Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0170E

科目名/ Course Name: Abstract Writing for Japanese Students

担当教員/ Instructor: 小野 恵子/ONO Keiko

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course aims to provide both guidance and support for Japanese students who are writing abstracts in English for the first time. By taking a genre approach to academic writing, students will first analyze published abstracts to identify conventions for format and content organization, as well as common patterns of language use. Following these analyses, students will individually plan and draft their abstracts. Finally, students will learn to use corpus tools to edit and revise their drafts for language. Additional grammar focus will be offered in response to any language problems encountered over the course of study. This is also a required course for domestic students in the Public Policy Program who wish to take Global Studies.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1

Introduction to abstract writing

Week 2

Analysis of published abstracts

Week 3

Common language patterns in abstracts

Week 4

Planning & writing the first draft

Week 5

Revising the draft for content

Week 6

Introduction to corpus tools

Week 7

Using corpus tools to edit and revise drafts

Week 8

Abstract writing for different audiences

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading will be based on the following:

- Completion of weekly homework assignments
- Attendance and contribution to class activities (minimum attendance is 6)
- Submission of a final abstract in English by last day of the class

The final grade will be pass or fail.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Materials will be prepared and distributed by the instructor.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0180E

科目名/ Course Name: Academic Vocabulary Development

担当教員/ Instructor: 中津川 みゆき/ NAKATSUGAWA Miyuki

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This language course aims to foster the development of students command of academic vocabulary by employing a range of approaches to vocabulary learning. This includes the use of corpus tools for selecting target vocabulary items, focused activities for the initial learning of these items, and subsequent implicit learning through the reading of academic texts. The course will also devote time to examine genre-specific corpora tailored to each students research literature. Finally, corpus concordance tools will be used to draft and edit specific sections of the students policy paper.

Students should complete the course with both increased knowledge and confidence in the ability to use academic vocabulary in their policy studies.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1: Course Introduction & Technology Basics

Session 2: Selecting words for learning; Developing individual word-bank

Session 3: Practice using target words in context

Session 4: Practice using target words in policy study contexts

Session 5: Abstract analysis; Introduction Analysis

Session 6: How to use word-bank and corpus tools to draft a section of a policy paper

Session 7: How to use corpus tools to revise previous drafts

Session 8: Individual writing and consultation on a policy paper section

3. 成績の評価方法/ Grading:

Complete weekly homework

Contribute to class Word Bank

Final assignment: Draft and revise one section of your policy paper (e.g., Introduction, Literature Review)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

Materials will be prepared by the instructor.

Referece sources

Anthony, L. (2019). AntConc (3.5.8) [Computer Software]. Tokyo, Japan: Waseda University. Available from <http://www.laurenceanthony.net/>

Cobb, T. (2017, June, 18). Compleat Lexical tutor v.8.3. Retrieved from <http://www.lextutor.ca/>

Swales, J. M. (1990). Genre Analysis: English in Academic and Research Settings. Cambridge: Cambridge University

Press.

5. 履修上の注意/Note:

Students are recommended to bring their PCs to each class.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0190E

科目名/ Course Name: Academic Communication for Japanese Speakers

担当教員/ Instructor: 中津川 みゆき/ NAKATSUGAWA Miyuki

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed for Japanese students who wish to learn to engage in academic communication in English. Using TED Talks and other online academic presentations and lectures, this course will offer a variety of tasks that simulate language use in real academic contexts. Starting with simple listening and note-taking activities, students will gradually be familiarized with academic discourse and vocabulary. There will also be opportunities for speaking, from simple question and answers to group discussions and debates. As the course proceeds, students will select a topic of interest and give a short oral presentation to the class. The overall goal of the course is for students to experience and gain confidence in communicating knowledge and ideas in English. Although the primary approach is to learn by doing, grammar and other language features will be addressed as necessary.

本講座は、日本人の院生を対象としたアカデミック英語の入門編です。TED Talk やオンラインのニュース記事など、身近な英語資料を活用しながら、reading, listening, speaking, writing の4技能を経験的に学んでいきます。また、グループ対抗のディベートや、短いプレゼンテーションも取り入れていきます。「経験学習」という基本アプローチの中で、必要に応じて文法やその他の英語学習ポイントに触れていきます。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1: Course introduction; vocabulary development

講座概要、語彙学習の基本

Week 2: Academic listening and note-taking

アカデミック・リスニングとノート取りのコツ

Week 3: Academic listening and note-taking

続アカデミック・リスニング

Week 4: Listening, group discussion & oral report

リスニングとグループ・ディスカッション

Week 5: Academic reading and note-taking

アカデミック・リーディングとノート取りのコツ

Week 6: Academic reading, group discussion & oral report

アカデミック・リーディングとディスカッション

Week 7: Academic reading, group discussion & Taking positions

アカデミック・ディスカッション：意見を述べる

Week 8: Academic debate: Overview & preparation

ディベート入門と準備

Week 9: Academic debate: Preparation & practice

ディベート準備と練習

Week 10: Group Debate

グループ対抗ディベート

Week 11: Giving oral presentations: The basics

プレゼンテーションの基本

Week 12: Preparation for final presentation

プレゼンテーションの準備

Week 13: Presentation with Q&A

5分間プレゼンテーションと質疑応答

Week 14: Presentation with Q&A

5分間プレゼンテーションと質疑応答

Week 15: Class summary

まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will consist of several elements including successful completion of weekly homework assignments, active participation in discussions and debates, and the preparation and delivery of a five-minute presentation at the end of the course.

評価は、週ごとの課題を含む平常点と、ディベート、ファイナル・プレゼンテーションにより判定します。基本的には、授業に参加し、全ての課題を行ったかどうかを重視します。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Materials for each week will be provided by the instructor.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0200E

科目名/ Course Name: Discussion and Debate for Policymakers

担当教員/ Instructor: O'NEILL Gavin/O'NEILL Gavin

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course will help students to develop their discussion and debate skills in preparation for both internal and external professional discourse. During the course, students will develop their discussion vocabulary with an emphasis on polite and formal language that is still persuasive and powerful. In each lesson, a student will present a summary on a self-selected short text related to the SDGs (reading material at easy, moderate, and advanced levels provided), introduce key vocabulary related to the topic, and guide the other students through a discussion or a debate on the topic. In each lesson, the instructor will introduce some new discussion language for the students to practice. The number of presentations a student will do will depend on enrollment numbers. In large classes, students may present only once in the term. In smaller classes, students may have to present a second or third time. This course is recommended for any student who wishes to improve their formal discussion skills and offers an excellent environment for interaction between domestic Japanese students and international students.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Lesson 1

Language focus: Presenting your argument.

Sample Presentation by instructor followed by a discussion

Lesson 2

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: 100 ways to say, I think:

Lesson 3

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Agreement strategies

Lesson 4

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Disagreement strategies

Lesson 5

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Expressing reservations

Lesson 6

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Expressing importance

Lesson 7

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Questioning strategies

Lesson 8

Midterm Discussion Review

Lesson 9

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Recommending strategies

Lesson 10

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Expressing support strategies

Lesson 11

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Expressing opposition strategies

Lesson 12

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Challenging a point

Lesson 13

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Expressing certainty

Lesson 14

Language review

Presentation followed by a discussion

Language focus: Reaching a decision

Lesson 15

Final review

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading will be based on two in-class assessments. Students will be asked to present an argument and to discuss their position with the instructor. Grading will be determined on how well the student can use the discussion language presented throughout the course.

Review 1: 30%

Six types of discussion language (opinions, agreement, disagreement, reservations, importance, and questioning) x 4 points each (4 = used very well, 3 = used well, 2 = used poorly, 1 = used very poorly, 0 = didn't use)

Total 24 pts

a global evaluation of complexity, accuracy, and fluency at 2 points each (2 = Good, 1 = needs work)

Total 6 pts

Review 2: 54%

Twelve types of discussion language (opinions, agreement, disagreement, reservations, importance, questioning, recommending, support, opposition, challenging, certainty, and reaching a decision) x 4 points each (4 = used very well, 3 = used well, 2 = used poorly, 1 = used very poorly, 0 = didnt use)

Total 48 pts

a global evaluation of complexity, accuracy, and fluency at 2 points each (2 = Good, 1 = needs work)

Total 6 pts

Attendance & participation: 16%

A = 90-100%

B = 80-89%

C = 70-79%

D = 60-69%

E = < 60%

Students can miss a maximum of three classes. Any student who misses more than 3 classes must contact the instructor with a valid reason in order to be able to get credit for the course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Course materials will be provided by the instructor.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0210E

科目名/ Course Name: Policy Presentations

担当教員/ Instructor: ERDELYI, Tanya Lynn/ERDELYI, Tanya Lynn

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course will help students learn how to give formal presentations in English. The emphasis will be on helping students find their strengths and personal style. Students will learn how to use a simple structure to create content that is memorable in terms of meaning and connection. Students will learn how to create and describe visuals, defend their claims persuasively, and handle questions smoothly.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

Topics Covered

1 Orientation; Slide design

2 Presentation delivery: gestures and voice; (self-introduction presentations)

3 How to present data clearly: tables, charts, graphs

4 Presentation 1 Presenting visuals (4 minutes)

5 How to include facts and evidence

6 How to choose good examples

7 Presentation 2 Convey your point (6 minutes)

8 How to be credible

9 How to use persuasion effectively (ethos, pathos, logos)

10 How to handle and rebut other points of view

11 Presentation 3 Persuade the audience (8 minutes)

12 How to include only what is needed / Review class

13 How to anticipate and deal with questions

14 How to sound academic (transitions, word choice, tone)

15 Course review; Final presentations with Q&A (10 minutes)

Please note: This syllabus might be modified to accommodate the needs of the class.

Please note: Time limits for presentations may vary according to the number of students.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass/Fail: Based on attendance and participation

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Materials supplied by the teacher

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0300E

科目名/ Course Name: Introduction to Academic Research

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course introduces students to the standards of scholarship at GRIPS and provides guidance on the basics of conducting academic research. It provides an overview of research fundamentals, briefly surveys research approaches commonly used in policy research, and explains the basic logic that undergirds these approaches. Students learn the fundamental skills of conceptualizing problems, formulating research questions, working with academic literature, creating a theoretical framework, and structuring a research paper. Significant time will be devoted to research ethics, especially proper citation and referencing.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Week 1: Research in public policy and purposes of empirical research

Week 2: Your research options: Quantitative, qualitative, non-empirical

Week 3: Research questions and research strategies

Week 4: Literature review and theoretical frameworks

Week 5: Research ethics

Weeks 6: Structure of a research paper: The Introduction

Week 7: Structure of a research paper: Methodology and analysis

Week 8: Structure of a research paper: Results and discussion/conclusion

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Regular attendance and participation. Students will have the option of submitting a research plan/idea and getting feedback from the instructor.

Grading: Pass/Fail.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

Petchko, K (2018). How to write about economics and public policy. Academic Press.

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN0310E

科目名/ Course Name: Introduction to Academic Writing

担当教員/ Instructor: O'NEILL Gavin, et al./O'NEILL Gavin, et al.

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Academic writing is an expression of academic thinking; if you are not thinking like a researcher, you cannot write like a researcher. This observation is the basis for the Introduction to Academic Writing course and what makes it stand out from other writing courses. The purpose of the course is to start our students—those identified in the diagnostic test as likely to benefit from support—on their journey to learning the language of academic inquiry in their disciplines.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Part I: Ethical Writing: Avoiding Plagiarism and Using AI Tools Ethically

Avoiding Plagiarism

Using AI Tools Ethically

Part II: Writing About the Literature

Summarizing Research

Comparing and Contrasting Research

Critiquing Claims

Part III: Writing About Your Study

Describing Your Purpose

Describing Your Study

Making and Linking Your Claims

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

in-class assignments and regular attendance

Grading: Pass/Fail

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

All materials will be provided by the instructor.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1010JA

科目名/ Course Name: Basic Japanese 1A

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。特に Basic Japanese は、日本語学習経験がない初心者を対象とし、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを理解し、用いることを目標とする。Basic Japanese1 は、秋学期に4クラス設けられており (Basic Japanese 1A, 1B, 1C, 1D)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese course introduces survival Japanese to beginners with no Japanese learning experience. Basic Japanese 1 in the Fall Term has four sections (Basic Japanese 1A, 1B, 1C and 1D) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1010JB

科目名/ Course Name: Basic Japanese 1B

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。特に Basic Japanese は、日本語学習経験がない初心者を対象とし、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを理解し、用いることを目標とする。Basic Japanese1 は、秋学期に4クラス設けられており (Basic Japanese 1A, 1B, 1C, 1D)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese course introduces survival Japanese to beginners with no Japanese learning experience. Basic Japanese 1 in the Fall Term has four sections (Basic Japanese 1A, 1B, 1C and 1D) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1010JC

科目名/ Course Name: Basic Japanese 1C

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。特に Basic Japanese は、日本語学習経験がない初心者を対象とし、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを理解し、用いることを目標とする。Basic Japanese1 は、秋学期に4クラス設けられており (Basic Japanese 1A, 1B, 1C, 1D)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese course introduces survival Japanese to beginners with no Japanese learning experience. Basic Japanese 1 in the Fall Term has four sections (Basic Japanese 1A, 1B, 1C and 1D) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1010JD

科目名/ Course Name: Basic Japanese 1D

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。特に Basic Japanese は、日本語学習経験がない初心者を対象とし、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを理解し、用いることを目標とする。 Basic Japanese1 は、秋学期に4クラス設けられており (Basic Japanese 1A, 1B, 1C, 1D)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese course introduces survival Japanese to beginners with no Japanese learning experience. Basic Japanese 1 in the Fall Term has four sections (Basic Japanese 1A, 1B, 1C and 1D) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1020JA

科目名/ Course Name: Basic Japanese 2A

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Basic Japanese 2 では、Basic Japanese 1 に引き続き、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを学び、簡単なやりとりを行うことを目標とする。Basic Japanese 2 は、3 クラス設けられており (Basic Japanese 2A, 2B, and 2C)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese 2 in the Winter Term builds up on Basic Japanese 1 and aims to learn everyday expressions and phrases and to use them in simple exchanges. Basic Japanese 2 has three sections (Basic Japanese 2A, 2B and 2C) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1020JB

科目名/ Course Name: Basic Japanese 2B

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Basic Japanese 2 では、Basic Japanese 1 に引き続き、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを学び、簡単なやりとりを行うことを目標とする。Basic Japanese 2 は、3 クラス設けられており (Basic Japanese 2A, 2B, and 2C)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese 2 in the Winter Term builds up on Basic Japanese 1 and aims to learn everyday expressions and phrases and to use them in simple exchanges. Basic Japanese 2 has three sections (Basic Japanese 2A, 2B and 2C) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can

access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1020JC

科目名/ Course Name: Basic Japanese 2C

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Basic Japanese 2 では、Basic Japanese 1 に引き続き、よく使われる日常表現と基本的な言い回しを学び、簡単なやりとりを行うことを目標とする。Basic Japanese 2 は、3 クラス設けられており (Basic Japanese 2A, 2B, and 2C)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese 2 in the Winter Term builds up on Basic Japanese 1 and aims to learn everyday expressions and phrases and to use them in simple exchanges. Basic Japanese 2 has three sections (Basic Japanese 2A, 2B and 2C) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can

access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1030JA

科目名/Course Name: Basic Japanese 3A

担当教員/Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Basic Japanese 3 は、Basic Japanese 2 を終了した学生を対象とし、日常的な表現や言い回しを使った簡単なやりとりを行うことを目標とする。Basic Japanese 3 は、春学期に2クラス設けられており (Basic Japanese 3A, 3B)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese 3 in the Spring Term builds up on Basic Japanese 1 and 2 and aims to acquire the ability to engage in simple everyday exchanges. Basic Japanese 3 has two sections (Basic Japanese 3A and 3B) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN1030JB

科目名/ Course Name: Basic Japanese 3B

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Basic Japanese 3 は、Basic Japanese 2 を終了した学生を対象とし、日常的な表現や言い回しを使った簡単なやりとりを行うことを目標とする。Basic Japanese 3 は、春学期に2クラス設けられており (Basic Japanese 3A, 3B)、それぞれのクラスは同じ教材を用い、同じ進度で授業を行う。

Basic Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)に対応できる能力を習得することができる。

The Basic Japanese 3 in the Spring Term builds up on Basic Japanese 1 and 2 and aims to acquire the ability to engage in simple everyday exchanges. Basic Japanese 3 has two sections (Basic Japanese 3A and 3B) that follow the same syllabus and course materials. Students who complete Basic Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

Details of weekly plans and materials will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy に基づく。

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy. Your active participation will be highly considered. (In the exam, conversational skills are mainly checked.)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN2010JA

科目名/ Course Name: Intermediate Japanese 1A

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Intermediate Japanese 1 は、日本語の基礎を学んだ経験がある学生を対象とし、日常生活に必要な情報交換を実践できる能力の習得を目指す。Intermediate Japanese 1 は、秋学期に2クラス設けられており (Intermediate 1A, 1B)、共通のシラバスと教材が使われる。

Intermediate Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)の受験に備えることも可能である。

Intermediate Japanese 1 is designed for students with some previous experience of Japanese learning. The course also aims to nurture an understanding of Japanese culture and its people. Students will acquire ability to engage in meaningful communication in everyday contexts. Intermediate Japanese 1 has 2 sections (Intermediate Japanese 1A and 1B), which will use the same syllabus and materials.

Students who complete Intermediate Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbooks: Japanese for GRIPS Students and Marugoto.

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

The grade will be based on class attendance, class participation, and final oral examination.

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN2010JB

科目名/ Course Name: Intermediate Japanese 1B

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Intermediate Japanese 1 は、日本語の基礎を学んだ経験がある学生を対象とし、日常生活に必要な情報交換を実践できる能力の習得を目指す。Intermediate Japanese 1 は、秋学期に2クラス設けられており (Intermediate 1A, 1B)、共通のシラバスと教材が使われる。

Intermediate Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)の受験に備えることも可能である。

Intermediate Japanese 1 is designed for students with some previous experience of Japanese learning. The course also aims to nurture an understanding of Japanese culture and its people. Students will acquire ability to engage in meaningful communication in everyday contexts. Intermediate Japanese 1 has 2 sections (Intermediate Japanese 1A and 1B), which will use the same syllabus and materials.

Students who complete Intermediate Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbooks: Japanese for GRIPS Students and Marugoto.

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

The grade will be based on class attendance, class participation, and final oral examination.

Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN2020JA

科目名/ Course Name: Intermediate Japanese 2A

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Intermediate Japanese 2 では、Intermediate Japanese 1 に引き続き、日常生活に必要な情報交換を行い、かつ自分の考えや意見を発信する能力の育成を目指す。Intermediate Japanese 2 は、冬学期に2クラス設けられており (Intermediate 2A, 2B)、共通のシラバスと教材が使われる。

Intermediate Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)の受験に備えることも可能である。

Intermediate Japanese builds up on Intermediate Japanese 1. Students will learn to engage in meaningful communication in everyday contexts and also gain the ability to express their thoughts and ideas. The course also aims to nurture an understanding of Japanese culture and its people. Intermediate Japanese 2 has 2 sections (Intermediate Japanese 2A and 2B), which will use the same syllabus and materials.

Students who complete Intermediate Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbooks: Japanese for GRIPS Students and Marugoto.

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Method of Evaluation: attendance, class participation and final exam (oral presentation)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご will be distributed in class.

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN2020JB

科目名/ Course Name: Intermediate Japanese 2B

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Intermediate Japanese 2 では、Intermediate Japanese 1 に引き続き、日常生活に必要な情報交換を行い、かつ自分の考えや意見を発信する能力の育成を目指す。Intermediate Japanese 2 は、冬学期に2クラス設けられており (Intermediate 2A, 2B)、共通のシラバスと教材が使われる。

Intermediate Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)の受験に備えることも可能である。

Intermediate Japanese builds up on Intermediate Japanese 1. Students will learn to engage in meaningful communication in everyday contexts and also gain the ability to express their thoughts and ideas. The course also aims to nurture an understanding of Japanese culture and its people. Intermediate Japanese 2 has 2 sections (Intermediate Japanese 2A and 2B), which will use the same syllabus and materials.

Students who complete Intermediate Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbooks: Japanese for GRIPS Students and Marugoto.

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

Method of Evaluation: attendance, class participation and final exam (oral presentation)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご will be distributed in class.

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN2030J

科目名/ Course Name: Intermediate Japanese 3

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。Intermediate Japanese 3 では、Intermediate Japanese 1 と 2 で学んだことを使い、より実践的かつ自発的な情報交換や意見の発信ができることを目指す。

Intermediate Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)の受験に備えることも可能である。特に Intermediate Japanese 3 は、日常生活における実践的かつ有効、そしてより複雑な日本語を提供する。

Intermediate Japanese builds up on Intermediate Japanese 1 and 2 and aims to develop the ability to actively engage in meaningful communication and express individual thoughts and opinions. The course also aims to nurture an understanding of Japanese culture and its people.

Students who complete Intermediate Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbooks: Japanese for GRIPS Students and Marugoto.

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy に基づく。

The grade will be based on class attendance, class participation, and final oral examination. Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Japanese for GRIPS Students GRIPS でまなぶにほんご

Marugoto 「まるごと」

Copies of the textbook and supplementary materials will be distributed by the instructor in class. Students can access and download Marugoto from GRIPS Library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN3010J

科目名/ Course Name: Advanced Japanese 1

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、初級日本語学習を終えた学習者を対象にし、既習の語彙や表現を用いて理論的な会話を構築する能力の育成を目標とする。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。

Intermediate Japanese を修了した学生がこのコースを履修することができる。履修していない学生はレベルチェックを受けなければならない。このコースでは、学習者のレベルに応じて、テキストや授業内容が変更される。Advanced Japanese を一年間継続して履修すると、修了証を取得できる。また、ワークショップ等と合わせて学習することで、日本語能力試験(JLPT)の受験に備えることも可能である。

Advanced Japanese is offered to students who have completed Intermediate Japanese at GRIPS or are assigned to this level by the placement test. The course aims to provide students with opportunities to engage in intellectual conversations on social topics including politics, governments, and policies. The course also nurtures an understanding of Japanese culture and its people. Depending on student level, the content and textbooks used in the course will vary.

Students who complete Advanced Japanese 1, 2 and 3 will receive a Certificate of Completion at the end of the academic year. With additional workshop attendance, students can also prepare to take the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

授業は主要テキスト「まるごと 日本のことばと文化 中級 1 B1」に沿って進める。

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbook: Marugoto Japanese Language and Culture Intermediate 1 B1
Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

The grade will be based on class attendance, class participation, and final oral examination. Evaluation will be based

on GRIPS Assessment Policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

まるごと 日本のことばと文化 中級1 【B1】三修社 磯村一弘、藤長かほる、久保田美子、伊藤由希子著

Marugoto Japanese Language and Culture Intermediate 1 B1 Isomura, K., Fujinaga, K., Kubota, Y., & Ito, Y. Tokyo: Sanshu Publishing

The Marugoto ebook can be accessed and downloaded from GRIPS library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN3020J

科目名/ Course Name: Advanced Japanese 2

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、初級日本語学習を終えた学習者を対象にしている。初級日本語学習を終えたというのは、初級表現を流暢に使うことができ、様々な社会問題についてディスカッションする能力を有するということである。学習者は、さらに複雑な文型をより流暢に使うことができるようになる。日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。特に **Advanced Japanese 2** は、上級学習者がクラス内でさらに知的な会話をする機会が持てるようにデザインされている。

Advanced Japanese 1 を修了した学生がこのコースを履修することができる。履修していない学生はレベルチェックを受けなければならない。このコースでは、学習者のレベルに応じて、テキストや授業内容が変更される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

授業は主要テキスト「まるごと 日本のことばと文化 中級 1 B1」に沿って進める。

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbook: Marugoto Japanese Language and Culture Intermediate 1 B1

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy に基づく。

The grade will be based on class attendance, class participation, and final oral examination. Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

まるごと 日本のことばと文化 中級 1 【B1】 三修社 磯村一弘、藤長かほる、久保田美子、伊藤由希子著

Marugoto Japanese Language and Culture Intermediate 1 B1 Isomura, K., Fujinaga, K., Kubota, Y., & Ito, Y. Tokyo: Sanshu Publishing

The Marugoto ebook can be accessed and downloaded from GRIPS library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: LAN3030J

科目名/ Course Name: Advanced Japanese 3

担当教員/ Instructor: PETCHKO Katerina, et al./PETCHKO Katerina, et al.

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

このコースは、初級日本語学習を終えた学習者を対象にしている。初級日本語学習を終えたというのは、初級表現を流暢に使うことができ、様々な社会問題についてディスカッションする能力を有するということである。学習者は、さらに複雑な文型をより流暢に使うことができるようになる。日本で生活する上で役に立つ日本語を学習することを目的としている。また、日本語を通して日本人や日本文化を知る機会を得ることもできる。特に Advanced Japanese 3 は、上級学習者がクラス内でさらに知的な会話をする機会が持てるようにデザインされている。

Advanced Japanese 2 を修了した学生がこのコースを履修することができる。履修していない学生はレベルチェックを受けなければならない。このコースでは、学習者のレベルに応じて、テキストや授業内容が変更される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

授業は主要テキスト「まるごと 日本のことばと文化 中級 1 B1」に沿って進める。

各週のテーマ、学習内容の詳細は、初回授業にて配布する。

The course will proceed following the main textbook: Marugoto Japanese Language and Culture Intermediate 1 B1

Details of the weekly themes and language focus will be distributed in the first class meeting.

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績については、出席、授業参加、期末オーラル試験に基づいて行われる。評価は GRIPS Assessment Policy. に基づく。

The grade will be based on class attendance, class participation, and final oral examination. Evaluation will be based on GRIPS Assessment Policy.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

まるごと 日本のことばと文化 中級 1 【B1】三修社 磯村一弘、藤長かほる、久保田美子、伊藤由希子著

Marugoto Japanese Language and Culture Intermediate 1 B1 Isomura, K., Fujinaga, K., Kubota, Y., & Ito, Y. Tokyo:

Sanshu Publishing

The Marugoto ebook can be accessed and downloaded from GRIPS library.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4000E

科目名/Course Name: Tutorial (MEP1)

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

A tutorial is a small-group consultation course and required part of the degree requirements for most of the masters programs. A tutorial is meant to nurture the sense of connectedness with faculty members as well as among fellow students at the early stage of designing their study and research. Students are expected to discuss their study plans and research interests with the instructors and other participants to obtain appropriate feedback.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The design of the course will be discussed during the program guidance.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. While grading takes into account a students contribution to discussions, the instructors may set written assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4010E

科目名/Course Name: Policy Paper Seminar I

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a series of required courses for students in the 1-year Macroeconomic Policy Program and is devoted to producing a policy paper on a topic related to macroeconomic policy. Students will meet regularly in the spring term with a faculty advisor to formulate and discuss their research. Students choose the advisor during the Fall term based on their initiative and on assistance from the program director and begin working on their policy papers during the Winter term, before the formal course begins. In Spring II Term, students make a brief presentation of their research and take advantage of the obtained feedback to complete their policy papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Arranged on an individual basis with students advisor.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be determined based on the quality of the submitted policy paper as well as on a presentation arranged as part of Policy Paper Seminar II. Before submission of the final version, the policy paper must go through the plagiarism check by the Center of Professional Communication.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4020E

科目名/Course Name: Policy Paper Seminar II

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a series of required courses for students in the 1-year Macroeconomic Policy Program and is devoted to producing a policy paper on a topic related to macroeconomic policy. Students will meet regularly in the spring term with a faculty advisor to formulate and discuss their research. Students choose the advisor during the Fall term based on their initiative and on assistance from the program director and begin working on their policy papers during the Winter term, before the formal course begins. In Spring II Term, students make a brief presentation of their research and take advantage of the obtained feedback to complete their policy papers.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Arranged on an individual basis with students advisor.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be determined based on the quality of the submitted policy paper as well as on a presentation arranged as part of Policy Paper Seminar II. Before submission of the final version, the policy paper must go through the plagiarism check by the Center of Professional Communication.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4100E

科目名/Course Name: Tutorial (MEP2)

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

A tutorial is a small-group consultation course and required part of the degree requirements for most of the masters programs. A tutorial is meant to nurture the sense of connectedness with faculty members as well as among fellow students at the early stage of designing their study and research. Students are expected to discuss their study plans and research interests with the instructors and other participants to obtain appropriate feedback.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The design of the course will be discussed during the program guidance.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. While grading takes into account a students contribution to discussions, the instructors may set written assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4110E

科目名/Course Name: Thesis Seminar I

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a series of required courses for the second-year students in the 2-year Macroeconomic Policy Program and is devoted to producing a masters thesis on a topic related to macroeconomic policy. Students will meet regularly with a faculty advisor to formulate and discuss their research. Students choose the advisor during the Fall term of the first year based on their initiative and on assistance from the program director and begin working on their policy papers in the Winter term, before the formal course begins. Students make two presentations of their thesis, typically in January and May of the second year, and take advantage of the obtained feedback to complete their thesis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Arranged on an individual basis with students advisor.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be determined based on the quality of the submitted thesis as well as on two presentations. Before submission of the final version, the thesis must go through the plagiarism check by the Center of Professional Communication.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4120E

科目名/Course Name: Thesis Seminar II

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a series of required courses for the second-year students in the 2-year Macroeconomic Policy Program and is devoted to producing a masters thesis on a topic related to macroeconomic policy. Students will meet regularly with a faculty advisor to formulate and discuss their research. Students choose the advisor during the Fall term of the first year based on their initiative and on assistance from the program director and begin working on their policy papers in the Winter term, before the formal course begins. Students make two presentations of their thesis, typically in January and May of the second year, and take advantage of the obtained feedback to complete their thesis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Arranged on an individual basis with students advisor.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be determined based on the quality of the submitted thesis as well as on two presentations. Before submission of the final version, the thesis must go through the plagiarism check by the Center of Professional Communication.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MEP4130E

科目名/Course Name: Thesis Seminar III

担当教員/Instructor: 藤本 淳一 他/FUJIMOTO Junichi, et al.

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a series of required courses for the second-year students in the 2-year Macroeconomic Policy Program and is devoted to producing a masters thesis on a topic related to macroeconomic policy. Students will meet regularly with a faculty advisor to formulate and discuss their research. Students choose the advisor during the Fall term of the first year based on their initiative and on assistance from the program director and begin working on their policy papers in the Winter term, before the formal course begins. Students make two presentations of their thesis, typically in January and May of the second year, and take advantage of the obtained feedback to complete their thesis.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Arranged on an individual basis with students advisor.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be determined based on the quality of the submitted thesis as well as on two presentations. Before submission of the final version, the thesis must go through the plagiarism check by the Center of Professional Communication.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR1000E

科目名/Course Name: Introduction to Quantitative Methods

担当教員/Instructor: 諸星 穂積/MOROHOSI Hozumi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Several quantitative modeling methods for the decision making are introduced with special attention for the policymaking in public sectors. Optimization models, applied probability models, statistical data analyses are the main topics of the course. Some computer exercises can be accompanied by the course. After lectures on those topics, students are encouraged to give a talk on their own research topics and discuss them with each other.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

We start the course with basic mathematics necessary for the sequel lecture. Then the course will cover the following topics. Linear programming, Sensitivity analysis, Transportation problem, Input-output analysis, Scheduling, Facility allocation model, Optimal investment problem, Apportionment problem, Resource allocation problem, Graph theory, Network model, Monte Carlo methods, Queuing theory, Spatial interaction model, Entropy model.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance and Take-home exam.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4.2.

Pollock, S.M., M.H. Rothkopf and A. Barnett (eds.): Operations Research and the Public Sector, Handbooks in Operations Research and Management Science, Vol. 6, North-Holland, 1994.

W. L. Winston and S. C. Albright: Practical Management Science, 6th ed., South-Western Pub, 2018.

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR1030E

科目名/Course Name: Introduction to Data Science

担当教員/Instructor: 土谷 隆/TSUCHIYA Takashi

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Data science is a discipline to develop useful hypothesis and prediction from data with the help of mathematics and computers. The discipline includes traditional statistics as well as new trends such as machine learning and data mining.

In this lecture we learn basics of data science putting emphasis on its connection to mathematics and computer science. The goal of the lecture is to develop elementary mathematical intuition behind the regression model and the principle component analysis and to learn computer programming in R language, and learn basics of statistical inference. We assume high school level mathematics as required mathematical skill.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Overview of data science (Statistics, machine learning and data minining)

Introduction to programming in R (data frame, for loop, if sentence, reading dataset, drawing graphs etc.)

Data science and computer science (sorting algorithms and their computational complexity)

Probability, conditional probability and Bayes inference

Matrix and vector

Normal distribution, exponential distribution and uniform distribution

Principal component analysis

Regression model

Clustering methods

Contingency tables and discrete data

Statistica, estimation, hypothesis test, p-value

Maximum likelihood methods and model selection

Introduction to causality inference

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Attendance and take home examination.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Texts and reference will be introduced in the lecture.

5. 履修上の注意/ **Note:**

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR1030J

科目名/Course Name: データサイエンス基礎

担当教員/Instructor: 土谷 隆/TSUCHIYA Takashi

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

データサイエンスはデータから仮説を構築するためのさまざまな手法を研究し、有用な知識をデータから抽出して予測等に役立てる学問である。

現代では計算機で大規模なデータをさまざまな形で解析して予測する手法が発展している。

本講義では、データサイエンスの基礎を学ぶ。

データサイエンスは数学とコンピュータサイエンスと密接な関係がある。

回帰分析や主成分分析の意味を数学的に理解し、Rによるプログラミングの基礎を習得し、統計や機械学習の推論形式を学ぶことを一つの目標とする。

知識としては、高校レベルの数学のみを仮定する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

データサイエンス概説 (統計・機械学習・データマイニング)

Rによるプログラミング

(データフレームや制御文(for 文, if 文), データの読み込み・グラフの描き方など)

データサイエンスとコンピュータサイエンス

(ソーティングアルゴリズムと計算複雑度を例として)

確率・条件付確率とベイズ推論

行列とベクトル

正規分布・指数分布・一様分布

主成分分析

回帰分析

クラスタリング (階層クラスタリング・K 平均法)

分割表

推定、検定と p 値, 最尤法とモデル選択

因果推論入門

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席と期末レポートを総合して評価する

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義の中で適宜紹介する.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR1100J

科目名/Course Name: 政策科学のためのデータサイエンスと情報数理 I (木、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi and TAKENOUCHI Takashi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

行政により膨大なデータが蓄積され、そしてそれ以外にも多様なデータがインターネットを通じて手軽に得られる現在、目的に応じてこれらのデータを統合して自ら解析し、政策立案に役立てる能力はこれからの行政官にとって習得すべき重要な技の一つである。本講義では、世界中で使われているデータサイエンスのためのデファクトスタンダードである R 言語（無料ソフト）によりデータの可視化や線形回帰モデル等を実習しつつデータサイエンスとそのためのプログラミングの基本を習得する。高校までの数学の知識に基づいて講義する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

R によるプログラミング

データの扱い方（データの読み込みやデータの種類等）

アルゴリズムの考え方

データの可視化（図の書き方等）

回帰モデルと最尤法・モデル選択・クロスバリデーション・検定

クラスタリング

主成分分析

ロジスティック回帰と決定木

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席とレポートによる

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

授業中に紹介する

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR2000J

科目名/Course Name: 計画と評価の数理

担当教員/Instructor: 諸星 穂積/MOROHOSI Hozumi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

政策の企画立案に資する、数理的な計画手法と評価手法について学ぶ。計画手法としては、線形計画法、ネットワーク計画法、整数計画法、動的計画法などの最適化モデルと、待ち行列、確率シミュレーションなどを取りあげる。評価手法としては、包絡分析法 (DEA)、階層的意思決定手法 (AHP)、ランキング手法などについて論ずる。Excel や MATLAB などを用いた演習により、手法への理解深めることを目指す。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下のような題材について講義する。

最適化モデル (線形計画法, 整数計画法, ネットワーク計画法など)。

待ち行列, 確率シミュレーション。

評価手法 (DEA, AHP, ランキング)。

上記のほかにも、講義の進捗状況や、受講者の要望に応じて、題材について多少変更することもある。

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席と期末レポート

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4.2 ・藤澤 克樹, 後藤 順哉, 安井 雄一郎: エクセルで学ぶOR. オーム社, 2011.

・大野勝久, 逆瀬川浩孝, 中出康一: Excel で学ぶオペレーションズリサーチ, 近代科学社, 2014.

・Pollock, S.M., M.H. Rothkopf and A. Barnett (eds.): Operations Research and the Public Sector, Handbooks in Operations Research and Management Science, Vol. 6, North-Holland, 1994. (大山達雄監訳: 「公共政策 OR ハンドブック」, 朝倉書店, 1998.)

・W. L. Winston and S. C. Albright: Practical Management Science, 6th ed., South-Western Pub, 2018

・L. A. Wolsey: Integer Programming, 2nd ed., Wiley, 2020.

・W. W. Cooper, L. M. Seiford, and K. Tone: Introduction to Data Envelopment Analysis and Its Uses with DEA-Solver Software and References, Springer, 2006.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR2020E

科目名/Course Name: Data Science in Practice

担当教員/Instructor: 竹之内 高志/TAKENOUCHI Takashi

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Statistics and machine learning are among basic tools in policy studies for mining data and model building. In this course, we study

several important statistical methods and machine learning using examples and learn the process of analyzing the practical data based on programming language R.

The basic knowledge taught in Introduction to Data Science or an equivalent introductory course on statistics is assumed

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The following topics will be treated in the course.

(Some of them may be skipped depending of the progress of the class.)

Basic of probability theory(expectation, variance, Bayes theorem, etc)

Regression models

Maximum likelihood method, model selection, and cross validation

Decision tree, discriminant analysis and logistic regression

Unsupervised learning (PCA, clustering)

Neural networks and Deep learning (Introductory review)

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance and take-home exam.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Reference will be given in class.

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR2020J

科目名/Course Name: 実践データサイエンス

担当教員/Instructor: 竹之内 高志/TAKENOUCHI Takashi

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

現実の場で利用されている主要なデータ分析法をとりあげて、現実のデータからどのように分析を行っていくか、その過程を体験し、実践的な知識と経験を身に着けることを目指す。

多変量解析, 機械学習の基礎, AI・深層学習の入門的な内容を R を使った演習を交えて学ぶ。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下のようなモデルや手法を取り上げて、講義と演習を行う。

確率論の基礎事項(期待値, 分散, ベイズの定理など)

回帰モデル

最尤法とモデル選択, クロスバリデーション

決定木, 判別分析, ロジスティック回帰

教師なし学習 (PCA, クラスタリング)

ニューラルネットワークと深層学習入門

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席とレポートを総合して評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義の中で適宜紹介する。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR2100J

科目名/Course Name: 政策科学のためのデータサイエンスと情報数理Ⅱ (月、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi and TAKENOUCHI Takashi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

EBPMを実現するためには、データ解析で構築される予測モデルにしたがって最適な政策をデザインすることが重要である。このような立場から、R言語を活用しつつ、機械学習やビッグデータの入門的な話題とともに、線形計画法と経済学、マッチングやゲーム理論、ポートフォリオ最適化、ネットワーク理論、マルコフモデルとグーグル検索、暗号、戦略の数理等、社会や経済を解析し意思決定を行う上で有用なデザインサイエンスの基礎を学ぶ。高校までの数学の知識に基づいて講義する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

ビッグデータと機械学習

ニューラルネットワーク

線形計画と経済学・ゲーム理論

ポートフォリオ最適化

ネットワーク理論

マルコフモデルとグーグル検索の仕組み

暗号・戦略の数理

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席とレポートによる

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

授業で紹介する

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR2500E

科目名/Course Name: Quantitative Social Systems Analysis

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCI Takashi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course focus on development of skills on handling mathematical/statistical models and computer programming for those who are conducting their research on social systems analysis based on quantitative methods.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The style of course is mixture of lectures and presentations by students. Initially, students will be asked to present their research topic in view of quantitative social systems analysis.

This is to share their problems with instructors. Then instructors will give them technical advises based on their presentations and also give lectures on some topics relevant to students research.

Students are asked to make presentation one more time in the end of the course showing their progress on research.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance and Presentation

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

References will be given in class, depending upon the topics and issues.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR3010J

科目名/Course Name: 数理モデル分析演習

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCI Takashi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本授業では、データサイエンスや計画と評価の数理等の授業で扱う定量的分析を必要とする学生のために、学生のセミナーによる発表を元に助言や指導を行う。各参加者はセミナーで各自の研究で用いるデータを説明してどのような解析を行いたいかを発表して助言や指導を受ける。また、学生の希望と研究上の必要性も考慮の上、補足的な講義を行う。初等的・発展的問わずあらゆるレベルで定量的な分析に興味のある学生の参加を歓迎する。その意味で過去の履修履歴は問わない。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各学生が各自の研究課題をセミナー形式で発表し、研究を進めていく上でデータサイエンスやオペレーションズ・リサーチの手法をどのように活用できるかについて助言や指導を受ける。また、学生が必要とする手法について、学生のニーズに即して講義を行う。教員と学生のみならず、セミナーを通じた学生間の意見交換の機会となることも期待している。

3. 成績の評価方法/ Grading:

発表内容と出席を総合して行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 藤澤克樹, 後藤順哉, 安井雄一郎: Excel で学ぶOR. オーム社

4-2 金明哲: Rによるデータサイエンス. 森北出版

4-2 H. Paul Williams: Model Building in Mathematical Programming, 5th ed. Wiley, 2013.

4-2 J.A. Bondy, U.S.R. Murty: Graph theory, Springer, 2008.

5. 履修上の注意/Note:

この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR6300E

科目名/Course Name: Mathematical Modeling Analysis / 数理モデル分析

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCI Takashi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Main objective of this course is to provide knowledge and solution techniques for mathematical modeling analysis including data collection, model building, formulation, computation, solution methods and sensitivity analysis. Topics will be selected from various types of mathematical models shown below depending upon students needs, preferences and academic backgrounds. Lectures will be given with many examples, not only theory itself, so that the students can understand even though they do not have enough mathematical backgrounds. Recitation class will be added if necessary. Students are required to present their research outputs, then will have comments, suggestions and discussion.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Linear programming models (1-4)

Topics will cover production planning model, PERT/CPM, scheduling model, transportation planning model, input/output model, labour force distribution model, goal programming model, multi-objective programming model and so on.

Optimal facility location model, optimal investment model for electric power utility, optimal scheduling for utility operation, apportionment problem, optimal resource allocation model will also be given.

2. Graph and network models (5-10)

Topics will cover basic graph models, stability and reliability for the graph structured system, optimal allocation model for marine patrol ships, optimal allocation and operation model for public utilities (hospitals, waste treatment facilities, administration offices), network flow optimization model, traffic road network programming model, communication network programming model, electric power network programming model, petroleum network programming model, and so on

3. Stochastic models and forecasting (11-15)

Topics will cover basic stochastic process theory, Markov model, Poisson model, state transition theory, stationary state and equilibrium analysis, queueing models, optimal investment model, and so on. Dynamic simulation model, Monte Carlo simulation model, game theory model input/output analysis, RAS method, and so on. Demand forecasting method, moving average method, exponential smoothing method, and energy in put/output model will also be given.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Presentation techniques

Reports and drafts distribution in the class

Attendance

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

References will be given in class, depending upon the topics and issues.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR6300J

科目名/Course Name: Mathematical Modeling Analysis / 数理モデル分析

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCI Takashi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

最適政策策定、最適意思決定を目的とする種々の数理モデル分析の理論とその応用を中心に紹介する。本講では、コンピュータの統計ソフトウェア、最適化ソフトウェア、シミュレーションソフトウェアを用いた分析方法について実例データを用いた応用例を取り上げつつ紹介する。データベースの作成、コンピュータソフトの利用とシミュレーション計算、最適化計算によって得られた解の解釈、感度分析、パラメトリック分析、等を中心として、シミュレーション、数理計画法の理論と応用全般を紹介、解説する。学生諸君が数理的解析手法、応用確率理論、応用統計理論、最適化理論に関する解析手法の理論の理解と実際の応用方法になじみ、数理モデル解析手法の各自の研究分野における適用可能性について考慮する契機を作ることを目的とする。

授業は前半は主として講義形式で行うが、後半は実際のデータを用いた演習形式、何らかの政策課題を対象とする数理モデル分析関連の研究論文、文献の講読輪講形式も取り入れる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回—第8回：数理モデル分析の概要

数理モデル分析の中でも頻繁に用いられる一般的なモデルを例示、解説する。主要課題は、労働力配分モデル、産業構造モデル、人口構造モデル、高齢化予測モデル、ポアソンモデル、マルコフモデル、最適投資決定の待ち行列モデル、設備更新モデル、待ち行列ネットワークモデル、確定的・確率的在庫モデル、グラビティーモデル、購買行動モデル、対数正規モデル、人口移動モデル、職住通勤モデル、物資流動モデル、貨物輸送モデル、旅客輸送モデル、情報エントロピーモデル、銘柄選択エントロピーモデル、制約付きエントロピーモデル、反復尺度法、空間相互作用モデル、通話量流動モデル、情報サービス流動モデル、物資流動モデル、貨物輸送モデル、購買行動モデル、等の理論と適用事例を紹介する。政策諸問題の定式化と解法になじむことを当初の目的とするが、さらには実際の政策課題を対象とするモデル分析例として、交通流最適化モデル、2酸化炭素排出モデル、地球環境モデル、最適施設配置モデル、電気事業の最適投資計画モデル、電気事業の限界費用計測モデル、施設設備の最適運用スケジューリングモデル、最適列車スケジューリングモデル、議員定数配分モデル、最適資源配分モデル、配置配分モデルの一般形、ごみ処理施設の最適配備・運用モデル、公共施設配置モデル、行政施設配置モデル、等についても可能な限り解説する。

第9回—第15回

各学生の関心に合わせて、ゼミ形式あるいは演習形式に基づいて、データの収集、加工処理を行い、適切な数理モデルを選択、決定したうえで定式化、数値実験、出力結果分析、感度分析を行なう。成果の発表、レポート作成をゼミあるいは演習を通して行う。

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業参加度、発表、レポート内容を総合して行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

参考文献として

1. 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991.
2. 森雅夫、森戸晋、鈴木久敏、山本芳嗣：「オペレーションズリサーチ I, II」、朝倉書店、1994.
3. 大山達雄：「最適化モデル分析」、日科技連出版、372p. 1993。
4. 大山達雄，末吉俊幸. 「公共政策とOR」，朝倉書店，271p, 2002.
5. 伊理正夫、古林 隆：「ネットワーク理論」，日科技連出版，1976
6. 大山達雄：「パワーアップ離散数学」，共立出版，183p, 1997.
7. 大鹿 譲、一森哲男：「オペレーションズリサーチ —モデル化と最適化—」、共立出版、174p, 1993.
8. Pollock, S.M., M.H. Rothkopf and A. Barnett (eds.), 1994. Operations Research and The Public Sector, Handbooks in Operations Research and Management Science, Vol.6, North-Holland.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MOR7011E

科目名/Course Name: Quantitative Data Analysis

担当教員/Instructor: 土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志/TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCI Takashi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In addition to providing knowledge and techniques for mathematical modeling analysis this course aims at students attaining presentation skills for presenting their research outputs, then writing academic papers using mathematical modeling analysis. Procedures on model building, formulation, computation, solution analysis and sensitivity analysis will be shown using actual data and social problems. Topics given in the class will be selected from various types of mathematical models shown below depending upon students needs, preferences and academic backgrounds. Students are required to present their research outputs, then instructors will give questions, comments and suggestions.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Deterministic models (1-5)

Topics will cover optimal investment model for electric power utility, marginal cost measurement model for electric power utility, optimal scheduling for utility operation, optimal train operation scheduling, optimal resource allocation model, general location-allocation model and so on. Energy network programming model, network reliability evaluation model, network reliability evaluation model, and electric tariff measurement model will also be given.

2. Stochastic models (6-10)

Topics will cover labour force distribution model, industrial structure analysis model, and population structure analysis model. Gravity law and gravity model, origin-destination constrained model, Poisson model, purchase behavior model, and 1-factor and multi-factor entropy models are another frequently used models, so these will be introduced with brand selection entropy model, constrained entropy model, and space interaction model, Telephone call flow model, information service flow model, purchase behavior entropy model, commodity flow entropy model, and passenger transportation entropy model will also be given.

3. Students presentation and report writing(11-15)

Students are required to present their research outputs based upon their own research topics, then write a report on some problem they are interested in. Instructors will give questions, comments and suggestions for students presentation and reports.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Presentation techniques

Reports and drafts distributed in the class

Attendance

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

References will be given in class, depending upon the topics and issues.

5. 履修上の注意/Note:

This course is designated as a DS-related course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP2000E

科目名/Course Name: Maritime Police Policy

担当教員/Instructor: 奥菌 淳二/OKUZONO Junji

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to help students to get necessary skills and understanding to analyze the police policy and intra-governmental organizations. At each class, students will read some literature or topics related to maritime security, military-police relations, anti-terrorism policy, bureaucracy, intra-governmental relations, and discuss policies concerning maritime security.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Guidance, learning outline of maritime police policy

2-14. Discussion

Students are expected to learn institutionalism and methodology of political science from the discussion.

Students will be in charge of reporting and facilitating the discussion.

15. summary

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation (Contribution to the discussion): 50%

Presentation and facilitation: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Instructed at the first class

5. 履修上の注意/Note:

It is desirable that you have learned the methodology of social science.

Following books are useful to learn it.

Paul Pierson (2004) Politics in Time: History Institutions, and Social Analysis, Princeton University Press.

Gary King, Robert O. Keohan

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP2000E

科目名/Course Name: Maritime Police Policy

担当教員/Instructor: 奥菌 淳二/OKUZONO Junji

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to help students to get necessary skills and understanding to analyze the police policy and intra-governmental organizations regarding maritime police policy. At each class, students will read some literature or topics related to maritime security, military-police relations, anti-terrorism policy, bureaucracy, intra-governmental relations, and discuss policies concerning maritime security.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Guidance, learning outline of maritime police policy

2-14. Discussion

Students are expected to learn institutionalism and methodology of political science from the discussion.

Students will be in charge of reporting and facilitating the discussion.

15. summary

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation (Contribution to the discussion): 50%

Presentation and facilitation: 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Instructed at the first class.

5. 履修上の注意/Note:

It is desirable that you have learned the methodology of social science.

Following books are useful to learn it.

Paul Pierson (2004) Politics in Time: History Institutions, and Social Analysis, Princeton University Press.

Gary King, Robert O. Ke

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP2030E

科目名/Course Name: Introduction to Oceanography

担当教員/Instructor: 堀内 大嗣/HOEIUCHI Daishi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The target of this course is understanding the true condition of the ocean as a natural phenomenon, and its mechanisms.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1: Tides

2: Wind and Ocean Circulation

3: The Properties of Seawater

4: Plate Tectonics

5: Natural hazards

6: Marine scientific research

3. 成績の評価方法/ Grading:

The final course grade will be determined by exams.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Required

Paul R. Pinet (2014) Invitation to Oceanography, Jones and Bartlett Publishers, Inc.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP2040E

科目名/Course Name: Marine Environment and Pollution

担当教員/Instructor: 川村 紀子/KAWAMURA Noriko

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

The sources of marine pollutions are not only from lands, but also coastal sea areas. Pollution from vessels can take the form of oil, chemicals, and invasive exotic species. The pollutions are occurred by crime, accidents, tsunamis, and floods. In order to detect the pollutions, environmental monitoring is important in the sea. This course introduces you to the basic technique of monitoring of the marine environments. At the end of this course, you will be able to choose effective methods in detecting pollution sources.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

A classroom lecture

2-1. Introduction to Ocean environment

Oceanographic Environmental Diagnosis through chemical experiments

2-2. Basic knowledge of seawater profiles

2-3. Ocean acidification

2-4. Pollutions of seawater detected using spectroscopic analysis

2-5. Chromatography and Oil absorptions

2-6. Plankton and Plastic Observation

2-7. Pollution by Tsunamis

2-8. Sediment Observations as proxy of marine environments and disaster records

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

You must write a report of A1 size, 2-3 pages (1000 words). The topics of the report will be given in the lectures.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

References will be introduced as appropriate.

5. 履修上の注意/ **Note:**

Basic chemistry and oceanography are essential to understand the lecture.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP2050E

科目名/Course Name: Traffic Management Systems I

担当教員/Instructor: 山田 多津人/YAMADA Tatsuto

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Ships under operation have various purposes such as freight transportation and fishing. Traffic management is necessary to realize efficient and safe traffic under the circumstances. Safety management is an important branch of traffic management. Safety management/assessment in the marine fields based on the marine traffic engineering which will be discussed in this class.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Session 1 : Introduction

The definition of the traffic management systems in marine field and the development of marine traffic engineering in Japan are introduced. And the concepts of safety and risk are discussed.

Session 2 & 3 : Characteristics of marine traffic and observation methods

Students consider the characteristics of marine traffic and learn how to get marine traffic data. Students are expected to implement the basic analysis using actual AIS data in Excel.

Session 4 & 5 : Representation of marine traffic factors

The processing methods of observed marine traffic data and fundamental traffic description models are introduced. In addition, students will learn the methods of evaluation specified in the technical standards of port facilities in Japan.

Session 6 : Collision risk assessment and collision avoidance

Students learn basic concepts of the collision risk and the assessment method for collision avoidance using a maneuvering space model.

Session 7 & 8 : Subjective safety assessment

Methods of safety assessment including that of a navigator's mental loads (subjective safety assessment) are introduced. Students discuss and learn the subjective safety assessment by the Analytic Hierarchy Process (AHP) and the use of the maneuvering simulator.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Participation (Contribution to the discussion): 50%. Submission of several reports: 50%

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Lecture notes and reference papers are provided.

5. 履修上の注意/Note:

Students need to bring a PC in which Excel is installed and the OS is Windows 10.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3000E

科目名/Course Name: International Law

担当教員/Instructor: 下山 憲二/SHIMOYAMA Kenji

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

In this class, we will study the basic framework of international law including the law-enforcement at sea, taking into consideration each States applications and enforcements of the relevant domestic laws and regulations at sea. Particularly, this class will deal with (1) the basic framework of each States domestic implementation of international treaties (ex. the United Nations Convention of the Law of the Sea (UNCLOS)), (2) the basic framework of international law on exercising States legislative and enforcement jurisdiction, regulating each States applications and enforcements of their domestic laws and regulations at sea and (3) State responsibility and dispute settlement on law enforcement activities.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

1. Introduction (Sovereignty, state Jurisdiction)
- 2-3. State Jurisdiction (1: legislative and enforcement jurisdiction)
- 4-5. State Jurisdiction (2: territorial principle and flag State principle)
- 6-7. State Jurisdiction (3: active and passive nationality principle, etc.)
8. State Jurisdiction (4: small summing up)
- 9-10. Status of Territory
11. Immunity from State Jurisdiction
- 12-13. State Responsibility.
14. International Dispute Settlement on domestic law enforcement
15. Concluding remarks

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Reaction papers after each lecture (60%)

Term end essay (40%). The theme of the essay will be revealed in November

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

Nothing. Teaching materials will be uploaded on GRIPS website.

However main reference materials are following:

M.Dixon, Case and Materials on International Law, Oxford, 2016

M.N.Shaw, International Law, 9th edition Cambridge, 2021.

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3010E

科目名/Course Name: International Law of the Sea

担当教員/Instructor: 古谷 健太郎/FURUYA Kentaro

学期名/Term: 冬学期/Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to understand the outlines of relevant parts of the UN Convention on the Law of the Sea (UNCLOS) in exercising jurisdiction. It focuses on, inter alia, sovereignty, sovereign rights, and jurisdiction of coastal states vis-à-vis rights and duties of other States, including flag states, in different maritime zones. It further aims to discuss the implementation of the law of the sea for future solutions for current challenges in state practices, the national legislation of their States, and the application and enforcement of their domestic law. Students are expected to understand crucial elements of the Law of the Sea and form the policy in exercising jurisdiction at sea.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Students are supposed to read relevant sections of Churchill & Lowe and Tanaka in the "Textbooks" section before the class.

1 Introduction of the Law of the Sea and Baselines

2 Legal Regimes in Internal Waters and Territorial Sea

3 The Right of Innocent Passage and Coastal States' Power over Foreign Ships within the Territorial Sea

4 Legal Regimes in Contiguous Zones, International Straits, and Archipelagic Waters

5~6 Legal Regimes in Exclusive Economic Zones and Continental Shelf

7~8 Legal Regimes on High Seas

9~10 Policing Activities in EEZ and on High Seas

-1: Piracy & smuggling of drugs

-2: Right of visit/interdiction

-3: Hot pursuit

-4: PSI and counterterrorism at sea

11~12 Use of Force/Weapons

-1: case laws and principles

-2: a case study

13~14 Preservation and Protection of the Marine Environment

-1: basic theories in the LOSC

-2: IMO Conventions

15 Wrap-up

3. 成績の評価方法/ Grading:

A short essay: 80%

Attendance: 20%

Students are expected to attend all classes and contribute to discussions in them, which will also be considered. 20%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 Required

Churchill, R. R., and A. V. Lowe. The Law of the Sea. Yonkers, NY: Juris Pub., 1999.

Tanaka, Y. 2012. The International Law of the Sea. Cambridge: Cambridge University Press.

Sohn, Louis B. (eds.) 2014. Cases and Materials on the Law of the Sea 2nd Edition. Martinus Nijhoff.

Raul Pedrozo and James Kraska. 2012. International Maritime Security Law. Martinus Nijhoff.

Myron H. Nordqvist et. al. (eds.) 2016. Legal Order in the Worlds Oceans: UN Convention on the Law of the Sea (Center for Oceans Law and Policy). Martinus Nijhoff.

J. Ashley Roach and Robert W. Smith. 2012. Excessive Maritime Claims (3rd ed.). Leiden: Martinus Nijhoff Publishers.

Gray, Christine. 2008. International Law and the Use of Force. Oxford University Press.

4-2 Others

Guilfoyle, D., 2009. Shipping Interdiction and the Law of the Sea. Cambridge: Cambridge University Press.

The American Law Institute, 1986. Restatement of the Law, Third, Foreign Relations Law of the United States. Vol.1 and 2. Student Edition. Washington D.C.: American Law Institute Publishers.

O'Connell, D. P., 1982. The International Law of the Sea. Vol. II. Oxford: Clarendon Press.

Scheiber, H.N. and Paik, J.-H. (eds.), 2013. Regions, Institutions, and the Law of the Sea. Martinus Nijhoff

David Freestone, Richard Barnes, and David Ong, 2006. The Law of the Sea: Progress and Prospects. Oxford University Press.

Myron H. Nordquist, Rudiger Wolfrum and Ronan Long (eds.), 2008. Legal Challenges in Maritime Security. Martinus Nijhoff.

Tom Ruys, Olivier Corten and Alexandra Hofers (eds.), 2018. The Use of Force in International Law: A Case-based Approach. Oxford University Press.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3020E

科目名/Course Name: Policy for Search & Rescue, Salvage and Maritime Disaster Prevention

担当教員/Instructor: 山地 哲也/YAMAJI Tetsuya

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

On the field of Search & Rescue, salvage and maritime prevention disaster, following the acquisition of the specialized knowledge of the international direction and system concerned, and the better or best practice in the past, the trainees compare them with their own systems to each country and organization in order to deal with accidents at sea effectively.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

In the lecture, the issue of Places of Refuge is put into the main topic in order to develop Search & Rescue, salvage and maritime prevention disaster. The subjects are as follows:

- 1 The issue of Places of Refuge
- 2 Search and Rescue
- 3 International response to Places of Refuge
- 4 National response (i.e. in the UK) to Places of Refuge
- 5 Regional Response (i.e. in the EU) to Places of Refuge
- 6 Regional Seas Programs Response to Places of Refuge
- 7 International Convention
- 8 Case Study
- 9 Comparative Study

3. 成績の評価方法/ Grading:

The active participation to the lecture and report

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Handouts by the Instructor

5. 履修上の注意/Note:

None

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3030E

科目名/Course Name: International Comparative Criminal Law

担当教員/Instructor: 新谷 一郎/SHINTANI Kazuaki

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In the fields of national and international law, changes attributable to globalization have led to an increase in the importance of comparative criminal law. In order to take account of the changes to criminal law around the world, develop general legal principles, and shape criminal policy, this course will develop the ability of the student to think analytically about how criminal law might apply in a given situation.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1-2. History of Criminal Law and Principle of Legality

3-4. Scope of Application of Criminal Law

5-6. Self-Defense and Necessity

7-8. Illegal Drug Trade

9-11. Criminal Procedure

12-13. Punishments for Attempts

14-15. Death Penalty

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course grade will be based on reports with an adjustment for class participation.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: Handouts will be provided by the instructor

4-2:

Sieber, U. / Forster, S. / Jarvers, K. (eds.), National Criminal Law in a Comparative Legal Context: General limitations on the application of criminal law, Vol. S 128.2.1. Berlin, 2011

Sieber, U. / Forster, S. / Jarvers, K. (eds.), National Criminal Law in a Comparative Legal Context: Defining criminal conduct, Vol. S 128.3.1. Berlin, 2011

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3070E

科目名/Course Name: Fundamentals of Advanced Energy Engineering

担当教員/Instructor: 神吉 隆司/KANKI Takashi

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course provides the knowledge and skills to use the coastal electric power facilities safely and effectively. It introduces the fundamental principles, structure, and components of the coastal electric power facilities such as thermal and nuclear power plants. In addition, it is intended to help understand the new power generation systems using renewable energy and nuclear fusion energy.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 Fundamentals of the Electric Energy

The features of the electric energy are explained, and then the overview of the present situation and the future trend is presented.

2 Thermal Power Generation

The fundamentals of thermodynamics are reviewed, and the principle of the thermal power generation is explained.

In addition, the classification of the thermal power plant, the structure of the power plant, and the control and operation methods are explained.

3 Nuclear Power Generation (1)

The fundamentals of atomic physics are reviewed, and the principle of the nuclear power generation is explained.

4 Nuclear Power Generation (2)

The classification of the nuclear power plant, the nuclear fuel, and the control and operation methods are

explained.

5 Nuclear Power Generation (3)

In nuclear power plants, not only thermal energy but also various radioactive materials are generated in the process

of power generation. The safety assurance in nuclear power plants is shown.

6 Power Generation by Renewable Energy (1)

The power generation systems such as wind energy, geothermal energy, wave energy, ocean current energy, and biomass energy are explained.

7 Power Generation by Renewable Energy (2)

The solar power generation system, the fuel cell system and other systems are explained.

8 Power Generation in Next Generation

The overview of the research and the development in the nuclear fusion power generation is presented, and then the present situation and the future trends are discussed.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The grade will be evaluated based on a couple of reports.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

The lecture is presented by handing out the materials of the PPT. During the lecture, the references will be introduced

accordingly.

5. 履修上の注意/Note:

Instructor tries not to use much mathematical formula in the lecture, but it is preferable that students who take this course have knowledge of mathematics and physics.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3080E

科目名/Course Name: Information Management System I

担当教員/Instructor: 山中 仁昭/YAMANAKA Masaaki

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This class helps you understanding the basics of wireless communication and its applications, including wireless LAN, land-mobile communications, and satellite communications, etc. Different from wired communication, radio wave plays a fundamental role to frame the network. The basics of radio propagation are also treated in this class to understand the cardinal aspect of wireless communication.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- (1). Introduction
- (2). Radio Propagation: free-space propagation, terrestrial propagation, satellite propagation.
- (3). Analog modulation technique.
- (4). Analog demodulation technique.
- (5). Digital modulation technique.
- (6). Digital demodulation technique.
- (7). Noise analysis.
- (8). System example

3. 成績の評価方法/ Grading:

Report and final exam

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Materials will be provided by the instructor

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3090E

科目名/Course Name: Information Management System II

担当教員/Instructor: 磯崎 裕臣/ISOZAKI Hiroomi

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This lecture helps you to understand the basic of computer networks, including the Internet. Basic knowledge of computer networks is described in the first half of this lecture. Necessary techniques to manage networks and important topics about information security as a network administrator are also described.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction

2. Computer networks: Network architecture, protocols, OSI reference model.

3. The fundamental technique of the Internet: Data Link Layer, Network Layer, Transport Layer, TCP/IP, Ethernet

4. Information security: Computer virus, malicious attacks, firewalls, encryption/decryption, VPNs

5-8. Network management: Configurations of routers and switches

3. 成績の評価方法/ Grading:

Report

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Materials will be provided by the lecturer.

5. 履修上の注意/Note:

Students who take this lecture should have knowledge equivalent to the following lectures: Information networking and Communication theory.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP3100E

科目名/Course Name: Introduction to International Maritime Safety and Security Conventions

担当教員/Instructor: 古谷 健太郎/FURUYA Kentaro

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to understand the basic concept of international maritime laws for safety, security, and marine environmental protection. Conventions adopted at the International Maritime Organization (IMO), including SOLAS, MARPOL, and SUA Convention, will be highlighted along with other relevant IMO texts. Students also understand the role of these IMO Conventions vis-a-vis the UN Convention of the Law of the Sea.

In this course, students will:

examine the impacts of these Conventions

investigate the process of setting out international legal regimes through an international organization,

understand the meaning of the global standard, mechanisms to realize them into society in a harmonized manner, the formulation of policies and the adoption of domestic laws and regulations, and

explore examples of different countries to seek the best way to achieve the purpose of these conventions.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The subjects of this course are;

1 Introduction

2-3 Maritime Safety Conventions: SOLAS and SAR Convention

4-5 Maritime Security Conventions: SOLAS Chapter XI-2 and SUA Convention

6-7 Marine Environmental Protection Conventions: MARPOL & OPRC Convention

8 Conclusion.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Students will choose one Convention above and present the impact and significance of (not) being a party to the Convention during the class.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

John N.K. Mansell, Flag state responsibility: historical development and contemporary issues. Berlin: Springer, 2009.
Eds. David Joseph Attard, David M. Ong, The IMLI Treatise on Global Ocean Governance: UN and Global Ocean Governance. Oxford University Press, 2018.

Bevan Marten, Port state jurisdiction and the regulation of international merchant shipping, Springer, 2014.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP4000E

科目名/Course Name: Independent Study

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course is designed to provide advice and guidance to the students enrolled in the Maritime Safety and Security Policy Program in their endeavor to write policy papers. We will organize sessions both individually and in groups so that the students can learn how to find good research topics and write good research papers. We instruct students with two advisors. One is from GRIPS and the other is from the Japan Coast Guard Academy (JCGA).

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

(1) We will have a group session to discuss policy paper proposals.

(2) Students will start writing their papers when they know their topic and advisers.

(3) Students are asked to discuss their papers individually with their advisers and participate in group discussions as necessary.

(4) Students will submit their policy papers by the set deadline.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Policy Paper: 100%

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)**

There are no textbooks. However, students are encouraged to read the following books.

Stephen Van Evera, Guide to Methods for Students of Political Science (Cornell University Press, 1997), all chapters [311.16 V26].

The Chicago Manual of Style, 17th ed. (University of Chicago Press, 2017) [836 C42].

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP5000E

科目名/Course Name: Case Study on Maritime Safety and Security Policy I

担当教員/Instructor: 古谷 健太郎/FURUYA Kentaro

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

This course aims to deepen understanding concerning the role of coast guard agencies in maritime safety and security issues through comparative analysis and discussions. First, an overview of the duties and functions of relevant departments/divisions of the Japan Coast Guard is introduced, and students study the process of policy formulation in maritime safety and security. Then, students will compare and contrast different approaches in strategies/tactics and the process of policy formulation in their organization, which lead to the possible solutions to challenges in their organization. It further aims to identify regional and global issues relating to maritime safety and security and find practical and feasible solutions through deepening understandings and analyzing information regarding the current circumstances and issues surrounding participants' States.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Students will discuss the following items during the class:

- Introduction
- Education and Training system of coast guards
- Marine Environment Protection and Disaster Prevention
- Hydrography and Oceanography
- Guard and Security Operations at Sea
- Logistics system at JCG
- Safety of Maritime Traffic
- ICT system for coast guards
- Countermeasures against piracy
- International cooperation
- Search and Rescue
- Criminal investigation
- Countermeasures against smuggling
- International Strategy
- Maritime Domain Awareness (MDA)
- Special Lectures

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

70% for the assignment submitted by the designated deadline

30% for the participation in discussion in the class

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The English version of the latest JCG Annual Report will be distributed during the course.

Other teaching materials will be distributed on a necessary basis.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:MSP5010E

科目名/Course Name: Case Study on Maritime Safety and Security Policy II

担当教員/Instructor: 古谷 健太郎/FURUYA Kentaro

学期名/Term: 冬、春/Winter, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to acquire advanced ability to put legal and political theories and knowledge into practice by researching and analyzing cases related to law enforcement activities at sea from the perspective of, such as international law and policies and national laws and regulations of each state, discussing in the class and small groups regarding what measures should be taken and how to be made, and arriving at more legitimate and effective measures.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The subjects of this course are;

1. implementation of international law, maritime law, and the UN Convention on the Law of the Sea,
2. measures against foreign vessels in the territorial sea,
3. measures against foreign vessels in the contiguous zone,
4. measures in the exclusive economic zone and continental shelf,
5. measures on the high sea, and
6. response/measures against maritime pollution.

Students will be given a different and short scenario based on past cases and consider legal and practical sound measures against the incident in the scenario. First, students are required to submit preliminary ideas/thoughts within 1,000 words each time, which are subject to evaluation, before the class. In the class, students will be given chances to exchange their views and ideas to find out better, more effective and legitimate solutions.

3. 成績の評価方法/ Grading:

70% for the writing of proposing more legitimate and effective measures and submitting before each class

30% for participation in discussion and oral presentation in the class

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Louis B. Sohn, John E. Noyes and Erik Franckx, 2014. Cases and Materials on the Law of the Sea, 2nd edition, Martinus Nijhoff.

J. Ashley Roach and Robert W. Smith, 2012. Excessive Maritime Claims, 3rd Edition, Martinus Nijhoff.

S.Jayakumar and Tommy Koh (eds.), 2014. The South China Sea Disputes and Law of the Sea, Edward Elgar.

Jagannath P. Panda (ed.), 2022. India-Japan-ASEAN Triangularity: Emergence of a Possible Indo-Pacific Axis?
Routledge.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2030J

科目名/ Course Name: ベンチャー・中小企業と技術革新

担当教員/ Instructor: 橋本 久義/HASHIMOTO Hisayoshi

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

日本経済再活性化の決め手としていわゆるベンチャー・ビジネスを含む中小企業に熱い視線が注がれている。

現実に今まで、日本の中小企業は様々な困難を抱えながらも、日本経済を支え、新しい経済分野を切り開いてきた。

本講義では、日本の中小企業発展の歴史を振り返り、ベンチャー・ビジネス、中小企業育成の方策を考え、今後の中小企業の役割と問題点を研究する。

その際、中小企業の現場訪問の機会を可能な限り増やし、経営者ばかりでなく、従業員の生の意見に接する機会を設ける他、世界各国の中小企業政策、発展途上国における中小企業の現状と今後の役割等、日本の中小企業を巡る国際的な動向についても考察する。

本講義は原則 火曜日の6時限（18:20-19:50）であるが、現地見学の際は他の講義とのバッティングを避けるため、月曜日の 午前・午後に実施する。

（9:30 ○○駅集合 A社見学 B社見学 15:00 現地解散 のようになる）

なお、仕事上の都合で現地見学に参加できなくても成績には影響しない

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第 1 回 10:10 経済学における中小企業論 1

第 2 回 10:17 経済学における中小企業論 2

第 3 回 10:24 わが国中小企業政策の歴史と役割（戦前編）

第 4 回 10:30 わが国中小企業政策の歴史と役割（戦後編 1）

第 5 回 11:07 我が国中小企業政策の歴史と役割（戦後編 2）

第 6・7 回 11:13（月） 地域中小企業の活力と技（見学 大田区周辺企業）

第 8 回 11:21 我が国の中小企業関係施策（中小企業基盤機構）

第 9・10 回 11:27（月） 地域振興政策と中小企業（見学 さいたま市周辺企業）

第 11 回 12:05 中小企業関係金融・倒産のメカニズム

第 12 回 12:12 技術革新と中小企業（特別講義 今西製作所）

第 13 回 12:19 競争力と技術革新

第 14 回 12:26 創業・ベンチャービジネス(シリコンバレーに学ぶ)

第 15 回 01:09 期末試験

本講座では 2 回 東京都大田区 さいたま市の工場見学を実施します。開催される日は月曜日ですので、ご注意ください

3. 成績の評価方法/ Grading:

原則として期末試験をもって成績を評価するが、出席率、討議への貢献も大きなウェイトを占める。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

中村達也 他著 「経済学の歴史」 有斐閣 2001年

D. H. Wittaker Small Firms in the Japanese economy Cambridge Uni.

橋本久義著 「町工場の底力」 PHP研究所 1998年 PHP研究所

橋本久義著 「中小企業が滅びれば、日本経済が滅びる」 2011年 PHP研究所

経済産業省 「中小企業白書」 2020年

清成忠男著 「中小企業論」 中央公論社 1997年

Alfred Marshall, Principles of Economics, (1890)

Alfred Marshall, Industry and Trade (1919)

Paul Anthony Samuelson Economics, An Introductory Analysis, McGraw-Hill

Joseph Alois Schumpeter, Theorie der Wirtschaftlichen Entwicklung

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2040J

科目名/ Course Name: 中小企業経営と地域経済

担当教員/ Instructor: 橋本 久義/HASHIMOTO Hisayoshi

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

日本の中小企業は日本経済を活性化させ発展させる重要な役割を果たしてきた。しかし、一口に中小企業といっても、業種により、規模により、時代背景により様々であるため、経営実態は、実際の経営者の話から学ぶことが重要と考えられる。

本講義は 有名中小企業経営者等の連続講演会（担当教授である橋本久義も数回 日本の中小企業経営について講義する）という形式であり、日本の中小企業・ベンチャービジネス経営者自身に創業の歴史、経営上の苦労等経験を語っていただいて、中小企業経営の実際を学ぶとともに、地域経済を支える中小企業の為の施策あるいは、創業援助のための施策のあり方について考察を深めるものである。講義後の活発な質疑の中で、多くの「気づき」が期待される。

講師には選りすぐりの中小企業経営者、ベンチャービジネス創業者等を招聘し、現場の実体験に基づいた講義をおこない、バラエティー豊かで、深い内容のものとする。なおこの講義は、秋学期に開講される「中小企業と技術革新」の授業で、中小企業政策の歴史、現在の施策を学ぶことによって体系化される

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(橋本久義名誉教授は毎回出講します。 毎回のゲスト講師については、変更の可能性があります)

- 1 回:4.10 地域経済と技術革新 1 橋本久義
- 2 回:4.17 地域経済と技術革新 2 橋本久義
- 3 回:4.24 金森茂(金森製作所会長：東京)
- 4 回:5.01 手塚加津子（昭和電気鋳鋼社長：群馬）
- 5 回:5.08 藤井徳久（情報工房社長：東京）
- 6 回:5.15 山本昌作(ヒルトップ副社長:京都)
- 7 回:5.22 内原康雄（NCネットワーク社長:東京）
- 8 回:5.29 伊藤麻美（日本電鍍工業社長：埼玉）
- 9 回:6.05 平賀基督(モルフォ社長：東京)
- 10 回:6.12 井上裕子（井上鉄工所社長：埼玉）
- 11 回:6.19 鈴木純一郎（鈴木製機社長：静岡）
- 12 回:6.26 川合基之(シリコンバレー駐在)
- 13 回:7.03 山森一男（旭東ダイカスト会長：静岡）)
- 14 回:7.10 中巳出理(アンテ社長：石川)
- 15 回:7.24 まとめ 橋本久義

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席率、討議への貢献、随時おこなう小論文で総合的に評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

日本の産業政策 小宮隆太郎他 東京大学出版会

「中小企業白書」2020年版 経済産業省 財務省出版局

空洞化を超えて 関満博著 中公新書

Alfred Marshall, Principles of Economics, (1890)

Alfred Marshall, Industry and Trade (1919)

Paul Anthony Samuelson Economics, An Introductory Analysis, McGraw-Hill

Joseph Alois Schumpeter, Theorie der Wirtschaftlichen Entwicklung

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2560E

科目名/ Course Name: Human Resources Management

担当教員/ Instructor: 高田 寛文/TAKADA Hirofumi

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to provide students with an understanding of frameworks and practices in human resources management (HRM) through learning its academic frameworks and practical experiences in the Japanese national and local governments. As the needs for sophisticated government administration grow, the knowledge of HRM has become critically important for the leaders and managers of the public sector organizations. Students will get to know about current situation and challenges in HRM of Japanese public employees, and become able to apply HRM tools to real organizational challenges.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Following topics will be covered in each class:

Human resources planning and recruitment

Selection and placement

Engagement and retention

Separation and turnover

Pay and rewards

Employee development

Training and learning

Performance management

Leadership

Organizational change

Diversity and inclusion

Work-style reform in Japan

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance and class participation (20%)

Term paper (80%) : The topics of the term paper and the deadline of submission will be announced in the class.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Required

No required textbook.

Handouts will be distributed.

4-2: Others

- Derek Torrington, Laura Hall, Stephen Taylor and Carol Atkinson, Human Resource Management (11th edition),

Pearson Education Limited, 2020

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2560J

科目名/Course Name: 社会保障総論

担当教員/Instructor: 小野 太一/ONO Taichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義では、社会保障を取り巻く状況やその歴史、現行制度の基本的な知識を教授しながら、各制度ごとの今日的課題について論点を紹介します。それにより、社会保障の多元性と学際性について認識を深め、知的好奇心を喚起するとともに、社会保障の魅力と困難、奥深さ等に関し思考を深めることを目的とします。この講義の履修により、社会保障に係る基本的な知識を習得するとともに、社会保障について検討する上での基本的な視点を身につけ、自らの言葉で政策について議論することができるようになること、また、社会保障各分野ごとの主要なステークホルダーについて理解するとともに、政策形成にかかる政治過程について知見を深め、政策形成に係る現実的センスを身につけることを目指します。

社会保障制度はあらゆる人の日々の生活に密接にかかわるものであり、それだけに体系的で正確な理解が必要となります。また安定的・継続的に提供されてこそ初めてその役割を果たすことができるものですが、身近なものであり、かつ膨大な社会資源を調達するものである以上政治との関わりを強く持たざるを得ないものでもあります。学生の皆さんには、そうした社会保障制度への興味・関心と正確な知識を持っていただくとともに、実際の政策に関しては様々な角度からの見方、考え方があり得るということを学んでいただきたいと思います。この講義を通じ、社会保障制度の奥深さを感じ取っていただければ幸いです。積極的な参加をお待ちします。

*SDGs との関連：特に「1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。」「3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する。」「5.4 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。」「8.5 2030 年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。」「10.4 税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導

入し、平等の拡大を漸進的に達成する。」に関連していますが、他の項目とも深いかかわりを有しています（講義で説明します）

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

まずは社会保障が現実社会で果たしている役割について認識を持つとともに、人口・家族・少子化等について全体状況を把握します（1～2）。次いで社会保障制度の形成の歴史について議論し（3）、その後社会保障政策の各論に関し、「医療」「介護」「所得保障・福祉」について、それぞれ制度の概要と今日的な論点について理解を深めたいと思います（4～15）。

以下、各講義の予定です。適宜変更があり得ます。第1回 人口、家族

第2回 社会保障総論1（歴史・機能）

第3回 社会保障総論2（財政・近年の改革） 第4回 医療政策1（供給・人材）

第5回 医療政策2（保険財政）

第6回 医療政策3（診療報酬）

第7回 介護政策1（成り立ちと制度のあらまし）

第8回 介護政策2（今日的課題）

第9回 介護政策3（グループディスカッション）

第10回 福祉1（福祉・貧困）

第11回 所得保障（年金1） 第12回 所得保障（年金2） 第13回 所得保障（年金3）

第14回 福祉2（社会的養護、子ども・子育て支援）

第15回 福祉3（ひとり親、児童手当）、まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席（25%）、講義への参画と質疑（25%）、レポート（50%）

出席は毎回目視とメールの提出にて管理しますが、やむを得ない欠席に関しては、事前の連絡があれば配慮します。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 特にありません。（毎回配布します）

4-2

小野太一「戦後日本社会保障の形成 -社会保障制度審議会と有識者委員の群像-」（東京大学出版会）

香取照幸「社会保障論I」（東洋経済）

権丈善一「ちょっと気になる社会保障 V3」（および他の「ちょっと気になる」シリーズ）（勁草書房）

Global social security and economic development: Retrospect and prospect (Zheng Gongcheng and Wolfgang Scholz, ILO Asia-Pacific Working Paper Series, September 2019)

World Social Protection Report 2020-22 - in pursuit of better future (International Labour Organization)

なお社会保障の初学者は、講義の予習復習に際し、厚生労働省ホームページ掲載の「令和 4 年版厚生労働白書」の関連箇所を適宜ご参照いただければと思います。

5. 履修上の注意/Note:

ご質問等がある場合には、お気軽にお尋ねください。

（大学ホームページにメールアドレスがあります。また研究室をおたずねいただいてもかまいませんが、確実に会いたい場合には事前にアポを申し込んで下さい。）

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2570J

科目名/Course Name: 医療政策論

担当教員/Instructor: 島崎 謙治/SHIMAZAKI Kenji

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

医療制度は医療提供制度と医療財政制度の 2 つから成る。この講義では、歴史分析および比較分析を踏まえ、医療制度・政策について体系的に講義する。

本講義はテキストを基にした講義形式で進めるが、質疑の時間を多くとる。今日、医療制度・政策に関する知識は自治体職員等にとって必須といっても過言ではないほど重要である。

また、初回の授業ではあらゆる政策の基礎となる人口問題の解説を行う。したがって、医療政策コース以外の学生も初回だけでも聴講することを薦める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第 1 回：ガイダンスおよび人口問題の解説：講義の目的・進め方の概説および人口問題の解説

第 2 回：医療制度・政策とは何か：問題の本質、分析方法

第 3 回：日本の医療制度と政策の沿革（1）：制度基盤形成期、制度発展期

第 4 回：日本の医療制度と政策の沿革（2）：制度見直し期

第 5 回：外国の医療制度と政策（1）：総論およびドイツの医療制度改革

第 6 回：外国の医療制度と政策（2）：米国の医療制度改革

第 7 回：外国の医療制度と政策（3）：スウェーデンの医療制度改革

第 8 回：医療保険制度・政策論（1）：社会保険の意義、国民皆保険

第 9 回：医療保険制度・政策論（2）：財源、混合診療問題

第 10 回：医療保険制度・政策論（3）：健康保険、国民健康保険

第 11 回：医療保険制度・政策論（4）：高齢者医療制度

第 12 回：医療供給制度・政策論（1）：医療機関の機能分化と連携、家庭医問題

第 13 回：医療供給制度・政策論（2）：医師不足問題、公立病院改革

第 14 回：医療供給制度・政策論（3）：診療報酬による改革手法

第 15 回：医療供給制度・政策論（4）：医療計画など診療報酬以外による改革手法

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート（課題は講義後半に指示する）による。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

テキストおよび日本語の参考文献は開講初日に指示する。英語の参考文献は次のとおり。

Shimazaki, Kenji (2013) The Path to Universal Health Coverage : Experiences and Lessons from Japan for Policy Actions, JICA

5. 履修上の注意/Note:

受講を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席すること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2680E

科目名/ Course Name: Social Security System in Japan

担当教員/ Instructor: 小野 太一/ ONO Taichi

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(Tentative as of January, 2023.)

This class is intended for the international students to understand the social security system. The lecturer will focus on Japan, but the development of other countries are also explored.

There are wide range of policies that are categorized as Social Security (or Social Protection). They are quite complicated, and affect significantly to the daily lives of people of different age, gender or socio-economic status. It makes the policy makers harder that any individual has his/her own experience and of their family member therefore has something to say about the benefits and services despite that the money and human resources are not infinite; people's expectations are high and dissatisfactions are, unfortunately, also. Because of that nature, however, it is quite interesting and rewarding for politicians and bureaucrats that they devote their intellect and passion for the public to this policy basket filled with hot potatoes. The COVID-19 crisis has shed light to the importance of social protection, including the provision of decent health care services.

As is well known, because of the global economic development and the improvement of public health, many countries today have come to enjoy longevity and better health status of their people. At the same time, due to rapid changes in their society such as the urbanization, growth of middle-income class and their demand for better state of life in addition to aging and declining birthrate, establishment/reform of its social security system in universal as well as sustainable manner now has come to the top political priority in many countries. Commitment for the establishment of social security system is reflected in UNs 2030 Agenda for Sustainable Development. For example, SDG 1.3 urges countries to implement nationally appropriate social protection systems and measures for all, including floors, and to achieve substantial coverage of the poor and the vulnerable by 2030. SDG 3.8 calls for countries to achieve universal health coverage, including financial risk protection, access to quality essential health-care services and access to safe, effective, quality and affordable essential medicines and vaccines for all.

Japan, which is well known for its longevity and better health status, has more than half-century experience of universal health care and public pension coverage, and universal

coverage of long-term care for the elderly for a decade. Their history and achievements are filled with various lessons, and the lecturer wishes to provide them to the future international leaders who gather at GRIPs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The tentative outline of the course is as below;

1: Outline of Social Security

- 2: Healthcare System (Service Provision and Finance) 3: Long-term Care (Nursing Care) System
- 4: Pension System
- 5: Labor Policy (Workers Compensation Insurance, Unemployment Insurance)
- 6: Social Welfare Measures to support the underprivileged people including Public Assistance System
- 7: Measures against Child Welfare and Supporting Child-Rearing

In class, the lecturer will try to introduce not only the Japanese experiences but international practices as well.

Ad-hoc issues, such as extension of social insurance coverage to vulnerable workers, or finding fiscal space for social protection, may be discussed.

Lectures are provided to give the students the overview of the Japanese social security system in general, the challenges that each of the system is facing, as well as the lessons learnt from the Japanese experiences.

The students will be asked to give brief paper submission or presentation, and exchange of dialogue about the status of social security system of the country that he/she is coming from. The style of paper submission/presentation will vary according to the number of the students, as well as the way of conducting the class (i.e., in classroom, online or hybrid).

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance 20%, Class Participation (including aforementioned paper and dialogue) 30%, Final Report 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 : Lecture notes and necessary materials are provided during the course.

4-2 : Global social security and economic development: Retrospect and prospect (ILO Asia- Pacific Working Paper Series, to which the lecturer has provided a reference report) on ILO website would provide an interesting insights of current status and challenges of social security around the world. World Social Protection Report 2020-22, which is also on ILO website would provide good information about the international practices of social security/protection.

5. 履修上の注意/Note:

Those who are considering about taking the lecturers class on social security in Spring semester (in Japanese), please consult with the lecturer in advance.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2690E

科目名/ Course Name: Modernization of Financial Sector: Lessons from Recent Financial Crises

担当教員/ Instructor: 沼波 正/NUNAMI Tadashi

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The purpose of this course is to discuss current policy issues regarding monetary policy, bank supervision and regulation, financial markets, and financial system as a whole. One of the main topics is the global financial crisis, the worst economic crisis since the Great Depression in the 1930s, which started in 2007. What happened, what were the root causes of the crisis, and what kind of lessons we should learn from the experiences will be fully explained. In this connection, Japanese painful experiences after the burst of asset price bubbles in 90s and 00s will be reviewed. Then unconventional monetary policy measures introduced by major central banks after the crisis and again during the Covid-19 pandemic, and their costs and benefits will be discussed. Especially the Bank of Japan's QQE(Quantitative and Qualitative Easing) with negative interest rate and yield curve control under Governor Kuroda will be comprehensively reviewed and criticized. In addition, new global financial regulations which have been introduced after the crisis, such as BaselIII, will be explained. Furthermore, hot issues regarding digital currencies, such as cryptoassets, stable coins, and CBDC(central bank digital currency) will be explained in detail.

The instructor expects that his experiences of 35 years as a central banker at the Bank of Japan will help students gain practical insight into those policy issues and believes that they will learn something new which they can never find in standard textbooks, which are sometimes out of touch with the real world of policy making.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The following is a tentative course outline. Final schedule of the course and issues to be discussed will be presented at the first lecture in April.

- Introduction and course outline
 - An overview of the financial system—Function of financial markets and financial institutions
 - Central banking
 - Financial crisis in Japan after the burst of asset price bubbles
- Regulation and supervision of financial institutions
 - The global financial crisis 1—What happened and how policy makers responded to the crisis
 - The global financial crisis 2—What were the root causes of the crisis?
 - Lessons from the global financial crisis 1 — How should central banks deal with asset price bubbles ?
 - Lessons from the global financial crisis 2 — New international financial architecture after the crisis
 - Unconventional monetary policy by major central banks
 - Unconventional monetary policy 2--QQE by the Bank of Japan
- Cryptoassets such as Bitcoin, stable coins, and CBDC(central bank digital currency),
 - Wrap up session

3. 成績の評価方法/ Grading:

- Class participation: 20%--comments and questions by students are encouraged and welcome
- Term paper to be submitted at the end of the spring term: 80%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Students are not required to purchase any textbooks. Lecture materials for each class will be provided in Power Point slides before every class.

The following is a tentative list of references.

Mishkin, Frederic S. (2022): The Economics of Money, Banking and Financial Markets, 13th edition, Prentice Hall

Bernanke, Ben S. (2015):The Courage to Act: A Memoir of Crisis and Its Aftermath, W.W. Norton&Company

King, Mervin (2016): The End of Alchemy--Money, Banking, and the Future of the Global Economy, W.W. Norton&Company

Shirakawa, Masaki (2021): Tumultuous Times--Central Banking in an Era of Crisis, Yale University Press

White,R. William (2006), Is Price StabilityEnough?,<https://www.bis.org/publ/work205.htm>

(2009), Should Monetary Policy Lean or Clean?,

<https://www.dallasfed.org/~media/documents/institute/wpapers/2009/0034.pdf>

Financial Crisis Inquiry Commission(2010), The Financial Crisis Inquiry Report--Final Report of the National Commission on the Causes of the Financial and Economic Crisis in the United States,

http://fcic-static.law.stanford.edu/cdn_media/fcicreports/fcic_final_report_full.pdf

BIS(Bank for International Settlements) (2018):Central bank digital currencies

<https://www.bis.org/cpmi/publ/d174.pdf>

IMF(International Monetary Fund): Global Financial Stability Report www.imf.org

Bank of Japan: Financial System Report www.boj.or.jp

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2710J

科目名/ Course Name: 医療経営論

担当教員/ Instructor: 田極 春美/TAGOKU Harumi

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

1-1 本講義の概要

わが国の多くの医療機関の場合、収入の大半を社会保険診療収入が占めているが、この医療サービスの対価は公定価格であり、診療報酬は2年ごとに改定が行われる(ちなみに介護報酬は3年ごとに改定)。こうした診療報酬改定への対応は医療経営にとって重要であることはこれまでと変わりはない。しかし、今後、医療経営はますます複雑な環境下に置かれることが予想され、社会・経済情勢の変化等に適切に対応し、医療機関の経営持続性を高めるためには、病院経営者は自院のビジョン(目指すべき目標)やドメイン(事業領域)を明確にするとともに、広く情報を収集・分析しながら将来の環境を予測し適切な資源配分を行うなど、経営力、すなわちマネジメント能力を高めることが必須といえる。

一方、行政側である都道府県は、これまで以上に、地域の医療提供体制の確保・整備に係る役割を強化していくことが求められている。今後、超高齢社会を反映して、地域包括ケアシステムの強化が求められる中、医療だけではなく介護分野に関する動向も抑えつつ、市町村との連携を強化していくことがますます重要となる。こうしたことから、都道府県担当者にとって、医療経営上、どのような法規制が存在するかを把握しておくことはもちろん、民間病院をはじめとする様々な事業者の経営行動を理解しておくことも必要であり、さらには介護保険との関係も抑えておくなど、広範かつ専門的な知識を習得しておくことが必要不可欠な時代となっている。

こうした背景から、本講義は個々の組織の経営から制度経営まで「医療」と「マネジメント」をキーワードに講義を行う。医療経営に直接・間接的に従事する方、あるいは関心を持つ方を対象に、医療経営に必要な基礎知識と、実際の局面で活用できる考え方やスキル等の習得を目的とした講義を行う。このため、講師による講義の他、具体的なケーススタディを用いたグループディスカッションなどを行い、受講者の理解度を確認しながら講義を進める予定である。

1-2 到達目標

- ・経営学の専門用語やマネジメントの視点、考え方、ツール等を習得し、応用しようとする意識を身につけること
- ・講義中に、ディスカッションに積極的に参加できるようになること

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各授業のテーマは以下を予定しているが、受講者のバックグラウンドや関心・理解度等により変更する。

第1回: オリエンテーション

第2回: 医療経営概論～経営戦略論と組織論～

第3回: 経営戦略論①(トップマネジメントの基本的役割)

第4回: 経営戦略論②(多角化と事業ポートフォリオ戦略)

- 第5回：ケーススタディ①（発表・ディスカッション）
- 第6回：ケーススタディ②（発表・ディスカッション）
- 第7回：ケーススタディ③（解説）
- 第8回：マーケティング論①（マーケティングとは）
- 第9回：マーケティング論②（セグメンテーション、ターゲティング）
- 第10回：組織論①（組織構造）
- 第11回：組織論②（インセンティブ）
- 第12回：BSC①（営利組織のケース）
- 第13回：BSC②（非営利組織のケース）
- 第14回：まとめ
- 第15回：試験

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、以下の3点により評価する。

ただし、講義の進捗状況により変更の可能性がある。その場合は、事前に、受講者と協議の上、行うこととする。

本講義ではケーススタディについての課題、意見交換における議論への貢献度（配点：40点）。

出席及び討議への参加状況等（配点：30点）。

試験（配点：30点）。

試験は、記述式の質問を3問程度用意する。経営学についての基礎知識及び応用力を評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 必携のテキスト等

特になし

4-2 その他

参考文献については、講義中に適宜指示する。

Philip Kotler, Kevin Lane Keller, Marketing Management

Michael E. Porter, Competitive Strategy: Techniques for Analyzing Industries and Competitors

5. 履修上の注意/Note:

講義は一方的ではなく双方向で行うことを重視している。積極的な姿勢で講義に参加することを期待する

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2720J

科目名/ Course Name: 医療政策特論 I

担当教員/ Instructor: 小野 太一、外部講師/ ONO Taichi, et al.

学期名/ Term: 夏学期/ Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

医療政策コースでは約 2 週間の医療政策短期特別研修を夏期に開講しています。この研修では、日頃聴講することができない中央官庁の幹部クラスや第一線で活躍されている研究者・実践活動家の講義を行

うものであり、医療政策コースの学生にとっても有益なものとなっています。このため、同研修の一部を医療政策特論 I として取り扱います（医療政策短期特別研修のうちの 15 コマ相当の講義等を医療政策特論 I の講義として指定します）。春学期の「医療政策論」での理論的な講義での習得内容について、政策形成や医療現場での実践に応用して知見と考察を深めることを目標とします。

*SDGs との関連：特に「1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。」「3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。」に関連していますが、他の項目とも深いかわりを有しています（講義で説明します）

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

2023 年度の医療政策短期特別研修の講義内容・時間割が未定のため現時点では提示できませんが、基本的に 2022 年度の医療政策短期特別研修の内容を踏襲する予定です。

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポートによります。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

テキストおよび日本語の参考文献は追って指示いたします。英語の参考文献は次のとおりとします。

Ikegami, Naoki, et al. (2011) Japanese universal health coverage : evolution, achievements, and Challenges, The Lancet, September 2011.

5. 履修上の注意/Note:

島崎謙治客員教授が春学期に開講する「医療政策論」を履修した者のみ受講を認めますので、注意してください。

また、夏期の「医療政策短期特別研修」のすべての講義等を受講する必要はありません。いずれの講義を受講すればよいかは、春学期中に履修希望者に対して伝達します。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD2740E

科目名/ Course Name: Small and Medium Enterprise and Technology

担当教員/ Instructor: 橋本 久義/HASHIMOTO Hisayoshi

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In the post-war period, the modernization of Small and Medium Enterprises (hence for the "SMEs") became one of the priority areas and a wide range of multifaceted policies were developed.

This course examines the historical evolution of SME policy of Japan (and also some selected countries) and examines the applicability of policies in relation to each country.

Some lectures will be given by governmental officers, presidents of small companies or researchers of Asian SMEs etc.

You can feel the power and dynamism of SME and understand the roll of policy in developing sound SMEs in each country.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1 : 10.10 Organizational Meeting
- 2 : 10.17 Management of Japanese SME
- 3 : 10.24 SME Policy before World War II
- 4 : 10.31 SME Policy after World War II
- 5 : 11.07 What and how was the SME policy after world war II
- 6 : 11.14 Present policy of SMEA 1
- 7 : 11.21 Present policy of SMEA 2 Roll of the SMBC
- 8 : 11.28 Japanese Manufacturing system
- 9 : 12.05 Japan's Technology development policy (general)
- 10 : 12.12 Japan's Technology development policy (for SMEs)
- 11 : 12.19 High Tech Industries and so-called "Ventures enterprises"
- 12 : 12.26 Regional Policy & Promotion of Local Industry
- 13 : 01.10 venture Industry in USA (and silicon valley)
- 14 : 01.17 Summary :
- 15 : 01.24 Examination

3. 成績の評価方法/ Grading:

1/2 by class participation

1/2 by paper examination

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Required readings

R. Komiya, M. Okuno, K. Suzumura: Industrial Policy of Japan (Academic Press)

(You can borrow from our library---sufficient copies are available)

Recommended readings

Small and Medium Enterprises Agency: White Paper on SME Japan, 2016

(Press Office, Ministry of Finance)

D.H. Whittaker: Small firms in the Japanese economy;

(Cambridge University Press)

T. Sakaiya : What is Japan? Kodansha press 1998

5. 履修上の注意/Note:

nothing

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD3020E

科目名/ Course Name: Policy Design and Implementation in Developing Countries

担当教員/ Instructor: 大野 健一, 大野 泉/ OHNO Kenichi and OHNO Izumi

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a small-group interactive class for those directly engaged or deeply interested in policy making in developing countries. Lack of leadership, poor coordination and weak implementation are common features of many developing countries, but some governments solve this problem more effectively than others. This course aims to offer a practical and comparative perspective on policy methodology for government officials engaged in the formulation of growth-oriented development policies. We will look at concrete international (especially Asian and African) experiences. We are also interested in transition dynamics from the existing system to the desired system. Our purpose is not just to describe policy problems. We want to analyze the causes of such problems from institutional viewpoints and by international comparison.

Besides Kenichi Ohno and Izumi Ohno, we will invite Masumi Shimamura (Chief Policy Analyst, Mitsubishi UFJ Research & Consulting) as a guest lecturer. We may also invite other speakers.

Class is conducted in a small-group setting. Each session consists of a presentation of featured ideas by one of the instructors, followed by discussion by all participants. Three instructors take turns in leading the discussion. Lecture slides are downloadable from the website (subject to revision and updating). Toward the end of the course, some (or all) students will present their policy analyses based on their own experiences.

This course uses the results of policy dialogue and policy research in a large number of Asian and African countries conducted by the GRIPS Development Forum team headed by Kenichi Ohno and Izumi Ohno. Vietnam and Ethiopia are our target countries for bilateral policy dialogue (conducted with JICA). In addition, we have researched Taiwan, Korea, Singapore, Thailand, Indonesia, Malaysia, Philippines, Myanmar, Cambodia, India, Sri Lanka (in Asia); Tanzania, Kenya, South Africa, Rwanda, Uganda, Mozambique, Zambia, Ghana, Mauritius and Djibouti (in Africa). For more on course information and syllabus, see below (we are in the process of moving from the first website to the second).

<http://www.grips.ac.jp/teacher/ono/hp/course/index.htm>

<https://gdforum.sakura.ne.jp/lecture/index.htm>

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Content

Presented by

1
Orientation and overview
KO

2
Ownership, policy autonomy, donor management
IO

3
Leadership and political regime
KO

4
Development administration system
MS

5
Economic technocrats in East Asia
IO

6
Leadership: the case of the Philippines
MS

7
Quality of industrial policy
KO

8
National kaizen movement
IO

9

Cambodia: water supply project

MS

10

Decentralization and development

KO

11

Large-scale infrastructure development

MS

12

Contemporary issues on industrial development

IO

13

Student presentations

Students

14

Student presentations

Students

15

Student presentations

Students

Note: topics and order are subject to change. Any change will be announced in advance.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Student score = (Attendance, max 50) + (Participation, max 50) + (Optional presentation, from -50 to +50)

Grading is based on attendance and participation in all sessions. There will be no exam or term paper. Student performance is evaluated continuously. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is not allowed. In addition, some students can volunteer (or be asked) to do a presentation based on the policy experience of their countries or countries they have worked in. They will receive additional positive points if the presentation is good. But if it is poor, it will count negatively on your grade. Non-presenters receive zero points. Almost all presenters receive positive points.

Attendance, participation and (optional) presentation are all normalized and added with equal weights. Lettered grades (A, B, C, D, F) will depend on the summed score of each student subject to the GRIPS grading rules (we cannot give As to all students, for example).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1. Reference books

These and other materials will be made available to participants prior to relevant lectures.

Izumi Ohno and Masumi Shimamura, *Managing the Development Process and Aid: East Asian experiences in building central economic agencies*, GRIPS Development Forum, 2007.

Kenichi Ohno, ed, *Industrial Policy Formulation in Thailand, Malaysia and Japan*, Vietnam Development Forum, 2006.

Izumi Ohno, ed, *True Ownership and Policy Autonomy: Managing Donors and Owning Policies*, GRIPS Development Forum, 2005.

GRIPS Development Forum Report, *Diversity and Complementarity in Development Aid: East Asian Lessons for African Growth*, 2008.

Kenichi Ohno, *Middle Income Trap: Implications for Industrialization Strategies in East Asia and Africa*, GRIPS Development Forum, 2009.

4-2. Related materials (not required)

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, Dynamic Capacity Development: What Africa Can Learn from Industrial Policy Formulation in East Asia, ch.7, A. Norman, K. Botchwey, H. Stein, and J.E. Stiglitz, eds, Good Growth and Governance in Africa: Rethinking Development Strategies, Oxford Univ. Press, 2012.

Kenichi Ohno, Learning to Industrialize: From Given Growth to Policy-aided Value Creation, Routledge, paperback edition 2013.

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, eds, Eastern and Western Ideas for African Growth: Diversity and Complementarity in Development Aid, Routledge, 2013

5. 履修上の注意/Note:

We expect students to have practical experience, concrete knowledge and deep interest in policy making in their countries or other developing countries. Knowledge of development economics and global trends in development are useful, but not required.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD3030J

科目名/ Course Name: 医療政策特論 II

担当教員/ Instructor: 小野 太一、外部講師/ ONO Taichi, et al.

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

この講義の目的は大別すると 2 つあります。1 つは、日本の医療の実態を踏まえた医療経済学の基礎理論を学習することで、具体的には、ミクロ経済学をベースとした医療経済学のモデルについて、我が国についての実証分析も学びつつ、理論を体系的に理解することを目標とします。もう 1 つは、医療政策コースの学生等がポリシー・プロポーザルを執筆するのに有益だと思われる講義や演習を行うことです。したがって、後者については学生の意向・要望等をできるだけ尊重することとします。

*SDGs との関連：特に「1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。」「3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する。」に関連していますが、他の項目とも深いかかわりを有しています（講義で説明します）

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第 1 回：医療サービスの特性と医師誘発需要

第 2 回：保険の仕組み

第 3 回：病院の市場行動

第 4 回：医療技術の進歩と伝播

第 5 回：医療労働市場

第 6 回：医療サービス生産の計量分析と経済的評価

第 7 回：医療における競争と規制

第 8 回：特別講義・演習 1 (1.を参照)

第 9 回：特別講義・演習 2

第 10 回：特別講義・演習 3

第 11 回：特別講義・演習 4

第 12 回：特別講義・演習 5

第 13 回：特別講義・演習 6

第 14 回：特別講義・演習 7

第 15 回：総括

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポートによります。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

日本語のテキストおよび参考文献は開講初日に指示します。英語の参考文献は次のとおり。 Phelps, Charles E (2017) Health Economics (6th ed.), Routledge.

5. 履修上の注意/Note:

「医療政策特論I」の履修者のみ受講を認める予定とします。受講を希望する者は、必ず第 1 回目の授業に出席してください。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD7681E

科目名/ Course Name: Social Security System in Japan

担当教員/ Instructor: 小野 太一/ ONO Taichi

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(Tentative as of January, 2023.)

This class is intended for the international students to understand the social security system. The lecturer will focus on Japan, but the development of other countries are also explored.

There are wide range of policies that are categorized as Social Security (or Social Protection). They are quite complicated, and affect significantly to the daily lives of people of different age, gender or socio-economic status. It makes the policy makers harder that any individual has his/her own experience and of their family member therefore has something to say about the benefits and services despite that the money and human resources are not infinite; people's expectations are high and dissatisfactions are, unfortunately, also. Because of that nature, however, it is quite interesting and rewarding for politicians and bureaucrats that they devote their intellect and passion for the public to this policy basket filled with hot potatoes. The COVID-19 crisis has shed light to the importance of social protection, including the provision of decent health care services.

As is well known, because of the global economic development and the improvement of public health, many countries today have come to enjoy longevity and better health status of their people. At the same time, due to rapid changes in their society such as the urbanization, growth of middle-income class and their demand for better state of life in addition to aging and declining birthrate, establishment/reform of its social security system in universal as well as sustainable manner now has come to the top political priority in many countries. Commitment for the establishment of social security system is reflected in UNs 2030 Agenda for Sustainable Development. For example, SDG 1.3 urges countries to implement nationally appropriate social protection systems and measures for all, including floors, and to achieve substantial coverage of the poor and the vulnerable by 2030. SDG 3.8 calls for countries to achieve universal health coverage, including financial risk protection, access to quality essential health-care services and access to safe, effective, quality and affordable essential medicines and vaccines for all.

Japan, which is well known for its longevity and better health status, has more than half-century experience of universal health care and public pension coverage, and universal coverage of long-term care for the elderly for a decade. Their history and achievements are filled with various lessons, and the lecturer wishes to provide them to the future international leaders who gather at GRIPs.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The tentative outline of the course is as below;

1: Outline of Social Security

- 2: Healthcare System (Service Provision and Finance) 3: Long-term Care (Nursing Care) System
- 4: Pension System
- 5: Labor Policy (Workers Compensation Insurance, Unemployment Insurance)
- 6: Social Welfare Measures to support the underprivileged people including Public Assistance System
- 7: Measures against Child Welfare and Supporting Child-Rearing

In class, the lecturer will try to introduce not only the Japanese experiences but international practices as well.

Ad-hoc issues, such as extension of social insurance coverage to vulnerable workers, or finding fiscal space for social protection, may be discussed.

Lectures are provided to give the students the overview of the Japanese social security system in general, the challenges that each of the system is facing, as well as the lessons learnt from the Japanese experiences.

The students will be asked to give brief paper submission or presentation, and exchange of dialogue about the status of social security system of the country that he/she is coming from. The style of paper submission/presentation will vary according to the number of the students, as well as the way of conducting the class (i.e., in classroom, online or hybrid).

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance 20%, Class Participation (including aforementioned paper and dialogue) 30%, Final Report 50%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 : Lecture notes and necessary materials are provided during the course.

4-2 : Global social security and economic development: Retrospect and prospect (ILO Asia- Pacific Working Paper Series, to which the lecturer has provided a reference report) on ILO website would provide an interesting insights of current status and challenges of social security around the world. World Social Protection Report 2020-22, which is also on ILO website would provide good information about the international practices of social security/protection.

5. 履修上の注意/Note:

Those who are considering about taking the lecturers class on social security in Spring semester (in Japanese), please consult with the lecturer in advance.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PAD8021E

科目名/ Course Name: Policy Design and Implementation in Developing Countries

担当教員/ Instructor: 大野 健一, 大野 泉/ OHNO Kenichi and OHNO Izumi

学期名/ Term: 春学期/ Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a small-group interactive class for those directly engaged or deeply interested in policy making in developing countries. Lack of leadership, poor coordination and weak implementation are common features of many developing countries, but some governments solve this problem more effectively than others. This course aims to offer a practical and comparative perspective on policy methodology for government officials engaged in the formulation of growth-oriented development policies. We will look at concrete international (especially Asian and African) experiences. We are also interested in transition dynamics from the existing system to the desired system. Our purpose is not just to describe policy problems. We want to analyze the causes of such problems from institutional viewpoints and by international comparison.

Besides Kenichi Ohno and Izumi Ohno, we will invite Masumi Shimamura (Chief Policy Analyst, Mitsubishi UFJ Research & Consulting) as a guest lecturer. We may also invite other speakers.

Class is conducted in a small-group setting. Each session consists of a presentation of featured ideas by one of the instructors, followed by discussion by all participants. Three instructors take turns in leading the discussion. Lecture slides are downloadable from the website (subject to revision and updating). Toward the end of the course, some (or all) students will present their policy analyses based on their own experiences.

This course uses the results of policy dialogue and policy research in a large number of Asian and African countries conducted by the GRIPS Development Forum team headed by Kenichi Ohno and Izumi Ohno. Vietnam and Ethiopia are our target countries for bilateral policy dialogue (conducted with JICA). In addition, we have researched Taiwan, Korea, Singapore, Thailand, Indonesia, Malaysia, Philippines, Myanmar, Cambodia, India, Sri Lanka (in Asia); Tanzania, Kenya, South Africa, Rwanda, Uganda, Mozambique, Zambia, Ghana, Mauritius and Djibouti (in Africa). For more on course information and syllabus, see below (we are in the process of moving from the first website to the second).

<http://www.grips.ac.jp/teacher/ono/hp/course/index.htm>

<https://gdforum.sakura.ne.jp/lecture/index.htm>

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Presented by

1

Orientation and overview

KO

2

Ownership, policy autonomy, donor management

IO

3

Leadership and political regime

KO

4
Development administration system
MS

5
Economic technocrats in East Asia
IO

6
Leadership: the case of the Philippines
MS

7
Quality of industrial policy
KO

8
National kaizen movement
IO

9
Cambodia: water supply project
MS

10
Decentralization and development
KO

11
Large-scale infrastructure development
MS

12

Contemporary issues on industrial development

IO

13

Student presentations

Students

14

Student presentations

Students

15

Student presentations

Students

Note: topics and order are subject to change. Any change will be announced in advance.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Student score = (Attendance, max 50) + (Participation, max 50) + (Optional presentation, from -50 to +50)

Grading is based on attendance and participation in all sessions. There will be no exam or term paper. Student performance is evaluated continuously. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is not allowed. In addition, some students can volunteer (or be asked) to do a presentation based on the policy experience of their countries or countries they have worked in. They will receive additional positive points if the presentation is good. But if it is poor, it will count negatively on your grade. Non-presenters receive zero points. Almost all presenters receive positive points.

Attendance, participation and (optional) presentation are all normalized and added with equal weights. Lettered grades (A, B, C, D, F) will depend on the summed score of each student subject to the GRIPS grading rules (we

cannot give As to all students, for example).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1. Reference books

These and other materials will be made available to participants prior to relevant lectures.

Izumi Ohno and Masumi Shimamura, Managing the Development Process and Aid: East Asian experiences in building central economic agencies, GRIPS Development Forum, 2007.

Kenichi Ohno, ed, Industrial Policy Formulation in Thailand, Malaysia and Japan, Vietnam Development Forum, 2006.

Izumi Ohno, ed, True Ownership and Policy Autonomy: Managing Donors and Owning Policies, GRIPS Development Forum, 2005.

GRIPS Development Forum Report, Diversity and Complementarity in Development Aid: East Asian Lessons for African Growth, 2008.

Kenichi Ohno, Middle Income Trap: Implications for Industrialization Strategies in East Asia and Africa, GRIPS Development Forum, 2009.

4-2. Related materials (not required)

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, Dynamic Capacity Development: What Africa Can Learn from Industrial Policy Formulation in East Asia, ch.7, A. Norman, K. Botchwey, H. Stein, and J.E. Stiglitz, eds, Good Growth and Governance in Africa: Rethinking Development Strategies, Oxford Univ. Press, 2012.

Kenichi Ohno, Learning to Industrialize: From Given Growth to Policy-aided Value Creation, Routledge, paperback edition 2013.

Izumi Ohno and Kenichi Ohno, eds, Eastern and Western Ideas for African Growth: Diversity and Complementarity in Development Aid, Routledge, 2013

5. 履修上の注意/Note:

We expect students to have practical experience, concrete knowledge and deep interest in policy making in their

countries or other developing countries. Knowledge of development economics and global trends in development are useful, but not required.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:PFP2500E

科目名/Course Name: Multilateral Trading System and Customs Administration

担当教員/Instructor: 近藤 嘉智/KONDO Yoshitomo

学期名/Term: 冬、春/Winter, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The current multilateral trading system centering on the WTO was realized based on the outcome of the GATT Uruguay Round of trade negotiations (1986 - 1994). However, in order to understand why the system exist in the current form, one needs to go back the history, at the time when the GATT was drafted and entered into force after the Second World War. This work would require taking into consideration the developments of global political and economic situation from the end of the 19th century up to the Second World War.

Therefore, this course is intended to have an overview of the history of the multilateral trading system, focusing on the period following the entry into force of the GATT in 1948 and subsequent Rounds of multilateral trade negotiations; questions would include, why and how the GATT was drafted, how has multilateral trading system evolved, etc. It intends to deepen the students' understanding of issues mentioned-above, including the global political and economic environment surrounding the GATT at that time.

Experience tells that in-depth knowledge of the fact that the current multilateral trading system exist on the basis of the history which this course intends to explore, is crucial in actually engaging in multilateral trade negotiations in the WTO. By participating in this course, students are expected to become able to make persuasive arguments on the WTO's present and the future, based on the past. Focus will be given to areas that have strong relevance to customs administration. The latter part of the course will be devoted to sharing of experiences through presentations by each student on their countrys involvement with the GATT/WTO, problems encountered, challenges towards the future and discussion.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- ① Orientation and Introduction
- ② Origin of the GATT and the Early days of multilateral trade negotiations (1930s - early 1960s)
- ③ The Kennedy Round in the 1960s
- ④ The Tokyo Round in the 1970s
- ⑤ The Uruguay Round in the 1980s and the establishment of the WTO

- ⑥ WTO Dispute Settlement System
- ⑦ Developments after the establishment of the WTO (1995 - 2001)
- ⑧ The Doha Round (2001 - 2022)
- ⑨ Decision-Making Process of the WTO
- ⑩ The New Issues (Trade and Environment/Climate Change)
- ⑪ The New Issues (Trade and Human Rights/Labor Standards)
- ⑫ Student Presentation 1
- ⑬ Student Presentation 2
- ⑭ Student Presentation 3
- ⑮ Student Presentation 4 and Conclusions

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class contribution (40%), Presentation (60%). On the presentation (20 minutes presentation and 10 minutes Q&A), students are expected to present his/her country's involvement in the multilateral trading system, covering, but not limited to, an overview of your country's trade regime (relevant government agencies, trade statistics, tariff profile, etc.), when and why your country joined the GATT/WTO, benefits of being a member of the WTO, challenges your country face in fully benefiting from the system. More detailed guidelines for the presentation to be provided in class. Students are expected to participate in every class and absence without prior consent will not be permitted.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: Required

Slides and reading materials to be distributed during the course

4-2: Others

Craig VanGrasstek, The History and Future of the World Trade Organization (WTO, 2013) (Downloadable from the WTO website at www.wto.org)

World Trade Organization, Understanding the WTO (2011) (Downloadable from the WTO website at www.wto.org)

Douglas A. Irwin, et al., The Genesis of the GATT (Cambridge University Press, 2008)

John H. Jackson, *The World Trading System: Law and Policy of International Economic Relations*, 2nd Edition (The MIT Press, 1997)

John H. Jackson, *The Jurisprudence of GATT & the WTO – Insights on Treaty Law and Economic Relations* (Cambridge University Press, 2000)

John H. Barton, et al., *The Evolution of the Trade Regime* (Princeton University Press, 2008)

John Croome, *Reshaping the World Trading System: A History of the Uruguay Round* (Springer, 1998)

Paul Blustein, *Misadventures of the Most Favored Nations: Clashing Egos, Inflated Ambitions, and the Great Shambles of the World Trade System* (Public Affairs, 2009)

William J. Bernstein, *A Splendid Exchange – How Trade Shaped the World* (Grove Pr, 2009)

WTO and GATT working documents, WTO regular publications (World Trade Report, WTO Annual Report, World Tariff Profiles), working papers (All downloadable from the WTO website at www.wto.org)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:PFP2520E

科目名/Course Name: International Taxation of Japan

担当教員/Instructor: 松田 直樹/MATSUDA Naoki

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Lectures will be given on various types of countermeasures against tax strategy in such a way that they could give insights into possible policy paper topics and how they could be approached. Those countermeasures are targeted on rules to cope with tax evasion, tax avoidance, cross-border income shifting, treaty shopping etc. At the same time, dispute resolution mechanism is also discussed in search of possible better options for protecting taxpayers right. They are discussed not only in the context of Japan but also in the context of some other major countries. Some relevant court cases and tax tribunal decisions are also used for analyzing those countermeasures and mechanism.

フィスカルポリシーに関する論文作成に参考となるようなアプローチの仕方等を租税政策（特に、納税者の権利保護、脱税、租税回避及び租税戦略に対する政策）に関する分析・議論を通じて学ぶ。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Some topics chosen for the lectures are domestic tax issues and the others are international tax issues. Both of them pose to the tax authority in different countries challenges that may vary somewhat. So, students in the class are encouraged to tip in information on their countrys relevant rules and give their opinions on the relevant topics that are taken up in the class, so that country comparison could be made on the topics.

学生は租税ルール・政策についての知識を深めるとともに、クラスで取り上げているテーマに関係する自国の事項等を紹介・議論することを通じて双方向の授業とする。

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be given based mainly on class attendance and contribution to the class(or a term paper)

出席状況、レポート発表（又はレポート提出）等

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

There will be no textbook. At every class, handouts will be distributed to help understand the lecture.

The lecturers book entitled Tax Strategy VS Countermeasures (also kept in the GRIPSS library) may be useful in understanding some of the topics to be lectured on in the class.

4-2:その他（著者：松田直樹、タイトル：Tax Strategy VS Countermeasures ）

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PFP5010E

科目名/ Course Name: Practicum at the National Tax Agency

担当教員/ Instructor: 関係教員/ Various

学期名/ Term: 秋～春前/ Fall through Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to provide overseas tax officials with knowledge on Japanese tax systems and administration, and to contribute to the improvement of each country's tax administration.

NTA officials as well as the NTC faculty give lectures on practical aspects of Japanese tax administration. To broaden the knowledge acquired through the course, participants will have study visits to Regional Taxation Bureau, Tax Office, Tax Counsel Office, etc.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Japanese Tax Administration

Outline of Japanese Tax System

Individual Research

Quasi-Tax Treaty Negotiation

Field Trips

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation of paper work and performance in class

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

Handouts and other materials will be prepared by instructors.

5. 履修上の注意/ Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PFP5110E

科目名/ Course Name: Practicum in Customs Administration I

担当教員/ Instructor: 近藤 嘉智/ KONDO Yoshitomo

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course focuses on issues in the works of the WTO that are of relevance to customs administration. However, rather than taking up technical aspects of the issues, the course will be more policy oriented. This would imply holistic, in-depth analysis and discussion of specific trade policies and their implications on the customs administration, especially as the implementation authority.

The objectives of this course are as follows:

○Understand the principles of the multilateral trading system and how to use the WTO, including committees, trade policy review mechanism and dispute settlement

○Understand how Customs issues are taken up in the context of broader global policy debate

○Focus on issues related to customs administration (trade facilitation, bound rate of duty and tariff classification, customs valuation, e-commerce and rules of origin) by taking up negotiating background and developments, together with actual cases that have been brought to the WTO.

○Follow the recent developments in bilateral and regional trade agreements around the world and their relationship with the multilateral trading system.

The course will be divided into clusters of five themes (Trade Facilitation, Bound Rate of Duty and Tariff Classification, E-commerce, Customs Valuation, rules of origin). Relevant background information on the themes will be explained in the lectures under each cluster.

Schedule subject to change due to possibility of a special lecture provided by the WCO Secretariat as one of the classes in this course.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

①Orientation and Introduction; Customs in broader context; Functions of the WTO

②Principles of the Multilateral Trading System

- ③ MTS and Regional Trade Agreements/Customs Unions
- ④ (Cont.)
- ⑤ Trade Facilitation 1 (Why trade facilitation in the WTO, content of the Agreement on Trade Facilitation, relationship between the TFA and the WCO, bilateral/regional FTAs, etc.)
- ⑥ Special Lecture by the WCO Secretariat (classes 6 and 7 to be held on the same day)
- ⑦ Special Lecture by the WCO Secretariat
- ⑧ Trade Facilitation 2 (Wrap up)
- ⑨ Bound rate of duty and tariff classification 1 (Bound rate of duty, schedule of concessions, INRs, GATT Article 28 negotiations, ITA, disputes relating to classification of goods and relationship between WTO and WCO, etc.)
- ⑩ Bound rate of duty and tariff classification 2 (Wrap up)
- ⑪ E-commerce and Customs Valuation 1 (WTO work program on e-commerce, classification issue, customs duty and revenue, etc.)
- ⑫ E-commerce and Customs Valuation 2 (Customs valuation in the GATT/WTO; analysis of dispute settlement case in the WTO; exchange of information among customs administrations to tackle undervaluation, wrap up)
- ⑬ Rules of Origin 1
- ⑭ Rules of Origin 2
- ⑮ Conclusions

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class contribution (40%), Policy Memo (60%). A policy memo is something that students would be showing and explaining to their decision-makers for approval on a specific topic taken up in the class. More detailed guidelines for the policy memo to be provided in class. Students are expected to participate in every class and absence without prior consent will not be permitted.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: Required

Slides and reading materials to be distributed during the course

4-2: Others

[WTO Basics]

World Trade Organization, Understanding the WTO (WTO, 2011) (available online in WTO website at https://www.wto.org/english/thewto_e/whatis_e/tif_e/tif_e.htm)

Walter Goode, Dictionary of Trade Policy Terms Sixth Edition (Cambridge University Press, 2020)

[Customs in broader context]

World Customs Organization, WCO Customs Environmental Scan 2021 (WCO, 2021) (downloadable from <http://www.wcoomd.org/-/media/wco/public/global/pdf/about-us/wco-in-brief/environmental-scan-2021.pdf?db=web>)

Augusto Azael Pérez Azcarraga, Tadatsugu Matsudaira, Gilles Montagnat-Rentier, Janos Nagy, and R. James Clark, Customs Matters: Strengthening Customs Administration in a Changing World (International Monetary Fund, 2022). (downloadable from <https://www.elibrary.imf.org/view/book/9798400200120/9798400200120.xml?cid=va-com-compd-SCACWEA>)

[Trade Facilitation]

WTO, World Trade Report 2015 Speeding Up Trade: benefits and challenges of implementing the WTO Trade Facilitation Agreement (WTO, 2015) (downloadable from https://www.wto.org/english/res_e/booksp_e/world_trade_report15_e.pdf)

Nora Neufeld, The Long and Winding Road: How WTO Members Finally Reached a Trade Facilitation Agreement (WTO Economic Research and Statistics Division, 2014) (downloadable from https://www.wto.org/english/res_e/reser_e/ersd201406_e.pdf)

Nora Neufeld, Trade Facilitation Provisions in Regional Trade Agreements — Traits and Trends (WTO Economic Research and Statistics Division, 2014) (downloadable from https://www.wto.org/english/res_e/reser_e/ersd201401_e.pdf)

[Bound rate of duty and tariff classification]

Anwarul Hoda, Tariff Negotiations and Renegotiations under the GATT and the WTO - Procedures and Practices Second Edition (Cambridge University Press, 2018)

WTO, 20 Years of the Information Technology Agreement (WTO, 2017) (downloadable from https://www.wto.org/english/res_e/booksp_e/ita20years_2017_full_e.pdf)

[E-commerce and Customs Valuation]

Sheri Rosenow and Brian J. O'Shea, A Handbook on the WTO Customs Valuation Agreement (Cambridge University Press, 2010)

Jose-Antonio Monteiro and Robert Teh, Provisions on Electronic Commerce in Regional Trade Agreements (WTO Economic Research and Statistics Division, 2017) (downloadable from https://www.wto.org/english/res_e/reser_e/ersd201711_e.pdf)

[Rules of Origin]

Paul Brenton and Hiroshi Imagawa, "Rules of Origin, Trade, and Customs" in Luc de Wulf and Jose B. Sokol eds., *Customs Modernization Handbook* (The World Bank, 2005)

Kazunobu Hayakawa, "Multiple preference regimes and rules of origin", *Review of World Economics* (2023), 159: 673-696.

Christian Delev, "Straining the Spaghetti Bowl: Re-Evaluating the Regulation of Preferential Rules of Origin", *Journal of International Economic Law* (2022), 25: 25-44.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PFP5120E

科目名/ Course Name: Practicum in Customs Administration II

担当教員/ Instructor: 松本 敬/MATSUMOTO Takashi

学期名/ Term: 冬、春/Winter, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Knowing about policy and role of the World Customs Organization (WCO) and its tools and instruments is essential for managing Customs administration. WCO sets strategic management and four packages, namely Revenue Package, Economic Competitiveness Package (ECP), Compliance and Enforcement Package (CEP) and Organizational Development Package (ODP) as the framework of its activities. In addition many important tools and standards are developed by the WCO, including Risk Management Compendium, Safe Framework of Standards (SAFE FOS), Authorized Economic Operator (AEO), Time Release Study (TRS), e-commerce Framework of standards, Transfer Pricing and so on. This course provides the outline of the WCO activities and its tools and standards.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Students are expected to understand the practical aspects of modern Customs policy and operations through the outline of the WCOs activities and its tools and standers. Students are also expected to deepen their understanding how to apply these tools effectively through the WCO members experience.

Class 1: Course Introduction and Customs Environment

Class 2: WCO Strategic Management and its main activities

Class 3: Revenue Package

Class 4: Economic Competitiveness package

Class 5: Compliance and Enforcement package

Class 6: Organizational Development Package

Class 7: Strategic Risk Management

Class 8: Strategic Risk Management (Mid-term examination)

Class 9: WCO Time Release Study

Class 10: SAFE Framework of Standards

Class 11: Authorized Economic Operator (AEO) and AEO schemes in WCO Members

Class 12: Customs Value and Transfer Pricing

Class 13: WCO e-Commerce Framework of Standards

Class 14: Free Trade Zone and its Customs enforcement

Class 15: Final Examination

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Mid-term examination (20%), Final Examination (80%).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

AEO Compendium

AEO MRA Guide

WCO Risk Management Compendium

WCO Strategic Plan

WCO TRS Gudebook

WCO SAFE Framework of Standards

WCO e-Commerce Framework of Standards

WCO Customs Valuation and Transfer Pricing

5. 履修上の注意/Note:

Students are expected to participate in the discussion actively.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PFP5130E

科目名/ Course Name: Practicum in Customs Administration III

担当教員/ Instructor: 近藤 嘉智/ KONDO Yoshitomo

学期名/ Term: 冬、春/ Winter, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Practicum in Customs Administration III will be provided by YOSHIKAWA Daisuke, MURAYAMA Takamasa and TSUDA Yuko, who are instructors from the Customs Training Institute (CTI), Ministry of Finance, Japan, in collaboration with Prof. KONDO Yoshitomo.

As a part of the four required practicum courses, Practicum III is intended to provide students with knowledge in practice to improve skills of solving problems, following the study in preceding courses. More specifically, this course aims to provide students with knowledge to improve Customs operation and management, in terms of both theoretical and practical aspects. Throughout the course, information on experience and the latest practices of Japanese relevant authorities will be introduced as an example of international agreement implementation, or solutions for identified issues or challenges from various aspects.

The focus is then placed on how a given knowledge can be applied to improve the effectiveness and efficiency of Customs administrations, or to give possible solutions to identified issues and problems. Based on the acquired knowledge, students are to develop and review Strategic Action Plans for modernizing their respective Customs administrations, searching for better ways to achieve missions of Customs within the wider economic/political context. The Plans are to be presented to the class for discussion. To do so, lectures and exercises of the method of Strategic Action Planning will be also given in the course.

As generally recognized, holistic approach is the key to successful administration reform and modernization, so students are expected to deepen their understanding of essential components of Customs missions by referring to international standards and other countries' good practices.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Following the student presentations on their Country Profile Reports, lectures on Japan Customs and relevant policies, history and experiences will be provided and, as for some specific issues, including Authorized Economic Operators (AEO), Rules of Origin, risk management, Customs Valuation, Post Clearance Audit and so on, experts and/or practitioners of Japan Customs are expected to be invited as special lecturers. Field trip(s) to Regional Customs offices is also planned to see the actual practices and operations of Japan Customs.

Based on the acquired knowledge, students are to develop and review Strategic Action Plans for modernizing their respective Customs administrations, searching for better ways to achieve missions of Customs within the wider economic/political context.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class contribution (30%) and Strategic Action Plan Report (70%). While the details of the Strategic Action Plan Report will be provided during the class, students should be aware that substance of the report will be subject to the grading rather than the presentation. Students are expected to participate in every class and absence without prior consent will not be permitted.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Required

Slides and reading materials to be distributed during the course

4-2: Others

Useful links for the course

- The World Bank - World Integrated Trade Solution

<https://wits.worldbank.org/Default.aspx?lang=en>

- The World Trade Organization - WTO Regional Trade Agreement Database

<https://rtais.wto.org/UI/PublicMaintainRTAHome.aspx>

- The World Trade Organization - Trade Facilitation Agreement Database

<https://tfadatabase.org/>

- The World Customs Organization - WCO Annual Report

<http://www.wcoomd.org/en/about-us/what-is-the-wco/annual-reports.aspx>

- Japan Customs Japan Customs Report

https://www.customs.go.jp/zeikan/pamphlet/report/index_e.htm

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:PFP5210E

科目名/Course Name: Intellectual Property Rights Enforcement at the Border

担当教員/Instructor: 米山 喜彦/YONEYAMA Yoshihiko

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Customs administrations are in the position to play a pivotal role in enforcing IPR infringing goods, given the fact that such goods often involve cross-border transactions. IPR is one of the key issues discussed at various international forums (WTO, WCO, APEC, etc.) and Customs administrations across the globe are expected to undertake appropriate measures.

This course aims to facilitate students to consider a model of IPR border enforcement for their own Customs administrations, by means of studying international standards and practices of IPR border enforcement in Japan and other countries. It also guides students towards profound understanding of related IP laws, IP right holders activities, and so on.

This course consists of classroom lectures.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction of the course, Basic knowledge of IPR
2. TRIPS Agreement
3. IPR border enforcement in Japan (1)
4. IPR border enforcement in Japan (2)
5. IPR border enforcement in Japan (3)
6. IPR border enforcement in Japan (4)
7. Japanese government initiatives on IPR enforcement
8. IPR activities in WCO
9. Trademark right
10. Copyright
11. Judicial System for intellectual property in Japan
12. Lecture by the Intellectual Property High Court
13. Lecture by right holder (tbd)
14. Lecture by right holder (tbd)
15. Presentation and discussion on term paper by students (First day)
16. Presentation and discussion on term paper by students (Second day)

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grading of the course will be based on contribution in the class (20%), a term paper (60%), and an oral presentation based thereon (20%).

The due date of submission of the term paper will be announced at the first class of this course. Each student is

required to make an oral presentation based on his/her term paper. The presentation session will be held at the last two classes of this course.

The contents of the term paper shall be analysis on IPR border enforcement in the student's country and his/her view on how it can be improved and strengthened in his/her Customs administration in referring to the knowledge obtained through the course.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 None

4-2 Handouts will be provided at each session

5. 履修上の注意/Note:

Each student is required to make a presentation based on his/her term paper. The presentation session will be held at the last two classes of this course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PPP4000J

科目名/Course Name: 政策論文演習

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

政策論文演習の目的は、本学教官の指導のもとに、各学生が自らの関心のある研究課題に関して研究論文を作成することにある。演習の具体的な形式は、各学生の研究目的、希望、および能力に応じて、主・副指導教官と相談のうえ決定する。なお、提出された論文は、政策研究大学院大学図書館に保存される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

一般的なスケジュールは以下の通りであるが、コースによって異なる。

(1)研究計画書作成 (10 月下旬)

A4 用紙約 1 ページの研究計画書を作成する。研究計画書には、研究課題、問題意識、具体的な研究方法、使用するデータ、文献などを明記すること。

(2)主・副指導教官の決定 (11 月下旬)

学生の研究計画、希望を考慮し、適任と考える主・副指導教官を各コースにおいて決定する。

(3)中間発表会 (12 月上旬)

学生が各主・副指導教官出席のもとで研究成果の中間発表を行う。その発表会でなされた質疑を参考にして、学生は論文執筆を進める。

(4)最終発表会および判定(1 月下旬)

学生が各主・副指導教官出席のもと研究成果の最終発表を行う。その発表会でなされた質疑を参考にして、学生は論文を修正し、提出する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

各コースの評価基準による。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PPP5010E

科目名/ Course Name: Independent Study

担当教員/ Instructor: 田中 誠 他/ TANAKA Makoto, et al.

学期名/ Term: 秋～春/ Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is for the 2nd-year MP2 students. They are required to write a thesis as a partial fulfillment of their program completion.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Mid-term and final presentations will be held before the final submission.

3. 成績の評価方法/ Grading:

A-E grade will be awarded based on the performance at presentations and the quality of a thesis.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

N/A

5. 履修上の注意/ Note:

Supervisors will be determined at the end of the 1st year. Most students choose the same supervisors of PDS1/2 in the 1st year. (But you can change your supervisor in the second year.)

In the second year of MP2, Tutorial II is accompanied with Indepen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PPP5060E

科目名/ Course Name: Tutorial I

担当教員/ Instructor: 関係教員/ Various

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Tutorial I is a required course for all students in the One-year Public Policy Program (MP1) and the first-year students in the Two-year Public Policy Program (MP2).

It is a group consultation course, which is meant to nurture the sense of connectedness with faculty members as well as among fellow students at the early stage of designing their research. To that extent, students are expected to lead and participate in rigorous discussions of their subjects of interest with the instructors and other students.

Students are expected to develop ideas for their research and concentration.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The course covers a wide range of policy issues within four concentrations, i.e., Economic Policy (EP), International Development Studies (IDS), International Relations (IR), and Public Policy (PP).

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. While grading takes into account a student's contribution to discussions, the instructors may set written assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

N/A

5. 履修上の注意/ Note:

After taking Tutorial I, students continue their study in Policy Debate Seminar I (Winter) and Policy Debate Seminar II (Spring).

[For MP2 Students]

In the second year, MP2 students take Tutorial II and Independent Study (Fall through Spring) as r

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: PPP5070E

科目名/ Course Name: Tutorial II

担当教員/ Instructor: 関係教員/ Various

学期名/ Term: 秋～春/ Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Tutorial II is a required course for the second-year students in the Two-year Public Policy Program (MP2).

It is a consultation course, in which students are expected to lead rigorous discussions of their subjects of interest.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

It covers a wide range of policy issues based on students subjects of interest.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. Grading takes into account a students contribution to discussions and performance at presentation of own research.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

N/A

5. 履修上の注意/ Note:

In the second year of MP2, Tutorial II is accompanied with Independent Study (Fall through Spring).

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG1000J

科目名/Course Name: 地方行政論

担当教員/Instructor: 横道 清孝/YOKOMICHI Kiyotaka

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

地方自治法を中心に、我が国の地方自治制度及びその運用、その問題点及びその改革の方向等について学習する。講義に当たっては、単に知識を教えるのではなく、歴史的・国際的な視野の中で、また、社会経済の変化や自治の現場の実態も踏まえた上で、我が国の地方自治制度はどうあるべきか、また、その運用はどうあるべきかを深く考え、実践する能力の養成を目指す。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 4月7日：オリエンテーション

第2回 4月14日：憲法による地方自治の保障

第3回 4月28日：国際的視野からみた我が国の地方自治

第4回 5月12日：我が国の地方自治の歴史

第5回 5月19日：最近における地方分権改革

第6回 5月26日：地方自治体の種類（普通地方公共団体）

第7回 6月2日：地方自治体の種類（特別地方公共団体）

第8回 6月9日：地方自治体の区域

第9回 6月16日：地方自治体の事務・権限

第10回 6月23日：地方自治体の自治立法

第11回 6月30日：地方自治体の議会

第12回 7月7日：地方自治体の長、議会と長の関係

第13回 7月14日：地方自治体の執行機関

第14回 7月21日：地方自治体の住民

第15回 7月28日：国と地方自治体との関係

3. 成績の評価方法/ Grading:

①ターム・ペーパー 80%

②授業への参加・貢献状況 20%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

地方自治小六法/地方自治制度研究会監修/学陽書房/令和5年度版

4-2

新版逐条地方自治法（第9次改訂版）/松本英昭/学陽書房/2017年

地方制度改革/横道清孝/ぎょうせい/2004年

これからの地方自治の教科書改訂版/大森彌・大杉覚/第一法規/2021年

Local Government in Japan 2020(2021 Revised Edition)/自治体国際化協会（CLAIR）/2022

Historical Development of Japanese Local Governance(Vol.1-10)/GRIPS 比較地方自治研究センター(The Institute for Comparative Studies in Local Governance)/2010-2011

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG1010J

科目名/Course Name: 地方財政論

担当教員/Instructor: 羽白 淳/HAJIRO Jun

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

目的 :

地方公共団体が行う様々な政策分野に通じる、地方財政制度及び自治体の財政運営について学習するとともに、それらの課題、改革の方向、改善方策などについて考える。

講義の進め方 :

自治体の歳入・歳出の状況や地方税制度、地方交付税制度、国地方の政府間財政関係などについて基礎的な理解を得る。また、これらの理解を踏まえ、事例などを通じて、今後の制度改革の方向や自治体の財政運営のあり方について考えていく。

できるだけ意見交換・議論の時間を設け、議論を進める中で地方財政に対する理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

授業の予定 (各授業のテーマ)

- 1 ガイダンス・地方財政の現状と課題 (4月5日(水))
- 2 自治体の歳出と歳入 (4月5日(水)、4月10日(月))
- 3 自治体の予算と決算 (4月12日(水))
- 4 国と自治体の役割と政府間財政関係 (4月17日(月)、4月19日(水))
- 5 地方財政調整制度—地方交付税 (4月24日(月)、4月26日(水))
- 6 国庫補助負担金 (5月8日(月))
- 7 地方税制 (5月10日(水))
- 8 自治体の課税権と税収確保 (5月15日(月))
- 9 地方債制度 (5月17日(水))
- 10 自治体の財政健全化 (5月22日(月))
- 11 地方公営企業等 (5月24日(水))
- 12 今後の地方税財政-自治体の財政運営、地方税財政制度改革 (5月29日(月))
- 13 事例討議 (5月31日(水))

テーマ・日程等は変更の可能性がある。

事例討議は5月8日(月)に事例詳細を連絡する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート（事例討議メモ含む）（70%）、各授業への参画状況（質問、発言、意見交換等）（30%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: 必携ではないが、できるだけ持つと良い。

- ・ 地方交付税制度研究会「令和4年度 地方交付税のあらまし」（地方財務協会、2022年）
- ・ 総務省「地方財政白書」
- ・ 矢野浩一郎「地方税財政制度（第8次改訂版）」（学陽書房、2007年）
- ・ 小坂紀一郎「一番やさしい自治体財政の本（第2次改訂版）」（学陽書房、2018年）
- ・ 川村毅『自治体職員研修講座 地方自治制度 地方公務員制度 地方財政制度 <第2次改訂版>』（学陽書房、2015年）など

なお、地方税財政に関する雑誌としては、地方財務協会『地方財政』、地方財務協会『地方税』、ぎょうせい『地方財務』等がある。

4-2: その他

- ・ "White Paper on Local Public Finance 2022-Illustrated-" (Ministry of Internal Affairs and Communications)
(https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/r04data/chihouzaisei_2022_en.pdf)
- ・ "Local government in Japan 2016" (2019 revised version) (Council of Local Authorities for International Relations (CLAIR))
(<http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/jichi2019-en.pdf>)

その他参考文献等については、授業の中で適宜紹介する。

5. 履修上の注意/Note:

本講義の理解をより深める上で、「地方財政特論」（春（金6）REG2930J）を併せて履修することが望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG1200J

科目名/Course Name: 行政法の基礎

担当教員/Instructor: 濱西 隆男/HAMANISHI Takao

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

行政法の理解が不十分でも、業務指示書（マニュアル）に従えば日常的な実務（ルーティン業務）に携わることは可能である。さらに、行政法の理解を深めることにより、例えば法令・条例・規則の制定・改正または法的トラブルの発生に際し、法律上の問題点を整理して解決方法を考察できる能力（いわゆる政策法務能力）を向上させられる。行政法の理解は容易ではないが、理解を深めると、行政分野を問わず応用範囲は広い。

この講義では、①行政法についての全般的かつ基礎的な知識、②当該知識をベースとする行政法的な思考法を習得させることを目的に、特に重要な概念・論点や基本的な制度の概要について、重点的かつ概括的な説明を行う。

この講義では、行政法学の法原理や法概念を基礎として、法的視点から行政の諸活動を整理・分析することを学ぶという、いわばオーソドックスな行政法の講義を行う。他方で、本学では、それぞれの行政分野における実務に精通している学生が多いことにかんがみ、この講義の中でも、必要に応じて行政実務の関心事項について言及する。

この講義では、行政法を初めて学ぶ者を主たる対象者として説明を行うが、行政法を学んだ経験を有するものの理解が不十分という者の受講も歓迎する。受講の判断基準としては、定評のある行政法の概説書の内容をおおむね理解しているか否かである。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 行政法の特色（憲法との関係、民刑事法との比較における行政法の特色を理解する。）

第2回 行政法の類型（分野横断的な行政の類型と行政法体系把握の出発点となる行政法の類型を理解する。）

第3回 行政法の基本原理（法律による行政の原理、平等原則、信頼原則などの基本原理を理解する。）

第4回 行政組織法総論（行政組織法と公務員法の基本的な仕組みを理解する。）

第5回 行政作用法総論（行政作用法の基本的な仕組みと当該仕組みの中で用いられる行為形式を理解する。）

第6回 行政立法、行政計画（一般的抽象的な行為形式の代表例の行政立法と行政計画を理解する。）

第7回 行政処分、行政契約①（個別的具体的な行為形式（法行為）の代表例の行政処分と行政契約を理解する。）

第8回 行政処分、行政契約②（同上）

第9回 公権力の行使に当たる事実行為、行政指導（個別的具体的な行為形式（事実行為）の代表例の公権力の行使に当たる事実行為と行政指導を理解する。）

第10回 行政手続（各行為形式に係る行政手続の仕組みを理解する。）

第11回 行政情報の管理・公開・保護（行政情報管理・公開法制と個人情報保護法制の仕組みを理解する。）

る。)

第12回 行政救済法総論（行政救済法の基本的な仕組みを理解する。）

第13回 抗告訴訟（行政救済法の中で重要性の高い抗告訴訟の仕組みを理解する。）

第14回 国家補償（抗告訴訟と並び重要性の高い国家補償の仕組みを理解する。）

第15回 学期末筆記試験（これまで学習してきた理解状況を確認する。）

3. 成績の評価方法/ Grading:

行政法についての全般的かつ基礎的な知識と、当該知識をベースとする行政法的な思考法を習得するという本講義の目的にかんがみ、最終日の講義時間内に実施する学期末の筆記試験により、成績評価を行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

この講義は、担当教員が講義に際して配布するレジユメの説明を中心に行う。

必修の知識に絞り込んだレジユメだけでは足りないので、教科書の購入を勧めるが、特定の教科書・判例集は指定しない。

指定がないとかえって不安という学生には、教科書として野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎「行政法（第2版）（有斐閣ストウディア）」（有斐閣 2020年）、判例集として別冊ジュリスト「行政法判例百選 I・II（第8版）」（有斐閣 2022年）を推薦する。

第1回の講義で教科書・判例集に関する説明を行うので、第1回の講義を受講のうえ、購入することが望ましい。

5. 履修上の注意/Note:

繰り返しになるが、受講の判断基準としては、定評のある行政法の概説書の内容をおおむね理解しているか否かである。

なお、行政法のみならず法学全般の理解が不十分な学生については、受講前に法学の入門書籍を購入し、法学の基礎的な知識を習得して講義に臨むことを勧める。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: REG2030J

科目名/ Course Name: 食料・農業・農村政策特論 I

担当教員/ Instructor: 天羽 隆/ AMOU Takashi

学期名/ Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(概要)

「食料・農業・農村政策概論」と連携し、わが国の食料・農業・農村政策の変遷とともに、農地政策やコメ政策といった特定の政策分野についてより深く学びます。また、これを踏まえながら、今日の政策の特徴、課題についてできるだけ受講生と双方向での議論を進めて、今後の展開について考えます。その際、地方行政、農業技術、政治過程、食料・農業・農村政策等についての知見を有する外部講師を招いて講義を受け、議論を行います。

(到達目標)

各受講生の関心項目・内容を踏まえて、与件の下で、状況を俯瞰すること、また、自分に政策決定権限があったらどのように判断・行動するか考えることを習慣づけます。

この講義は、SDGs の以下の目標に関連します。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、15 生態系・森林

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下の内容を取扱う予定です。初回のオリエンテーションにおける受講者の要望確認や、外部講師との日程調整により、内容や順序を変更する可能性があります。

○ オリエンテーション

- 民意・世論・輿論（国民の声）
- 農政の変遷①～④
- 農地政策①・②
- 「コメ」政策①・②
- 農業団体①・②
- 畜産政策
- 消費者政策（食料の安定供給、和食）
- これからの食料・農業・農村政策

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績評価は、出席、議論への参加及び建設的な議論への貢献（5割）、レポート（5割）を総合して行います。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1:必携のテキスト

特になし

4-2:その他

- ・ 荒幡克己『減反廃止－農政大転換の誤解と真実』日本経済新聞出版社
- ・ 立花隆『農協－巨大な挑戦』朝日文庫

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: REG2040J

科目名/ Course Name: 食料・農業・農村政策特論Ⅱ

担当教員/ Instructor: 天羽 隆/ AMOU Takashi

学期名/ Term: 秋学期/ Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(概要)

「食料・農業・農村政策概論」及び「食料・農業・農村政策特論Ⅰ」で学んだことを踏まえて、食料・農業・農村政策と他の分野の政策との関係、今日の課題について受講生と双方向での議論を進めます。その際、地方行政、農業技術、政治過程、食料・農業・農村政策等についての知見を有する外部講師を招いて講義を受け、議論を行います。

(到達目標)

各受講生の関心項目・内容を踏まえて、与件の下で、状況を俯瞰すること、また、自分に政策決定権限があったらどのように判断・行動するか考えることを習慣づけます。

この講義は、SDGs の以下の目標に関連します。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、15 生態系・森林

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下の内容を取扱う予定です。初回のオリエンテーションにおける受講者の関心分野や要望、外部講師との日程調整により、内容や順序を変更する可能性があります。

- オリエンテーション
- 政策システム①・②
- 農業・農業政策とスマート/DX
- 農村政策①・②
- 政と官

- 農業政策と国土政策（「ふるさと」）
- 農業政策と環境政策①・②
- 農業・農業政策と脱炭素・SDGs
- 自然災害と農林水産業
- 農業政策と「まち・ひと・しごと創生」、限界集落対策と商店街対策
- 農業政策と食品産業政策
- 消費者とどのように向き合うのか？

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績評価は、出席、議論への参加及び建設的な議論への貢献（5割）、レポート（5割）を総合して行います。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1:必携のテキスト

特になし

4-2:その他

- ・安宅和人『シン・ニホンーAI×データ時代における日本の再生と人材育成』
- ・戸部良一『失敗の本質ー日本軍の組織論的研究』中公文庫
- ・太田猛彦『森林飽和ー国土の変貌を考える』
- ・p デイヴ・エガーズ『ザ・サークル（上・下）』ハヤカワ文庫

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG2050J

科目名/Course Name: 現代食料・農業論

担当教員/Instructor: 埜 靖幸、外部講師/HANAWA Yasuyuki, et al.

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

特に国際的な観点から、日本の農業・食品産業に大きな影響を与える世界の食料・農業経済の動向を世界経済の歴史的展開を踏まえて学び、世界の食料需給見通し、日本の農業・食料をめぐる状況や環境、農産物貿易等の国際ルール、各国・地域の農業・食料の状況等を理解し、今後の日本の食料・農業・農村に必要な政策について考えることを目的とする。

この講義は、SDGs の以下の目標に関連する。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、15 生態系・森林

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下の内容を取り扱う予定であるが、ゲストスピーカーの日程調整等により、内容・順序を変更する可能性がある。

概論：ガイダンス＋導入、世界を構造化してとらえる

世界の食料需給の展望

農産物貿易論：貿易政策面での規律

中国農業

ロシア・ウクライナ農業

西欧農業

ドイツの地域づくり

世界の食料需給と 2031 年における将来見通し

アフリカ・ケニアの食料消費

ブラジル農業

タイ農業

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート及び授業への貢献度

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 : 必携のテキスト

テキストはなく、各回、授業資料を配布する。

4-2 : その他

- ・ 速水祐次郎・神門善久『農業経済論 新版』岩波書店、 1999年
- ・ 荏開津典生『農業経済学 第3版』岩波書店、2001年
- ・ 原洋之介『アジアの「農」日本の「農」』書籍工房早山、2013年

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG2100E

科目名/Course Name: Local Government System and Finance

担当教員/Instructor: 高田 寛文/TAKADA Hirofumi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course introduces the system and practice of local government administration and finance in Japan, and aims to provide students with a comparative perspective on local government system in your country.

The class will start with a description of Japanese public administration, which will be followed by an elaboration on the local government management. Such topics as organizational structure, local public service personnel and local election will be discussed.

We will then deal with current status and issues of local government finance, with a focus on several components of local revenues and expenditures in details. Some recent issues related to local governance and decentralization reforms will also be presented and explored.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 : Introduction

2 : Structure and Organization of Government (1)

3 : Structure and Organization of Government (2)

4 : Outline of Local Government (1)

5 : Outline of Local Government (2), Legal System on Local Government

6 : Organization of Local Government

7 : Local Public Service Personnel

8 : Local Election and Residents Participation

9 : Roles and Functions of Local Government

10 : Status of Local Government Finance, Local Tax System (1)

11 : Local Tax System (2)

12 : Financial Equalization Mechanism

13 : Local Bond System and Promotion of Fiscal Soundness

14 : Decentralization in Japan, Regional Development and Revitalization

15 : Policy Process and Policymaking

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance and class participation (20%)

Term paper (80%) : The topics of the term paper and the deadline of submission will be announced in the class.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: Required

No required textbook.

Handouts will be distributed.

4-2: Others

- Council of Local Authorities for international Relations (CLAIR), Local Government in Japan 2020 (2021 Revised Version)

<https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/jichi2021-en.pdf>

- Michio Muramatsu, et al. eds., Local Government Development in Post-War Japan, Oxford UP, 2001

- Ministry of Internal Affairs and Communications, White Paper on Local Public Finance, 2022 (FY 2020 Settlement)

https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/r04data/chihouzaisei_2022_en.pdf

- Nobuki Mochida, Fiscal Decentralization and Local Public Finance in Japan, Routledge, 2008

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: REG2310J

科目名/Course Name: 地方自治と行政学

担当教員/Instructor: 木村 俊介/KIMURA Shunsuke

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

行政学は、国民・市民の日常を取り巻く行政機関の活動について、政策の過程、組織の運営管理、及び政治と行政の関係等の視点から捉えようとする研究分野である。また、政治学の1つの専攻分野として位置付けられることが多いが、政治理論だけではなく、社会学、組織理論、経営学、財政学など他の専門分野にも深い関連性を有する幅広い社会科学の領域である。さらに、学問分野の中でも行政実務との関連が強く意識されている点も特徴として挙げることができる。日々の行政や政治の活動を対象とするため、扱う素材が非常に具体的であり、かつ、動的に変化していくという点に、この研究分野の面白さがある。

本講義では、このような専攻分野としての特徴を踏まえ、行政学の基礎理論を習得しつつ、科学的な観点から地方自治や自治体行政を理解することを通じ、理論と実践を結びつけて考え、行動する力を養成することを目的とする。

講師は元総務省職員であり、国・都道府県・市町村に勤務した経験を有する。本講義では、そのような経験を踏まえ、理論と実践の両面から、行政活動と公共政策の面白さを履修者とともに議論していきたいと考えている。

<参考> 行政学の特徴－制度と管理と政策への関心

政治学の中で行政学にはどのような独自性があるのだろうか。もっともはっきりしているのは、行政官僚制を研究対象の中心に据えている点である。官僚集団については政治過程の分析でも1つの集合的なアクターとして扱われるが、行政学では行政官僚制それ自体が主要な関心対象であるから、官僚集団が他のどんなアクターにどの程度の影響力を行使し、いかなる政治的ダイナミズムが展開されたかということだけでなく、官僚制の作動様式を拘束する制度枠組みや組織管理の仕組み、官僚制の組織セッティングにおいて繰り広げられる政策とその形成および実施過程に関心を集中させようとする。

行政学において重視される制度枠組みの中には法制度も当然含まれるが、法律学のような実定法令の解釈が目的ではない。行政活動を拘束する制度枠組みの考察には、計画や予算や各種の通知文書などを対象に含めなければならない。また、行政活動は各種の組織体や組織化された関係を通じて繰り広げられるから、その組織行動を統制し調整するための管理メカニズムの考察も欠かせない。さらに、法令も計画も予算も通知も、そして各種の管理活動も、さまざまな施策や政策を実現するための手段であり、それらの組み合わせが肝心であるから、政治学の中でも行政学においては政策への関心が一般的に強くなる。制度と管理と政策への関心の強さにおいて行政学は際だっているのである。

最後にもう1点つけ加えておきたいのは、あるいは意外と思われるかもしれないが、行政学における視野の広さである。中央政府の動向に関心を払うのは当然であるが、政治を語る際にも、永田町の政界動向だけにとらわれることはしない。霞ヶ関省庁にも独自の政治力学があるし、各業界団体の圧力活動も見逃せない。それに加えて、行政学者の多くは地方自治の問題に強い関心を払う。その場合に自治体の政治や行政だけでなく、各種の市民団体やNPOの活動にもホットな関心を寄せる。さらに、最近では国際レベ

ルまで視野を広げている。公共問題に関わる制度-管理・政策を扱うのが行政学であるが、公共問題は国境を超えた広がりをもっているため、国際機関はもとよりのこと NGO の活動も取り上げる。行政学は存外と幅広い学問なのである。

(出典；今村凶南雄ほか 『ホーンブック 基礎行政学 (第3版)』 北樹出版, 2015年, 12-13頁。)

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

国・地方公共団体の行政組織を中心に、関連する公的な組織に関する検討を行い、行政学の基礎的な知見を身につける。

第1回講義 講義の進め方説明, 行政と行政学, 行政の発展, 行政学説史

第1章；行政学とは何を探求する研究分野か？

第2章；国家形態はどのように発展してきたのか？

第24章；行政学はどのように発展してきたのか？

第2回講義 執政府 (第3章；議院内閣制と大統領制は現代社会においていずれが機能的か？)

第3回講義 首長と議会 (第4章；首長と議会は、現代行政において、どのように役割分担を行うべきか？)

第4回講義 国と地方 (第5章；国と地方は、現代社会において、どのように役割分担を行うべきか？)

第5回講義 広域化と広域連携 (第6章；自治体は、資源制約の下で、どのような広域連携を行うべきか？)

第6回講義 財政改革, 市場主義と民営化 (第7章, 第8章；市場主義は行政に何をもたらすか？)

第7回講義 規制改革 (第9章；規制改革は何をもたらすか？)

第8回講義 行政組織の改革, 行政の外延化 (第10章, 第12章；行政改革はなぜ必要か？)

第9回講義 公務員制度の改革 (第11章；公務員制度のどのような改革が求められてきたのか？)

第10回講義 官僚制の進展, 官僚制の機能と構造 (第13章, 第14章；官僚制のメリット・デメリットは何か？)

第11回講義 官僚制の規律と慣性, 官僚制の権力関係 (第15章, 第16章；官僚制の弊害は何か？)

第12回講義 権限と情報の管理, 人的資源の管理 (第17章, 第18章；現代の行政管理はどのような機能を果たしているか？)

第13回講義 制度の選択, 調整と計画 (第19章, 第20章；合議制機関のメリット・デメリットは何か？教育委は有効に機能しているか？)

第14回講義 行政責任の構図, 統制と責任 (第21章, 第22章；行政機関に対する有効な統制は何か？)

第15回講義 参加と責任, まとめ (第23章；住民参加の限界は何か？)

なお、あらかじめテーマを定め、受講生によるプレゼンテーションを織り込むことを予定している。

3. 成績の評価方法/ Grading:

発言等による講義への貢献 20%, プレゼンテーション 20%, 期末レポート 60%とする。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

1 武智秀之『行政学』中央大学出版部, 2021年。(※講義開始時に刊行される最新版を採用する。)

2 補助教材；事前に講師が web(GRIPS Gateway)にアップロードする。

3 入門書

- ・村松岐夫 『日本の行政 活動型官僚制の変貌』 中公新書, 1994 年。
- ・飯尾潤 『現代日本の政策体系』 ちくま新書, 2013 年。
- ・待鳥聡史 『代議制民主主義 「民意」と「政治家」を問い直す』 中公新書, 2015 年。
- ・山本圭 『現代民主主義 指導者論から熟議, ポピュリズムまで』 中公新書, 2021 年。

4 参考書・推薦書

- ・クリストファー・ピアソン 『曲がり角にきた福祉国家』 未来社, 1996 年。
- ・トクヴィル 『アメリカのデモクラシー 第1・2巻上下』 岩波文庫, 2013 年。
- ・バジヨット 『イギリス憲政論』 中公クラシックス, 2011 年。
- ・T・ポントケ, P. ウェブ 『民主政治はなぜ「大統領制化」するのか』 ミネルヴァ書房, 2014 年。
- ・飯尾潤 『日本の統治構造 官僚内閣制から議院内閣制へ』 中公新書, 2009 年。
- ・山口二郎 『民主主義は終わるのか—瀬戸際に立つ日本』 岩波新書, 2019 年。
- ・松本崇 『山縣有朋の挫折』 日本経済新聞出版社, 2011 年。
- ・曾我謙悟・待鳥聡史 『日本の地方政治』 名古屋大学出版会, 2008 年。
- ・曾我謙悟 『日本の地方政府 1700 自治体の実態と課題』 中公新書, 2019 年。
- ・大津浩 『分権改革下の地方自治法制度の国際比較—地方自治法制度の新たなパラダイムを求めて』 有信堂, 2019 年。
- ・ハーバート・A・サイモン 『経営行動 (新版)』 ダイヤモンド社, 2013 年。
- ・ジェームズ・G・マーチ, ハーバート・A・サイモン 『オーガニゼーションズ (第2版)』 ダイヤモンド社, 2014 年。
- ・デビッド・オズボーン, テッド・ゲブラー 『行政革命 (Reinventing Government)』 日本能率協会, 2000 年。
- ・グレアム・アリソン, フィリップ・ゼリコウ 『決定の本質I・II』 日経BP, 2018 年。
- ・M. ウェーバー 『支配の社会学』 創文社, 1962 年。
- ・曾我謙悟 『現代日本の官僚制』 2016 年。
- ・金井利之 『行政学講義—日本の官僚制を解剖する』 ちくま新書, 2018 年。
- ・田尾雅夫 『市民参加の行政学』 法律文化社, 2011 年。
- ・Herbert A.Simon Administrative Behavior: a Study of Decision-Making Processes in Administrative Organization, Pickering & Chatto, 2005.

4 講師著作

- (1) 書籍 『広域連携の仕組み (改訂版)』 (単著) 第一法規, 2019 年。
『グローバル化時代の広域連携』 (単著) 第一法規, 2017 年。
"Regional Administration in Japan" (単著) Routledge, 2017 年。

"Métropoles en chantiers 2" (共著) Berger Levrault, 2016 年。

"Decentralization and Development of Sri Lanka within a Unitary State"(共著) Springer, 2017 年。

"Democratic and Electronic Changes in Local Public Action in Europe: REvolution

or E-volution?: Changements démocratiques et électroniques dans ... Europe : REvolution ou E-volution?", (共著) IFJD, 2022.

(2) 論稿 (PDF で閲覧可能なもの)

明治大学学術成果リポジトリ

https://meiji.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&pn=1&count=20&order=2&lang=japanese&all=%E6%9C%A8%E6%9D%91%E4%BF%8A%E4%BB%8B&creator=%E6%9C%A8%E6%9D%91%E4%BF%8A%E4%BB%8B&page_id=13&block_id=21

一橋大学機関リポジトリ

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/search/simple/?lang=0&mode=0&kywd=Shunsuke+KIMURA>

「英語で読む地方行政」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21134/1/chihougyousei1_kimura.pdf

「比較制度研究 アジア 3 カ国の地方分権と地方財政—インドネシア国、フィリピン国及び日本の地方一般財源に関する考察」

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/27161/hogaku0140100810.pdf>

「まちづくりと地域公共交通 (上)」

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/28519/0101700301.pdf>

「まちづくりと地域公共交通 (下)」

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/28521/0101700401.pdf>

「ネーミングライツに関する考察」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21137/1/chihouzaisei1_kimura.pdf

「希薄化社会におけるインフラを考える -求められる発想の転換-

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21140/1/facility1_kimura.pdf

「広域連携時代における公共施設の運営」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21141/1/facility2_kimura.pdf

「水道広域化の展望 -上水道企業団の成果と課題-

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21138/1/chihouzaisei2_kimura.pdf

「ID 地方自治論」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21135/1/chihougyousei2_kimura.pdf

「ID 地方自治論とガバナンス」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21136/1/chihougyousei3_kimura.pdf

「選挙運動規制としての戸別訪問禁止制度の課題について」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21142/1/senkyo1_kimura.pdf

「フランスの小規模自治体コミュニケーションと広域連携組織の関係」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21139/1/kouikirenkei1_kimura.pdf

「半代表制的性質を伴う我が国の地方議会の課題」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21010/1/gabanansu_16_1.pdf

「晴れの日は行政法。 -新型インフルエンザ等対策特別処置法と行政法への道しるべ-」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21331/1/harenohi_kimura_1.pdf

「新型コロナ対策に係る特措法 -新型インフルエンザ等対策特別措置法と行政法への道しるべ(2)」

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21656/1/shingatacorona_kimura_1.pdf

「指標からみる自治体の資産管理について」

[https://m-](https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/22085/1/jfma_2021_autumn_50.pdf)

[repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/22085/1/jfma_2021_autumn_50.pdf](https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/22085/1/jfma_2021_autumn_50.pdf)

5. 履修上の注意/Note:

第1回講義時から、テキスト（武智）及び補助教材を使用する（補助教材は GRIPS Gateway に掲示するので各自ダウンロードすること。掲示内容は逐次更新・追加される場合があるので留意すること。）。

受講者は、これらを予習の上、講義時に持参すること。行政学は、日々展開される行政活動を対象とする領域であるため、日頃から報道を通じ行政の動きに幅広い関心を持つことを心掛けてほしい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG2900J

科目名/Course Name: 地方行政特論

担当教員/Instructor: 横道 清孝、外部講師/YOKOMICHI Kiyotaka, et al.

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

総務省自治行政局の行政官から、地方自治及び地域振興に関する国としての問題意識と最新の制度改革及び施策等について講義を受けるとともに、意見交換を行い、地方自治に関する制度改革の方向性及び地域振興のあり方等について、より深い認識と思考能力を養う。なお、この講義は「地方行政論」を補完する特別講義として位置づけられる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

テーマ及び日程等は、改めて通知する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

①ターム・ペーパー 80%

②授業への参加・貢献状況 20%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-2

Local Government in Japan 2020(2021 Revised Edition)/自治体国際化協会 (CLAIR) /2022

5. 履修上の注意/Note:

貴重な機会であるので、学生には意見交換への積極的な参加が求められる。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG2930J

科目名/Course Name: 地方財政特論

担当教員/Instructor: 羽白 淳/HAJIRO Jun

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

1. 本講義の概要及び到達目標 :

人口減少、高齢化等による人口構成の変化に伴い、社会保障、公共インフラの適正管理など地方公共団体が直面する政策課題は大きく変化している。また、大規模・複雑化する災害の多発や新型コロナウイルス感染症の拡大等により社会構造の大きな変革も予想される。今後、地方公共団体がこれらに的確に対応するためには、既存の地方行財政運営のあり方を見直し、新たな構想、知見を築き上げていくことが喫緊の課題である。

本講義では、総務省の行政官等から、地方公共団体が行う様々な政策分野に通じる、地方税財政に関する最新の知見及び実例等について講義を受けたのち意見交換等を行い、地方行財政運営のあり方等についてより深い認識と実践的な思考能力を養うことを目的とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

開講日程 テーマ・講師は次の通り。(日程、講師・テーマ等は変更の可能性がある。)

日程

(木曜日)

テーマ

講 師

1

4月 13日

ガイダンス・イントロダクション

GRIPS教授

羽白 淳

2

4月 20日

地方財政をめぐる諸課題

総務省自治財政局長
原 邦彰氏

3

4月 27日
社会情勢の変化に応じた
地方交付税算定の改革

同 交付税課長
赤岩 弘智氏

4

5月 11日
各府省の主要施策等について
地方公営企業の経営
同 調整課長
同 公営企業課長
近藤 貴幸氏
菊地 健太郎氏

5

5月 18日
地方債制度と市場化について
同 地方債課長
神門 純一氏

6

5月 25日
地方公営企業の経営
各府省の主要施策等について
同 公営企業課長
同 調整課長
菊地 健太郎氏
近藤 貴幸氏

7

6月1日

自治体の資金調達—地方創生/自治体 SDGs

時代の地方公共団体の資金調達等の在り方

野村資本市場研究所野村サステナビリティ研究センター長

江夏 あかね氏

8

6月8日

地方税制の概要と決定過程

総務省自治税務局長

池田 達雄氏

9

6月15日

都道府県税をめぐる諸課題

同 都道府県税課長

市川 靖之氏

10

6月22日

市町村税をめぐる諸課題

同 市町村税課長

植田 昌也氏

11

6月29日

固定資産税をめぐる諸課題

同 固定資産税課長

天利 和紀氏

12

7月6日

社会構造変革下における地方財政
横浜国立大学教授
伊集 守直氏

13

7月13日

平成の地方分権改革と税財政制度改革
地方公共団体金融機構理事長
佐藤 文俊氏

なお、本講義は木曜日第5・6時限目であるが、授業時間は各回17時～19時（全13回予定）となるので注意すること。

3. 成績の評価方法/ Grading:

各講義を踏まえての最終レポートの作成（60%）、各授業への参画状況（質問、意見交換等）（40%）による。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1: テキスト

テキストは用いず、資料を各回に配付する。

参考文献等については、授業の中で適宜紹介する。

4-2: その他

"White Paper on Local Public Finance 2022-Illustrated-" (Ministry of Internal Affairs and Communications)
(https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/r04data/chihouzaisei_2022_en.pdf)

5. 履修上の注意/Note:

本講義の理解をより深める上で、基礎となる「地方財政論」（春前期（月4・水4）、REG1010J）を併せて履修することが望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG2940J

科目名/Course Name: 自治体改革論

担当教員/Instructor: 高田 寛文/TAKADA Hirofumi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

自治体運営（経営）の改革が課題となる中、自治体の組織や運営の見直し、政策・施策の向上について、事例に基づいて学ぶ。

行財政改革や効果的な政策の実施に関わっている自治体幹部や関係団体の職員などを講師に招き、施策の見直しや新たな政策の展開に至った経緯、解決した課題などについて講義を受ける。

そうした学習を通じて、改革を必要とする問題の発見や改革を進める上での課題の把握、ひいては自治体の政策形成のあり方について深い理解を得ることを目標とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

各回のテーマと講師については、地方自治を巡る動きなども考慮の上、講義の初回に全体の予定を示す。

各回の授業では、原則約1時間半の講義を受けた後、約30分の質疑・意見交換の時間を設け、これからの自治体改革のあり方について考えていきたい。

2022年度は、「地域づくり」「人材・人事」「住民協働」「地域ビジネス」「デジタル化戦略」などをテーマとして、兵庫県川西市副市長、元東京都総務局長、茨城県西部メディカルセンター病院長、毎日新聞社論説委員、(一財)地域活性化センター人材育成プロデューサー、NPO法人ふくおかNPOセンター代表などを講師に招き、授業を行った。

3. 成績の評価方法/ Grading:

各講義を踏まえての最終レポートの作成（60%）、各授業への貢献状況（質問・意見交換等）（40%）による。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 テキストは用いない。

参考文献は、授業の中で必要に応じ紹介する。

4-2 Council of Local Authorities for International Relations (CLAIR), Local Government in Japan 2020 (2021 Revised Edition)

<https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/jichi2021-en.pdf>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: REG2950J

科目名/Course Name: 食料・農業・農村政策概論

担当教員/Instructor: 埴 靖幸/HANAWA Yasuyuki

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(1) 目的

地域で独自性の高い食料・農業・農村に関する政策を企画・立案するとともに、効果的に実践するための知識・技能を習得することを目的とする。

このため、我が国の食料・農業・農村をめぐる事情に関する基礎的な情報を入手するとともに、食料・農業・農村に関する最新の政策について研究するための授業を行う。

食と農をはじめ地域資源を活用した地域振興は、日本各地の地域で重要な課題となっており、農業政策コース以外の学生の受講も歓迎する。

(2) 講義の進め方

この講義では、食料・農業・農村に関する政策の枠組みと変遷、食料・農業・農村をめぐる主な課題と政策、食料・農業・農村問題の分析視角等について議論する。

また、食料・農業・農村に関する具体的な政策について、農林水産省の政策担当者 等をゲストスピーカーとして招き、最新の政策動向に関する情報提供を受けた上で、地域における政策の企画・立案と効果的な実践に向けて、ゲストスピーカーを交えてディスカッションを行う。

なお、秋学期に開催予定の「食を通じた地域振興論」における実践的な知識・技能 習得との連動を意識して授業を進める。

この講義は、SDGs の以下の目標に関連する。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、15 生態系・森林

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下の内容を取り扱う予定である。後半の具体的な政策に関する講義では、1回につき各政策のうち2テーマ（例えば、6次産業化と知的財産など）の講義の後、ディスカッションを行う予定であるが、初回のガイダンスにおける受講者の要望確認や、ゲストスピーカーの日程調整等により、内容・順序を変更する可能性がある。

ガイダンス、食料・農業・農村に関する政策の枠組みと変遷

食料・農業・農村をめぐる主な課題と政策

食料・農業・農村問題の分析視角

食料産業政策（6次産業化、知的財産、輸出促進、食農分野の標準・認証等）

農業生産・技術政策（水田農業、畜産、園芸、スマート農業、産地育成、動植物防疫等）

農業経営政策（人と農地、就農・人材育成等）

農村政策（農村活性化、農業・農村の多面的機能と日本型直接支払等）

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績評価は、出席及びディスカッションへの貢献（50%）、レポート（50%）を総合して行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1: 必携のテキスト

テキストはなく、各回、授業資料を配布するとともに、参考文献についても、適宜、授業の中でも紹介する。

4-2: その他

ぜひ以下の文献を参照することをお薦めする。

(https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r3/index.html)

食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）

(https://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/attach/pdf/index-13.pdf)

生源寺眞一『農業と人間-食と農の未来を考える』岩波書店

また、特に関心ある政策分野については、以下の文献を参照することをお薦めする。

荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第4版 (岩波テキストブックス)』岩波書店

生源寺眞一編著『改革時代の農業政策—最近の政策研究レビュー』農林統計出版

高橋正郎編著『食料経済-フードシステムからみた食料問題』オーム社

生源寺眞一『続・農業と農政の視野—論理の力と歴史の重み』農林統計出版

小田切徳美編『農山村再生に挑む—理論から実践まで』岩波書店

本間正義『現代日本農業の政策過程（総合研究 現代日本経済分析 3）』慶應義

塾大学出版会

Knutson, R.D. et al. (2007). Agricultural and Food Policy. Pearson Prentice Hall.

Colman, D., & Young, T. (1989). Principles of agricultural economics. Cambridge University Press.

Ellis, F. (1992). Agricultural policies in developing countries. Cambridge University Press.

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG3010E

科目名/Course Name: Local Governance in the Changing World

担当教員/Instructor: 高田 寛文/TAKADA Hirofumi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to furnish students with a deep understanding and practical knowledge of local governance and intergovernmental relationship in a comparative perspective.

The lecture will begin with providing students with idea and knowledge on how it is important to have comparative viewpoints in studying local governance of different countries, followed by lecture series of external lecturers who are experts in local politics, administration and finance of selected countries such as France, UK, USA, Germany, as well as Indonesia, the Philippines, and Thailand.

These lectures by external experts will be held for two consecutive class hours each week.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. April 11: Introduction (only in the 5th class period)

2. April 18: France (Prof. HAJIRO Jun, GRIPS)

3. April 25: UK (Prof. NAIKI Shigeru, Teikyo Univ.)

4. May 2: No class

5. May 9: Indonesia (Prof. OKAMOTO Masaaki, Kyoto Univ.)

6. May 16: USA (Prof. KIKUCHI Masao, Meiji Univ.)

7. May 23: The Philippines (Prof. Emeritus KATAYAMA Yutaka, Kobe Univ.)

8. May 30: Germany (Mr. ISHIKAWA Yoshinori, Research Center for Property Assessment System)

9. June 6: Thailand (Prof. NAGAI Fumio, Osaka Metropolitan Univ.)

No classes on June 13 and following weeks

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be based on contribution to class discussion (30%) and term paper (70%).

More details will be announced later.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

No textbook will be used.

Handouts will be distributed and reference books will be introduced during the classes.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:REG3120J

科目名/Course Name: 「食」を通じた地域振興論

担当教員/Instructor: 埴 靖幸/HANAWA Yasuyuki

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

(1) 目的

農林水産物やその加工品を地域の魅力と位置づけ、農林漁業、食品産業、観光産業等との連携を進めて地域経済を活性化すること（「食」を通じた地域振興）が、地方自治体にとって、重要な課題となっている。

このため、農林水産物の高付加価値化と販路の拡大、ブランド化、6次産業化などの対策を具体的に企画・立案するとともに、効果的に実践するための知識・技能を習得するための授業を行う。

その際、地域の独自性を強みに昇華させる構想力、民間企業等を含む多様な関係者との協働を進めるコーディネート力、これら関係者とのネットワーク構築を重視する。

食と農をはじめ地域資源を活用した地域振興は、日本各地の地域で重要な課題となっており、農業政策コース以外の学生の受講も歓迎する。

(2) 講義の進め方

受講者は、「食」を通じた地域振興対策について、各自で対象とする地域、テーマを選定し、各回の講義を通じて当該テーマに関する考察を深め、最終講義時にその成果をレポートとして発表する。

この講義では、「食」に関連するビジネスの最新動向を踏まえ、より実践的な知識・技能習得を図るため、必要に応じて、小売業、食品製造業、観光業、地域金融機関等の関連産業の実務者、地方自治体の政策担当者をゲストスピーカーとして招き、最新の取組や先進事例に関する情報を収集するとともに、ゲストスピーカーを交えてディスカッションを行うこととする。

この講義は、SDGs の以下の目標に関連する。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、

13 気候変動、15 生態系・森林

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下の内容を取り扱う予定である（全8回、1回 1.5時間×2）。なお、第1回のガイダンスで受講者の要望を確認し、これを踏まえてテーマ、講義回数の追加を行う可能性がある。

ガイダンス、関心の高いテーマに関する意見交換

小売業との連携による地域活性化

食品製造業との連携による地域活性化

観光業との連携による地域活性化

地域金融機関との連携による地域活性化

地域資源を活用した農村づくり

「つながり」に着目した地域産業振興

レポートの発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績評価は、出席及びディスカッションへの貢献（50%）、レポート発表（50%）を総合して行う

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

各回、授業資料を配布する。

4-1：必携のテキスト

ぜひ以下の文献を参照することをお薦めする。

令和3年度食料・農業・農村白書（令和4年5月27日公表）

(https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r3/index.html)

4-2：その他

斎藤修監修、斎藤修・佐藤和憲編『フードチェーンと地域再生（フードシステム学叢書第4巻）』

農林統計出版

神井弘之『食の信頼問題の実践解—フードシステムにおける協働のデザイン—』農林統計出版

Jayson L. Lusk, Jutta Roosen, & Jason Shogren. (2011). The Oxford handbook of the economics of food consumption and policy. Oxford University Press.

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1011J

科目名/Course Name: 国際安全保障

担当教員/Instructor: 兵頭 慎治/HYOUDOU Shinji

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国際安全保障に関する基礎知識を修得した上で、日本を含めた国際社会が直面する安全保障上の課題について概観する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 ウクライナ戦争と国際安全保障

第2回 国際政治学概説

第3回 地政学概説

第4回 戦略論概説

第5回 戦争の本質と軍事力の諸相

第6回 戦略的コミュニケーション

第7回 日本の安全保障

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート (100%)

与えられたテーマに関するレポートを提出する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

なし

第2回

必読

ジョセフ・ナイ、デイヴィット・ウェルチ『国際紛争 理論と歴史』原書第10版、有斐閣、2017年。第一章および第二章。

参考
なし

第3回
必読
別示

参考
ローレンス・フリードマン『戦争の将来』(中央公論新社、2021年)
Lawrence Freedman, *The Future of War: A History*(Public Affairs, 2017)

第4回
必読

- 1 ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』(上)(早川書房、2014年)、第19章、20章[Daniel Kahneman, *Thinking, Fast and Slow*, Chapters 19 and 20.]
- 2 吉崎知典「ウクライナ危機と NATO : 同盟の戦略概念への含意」『CISTEC ジャーナル』No.199 (2022年5月)、179-188頁

参考

- 1 ローレンス・フリードマン『戦略の世界史(下)(2018年) 36-38章 (Lawrence Freedman, *Strategy*, Oxford U.P., 2013, Chapters 36-38) .ナシーム・ニコラス・タレブ『ブラック・スワン』(上・下)ダイヤモンド社、2009年
- 2 吉崎知典「NATO 結束のディレンマ：ウクライナ、ポピュリズム、コロナ危機」『国際安全保障』第48巻第4号(2021年3月) 59-75頁

第5回

必読

石津朋之著『戦争学原論』（筑摩書房、2013年）

参考

石津朋之「戦争の将来像——戦争と社会、そして『時代精神』『海外事情』第65巻4号（2017年4月）

第6回

必読

- 1 『戦略的コミュニケーションと国際政治—新しい安全保障の論理』（日経出版、2022年10月）
- 2 「戦略的コミュニケーションと防衛外交」渡部・西田共編『防衛外交とは何か』（勁草書房、2021年）

参考

なし

第7回

必読

なし

参考

- 1 平和・安全保障研究所『日本の新しい「国家安全保障戦略」等について—分析と評価—』2022年12月
- 2 徳地秀士「新しい「国家安全保障戦略」と今後の日本の課題」『學士會会報』第959号、2023年3月、20—24頁
- 3 徳地秀士「日本の新しい「国家安全保障戦略」について—安全保障政策の大転換？—」『NPI Quarterly』第14巻第2号、2023年4月、10—11頁
- 4 徳地秀士「日米同盟の強化に向けて」『隊友』2023年7月15日、2頁

- 5 Hideshi Tokuchi, Japan's New National Security Strategy and Contribution to a Networked Regional Security Architecture, CSIS, June 23, 2023
- 6 Hideshi Tokuchi, "The Basic Orientation of Japan's National Security Strategy: International Security Cooperation with Enhanced Comprehensive National Power," AJISS Commentary, No. 303, June 26, 2023
- 7 Hideshi Tokuchi, "Japan's New National Security Strategy: Background and Challenges," EUI; RSC; Policy Paper; 2023/05, July 2023
- 8 Hideshi Tokuchi 「Impact of Russian Invasion of Ukraine on East Asian Security」『展望與探索』第 21 卷第 7 期、2023 年 7 月、62—74 頁

第 8 回

必読

なし

参考

なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1013J

科目名/Course Name: 法と安全保障

担当教員/Instructor: 永福 誠也/EIFUKU Seiya

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

安全保障にかかわる憲法、国内防衛法制及び国際法の基本概念や法原則について講義を行い、理解を深める。特に憲法については、日米安保・国際協調主義と9条との関係、国際法については、海洋・空・宇宙など空間にかかわる論点や、紛争解決、武力行使関連問題など様々な論点を扱い、理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 憲法と安全保障 (1)

第2回 憲法と安全保障 (2)

第3回 防衛法制

第4回 国際法 (安全保障をめぐる最近の諸課題と国際法)

第5回 国際法 (紛争の解決と海洋における法の支配の実現)

第6回 国際法 (空・宇宙法)

第7回 国際法 (武力行使関連)

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度 (50%)、レポート (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

1 篠田英朗『はじめての憲法』ちくまプリマー新書、2019年)

2 同『憲法学の病』(新潮新書、2019年)

3 同『ほんとうの憲法』(ちくま新書、2017年)

4 同『国家主権という思想—国際立憲主義への軌跡』

(勁草書房、2012年)

第2回

必読

なし

参考

- 1 篠田英朗『集団的自衛権で日本は守られる』（PHP、2022年）
- 2 同『集団的自衛権の思想史—憲法9条と日米安保』（風行社、2016年）

第3回

第3回

必読

なし

参考

【概説書】

- 1 田村重信編著『新・防衛法制』（内外出版、2018年）
- 2 西修・浜谷英博・高井晋・松浦一夫・富井幸雄『日本の安全保障法制』（内外出版、2001年）
- 3 安田寛『防衛法概論』（オリエント書房、昭和54年）
- 4 宇都宮静男監修『防衛法』（自由国民社、1974年）
- 5 田上穰治、杉村敏正『防衛法』（法律学全集12-II）（有斐閣、1958年）

【テーマ別】

- 1 冷戦下の自衛隊（防衛白書昭和63年版、第3部（HP版））
- 2 国際貢献（防衛白書平成3年版、第3章）
- 3 事態対処法制整備（防衛白書平成17年版、第3章第3節）
- 4 本来任務化（防衛白書平成18年版、第2章第4節）
- 5 平和安全法制整備（防衛白書平成28年版第II部第3章）

第4回

第4回

必読

- 1 中谷和弘「サイバー諜報と国際法」『国際法外交雑誌』第122巻第1号
(2023年5月) 1-21頁。
- 2 同「国際枠組創設も視野に」『日本経済新聞・経済教室』(2023年7月12日)
- 3 同「尖閣諸島、竹島、国際裁判」内閣府：尖閣諸島研究・解説サイト(2020年12月18日)
- 4 同「国際法から見たロシアのウクライナ侵略への対応」『経団連』(2022年7月) 52-53頁。
- 5 同「エストニアのデータ大使館と国際法」『国際法研究』第10号(2022年3月) 186-197頁。
- 6 同「中国による南シナ海の違法な人工島建設の法的結果」
『島嶼研究ジャーナル』第11巻第1号(2021年10月) 18-28頁。

- 7 同「米国法と中国法の域外適用の板挟みになる日本企業」『国際商事法務』第49巻第4号（2021年）455-460頁。
- 8 同「タリンマニュアルについて」『情報処理』第61巻第7号（2020年7月）25-30頁。
- 9 同「南シナ海比中仲裁判断と海洋における法の支配」『国際問題』No.659（2017年3月）1-3頁。

- 10 同「ホルムズ海峡と国際法」坂元茂樹編著『国際海峡』（東信堂、2015年）129-155頁。
- 11 中谷和弘「ロシアのクリミア編入と国際法」『論究ジュリスト（2014年春号）』No.9（2014年）130-135頁。
- 12 同「米中軍用機接触事件と国際法」『法学教室』No.252（2001年9月）49-54頁。

参考

なし。

必読

なし

第5回

参考

- 1 浅田正彦編『国際法（5版）』（東信堂、2022年）231-261頁。
- 2 岩沢雄司『国際法』（東京大学出版会、2020年）607-684頁。
- 3 山本草二『海洋法』（三省堂、1992年）。
- 4 李禎之「南シナ海仲裁手続きの訴訟法的含意」『国際法外交雑誌』第117巻第2号、2018年8月、30-49頁。
- 5 永福誠也「裁判と裁判外紛争解決」『防衛研究所ブリーフィング・メモ』（2017年5月号）。
- 6 J. Crawford, *Brownlie's Principles of International Law* (9th ed.), Oxford University Press, 2019, pp. 692-716.
- 7 D. R. Rothwell and T. Stephens, *The International Law of the Sea* (2nd ed.), Hart Publishing, 2016.
- 8 R. R. Churchill and A.V. Lowe, *The Law of the Sea* (3rd ed.), Manchester

University Press, 1999.

第6回

必読

- 1 橋本靖明「宇宙と安全保障の歴史」渡邊浩崇編著『宇宙の研究開発利用の歴史 日本はいかに取り組んできたか』（大阪大学出版会、2022年）149-179頁。
- 2 杉原高嶺『国際法学講義』（有斐閣、2008年）第13章（351-359頁）。

参考

なし

第7回

必読

なし

参考

- 1 浅田正彦「ウクライナ戦争と国際法」浅田正彦・玉田大編著『ウクライナ戦争と』（東信堂、2023年）5-37頁。
- 2 黒崎将広他『防衛実務国際法』（弘文堂、2021年）505-527頁。
- 3 浅田正彦編『国際法（5版）』（東信堂、2022年）231-261頁。
- 4 岩沢雄司『国際法』（東京大学出版会、2020年）693-764頁。
- 5 オスカー・シャクター『現代国際法の理論と実践』長谷川正国訳（信山社、2020年）133-226、465-497頁。

6 Emily Crawford and Alison Pert, *International Humanitarian Law* (2nd ed.), Cambridge University Press, 2020.

7 Oscar Schachter, *International Law in Theory and Practice*, Mrtinus Nijhoff, 1991, pp. 106-183, 389-417.

第8回

必読

なし

参考
なし

5. 履修上の注意/Note:
特になし。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1014J

科目名/Course Name: 経済と安全保障

担当教員/Instructor: 富川 英生/TOMIKAWA Hideo

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

わが国の安全保障に関する総合的な考察の資とするため、経済の観点から国際関係を分析・把握するとともに、その基礎的方法を習得する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 導入講義「経済と安全保障（経済基礎・国際政経論）」

第2回 経済基礎（1）「人（人口動態）」

第3回 経済基礎（2）「モノ（資源・エネルギー）」

第4回 経済基礎（3）「お金（国際金融・通貨市場）」

第5回 経済基礎（4）「流通（国際物流）」

第6回 共同研究導入講義「中国の経済外交政策」

第7回 共同研究（1）「第1回討議」

第8回 共同研究（2）「第2回討議」

第9回 共同研究（3）「第3回討議」

第10回共同研究（4）「第4回討議」

第11回まとめ「共同研究成果発表会」

3. 成績の評価方法/ Grading:

まとめ「共同研究発表会」での発表内容（50%）

課題レポート（持ち帰り式）（50%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

T B A

参考

T B A

第2回

必読

T B A

参考

T B A

第3回

必読

柴田明夫『今、資源に迫っている危機』（T A C出版、2013年）

参考

1 柴田明夫『図解 世界の資源地図』（中経出版、2012年）

2 柴田明夫『食糧危機が日本を襲う！』（角川S S C新書、2011年）

3 柴田明夫『日本は世界一の「水資源・水技術」大国』（講談社プラスアルファ新書、2011年）

4 柴田明夫『「シェール革命」の夢と現実』（PHP研究所、2013年）

5 柴田明夫、中田雅彦、大場紀章、星野克美共著『コロナ後を襲う世界7大危機 石油・メタル・食糧・気候の危機が世界経済と人類を脅かす』（NextPublishing Authors Press、2021年）

第4回

必読

棚瀬順哉「国際収支の基礎・理論・諸問題」

（財経詳報社 2019年12月）

参考

吉川雅幸「ドルリスクー米国発世界金融危機のゆくえー」

（日経ビジネス人文庫、2009年）

第5回

必読

T B A

参考

T B A

第6回

必読

T B A

参考

- 1 「転換期にある「一带一路」構想と経済外交」
(松本はる香編著『<米中新冷戦>と中国外交』所収、白水社、2020年)
- 2 大西康雄「転機の一帯一路構想」
(『「一带一路」建設と日中第三国市場協力』、中国社会科学出版社、2020年)

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

必読

- 1 丸川和雄・梶谷懐 [著]『超大国・中国のゆくえ4—経済大国化の軋みとインパクト』(2015年, 東京大学出版会)
序章、終章(1-18、211-225頁)。
- 2 内閣府「(1) 景気の拡大テンポが緩やかになる中国経済」
『世界経済の潮流2014年I』第1章第2節3アジア経済
(平成26年6月) 83-95頁。

http://www5.cao.go.jp/j-j/sekai_chouryuu/sh14-01/pdf/s1-14-1-2-3-1.pdf

http://www5.cao.go.jp/j-j/sekai_chouryuu/sh14-01/pdf/s1-14-1-2-3-2.pdf

参考

- 1 IMF (2015), Peoples Republic of China: 2015 Article IV Consultation,

<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2015/cr15234.pdf>

2 各班のテーマ決めなどの参考として、Keizaireport.com 等で中国経済・世界経済に関するレポートを検索

<http://www3.keizaireport.com/report.php/-/node=65/>

https://www.mof.go.jp/pri/research/conference/china_research_conference/index.htm

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1015J

科目名/Course Name: 米国の安全保障政策

担当教員/Instructor: 新垣 拓/ARAKAKI Hiromu

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

米国の安全保障政策の展開と課題を分析し、我が国を含む東アジアの安全保障に対するインプリケーションを考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 米国の国防政策

第2回 米国の内政と安全保障政策

第3回 米国の対中政策

第4回 米国の新領域安全保障

第5回 米国の外交と安全保障政策

第6回 米国の宇宙政策

第7回 米国の軍事戦略

第8回 米国の財政

3. 成績の評価方法/ Grading:

「米国の安全保障政策」に関連したテーマ（これに関係するものであれば、具体的なトピックの選定は自由）で、A4×5 枚程度のペーパーを作成し、2024年1月10日（水）正午までに担当者（arakaki-h@nids.go.jp）に送付すること。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

高橋杉雄「安全保障政策」『アメリカの外交政策—歴史・アクター・メカニズム』（ミネルヴァ書房、2010年）。

参考

高橋杉雄「財政緊縮化の米軍とアジア太平洋地域の抑止態勢」『国際安全保障』第41巻第3号（2013年12月）

第2回

必読

なし

参考

なし

第3回

必読

TBA

参考

なし

第4回

必読

なし

参考

Joint Chiefs of Staff, "Joint Electromagnetic Spectrum Operations," Joint Publication 3-85 (May 22, 2020). [https://www.jcs.mil/Portals/36/Documents/Doctrine/pubs/jp3_85.pdf]

2. Bryan Clark, Mark Gunzinger, and Jesse Sloman, "Winning in the Gray Zone: Using Electromagnetic Warfare to Regain Escalation Dominance," (CSBA, 2017). [<https://csbaonline.org/research/publications/winning-in-the-gray-zone-using-electromagnetic-warfare-to-regain-escalation>]

第5回

必読

TBA

参考
なし

第6回
必読
TBA

参考
なし

第7回
必読
なし

参考

1. 菊地茂雄「中国の軍事的脅威に関する認識変化と米軍作戦コンセプトの展開——統合全ドメイン指揮統制（JADC2）を中心に——」『安全保障戦略研究』第2巻第2号（2022年3月）23～62頁

2. 菊地茂雄「沿海域作戦に関する米海兵隊作戦コンセプトの展開—「前方海軍基地」の「防衛」と「海軍・海兵隊統合（Naval Integration）」—」『安全保障戦略研究』第1巻第1号（2020年8月）55～81頁

3. 菊地茂雄「米陸軍・マルチドメイン作戦（MDO）コンセプト—「21世紀の諸兵科連合」と新たな戦い方の模索—」『防衛研究所紀要』第22巻第1号（2019年11月）15～58頁

第8回
必読
なし

参考
なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1016J

科目名/Course Name: 東アジアの安全保障 1

担当教員/Instructor: 山口 信治/YAMAGUCHI Shinji

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

中国の安全保障政策の展開を分析し、東アジアの戦略環境に与える影響を考察する。この際、偏見や誤解を避けた等身大の中国を理解するために必要な基礎知識に加え、東アジア地域と我が国のインプリケーションを持つかを重視しつつ、理解を促進する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 中国の安全保障戦略

第2回 現代中国の軍事・国防

第3回 中国の海洋戦略

第4回 国際社会の中の中国

第5回 中国の新領域をめぐる安全保障

第6回 台湾の政治社会

第7回 日中関係

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度 (30%)、レポート (70%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

1 山口信治「中国の目指す覇権と国際秩序とはなにか」

2 テイラー・フレイヴェル『中国の領土紛争：武力行使と妥協の論理』（勁

草書房、2019年）

第2回

必読

- 1 杉浦康之「国防政策」『現代中国入門』（ちくま書房 2017年）
- 2 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮社 2017年）

参考

- 1 塩沢英一『中国人民解放軍の実力』（筑摩書房 2012年）

第3回

必読

- 1 飯田将史「第10章：南シナ海へ進出する中国の狙いとその影響」加茂具樹編『中国は「力」をどう使うのか』（一藝社、2023年）

参考

- 1 飯田将史『海洋へ膨張する中国』（角川SSC新書、2013年）
- 2 飯田将史「人民解放軍の『進化』とインド太平洋の安全保障」『外交』第76巻（2022年11・12月）
- 3 トシ・ヨシハラ、ジェイムズ・R・ホームズ（山形浩生訳）『太平洋の赤い星』（バジリコ株式会社、2014年）

第4回

必読

- 1 増田雅之「中国の国際秩序構想と大国間競争」増田雅之編著『大国間競争の新常態』（インターブックス、2023年）

参考

- 1 増田雅之「パワー・トランジション論と中国の対米政策」『神奈川大学アジア・レビュー』第2号（2015年3月）
- 2 『中国安全保障レポート2020—ユーラシアに向かう中国』
- 3 増田雅之編著『ウクライナ戦争の衝撃』（インターブックス、2022年）

第5回

必読

なし

参考

- 1 『中国安全保障レポート2021 新時代における中国の軍事戦略』
- 2 八塚正晃「中国人民解放軍の智能化戦争」『安全保障戦略研究』（防衛研究

所、2020年)

第6回

必読

なし

参考

- 1 野島剛『台湾とは何か』（筑摩書房、2016年）
- 2 佐橋亮『米中対立—アメリカの戦略転換と分断される世界』（中公新書、

2021年)

第7回

必読

国分良成他編『日中関係史』（有斐閣 2013年）

参考

高原明生・服部龍二編『日中関係史 1972-2012 政治』（東京大学出版会 2012

年）

第8回

必読

なし

参考

なし

5. 履修上の注意/Note:

単位が必要なものは必ずレポートを提出すること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1017J

科目名/Course Name: 戦争史原論

担当教員/Instructor: 庄司 潤一郎/SHOJI Junichiro

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

安全保障問題・防衛政策を検討する際に必要とされる戦争史の基礎を考察する。特に、21世紀における世界の戦略環境及び日本の安全保障問題を理解するために、戦争の本質について歴史的観点から多角的に検討を加える。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 戦争と国家

第2回 戦争と社会

第3回 戦争と歴史認識

第4回 戦争と情報

第5回 戦争と技術

第6回 戦争と宗教

第7回 戦争と追悼

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末試験 (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

第1回

必読

1 長尾雄一郎「戦争と国家」加藤朗他著『戦争—その展開と抑制』（勁草書房、1997年）、1-21頁

2 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」『増補版 現代政治の思想と行動』（未来社、1964年）、11-28頁

参考

1 マイケル・ハワード『改訂版・ヨーロッパ史における戦争』（中公文庫、

2010 年)

第 2 回

第 2 回

必読

- 1 石津朋之『戦争学原論』（筑摩書房、2013 年）、208-249 頁
- 2 石津朋之「総力戦と社会の変化」三宅正樹他編『総力戦の時代』（検証 太平洋戦争とその戦略 1）（中央公論新社、2013 年）、59-95 頁

参考

- 1 石津朋之『リベラールとリベラルな戦争観』（中央公論新社 2008 年）
- 2 マーチン・ファン・クレフェルト（石津朋之監訳）『戦争の変遷』（原書房 2011 年）
- 3 アザー・ガット（石津朋之他監訳）『文明と戦争』上下巻（中央公論新社、2012 年）

第 3 回

必読

- 1 庄司潤一郎「戦後日本における歴史認識」『防衛研究所紀要』第 4 巻第 3 号（2002 年 2 月）、100-119 頁
- 2 庄司潤一郎「『日中歴史共同研究』を振り返って」笠原十九司編『戦争を知らない国民のための日中歴史認識』（勉誠出版、2010 年）、93-118 頁
- 3 庄司潤一郎「歴史認識をめぐる日本外交」『国際政治』第 170 号（2012 年 10 月）

参考

- 1 波多野澄雄『日本の歴史問題 改題新版－「帝国」の清算から靖国、慰安婦問題まで』（中公新書、2022 年）
- 2 大沼保昭『「歴史認識」とは何か－対立の構図を超えて』（中公新書、2015 年）
- 3 庄司潤一郎「日本における戦争呼称に関する問題の一考察」『防衛研究所紀要』第 4 巻第 3 号（2002 年 2 月）

紀要』第13巻第3号(2011年3月)、44-79頁

第4回

必読

- 1 小谷賢『インテリジェンス』(ちくま学芸文庫、2012年)、第1～第3章
- 2 清水亮太郎「ストックホルム発・ヤルタ緊急電は東京に届いたのか」『NIDS
コメンタリー』第264号(2023年7月)

参考

- 1 ジョン・キーガン『情報と戦争』(中央公論新社、2018年)
- 2 森山優『日米開戦と情報戦』(講談社現代新書、2016年)

第5回

必読

- 1 石津朋之「軍事史から見た戦争の決定要因」『中央公論』第133巻第9号
(2019年8月)
- 2 道下徳成「戦争と技術」加藤朗他著『戦争—その展開と抑制』(勁草書房、
1997年)、78-121頁
- 3 石津朋之『戦争学原論』(筑摩書房、2013年)、169-206頁

参考

- 1 ジョン・キーガン『戦略の歴史』(心交社、1997年)
- 2 ウィリアム・マクニール『戦争の世界史』(刀水書房、2002年)
- 3 石津朋之他編『戦略原論—軍事と平和のグランド・ストラテジー』(日本
経済新聞社、2010年)

第6回

必読

- 1 石津朋之「宗教と戦争」『戦史研究年報』第23号(2020年3月)
- 2 A. ジョティシユキー(森田安一訳)『十字軍の歴史』(刀水書房、2013年)

参考

- 1 山内進『十字軍の思想』(筑摩書房、2003年)

社、2015年)

- 2 スティーブン・ピンカー (幾島幸子他訳) 『暴力の人類史』 上下巻、(青土

- 3 石津朋之 『戦争学原論』 (筑摩書房、2013年)、127-168頁

第7回

必読

- 1 朝日新聞社取材班 『戦争責任と追悼』 (朝日新聞社、2006年)、第3部
- 2 島田裕巳 『靖国神社』 (幻冬舎新書、2014年)

参考

- 1 加地伸行他著 『靖国神社をどう考えるか?』 (小学館文庫、2001年)
- 2 上坂冬子 『戦争を知らない人のための靖国問題』 (文春新書、2006年)
- 3 秦郁彦 『靖国神社の祭神たち』 (新潮選書、2010年)

第8回

必読

なし

参考

なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1018J

科目名/Course Name: 冷戦と日本の安全保障政策

担当教員/Instructor: 立川 京一/TACHIKAWA Kyoichi

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

冷戦期における国際政治上の諸事象と日本の安全保障政策の歴史的展開に関する知識を修得し、将来の防衛政策を探求する際の資とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 冷戦概論

第2回 ヨーロッパの冷戦

第3回 アジアの冷戦

第4回 朝鮮戦争・ヴェトナム戦争

第5回 日本の安全保障政策（1）

（戦後安全保障政策の形成）

第6回 日本の安全保障政策（2）

（高度成長から大綱・ガイドラインへ）

第7回 日本の安全保障政策（3）

（新冷戦と日本のグローバル・コミットメント）

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末レポート（100%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

第1回

必読

- 1 滝田賢治「冷戦概念と現代国際政治史—日米における議論を基礎に—」細谷千博・丸山直起編『ポスト冷戦期の国際政治』（有信堂、1993年）2-24頁
- 2 田中明彦『新しい中世—相互依存深まる世界システム—』（日経ビジネス人文庫、日本経済新聞社、2003年）15-42頁

参考

- 1 マイケル・L・ドックリル、マイケル・F・ホプキンズ『冷戦1945-1991』（岩波書店、2009年）
- 2 佐々木卓也『冷戦—アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い—』（有斐閣、2011年）
- 3 ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ『国際紛争—理論と歴史—』[原書第10版]（有斐閣、2017年）
- 4 松岡完・広瀬佳一・竹中佳彦編『冷戦史—その起源・展開・終焉と日本—』（同文館出版、2003年）
- 5 松岡完『20世紀の国際政治—二度の世界大戦と冷戦の時代—』[改訂増補版]（同文館出版、2003年）
- 6 ルイス・J・ハレー『歴史としての冷戦』（サイマル出版会、1967年）
- 7 O・A・ウェスタッド『グローバル冷戦史—第三世界への介入と現代世界の形成—』（名古屋大学出版会、2010年）
- 8 Jonathan Haslam, *Russia's Cold War: From the October Revolution to the Fall of the Wall* (New Haven: Yale University Press, 2011)
- 9 細谷雄一編著『戦後アジア・ヨーロッパ関係史—冷戦・脱植民地化・地域主義—』（慶應義塾大学出版会、2015年）
- 10 ロバート・マクマン『冷戦史』青野利彦監訳、平井和也訳（勁草書房、2018年）
- 11 モーリス・ヴァイス『戦後国際関係史—二極化世界から混迷の時代へ—』細谷雄一・宮下雄一郎監訳（慶應義塾大学出版会、2018年）
- 12 O・A・ウェスタッド『冷戦—ワールド・ヒストリー—』（上・下）益田実監訳、山本健・小川浩之訳（岩波書店、2020年）

第2回

必読

塩川伸明『冷戦終焉 20 年』（勁草書房、2010 年）107-141 頁。

参考

- 1 吉崎知典「冷戦と安全保障秩序の再構築－1945～59 年－」臼井実穂子編『ヨーロッパ国際体系の史的展開』（南窓社、2000 年）120-146 頁
- 2 金子讓『NATO 北大西洋条約機構の研究』（彩流社、2008 年）
- 3 渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣、2002 年）
- 4 ウォルター・ラカー『ヨーロッパ現代史』（全三巻）（芦書房、1998～2000 年）
- 5 佐瀬昌盛『NATO－21 世紀からの世界戦略－』（文芸春秋社、1999 年）
- 6 植田隆子編『現代ヨーロッパ国政政治』（岩波書店、2003 年）
- 7 ジョン・L・ギャディス「ロング・ピース－冷戦史の証言『核・緊張・平和』－」（芦書房、2002 年）375-422 頁
- 8 John Lewis Gaddis, *The Long Peace: Inquiries into the History of the Cold War* (Oxford: Oxford University Press, 1987), pp. 215-245
- 9 ジョン・L・ギャディス『歴史としての冷戦－力と平和の追求－』（慶應義塾大学出版会、2004 年）43-87 頁
- 10 ヴォイチェフ・マストニー『冷戦とは何だったのか－戦後政治史とスターリン－』（柏書房、2000 年）

第3回

必読

国分良成「東アジアにおける冷戦とその終焉」鴨武彦編『講座世紀間の世界政治 3 アジアの国際秩序－脱冷戦の影響－』（日本評論社、1993 年）36-91 頁

参考

- 1 下斗米伸夫『アジア冷戦史』（中央公論新社、2004 年）
- 2 マイケル・シャラー『アジアにおける冷戦の起源－アメリカの対日占領－』（木鐸社、1996 年）
- 3 マイケル・シャラー『「日米関係」とは何だったのか－占領期から冷戦終結後まで－』（草思社、2004 年）
- 4 赤木完爾・今野茂充編著『戦略史としてのアジア冷戦』慶應義塾大学出版会、2013 年。
- 5 Tsuyoshi Hasegawa, ed., *The Cold War in East Asia, 1945-1991* (Washington, D.C.: Woodrow Wilson Center Press, 2011)

- 6 原貴美恵『サンフランシスコ平和条約の盲点—アジア太平洋地域の冷戦と「戦後未解決の諸問題」—』(溪水社、2005年)
- 7 立川京一「日本とアジアにおける初期の冷戦」『戦史研究年報』第8号(2005年3月)

第4回

必読

ジョン・L・ギャディス『歴史としての冷戦—力と平和の追求—』(慶應義塾大学出版会、2004年) 89-135頁、247-266頁

参考

- 1 神谷不二『朝鮮戦争—米中対決の原形—』(中央公論社、1966年)
- 2 赤木完爾編著『朝鮮戦争—休戦50周年の検証・半島の内と外から—』(慶應義塾大学出版会、2003年)
- 3 赤木完爾「朝鮮戦争史研究の10年」『軍事史学』第46巻第1号(2010年6月)
- 4 『朝鮮戦争と日本』(防衛研究所、2013年)
- 5 赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源—アイゼンハワー政権と第一次インドシナ戦争—』(慶應通信、1991年)
- 6 松岡完『ベトナム戦争—誤算と誤解の戦場—』(中央公論新社、2001年)
- 7 ジョージ・C・ヘリング『アメリカの最も長い戦争』全2冊、秋谷昌平訳(講談社、1986年)

第5回

必読

五百旗頭真編『戦後日本外交史〔第3版補改訂〕』(有斐閣、2014年) 第1章～2章[Makoto Iokibe ed., *The Diplomatic History of Postwar Japan* (NY: Routledge, 2011), Chapter 1 & 2]

参考

- 1 植村秀樹『再軍備と55年体制』(木鐸社、1995年)
- 2 坂元一哉『日米同盟の絆—安保条約と相互性の模索〔増補版〕』(有斐閣、2020年)
- 3 中島信吾『戦後日本の防衛政策—「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』(慶應義塾大学出版会、2006年)
- 4 増田弘『自衛隊の誕生—日本の再軍備とアメリカ』(中央公論新社、20

04年)

- 5 読売新聞戦後史班編『「再軍備」の軌跡』（読売新聞社、1981年）

第6回

第6回

必読

五百旗頭真編『戦後日本外交史〔第3版補改訂〕』（有斐閣、2014年）第3章～4章[Makoto Iokibe ed., *The Diplomatic History of Postwar Japan* (NY: Routledge, 2011), Chapter 3 & 4]

参考

- 1 五百旗頭真編『日米関係史』（有斐閣、2008年）
- 2 真田尚剛『「大国日本」の防衛政策—防衛大綱に至る過程 1968～1976年』（吉田書店、2021年）
- 3 千々和泰明『安全保障と防衛力の戦後史 1971～2010 「基盤的防衛力構想」の時代』（千倉書房、2021年）
- 4 特集『「防衛計画の大綱」の多角的研究』『国際安全保障』第44巻第3号（2016年12月）
- 5 田中明彦『20世紀の日本 2 安全保障』（読売新聞社、1997年）
- 6 中島信吾『戦後日本の防衛政策—「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事—』（慶應義塾大学出版会、2006年）
- 7 吉田真吾『日米同盟の制度化—発展と深化の歴史過程』（名古屋大学出版会、2012年）

第7回

第7回

必読

1 Narushige Michishita, "The U.S. Maritime Strategy in the Pacific during the Cold War," in Sebastian Bruns and Sarandis Papadopoulos, eds., *Conceptualizing Maritime and Naval Strategy: Festschrift for Peter M. Swartz, Captain (USN) retired* (Baden-Baden: Nomos, 2020)

2 Narushige Michishita, Peter M. Swartz, and David F. Winkler, *Lessons of the Cold War in the Pacific: U.S. Maritime Strategy, Crisis Prevention, and Japan's Role* (Woodrow Wilson Center, 2016), https://www.wilsoncenter.org/sites/default/files/media/documents/publication/lessons_of_the_cold_war_in_the_pacific_one_page.pdf

参考

- 1 Michael J. Green, "The Search for an Active Security Partnership: Lessons from the 1980s," in Akira Iriye and Robert A. Wampler, eds., *Partnership: the United States and Japan, 1951-2001* (Tokyo: Kodansha International, 2001), pp. 135-160
- 2 マイケル・ジョナサン・グリーン「能動的な協力関係の構築に向けて—冷戦後の同盟漂流に対する 80 年代の教訓」入江昭、ロバート・A・ワンプラー編『日米戦後関係史 1951～2001』細谷千博、有賀貞訳、講談社インターナショナル、2001 年
- 3 西村繁樹『防衛戦略とは何か』PHP 新書、2012 年、第 2、3、8、9 章
- 4 John F. Lehman, Jr., *Oceans Ventured: Winning the Cold War at Sea* (Norton, 2018)
- 5 Narushige Michishita, Peter Swartz, and David Winkler, "U.S.-Japan Military Strategies in the Pacific (video)," C-SPAN, March 7, 2016, <http://www.c-span.org/video/?406041-1/usjapan-military-strategies-Pacific>
- 6 外岡英俊、本田優、三浦俊章『日米同盟半世紀—安保と密約—』朝日新聞社、2001 年（『新冷戦』の到来」章）
- 7 「日米安保 第二部 共同作戦計画」『朝日新聞』1996 年 9 月 2-6 日
- 8 朝日新聞「自衛隊 50 年」取材班『自衛隊—知られざる変容—』（朝日新聞社、2005 年）第 7 章、283-326 頁
- 9 西村繁樹『「戦略」の強化書』（芙蓉書房出版、2009 年）、325-357 頁、385-415 頁
- 10 大賀良平、竹田五郎、永野茂門『シンポジウム 日米共同作戦—日米対ソ連の戦い』防衛選書 3、麴町書房、1982 年。
- 11 「冷戦期の『海洋戦略』における核兵器の役割—太平洋戦域を中心に」核不拡散体制の成立と安全保障政策の再定義 第 5 回公開研究会、政策研究大学院大学、2018 年 2 月 10 日
- 12 John B. Hattendorf, *The Evolution of the U.S. Navy's Maritime Strategy, 1977-1986*, Naval War College Newport Papers 19 (Newport, Rhode Island: Naval War College, 2004)
- 13 道下徳成「第 8 章 インド太平洋地域のパワーシフト—中国の台頭と日本の対応」庄司潤一郎、石津朋之共編『地政学原論』日本経済新聞出版、2020 年
- 14 Narushige Michishita, "Japan's Grand Strategy for a Free and Open Indo-Pacific," *The Oxford Handbook of Japanese Politics* (Oxford University Press, 2021)
- 15 板山真弓『日米同盟における共同防衛体制の形成—条約締結から「日米防衛協力のための指針」策定まで』ミネルヴァ書房、2020 年
- 16 防衛研究所および政策研究大学院大学の各種オーラル・ヒストリー
- 17 道下徳成「太平洋戦域における軍事作戦の変遷—冷戦期と現在の経空攻撃作戦をめぐる攻防を中心に」『エア・アンド・スペース・パワー研究』2020 年 12 月号

なし

参考
なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1021J

科目名/Course Name: 紛争と国際社会

担当教員/Instructor: 大西 健/ONISHI Ken

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

紛争及び紛争への国際社会の関与の理論と実践を多角的に考察する。平和維持活動をはじめとする国際的関与の様々な形態や、その背景となる諸問題及び理論にも検討を加える。また、この文脈で重要性を増しつつあるアフリカの紛争についても理解を深める機会とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 国際機構と安全保障

第2回 アフリカと紛争

第3回 難民問題の現状

第4回 平和維持活動

第5回 人道支援

第6回 文民による平和構築

第7回 治安部門改革・能力構築

第8回 現代紛争管理の諸問題及びまとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度（20%）及び課題（80%）

課題：必読文献の一つを取り上げ、本講座で扱った内容（講義内容、他の文献読解）を踏まえながら 自身の視点で議論を行う。長さは2,000字（英語では1,000ワード）以上とし、授業最終回の1週間後に提出する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

第1回

必読

1 山田哲也『国際機構論入門』（東京大学出版会、2018年）第4章、第5章

2 山田哲也「国連による平和構築と移行期正義—軌跡と展望」『国際問題』

No.654（2016年9月）、29-36頁

3 納家政嗣『国際紛争と予防外交』（有斐閣、2003年）第1章

参考

- 1 山田哲也『国連が創る秩序—領域管理と国際組織法』（東京大学出版会、2010年）
- 2 遠藤誠治、遠藤乾編『安全保障とは何か（シリーズ日本の安全保障 1）』（岩波書店、2014年）
- 3 篠田英朗『パートナーシップ国際平和活動—変動する国際社会と紛争解決』（勁草書房、2021年）

第2回

第2回

必読

- 1 武内進一「アフリカの紛争と国際社会」武内進一編『戦争と平和の間：紛争勃発後のアフリカと国際社会』（アジア経済研究所、2008年）3-56頁
- 2 落合雄彦編『アフリカ安全保障論入門』（晃洋書房、2019年）43-75頁

参考

- 1 武内進一編『現代アフリカの紛争—歴史と主体』（アジア経済研究所、2000年）
- 2 武内進一編『国家・暴力・政治—アジア・アフリカの紛争をめぐって』（アジア経済研究所、2003年）
- 3 武内進一編『戦争と平和の間—紛争勃発後のアフリカと国際社会』（アジア経済研究所、2008年）
- 4 白戸圭一『ルポ資源大陸アフリカ—暴力が結ぶ貧困と繁栄』（東洋経済新報社、2009年）
- 5 セルジュ・ミシエル、ミシエル・ブーレ（中平信也訳）『アフリカを食い荒らす中国』（河出書房新社、2009年）
- 6 P・コリアー『民主主義がアフリカ経済を殺す』（日経BP、2010年）

- 7 『アジア研ワールド・トレンド』第205号(2012年10月)
- 8 遠藤貢『崩壊国家と国際安全保障—ソマリアにみる新たな国家像の誕生』
(有斐閣 2015年)
- 9 落合雄彦編『アフリカ安全保障論入門』(晃洋書房、2019年)
- 10 廣瀬陽子『ハイブリッド戦争—ロシアの新しい国家戦略』(講談社現代新書、2021年)第5章

第3回

必読

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)『緊急対応ハンドブック』(第二版)第I章第二節「保護」10-27頁

https://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/10/1_38.pdf

(参考:『緊急対応ハンドブック』全文 <https://www.unhcr.org/jp/handbook>)

参考

1 https://www.unhcr.org/jp/wp-content/uploads/sites/34/2017/10/1_38.pdf

(参考:『緊急対応ハンドブック』全文 <https://www.unhcr.org/jp/handbook>)

2 UNHCR グローバルトレンド2020の概要(英語)

<https://www.unhcr.org/flagship-reports/globaltrends/>

(グローバルトレンド2020全文 <https://www.unhcr.org/60b638e37/unhcr-global-trends-2020>)

3 UNHCR Data Portal

[https://data2.unhcr.org/en/situations#_ga=2.170791776.1158965103.1635136605-](https://data2.unhcr.org/en/situations#_ga=2.170791776.1158965103.1635136605-1723534324.1633571664)

[1723534324.1633571664](https://data2.unhcr.org/en/situations#_ga=2.170791776.1158965103.1635136605-1723534324.1633571664)

第4回

必読

上杉勇司、藤重博美編著『国際平和協力入門—国際社会への貢献と日本の課題』
(ミネルヴァ書房、2018年)21-39、42-62頁

参考

1 Alex J. Bellamy and Paul D. Williams, *Understanding Peacekeeping*, 2nd ed. (Polity, 2010), pp.71-152

2 山下光「人道的介入と平和維持活動—軍事力の新たな役割」石津朋之、永末聡、塚本勝也編著『戦略原論—軍事と平和のグランド・ストラテジー』(日本経済新聞社、2010年)386-

3 James Sloan, "The Evolution of the Use of Force in UN Peacekeeping," *The Journal of Strategic Studies*, vol.37, no.5 (2014)

第 5 回

第 5 回

必読

1 長有紀枝編『スレブレニツァ・ジェノサイド—25 年目の教訓と課題』（東信堂、2020 年）198-241 頁

2 長有紀枝「人道支援における『独立』概念をめぐる一考察」日本赤十字国際人道研究センター『人道研究ジャーナル Vol.6』（東信堂、2017 年）40—54 頁

<https://osayukie.com/webook/booklet1>

参考

1 長有紀枝編『スレブレニツァ・ジェノサイド—25 年目の教訓と課題』（東信堂、2020 年）

2 長有紀枝『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』（中公新書 2012 年）

3 国連総会決議 A/RES/46/182

<http://www.un.org/documents/ga/res/46/a46r182.htm>

4 UNHCR "Global Trends Forced Displacement in 2017"

<http://www.unhcr.org/5b27be547.pdf>

5 「国際赤十字と NGO の行動規範」(The Code of Conduct for the International Red Cross and Red Crescent Movement and Non-Governmental Organizations (NGOs) in Disaster Relief) .

<http://www.ifrc.org/Global/Publications/disasters/code-of-conduct/code-english.pdf>

6 Mary Anderson, *Do No Harm : How Aid Can Support Peace-Or War* (Lynne

Rienner Publishers, 1999) 邦訳『諸刃の援助』（明石書店、2006年）

第6回

必読

なし

参考

- 1 篠田英朗『パートナーシップ国際平和活動—変動する国際社会と紛争解決』（勁草書房、2021年）
- 2 篠田英朗『紛争解決ってなんだろう』（ちくまプリマー新書、2021年）
- 3 篠田英朗『平和構築入門—その思想と方法を問いなおす』（ちくま新書、2013年）

第7回

必読

上杉勇司、藤重博美、吉崎知典編『平和構築における治安部門改革』（国際書院、2012年）序論（15-21頁）、第1章（25-36頁）、第2章（37-47頁）

参考

- 1 Stephen Watts et al., "Reforming Security Sector Assistance for Africa," RAND Corporation, 2018,
https://www.rand.org/pubs/research_briefs/RB10028.html
- 2 Kristen A. Harkness, "Security Assistance in Africa: The Case for More," Parameters, vol.45, no.2 (2015): pp.13-24
- 3 Kersti Larsdotter, "Security Assistance in Africa: The Case for Less," Parameters, vol.45, no.2 (2015): pp.25-34
- 4 Stephen Biddle, "Building Security Forces & Stabilizing Nations: The Problem of Agency," Daedalus vol.146, no.4 (2017): pp.126-138

第8回

必読

なし

参考

Virginia Page Fortna and Lise Morje Howard, "Pitfalls and Prospects in the Peacekeeping Literature," *Annual Review of Political Science*, vol.11 (2008)

<https://www.annualreviews.org/doi/abs/10.1146/annurev.polisci.9.041205.103022>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1022J

科目名/Course Name: 軍備管理・軍縮・不拡散

担当教員/Instructor: 塚本 勝也/TSUKAMOTO Katsuya

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

昨今の安全保障問題を理解するために必要な軍備管理・軍縮・不拡散の現状を理解するとともに、その課題を考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 軍備管理・軍縮・不拡散と安全保障

第2回 核戦略理論

第3回 核兵器の不拡散

第4回 ミサイルの拡散問題

第5回 化学兵器の禁止

第6回 生物兵器の禁止

第7回 通常兵器の制限と削減

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、①授業への貢献度（30%）②まとめの際のプレゼンテーション（70%）によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

第1回

必読

1 納家政嗣「安全保障と軍備管理」浅田正彦・戸崎洋史編『核軍縮不拡散の法と政治』（信山社、2008年）

2 納家政嗣「大量破壊兵器不拡散の思想と展開」納家政嗣・梅本哲也編『大量破壊兵器不拡散の国際政治学』（有信堂、2000年）

参考

石川卓 「北東アジアにおける「戦略的安定性」と日米の抑止態勢」『海外事

情』、第 61 卷 5 号、(2013 年 5 月)、36-48 頁。

第 2 回

第 2 回

必読

1 梅本哲也『核兵器と国際政治——1945－1995』（日本国際問題研究所、1996年）、序章、1－4章

2 松山健二「米国の戦略核運用政策の変遷と現状」『レファレンス』2009年1月

参考

参考

1 平成21年度安全保障国際シンポジウム『主要国の核政策と21世紀の国際秩序』（防衛研究所、2010年）

2 ケイル・リーバー、ダリル・プレス「核の優位を確立したアメリカ——核抑止時代の終わりか」『フォーリン・アフェアーズ・ジャパン』2006年6月

3 石川卓「第2章 新START下における米国の抑止態勢と核兵器の役割低減」日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター『新START後の軍縮課題—日本にとっての意味合いの検討』2012年3月

第 3 回

必読

1 外務省軍縮不拡散・科学部編集「第2部 核軍縮・核不拡散」『日本の軍縮・不拡散外交』第7版（2016年）

2 小川伸一「米印原子力協力の意義と課題」『国際安全保障』第35巻第2号（2007年9月）

参考

- 1 浅田正彦「NPT体制の動揺と国際法」浅田正彦・戸崎洋史編『核軍縮不拡散の法と政治』（信山社、2008年）
- 2 The Weapons of Mass Destruction Commission, "Chapter 3 Nuclear Weapons," Weapons of Terror: Freeing the World of Nuclear, Biological and Chemical Arms (Stockholm: EO Grafiska, 2006), pp. 60-109.

第4回

必読

岩田修一郎「弾道ミサイルの拡散と規制」納家政嗣・梅本哲也編『大量破壊兵器不拡散の国際政治学』（有信堂高文社、2000年）

参考

- 1 石川卓「冷戦後の抑止態勢と弾道ミサイル防衛」森本敏編『ミサイル防衛』（日本国際問題研究所、2002年）、John R. Harvey, Regional Ballistic Missiles and Advanced Strike Aircraft, International Security, Vol.17, No.2 (Fall 1992), pp. 41-83.
- 2 Dennis M. Gormley, Dealing with the Threat of Cruise Missiles, Adelphi Paper, Vol. 339 (London: International Institute for Strategic Studies, 2001).

第5回

必読

- 1 浅田正彦「化学兵器禁止条約の基本構造（上、下）『法律時報』第68巻1～2号
- 2 浅田正彦「化学兵器の禁止」黒沢満 編著『軍縮問題入門』第4版（東信堂、2012年）
- 3 外務省軍縮不拡散・科学部編集「第6部 化学・生物兵器」『日本の軍縮・不拡散外交』第7版（2016年）

参考

浅田正彦「軍縮条約における『不遵守手続』——化学兵器の最終廃棄期限不遵守をめぐる」『法学教室』第382号（2012年）

第6回

必読

杉島正秋「生物兵器の禁止」黒沢満 編著『軍縮問題入門』第4版（東信堂、2012年）

参考

- 1 杉島正秋「生物兵器軍縮と健康安全保障」『朝日大学法学創立 30 周年記念論文集』（2018年3月）
- 2 外務省軍縮不拡散・科学部編集「第6部 化学・生物兵器」『日本の軍縮・不拡散外交』第7版（2016年）

第7回

第7回

必読

必読

佐藤丙午、佐渡紀子、足立研幾、阿部達也「通常兵器の規制と禁止」黒沢満編著『軍縮問題入門』第4版（東信堂、2012年）

岩本誠吾「特定通常兵器使用禁止制限条約（CCW）の成立過程」榎本珠良編著『禁忌の兵器』（日本経済評論社、2020年）

岩本誠吾「ロボット兵器と国際法」弥生真生・宍戸常寿編『ロボット・AI と法』（有斐閣、2018年）

参考

外務省軍縮不拡散・科学部編集「第7部 通常兵器」『日本の軍縮・不拡散外交』第7版（2016年）

第8回

必読

研修員のニーズに応じて決定。

参考

研修員のニーズに応じて決定。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1023J

科目名/Course Name: 地域安全保障 1 (欧州、ロシア)

担当教員/Instructor: 山添 博史/YAMAZOE Hiroshi

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

欧州、ロシア・旧ソ連を中心としたユーラシア地域の戦略環境の特徴を理解し、国際安全保障や東アジアの戦略環境に与える影響について考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 ユーラシアの戦略環境

第2回 欧州の安全保障

第3回 欧州諸国の国際関係

第4回 ユーラシアの経済とエネルギー

第5回 ロシアの政治

第6回 ロシアの外交・安全保障

第7回 ロシアの軍事・国防政策

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末試験 1回 (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

第1回

必読

ズビグニュー・ブレジンスキー『世界はこう動く』山岡洋一訳 (日本経済新聞社、1998年) 47~81頁 ; Zbigniew Brzezinski, *The Grand Chessboard* (Basic Books, 1997), pp. 30-56.

参考

1 Walter Russell Mead, "The Return of Geopolitics: The Revenge of the Revisionist Powers," *Foreign Affairs*, May/June 2014, pp.69-79.

2 Nadège Rolland, "A China-Russia Condominium over Eurasia," *Survival*, Vol.61 No.1, February-March 2019, pp.7-22.

第2回

必読

- 1 鶴岡路人「欧州戦略環境の変動（第1章）」防衛研究所編『東アジア戦略概観 2017』（防衛研究所、2017年）
- 2 広瀬佳一編「現代ヨーロッパの安全保障——ポスト 2014：パワーバランスの構図を読む」（ミネルヴァ書房、2019年）、第1、2、3、4、5、6、11、12章

参考

- 1 広瀬佳一・吉崎知典編『冷戦後の NATO』（ミネルヴァ書房、2012年）
- 2 鶴岡路人「NATO 首脳会合は何だったのか——米欧同盟の行方」笹川平和財団国際情報ネットワーク分析（IINA）（2018年8月1日）<https://www.spf.org/iina/articles/tsuruoka-europe-nato.html>
- 3 田中亮佑「危機管理と能力向上における EU・英国関係——ブレグジット後の欧州の『戦略的自律』の行方」『安全保障戦略研究』（防衛研究所、2020年8月）、83-100頁。

第3回

必読

- 1 鶴岡路人「米欧関係の展開と日本——変容する日米欧関係のダイナミズム」『国際問題』（2020年1・2月号）
- 2 鶴岡路人『EU 離脱——イギリスとヨーロッパの地殻変動』（ちくま新書、2020年）、はじめに、終章

参考

- 1 鶴岡路人「香港情勢への英国、欧州の対応——変容する欧州・中国関係のなかで」『改革者』（2020年10月号）
- 2 遠藤乾「ヨーロッパの対応——コロナ復興基金の誕生」『国際問題』（2020年10月号）

第4回

必読

- 1 三井物産戦略研究所国際情報部『コロナ禍で内政回帰するロシア』三井物産 戦略 研 究 所 、 2020 年 。
(https://www.mitsui.com/mgssi/ja/report/detail/_icsFiles/afieldfile/2020/09/11/200910.pdf)

2 伏田寛範「北東アジア地域開発協力にみるロシア・中国のイニシアチブの交差—ロシアの対中認識に接近する手がかりとして—」令和元年度外務省外交・安全保障調査研究事業報告書『中国の対外政策と諸外国の対中政策』日本国際問題研究所、2020年、173-186頁。

(http://www2.jiia.or.jp/pdf/research/R01_China/13-fushita.pdf)

参考

1 Vitaly Yermakov and James Henderson, The New Deal for Oil Markets: Implications for Russia's Short-Term Tactics and Long-Term Strategy, Energy Insight: 67, Oxford Institute for Energy Studies, 2020. (<https://www.oxfordenergy.org/wpcms/wp-content/uploads/2020/04/Insight-67-The-New-Deal-for-Oil-Markets-implications-for-Russias-short-term-tactics-and-long-term-strategy.pdf>)

2 World Bank, Russia: Recession and Growth under the Shadow of a Pandemic, Russia Economic Report, No. 43, July 2020. (<https://openknowledge.worldbank.org/bitstream/handle/10986/34219/Russia-Recession-and-Growth-Under-the-Shadow-of-a-Pandemic.pdf?sequence=4&isAllowed=y>)

第5回

必読

1 横手慎二編著『ロシアの政治と外交』（放送大学教育振興会、2015年）、第1章及び第2章

2 塩川伸明・池田嘉郎編著『社会人のための現代ロシア講義』（東京大学出版会、2016年）、第1講

参考

1 塩川伸明『冷戦終焉20年—何が、どのようにして終わったのか』（勁草書房、2010年）

2 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣、2008年）

3 長谷川雄之「プーチン政権下の現代ロシアにおける大統領の『権力資源』—大統領府による重要政策の指揮監督」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』（2019年2月）第1037号、2-19頁。

第6回

必読

1 兵頭慎治「プーチン大統領のリーダーシップ—ロシアの対外強硬路線の行方—」『国際安全保障』（国際安全保障学会、2018年6月）51～67頁

2 兵頭慎治「日本の安全保障にとってのロシア」『海外事情』（拓殖大学海外

事情研究所、2018年5月) 69～84頁

参考

1 兵頭慎治「ロシア・リスクの真相」『現代日本の地政学』(中央公論新社、2017年8月) 85～102頁

第7回

必読

- 1 防衛研究所編「第5章 ロシア」『東アジア戦略概観2020』(防衛研究所、2020年) "Chapter 5 Russia," East Asian Strategic Review 2020 (NIDS, 2020)
- 2 山添博史「ウクライナ東部紛争の構造」防衛研究所ブリーフィング・メモ(2015年11月)
- 3 山添博史「ロシアの多層的な闘争手段」防衛研究所ブリーフィング・メモ(2020年10月)

参考

- 1 小泉悠『「帝国」ロシアの地政学』(東京堂出版、2019年)
- 2 山添博史「ロシアのインド、中国、ベトナムに対する通常兵器輸出」『防衛研究所紀要』(防衛研究所、2014年10月 (http://www.nids.go.jp/publication/kiyo/pdf/bulletin_j17_1_4.pdf))
- 3 "Russia and Eurasia," Strategic Survey 2015 (International Institute for Strategic Studies, 2015); Strategic Survey 2016

第8回

必読

なし

参考

フィオナ・ヒル、クリフォード・ガディ『プーチンの世界』(新潮社、2016年)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1024J

科目名/Course Name: 地域安全保障 2 (東南・南アジア、中東、オセアニア)

担当教員/Instructor: 西野 正巳/NISHINO Masami

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

東南アジア、南アジア、中東、オセアニア地域の安全保障問題を理解する。地域固有の事情の理解、紛争と協調の事例の概観及びグローバルな課題との接点の検討を通じて、各地域のダイナミズムがわが国の安全保障に対して、どのような意味を有しているのかを考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 東南アジアの安全保障

第2回 ASEANの機能と海洋問題

第3回 南アジアの安全保障

第4回 インドの経済

第5回 中東の安全保障

第6回 イラン・アフガニスタン情勢

第7回 イスラーム世界と国際社会

第8回 オセアニアの安全保障

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末レポート(100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

庄司智孝「ASEANの『中立』——米中対立下のサバイバル戦略」増田雅之編著『大国間競争の新常態 (NIDS パースペクティブ 1)』、『南シナ海問題の構図——中越紛争から多国間対立へ』(名古屋大学出版会、2022年)

第2回

必読

天児慧編著『習近平が変えた中国』の第二部視点・論点（5）「南シナ海問題を概観する」（佐藤考一）74-93頁。

参考

佐藤考一「中国の海洋攻勢：海警・漁船をめぐる諸問題」早稲田大学『アジア太平洋討究』No. 30 (January 2018, 3-16))

第3回

必読

栗田真広「大国間競争下の南アジア—米中競争時代の到来と『対テロ戦争』の残滓」増田雅之編著『大国間競争の新常態』（インターブックス、2023年）、141-159頁。

参考

伊藤融『新興大国インドの行動原理—独自リアリズム外交のゆくえ』（慶應義塾大学出版会、2020年）

堀本武功・村山真弓・三輪博樹編『これからのインド—変貌する現代世界とモディ政権』（東京大学出版会、2021年）

第4回

第4回

必読

内川秀二「総論—経済改革後のインド経済」内川秀二編『躍動するインド経済—光と陰』アジア経済研究所、2006年 http://d-arch.ide.go.jp/idedp/AKS/AKS000200_004.pdf

参考

アジ研ワールド・トレンド』2011年12月号（No.195）特集：途上国のエネルギー政策

第5回

必読

西野正巳「中東情勢—対立構造の転換、3つの内戦、イラン、そして新型コロナウイルス—」『安全保障を考える』第782号（公益社団法人安全保障懇話会、2020年7月）

参考
なし

第6回
必読
なし

参考
なし

第7回
必読
池内恵『イスラーム国の衝撃』（文春新書、2015年）33-86頁

参考
なし

第8回
必読
なし

参考
佐竹知彦『日豪の安全保障協力—「距離の専制」を越えて』（勁草書房、2022年）

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1025J

科目名/Course Name: 東アジアの安全保障 2

担当教員/Instructor: 渡邊 武/WATANABE Takeshi

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

韓国・北朝鮮の現代史、政治制度などの理解の上で、朝鮮半島の安全保障問題を考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 韓国・北朝鮮問題の基礎

第2回 同一民族国家の競合

第3回 韓国の戦略形成における政軍関係要因

第4回 北朝鮮の安全保障戦略・軍事戦略

第5回 朝鮮半島の非核化と平和体制樹立

第6回 韓国の経済

第7回 北朝鮮の実情

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

受講中の姿勢 30%、期末レポート 70%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

1 新城 道彦、浅羽祐樹、金 香男、春木 育美『知りたくなる韓国』(有斐閣、2019年)、36章。

2 磯崎敦仁、澤田克己『新版 北朝鮮入門』(東洋経済新報社、2017年)、1章、6-9章。

3 Victor D. Cha and Ramon Pacheco Pardo, Korea: A New History of South and North (New Haven: Yale University Press, 2023), chs. 56.

第2回

必読

1 礪崎敦仁「金正日『先軍政治』の本質」小此木政夫編『危機の朝鮮半島』（慶應義塾大学出版会、2006年）

2 Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic*

Campaigns: 1966-2008 (New York: Routledge, 2010)に対する日本語の書評：『国際安全保障』39巻1号（2011年6月）および『防衛学研究』42号（2010年3月）。

参考

1 道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史: 1966～2012年』（ミネルヴァ書房、2013年）

2 渡邊武「張成沢処刑に見る 北朝鮮“独裁”体制の変わらぬ図式」『WEDGE』第26巻2号（2014年2月）

第3回

第3回

必読

なし

参考

1 サミュエル・ハンチントン著『軍事と国家』上（原書房、1978）、4章、または、Samuel Huntington, *The Soldier and the States: The Theory and Politics of Civil-Military Relations*, (Cambridge: The Belknap Press of the Harvard University Press, 1985), Ch. 4.

2 渡邊武「文在寅政権の対外政策における政軍関係要因」日本国際問題研究所『「不確実性の時代」の朝鮮半島と日本の外交・安全保障』（2019年）

第4回

必読

なし

参考

1 Lee Choongkoo, "A General Assessment of 10 Years of the Kim Jong-Un Regime: In the Areas of the Military and Security." *International Journal of Korean Unification Studies* 30: 2 (December 2021): 6186.

2 (韓国・朝鮮語) 유용원신범철김진아, 『북한군 시크릿 리포트』 (플래닛미디어, 2013), 12 장.

3 (韓国・朝鮮語) 전봉근, 「김정은 시대의 군사의 핵」, 윤영관 편저 『북한의 오늘 II』 (늘품플러스, 2019), 153197.

第5回

必読

なし

参考

なし

第6回

必読

なし

参考

なし

第7回

必読

『季刊リムジンガン』7号 (2015年)。

参考

なし

第8回
必読
なし

参考
なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1031J

科目名/Course Name: 科学技術と安全保障

担当教員/Instructor: 大井 一史/OOI Kazunao

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

軍事のみならず社会全般と深く関わっている各分野の先端科学技術の現状、すう勢、応用例等に関する知識を深めるとともに、これらが我が国の安全保障に及ぼす影響を考察し、将来の防衛政策立案に必要な柔軟な思考力涵養の資とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第1回 科学技術と安全保障概論 (1)
- 第2回 科学技術と安全保障概論 (2)
- 第3回 先端技術 (1) (A I ・ビッグデータ)
- 第4回 先端技術 (2) (情報・通信)
- 第5回 先端技術 (3) (ロボット・無人化)
- 第6回 先端技術 (4) (センサ・デバイス)
- 第7回 先端技術 (5) (ナノテク・バイオ)
- 第8回 応用講義「防衛装備・技術政策」

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

T B A

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1032J

科目名/Course Name: 社会の安全と危機管理

担当教員/Instructor: 一政 祐行/ICHIMASA Sukeyuki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

社会の安全に影響を及ぼす事象について分析し、危機管理に係わる要因を考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 治安

第2回 海上保安

第3回 国民保護と防災

第4回 感染症（バイオハザード）

第5回 原子力安全と核セキュリティ

第6回 テロリズム

第7回 防災と災害復興

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

小論文（100%）

課題を付与し小論文を作成させ、その小論文について成績評価を行う。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

なし

第2回

必読

なし

参考

なし

第3回

必読

なし

参考

なし

第4回

必読

なし

参考

なし

第5回

第5回

必読

なし

参考

1 核不拡散・核セキュリティ研究会「原子力施設の保護と日本の役割ーロシアによるウクライナ侵攻と原発攻撃をうけて」(公益財団法人笹川平和財団安全保障研究グループ、2023年2月) 1-19頁。

2 堀部純子「核セキュリティ」『ひろしまレポート 2023年版』(広島県/日本国際問題研

究所軍縮・科学技術センター、2023年3月) 134-178頁；鈴木達治郎「コラム6 原子力施設に対する武力攻撃」『ひろしまレポート2023年版』179-180頁。

3 木村直人「第1章 核セキュリティ対策」『核セキュリティの基礎知識』
((社)日本電

気協会新聞部、2012年) 11-43頁。

第6回

必読

1 片山善雄「連載カウンター・テロリズム(2) テロの概念整理」『治安フォーラム』(2022年7月)47-56頁。

2 片山善雄「連載カウンター・テロリズム(4) 要人テロの実態と課題」『治安フォーラム』(2022年12月)52-60頁。

参考

1 松本光弘『グローバル・ジハード』(講談社、2008年)。

2 片山善雄『テロリズムと現代の安全保障』(亜紀書房、2016年)。

第7回

必読

なし

参考

1 生田長人『防災法』(信山社、2013年)。

2 五百旗頭真(監修)、片山裕(編著)『防災をめぐる国際協力の在り方』(ミネルヴァ書房、2017年)。

3 鈴木毅彦、市古太郎(編著)『伊豆諸島の自然と災害』(古今書院、2023年)。

第8回

必読

なし

参考

なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1033J

科目名/Course Name: 近代日本の軍事史

担当教員/Instructor: 進藤 裕之/SHINDO Hiroyuki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

明治期以降の日本の軍事史についての知識を深めるとともに、特に日本が太平洋戦争の開戦へと至った原因について考察することで、今後の日本の安全保障・防衛政策を考える上での資とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 近代日本軍事史（1）（陸軍）

第2回 近代日本軍事史（2）（海軍）

第3回 満州事変

第4回 日中戦争

第5回 日米関係史

第6回 日英関係史

第7回 日ソ関係史

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末試験（100%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

黒沢文貴「戦前日本の『太平洋戦争への道』－陸軍の総力戦構想を中心にして－」中井晶夫・三輪公忠・蠟山道雄編『独ソ・日米開戦と五十年後』（南窓社、1993年）33～52頁

参考

（全講義共通）

1 猪木正道『軍国日本の興亡－日清戦争から日中戦争へ－』（中央公論社、1995年）

2 入江昭『太平洋戦争の起源』篠原初枝訳（東京大学出版会、1991年）

3 波多野澄雄『「大東亜戦争」の時代』（朝日出版社、1988年）

第2回

必読

相澤淳「戦間期日本海軍の対英戦略」平間洋一、イアン・ニッシュ、波多野澄雄編『日英交流史3 軍事』（東京大学出版会、2001年）155～166頁

参考

「第1回（参考）」に同じ。

第3回

必読

L.ヤング「満州国と日本」同『総動員帝国』（岩波書店、2001年）3～19頁（第1章）

参考

「第1回（参考）」に同じ

第4回

必読

臼井勝美『新版 日中戦争』（中公新書、2000年）65～93頁

参考

「第1回（参考）」に同じ。

第5回

必読

「第二次大戦までの日米関係」細谷千博・本間長世編『日米関係史—摩擦と協調の140年—（新版）』（有斐閣、1982年）第2--章、32～66頁

参考

「第1回（参考）」に同じ。

第6回

必読

アントニー・ベスト「対決への道——一九三——一九四一年の日英関係」木畑洋一・イアン・ニッシュ他編『日英交流史 1600-2000 2 政治・外交II』（東京大学出版会、2000年）29～57頁

参考

「第1回（参考）」に同じ。

第7回

必読

花田智之「ノモンハン事件・日ソ中立条約」筒井清忠編『昭和史講義：最新研究で見る戦争への道』（筑摩書房、2015年）175～191頁

参考

「第1回（参考）」に同じ。

第8回

必読

なし

参考

なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1035J

科目名/Course Name: 新領域と安全保障

担当教員/Instructor: 橋本 靖明/HASHIMOTO Yasuaki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

宇宙、サイバー、電磁波分野などの新たな領域に関する利用可能性、問題点及び関係国との協力分野に関し、技術や法制度等、各側面から広く理解できるようになることを目指す。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 宇宙空間の利用

第2回 宇宙空間の軍事利用

第3回 サイバーと安全保障

第4回 サイバー空間の秩序

第5回 サイバー攻撃の実態

第6回 電磁波領域の問題点

第7回 電磁波領域への取組み

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポート (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第1回

必読

なし

参考

川島レイ 『キューブサット物語』 エクスナレッジ、2005年

石田真康 『宇宙ビジネス入門』 日経 BP、2017年

中須賀真一他 『宇宙ステーション入門』 東京大学出版会、2014年

第2回

必読

なし

参考

出口康夫・大庭弘継編『軍事研究を哲学する』昭和堂、2022年8月

第3回

必読

山内康英「インターネットのAIによる高効率化の社会的リスクとCOVID-19
インフォデミック」『情報社会学会誌』第16巻1号、2021年

参考

山内康英「情報社会のマルチコンテキスト性と情報社会学」

『情報社会学会誌』第17巻1号、2022年

第4回

第4回

必読

トマス・リッド、ベン・ブキャナン（土屋大洋訳）「サイバー攻撃を行うのは
誰か」『戦略研究』第18号、2016年5月、59～98頁。

英語版は、[http://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/](http://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/01402390.2014.977382)

01402390.2014.977382

参考

土屋大洋『暴露の世紀－国家を揺るがすサイバーテロリズム』角川学芸出版、

2016年12月

第5回

必読

なし

参考
教場で配布予定

第6回
必読
なし

参考
なし

第7回
必読
田中健巧「電子戦（電子対処）技術全般」『防衛技術ジャーナル』（2022年

10月）

参考
「電子戦とIT(1)電子戦とはなんぞや」 井上孝司
https://news.mynavi.jp/techplus/article/military_it-101/

第8回
必読
なし

参考
なし

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP1101E

科目名/Course Name: Introduction to Japan's Security

担当教員/Instructor: 石原 雄介/ISHIHARA Yusuke

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

An introductory opportunity both for international students to start studying the key subjects of Japanese security and for Japanese students to discuss Japan in English.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week1 Introduction and Japan's Grand Strategy

Week2 Japan's Shifting Defense Posture

Week3 Japan as a First Responder to China's Rise

Week4 Russia in East Asia

Week5 Korean Peninsula and Security Cooperation

Week6 Japan's South China Sea Policy

Week7 Space Security, Japan's electronic warfare capability

Week8 Wrap up discussions

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation (50%), Performance as a discussant (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Week1

Yusuke Ishihara, "Japan's Grand Strategy as a Declining Power," East Asia Forum, 18

June 2023.

Week2

Shin Kawashima, "Japan's Updated Defense Strategy Leaves Crucial

Details to Be Determined," East Asia Forum, 21 March 2023.

Week3

Elli-Katharina Pohlkamp, "The New Central Front: Japan's Special Role in the West's

Strategic Rivalry with China" European Council on Foreign Relations, 1 June 2023

Week4

None

Week5

Shinae Lee, "Mind the Gap: Achievements and Limitations of Japan-ROK-U.S. cooperation within the Indo-Pacific Context,"International Information Network Analysis, 23 June 2023.

Week6

Harada Yu, "Evaluating Japan's South China Sea Policy: A Qualified Success?" Contemporary Southeast Asia 45, no. 1 (2023), 30-54, especially 31-32.

Week7

Week7

Yasuhito Fukushima, "Japan's Endeavors to Utilize Space for Defense Purposes," Henry L. Stimson Center, 23 February, 2023.

(2) Ministry of Defense, "Defense of Japan including its Remote Islands" in Defense of Japan, September 5, 2022.

Week8

None

5. 履修上の注意/Note:

Compulsory for all international students

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2102J

科目名/Course Name: 中東の安全保障問題

担当教員/Instructor: 小塚 郁也/KOZUKA Ikuya

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

「アラブの春」以降激変する中東の安全保障問題について、基本文献を講読するとともに、討議を通じて理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 講師による文献解題と最近の中東情勢の解説。分担の割り当て

テキスト（1）に関する質疑応答

第2回 テキスト（2）13～67頁に関する発表及び討議

第3回 テキスト（2）13～67頁に関する発表及び討議

第4回 テキスト（2）68～119頁に関する発表及び討議

第5回 テキスト（2）120～161頁に関する発表及び討議

第6回 テキスト（2）162～214頁に関する発表及び討議

第7回 テキスト（2）215～264頁に関する発表及び討議

第8回 総括討議（2名発表）

課題：研修員は各自セミナー当日までに文献を詳読する。発表者はレジュメを作成の上、当日参加者全員に配布して発表する。発表者以外の研修員は、レジュメの内容について討議を行う。

3. 成績の評価方法/ Grading:

研修員発表時の議論その他のパフォーマンス（50%）、レジュメの内容（50%）。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

（1）小塚郁也、NIDS Commentary 特集「米大統領選後の安全保障の展望⑩バイデン新政権誕生後の中東情勢——データ分析による展望の考察——」、2019 年度防衛研究所主催中東研究会報告レジュメ改訂版「最近の中東における勢力均衡の変化—イラン、トルコ、サウジアラビアの視点から—」（セミナー開始前に pdf で配布）。

（2）マイケル・L・ロス（松尾昌樹・浜中新吾共訳）『石油の呪い—国家の発展経路はいかに決定されるか』（吉田書店、2017年2月10日）。ISBN:978-4-905497-49-3、346頁、3,600円＋税

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語。講師による論文指導を希望する者は、必ず受講すること。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2103J

科目名/Course Name: 東南アジアの安全保障

担当教員/Instructor: 庄司 智孝/SHOJI Tomotaka

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

東南アジアの安全保障に関する諸問題につき理解を深め、それによって学術的な思考法を習得する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 概要説明と導入講義（冷戦期の東南アジア）

第2回 ASEAN とは何か（設立と発展の経緯）

第3回 ASEAN の多国間安全保障協力枠組み

第4回 東南アジアの非伝統的安全保障課題

第5回 米中対立と南シナ海問題

第6回 庄司研究構想発表批評会

第7回 研修生による発表（1）

第8回 研修生による発表（2）

3. 成績の評価方法/ Grading:

議論への参加・貢献度（30%）プレゼンテーション（70%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

必読：なし

参考：庄司智孝『南シナ海問題の構図——中越紛争から多国間対立へ』（名古屋大学出版会、2022年）

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2104J

科目名/Course Name: 軍事史史料とこれからの文書・資料

担当教員/Instructor: 菅野 直樹/KANNO Naoki

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

防研所蔵史料等に接し、戦史に関して認識を深めることを目指す。加えて、文書の一部が時代を経て史料になっていくという見地から、史資料の存在と生成について知見を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 重要史料と近代日本軍事史

第2回 戦史史料所蔵の沿革、公開の状況等

第3回 筆跡判読の体験

第4回～第8回 履修者報告

(第8回には講評も実施)。

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度 (50%)、報告 (50%)。なお筆跡判読の力量については評価対象としない。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

授業で通知する。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2106J

科目名/Course Name: 朝鮮半島をめぐる安全保障

担当教員/Instructor: 室岡 鉄夫/MUROOKA Tetsuo

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

朝鮮半島の安全保障問題に係るテキストの読解を通じて、①同問題に対する理解を深めるとともに②論文執筆に必要なノウハウ（テーマの見つけ方、論文の構成、資料の扱いなど）を身につけることを目指す（朝鮮半島以外のテーマで論文を書く学生にとっても有益になるよう努める）。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 導入（進め方、当番の割り振りなど）

第2回 発表と討論(1)

第3回 発表と討論(2)

第4回 発表と討論(3)

第5回 発表と討論(4)

第6回 発表と討論(5)

第7回 発表と討論(6)

第8回 まとめ（総合討議）

※（第2回以降）指定文献を読んでくる。各回の当番は論点などをプレゼンテーションし、それに基づき、全員で討論。

3. 成績の評価方法/ Grading:

プレゼンテーション（2回、含むプレゼン資料）（60%）、討論への寄与（40%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

必読：

【第2回】：小倉紀蔵『韓国の行動原理』（PHP 研究所、2021年）第1、2章；兼原信克『安全保障戦略』（日経BP、日本経済新聞出版本部、2021年）第12講

【第3回】：木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』シリーズ日本の安全保障6（岩波書店、2015年）第6章；崔正勳『なぜ朝鮮半島「核」危機は繰り返されてきたのか』（クレイン、2020年）補論

【第4回】：倉田秀也「朝鮮労働党第8回大会「戦略的課題」と核使用原則」（2023年）

【第5回】：浅羽祐樹「国際関係論と地域研究の狭間:日韓関係研究の研究戦略」『国際政治』151号（2008年）

【第6回】：佐橋亮編『冷戦後の東アジア秩序形成をめぐる各国の構想』（勁草書房、2020年）第5章；木宮正史『日韓関係史』（岩波書店、2021年）後半

【第7回】：木宮編『朝鮮半島と東アジア』第7章；小倉『韓国の行動原理』第5章

参考：

ヴィクター・D・チャ 『米日韓 反目を超えた提携』（有斐閣、2003年）。

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語。学生と相談の上、テキストを変更する場合がある。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2108J

科目名/Course Name: 武力行使と国際法

担当教員/Instructor: 永福 誠也/EIFUKU Seiya

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

武力行使に関する国際法上の要件及びジュネーブ諸条約、交戦法規、戦闘員資格、捕虜等の取扱い、戦争犯罪の処罰、中立法規などの武力紛争法に関する各種論点について、特に現在進行中のウクライナ紛争に係る具体的事案を題材に検討し、知識精度を高める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション・導入講義

第2回 報告・討議：自衛権に基づく武力の行使

第3回 報告・討議：安保理の授權等に基づく武力の行使

第4回 報告・討議：戦闘方法・兵器の規制

第5回 報告・討議：戦闘員資格・捕虜等の取扱い

第6回 報告・討議：海上戦・海上捕獲権、戦争犯罪の処罰

第7回 報告・討議：中立法規

第8回 まとめ：総括討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

報告者（受講者）の要望があれば、当該要望に適う文献を取り上げる。なお、基本テキスト（参考文献）は以下のとおり。

- 1 浅田正彦・玉田大編著『ウクライナ戦争と国際法』（東信堂、2023年）5-65頁。
- 2 吉川元偉「ロシアのウクライナ侵略への国際連合の対応」『国際法研究』第11号（2023年3月）6-25頁。
- 3 黒崎将広「ウクライナIT軍と戦闘員資格」『国際法研究』第11号（2023年3月）78-94頁。
- 4 永福誠也「外国人軍隊構成員の戦闘員資格」『NIDS コメンタリー』第234号（2022年8月）。
- 5 村瀬信也編『自衛権の現代的展開』（東信堂、2007年）。
- 6 森肇志『自衛権の基層』（東京大学出版会、2009年）。
- 7 田岡良一『国際法上の自衛権（補訂版）』（勁草書房、1981年）。
- 8 松井芳朗『武力行使禁止原則の歴史と現状』（日本評論社、2018年）
- 9 永福誠也「機雷の開発と使用に必要な考慮」『安全保障戦略研究』第1巻第1号（2020年8月）119-139頁。

- 10 中谷和弘他『サイバー攻撃の国際法（増補版）』（信山社、2023年）。
- 11 村瀬信也・真山全編『武力紛争の国際法』（東信堂、2004年）。
- 12 竹本正幸監訳『海上武力紛争法—サンレモ・マニュアル』（東信堂、1997年）。
- 13 尾崎久仁子『国際刑事裁判所』（東信堂、2022年）。
- 14 村瀬信也・洪恵子共編『国際刑事裁判所（第二版）』（東信堂、2014年）。
- 15 Deter Fleck (eds.), *The Handbook of International Humanitarian Law* (4th ed.), Oxford University Press, 2021.
- 16 Emily Crawford and Alison Pert, *International Humanitarian Law* (2nd ed.), Cambridge University Press, 2020.
- 17 Christine Gray, *International Law and the Use of Force* (4th ed.), Oxford University Press, 2018.

5. 履修上の注意/Note:

受講者は各自1回報告を実施

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2111J

科目名/Course Name: 日本軍事史

担当教員/Instructor: 立川 京一/TACHIKAWA Kyoichi

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

第二次世界大戦までの日本の軍事に係る諸事象に関する考察を通じて、その傾向、特徴等を探求しつつ、安全保障及び防衛について理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

第2回 発表準備

第3回 発表・討議

第4回 発表・討議

第5回 発表・討議

第6回 発表・討議

第7回 発表・討議

第8回 発表・討議

※発表・討議：参加者（各回2名を予定）が自らの興味対象をテーマに発表を行い、それをもとに討議を実施する。レポートなし。

3. 成績の評価方法/ Grading:

プレゼンテーション（70%）、討議への貢献（30%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

テキストは定めない。参考文献（一部）は次の通り。

- 1 高橋典幸・山田邦明・保谷徹・一ノ瀬俊也『日本軍事史』（吉川弘文館、2006年）
- 2 「戦争の日本史」全23巻（吉川弘文館、2006～2009年）
- 3 国立歴史民族博物館監修「民族にとって戦いとは」シリーズ全5巻（東洋書林、1999～2002年）
- 4 『軍事史学』『日本歴史』『史学雑誌』等の学術誌掲載論文等

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2112E

科目名/Course Name: Introduction to International Politics

担当教員/Instructor: 塚本 勝也/TSUKAMOTO Katsuya

学期名/Term: 秋後～春前/Fall (Session II) through Spring(Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国際政治学の主要理論について基礎的な素養を身に付けることを目的とする。セミナーで取り上げる内容については受講者の希望・関心に応じる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) 前段

第1回 オリエンテーション

第2回 事例研究 (1) リアリズム

第3回 事例研究 (2) ネオリアリズム

第4回 事例研究 (3) リベラリズム

第5回 小括

第6回 事例研究 (4) コンストラクティビズム

第7回 事例研究 (5) ネオコン

第8回 まとめ

(2) 後段

第1回 オリエンテーション

第2回 事例研究 (1) リアリズム

第3回 事例研究 (2) ネオリアリズム

第4回 事例研究 (3) リベラリズム

第5回 小括

第6回 事例研究 (4) コンストラクティビズム

第7回 事例研究 (5) ネオコン

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、①出席 (20%)、②プレゼンテーション (60%)、③授業への参加度 (20%) によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

受講者の希望・関心に応じて後日指定する。

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語および英語とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2112J

科目名/Course Name: 国際政治学概論

担当教員/Instructor: 塚本 勝也/TSUKAMOTO Katsuya

学期名/Term: 秋後～春前/Fall (Session II) through Spring(Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国際政治学の主要理論について基礎的な素養を身に付けることを目的とする。セミナーで取り上げる内容については受講者の希望・関心に応じる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) 前段

第1回 オリエンテーション

第2回 事例研究 (1) リアリズム

第3回 事例研究 (2) ネオリアリズム

第4回 事例研究 (3) リベラリズム

第5回 小括

第6回 事例研究 (4) コンストラクティビズム

第7回 事例研究 (5) ネオコン

第8回 まとめ

(2) 後段

第1回 オリエンテーション

第2回 事例研究 (1) リアリズム

第3回 事例研究 (2) ネオリアリズム

第4回 事例研究 (3) リベラリズム

第5回 小括

第6回 事例研究 (4) コンストラクティビズム

第7回 事例研究 (5) ネオコン

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、①出席 (20%)、②プレゼンテーション (60%)、③授業への参加度 (20%) によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

受講者の希望・関心に応じて後日指定する。

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語および英語とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2113J

科目名/Course Name: 民間軍事会社の現状と課題

担当教員/Instructor: 小野 圭司/ONO Keishi

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

民間軍事会社を題材として、経済学的な視点で安全保障問題を広く考察する。

また傭兵・民間軍事会社の変遷を通して、社会と軍隊の関りを考える。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 講義：民間企業による軍事力提供の意味【傭兵・義勇兵・外人部隊などとの違い】

第2回 報告：民間軍事会社の歴史.....【傭兵から民間軍事会社へ】

第3回 報告：民間軍事会社の現状.....【民間軍事会社から危機管理の総合商社へ】

第4回 講義：危機管理サービス会社による講義（部外講師：Int'l SOS 社を予定）

第5回 報告：海賊対処と民間軍事会社【陸とは違う生き立ちと活動】

第6回 報告：ロシアの民間軍事会社...【傭兵への回帰の傾向】

第7回 講義：行政の民営化戦略.....（部外講師：中央大学・磯村和人教授を予定）

第8回 報告：民間軍事会社の今後.....【軍務を民営化するべきか】

3. 成績の評価方法/ Grading:

担当報告の内容（50%）、授業での討議内容（50%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

P.W.シガー『戦争請負会社』（NHK 出版、2004 年）

マート・ガビドリン『ワグネル プーチンの秘密軍隊』（東京堂出版、2023 年）

アル・J・フェンター『世界の傭兵最前線』（原書房、2016 年）

G4S 社年次報告書（英文） 他

5. 履修上の注意/Note:

原則日本語で実施するが、英語での発表・議論参加は可とする。

進捗に鑑みながら、英文テキストも併用する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2114J

科目名/Course Name: 海洋安全保障

担当教員/Instructor: 原田 有/HARADA Yu

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

海洋安全保障にかかわる基盤的原理の把握と事例研究により、海洋安全保障に関する政策立案・理解のための基礎的素養を涵養する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 導入講義 : 海洋安全保障の意義等

第2回 海洋法制① : 国連海洋法条約

第3回 海洋法制② : 航行の自由

第4回 海洋戦略 : 特別講義

第5回 事例研究① : 南シナ海問題

第6回 事例研究② : 海上交通路の安全確保

第7回 事例研究③ : 日本の取組

第8回 まとめ : 総括討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度 (50%)、プレゼンテーション (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

詳細は別途提示。受講者の要望があれば、当該要望に適う文献を取り上げる。なお、基本的な参考文献は以下のとおり。

- 1 原田有、永福誠也「海洋の安全保障」『東アジア戦略概観 2018』(防衛研究所、2018年) 8-39頁。
- 2 永福誠也「海洋権益の保護」『アジア太平洋における海洋秩序の維持』(防衛研究所、2018年) 1-45-167頁。
- 3 坂元茂樹、『日本の海洋政策と海洋法』増補第2版(信山社、2019年)。
- 4 島田征夫、林司宣編『国際海洋法』(有信堂高文社、2010年)。
- 5 後潟桂太郎「海洋戦略論」(勁草書房、2019年)。
- 6 ビル・ヘイトン『南シナ海ーアジアの覇権をめぐる闘争史』安原和見訳、(河出書房新社、2015年)。

5. 履修上の注意/Note:

受講者は各自1回報告を実施

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2115J

科目名/Course Name: 東アジアの歴史認識をめぐる諸問題

担当教員/Instructor: 庄司 潤一郎/SHOJI Junichiro

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

依然として東アジアでは、歴史認識が政治問題化している。そこで本セミナーでは、その要因・背景について、多角的視点から検討を行うとともに、その対応を議論する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

第2回 歴史認識問題とは何かー歴史認識と安全保障ー

第3回 日本における歴史認識問題

第4回 東アジアにおける歴史認識問題の特徴

第5回 東アジアにおける歴史認識問題ー中国ー

第6回 東アジアにおける歴史認識問題ー韓国ー

第7回 ドイツとの比較

第8回 歴史認識問題の課題と対応

※担当者は、配布資料に関する要約とコメントをまとめ（A4で2～3枚程度）、15分程度の報告を行った後、討議を実施する。各回、2～3本の資料を輪読する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

報告内容（60%）、討議への参加（40%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

文献資料を、各回毎に事前に配布する。

参考文献：波多野澄雄『日本の歴史問題 改題新版ー「帝国」の清算から靖国、慰安婦問題まで』（中公新書、2022年）

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語。配布資料は一部英文を含む。

当該問題に関心を有する者の参加を期待する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2116J

科目名/Course Name: 組織と調整

担当教員/Instructor: 助川 康/SUKEGAWA Yasushi

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

組織の調整問題について、理論及びケースから学び、議論を通じて識見を深める（基地を題材に取り上げ、主に中央＝地方調整問題を考察とする）。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 イントロダクション：「調整問題」とは——組織はなぜ調整に失敗するのか？

第2回 文献読解と討議：調整の要因と理論①

第3回 文献読解と討議：調整の要因と理論②

第4回 文献読解と討議：調整の要因と理論③

第5回 発表準備又は質疑

第6回 発表、討議

第7回 発表、討議

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

持ち帰りペーパー20%、発表 40%、議論への貢献 40%。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Ernst R. Alexander. 1995. How Organizations Act Together, chaps. 1-3.

B. Guy Peters. 2015. Pursuing Horizontal Management.

Douglas Bland. 1999. "Managing the 'Expert Problem' in Civil-Military Relations," European Security 8 (3).

James C. McAurthur, et al. 2015. "Interorganizational Cooperation," Joint Forces Quarterly 79 (4).

今村都南夫（2006）『官庁セクショナリズム』東大出版会。

牧原出（2009）『行政改革と調整のシステム』東大出版会。

菊地茂雄（2007）「第2次世界大戦後の米国における統合強化をめぐる議論と政軍関係——「スーパー長官」、「参謀総長」、「プロシア型参謀本部」」『国際安全保障』第34巻第4号。

大沢真幸「『NIMBY』はどのように考察されるべきでしょうか？」10+1website（2017.1）。

清水修二『NIMBY シンドローム考——迷惑施設の政治と経済』（東京新聞出版局、1999年）。

他に、調整問題、組織間関係、統制問題、いわゆる迷惑施設の立地問題・NIMBY問題に関する和文、英文の文献を提示・配布予定

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2117J

科目名/Course Name: イスラーム主義とテロリズム

担当教員/Instructor: 西野 正巳/NISHINO Masami

学期名/Term: 秋後～春前/Fall (Session II) through Spring(Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

2001 年の 9・11 同時多発テロ、そして 2014 年の「イスラーム国」の勢力伸長とその後の世界各地におけるテロの続発が示すように、イスラーム主義（イスラーム原理主義）とそのテロリズムは、米国等の取り組みにもかかわらず、今も安全保障上の深刻な脅威である。グローバル化が進展した今日、日本もこの問題と無縁ではない。本セミナーは、イスラーム主義とテロリズムについて、理解を深めることを目指す。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) 前段

第 1 回 打ち合わせ、概要説明

第 2 回 討議（イスラーム主義とは）

第 3 回 発表準備

第 4 回 発表、討議

第 5 回 発表準備

第 6 回 発表、討議

第 7 回 発表準備

第 8 回 発表、討議

※発表：担当部分について、発表する。

レポート：なし

(2) 後段

第 1 回 発表準備

第 2 回 発表、討議

第 3 回 発表準備

第 4 回 発表、討議

第 5 回 発表、討議

第 6 回 発表準備

第 7 回 発表、討議

第 8 回 まとめ

※発表：担当部分について、発表する。

レポート：なし

3. 成績の評価方法/ Grading:

発表（60%）と討議（40%）に基づいて評価

4. 参考文献等/Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

必要に応じて、資料を配布

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2118J

科目名/Course Name: 戦後日本の安全保障政策と国際関係

担当教員/Instructor: 中島 信吾/NAKAJIMA Shingo

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

中長期的な観点から防衛政策の立案に資するため、冷戦期における日本の安全保障政策の歴史的展開について考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

第2回 発表準備

第3回 発表・討議

第4回 発表・討議

第5回 発表準備

第6回 発表・討議

第7回 発表・討議

第8回 発表・討議

3. 成績の評価方法/ Grading:

プレゼンテーション2回 (70%)、討議への貢献 (30%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

1 防衛研究所、政策研究大学院大学等が実施しているオーラル・ヒストリー

2 五百旗頭真編『戦後日本外交史〔第3版補改訂〕』(有斐閣、2014年)

3 真田尚剛『「大国日本」の防衛政策—防衛大綱に至る過程 1968～1976年』(吉田書店、2021年)

4 千々和泰明『安全保障と防衛力の戦後史 1971～2010 「基盤的防衛力構想」の時代』(千倉書房、2021年)

5 特集「『防衛計画の大綱』の多角的研究」『国際安全保障』第44巻第3号(2016年12月)

6 特集「日本の安全保障を記録する」『防衛学研究』第58号(2018年3月)

7 中島信吾『戦後日本の防衛政策—「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』(慶應義塾大学出版会、2006年)

8 田中明彦『安全保障—戦後50年の模索』(読売新聞社、1997年)

9 吉田真吾『日米同盟の制度化—発展と深化の歴史過程』(名古屋大学出版会、2012年)

5. 履修上の注意/Note:

自ら発表するだけでなく、積極的に議論に参加していただきたい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2119J

科目名/Course Name: 宇宙と安全保障

担当教員/Instructor: 橋本 靖明/HASHIMOTO Yasuaki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

宇宙空間は安全保障上不可欠な領域となり、我が国も宇宙基本法を制定して開発利用体制を整えているところである。本セミナーでは、宇宙の利用実態を理解するとともに、我が国の安全保障に宇宙空間を如何に利用すべきか議論する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 導入講義：オリエンテーション

第2回 資料収集、発表準備

第3回 施設見学

第4回 発表及び討議（1）

第5回 発表及び討議（2）

第6回 発表及び討議（3）

第7回 発表及び討議（4）

第8回 総合討議：日本の宇宙利用は如何にあるべきか

※報告：各自の発表内容をまとめた配布資料（A4数枚）をもとに、口頭報告（20～30分）を行ってもらう。

※レポート：特に課す予定はない。

※参加者には、関心を有する宇宙利用分野について発表してもらい、その発表をもとに参加者全員で議論する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- ・小塚荘一郎、佐藤雅彦編『宇宙ビジネスのための宇宙法入門 第2版』（有斐閣、2018年）
- ・福島康仁『宇宙と安全保障』（千倉書房、2020年）
- ・橋本靖明「宇宙と安全保障の歴史」渡邊浩崇編著『宇宙の研究開発利用の歴史 日本はいかに取り組んできたか』（大阪大学出版会、2022年）149-179頁。

5. 履修上の注意/Note:

基本的に日本語で実施する。ただし、参加者の国籍は問わない。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2122J

科目名/Course Name: 再考 太平洋戦争への道

担当教員/Instructor: 進藤 裕之/SHINDO Hiroyuki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

日本が対英米開戦へと至った歴史的経緯について考察することで、今後の日本の安全保障問題を考える資とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 講義 (文献の説明、今後の進め方など)

第2回 発表、討議、文献講読 (詳細は第1回目に提示)

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 まとめ

※発表：発表者は、レジュメA4用紙1～2枚を作成し、内容の要約及び討議の論点となる点について、30分程度の時間で発表する。発表者以外の者も、必ずその回のテキストを読み、全員が討議に参加すること。

※レポート：なし

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業における発表・発言・議論の内容等 (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

波多野澄雄『幕僚たちの真珠湾』(朝日新聞社、1991年、(復刻版)吉川弘文館、2013年)

(受講人数によって文献を追加する可能性があります。)

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語 (ただし、英語 (レジュメ、発表、討議) も可)。

第1回 (前段) セミナーまでに、講座「近代日本の軍事史」のシラバスにある参考文献 (3冊中の1冊以上) を読了のこと。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2124J

科目名/Course Name: 防衛生産・技術概論

担当教員/Instructor: 富川 英生/TOMIKAWA Hideo

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

現在の防衛産業および技術開発の動向に関する幾つかのトピックを概観し、我が国が取り組むべき課題について理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

第2回 情報通信・設計思想・作戦概念（その1）

第3回 情報通信・設計思想・作戦概念（その2）

第4回 開発・契約制度・進捗管理（その1）

第5回 防衛産業基盤再編・強化と自律性

開発・契約制度・進捗管理（その2）

第6回 防衛装備と国際政治経済（その1）

第7回 防衛装備と国際政治経済（その2）

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期間中に研修員は1回の報告と、まとめ（第8回）においてレポート発表（全員）を行う。評価は、①報告の水準（40%）、②討議での貢献（20%）、③レポート発表・内容の水準（40%）を担当者が採点し、その合計点とする。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

随時、こちらから指示

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2125J

科目名/Course Name: 現代中国の外交

担当教員/Instructor: 飯田 将史/IIDA Masafumi

学期名/Term: 秋後、冬/Fall (Session II), Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

中国の外交・安全保障政策に関する背景・現状分析の方法論について学習する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション・導入講義

第2回 発表・討議

第3回 発表・討議

第4回 発表・討議

第5回 発表・討議

第6回 発表・討議

第7回 発表・討議

第8回 まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

発表・討議への貢献度を50%、レポートを50%の割合で評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

川島真・21世紀政策研究所編『現代中国を読み解く三要素』勁草書房、2020年

加茂具樹編『中国は「力」をどう使うのか』一藝社、2023年

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2127J

科目名/Course Name: 戦略策定法

担当教員/Instructor: 有江 浩一/ARIE Kouichi

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

戦略の古典『孫子』を参考に、戦略の策定に必要とされる、目的と手段の相互関係、戦略環境分析、方策の案出法について理解を深める。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) 前段

第1回 導入講義：『孫子』と現代の戦略的課題

第2回 テキスト論点討議：戦略の目的と手段

第3回 同上：戦略環境分析①

第4回 同上：戦略環境分析②

第5回 同上：方策の案出法①

第6回 同上：方策の案出法②

第7回 事例研究

第8回 論点整理、後段研究指示

※『孫子』の戦略の理解

テキスト論点討議：事前にテキストを読み込み、論点をメールにて講座担当者に提出

事例研究（第7回）：導入講義時に指示

(2) 後段

第1回 研究テーマ指導

第2回 研究指導

第3回 同上

第4回 中間発表

第5回 研究指導

第6回 同上

第7回 発表

第8回 総括討議

※戦略レポートの作成

研究テーマは、戦略問題に係る研修員個人の興味関心に基づいて選定

『孫子』を手掛かりとしつつ、独創的な戦略を策定し、レポートに纏めて発表

レポートは、第8回目終了後速やかにメールにて提出

3. 成績の評価方法/ Grading:

発表・討議（40%）、レポート1回（60%）

4. 参考文献等/Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

必読：浅野裕一『孫子』（講談社学術文庫、1997年）

参考：Sun Tzu and Sun Pin, *The Complete Art of War*, translated with historical introduction and commentary by Ralph D. Sawyer (Boulder, CO: Westview Press, 1996)

Sun Tzu, *The Art of War*, new translation by James Trapp (London: Amber Books, 2011)

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2128J

科目名/Course Name: 戦争と平和

担当教員/Instructor: 石津 朋之/ISHIDU Tomoyuki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

歴史学や帝国論の視点から戦争という社会的な事象を考察することにより、戦争と平和、そして秩序や帝国をめぐる諸問題についてより深く理解する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 講義 (戦争、平和、秩序、そして帝国)

第2回 発表 (古代ギリシア世界からアレクサンドロス大王へ)

第3回 発表 (カエサルからローマ帝国へ)

第4回 発表 (始皇帝と秦・漢帝国)

第5回 発表 (チンギス=ハンとモンゴル帝国)

第6回 発表 (ポルトガル及びスペインと大航海時代) (スレイマンI世とオスマン帝国)

第7回 大英帝国とグレートゲーム

第8回 帝国としてのアメリカ

※発表: 担当者がそれぞれのテーマにつき、A 4用紙1~2枚程度にまとめ、20分程度の口頭発表を行なう。

レポート: なし

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度 (20%)、プレゼンテーション1~2回 (80%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(1) アザー・ガット著、石津朋之ほか監訳、「歴史と戦争研究会」訳『文明と戦争』上・下巻 (中央公論新社、2012年)。

(2) マーチン・ファン・クレフェルト著、石津朋之監訳『戦争の変遷』(原書房、2011年)。

(3) ウィリアムソン・マーレーほか共編著、石津朋之ほか監訳、「歴史と戦争研究会」訳『戦略の形成—支配者、国家、戦争』上・下巻 (中央公論新社、2007年)。

5. 履修上の注意/Note:

日本語を基本とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2133J

科目名/Course Name: ユーラシアの戦略環境

担当教員/Instructor: 山添 博史/YAMAZOE Hiroshi

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

ロシア・旧ソ連を中心としたユーラシア地域の戦略環境について特徴的な側面を掘り下げて討議し、国際安全保障や東アジアの戦略環境に与える影響について考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 導入：テキストの紹介とユーラシア地域理解の観点

第2回 1990年代の動乱

第3回 旧ソ連圏のアイデンティティ問題

第4回 プーチン大統領の統治モデル

第5回 ロシア内政の危機

第6回 ロシアと欧米諸国の対立構造

第7回 ロシアと東アジア

第8回 総合討議、まとめ

(受講者の関心に応じて変更、追加する)

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業への貢献度 (50%)、プレゼンテーション (50%)。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

必読：フィオナ・ヒル、クリフォード・ガディ『プーチンの世界：「皇帝」になった工作員』（新潮社、2016年）／Fiona Hill, Clifford Gaddy, Mr. Putin: Operative in the Kremlin (Brookings Institution Press, 2015)

その他：必要に応じて、参考文献を提示する。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2134J

科目名/Course Name: 宇宙開発利用特論 (技術と動向)

担当教員/Instructor: 大井 一史/OOI Kazunao

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

「宇宙基本法」に基づいて新たに国家的な宇宙開発戦略を推進する体制下における宇宙開発利用の現状等を踏まえ、技術面から今後の宇宙開発利用の方向性、政策及び宇宙産業等について考察する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 セミナーの全般説明、宇宙に関する基礎的な知識、宇宙開発利用の現状等について (講義、質疑)

第2回 国家安全保障と「宇宙基本法」「宇宙基本計画」、今後の見通し及び科学技術政策との関係等について (講義、質疑)

第3回 事例1 「軍事・偵察衛星の展望 (1)」

軍事・偵察衛星に関するミッション要求及びその実績並びにこれらを支える宇宙インフラ等 (講義、PC 実習、質疑)

第4回 事例2 「軍事・偵察衛星に適した軌道」

ケプラーの法則、円軌道、楕円軌道等の性質とその具体的な計算 (講義、PC 実習、質疑)

第5回 事例3 「軌道計算」

静止軌道、太陽同期軌道、準天頂軌道、モルニア軌道等の計算及び軌道制御に必要な推進剤量の計算 (PC 実習、質疑)

第6回 事例4 「軍事・偵察衛星の展望 (2)」

軍事衛星打ち上げに用いられる輸送系の概要 (講義、質疑)

第7回 現地研修 (三菱電機鎌倉製作所)

第8回 総括講義 (まとめ、全般質疑)

3. 成績の評価方法/ Grading:

リアクションペーパー (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(1) Charles D.Brown 著「Spacecraft Mission Design」(Second Edition、American Institute of Aeronautics and Astronautics. Inc. 1998) を教育資料として貸出する。

(2) 実習は、軌道計算ソフト「ORBW IN」を使用する。

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語 (教育資料の一部は英語)。

第3回以降の事例研究ではパソコンを使用する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2137J

科目名/Course Name: ロシア軍事史

担当教員/Instructor: 花田 智之/HANADA Tomoyuki

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

ロシアに係わる軍事史への理解を深めることを目的とする。今期はロシアの対外戦略の歴史を考察するため、主に日露両国の軍事と外交に注目する。対象期間は、19世紀後半から冷戦初期までとする。本セミナーを通じて、現代の日露関係への歴史的視座を提供するとともに、今般のウクライナ侵攻に見られるロシアの対外戦略の歴史的背景を探る。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 ロシア帝国の領土拡張と日本の対外政策（導入講義）

第2回 日露戦争と日露協約（発表・討論）

第3回 第一次世界大戦とシベリア出兵（発表・討論）

第4回 戦間期の日ソ関係（発表・討論）

第5回 ノモンハン事件と第二次世界大戦（発表・討論）

第6回 太平洋戦争の終結とソ連の対日参戦（発表・討論）

第7回 欧州冷戦とアジア冷戦（発表・討論）

第8回 まとめ（討論）

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、①発表（60%）、②討論への参加・貢献（40%）によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

【第1回】花田智之「ロシア帝国の領土拡張」下斗米伸夫編『ロシアの歴史を知るための50章』（明石書店、2016年）。横手慎二『日露戦争史』（中公新書、2005年）第1章。

【第2回】横手慎二『日露戦争史』第4章。黒沢文貴「ポーツマス講和条約後の日露関係」五百旗頭真ほか編『日ロ関係史』（東大出版会、2015年）。

【第3回】麻田雅文『シベリア出兵』（中公新書、2016年）第1章。ウラジーミル・ダツィシェンほか「ロシア東部における干渉への日本の参加」『日ロ関係史』。

【第4回】アナスタシア・ローシキナ「スターリンの日本像と対日政策」『日ロ関係史』。田嶋信雄『日本陸軍の対ソ謀略』（吉川弘文館、2017年）第4章。

【第5回】花田智之「ソ連から見たノモンハン事件」麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治1919-1941』（みすず書房、2017年）。大木毅『独ソ戦』（岩波新書、2019年）第3章。

【第6回】麻田貞雄「原爆投下の衝撃と降服の決定」細谷千博編『太平洋戦争の終結』（柏書房、1997年）。長谷川毅『暗闘』（中央公論新社、2006年）第5章前半。

【第7回】山本健『ヨーロッパ冷戦史』（ちくま新書、2021年）第1章。下斗米伸夫『アジア冷戦史』（中

公新書、2004 年) 第 1 章。

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2138J

科目名/Course Name: 日米同盟の歴史

担当教員/Instructor: 千々和 泰明/CHIJIIWA Yasuaki

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

日本の安全保障の基軸である日米同盟、および日本の防衛政策の歴史的展開について、トピックごとに議論する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

第2回 日米安保条約①

第3回 日米安保条約②

第4回 憲法第9条

第5回 防衛大綱

第6回 ガイドライン

第7回 NSC

第8回 総括講義

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、①発表（70%）、②討議への参加（30%）によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

千々和泰明『戦後日本の安全保障』中公新書、2022年

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は日本語とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2141J

科目名/Course Name: 軍事組織の社会学的考察

担当教員/Instructor: 大井 一史/OOI Kazunao

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

軍事組織の社会学的な調査・研究の例に触れ、その方法論や含意について考察することで、軍事社会学の理論に係る知見を得るとともに、科学的思考力の涵養に資する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション・軍事社会学基礎講義

第2回 統計解析基礎講義

第3回 必読文献読解・論文選定・発表準備

第4回 発表・議論

第5回 発表・議論

第6回 発表・議論

第7回 発表・議論

第8回 まとめ

発表対象論文のテーマ (一例)

- ①各国の軍事力整備の度合いと二酸化炭素排出量の関係
- ②米国の退役軍人の健康に対する情報格差 (digital divide) の影響
- ③クロアチアの戦闘行動参加によるその後の投票行動への影響
- ④ドイツ国民の国防政策に関する知識度合とその決定要因 等々

3. 成績の評価方法/ Grading:

担当分の発表・議論の内容 (作成資料等含む) (80%)、担当分以外の議論への貢献 (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(1) Handbook of the Sociology of the Military, Springer International Publishing; Routledge Handbook of Research Methods in Military Studies, Routledge を教育資料として貸出する。

(2) Armed Forces & Society, SAGE Publications (研究図書室所蔵)

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語 (発表対象論文は主に英語)。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2142J

科目名/Course Name: 中国軍事史

担当教員/Instructor: 藤井 元博/FUJII Motohiro

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

歴史的な観点から中国の軍事に関する理解を深めることを目的とする。今期は、20 世紀初頭から国共内戦までにおける中国の軍事と国際関係に注目し、その歴史的意義について考察する。本セミナーを通じて、現代の中国をめぐる安全保障や日中関係を考察するための歴史的視座を得ることを目指す。各回のテーマごとに発表担当者がテキストにもとづき、内容の要約及び論点をまとめたレジュメ（A4 用紙 1～2 枚程度）を作成のうえ、30 分程度の発表をおこない、その後受講者全員で討論する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 第 1 回 20 世紀前半の中国と国際環境（導入講義）
- 第 2 回 清朝の近代化と日清・日露戦争（発表・討論）
- 第 3 回 1920 年代、革命と内乱の時代（発表・討論）
- 第 4 回 国民党の国家建設と日中関係（発表・討論）
- 第 5 回 日中戦争—軍事的展開（発表・討論）
- 第 6 回 日中戦争—国際関係（発表・討論）
- 第 7 回 国共内戦（発表・討論）
- 第 8 回 まとめ（討論）

3. 成績の評価方法/ Grading:

成績は、発表（60%）、討論への参加（40%）によって決定する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

- ・川島真編『中華民国史研究の動向』晃洋書房、2019 年
- ・澁谷有里『の中国史』講談社、2017 年
- ・山田辰雄・松重充浩編『蒋介石研究—政治・戦争・日本』東方書店、2013 年
- ・田嶋信雄ほか編『国際関係のなかの日中戦争』慶應義塾出版会、2011 年
- ・波多野澄雄編『日中戦争の軍事的展開』慶應義塾出版会、2011 年
- ・松田康博『台湾における一党独裁体制の成立』慶應義塾大学出版会、2006 年
- ・ジェローム・チェン『軍紳政権—軍閥支配下の中国』岩波書店、1984 年
- ・森下修一『国共内戦史』三州書房、1970 年

5. 履修上の注意/Note:

使用言語は、日本語とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2143J

科目名/Course Name: 国際政治の中の韓国現代史と日韓関係

担当教員/Instructor: 小池 修/KOIKE Osamu

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

現在の朝鮮半島をめぐる国際情勢を理解するには、韓国（と北朝鮮）の現代史への理解を欠かすことができない。本セミナーでは韓国現代史と日韓関係を扱った代表的な教科書を題材として、特に地域や世界大の国際政治との連関に留意しつつ担当者と参加者間で議論を深めたい。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

【文献の番号（①、②）は4. 参照】

第1回 インTRODクシヨン

第2回 報告と討論 1940～50年代 南北分断と朝鮮戦争（①序章・1章、②序章）

第3回 報告と討論 1950年代 権威主義体制下の韓国と日韓関係（①2章、②1章）

第4回 報告と討論 1960年代 韓国の経済開発と日韓国交正常化（①3章、②2章）

第5回 報告と討論 1970年代 デタントの中の朝鮮半島と日本（①4章、②3章）

第6回 報告と討論 1980～90年代 冷戦の終焉と日韓関係の成熟（①5章、②4章・5章）

第7回 報告と討論 2000年代 非対称から対称へ変化した日韓関係（①6章、②6章）

第8回 報告と討論 2010年代以降の朝鮮半島と日韓関係（①終章、②7章・終章）

まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

報告（30%）、討論（30%）、その他の授業への貢献（20%）、リフレクション（10%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

①木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012年。

②李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹『戦後日韓関係史』有斐閣、2017年。

5. 履修上の注意/Note:

特になし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: SSP2144E

科目名/ Course Name: The Post-War History of Japanese Security Affairs

担当教員/ Instructor: 石原 雄介/ISHIHARA Yusuke

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Each week, the seminar convener delivers an an-hour introductory lecture on topics as outlined below. Students are expected to participate actively in an-hour discussions following the lecture. The seminar purpose is to learn about the basics of the post-war history of Japanese security affairs, become able to investigate contemporary security issues in long-term historical perspectives and build skills to participate in academic discussions in English.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week1 -Introduction

-The Reverse Course, the Yalta System, and the Cold War (1940s-50s)

Week2 -The Yoshida Doctrine and Japan's Return to International Society (1940s-50s)

Week3 -Japanese Politics after the Security Treaty Revision (1950s-60s)

Week4 -The Sino-U.S. Rapprochement and the Sino-Japanese Normalisation (1960s-70s)

Week5 -The Comprehensive Security Concept (1980s)

Week6 -The Post-Cold War Regional Security Architecture (1990s)

Week7 -Japan under the U.S. hegemonic order (2000s)

Week8 -Wrap up: Japanese Security Affairs of Today

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation and performance (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Makoto Iokibe eds., The Diplomatic History of Postwar Japan, (London: Routledge, 2011). *The convener will announce which chapter/section students are expected to read each week.

5. 履修上の注意/Note:

At the outset of in-class discussions, a designated student is required to offer kick-off questions for in-class discussions.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP2145J

科目名/Course Name: 防衛法制論

担当教員/Instructor: 林 浩一/HAYASHI Kouichi

学期名/Term: 冬、春前/Winter, Spring 前

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

防衛法制、特に事態対処法制について、武力攻撃事態等対処法を国家中央における意思決定の手順と捉え、制度の前提となる法的概念や関連法制を明らかにすることにより、部隊における指揮幕僚活動と防衛法制の連接等に関する理解を深め、もって防衛法制の「使える知識」化への資とする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 導入:「生きた知識」と「死んだ知識」の視点

第2回 武力攻撃事態等対処法の概要

第3回 背景1:行政権の具体化プロセス(憲法、内閣法、国家行政組織法)

第4回 事態対処法制の全体像と個別法制の機能の概要

第5回 背景2:地方分権改革後の中央地方関係(機関委任事務から法定受託事務への変化)

第6回 平和安全法制による変化

第7回 事例研究

第8回 まとめ:防衛法制の「使える知識」化の意義・必要性

3. 成績の評価方法/ Grading:

事例研究用レポート(60%)、前提条件及び制度に即した議論への貢献(40%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

【テキスト】武力攻撃事態対処法研究会編『武力攻撃事態対処法の解説』(ぎょうせい、平成15年)

田村重信編著『新・防衛法制』(内外出版、平成30年)

【参考文献】磯崎陽輔『武力攻撃事態対処法の読み方』(ぎょうせい、平成16年)

西尾勝『行政学[新版]』(有斐閣、2002年)

真淵勝『行政学[新版]』(有斐閣、2020年)

その他受講者の関心に応じ、随時指示。

5. 履修上の注意/Note:

事例研究の実施要領は、受講生の興味・関心に即して、第1回に調整します。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP3301J

科目名/Course Name: 政策シミュレーション

担当教員/Instructor: 松浦 吉秀/MATSUURA Yoshihide

学期名/Term: 秋～春/Fall through Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国家安全保障政策決定過程についての講義を受講するとともに、班討議、政策シミュレーション演習及び全体討議を通じて、将来の安全保障・防衛政策の在り方を検討する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義では、政策シミュレーションの方法論について学ぶとともに、マトリクスゲームやセミナーゲーム等の形式による政策シミュレーション演習に参加し、他の各講義・セミナーで得た知識を総合的・一体的に活用して国家安全保障に係る戦略レベルの課題解決に取り組むことにより、安全保障・防衛政策を検討する上で必要な思考力を涵養することを主眼とする。

各学期において、部内講師が方法論についての講義を行うとともに、演習の枠組みについて説明する。部内または部外講師が演習に資する政策講義を行う。演習の内容に応じて事前に班を編成して準備を行い、ファシリテーターの進行により演習を実施し、終了後の AAR (アフターアクションレビュー) にて全体で知見・教訓を共有する。

演習内容は学期の進展に合わせ基礎から応用、総合的なものへと段階的に発展させる。進め方については都度別示する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

討議や演習での議論・発表 (100%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

都度別示

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP4301E

科目名/Course Name: Independent Study

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to provide advice and guidance to the students enrolled in the Strategic Studies Program in their endeavor to write research papers. We will organize regular common sessions through fall and winter semester to guide students through their planning and research. From spring to summer semester, students will basically work with their individual advisors to complete their research paper. We instruct students with two advisors from GRIPS and the National Institute for Defense Studies (NIDS) depending on their topic. Students are encouraged to write their research paper in English. Those writing in English can seek the guidance of CPC (Center for Professional Communication).

政策論文演習は、戦略研究プログラムの学生がリサーチペーパーの執筆に取り組むにあたり助言、指導を行う目的で開設されたものである。秋から冬学期に関しては、定期的に合同セッションを持ち、テーマ選定とリサーチ方法に関する指導を行う。春・夏学期には、アドバイザーと個別に指導を行い、リサーチペーパーの完成を目指す。GRIPS と防衛研究所より、テーマに応じて合計2名のアドバイザーが決められる。学生は、英語でリサーチ・ペーパー作成することを奨励される。英語での論文作成は、CPC (Center for Professional Communication) の支援を受けることができる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) During the fall and winter semester, regular common sessions will be held with Program Director Iwama and Vice Director Takenaka. Basic approaches to academic paper writing as well as basics of domestic and international politics will be dealt with

(2) The first three sessions will be dedicated to selecting the topic.

(3) During the 4th to 10th session, progress of research will be checked regularly. There will also be discussions on basics of the domestic and international politics. There will be reading assignments for each session.

(4) In spring/summer semester, students will proceed with writing their paper under the guidance of their individual advisors. Those writing in English should seek the guidance of CPC as necessary.

(5) Students will submit their research papers by the set deadline.

(1) 秋・冬学期は、プログラム正・副ディレクターを中心に、合同セッションを行う。ここでは、ペーパー作成の基本を学ぶと共に、国内政治・国際政治に関する基本的アプローチを学ぶ。

(2) 最初の3回の合同セッションにおいて、論文テーマに選択を集中的に行う。

(3) 第4回から10回の合同セッションにおいては、論文の進捗状況を必要に応じてチェックしつつ、国内政治・国際政治の基本に関するディスカッションを正副ディレクターを中心に行う。各回のリーディングアサインメントに関しては連絡に従う。

(4) 学生は、春・夏学期においては、個別指導教官の指導の下に、論文を完成させる。英語で論文作成をしている学生は、必要に応じてCPCの指導を受ける。

(5) 学生は決められた期限までにリサーチペーパーを提出する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

Attendance: 40%

Policy Paper: 60%

出席 : 40%

ポリシーペーパー: 60%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

スティーヴン・ヴァン＝エヴェラ『政治学のリサーチ・メソッド』野口和彦、渡辺紫乃訳、勁草書房、2009年

マーク・トラクテンバーグ『国際関係史の技法』村田晃嗣・中谷直司・山口航訳、ミネルヴァ書房、2022年。

上神 貴佳 / 三浦まり『日本政治の第一歩』〔新版〕(有斐閣ストゥディア)、2023年

村田 晃嗣, 君塚 直隆, 石川 卓, 栗栖 薫子, 秋山信将 『国際政治学をつかむ』〔第3版〕(Textbooks tsukamu) 単行本 2023年

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:SSP4301J

科目名/Course Name: 政策論文演習

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

政策論文演習は、戦略研究プログラムの学生がリサーチペーパーの執筆に取り組むにあたり助言、指導を行う目的で開設されたものである。秋から冬学期に関しては、定期的に合同セッションを持ち、テーマ選定とリサーチ方法に関する指導を行う。春・夏学期には、アドバイザーと個別に指導を行い、リサーチペーパーの完成を目指す。GRIPS と防衛研究所より、テーマに応じて合計2名のアドバイザーが決められる。学生は、英語でリサーチ・ペーパー作成することを奨励される。英語での論文作成は、CPC (Center for Professional Communication) の支援を受けることができる。

この講義は、SDGs の目標 17 (平和と公正) に関連する

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Session 1～3: オリエンテーション。リサーチ・ペーパー作成の基本。

各人からのプロポーザルの提出をもとにテーマ選定。

Session 4~10: 基本的に隔週で、国内政治・国際政治に対するアプローチ、リサーチの方法について、岩間と竹中より問題提起があり、ディスカッションを行う。実際の論文作成の技術的な問題を、必要に応じてCPC の教員などを招きながら指導し、各人の研究の進展具合を確認しつつ、指導を行う。中間発表後には、その結果を踏まえて内容の修正方向を確認する。

春～夏学期は、指導教官の指導の下にリサーチペーパーを完成させる。

3. 成績の評価方法/ Grading:

出席 : 40%

ポリシーペーパー: 60%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

上神 貴佳 / 三浦まり 『日本政治の第一歩』〔新版〕 (有斐閣ストゥディア)、2023 年

村田 晃嗣, 君塚 直隆, 石川 卓, 栗栖 薫子, 秋山信将 『国際政治学をつかむ』〔第3版〕 (Textbooks tsukamu) 単行本 2023 年

スティーヴン・ヴァン＝エヴェラ 『政治学のリサーチ・メソッド』野口和彦、渡辺紫乃訳、勁草書房、2009 年

マーク・トラクテンバーグ 『国際関係史の技法』村田晃嗣・中谷直司・山口航訳、ミネルヴァ書房、2022 年。

5. 履修上の注意/Note:

講義は日本語で行うが、論文自体は英語で作成することを奨励する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: SSP5000E

科目名/ Course Name: Case Study on Maritime Safety and Security Policy

担当教員/ Instructor: 古谷 健太郎/ FURUYA Kentaro

学期名/ Term: 冬学期/ Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to acquire advanced ability to put legal and political theories and knowledge into practice, by researching and analyzing cases related to law enforcement activities at sea from the perspective of, such as international law and each State's policies and national laws and regulations, discussing in the class what measures should be taken and how to be made, and arriving at more legitimate and effective measures.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The subjects of this course are;

1. Introduction

2. to 8.

Students will be given a different and short scenario based on the past cases and consider legally and practically sounds measures against the incident in the scenario. First, students are required to submit preliminary ideas/thoughts within 1,000 words each time, which are subject to evaluation, before the class. In the class, students will be given chances to exchange their views and ideas to find out better, more effective and legitimate solutions.

Basic understandings of international law and the law of the sea are required.

3. 成績の評価方法/ Grading:

30% for the participation in discussion and oral presentation in the class.

70% for proposing more legitimate and effective measures in writing and submitting reports.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

6-1 Required

Louis B. Sohn, John E. Noyes and Erik Franckx, 2014, Cases and Materials on the Law of the Sea, 2nd edition, Martinus Nijhoff.

J. Ashley Roach and Robert W. Smith, 2012, Excessive Maritime Claims, 3rd Edition, Martinus Nijhoff.

S. Jayakumar and Tommy Koh (eds.), 2014, The South China Sea Disputes and Law of the Sea, Edward Elgar.

Leszek Buszynski and Christopher B. Roberts (eds.), 2014, The South China Sea

Maritime Dispute: Political, Legal and Regional Perspectives, Routledge.

6-2 Others

Lindsay Black, 2014, Japans Maritime Security Strategy: The Japan Coast Guard and Maritime Outlaws, Palgrave Macmillan.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1000E

科目名/Course Name: Economics of Innovation

担当教員/Instructor: INTARAKUMNERD Patarapong/INTARAKUMNERD Patarapong

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Students should have basic knowledge on microeconomics and macroeconomics before taking this course. This course will be a foundation for further studies in other subjects of science, technology and innovation policies. It focuses on economic explanation of technical change and innovation at four levels: micro (firm), meso (industrial sector, regional, and geographical cluster), national, and global.

The course comprises four modules:

- A) Micro level: understanding knowledge, science, technology and innovation
- B) Meso level: industrial dynamics, regional and sectoral innovation systems, and clusters
- C) Macro level: the roles of national innovation systems and globalization
- D) Important issues: roles of finance, universities and intellectual property right

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Class

Topic

Textbook:

Chapter

1

2

3

Module A:

Introduction: what is innovation and why does it matter?

Basic concepts on economics of knowledge, S&T, and innovation Technological change and innovation in theories of firms

1/13 (Ox)

2 (Ox)/5 (HR)

16 (HR)

4

5

6

7

Module B:

Economics of industrial evolution

Systems of innovation concept

Sectoral innovation system

Regional innovation system and industrial cluster

3 (HR)

7 (Ox)/27 (HR)

14 (Ox)

11 (Ox)/8 (HR)

8

9

10

11

Module C:

National innovation system and technological catching up

Globalization and the roles of transnational corporations

Global value chain and production network

Diffusion and impacts of General Purpose Technologies

19 (Ox)/20 (HR)

12 (Ox)

20 (Ox)

17/18 (HR)

12

13

14

interaction

Module D:

Innovation Financing

universities/public research institutes and industry

Intellectual property rights and innovation

9 (Ox)/14 (HR)

8 (Ox)/6 (HR)

10 (Ox)/7 (HR)

15

General discussion and conclusion

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation for the course will be based upon the following:

Master students: class participation (20%), and final examination (80%)

Ph.D. students: class participation (20%), final examination (60%), and academic report (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Fargerberg, J., Mowery, D. and Nelson, R. (eds.) (2005), Oxford Handbook of Innovation, Oxford University Press: New York, USA (Ox)

(downloadable from

https://www.academia.edu/38930379/THE_oxford_HANDBOOK_OF_INNOVATION_Edited_by)

Hall, B. and Rosenberg, N. (eds.) (2010), Handbook of the Economics of Innovation, Elsevier, Amsterdam (HR)

(downloadable at GRIPS through GRIPS's institutional paid account from

<https://www.sciencedirect.com/handbook/handbook-of-the-economics-of-innovation>)

5. 履修上の注意/Note:

Email address: patarapong@grips.ac.jp; prpu6@hotmail.com

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1060J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策概論

担当教員/Instructor: 鈴木 潤, 根井 寿規, 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之/SUZUKI Jun, NEI Hisanori, SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国や地方の行政担当者や、大学等の研究開発機関において研究マネジメントに携わる者にとって不可欠である、科学技術イノベーション政策における基礎的な理論と、最新の政策の状況について概説する。

近年、科学技術政策はイノベーション政策と一体化して対象範囲を拡大しており、日本においても科学技術の振興や産業への応用のみならず、「Society5.0」概念の提唱にみられるような新たな社会システムの設

計と実現までを含めた政策形成が求められるようになってきている。本科目では、まず日本および海外の科学技術イノベーション政策の歴史的展開と最新動向を紹介する。また、科学政策、産業技術政策、イノベーション政策における論点とその理論について説明する。次に、デジタルイノベーション、エネルギー政策などの分野別の科学技術の動向および政策の動向について解説するとともに、科学外交・安全保障などの特徴的な課題について説明する。

受講者は、講義とディスカッションを通じて、科学技術イノベーション政策の理論と主要課題や、最新動向についての知識を得ると共に、各分野や各国・地域における政策の相違や背景について理解し、自らの関心領域や業務領域へとその知識を応用できるようになることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 イントロダクション：(科学技術イノベーション政策の科学とは何か (有本))

2 ディスカッション (履修学生との問題意識の共有・議論)

3 日本の科学技術イノベーション政策 (上山)

4 海外における科学技術イノベーション政策 (有本)

- 5 科学技術イノベーション政策の理論（鈴木）
- 6 科学政策（林）
- 7 産業・イノベーション政策（鈴木）
- 8 トランスフォーマティブ・イノベーション（飯塚、有本）
- 9 デジタライゼーション政策（外部講師：江崎浩 東京大学教授、デジタル庁 Chief Architect)
- 10 環境・エネルギー政策（根井）
- 11 科学技術の社会的ガバナンス（外部講師：平川秀幸 大阪大学教授）
- 12 科学技術イノベーション政策と外交・安全保障（角南）
- 13・14・15 学生発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4 割
- ・学生発表：6 割

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1：なし

4-2：各回の参考文献については以下の通り。それ以外には各回の授業で紹介する。

- ・ 「科学的助言—21 世紀の科学技術と政策形成」、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、吉川弘之、東京大学出版会、2016 年 8 月.

- ・ 「研究開発の俯瞰報告書：統合版—俯瞰と潮流—」、科学技術振興機構・研究開発戦略センター・研究開発の俯瞰報告書 2021、2021 年 57 月. <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-FR-01.html>

- ・ OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2021 - Adapting to Technological and Societal Disruption, OECD, November 2021.

<https://www.oecd.org/sti/oecd-science-technology-and-innovation-outlook-25186167.htm>

第 5 回

- ・ 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 著、「公共政策学の基礎」、有斐閣ブックス、2010 年

第 6 回

- ・ Simons, Kuhlman, Stamm, Canzler (2019), Handbook of Science and Public Policy, Edward Elgar.

- ・ マイケル・ギボンズ(1997)『現代社会と知の創造—モード論とは何か』丸善

第 7 回

- ・ 後藤晃、小田切宏之、「日本の産業システム-3 :サイエンス型産業」、NTT 出版、2003 年

- ・ 薬師寺泰蔵、「テクノヘゲモニー」、中公新書、1989 年

第 8 回

- ・ 「STI for SDGs の具現化に向けて-国連決議から 4 年、新しいステージへ」、中村・有本・今林著、科学技術振興機構・SDGs 室監修、2019 年 11 月。
https://www.jst.go.jp/sdgs/pdf/sti_for_sdgs_report_nov_2019.pdf
- ・ Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019, July 2019, The United Nations.
https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR_report_2019.pdf
- ・ Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals, July 2018, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA). http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15347/1/TWI2050_Report081118-web-new.pdf
- ・ The Digital Revolution and Sustainable Development: Opportunities and Challenges, July 2019, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA). <http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15913/1/TWI2050-for-web.pdf>.
- ・ 飯塚倫子 (2019) 「ネオ・シュンペタリアンとイノベーション」第 8 章、岡本哲史・
- ・ 小池洋一編『経済学のパラレルワールド：異端派総合アプローチ』新評論：p g 275-302
- ・ Schot, J., Steinmeuller, E., (2018) Three frames for innovation policy: R&D, systems of innovation and transformative change, Research Policy, 47 (2018) 15541567.

第 9 回

- ・ 江崎 浩『サイバーファースト 増補改訂版 インターネット遺伝子が創るデジタルとリアルの逆転経済』インプレス R&D、2019 年。

第 10 回

- ・ World Energy Outlook 2022, IEA

- Energy Technology Perspective 2023, IEA

5. 履修上の注意/Note:

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1070J

科目名/Course Name: 公的機関からのイノベーション創出

担当教員/Instructor: 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之/SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

大学や公的研究機関（研究開発法人や地方公設試験所など）などの公的資金によって生み出された科学技術成果をいかに事業化・商業化へ結びつけ、イノベーションを実現し、経済社会的な成果を生み出していかかは、科学技術イノベーション政策の立案・実施や、大学・研究機関における戦略策定・研究マネジメントの実施において重要な課題である。近年、オープンイノベーションによる企業と公的機関との連携、組織対組織の連携による研究計画立案段階からの連携の増加、公的機関からのベンチャー創出や新産業創出への期待など、イノベーションへとつながる事業化支援の必要性がさらに増しているとともに、科学技術イノベーションを通じた社会的課題解決の点からのソーシャルアントレプレナーの必要性も指摘されている。

本科目では、産学連携や成果の橋渡し支援を通じた公的機関における事業化の支援方策、アントレプレナー人材の育成、技術シーズのインキュベーションの方策、VC やアクセラレータの機能と育成方策、組織間の包括協定による連携、社会実験を含めた地域振興や社会課題解決に結びついた支援方策、ソーシャルアントレプレナーの育成、イノベーションの普及方策などについて理論的整理を含む講義と、業務を実際に担当している実務者による事例の説明、ならびにインテンシブな議論を行う。これらを通じて、受講者は事業化の理論と実例についての知識を得るとともに、自らの立場において事業化やその支援を行う方法を検討することができるようになることが期待される。また、実際に事業化のためのビジネスモデル開発実習を行い、自らが事業化（あるいは支援ビジネスの開発）を体験する。これにより、ビジネスサイクルの理解をいっそう深めることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1・2 シーズ形成と移転（隅藏、山本貴史（株式会社東京大学 TLO 代表取締役）、大西晋嗣（九州大学 学術研究・産学官連携本部 知財・ベンチャー創出グループ グループリーダー））

5・6 起業促進（隅藏、山口泰久（FFG ベンチャービジネスパートナーズ 取締役副代表）、原田謙治（㈱メディカルインキュベータージャパン 取締役））

14・15 ライフサイエンスからのイノベーション（隅藏、菱山豊（文部科学省科学技術・学術政策研究所 所長））

7・8 公的機関によるイノベーション創出の組織的取組（林、出口 敦（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授））

9・10 地域イノベーション (隅藏、福嶋 路 (東北大学大学院 教授), 野澤一博 (流通経済大学 教授))

11・12・13 ビジネスモデル開発演習 (隅藏、今津美樹 (WinDos 代表取締役))

3・4 ソーシャルイノベーション (飯塚、中村 俊裕 (コペルニク共同創設者兼 CEO))

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業におけるディスカッションへの参加 : 4 割
- ・学生発表あるいはレポート : 6 割

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1:なし

4-2:

海老原城一, 中村彰二郎(2019) 『SmartCity 5.0 地方創生を加速する都市 OS』 インプレス

今津美樹(2014) 『図解ビジネスモデル・ジェネレーション ワークショップ』 翔泳社

Alexander Osterwalder, Yves Pigneur(2010), Business Model Generation: A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers, Wiley

Alexander Osterwalder, et al. (2014), Value Proposition Design: How to Create Products and Services Customers Want, Wiley

5. 履修上の注意/Note:

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1080J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策立案演習

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

※本授業は、七丈直弘・一橋大学商学部教授（本学客員教授）、林、および外部講師により行います。

科学技術イノベーション政策を、エビデンスを踏まえていかに形成し、その効果をいかに測定できるだろうか。科学技術イノベーション政策は、他の政策領域とは異なり、科学技術成果が効果を生むまでに長期かかるとともに、失敗のリスクを許容する必要があることや、想定外の効果が生じる可能性があること、研究人材の育成など環境・基盤の形成が重要であることなど、立案や評価に難しさが存在している。さらに、イノベーション政策との一体化することにより、いかに将来の社会像を構想あるいはトレンドを分析し、それを実現する方策へと展開させていくかも課題である。

本科目では、まず政策形成手法としてフォーサイトにおける各種手法（ホライズンスキャン法、シナリオ分析法、バックキャスト法等）を用いたビジョン形成と具体的な政策への落とし込みの方法について解説する。また、評価においては、ロジックモデルを用いたセオリー評価、政策導入の意思決定のための代替案との比較方法であるインパクトアセスメント、多様なインパクトを踏まえた政策効果の分析（インパクト評価）について説明する。受講者は自身の関心領域において、政策の形成と評価作業を行うことができるようになることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. 政策立案・評価手法概論（林、七丈）

2～4 フォーサイトの理論と演習 1（七丈、外部講師）

5～10 フォーサイトの理論と演習 2（七丈、外部講師）

11～15 評価の理論と演習（林、外部講師）

3. 成績の評価方法/ Grading:

・授業におけるディスカッションへの参加、実習（グループワーク）への貢献：5割

・レポート：5割

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1：なし

4-2：

『一橋ビジネスレビュー』2019年AUT（67巻2号）特集：未来洞察と経営

Shapira, P. and S. Kuhlmann eds. (2003), Learning From Science And Technology Policy Evaluation: Experiences from the United States and Europe, Edward Elgar.

Link, N. and N.S. Vonortas eds.(2013), Handbook On The Theory And Practice Of Program Evaluation, Edward Elgar.

ロッシ、リプセイ、フリーマン(2004:大島他訳(2005)) 『プログラム評価の理論と方法』日本評論社

5. 履修上の注意/Note:

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1090E

科目名/Course Name: Politics of Innovation

担当教員/Instructor: BRUMMER Matthew/BRUMMER Matthew

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

How do politics affect science, technology, and innovation? How do science, technology, and innovation affect politics?

This course aims to provide students with an introduction to essential concepts and terms of art for the study of the relationship between politics on the one hand and science, technology, and innovation (STI) on the other. The course explores the role of both international political and domestic political theory in the study of STI. The course seeks to communicate the character of politics from diverse perspectives, with an emphasis on relating theory to questions of public concern and policies in practice. Thus, the course is both macro-theory and micro-policy focused.

The course will draw on core texts in both political science and STI to provide students with a firm grounding from which to think about a range of critical issues in at the nexus of politics and STI. By the end of the course, students will: have developed a broad understanding of the relationship between politics and STI; be able to assess and apply different theories to specific issues related to STI; be able to identify and develop their own inquiries into the core debates in both politics and STI; have developed communication and academic skills needed to undertake social science research.

The course requires students to be committed to learning and to come prepared to class, having read the assigned texts in advance. The course will be taught over 15 classes and students are expected to attend all classes. Each class will be divided into a lecture and a seminar. The course instructor will lead the lecture at the beginning of each class, after which we will turn to a seminar-based discussion where students will present and discuss the assigned reading for that day.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The detailed course outline will be presented on the first day of class. The course is divided 3 phases. In the first phase, we will examine the core theories of International Relations, including Realism, Liberalism, and Constructivism, and their treatment of STI. In the second phase, we examine core theories of domestic politics, and their treatment of STI. In the third phase, we will apply theory to current affairs in STI.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Students will be assessed on the following three components:

Participation (20%). Each student will present on several of the weekly reading assignments during the semester,

after which they will lead an open discussion. Additionally, attendance will be taken and will be factored into ones final participation grade.

Presentations (20%). Students are required to present the results of their final term papers. Each will be 30 minutes, consisting of: 15 minutes presentation and 15 minutes Q&A.

Final Term Paper (60%). Students will write a final term paper on a topic of their choosing and in consultation with the course instructor. Papers will be between 5,000 and 8,000 words. Details of the final term paper will be discussed in class.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There are no required textbooks for this course. The instructor will provide all reading materials.

5. 履修上の注意/Note:

Extra credit can be earned by publishing in newspapers, magazines, or journals on a topic related to the politics of science, technology, and innovation.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1100J

科目名/Course Name: イノベーションと経済学 (火、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 鈴木 潤/SUZUKI Jun

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

イノベーションと経済学は、従来切っても切れない関係にある。現代の主流派経済学においてイノベーションは、主として生産関数の外生的係数として扱われてきた。しかし、それ以外にも内生的成長理論におけるドライビングフォースの一つとしての科学研究や R&D 投資であったり、制度派経済学における投資インセンティブを強化するための知識ストック保護であったり、シュンペータ仮説やイノベーション・システム研究における産業構造変化の要因など、様々な視角が存在している。本講義では、イノベーションや技術進歩を支援するための様々なイノベーション政策と、経済学および経営学の接点に関するいくつかの重要な視点から、イノベーション研究の意義や成果、政策科学のツールとしての経済学との関係などに関する解説を行う。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1 導入：経済学はイノベーションをどう扱ってきたか

2 競争とイノベーション、シュンペータ仮説

3 政府の R&D 補助金と優遇税制

4 組織能力とイノベーション

5 政府調達・国有企業

6 科学研究と経済学

7 公的研究機関

8 大学とイノベーション

9 クラスタ政策

10 中小企業支援

11 ベンチャー・スタートアップ支援

12 知的財産権保護・標準化とイノベーション

13 規制・競争政策とイノベーション

14 コンテストとアワード

15 ラップアップ

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業への出席とディスカッションへの参加：70%

・リーディング・アサインメントの要約と報告：30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 岡田洋祐、2019年、イノベーションと技術変化の経済学、日本評論社

4-2 鈴木・安田・後藤編著、2021年、変貌する日本のイノベーション・システム、有斐閣

以下に示すのは、各週のトピックスに関する研究論文のリストである（リストは更新・追加する場合があります）。これらの中から受講生にリーディングをアサインする。

Robert J. Gordon, 2012, Is U.S. Economic Growth Over? Faltering Innovation Confronts the Six Headwinds, NBER Working Paper W18315, <http://www.nber.org/papers/w18315>

David Audretsch and Maksim Belitski, 2020, The role of R&D and knowledge spillovers in innovation and productivity, European Economic Review, Volume 123

Adam Jaffe and Trinh Le, 2015, The Impact of R&D Subsidy on Innovation: A Study of New Zealand Firms, NBER Working Paper, W21479, <http://www.nber.org/papers/w21479>

Wesley Cohen and Daniel Levinthal, 1990, Absorptive Capacity: A New Perspective on Learning and Innovation, Administrative Science Quarterly, Vol. 35, No. 1, Special Issue: Technology, Organizations, and Innovation, pp. 128-152

Dirk Czarnitzki, Paul Hunermund, and Nima Moshgbar, 2018, Public Procurement as Policy Instrument for Innovation, ZEW Discussion Paper No. 18-001, <http://ftp.zew.de/pub/zew-docs/dp/dp18001.pdf>

Pierre Azoulay, Joshua Zivin and Gustavo Manso, 2011, Incentives and creativity: evidence from the academic life sciences, RAND Journal of Economics, Vol. 42, No. 3, pp. 527-554

Mazzoleni, R and Nelson, R. 2007, Public research institutions and economic catch-up, Research Policy, Volume 36, Issue 10, Pages 1512-1528, <https://doi.org/10.1016/j.respol.2007.06.007>.

Ajay Agrawal and Rebecca Henderson, 2002, Putting Patents in Context: Exploring Knowledge Transfer from MIT, *Management Science*, Vol. 48, No. 1, Special Issue on University Entrepreneurship and Technology Transfer, pp. 44-60

Nishimura and Okamuro, 2011, Subsidy and Networking: The effects of direct and indirect support programs of the cluster policy, *Research Policy* 40, pp714727

Block and Keller, 2009, Where Do Innovations Come From?, Working Papers in Technology Governance and Economic Dynamics no. 35, <http://technologygovernance.eu/files/main/2011051801183232.pdf>

D.M. Hechavarria, A. Ingram, A review of the entrepreneurial ecosystem and the entrepreneurial society in the United States: An exploration with the global entrepreneurship monitor dataset, *Journal of Business and Entrepreneurship*, 26 (1) (2014), pp. 1-37

Bronwyn Hall, 2020, Patents Innovation and Development, NBER Working Paper W27203, <http://www.nber.org/papers/w27203>

Joseph A. Clougherty (2010) Competition Policy Trends and Economic Growth: Cross-National Empirical Evidence, *International Journal of the Economics of Business*, 17:1, 111-127, DOI: 10.1080/13571510903516995

Tom Nicholas, 2013, Hybrid Innovation in Meiji, Japan, *International Economic Review*, Vol. 54, No. 2, pp. 575-600. <https://www.jstor.org/stable/24517179>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI1110J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策のためのミクロ経済学

担当教員/Instructor: 長根 裕美/NAGANE Hiromi

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

ミクロ経済学の未習者を念頭に、標準的なミクロ経済学のテキストに基づきつつ、エッセンスを講義する。経済学は消費者や生産者の行動メカニズムを解き明かし、その結果どのような社会状態に至るのか、またその場合どのような政策を用いれば社会状態を改善できるか、を分析するための強力なツールである。政策立案・評価やビジネスを理解するためにも、ミクロ経済学の基礎知識は必須である。

本講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を身につけることを目的とし、自ら経済現象を論理的に理解し、経済学の分析ツールでもって分析ができるようになることを到達目標とする。基本的にミクロ経済学未習者を対象として構成するため、特別な知識はいらない。必要に応じて、参考書などを紹介してフォローする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

① 経済学とは何か？

② 経済モデル

③ 供給と需要

④ 規制の導入

⑤ 価格変化の影響を測る～弾力性

⑥ 個人と市場～税のケース

⑦ 消費者余剰と生産者余剰

⑧ 意思決定

⑨ 合理的な消費者

⑩ 消費者の選好と消費選択

⑪ 供給曲線の裏側：投入物と費用

⑫ 完全競争と供給曲線

⑬ 独占

⑭ 外部性

⑮ まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末試験 100%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 クルーグマン ミクロ経済学 (第2版) 東洋経済新報社

出版社: 東洋経済新報社; 第2版 (2017/3/29)

ISBN-10: 4492314822

ISBN-13: 978-4492314821

4-2

Microeconomics

Paul Krugman, Robin Wells, Worth Publishers

(上記テキストの原典)

Microeconomics 8th edition

Robert Pindyck, Daniel Rubinfeld, Pearson (MBA 向けミクロ経済学のテキスト)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2020J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策史

担当教員/Instructor: 有本 建男/ARIMOTO Tateo

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

近年、人工知能 (AI)、ビッグデータ、SNS、遺伝子編集、ドローン等の新興技術は、内外の政治・行政・産業・安全保障・市民生活の秩序と構造を急速に変化させている。それに伴って、科学技術政策の範囲は、従来の科学技術の振興 (policy for science、科学技術政策) から、気候変動、都市、健康、食料、エネルギー、など、世界・地域 (アジア等)、国・地方レベルでの社会・経済・環境、安全保障等の課題解決に向けて大きく広がっている (science for policy、科学技術イノベーション政策)。それに伴って、政策の策定プロセスから政・産・学・官公・市民の役割と連携、文理連携による研究課題の設定、研究体制、資金配分と評価、成果の社会実装、先端技術と安全保障、人材の育成とキャリアパス等、科学技術活動全般について再検討 (riorient,OECD) が必要になっている。

世界的には近年、「第4次産業革命」(ダボス会議)、「Internet of things」(米)、「Industry 4.0」(独)、「ミッション志向イノベーション政策」(OECD、EU)、「OECD S&T Policy 2025 Initiative」、「STI for SDG s」(国連) など、次々に、科学技術の新しい価値感とエコシステムが提案されている。わが国でも5年前から「Society5.0」が提唱され、2020年に科学技術基本法が4半世紀ぶりに大巾改正された。それに基づいて第6期科学技術・イノベーション基本計画(2021-2025)が閣議決定され実行され始めている。

2015年に国連加盟国が全会一致で決議した「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) -Transforming our world-」は、21世紀の人類と地球の共通ビジョンになっている。貧困、健康、食料、エネルギー、水、都市、生産と消費、気候変動など、SDG s で設定されている17のゴール達成に向けて、コロナ・パンデミックによる停滞はあるもの、科学技術イノベーションへの期待は大きい。

これらの対応には、技術分野、プログラム、組織、国の枠を越えて、global-regional-national-localの各層での多様なステークホルダーによる協働と実践が重要になっている。最近では「地方SDG s」として、地方創生とSDG sと科学技術の各政策の統合的推進が進められている。日本の近代化、公害克服、災害対策等の経験と技術に対する途上国からの関心は高い。

一方で、近年の米中摩擦の激化と2022年2月に始まった、ロシアによるウクライナ侵攻は、先端技術の国際競争と国家安全保障、様々なサプライチェーンのレジリエンスの重要性を世界に認識させた。

このコースでは、まず、内外の科学技術イノベーション政策の歴史と最近の動向について概観する。次に、現在起こっている数百年オーダーの社会経済の大転換の下で、地方、国、世界レベルで持続可能でレジリエントな社会を実現するために必要となる、科学技術イノベーション政策とエコシステムの変革について紹介する。都市、高齢化対策、モビリティなど具体例を挙げて、各ステークホルダーの役割と協働について議論したい。また、米中摩擦とロシア・ウクライナ戦争で明らかになった、先端技術と安全保障の関係性についても議論する。必要に応じて外部から専門家を招聘する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

(1) 「現代社会と科学技術問題の設定と"STI政策のための科学・コアコンテンツ"の紹介と議論」

- (2) 「科学技術・イノベーション（STI）基本法(2020)と第6期 STI 基本計画」
- (3) 「STI 政策の機能と構造」
- (4) 「日本の近代化と科学技術」
- (5) 「科学技術の制度体制の世界史」
- (6) 「持続可能な開発目標（SDGs）と STI：概要」
- (7) 「持続可能な開発目標（SDGs）と STI：多層構造と実践」
- (8) 「STI 政策の国際比較と国際潮流」
- (9) 「新興技術と社会的インパクトと安全保障」
- (10) 「STI 政策とフォーサイト」
- (11) 「研究開発ファンディング制度とマネジメント」
- (12) 「ミッション志向イノベーション政策の内外動向」
- (13) 「転換期における科学的助言と科学技術外交」
- (14) 「21 世紀前半の科学技術イノベーション人材」
- (15) 「議論とまとめ（必要に応じて中間まとめを行う）」

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への出席、議論への参加、小論文作成などで総合評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- (1) 「科学技術イノベーション政策の科学(SciREX)：コアコンテンツ」、SciREX 編集委員会、「科学技術イノベーション政策の科学」コアコンテンツ (grips.ac.jp).
- (2) 「第6期科学技術・イノベーション基本計画」、内閣府、2021年3月閣議決定。

第6期科学技術・イノベーション基本計画 - 科学技術政策 - 内閣府 (cao.go.jp).
- (3) 「科学技術基本法体系の変容：1995 から 2020-理念と現実と実行の課題-」、

学術の動向、日本学術協力財団、2021年5月.
- (4) 「日本の科学技術・イノベーション政策の動向 2022」、科学技術振興機構（JST）・研究開発戦略センター（CRDS）、2023年4月発行予定。
- (5) 「科学技術イノベーション政策の国際潮流」、JST/CRDS、2023年4月発行予定。
- (6) 「ミッション志向型科学技術・イノベーション政策と研究開発ファンディングの推進」、JST/CRDS、2022年3月. "The Design and Implementation of mission-oriented Innovation Policies A New Systemic Policy Approach to Address Social Challenges", OECD Science, Technology and Industry, Policy Papers, February 20.

"Mission-oriented innovation policy in Japan Challenges, opportunities and future options", Science, Technology and Industry Policy Paper, April 2021, OECD.

(7) 「研究開発の俯瞰報告書 2023 年版」、科学技術振興機構・研究開発戦略センター、2023 年 4 月. 研究開発の俯瞰報告書 | 報告書から探す | 戦略提案・報告書 | 研究開発戦略センター (CRDS) (jst.go.jp)

○ 「研究開発の俯瞰報告書：統合版—俯瞰と潮流—」

○ 「研究開発の俯瞰報告書 4 分野 (分冊)」：①環境・エネルギー分野、②システム・情報科学技術分野、③ナノテクノロジー・材料分野、④ライフサイエンス・臨床医学分野.

(8) "Addressing Societal Challenges using Transdisciplinary Research", OECD/Global Science Forum, June 2020. 日本語仮訳：トランスディシプリナリー研究 (学際共創研究) の活用による社会的課題解決の取組み OECD 科学技術イノベーションポリシーペーパー (88 号) | 戦略提案・報告書 | 研究開発戦略センター (CRDS) (jst.go.jp).

(9) 「デジタルトランスフォーメーションに伴う科学技術・イノベーションの変容」、

JST/CRDS、2020 年 4 月。

(10) 「SDGs アクションプラン 2022～全ての人生きがいを感ぜられる、新しい社会へ～」、政府 SDGs 推進本部、2022 年 12 月. SDGs_Action_Plan_2022.pdf (mofa.go.jp).

(11) 「SDGs 達成に向けた科学技術イノベーションの実践」、科学技術振興機構、2021 年 3 月。報告書 「SDGs 達成に向けた科学技術イノベーションの実践」の発行につきまして (jst.go.jp)

(12) 「特集・新型コロナウイルス感染症と科学的助言」、研究・技術・計画、vol.36 No.2 2021、2021 年 7 月。

(13) 「SDGs とコロナパンデミックによる科学的助言のパラダイム転換と日本学術会議」、学術の動向、2021 年 7 月。

(14) 「科学的助言—21 世紀の科学技術と政策形成」、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、

吉川弘之、東京大学出版会、2016 年 8 月。

(15) 「科学技術イノベーション政策における社会との関係深化に向けて—わが国における ELSI/RRI の構築と定着」、JST/CRDS、2019 年 11 月。

(16) 「オープン化、国際化する研究におけるインテグリティー」、JST/CRDS、2020年10月。

(17) 「科学技術の現代史ーシステム、リスク、イノベーション」、佐藤靖、中公新書、2019年6月。

(18) 「サイエンスのポピュリズム化-誌上論説フォーラム」、山本尚、御園生誠、有本建男、「化学と工業」、2020年8月、日本化学会。

(19) 「日本人ノーベル賞受賞が続くための条件とは?」、有本建男、中央公論、

2019年12月。

(20) 「科学技術イノベーション政策の誕生とその背景」、小林信一、科学技術社会論研究、pp.48-65、第13号(2017)。「科学技術政策とは何か」、小林信一、「科学技術政策の国際的な動向(本編)」、国立国会図書館・調査及び立法考査局、2011年3月。http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2011/201003_02.pdf

英語参考文献

(1) "The Oxford Handbook of Innovation", edited by Jan Fagerberg, David Mowery and Richard Nelson, Oxford University Press, 2005.

(2) "Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019", July 2019, The United

Nations. <https://sustainabledevelopment.un.org/globalsdreport/>.

(3) "Guidebook for the preparation of STI for SDGs Roadmaps", UN Inter-Agency Task Team on STI for SDGs, September 2021. https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/26937Guidebook_STI_for_SDG_Roadmaps_final_Edition.pdf

(4) "OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2023 STI Policies as Enablers of Transitions", OECD, March 2023.

(5) "Declaration of the 11th World Science Forum 2022 Science for Social Justice 9 December 2022, Cape Town South Africa. <https://worldscienceforum.org/contents/draft-declaration-of-world-science-forum-2022-is-now-open-for-comments-110144>.

(6) "UNESCO Science Report The Race against time for smarter development The clock is ticking for

transitioning to digital and 'green' society", the United Nations, Educational, Scientific and Cultural Organization(UNESCO)", 2021.

5. 履修上の注意/Note:

講義の中で示す。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2030J

科目名/Course Name: ビブリオメトリクスとその応用(金、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

科学技術政策の推進や評価のためにはエビデンスに基づいた分析が求められる。分析の中でも、論文や特許などの情報を対象にして科学技術活動やその成果を分析する方法が、ビブリオメトリクス（計量書誌学）またはサイエントメトリクス（科学計量学）と呼ばれる方法である。1960年代以降、分析のためのデータインフラが形成されるとともに、様々な分析手法が開発されてきた。さらに近年はウェブサイトやSNSにおける情報を含めた新たな指標や分析方法も開発されている。これらは、国の科学技術の生産性の分析、大学や研究機関の特徴把握や評価、研究の最前線のテーマの理解、産学連携の測定などに使用されている。本コースでは、学生はビブリオメトリクスの知識とスキルを習得し、自ら論文・特許のデータを用いた分析を行えるようになることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下の授業計画で行う。学生の興味関心や基礎能力により一部を変更することもありうる。

1. はじめに：ビブリオメトリクスの歴史と概要
2. 論文データベースの使用方法
3. 科学研究の生産性の分析（1）：基礎的な指標と国の比較
4. 科学研究の生産性の分析（2）：大学の分析
5. 学生によるプレゼンテーション（1）
6. 引用分析
7. 書誌結合、共引用、科学の地図
8. 語の分析、共語分析
9. 共著分析
10. 研究資金と研究成果の関係の分析：謝辞
11. 人文・社会科学の分析
12. オルトメトリクス(SNS等を対象とする分析)、学際性の分析
- 13.特許の分析とサイエンスリンケージ（1）（外部講師：文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官）
- 14.特許の分析とサイエンスリンケージ（2）（外部講師：文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官）
- 15.学生によるプレゼンテーション（2）

3. 成績の評価方法/ Grading:

中間プレゼンテーションとレポート（50%）、最終プレゼンテーションとレポート（50%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必須文献

なし

4-2 参考文献

藤垣裕子, 平川秀幸, 富沢宏之, 調麻佐志, 林隆之, 牧野淳一郎, 2004. 研究評価・科学論のための科学計量学入門, 丸善.

Glanzel, W. Moed, H.F., Schmoch, U., Thelwall, M. (eds.), 2019. Springer Handbook of Science and Technology Indicators. Springer.

Okubo, Y. 1997, Bibliometric Indicators and Analysis of Research Systems: Methods and Examples, OECD Science, Technology and Industry Working Papers, 1997/01, OECD Publishing, Paris.

Moed, H.F., Glanzel, W., Schmoch U., 2004. Handbook of Quantitative Science and Technology Research: The Use of Publication and Patent. Kluwer Academic Publishers.

Andres, A., 2009. Measuring Academic Research: How to Undertake a Bibliometric Study. Elsevier Science. Chandos Publishing.

Cronin, B., Sugimoto, C.R. (eds.), 2014. Beyond Bibliometrics: Harnessing Multidimensional Indicators of Scholarly Impact, The MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

各自のパソコンが必要。エクセルは必須。

できれば Windows が望ましいが、Mac でも可。Mac では授業にて紹介する一部のフリーソフトウェアが動かない場合があるが、代替的な分析方法も紹介する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2060E

科目名/Course Name: Policy for Higher Education and University-Industry Cooperation(水、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Academic or scientific research in universities and public research institutions (PRIs) can be a source of innovation in industry if properly managed. In order to promote science-driven innovation, an intermediate organization to link academic research with industrial development of novel products and services is required. This lecture reviews how a policy for promotion of university-industry cooperation was designed in Japan and other countries, by indicating concrete successful or failure cases.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction: types of university-industry cooperation
2. Science and Technology Basic Law in Japan
3. Incorporatization of national universities in Japan
4. Higher education in Japan
5. University-Industry cooperation in Japan
6. Cases of technology transfer from university to industry
7. Bayh-Dole Act
8. Intellectual Property Basic Act; Strategic Program for the Creation, Protection and Exploitation of Intellectual Property
9. Function of academic knowledge in innovation
10. Guest Lecture: Issues on higher education in Japan. (Associate Professor Miho Funamori, National Institute of Informatics)
11. Guest Lecture: Issues on higher education in Japan. (Associate Professor Miho Funamori, National Institute of Informatics)
12. Japanese Science and Technology Indicators
13. Presentation and discussion (1)
14. Presentation and discussion (2)
15. Conclusion

3. 成績の評価方法/ Grading:

The following points will be evaluated.

- Participation in discussion in classes
- Presentation & Submission of presentation materials

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Hand-outs and materials will be distributed in the class.

Reference:

Japan Patent Office & Asia-Pacific Industrial Property Center (APIC), Japan Institute for Promoting Invention and Innovation (2016) Intellectual Property Management at Japanese Universities
https://www.jpo.go.jp/torikumi_e/kokusai_e/training/textbook/pdf/64_Intellectual_Property.pdf#view=fit&toolbar=1&navpanes=0

5. 履修上の注意/Note:

Each student has to make at least two presentations in the class.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2070J

科目名/Course Name: 科学技術外交論

担当教員/Instructor: 廣木 謙三/HIROKI Kenzo

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

まず科学技術外交の定義、機能、形成過程などに関する包括的な知識を習得する。そのうえで、科学技術外交の実務や研究に関して第一線で活躍する外部講師を多数招き、講義とディスカッションをオムニバス形式で行うことで科学技術外交の実際面に触れ、受講者の国際政策感覚と実務知識を深める。また、科学技術外交と国家政策・現場実務の繋がりや政策間の相互作用（科学技術外交に国家政策・現場実務がどう影響され、その逆に現場の政策要請を科学技術外交というツールを用いて国家政策に反映していくか等）などについて、SDG s の重点分野でもある水、災害分野などを具体例として理解と議論を深める。この過程で科学技術政策の形成や実施に関する実務的ノウハウを共有する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

初回授業にて通知。

3. 成績の評価方法/ Grading:

初回授業にて通知。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The 2030 Agenda for Sustainable Development:

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/21252030%20Agenda%20for%20Sustainable%20Development%20web.pdf>

4-2

UN Convention on the Law of the Non-navigational Uses of International Watercourses:

http://legal.un.org/ilc/texts/instruments/english/conventions/8_3_1997.pdf

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2080E

科目名/Course Name: Comparative Analysis of Science, Technology and Innovation Policy: Asian Experiences

担当教員/Instructor: INTARAKUMNERD Patarapong/INTARAKUMNERD Patarapong

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is a combination of lectures and seminars. The instructor will provide lectures on theoretical and fundamental knowledge of science, technology and innovation (STI) policies. Based on such knowledge, seminars will be held to discuss STI policy experiences of several groups of countries classified by level of economic development and technological catching up.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1: Introduction: From S&T Policy to STI Policy (Lecture)
- 2: STI policy: Framework and Policy Instruments (Lecture)
- 3: Experiences of Large Developed country: USA (Seminar)
- 4: Experiences of Large Developed Country: Germany (Seminar)
- 5: Experiences of Small Developed Countries: Scandinavian Countries (Seminar)
- 6: Experiences of the First Industrialized Country in Asia: Japan (Seminar)
- 7: Experiences of Small Industrialized Country: Israel (Seminar)
- 8: Experiences of Newly Industrialized Country: Korea (Seminar)
- 9: Experiences of Newly Industrialized Country: Taiwan (Seminar)
- 10: Experiences of Newly Industrialized Country: Singapore (Seminar)
- 11: Experiences of Emerging Asian Super Power: China (Seminar)
- 12: Experiences of Emerging Asian Super Power: India (Seminar)
- 13: Experiences of Second-tier Newly Industrializing Economies: Malaysia and Thailand (Seminar)
- 14: Comparing innovation policies across countries: what have we learnt so far (Seminar)
- 15: STI Policies in the 21st century (Lecture)

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation for the course will be based upon term papers (60%), presentations (30%) and seminar participation (10%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(electronics files will be given to students on the first week of the class)

Week

- 1: Introduction: From S&T Policy to STI Policy

Lundvall, B. and Borrás, S. (2005). 'Chapter 22: Science, Technology and Innovation Policy', in Fagerberg, J., Mowery, D. and Nelson, R. (eds.), *Oxford Handbook of Innovation*, Oxford University Press: New York, USA, 599-631.

Woolthuis, R. K. et al., 2005. 'A system failure framework for innovation policy design', *Technovation*, 25 (5): 609-619.

2: STI policy: framework and policy instruments

Lall, S. and Morris, T. (1998). "Market-stimulating" technology policies in developing countries: A framework with examples from East Asia,' *World Development* 26 (8), 1369-1385

Edquist, C. and Chaminade, C. (2006). *Industrial Policy from a systems-of-innovation perspective*, No. 5/2006, EIB series papers, Economics Department, European Investment Bank.

3: Experiences of Large Developed country: USA

Mowery, D. and Rosenberg (1993), 'the US Innovation System', in Nelson, R. (ed.), *National Systems of Innovation: A Comparative Study*, Oxford: Oxford University Press 29-75.

Mazzucato, M. (2013). *The Entrepreneurial State: Debunking Public vs. Private Sector Myths*, Chapter 4-5, London and New York: Anthem Press

4: Experiences of Large Developed Country: Germany

Meyer-Krahmer, F.. (2001), 'The German Innovation System,' in Laredo, P. and Mustar, P., *Research and Innovation Policies in the New Global Economy*, Edward Elgar: Cheltenham, UK, 15-46

Eickelpasch, A. and Fritsch, M. (2005) *Contests for cooperation--A new approach in German innovation policy*, *Research Policy*, Elsevier, vol. 34(8), pages 1269-1282, October

5: Experiences of Small Developed Countries: Scandinavian Countries

Ormala, E/ (2001), 'Science, Technology and Innovation Policy in Finland' in Laredo, P. and Mustar, P., *Research and Innovation Policies in the New Global Economy*, Edward Elgar: Cheltenham, UK, 325-358

Edquist, C. and Lundvall, B.A. (1993), 'Comparing Swedish and Danish Systems of Innovation, in Nelson, R. (ed.), *National Systems of Innovation: A Comparative Study*, Oxford: Oxford University Press 265-298.

6: Experiences of the First Industrialized Country in Asia: Japan

Goto, A. and Odagiri, H. (1996), *Technology and Industrial Development in Japan: Building Capabilities by Learning*,

Innovation and Public Policy, chapter 2-3, Oxford University Press: Oxford, 17-63.

Odagiri, H. (2006), 'Advance of Science-based industries and the changing innovation system in Japan,' in Lundvall, B., Intarakumnerd, P., Vang, J. (eds) (2006), *Asian Innovation Systems in Transition*, Cheltenham, UK and Northampton, USA: Edward Elgar, 200-226.

7: Experiences of Small Industrialized Country: Israel

Getz, D. and Segal, V. (2008), 'The Israeli innovation system: An overview of national policy and cultural aspects', A Report prepared by Samuel Neman Institute for Public Policy Research.

Avnimelech, G. and Teubal, M. (2006) Creating venture capital industries that co-evolve with high tech: Insights from an extended industry life cycle perspective of the Israeli experience, *Research Policy* 35 (2006) 1477-1498

8: Experiences of Newly Industrialized Country: Korea

Kim L., (1999), 'Building Technological Capability for Industrialization: Analytical Frameworks and Korea's Experience,' *Industrial and Corporate Change*, 8(1):111-136.

Hwang, H-R., and Choung J-Y. (2013), 'Towards and Innovation Policy in the Post Catch-up Era,' *Asian Journal of Innovation and Policy*, 2(1): 1-19.

9: Experiences of Newly Industrialized Country: Taiwan

Lauridsen, L. (2008), 'Industrial Upgrading: Industrial Technology Policy in Taiwan', in Lauridsen, L. (2008), *State, Institutions and Industrial Development: Industrial Deepening and Upgrading Policies in Taiwan and Thailand Compared*, Shaker Verlag: Aachen, 442-513.

Mathews, J. (2002), 'The origins and dynamics of Taiwan's R&D consortia' *Research Policy*, 31(4), 633-651

10: Experiences of Newly Industrialized Countries: Singapore

Wong, P. and Anneth, S. (2011) 'OECD Review of Innovation in South-East Asia: Country Profile: Singapore'. Paris: OECD

Yeung, H. (2006), 'Innovating for Global Competition: Singapore's Pathway to High-tech Development', in Lundvall, B., Intarakumnerd, P., Vang, J. (eds) (2006), *Asian Innovation Systems in Transition*, Cheltenham, UK and Northampton, USA: Edward Elgar, 178-199

11: Experiences of Emerging Asian Super Power: China

Feng-chao Liu, Denis Fred Simon, Yu-tao Sun, Cong Cao, (2011), 'Chinas innovation policies: Evolution, institutional structure, and trajectory' *Research Policy*, 40 (7): 917-931

Chu, W. (2011), 'How the Chinese Government Promoted Global Automobile Industry,' *Industrial and Corporate Change*, 20 (5), 1-42

12: Experiences of Emerging Asian Super Power: India

Athreye S. (2005), 'The Indian software industry and its evolving service capability' *Industrial and Corporate Change*, 14(3): 393-418

Athreye,S, Kale, D., Ramani, S. (2009), 'Experimentation with strategy and the evolution of dynamic capability in the Indian pharmaceutical sector,' *Industrial and Corporate Change*, 18(4): 729-759

13: Experiences of Second-tier Newly Industrializing Economies: Malaysia and Thailand

Rasiah, Rajah (2006), 'Explaining Malaysia's Export Expansion in Palm Oil and Related Products,' in V. Chandra (ed.) *Technology, Adaptation, and Exports — How Some Developing Countries Got It Right*, World Bank, Washington DC.

Intarakumnerd, P. (2015). 'Seven Unproductive Habits of Thailand's Ineffective Technology and Innovation Policies: Lessons for other Developing Countries,' *Institutions and Economies*, 7 (1), April 2015, pp. 80-95.

14: No reading materials

15: STI Policies in the 21st century

Maria Abreu, Vadim Grinevich, Michael Kitson & Maria Savona (2010), 'Policies to enhance the 'hidden innovation' in services: evidence and lessons from the UK', *The Service Industries Journal*, 30:1, 99-118

Todtling, F. and Trippel, M (2005), 'One size fits all?: Towards a differentiated regional innovation policy approach', *Research Policy*, 34(8), 1203-1219

5. 履修上の注意/Note:

Email address: patarapong@grips.ac.jp; prpu6@hotmail.com

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2160E

科目名/Course Name: Outline of Energy Policy

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy is essential for living standard in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

In this course, I will explain most factors for planning and enforcement of energy policy.

During the first half, I will explain main objectives of energy policy, supply & demand figures, and changes of global circumstances which affect determinations of appropriate energy mix. At the same time, policy mix will be introduced including regulation, fiscal support, institutional innovation and R&D.

In the latter half, I will explain each area of interest in more detail and would like to discuss recent energy issues we face based on your first term papers.

Main target of this course is to understand every contents written in the World Energy Outlook published by IEA.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1-1: Introduction

Main objectives of Energy Policy, Global Supply & Demand Figure, Historical View of Energy Policy etc.

Week 1-2: Policy Framework

Major Policy measurements of Energy Policy, Situations of Major Energy Consuming Countries etc.

Week2-1: Oil Policy

Structure of Crude Oil Market, Policy for Securing Supply of Oil, Changes of Oil Industry etc.

Week2-2: Climate Policy and Energy

History of Climate Policy, Issues to be solved, Latest discussion at COP, outline of Renewable Energy Policy etc.

Week3-1: Nuclear Policy

Nuclear Development before the FUKUSHIMA accident and Policy Framework

Week3-2: Electricity Policy

History of Deregulation, Power Market Reform etc.

Week 4-1: Energy Technology Policy

History of Energy Technology Policy, Road to get Net Zero Emission System etc.

Week4-2: Intermediate Review

Remained Issues such as Natural Gas Market and Industry, Coal Market etc.

First Term Paper should be submitted by Tuesday of the next week.

Week5-1:Renewable Energy & Energy Conservation Policy

History, Comparison between FIT & RPS, Policy Sets for Energy Conservation etc.

Week5-2: Fukushima Accident and Nuclear Safety Policy

Discussion about the main cause of the accident and the affections over all energy policy not only in Japan but also in the world.

Week 6-1 Middle East & Russia, Resource Development Policy

Discussion about geopolitical aspect and longterm energy security issues etc.

Week 6-2: Energy Policy in Japan

History after WWII, Structure of Energy Policy in Japan, Major differences of policy measures to other countries etc.

Week 7-1: Energy Security

General background of energy security including short term security management policy etc.

Week 7-2: Energy Data Modeling

Introduction of Energy Data Modeling, How to develop Scenarios for Future Outlook etc

Week 8-1: Energy Policy for the Future

Discussion of Energy Policy for the Future

Second Term Paper will be submitted by Tuesday of the next week.

※ Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students etc.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Papers 30% ×2, Attendance of the Class 20%, Participation and Discussion at the Class 20%

Term Papers are composed of about 1000words per each.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

World Energy Outlook 2022 International Energy Agency

(You can download by free through the URL of IEA: <https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2022>)

4-2

①The Quest Daniel Yergin, 2011

②The Commanding Heights Daniel Yergin, et. 1999

③Strategic Energy Plan of Japan 6th Edition

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/pdf/strategic_energy_plan.pdf

④White Paper of Energy in Japan 2022 (Japanese)

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022/pdf/>

⑤History of Policy by Ministry of International Trade and Industry(MITI)-Energy Policy(Japanese)

About ④⑤、important contents of these will be provided in class materials in English.

5. 履修上の注意/Note:

This class is mandatory one for the students who take the class of Energy Data Analysis in the Fall IIsemester.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2170E

科目名/Course Name: Energy and Environmental Science&Technology

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy is essential for living standard in the modern economy. Energy policy should take balance between energy security, economy and environmental concern for deploying variable energy resources.

Energy and Environmental technology innovation is central to meeting climate mitigation goals together with supporting economic and energy security objectives simultaneously.

This course is developed jointly with the Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ). It also provides lectures in various energy technologies by the experts of relevant research institutes such as JST, JAEA, JOGMEC, NEDO .

Based on the lectures, we will teach the way to create a sort of appropriate technology development plan to meet the goal of energy and environmental policy.

Major objective of the course is to understand the contents of relevant reports related with energy transition such as Energy Technology Perspective by International Energy Agency.

This course is also related with the course Energy Policy in Japan.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1: Introduction (Nei & Shibata)

Basic framework of energy policy (3E) and relationship between energy policy and technology development.

Week 2: Energy and Environmental Technologies (Nei & Shibata)

Basic framework of energy and environmental technology development including brief introduction of listed major technologies.

Week 3: Energy and Environmental Technology Development Policy in Japan (Nei)

Major Technology Development Plan and Project after Oil Crisis in Japan

Week 4:Energy Technology Policy for Fossil Fuel (Nei)

Major Technologies to develop Net Zero Emission in the field of Fossil Fuel deployment.

Week 5: Nuclear Reactor Technologies

An expert of JAEA (Japan Atomic Energy Agency) will explain the topic.

Week 6: Energy Innovation derived by Science & Technology with related STI policy measures

An expert of JST (Japan Science and Technology Agency) will explain the topic.

Week 7: International Activities and Intermediate Review (Shibata)

Major energy and environmental technology development plan in the world and latest movement under the energy transition.

Term Paper should be submitted by the next Tuesday.

Week 8: Resource Development Technology mainly in the Field of Oil & Gas

An Expert of JOGMEC (Energy and Metals National Corporation) will explain the topics.

Week 9: Energy Conservation Technology

An Expert of NEDO (New Energy and Industrial Technology Development Organization) will explain the topics.

Week 10: Renewable Energy Technology

An Expert of NEDO (New Energy and Industrial Technology Development Organization) will explain the topics.

Week 11: Radioactive Waste Management and Back End Fuel Cycle Technology

An expert of JAEA (Japan Atomic Energy Agency) (TBD) will explain the topic.

Week 12: Energy Technology related with DER, Smart Meter

Prof. Ishii of Waseda Univ. will explain the topic.

Week 13: Future Prospect of Energy and Environmental Science and Technology (Shibata)

Main objectives of existing development plan and trend of major activities

Week 14: Field trip to JOGMEC TRC at Chiba City (Nei, Shibata)

Site visit at JOGMEC Technology Research Center to learn more about technology for natural resource development including CCS, carbon recycling and Hydrogen.

The field trip is arranged together with the class of Energy Policy in Japan.

Week 15: Discussion

Second term paper should be submitted by the next Tuesday.

※ Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Papers (Twice) 30% for each, Attendance and Participation of the Discussion 20% for each

Term Papers are composed of about 1000 words per each.

Students who take the class of Energy Policy in Japan can submit a combined term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

① Energy Technology Perspectives 2023, 2020 IEA <https://www.iea.org/reports/energy-technology-perspectives-2023>

<https://www.iea.org/reports/energy-technology-perspectives-2020>

② The Quadrennial Technology Review, DOE

<http://energy.gov/quadrennial-technology-review-2015>

③ New Low Carbon Technology Plan, Council for Science and Technology Policy, Japan

http://www8.cao.go.jp/cstp/english/doc/new_low_carbon_tec_plan/index.html

④ World Energy Outlook 2022, IEA

⑤ NESTI 2050 GOJ, Cabinet Office, 2016

https://www8.cao.go.jp/cstp/nesti/honbun_e.pdf

⑥ 6th Strategic Energy Plan, GOJ, METI 2021

https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf

5. 履修上の注意/Note:

The students who get the credit of this class are eligible to take the class Energy Data Analysis class in the Fall II semester.

Students are highly recommended to take the class Energy Policy in Japan together because we cannot provide information about

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2190E

科目名/Course Name: Roles of Intellectual Property Rights in Globalized World

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Intellectual Property Rights (IPR) play important roles in innovation. In this class we focus on their function in the context of globalized world.

First seven lectures introduce basic structure of IPR, especially, patent, trade secret, copyright, trademark, design and geographical indication, including an international framework, especially TRIPS Agreement.

Next seven lectures deal with IPRs in universities and research institutions and its role to foster Open Innovation. It refers to How to scout for technologies generated by universities, and research institutions, How to create IPRs on demand by crowdsourcing solutions, The long path from ideation to commercialization and Licensing deals and negotiation techniques in practice.

The final lecture is for wrap-up of all topics.

Students are requested to make presentations and contribute to discussion in this class.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

April 5: Koichi Sumikura TRIPS Agreement, Doha Declaration by the WTO, Access to medicine, Compulsory licensing

April 12: Koichi Sumikura World Intellectual Property Organization, Patent harmonization in Europe

April 19: Koichi Sumikura Patent Troll, Patent Wars, Standard essential patents (SEPs)

April 26: Koichi Sumikura Copyright, Fair Use, Creative Commons

May 10: Koichi Sumikura Ownership on virus samples, The Convention on Biological Diversity (CBD), Access and Benefit-sharing, HeLa Cell Line

May 17: Koichi Sumikura Eco-Patent Commons, Licensing Guidelines, Patent Pooling

May 24: Koichi Sumikura, Wrap-up

May 31: Luca Escoffier IPRs in universities and research institutions

June 7: Luca Escoffier IPRs as a tool to foster Open Innovation

June 14: Luca Escoffier How to scout for technologies generated by universities, and research institutions

June 21: Luca Escoffier How to create IPRs on demand by crowdsourcing solutions

June 28: Luca Escoffier The long path from ideation to commercialization 1 of 2

July 5: Luca Escoffier The long path from ideation to commercialization 2 of 2

July 12: Luca Escoffier Licensing deals and negotiation techniques in practice (exercises carried out by students)

July 19: Presentation by students

3. 成績の評価方法/ Grading:

The following points will be evaluated.

- Participation in discussion in classes
- Presentation & Submission of presentation materials

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Hand-outs and materials will be distributed in the class.

4-2.

David Kappos & Jessica Goodman (2018) The Role of IP in Economic Growth: Looking Back, Looking Forward, Journal of Intellectual Property Association of Japan, Vol.14, No.3, 54-64 .

https://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ14-3PDF/14-3_p054-064.pdf

David J. Kappos and Ryan J. Wichtowski (2020) INTELLECTUAL PROPERTY AND INNOVATION—THE KEY TO SUSTAINABLE ECONOMIC GROWTH, Journal of Intellectual Property Association of Japan, Vol.6, No.3, 54-61. https://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ16-3PDF/16-3_p054-061.pdf

5. 履修上の注意/Note:

Each student has to make a presentation in the class.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2200J

科目名/Course Name: 科学技術とアントレプレナーシップ(水、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

大学や公的研究機関で生み出された科学技術研究の成果は、新たなビジネス創出の礎となります。

この講義では、(1) 知識はどのように生み出されるか、(2) 知識はどのように商業化されるか、について、定量的データによるエビデンスを含む学術論文に基づいて議論します。

この講義では、科学技術イノベーション研究の代表的な学術論文を読みこなす力をつけることを目的としています。

原則として、1つの講義につき3つの論文が提示され、受講者はそのうちの1つを読んで概要をまとめてくることが求められます。

受講者は、指定された論文について、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

また、受講者は、それとは別に、自身で学術論文を選び、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

4月5日(水) イントロダクション1(牧) 講義の全体像

4月12日(水) イントロダクション2(牧) 実証分析について

4月19日(水) イントロダクション3(隅藏) 分析手法について

4月26日(水) イントロダクション4(隅藏) 分担の決定、論文の読み方について

5月10日(水) Class 01 The Vehicle of Innovation: Large Firms vs Small Firms

5月17日(水) Class 02 Where are Entrepreneurs Come from?

5月24日(水) Class 03 How Important Are Star Scientists?

5月31日(水) Class 04 Why is the Scientific Breakthrough Knowledge Localized?

6月7日(水) Class 05 Why are the Entrepreneurial Activities Localized?

6月14日(水) Class 06 What Accelerates Entrepreneurial Activities?

6月21日(水) Class 07 Why is Venture Capital Important?

6月28日(水) Class 08 How Important are Incentives to Invent and Commercialize?

7月5日(水) Class 09 IPs and Incentives at the University

7月12日(水) 受講者プレゼンテーション

7月19日(水) 受講者プレゼンテーション、まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への参加、議論への貢献

課題となった論文のまとめの提出

担当となった論文についての発表

自身で選んだ論文についての発表

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義で取り扱う学術論文は、以下の通りです。(予定)

Class 01: The Vehicle of Innovation: Large Firms vs Small Firms

J. Acs, Audretsch, D.B. 1988. Innovation in large and small firms: an empirical analysis. *The American economic review* 678-690.

Guzman, Stern, S. 2015. *Nowcasting and Placecasting: Entrepreneurial Quality and Performance*. University of Chicago Press.

Haltiwanger, et al. 2013. Who creates jobs? Small versus large versus young. *Review of Economics and Statistics*. 95(2) 347-361.

Class 02: Where Do Entrepreneurs Come from?

Lerner, Malmendier, U. 2013. With a little help from my (random) friends: Success and failure in post-business school entrepreneurship. *Review of Financial Studies* hht024.

Nanda, Sorensen, J.B. 2010. Workplace peers and entrepreneurship. *Management Science*. 56(7) 1116-1126.

Giannetti, Simonov, A. 2009. Social interactions and entrepreneurial activity. *Journal of Economics & Management Strategy*. 18(3) 665-709.

Class 03: How Important Are Star Scientists?

G. Zucker, Darby, M.R., Armstrong, J.S. 2002. Commercializing knowledge: University science, knowledge capture, and firm performance in biotechnology. *Management Science*. 48(1) 138-153.

Azoulay, Graff Zivin, J., Wang, J. 2010. Superstar extinction. *Quarterly Journal of Economics*. 25 549-589.

Oettl. 2012. Reconceptualizing stars: Scientist helpfulness and peer performance. *Management Science*. 58(6) 1122-1140.

Class 04: Why Do the Scientific Breakthrough Knowledge Localized?

G. Zucker, Darby, M.R. 2001. Capturing Technological Opportunity Via Japans Star Scientists: Evidence from Japanese Firms Biotech Patents and Products. *The Journal of Technology Transfer*. 26(1/2) 37-58.

G. Zucker, Darby, M.R., Brewer, M.B. 1998. Intellectual human capital and the birth of US biotechnology enterprises. *Am Econ Rev*. 88(1) 290-306.

G. Zucker, Darby, M.R. 2007. Star scientists, innovation and regional and national immigration. *National Bureau of Economic Research*.

Class 05: Why are the Entrepreneurial Activities Localized?

Casper. 2007. How do technology clusters emerge and become sustainable?: Social network formation and inter-firm mobility within the San Diego biotechnology cluster. *Research Policy*. 36(4) 438-455.

Agrawal, Cockburn, I., Galasso, A., Oettl, A. 2014. Why are some regions more innovative than others? The role of small firms in the presence of large labs. *Journal of Urban Economics*. 81 149-165.

Fallick, B., Fleischman, C.A., Rebitzer, J.B. 2006. Job-hopping in Silicon Valley: some evidence

concerning the microfoundations of a high-technology cluster. *The Review of Economics and Statistics*. 88(3) 472-481.

Class 06: What Accelerates Entrepreneurial Activities?

Di Gregorio, Shane, S. 2003. Why do some universities generate more start-ups than others? *Research Policy*. 32(2) 209-227.

Yu, Sandy, How Do Accelerators Impact the Performance of High-Technology Ventures? (August 1, 2016). Available at SSRN: <https://ssrn.com/abstract=2503510>

K. Agrawal, Catalini, C., Goldfarb, A. 2011. The geography of crowdfunding. National bureau of economic research.

Class 07: Why is Venture Capital Important?

N. Kaplan, Sensoy, B.A., Stromberg, P. 2009. Should investors bet on the jockey or the horse? Evidence from the evolution of firms from early business plans to public companies. *The Journal of Finance*. 64(1) 75-115.

Hellmann, Schure, P., Vo, D. 2013. Angels and Venture Capitalists: Complements or Substitutes? NBER Working Paper.

Ewens, M., Nanda, R., Rhodes-Kropf M. 2018. Cost of Experimentation and the Evolution of Venture Capital. NBER WORKING PAPER 24523.

Samila, Sorenson, O. 2011. Venture capital, entrepreneurship, and economic growth. *The Review of Economics and Statistics*. 93(1) 338-349.

Class 08: How Important are Incentives to Invent and Commercialize?

Ederer, F., and G. Manso. 2013. Is pay for performance detrimental to innovation? *Management Science* 59:1496-1513.

Azoulay, Graff Zivin, J.S., Manso, G. 2011. Incentives and creativity: evidence from the academic life sciences. *The RAND Journal of Economics*. 42(3) 527-554.

Roach, Sauermann, H. 2010. A taste for science? PhD scientists academic orientation and self-selection into research careers in industry. *Research Policy*. 39(3) 422-434.

Class 09: IPs and Incentives at the University

Thursby, Fuller, A.W., Thursby, M. 2009. US faculty patenting: Inside and outside the university. *Research Policy*. 38(1) 14-25.

Azoulay, P., C. C. Liu, and T. E. Stuart. 2017. Social influence given (partially) deliberate matching: Career imprints in the creation of academic entrepreneurs. *American journal of sociology* 122:1223-1271.

Singh, J. and L. Fleming (2010) Lone inventors as sources of breakthroughs: myth or reality?, *Management Science*, Vol.56, No.1, pp.41-56.

4-2 参考となる書籍：森田果『実証分析入門』（日本評論社）

5. 履修上の注意/Note:

イントロダクションが終了した後の9回の講義においては、受講者は、指定された論文を読んで、その内容を、指定されたフォーマットにまとめ、提出することが求められます。

詳細については、講義内で説明します。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2210E

科目名/Course Name: Science, Technology and Innovation Policy in Developing Country Context

担当教員/Instructor: 飯塚 倫子/IIZUKA Michiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

About this course:

Science, technology, and innovation (STI) policy is increasingly considered as an important means for development. The global integration of socio-economic activities made STI capacity sine qua non to deal with market competition for developing countries.

Likewise, STI policy is now considered as one of the important means of implementation for SDGs (UN Sustainable Development Goals). While emerging new technologies boost the expectation that countries can leapfrog developmental steps with advanced technologies, these can enlarge disparities if appropriate capabilities and infrastructure are not accompanied. The recent global events also suggest that underlying context of STI policy is transforming, to say the least.

Aim of this course:

This course is aimed to do the following : 1) Learn & understand basic concepts on STI policy; and 2) Familiarize with the recent discussions regarding STI policy in developing countries; 3) Build abilities to apply concepts on STI policy in actual context to understand/analyze the reality. Developing countries are a diverse set of communities with similar yet different challenges hence the course tries to capture this aspect through bringing in the presentations by the students. The learning effect of the course hinges upon active participation from students in the discussion as well as their contribution to the class presentations.

Form of learning:

In this course, participants (students) are expected to actively engage in the discussion. Please keep in mind that there is no single "right answer" on the topic we cover in this course (except for definitions of existing concepts). Students are expected to demonstrate his/her understanding applying to the cases in the presentation as well as share their experiences related to this course with colleagues.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

This course will cover following topics.

- Basic concepts related to STI policy
- Major STI indicators for policy purposes
- Emerging types of innovation
- Potential of Natural Resources for Development
- Emerging technologies and their possible impacts on developing countries

3. 成績の評価方法/ Grading:

3. Grading : (may change, this will be confirmed on the first day)

Participation to the discussion in the class: 20%

Presentations made during the class:30%

Final presentation: 20%

Final paper based on presentation (3000words-5000) 30%

Topic of final presentation/paper should be selected by the student from one of the topics covered in the class applied to a country of choice. I encourage student to be innovative on the topic of presentation/paper.

The presentation in the class should demonstrate: 1) conceptual understanding on one of the topics covered in the lecture and 2) Ability to apply your understandings to actual context 3) convey your message/idea effectively; 4) originality creativity and deep reflection on concept, theory and policy issues

The above criteria also apply to the final paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4. Textbooks and references

There are no textbooks for this course. The course will use articles, reports and other types of publications and video links when relevant.

If you are interested on this topic, useful introductory textbooks are:

1.Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, 2005, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press.

2.Chaminade, C., Lundvall, B-A., Haneef, S. (2018) Advanced Introduction to National Innovation Systems, Edward Elgar.

30pg download/1person per time limited access

3. Hall, B.& Rosenberg, N. (2010) Handbook of Economics of Innovation(vol 1 and 2), North Holland.

(3 is for more economic oriented people.)

All are available in the library and accessible online. The "real" book is also available in the library.

Background to understand the socio-economic context (may change):

Qureshi, Z (eds) (2022) An inclusive future? Technology, New Dynamics and Policy Challenges, Global Economy and Development Brookings Institute, Global forum on Democracy and Technology. May, 2022.

Below are some of the readings to give you some ideas but not all of them are use(too many). The required reading will be the selected at the start of the semester.

Introduction to Innovation key concept (required readings)

Basic concept on What can STI policy do?

1) *Fagerberg, J (2005) Innovation: a guide to the literature, in Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press [in library will be provided]

2) Goedhuys, M., H. Hollanders, and P. Mohnen, Innovation Policies for Development, Chapter 3 in: S. Dutta, B. Lanvin and S. Wunsch-Vincent (eds.), The Global Innovation Index 2015, INSEAD/WIPO, 2015.

http://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_gii_2015-chapter3.pdf

3) Soete, L, Schneegans, S. , Erocal, D., Angathevar, B., Rasiah, R.(2015)A world in search of an effective growth strategy UNESCO science report 2015 towards 2030, Geneva, UNESCO, pp. 21-55.

<http://unesdoc.unesco.org/images/0023/002354/235407e.pdf>

Innovation indicators

1) Smith, K., (2005) Measuring Innovation, in Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press.

2) *UNCTAD (2010), Science, Technology and Innovation Indicators for policy making in developing countries: an overview of experiences and lessons learned, note prepared by the UNCTAD secretariat submitted for the Trade and Development Board Investment, Enterprise and Development Commission Multi-year on Enterprise Development Policies and Capacity-building in Science, Technology and Innovation, Second session, Geneva, 20-22 January, 2010. Item 3 of the provisional agenda, TD/BC.II/MEM.1/CRP.1. https://unctad.org/en/Docs/ciimem1crp1_en.pdf

① *Mohnen, P (2019) R&D, Innovation and Productivity, Working Paper, GROWINPRO 07/2019 May. <https://www.merit.unu.edu/publications/wppdf/2019/wp2019-016.pdf>

3) Davis, K.E., Kingsbury, B. and Merry, S. E. (2012), Indicators as a Technology of Global Governance, Law and Society Review, 46 (1): 71-104.

① <https://www.iilj.org/publications/indicators-technology-global-governance/>

② onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/j.1540-5893.2012.00473.x

4) Muller, J.Z (2018) The tyranny of metrics, Princeton University Press.

5) Gault, F., & Soete, L.(2022)Innovation Indicators. Oxford Research Encyclopedia of Business and Management. Retrieved 12 Oct. 2022, from <https://oxfordre.com/business/view/10.1093/acrefore/9780190224851.001.0001/acrefore-9780190224851-e-331>.

Innovation systems

1) Edquist, C (2005) Systems of Innovation; Perspectives and Challenges, in Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press

2) Egbetokun, A., Oluwadare, A.J., Ajao, B.F. Jegede, O. O. (2017) Innovations systems research: an agenda for developing countries, Journal of Open Innovation: Technology, Market and Complexity, 3 (25): 1-16.

3) Kline, S.J. and Rosenberg, N. (1986) An overview of innovation, In Landau, R. and Rosenberg N. (eds.), The positive sum game, Washington D.C. National Academy Press.

① [ftp://ftp.ige.unicamp.br/pub/CT010/aula%202/KlineRosenberg\(1986\).pdf](ftp://ftp.ige.unicamp.br/pub/CT010/aula%202/KlineRosenberg(1986).pdf)

4) Lundvall, B-A (1992, reprinted in 2010) Introduction, In Lundvall B-A (ed) National Systems of Innovation: Toward a theory of innovation and interactive learning, London and NY, The anthem press: p1-20. [in the folder]

5) Adner, R (2006) Match your Innovation strategy to your Innovation Ecosystem, Harvard Business Review, April, 2006, 10pages

① <https://hbr.org/2006/04/match-your-innovation-strategy-to-your-innovation-ecosystem>

Emerging types of innovations

1) Iizuka, M (2013) Innovation systems framework: still useful in the new global context? UNU-MERIT Working Paper 2013-005

① Link: <https://www.merit.unu.edu/publications/wppdf/2013/wp2013-005.pdf>

2) Iizuka, M., Hane, G. (2021) Towards attaining the SDGs: cases of disruptive and inclusive innovations, Innovation and Development

3) Prahalad, C. K. and R. A. Mashelkar (2010), 'Innovation's holy grail,' Harvard Business Review, 88(7/8), 132141.

4) Christensen, C.M., Baumann, H., Ruggles, R., Sadtler, T. M.(2006) Disruptive Innovation for Social Change, Harvard Business Review, December, 2006

① <https://hbr.org/2006/12/disruptive-innovation-for-social-change>

5) Murray, R.; Mulgan, G.; Caulier-Grice, J. (2008). How to Innovate: The tools for social Innovation, NESTA and Young Foundation. (Available online: http://www.socialinnovationexchange.org/sites/default/files/event/attachments/Copy%20of%20Generating_Social_Innovation%20v4.pdf)

6) Prahalad, C.K. and Hart, S.L. (2002) 'The fortune at the bottom of the pyramid', Strategy and Business, 22: 214.

① http://etelangana.org/uploads/ebooks/CkPralhad_2014-03-26_130317/2014-03-26_130520_Fortune.pdf

1) Radjou N., Prabhu, J. Simonde A (2012) Jugaard Innovation, Wiley (In library).

2) Chataway J, Hanlin, R and Kaplinsky R (2014) Inclusive innovation: an architecture for policy development. *Innovation and Development*. 4(1): 33-54.

3) *UNCTAD (2017) New Innovation approaches to support the implementation of the sustainable development goals: pp1-27.

https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/dtlstict2017d4_en.pdf

4) Chesbrough, H.W. (2003) The Era of Open innovation, MIT Sloan Management Review. Spring, 2003

<https://sloanreview.mit.edu/article/the-era-of-open-innovation/>

5) von Hippel (2017) Chapter 1 in Free innovation MIT Press

Freely downloadable from

<https://mitpress.mit.edu/books/free-innovation>

Global Value chains and National Systems of Innovation

1) Pietrobelli, C., Rabellotti, R., (2009) The global dimension of innovation systems: linking innovation systems and global value chains: In Lundvall, B., Joseph, KJ, Chaminade, C., Vang, J. (ed) , *Handbook of innovation systems and Developing countries*. Edward Elgar, UK: pp 214-238. or

2) Pietrobelli, C., R. Rabellotti (2011) Global value chains meet Innovation Systems: Are there learning opportunities for Developing countries? *World Development*, 39 (7): 1261-1269.

3) Herstad, S.J., Block, C., Ebersberger, B., van de Velde, E. (2010) National innovation policy and global open innovation: exploring balances, trade-offs and complementarities, *Science and Public Policy*, 37(2):113-124.

4) Carlsson, B. (2006) Internationalization of innovation systems: A survey of the literature, *Research Policy*, 35: 56-67.

5) Chesbrough, H. (2006) Open Innovation: A new Paradigm for Understanding Industrial Innovation, in Chesbrough, H, Vanhaverbeke, West, J.,(eds), *Open Innovation: Researching a New Paradigm*, Oxford University Press.

6) Smith, K (2010) Globalization and Innovation systems: Policy Issues. In in Smits, R.E., Kuhlmann, S., Shapira, P

(eds), *The Theory and Practice of Innovation Policy*, Edward Elgar

7) Binz, C., Truffer, B., Coenen, L (2016) Global innovation systems — toward a conceptual framework for innovation process in transitional contexts, Paper presented at SPRU 50th anniversary conference, Sept, 2016 Brighton, UK

Extended Technological Innovation systems (functions approach):

1) Bergek, A., Jacobsson, S. Carlsson, B. Lindmark, S., Rickne, A., (2008) Analysing the functional dynamics of technological innovation systems: A scheme of analysis, *Research Policy* 37(3): 407-429. or

2) Bergek, A., Jacobsson, S, Hekkert, M and Smith, K., (2010) Functionality of Innovation systems as a Rationale for and Guide to Innovation Policy in Smits, R.E., Kuhlmann, S., Shapira, P (eds), *The Theory and Practice of Innovation Policy*, Edward Elgar

3) Hekkert, M.P., Suurs, R.A.A., Negro, S.O., Kuhlmann, S., Smits, R.E.H.M (2007) Functions of innovation systems: A new approach for analysing technological change, *Technological Forecasting and Social Change*, 74: 413-432.

4) Markard, J., Hekkert, M., Jacobsson, S., (2015) The technological innovation systems framework: Response to six criticisms, *Environmental Innovation and Societal Transitions*, 16: 76-86.

5) Bergek, A., Hekkert, M., Jacobsson, S., Markard, J., Sanden, B., Truffer, B., (2015) Technological innovation systems in context: Conceptualizing contextual structures and interaction dynamics, *Environmental Innovation and Societal Transitions*, 16: 51-64.

Transitions and multi-level approach

1) Geels, F.W. (2002) Technological transitions as evolutionary reconfiguration processes: A Multi-level perspective and a case-study', *Research Policy* 31 (8-9), 1257-1274.

2) Geels, F.W. (2004) From sectoral systems of innovation to socio-technical systems Insights about dynamics and change from sociology and institutional theory, *Research Policy* 33: 897-920.

3) Smith, A. A. Stirling, and F. Berkhout (2005) The governance of sustainable socio-technical transitions. *Research policy* 34:1491-1510.

4) Markard, J. and B. Truffer. (2008) Technological innovation systems and the multi-level perspective: Towards an integrated framework, *Research Policy*, 37: pp. 596-615.

5) Geels, F. W., Schot, J (2016) Towards a new innovation theory for grand societal challenges, paper presented at SPRU 50th anniversary conference, 7-9 September, 2016, Brighton,UK.

Natural resources, STI and development

1) *Andersen, A.D., Wicken O.,(2020) Making sense of how the natural environment shapes innovation, industry dynamics and sustainability challenges, *Innovation and Development*, 1-27.

<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/2157930X.2020.1770975>

2) David, P and G. Wright (1997) Increasing Returns and the Genesis of American Resource Abundance Industrial and Corporate Change, 6 (2): 203-245.

3) Wright, G. and Czelusta, J (2004) The Myth of the Resource Curse, *Challenge*, 47(2): 6-38.

4) Pietrobelli, C., Marin. A., Olivari, J. (2018) Innovation in Mining value chains: New evidence from Latin America, *Resources Policy*, 58:1-10.

5) Crespi, G., Katz, J., Olivari, J. (2018) Innovation, natural resource-based activities and growth in emerging economies: the formation and role of knowledge intensive service firms, *Innovation and Development* 8(1):79-101.

6) CTA (2019) Digitalization of African Agriculture,

<https://www.cta.int/en/digitalisation/issue/the-digitalisation-of-african-agriculture-report-2018-2019-sid0d88610e2-d24e-4d6a-8257-455b43cf5ed6>

(7)InteGovernmental Forum on Mining, minerals Metals and Sustainable Development (IGF), New Tech, New Deal: mining policy options in the face of new technology, Canada.

Case of EV

Marin, A and Goya, D. (2022) Mining--the dark side of the energy transitions, *Environmental Innovation and Societal Transitions*.

IEA (2021)The Role of Critical Minerals in Clean Energy Transitions.

<https://www.iea.org/reports/the-role-of-critical-minerals-in-clean-energy-transitions>

Emerging technologies

1) Garret, B. Technology will keep changing everything-and will do it faster, Atlantic council.

<http://www.atlanticcouncil.org/images/publications/Technology.pdf>

2) Juma, C (2017) Leapfrogging Progress: The misplaced Promise of Africa's mobile revolution, BreakThrough Journal No 7.

<https://nef.org/leapfrogging-progress-the-misplaced-promise-of-africas-mobile-revolution/>

3) UNCTAD Technology and innovation report (2018) Harnessing Frontier Technologies for Sustainable Development, Geneva, UNCTAD

https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/tir2018_en.pdf

Case of M-Pesa

o Mas, I. Morawczynski, O. (2009) Designing Mobile Money Services Lessons from M-PESA, Innovations, Spring, 2009.

<https://www.mitpressjournals.org/doi/pdf/10.1162/itgg.2009.4.2.77>

o Hughes, N. Lonie, S (2007) M-Pesa: Mobile Money for the Unbanked, Special Edition of Innovations for the GSMW World Congress, 2009, Spring 2009.

https://www.gsma.com/mobilefordevelopment/wp-content/uploads/2012/06/innovationsarticleonmpesa_0_d_14.pdf

4) World Economic Forum (2019) Global Technology Governance: A Multistakeholder Approach, Geneva, World Economic Forum

http://www3.weforum.org/docs/WEF_Global_Technology_Governance.pdf

5) World Economic Forum (2017) Agile Governance: Reimagining Policy making in the Fourth Industrial Revolution, Geneva, World Economic Forum.

http://www3.weforum.org/docs/WEF_Agile_Governance_Reimagining_Policy-making_4IR_report.pdf

5. 履修上の注意/Note:

There will be some guest lectures related to one of the themes of the lecture. This will be announced later.

The readings may be updated and change reflecting the current events. The list above is used in the last course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2220J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策と評価(金、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

科学技術イノベーション政策において「評価」の重要性は増している。研究の現場では、研究の質の評価は昔から頻繁に行われてきた。しかし、1970 年代以降、研究開発から生み出される経済・社会的効果が強く期待されるようになり、学術的な質だけではなく、より広い社会的な視点から研究開発活動を評価しマネジメントすることが求められるようになってきた。さらに 1990 年代以降に政策評価制度が導入されることにより、科学技術イノベーション政策やプログラムを対象とした評価が専門的な手法や概念を用いて行われるようになってきている。本講義では、科学技術イノベーションおよびその政策に対する評価について、歴史的背景と現在の制度を確認したうえで、評価の基礎理論を学習する。また、研究開発を対象とした評価においてどのような難しさが原理的に生じるかを学び、ピアレビュー、ビブリオメトリクス、科学技術の経済効果、社会効果の評価について取り上げる。さらに、プログラム評価、大学や研究機関の評価、イノベーション政策における各種政策手段の評価など、学生の関心も踏まえつつ扱う予定である。

授業は講義を中心にしつつ、最新の科学技術イノベーション政策の評価に関する論文等の輪読も行う。履修者は輪読担当論文の発表が求められる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. イントロダクション：歴史的経緯と研究評価制度
2. 評価の設計（1）：評価理論の基礎
3. 評価の設計（2）：評価理論の基礎
4. 科学技術イノベーション政策評価に特有の概念
5. プログラム評価とロジックモデル演習
6. ピアレビューと学際研究・革新的研究の評価
7. ビブリオメトリクスの活用

8. 研究の経済効果の評価(1)
9. 研究の経済効果の評価(2)
10. 研究の社会効果の評価(1)
11. 研究の社会効果の評価(2)
12. イノベーション政策の評価(1)
13. イノベーション政策の評価(2)

14. EBPM 手法の適応

15. 学生発表

※受講者の関心にあわせて変更することもあり得る

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への出席・議論への参加 (20%)、授業における割当の報告 (30%)、発表・レポート (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 教科書

なし (資料を配付)

4-2 参考文献

- Shapira, P. and S. Kuhlmann eds. (2003), Learning From Science And Technology Policy Evaluation: Experiences from the United States and Europe, Edward Elgar.
- Callon, M., P. Laredo and P. Mustar eds. (1997). The Strategic Management of Research and Technology, The evaluation of Programs, Economica International.
- Link, N. and N.S. Vonortas eds.(2013), Handbook On The Theory And Practice Of Program Evaluation, Edward Elgar.
- Jakob Edler, Paul Cunningham, Abdullah Gok, Philip Shapira(2016), Handbook of Innovation Policy Impact, Edward Elgar publishing.
- 藤垣裕子ほか(2003)『研究評価・科学論のための科学計量学入門』丸善株式会社.
- 龍慶昭・佐々木亮(2004)『「政策評価」の理論と技法』多賀出版
- ロッシ、リプセイ、フリーマン(2004:大島他訳(2005))『プログラム評価の理論と方法』日本評論社
- ハトリー(1999:上野他訳(2004)『政策評価入門』東洋経済新報社

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2230E

科目名/Course Name: Energy Data Analysis

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy data analysis is the foundation for developing sound national energy policies as they reveal where interventions are required and what opportunities are available.

Many countries find it difficult to make informed policy decisions at the national level because of lacking qualified energy data analysis.

The pressures and complexities of international energy markets and the imperatives of global issues such as climate change means that countries need to understand and conform to international conventions in monitoring and reporting. The job of an energy data analysis is more complex than ever before and requires the ability to ensure the quality, consistency and compatibility of energy data.

You will gain a broad understanding of energy systems as a whole, covering supply and demand, the interconnectedness and dependencies between different sectors and a multi-vector multi-sector approach to analysis.

You will learn about the theory and practice of data analysis and will gain practical experience of the challenges of working with different data sets relating to energy throughout the program and modules.

We will provide a software to develop economic outlook model and energy data base by free of charge.

Especially Master Course students could use the result of this course for writing their policy papers or independent study with energy and economic outlook.

This Class is jointly conducted with the Institute of Energy Economics, Japan.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1-1 Introduction---Structure and Schedule of the Class

Week 1-2 Abstract of Energy Economics

Week 2-1 Statistics of Energy --- Examples of Major Statistics (IEA, BP etc.), Unit conversion

Week 2-2 Introduction of Energy Balance Chart --- Energy Flow, Self Sufficient Rate etc.

Week 3-1 Analysis of Energy Balance Chart---Explanation and Exercise

Week 3-2 Introduction of Model Analysis ----Explanation of useful models such as Optimization model , General equilibrium model etc.

Week4-1 Introduction of Model Analysis- Economate , Simple Model

Week4-2 Exercise of Model --- Exercises based on given tasks

Week5-1 Model Analysis --- Make a model based on Energy Balance Chart

Week5-2 Model Analysis --- Analysis on each sector such as residential , transportation, industry etc

Week6-1 Exercise of Model ---Exercises based on given tasks

Week6-2 Cont.(Individual guidance to improve the Model)

Week7-1 Cont.(Preparation for the presentation)

Week8-1 Presentation I

Week 8-2 Presentation 2 and Wrap Up

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class Participation 20%, Discussion at the class 20 %, Presentation 60%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

①BP Statistical Review of World Energy 2022

<https://www.bp.com/content/dam/bp/en/corporate/pdf/energy-economics/statistical-review-2021/bp-statistical-review-of-world-energy-2022-full-report.pdf>

②Eurostat Statistic Explained --- Energy Balance

http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Energy_balance

③World Energy Balances 2022 ---IEA

④EDMC Handbook of Japans & World Energy & Economic Statistics --- The Energy Data and Modelling Center ,
The Institute of Energy Economics, Japan

5. 履修上の注意/Note:

Registered Students should have their own PC operated by Microsoft Windows 7,10 or 11 not Mac in the class.

We provide Economate software for free which is a personal computer-based software package that has been developed to forecast and analyze policy

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2250J

科目名/Course Name: 計量分析演習

担当教員/Instructor: 鈴木 潤/SUZUKI Jun

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

EBPM (エビデンスに基づく政策立案) のための政策効果の測定には、各種サーベイ結果や統計等のデータの活用が欠かせない。本講義は、基本的なデータ分析を学生自らが実際に行うことによって、適切なデータの収集やクリーニング、加工、分析、結果の解釈、などを行うことができる能力を養うことを目的とする。計量分析のツールは日々進歩しているが、それを利用したり結果を解釈したりするためには知っておくべき前提や専門用語、手法の限界、陥りがちな落とし穴などが随所に存在する。本講義では統計学の理論や数学的説明を極力避け、実務的な応用と解説を重視するため、統計分析の初心者であっても受講可能である。本演習によって基本的な分析手法と結果を解釈する能力を身に着ければ、様々なレポートや論文で示されるデータ分析結果を自ら主体的に解釈し、他者による解釈の限界などを理解することも可能になるものと期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1/2 データ分析の基礎と分析ソフト・データの準備

R、R コマンド、EZR、データの観察と記述統計

3/4 グループ間の比較と検定

変数の種類、平均値の比較、中央値の比較、相関、直交表

5/6 多変量解析の基礎

因子分析・主成分分析、クラスター分析

7/8 回帰分析-1

単回帰、OLS 重回帰、残差の診断、変数選択

9/10 回帰分析-2

ダミー変数、カテゴリーデータ：ロジスティック回帰（単項、多項、順序）、一般化線形モデル

11/12 回帰分析-3

時系列データ、パネルデータの重回帰

13/14 因果関係の分析、その他

内生性と操作変数、傾向スコアによる分析、その他

15 学生発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業におけるデータ分析とディスカッションへの参加・発表：100%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-2 : その他

神田善伸、2020年、EZR でやさしく学ぶ統計学「改訂3版」、中外医学社

逸見功、2018年、統計ソフト「R」超入門、ブルーバックス、講談社

森田果、2014年、実証分析入門、日本評論社

R. James et.al., 2013, An Introduction to Statistical Learning: with Applications in R (Springer Texts in Statistics)

John Fox, 2016, Using the R Commander: A Point-and-Click Interface for R (Chapman & Hall/CRC The R Series Book 35)

5. 履修上の注意/Note:

受講者は、統計ソフトのインストールおよびデータを保存するため、自らのPCを持参すること（OSとしてWindows 10搭載機、また操作性の観点からマウスの利用を推奨する。Mac OS搭載機については、OSのバージョンにより統計ソフトがインストールできないことがあるので、利用する場合は自己責任で）。この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2260J

科目名/Course Name: 科学技術行政システムと指標

担当教員/Instructor: 林 隆之, 飯塚 倫子/Hayashi Takayuki and Iizuka Michiko

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

※本授業科目は、伊地知寛博 成城大学教授・文部科学省科学技術・学術政策研究所第1研究グループ客員総括主任研究官 による講義を中心に行う。

また、伊神正貫 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測・政策基盤調査研究センター長から第11回に特別講義をいただく。

本授業科目は、科学技術政策やイノベーション政策に関する基本的概念や議論について総合的に習得することを目的とし、とくに、科学技術政策を形成・執行・監視・評価するための科学技術行政システムと、科学技術政策の対象である科学技術、研究開発、イノベーションの状況並びに科学技術政策の対象として実施される施策・事業・機関等の妥当性や進捗状況及びこれらのインパクトについて把握するための測定や指標に関して、基本的な知識を習得することを目標とする。具体的には、授業で取り扱う対象について、その基本的な概念等を自らの言葉によって説明できるようになることを目標とし、履修後には、その習得した知識に基づき、政策分析・立案において個別の対象に応じて実際に活用できるようになることを図る。

なお、本授業科目において「科学技術政策」や「科学技術行政システム」は、科学的研究等を通じて得られる知識や技術を基にしたイノベーションの実現を支援したりするための環境の整備等を含めた「科学技術・イノベーション政策」や「科学技術・イノベーション行政システム」として、また、「科学技術指標」についても同様に、イノベーションの実現やイノベーション活動の状況を把握する「科学技術・イノベーション指標」として、それぞれ捉える。

本授業科目では、主として、履修者が事前に指示された文献・資料等を読んでいることを前提として、担当者により、適宜、理解に必要とされる内容について講義する。また、理解を深めるために、履修者が事

前に指示された文献・資料等に示されている内容の概要について報告することや、担当者及び履修者間で討議する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. 科学技術行政システムと指標：導入
2. 研究システム，イノベーション・システム
3. 科学技術行政システムに関連する行政学（基礎）と行政法（基礎）
4. 科学技術・イノベーション政策の概要
5. 科学技術・イノベーション行政システム(1)
6. 科学技術・イノベーション行政システム(2)
7. 科学技術・イノベーション指標(1)
8. 研究開発・イノベーション統計
9. 国際的な統計・データベース(1)
10. 国際的な統計・データベース(2)
11. 日本における科学技術指標～NISTEP による取組（特別講師：伊神正貫氏）
12. 科学技術・イノベーション指標(2)
13. 施策・事業・機関等のアセスメント，モニタリング，エバリュエーションと測定，指標
14. 科学技術行政システムと指標：総括と学生発表(1)
15. 科学技術行政システムと指標：総括と学生発表(2)

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業にて報告する内容(30%)，授業における討議への参加状況といった授業への貢献度（40%），最終課題の発表・レポート(30%)の内容により総合的に評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

〔行政システム関連〕

西尾勝，2001，『行政学』，新版．東京：有斐閣，4-641-04977-7.

藤田宙靖，2017，『行政法入門』，第7版，東京：有斐閣，978-4-641-13195-8.

[科学技術・イノベーション政策関連]

国立国会図書館調査及び立法考査局（編），2011，『科学技術政策の国際的な動向 [本編]』，東京：国立国会図書館。

国立国会図書館調査及び立法考査局（編），2012，『国による研究開発の推進-大学・公的研究機関を中心に- [本編]』，東京：国立国会図書館。

Edler, J., Cunningham, P., Gok, A., and Shapira, P. (eds.), 2016, Handbook of Innovation Policy Impact, Cheltenham: Edward Elgar, 978-1784711849.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2021, OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2021: Times of Crisis and Opportunity, Paris: OECD, 978-9264784321.

Fagerberg, J., Mowery, D. C., and Nelson, R. R. (eds.), 2005, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press, 978-0199264551.

Hall, B. H., and Rosenberg, N. (eds.), 2010, Handbook of The Economics of Innovation, Amsterdam: Elsevier, 978-0444536112.

Dodgson, M., Gann, D.M., and Phillips, N. (eds.), 2014, The Oxford Handbook of Innovation Management, Oxford: Oxford University Press, 978-0199694945.

[指標関連]

Glanzel, W., Moed, H.F., Schmoch, U., and Thelwall, M. (eds.), 2019, Springer Handbook of Science and Technology Indicators, Springer, 978-3030025106.

Gault, F. (ed.), 2013, Handbook of Innovation Indicators and Measurement, Elgar, 978-0-85793-364-5.

文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP), 2022, 「科学技術指標 2022」, 調査資料, No.318, 東京:

文部科学省科学技術・学術政策研究所.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2023, Main Science and Technology Indicators, Volume 2022 Issue 2, Paris: OECD Publishing, 2304-277X.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2017, OECD Science, Technology and Industry Scoreboard 2017: The digital transformation, Paris: OECD Publishing, 978-92-64-26881-4.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2019, Measuring the Digital Transformation: A Roadmap for the Future, Paris: OECD Publishing, Paris, 978-92-64-31199-2.

National Science Board (NSB) and National Science Foundation (NSF), 2022, Science and Engineering Indicators 2022: The State of U.S. Science and Engineering, NSB-2022-1. Alexandria, VA: National Science Foundation. 及

びこれに附随する一連の報告書群.

European Commission, 2020, European Innovation Scoreboard 2022, Luxembourg: Publications Office of the

European Union, 978-92-76-55508-7.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2015, Frascati Manual 2015: Guidelines for Collecting and Reporting Data on Research and Experimental Development, The Measurement of Scientific, Technological and Innovation Activities, Paris: OECD publishing, 978-926423901-2.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) and Eurostat, 2018, Oslo Manual 2018: Guidelines for Collecting, Reporting and Using Data on Innovation, 4th Edition, The Measurement of Scientific, Technological and Innovation Activities, Paris: OECD Publishing / Luxembourg: Eurostat, 978-92-64-30460-4.

[国際的な統計・データベース]

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2019, Connecting ODA and STI for inclusive development: measurement challenges from a DAC perspective, DCD/DAC(2019)38.

Iizuka, M. and Hollanders, H., 2020, Innovation Indicators: for a critical reflection on their use in Low- and Middle-Income Countries (LMICs), GRIPS Discussion Paper, #19-29.

その他講義にて紹介する。

5. 履修上の注意/Note:

報告については、履修者に事前に担当を割り当てる場合があるが、報告者に限らず履修者はすべて、各回の授業までに、授業内で指示された文献・資料等を読み、その内容に関して一定の理解をしておくように準備学習を行うことが必要である。英語で書かれた文献・資料等を用いることがあるが、その場合も単なる訳出だけでは不十分であり、内容をよく踏まえる必要がある。

授業の進展に応じて、事前に、対象とする文献・資料等の講読・報告や課題の実施を指

示するが、これら指示された準備を十分に行って毎回の授業に臨むことを必須とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2270J

科目名/Course Name: 知的財産マネジメント I

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

知的財産保護法制、産官学それぞれにおける知的財産戦略、ならびに産学連携施策等を主要なテーマとする、オープンなセミナーに参加し、多様なバックグラウンドの講師や参加者とともに議論し相互に学びあうことで、科学技術イノベーション政策、ならびにナショナル・イノベーション・システムにおける知的財産の役割について理解し、その戦略的活用のための知見を修得する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

4/22 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

5/20 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

6/17 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

7/15 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

※学外の一般参加者の方々とともにご参加いただきます。

上記以外の予定については、講義内で連絡いたします。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義・セミナーへの参加、議論への貢献、レポートの提出、により評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 参考資料

A Filippetti, M Savona 2017. Universityindustry linkages and academic engagements: individual behaviours and firms barriers. Introduction to the special section. The Journal of Technology Transfer 42:719-729.

A Gerbin, M Drnovsek, 2016. Determinants and public policy implications of academic- industry knowledge transfer in life sciences: a review and a conceptual framework The Journal of Technology Transfer 41:979-1076.

B Bozeman, D Fay, CP Slade.2013. Research collaboration in universities and academic entrepreneurship: the-state-of-the-art. The Journal of Technology Transfer 38:1-67.

Baltaru, R.D. 2019. Do non-academic professionals enhance universities performance? Reputation vs. organisation. Studies in Higher Education, 44:7, 1183-1196.

C De Fuentes, G Dutrénit 2016. Geographic proximity and universityindustry interaction: the case of Mexico The Journal of Technology Transfer 41:329-348.

D Meissner. 2019. Public-Private Partnership Models for Science, Technology, and Innovation Cooperation, Journal of the Knowledge Economy10:1341-1361.

D Kanama, K Nishikawa. 2017 What type of obstacles in innovation activities make firms access university

knowledge? An empirical study of the use of university knowledge on innovation outcomes. *The Journal of Technology Transfer*, 42:141-157.

Etzkowitz, H., & Leydesdorff, L. 2000. The dynamics of innovation: from National Systems and Mode 2 to a Triple Helix of university-industry-government relations. *Research Policy*, 29, 109-123.

E Villani, E Rasmussen, R Grimaldi. 2017. How intermediary organizations facilitate university-industry technology transfer: A proximity approach *Technological Forecasting & Social Change* 114 86-102.

F. Brescia, G. Colombo, P. Landoni. 2016. Organizational structures of Knowledge Transfer Offices: an analysis of the worlds top-ranked universities. *The Journal of Technology Transfer* 41:132-151.

Ford, G. S., Koutsky, T. M., & Spiwak, L. J. 2018. An economic investigation of the valley of death in the innovation sequence. Phoenix Center for Advanced Legal & Economic Public Policy Studies. <http://www.osec.doc.gov/Report-ValleyofDeathFundingGap.pdf>. Accessed, 10.

Fernandez-Esquinas, M., Pinto, H., Yruela, M. P., & Pereira, T. S. 2016. Tracing the flows of knowledge transfer: Latent dimensions and determinants of university-industry interactions in peripheral innovation systems *Technological Forecasting and Social Change*, 113, 266-279.

JA Cunningham, EE Lehmann, M Menter N Seitz 2019. The impact of university focused technology transfer policies on regional innovation and entrepreneurship. *The Journal of Technology Transfer* 44:1451-1475.

J. Jones , G. Corral de Zubielqui. 2017. Doing well by doing good: A study of university-industry interactions, innovationness and firm performance in sustainability-oriented Australian SMEs. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 262-270.

Kergroach S., Meissner D., Vonortas N. 2018. Technology transfer and commercialisation by universities and PRIs: benchmarking OECD country policy approaches. *Economics of Innovation and New Technology*. Vol. 27. No. 5-6. P. 510-530.

M Takata, K Nakagawa, M Yoshida, T Matsuyuki, T Matsubishi, K Kato, Ashley J. Stevens. 2020. Nurturing entrepreneurs: How do technology transfer professionals bridge the Valley of Death in Japan? *Technovation*, 102161.

Vinh Sum Chau, Mark W. Gilman, Cristina Maria Serbanica. 2017. Aligning university-industry interactions: The role of boundary spanning in intellectual capital transfer. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 199-209.

Y Tang, K Motohashi, X Hu, A Montoro-Sanchez. 2020. University-industry interaction and product innovation performance of Guangdong manufacturing firms: the roles of regional proximity and research quality of universities. *The Journal of Technology Transfer* 45 (2), 578-618.

5. 履修上の注意/Note:

この講義は、科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の方々については、2年目以降の方々が受講することを想定しています。

1年目の方々は、土曜日を開講される他の講義を受講してください。

（本学の修士課程を修了後に博士課程に進学した方などで、すでにそれらの科目の単位を取得済みの場合は、その限りではありません。）

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI2280J

科目名/Course Name: 知的財産マネジメントⅡ

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

知的財産保護法制、産官学それぞれにおける知的財産戦略、ならびに産学連携施策等を主要なテーマとする、オープンなセミナーに参加し、多様なバックグラウンドの講師や参加者とともに議論し相互に学びあうことで、科学技術イノベーション政策、ならびにナショナル・イノベーション・システムにおける知的財産の役割について理解し、その戦略的活用のための知見を修得する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

10/21 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

11/18 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

12/16 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

1/20 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

※学外の一般参加者の方々とともにご参加いただきます。

上記以外の予定については、講義内で連絡いたします。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義・セミナーへの参加、議論への貢献、レポートの提出により評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 参考資料

A Filippetti, M Savona 2017. Universityindustry linkages and academic engagements: individual behaviours and firms barriers. Introduction to the special section. The Journal of Technology Transfer 42:719-729.

A Gerbin, M Drnovsek, 2016. Determinants and public policy implications of academic- industry knowledge transfer in life sciences: a review and a conceptual framework The Journal of Technology Transfer 41:979-1076.

B Bozeman, D Fay, CP Slade.2013. Research collaboration in universities and academic entrepreneurship: the-state-of-the-art. The Journal of Technology Transfer 38:1-67.

Baltaru, R.D. 2019. Do non-academic professionals enhance universities performance? Reputation vs. organisation. Studies in Higher Education, 44:7, 1183-1196.

C De Fuentes, G Dutrénit 2016. Geographic proximity and universityindustry interaction: the case of Mexico The Journal of Technology Transfer 41:329-348.

D Meissner. 2019. Public-Private Partnership Models for Science, Technology, and Innovation Cooperation, Journal of the Knowledge Economy10:1341-1361.

D Kanama, K Nishikawa. 2017 What type of obstacles in innovation activities make firms access university

knowledge? An empirical study of the use of university knowledge on innovation outcomes. *The Journal of Technology Transfer*, 42:141-157.

Etzkowitz, H., & Leydesdorff, L. 2000. The dynamics of innovation: from National Systems and Mode 2 to a Triple Helix of university-industry-government relations. *Research Policy*, 29, 109-123.

E Villani, E Rasmussen, R Grimaldi. 2017. How intermediary organizations facilitate university-industry technology transfer: A proximity approach *Technological Forecasting & Social Change* 114 86-102.

F. Brescia, G. Colombo, P. Landoni. 2016. Organizational structures of Knowledge Transfer Offices: an analysis of the worlds top-ranked universities. *The Journal of Technology Transfer* 41:132-151.

Ford, G. S., Koutsky, T. M., & Spiwak, L. J. 2018. An economic investigation of the valley of death in the innovation sequence. Phoenix Center for Advanced Legal & Economic Public Policy Studies. <http://www.osec.doc.gov/Report-ValleyofDeathFundingGap.pdf>. Accessed, 10.

Fernandez-Esquinas, M., Pinto, H., Yruela, M. P., & Pereira, T. S. 2016. Tracing the flows of knowledge transfer: Latent dimensions and determinants of university-industry interactions in peripheral innovation systems *Technological Forecasting and Social Change*, 113, 266-279.

JA Cunningham, EE Lehmann, M Menter N Seitz 2019. The impact of university focused technology transfer policies on regional innovation and entrepreneurship. *The Journal of Technology Transfer* 44:1451-1475.

J. Jones , G. Corral de Zubielqui. 2017. Doing well by doing good: A study of university-industry interactions, innovationness and firm performance in sustainability-oriented Australian SMEs. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 262-270.

Kergroach S., Meissner D., Vonortas N. 2018. Technology transfer and commercialisation by universities and PRIs: benchmarking OECD country policy approaches. *Economics of Innovation and New Technology*. Vol. 27. No. 5-6. P. 510-530.

M Takata, K Nakagawa, M Yoshida, T Matsuyuki, T Matsuhashi, K Kato, Ashley J. Stevens. 2020. Nurturing entrepreneurs: How do technology transfer professionals bridge the Valley of Death in Japan? *Technovation*, 102161.

Vinh Sum Chau, Mark W. Gilman, Cristina Maria Serbanica. 2017. Aligning university-industry interactions: The role of boundary spanning in intellectual capital transfer. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 199-209.

Y Tang, K Motohashi, X Hu, A Montoro-Sanchez. 2020. University-industry interaction and product innovation performance of Guangdong manufacturing firms: the roles of regional proximity and research quality of universities. *The Journal of Technology Transfer* 45 (2), 578-618.

5. 履修上の注意/Note:

この講義は、科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の方々については、2年目以降の方々が受講することを想定しています。

1年目の方々は、土曜日を開講される他の講義を受講してください。

（本学の修士課程を修了後に博士課程に進学した方などで、すでにそれらの科目の単位を取得済みの場合は、その限りではありません。）

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI3050E

科目名/Course Name: Energy Security

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to deepen the knowledge of energy security and of the way to review the energy security policy measurement for creating policy recommendation to improve security conditions.

The course is developed together with Mr. Ichiro Kutani, Managing Director at the Institute of Energy Economics, Japan.

In the first half of the course, we explain major issues related with energy security based on the definition by IEA (International Energy Agency).

We also provide an expert lecture and exercise of geopolitical aspect in the Gulf.

In the second half, we explain the way of preliminary assessment over energy security condition by using practical data analysis and expect students to create policy recommendations to improve security conditions mainly for developing nations.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1 Introduction (Nei, Kutani)

Outline of the course, basic concept of energy security etc.

Week 2 Outline of Energy Policy(Nei, Kutani)

Explain the outline of energy policy including trade-off relationship between energy security, economic way of supply and environmental issues.

Week 3 Oil supply security (Nei)

History of the change in the area of crude oil supply after the world war II、 the way to overcome supply interruption occurred in the era of oil crisis,

Week 4 Middle East(Dr. Koji Horinuki, JIME at IEEJ)

Turmoil in MENA and its affection over energy security, factors of geopolitical risk, case study of reducing the risk in the region..

Week 5 Middle East(Dr. Koji Horinuki, JIME at IEEJ)

Students will make presentations based on the brief analysis by using data provided by Dr. Koji Horinuki about Economic condition of MENA countries, OPEC etc.

Week 6 Counter measures for short term energy security (Nei)

Management of emergency oil response systems, security management of the choke points etc.

Week 7 Supply security in non-oil fuel sources (Nei)

Coal, Natural Gas, Renewable etc.

Week 8 Energy Security in Developing Nations1(Kutani)

Energy balance and appropriate energy mix, Selection and concentration, Centralized or distributed power system including the potential of renewable energy and its limitation, Tariff system and subsidy , etc.

Week 9 Energy Security in Developing Nations 2 (Kutani)

Building energy infrastructure and public acceptance, how to get finance for construction, energy market structure and institutional arrangement including regulation or deregulation, etc.

Week 10 How to evaluate the condition of energy security (Kutani)

Definition of energy security and security index, case study made by METI/ERIA/WEF, case study of regional cooperation for improving energy security etc.

Week 11 Nuclear Security(Nei)

Cause and consequences of TEPCO Fukushima Nuclear Accident, NPT etc.

(In the week the other energy policy related classes will be the lecture class on Nuclear.

Week 12 Group Discussion1(Kutani, Nei)

Students form several groups with 3-4 member for each.

We will give statistical data of a country to each group differently and ask to analyze the condition of energy security for creating policy recommendation.

Week 13 Group Discussion 2 (Kutani, Nei)

Students make presentations and discussion

Week 14 Long term energy supply security(Nei)

Risk for maintaining adequate investment of resource development etc.

(It might be combined with the field trip to JOGMEC TRC in order to learn more about the risk of investment over the resource development.)

Week 15 Summary (Kutani, Nei)

Summary discussion of the course and further issues to research

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students etc.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Course grades will be based on the both presentations which are one for middle east and the other for the security of developing country by the group discussion (80%) and class participation (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- ①World Energy Outlook 2022, IEA
- ②Energy Supply Security 2014,IEA
- ③Energy & Security-strategies for a world in transition, Jan H. Kalicki/David L. Goldwyn
- ④Energy Security in the Era of Climate Change: The Asia-Pacific Experience, Luca Anceschi, Jonathan Symons

5. 履修上の注意/Note:

Students are expected to take the class Outline of Energy Policy and/or Energy and Environmental Science and Technology in advance.

Students are highly recommended to take the class Energy Data Analysis for making exercises more effective.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI3060E

科目名/Course Name: Energy Policy in Japan

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy Policy is one of the most important policy agenda in Japan especially after the TEPCO Fukushima Accident in 2011.

In this course, I will explain most factors for planning and enforcement of energy policy in Japan.

Energy Policy in Japan is rather unique based on its history after the World War II.

The main questions we have are the root cause of the Fukushima Accidents, lack of national champion of oil & gas industry, regional monopoly of power industry, less improved liquid market in energy fields.

During the first half, I will explain main issues of energy policy we should solve , supply & demand figures, and changes of global circumstances which affect determinations of appropriate energy mix in Japan.

In the latter half, I will explain each area of interest together with experts in Government of Japan in more detail and would like to discuss recent energy issues we face.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1: Introduction

Main issues of Energy Policy in Japan etc.

Week 2: Policy Framework

Major Policy framework of Energy Policy in Japan etc.

Week3: Japanese Energy Policy

IEAs Policy Review over Japan

Week4: Oil Policy

Unique situation of oil market in Japan etc.

Week5: Nuclear Policy

Nuclear Development before the FUKUSHIMA accident and Policy Framework

Week6: Deregulation & Power Market Reform

Deregulation and Institutional Innovation in the Energy Sector after 1980s , including latest situation of power market reform.

Week7: Discussions on Major Issues of Energy Policy

Brief explanations on remained issues such as Coal, Natural Gas, Global Warming, Renewable, Energy Conservation.

Term Paper should be submitted by the next Tuesday.

Week8: Latest Energy Policy in Japan

I will invite a director of METI to explain about it.

Week9: Energy Policy and Global Warming Issues in Japan

I will invite an experts on this issues to explain including the result of COP 27.

Week10: Energy Conservation and Renewable Energy

I will invite a director of METI to explain about it.

Week11: Nuclear Policy related with the FUKUSHIMA accident

I will invite Dr. Tomoya Ichimura of NRA to explain about it.

Week 12: International Activities

IEA, Cooperation with OPEC , Middle East and Russia

Week 13: Energy Technology Policy in Japan

History , Major Technology Option for Net Zero Emission Energy System etc.

Week 14: Field Trip to JOGMEC TRC

Field Trip to the Technology and Research Center of JOGMEC(Energy and Metals National Corporation) at Makuhari

Learn about the state of the art technology for natural resource development including CCS, Carbon Recycling and Hydrogen.

*Students attending the class Energy and Environmental Science and Technology) will come together.

Week 15: Energy Policy in Japan for the Future

Discussion of Energy Policy in Japan for the Future

Term Paper should be submitted by the next Tuesday.

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students etc.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Papers (Twice) 30% for each, Attendance and Participation of the Discussion 20% for each.

Term Papers are composed of about 1000 words per each.

Students who take the class of Energy and Environmental Science & Technology can submit a combined term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

① White Paper of Energy in Japan 2022 (Japanese)

<http://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022pdf/>

② History of Policy by Ministry of International Trade and Industry(MITI)-Energy Policy(Japanese)

Important contents of these will be provided in class materials in English.

③ Energy Policies of IEA Countries; Japan 2020 Review

<https://www.iea.org/reports/energy-policies-of-iea-countries-japan-2020-review>

④ 6th Strategic Energy Plan, GOJ, 2021

https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf

5. 履修上の注意/Note:

Students are highly recommended to take the class Outline of Energy Policy in advance for getting basic knowledge of energy policy in general.

Students are highly recommended to take the class Energy and Environmental Science & Technology together because

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI3150J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策特論VI

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

3日間の集中講義として、SciREX サマーキャンプ (9月8日(金)~9月10日(日))の全日程に参加し、特定の政策課題に対するグループワークに参加して、政策提言を行う。8つ程度のグループワークが設定され、グループごとに討論・準備を行い、最終プレゼンテーションを実施する。科学技術イノベーションと社会との関りを多角的な視点から学ぶため、多様なバックグラウンドの参加者と具体的課題を念頭に政策提言までのプロセスを体験する。※オンライン開催となる可能性もあります。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1日目 オリエンテーション、各グループ顔合わせ、グループワークなどを予定

2日目 グループごとにサイトビジットやディスカッションを予定、中間発表会を実施予定

3日目 グループワークの後、最終発表会を予定

3. 成績の評価方法/ Grading:

サマーキャンプにおける議論への参加と貢献、特に、グループワーク（事前準備、サマーキャンプ中の討論・準備、プレゼンテーションなど）への参加と貢献の状況を評価の対象とする。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

グループワークの内容に応じて、各グループの担当者から指示がある。

5. 履修上の注意/Note:

本講義は、2023年度のSciREX サマーキャンプ (9月8日(金)~9月10日(日))の全日程への参加を前提とするものである。サマーキャンプへは、SciREX事業の拠点校の学生や教員も参加し、いくつかのグループに分かれてグループワークを行う。多様な背景を有する学生間でのディスカッションを期待する。※オンライン開催の可能性もある。

※宿泊希望者は会場の宿泊施設に宿泊することができるが、宿泊なしで参加することも可能である。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI3160J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策特論Ⅶ

担当教員/Instructor: 上山 隆大/UEYAMA Takahiro

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

講義タイトル「科学技術政策・イノベーション政策について考える」

この講義は、公共政策の一分野としての科学技術政策さらにより広い意味でのイノベーション政策を扱う。高度知識基盤社会に突入しつつある国々では、先端科学技術や科学知識をどのように生み出すのが経済成長に不可欠の要因となっている。加えて、近年では科学技術に由来するイノベーションの含意が拡大し、グローバルな社会的インパクトを勘案する方向へと進んでいる。

この講義では、近代社会の成立とともに明確となった科学という知的営為が、どのような背景の中で経済的要因と不可分な活動と見なされるようになったのか、また国家の運営の中で捉えるようになったのはなぜか、またそれが国家の政策として形作られるプロセスいかなるものか、といった問題をまず取り上げる。また、科学技術を生み出す拠点としての大学がどのように生まれ、変貌を遂げつつあるのか。人類の知の探求を行なうはずの大学が、社会全体の経済活動にどのように関わるようになって行ったのか。大学における研究がどのように特許の対象となり、その動きが社会的な問題を引き起こしているのか。それを国家的な戦略の中で考えるとは如何なる意味をもっているのかについて触れる。最後に、近年の科学技術・イノベーション会議における政策形成について議論し講義のまとめとする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

科学・技術・社会（産業）の関係とはなにか？

技術革新とイノベーションは同じだろうか？

第2回 アメリカにおける科学技術政策

アメリカのイノベーションとそのグローバルな影響

第3回 ナショナル・イノベーション・システムとは何か？

第4回 大学の役割を考え直す

産学連携とは何か？：その始まりと歴史、アメリカの経験

トリプスヘリクス（大学・企業・政府）の出現：日本の経験との違い

第5回 日本における高等教育の改革と科学技術政策

第6回 我が国の科学技術・イノベーション政策

第7回 科学技術・イノベーション会議の役割

第8回 総括・ディスカッション

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation and attendance is part of the grade.

Individual paper 70%

Class participation 30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

日本語文献の一部を挙げる。

- ・後藤晃・小田切宏之. サイエンス型産業 , NTT 出版, 2003, 409p.
- ・S・シェーン. 大学発ベンチャー. 中央経済社、2004, 385p
- ・小田切宏之. バイオテクノロジーの経済学, 2006, 304p.
- ・ミケーレ・ボルドリニ他. <反>知的独占：特許と著作権の経済学, NTT 出版. 2010, 433p.
- ・上山隆大. アカデミックキャピタリズムを超えて：アメリカの大学と科学研究の現在. NTT 出版. 2010. 331p
- ・クレイトン・クリステンセン. イノベーションのジレンマ. 2001, 327p.
- ・アナリー・サクセニアン. 現代の二都物語：なぜシリコンバレーは復活し、ボストンルート 128 は沈んだか. 日経 BP, 350p.

5. 履修上の注意/Note:

日程や詳細については、学期開始前に別途連絡。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI4000J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策論文演習 I

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

※通常は「科学技術イノベーション政策論文演習I」は修士 2 年次の春・夏学期に履修します。「演習I」で秋・冬学期開講となっているものは、休学して半期ずれているなどの特殊な場合に履修するものです。

科学技術イノベーション政策論文演習IおよびIIは、科学技術イノベーション政策プログラム（2 年制）の修士学生を対象に、修士論文やポリシー・ペーパーを執筆するための準備と、完成に向けた指導を行うことを目的としている。

科学技術イノベーション政策プログラム（2 年制）に入学した修士課程学生は、通常は、入学後 1 年を経過した 2 年次春学期に科学技術イノベーション政策論文演習Iを履修し、さらに 6 か月を経過した 2 年次秋学期に科学技術イノベーション政策論文演習IIを履修する。ただし、休学などによって個別学生の履修時期が変わることはありうる。

科学技術イノベーション政策論文演習I、IIは、主指導教官による個別指導を中心に行う。また、履修者全員を対象として研究法についての講義を開催する。さらに、各期には履修者全員による進捗についての発表と相互議論を行う発表会を開催する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

主指導教官による個別指導は随時行う。

(1) 研究方法論に関する講義を随時行う。なお、学生の状況を見て本授業科目を 2 年次に履修するのに先立ち、1 年次の間にプログラムの特別講義として実施する場合もある。プログラムからの案内を確認すること。

(2) 研究計画書・研究指導計画書作成（2 年次の 4 月）

(3) 進捗報告発表会（2 年次の 7 月）

(4) 進捗報告発表会（2 年次の 11 月）

なお、最終発表会は 2 年次の 2 月に実施する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

主指導教官の個別指導による進捗、および、全体講義への出席とプレゼンテーション (pass/fail)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

なし

4-2

- ・伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会，2011年。
- ・Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks: Sage.
- ・J.W.クレスウェル、V.L.プラノクラーク著、大谷順子訳「人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン」北大路書房, 2010
- ・J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳「研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法」2007
- ・Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI4000J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策論文演習 I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

※通常は「科学技術イノベーション政策論文演習I」は修士 2 年次の春・夏学期に履修します。「演習I」で秋・冬学期開講となっているものは、休学して半期ずれているなどの特殊な場合に履修するものです。

科学技術イノベーション政策論文演習IおよびIIは、科学技術イノベーション政策プログラム（2 年制）の修士学生を対象に、修士論文やポリシー・ペーパーを執筆するための準備と、完成に向けた指導を行うことを目的としている。

科学技術イノベーション政策プログラム（2 年制）に入学した修士課程学生は、通常は、入学後 1 年を経過した 2 年次春学期に科学技術イノベーション政策論文演習Iを履修し、さらに 6 か月を経過した 2 年次秋学期に科学技術イノベーション政策論文演習IIを履修する。ただし、休学などによって個別学生の履修時期が変わることはありうる。

科学技術イノベーション政策論文演習I、IIは、主指導教官による個別指導を中心に行う。また、履修者全員を対象として研究法についての講義を開催する。さらに、各期には履修者全員による進捗についての発表と相互議論を行う発表会を開催する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

主指導教官による個別指導は随時行う。

(1) 研究方法論に関する講義を随時行う。なお、学生の状況をみて本授業科目を 2 年次に履修するのに先立ち、1 年次の間にプログラムの特別講義として実施する場合もある。プログラムからの案内を確認すること。

(2) 研究計画書・研究指導計画書作成（2 年次の 4 月）

(3) 進捗報告発表会（2 年次の 7 月）

(4) 進捗報告発表会（2 年次の 11 月）

なお、最終発表会は 2 年次の 2 月に実施する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

主指導教官の個別指導による進捗、および、全体講義への出席とプレゼンテーション（pass/fail）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

なし

4-2

- ・伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会，2011年。
- ・Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks: Sage.
- ・J.W.クレスウェル、V.L.プラノクラーク著、大谷順子訳「人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン」北大路書房, 2010
- ・J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳「研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法」2007
- ・Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI4010J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱ

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

科学技術イノベーション政策論文演習IおよびIIは、科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）の修士学生を対象に、修士論文やポリシー・ペーパーを執筆するための準備と、完成に向けた指導を行うことを目的としている。

科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）に入学した修士課程学生は、通常は、入学後1年を経過した2年次春学期に科学技術イノベーション政策論文演習Iを履修し、さらに6か月を経過した2年次秋学期に科学技術イノベーション政策論文演習IIを履修する。ただし、休学などによって個別学生の履修時期が変わることはありうる。

科学技術イノベーション政策論文演習I、IIは、主指導教官による個別指導を中心に行う。また、履修者全員を対象として研究法についての講義を開催する。さらに、各期には履修者全員による進捗についての発表と相互議論を行う発表会を開催する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

主指導教官による個別指導は随時行う。

(1) 研究方法論に関する講義を随時行う。なお、学生の状況をみて本授業科目を2年次に履修するのに先立ち、1年次の間にプログラムの特別講義として実施する場合もある。プログラムからの案内を確認すること。

(2) 研究計画書・研究指導計画書作成（2年次の4月）

(3) 進捗報告発表会（2年次の7月）

(4) 進捗報告発表会（2年次の11月）

なお、最終発表会は2年次の2月に実施する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

主指導教官の個別指導による進捗、および、全体講義への出席とプレゼンテーション（pass/fail）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

なし

4-2

- ・伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会，2011年。
- ・Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks:

Sage.

- ・ J.W.クレスウェル、V.L.プラノクラーク著、大谷順子訳「人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン」北大路書房, 2010
- ・ J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳「研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法」2007
- ・ Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI4010J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱ

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

科学技術イノベーション政策論文演習ⅠおよびⅡは、科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）の修士学生を対象に、修士論文やポリシー・ペーパーを執筆するための準備と、完成に向けた指導を行うことを目的としている。

科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）に入学した修士課程学生は、通常は、入学後1年を経過した2年次春学期に科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰを履修し、さらに6か月を経過した2年次秋学期に科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱを履修する。ただし、休学などによって個別学生の履修時期が変わることはありうる。

科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰ、Ⅱは、主指導教官による個別指導を中心に行う。また、履修者全員を対象として研究法についての講義を開催する。さらに、各期には履修者全員による進捗についての発表と相互議論を行う発表会を開催する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

主指導教官による個別指導は随時行う。

(1) 研究方法論に関する講義を随時行う。なお、学生の状況をみて本授業科目を2年次に履修するのに先立ち、1年次の間にプログラムの特別講義として実施する場合もある。プログラムからの案内を確認すること。

(2) 研究計画書・研究指導計画書作成（2年次の4月）

(3) 進捗報告発表会（2年次の7月）

(4) 進捗報告発表会（2年次の11月）

なお、最終発表会は2年次の2月に実施する。

3. 成績の評価方法/ Grading:

主指導教官の個別指導による進捗、および、全体講義への出席とプレゼンテーション（pass/fail）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

なし

4-2

- ・伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会，2011年。
- ・Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks:

Sage.

- ・ J.W.クレスウェル、V.L.プラノクラーク著、大谷順子訳「人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン」北大路書房, 2010
- ・ J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳「研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法」2007
- ・ Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6001E

科目名/Course Name: Economics of Innovation

担当教員/Instructor: INTARAKUMNERD Patarapong/INTARAKUMNERD Patarapong

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Students should have basic knowledge on microeconomics and macroeconomics before taking this course. This course will be a foundation for further studies in other subjects of science, technology and innovation policies. It focuses on economic explanation of technical change and innovation at four levels: micro (firm), meso (industrial sector, regional, and geographical cluster), national, and global.

The course comprises four modules:

-) Micro level: understanding knowledge, science, technology and innovation
-) Meso level: industrial dynamics, regional and sectoral innovation systems, and clusters
-) Macro level: the roles of national innovation systems and globalization
-) Important issues: roles of finance, universities and intellectual property right

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Class

Topic

Textbook: Chapter

1

2

3

Module A:

Introduction: what is innovation and why does it matter?

Basic concepts on economics of knowledge, S&T, and innovation Technological change and innovation in theories of firms

1/13 (Ox)

2 (Ox)/5 (HR)

16 (HR)

4

5

6

7

Module B:

Economics of industrial evolution

Systems of innovation concept

Sectoral innovation system

Regional innovation system and industrial cluster

3 (HR)

7 (Ox)/27 (HR)

14 (Ox)

11 (Ox)/8 (HR)

8

9

10

11

Module C:

National innovation system and technological catching up

Globalization and the roles of transnational corporations

Global value chain and production network

Diffusion and impacts of General Purpose Technologies

19 (Ox)/20 (HR)

12 (Ox)

20 (Ox)

17/18 (HR)

12

13

14

Module D:

Innovation Financing

universities/public research institutes and industry interaction

Intellectual property rights and innovation

9 (Ox)/14 (HR)

8 (Ox)/6 (HR)

10 (Ox)/7 (HR)

15

General discussion and conclusion

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation for the course will be based upon the following:

Master students: class participation (20%), and final examination (80%)

Ph.D. students: class participation (20%), final examination (60%), and academic report (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Fargerberg, J., Mowery, D. and Nelson, R. (eds.) (2005), Oxford Handbook of Innovation, Oxford University Press: New York, USA (Ox)

(downloadable from

https://www.academia.edu/38930379/THE_oxford_HANDBOOK_OF_INNOVATION_Edited_by)

Hall, B. and Rosenberg, N. (eds.) (2010), Handbook of the Economics of Innovation, Elsevier, Amsterdam (HR)

(downloadable at GRIPS through GRIPS's institutional paid account from

<https://www.sciencedirect.com/handbook/handbook-of-the-economics-of-innovation>)

5. 履修上の注意/Note:

Email address: patarapong@grips.ac.jp; prpu6@hotmail.com

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6061J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策概論

担当教員/Instructor: 鈴木 潤, 根井 寿規, 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之/SUZUKI Jun, NEI Hisanori, SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

国や地方の行政担当者や、大学等の研究開発機関において研究マネジメントに携わる者にとって不可欠である、科学技術イノベーション政策における基礎的な理論と、最新の政策の状況について概説する。

近年、科学技術政策はイノベーション政策と一体化して対象範囲を拡大しており、日本においても科学技術の振興や産業への応用のみならず、「Society5.0」概念の提唱にみられるような新たな社会システムの設

計と実現までを含めた政策形成が求められるようになってきている。本科目では、まず日本および海外の科学技術イノベーション政策の歴史的展開と最新動向を紹介する。また、科学政策、産業技術政策、イノベーション政策における論点とその理論について説明する。次に、デジタルイノベーション、エネルギー政策などの分野別の科学技術の動向および政策の動向について解説するとともに、科学外交・安全保障などの特徴的な課題について説明する。

受講者は、講義とディスカッションを通じて、科学技術イノベーション政策の理論と主要課題や、最新動向についての知識を得ると共に、各分野や各国・地域における政策の相違や背景について理解し、自らの関心領域や業務領域へとその知識を応用できるようになることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

イントロダクション：(科学技術イノベーション政策の科学とは何か (有本)

ディスカッション (履修学生との問題意識の共有・議論)

日本の科学技術イノベーション政策 (上山)

海外における科学技術イノベーション政策 (有本)

科学技術イノベーション政策の理論 (鈴木)

科学政策 (林)

産業・イノベーション政策（鈴木）

トランスフォーマティブ・イノベーション（飯塚、有本）

デジタルイノベーション政策（外部講師：江崎浩 東京大学教授、デジタル庁 Chief Architect）

環境・エネルギー政策（根井）

科学技術の社会的ガバナンス（外部講師：平川秀幸 大阪大学教授）

科学技術イノベーション政策と外交・安全保障（角南）

13・14・15

学生発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4 割
- ・学生発表：6 割

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1：なし

4-2：各回の参考文献については以下の通り。それ以外には各回の授業で紹介する。

第 1・4 回

「科学的助言—21 世紀の科学技術と政策形成」、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、吉川弘之、東京大学出版会、2016 年 8 月。

「研究開発の俯瞰報告書：統合版—俯瞰と潮流—」、科学技術振興機構・研究開発戦略センター・研究開発の俯瞰報告書 2021、2021 年 57 月。 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-FR-01.html>

OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2021 - Adapting to Technological and Societal Disruption, OECD, November 2021.

<https://www.oecd.org/sti/oecd-science-technology-and-innovation-outlook-25186167.htm>

第 5 回

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 著、「公共政策学の基礎」、有斐閣ブックス、2010 年

第 6 回

Simons, Kuhlman, Stamm, Canzler (2019), Handbook of Science and Public Policy, Edward Elgar.
マイケル・ギボンズ(1997)『現代社会と知の創造—モード論とは何か』丸善

第 7 回

後藤晃、小田切宏之、「日本の産業システム-3 :サイエンス型産業」、NTT 出版、2003 年
薬師寺泰蔵、「テクノヘゲモニー」、中公新書、1989 年

第 8 回

「STI for SDGs の具現化に向けて-国連決議から 4 年、新しいステージへ」、中村・有本・今林
著、科学技術振興機構・SDGs 室監修、2019 年 11 月。
https://www.jst.go.jp/sdgs/pdf/sti_for_sdgs_report_nov_2019.pdf

Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019, July 2019, The United Nations.
https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR_report_2019.pdf

Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals, July 2018, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA). http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15347/1/TWI2050_Report081118-web-new.pdf

The Digital Revolution and Sustainable Development: Opportunities and Challenges, July 2019, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA). <http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15913/1/TWI2050-for-web.pdf>.

飯塚倫子 (2019) 「ネオ・シュンペタリアンとイノベーション」第 8 章、岡本哲史・

小池洋一編『経済学のパラレルワールド：異端派総合アプローチ』新評論：p g 275-302

Schot, J., Steinmeuller, E., (2018) Three frames for innovation policy: R&D, systems of innovation and

transformative change, Research Policy, 47 (2018) 15541567.

第 9 回

江崎 浩『サイバーファースト 増補改訂版 インターネット遺伝子が創るデジタルとリアルの逆転経済』インプレス R&D、2019 年.

第 10 回

World Energy Outlook 2022, IEA

Energy Technology Perspective 2023, IEA

5. 履修上の注意/Note:

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6071J

科目名/Course Name: 公的機関からのイノベーション創出

担当教員/Instructor: 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之/SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

大学や公的研究機関（研究開発法人や地方公設試験所など）などの公的資金によって生み出された科学技術成果をいかに事業化・商業化へ結びつけ、イノベーションを実現し、経済社会的な成果を生み出していくかは、科学技術イノベーション政策の立案・実施や、大学・研究機関における戦略策定・研究マネジメントの実施において重要な課題である。近年、オープンイノベーションによる企業と公的機関との連携、組織対組織の連携による研究計画立案段階からの連携の増加、公的機関からのベンチャー創出や新産業創出への期待など、イノベーションへとつながる事業化支援の必要性がさらに増しているとともに、科学技術イノベーションを通じた社会的課題解決の点からのソーシャルアントレプレナーの必要性も指摘されている。

本科目では、産学連携や成果の橋渡し支援を通じた公的機関における事業化の支援方策、アントレプレナー人材の育成、技術シーズのインキュベーションの方策、VC やアクセラレータの機能と育成方策、組織間の包括協定による連携、社会実験を含めた地域振興や社会課題解決に結びついた支援方策、ソーシャルアントレプレナーの育成、イノベーションの普及方策などについて理論的整理を含む講義と、業務を実際に担当している実務者による事例の説明、ならびにインテンシブな議論を行う。これらを通じて、受講者は事業化の理論と実例についての知識を得るとともに、自らの立場において事業化やその支援を行う方法を検討することができるようになることが期待される。また、実際に事業化のためのビジネスモデル開発実習を行い、自らが事業化（あるいは支援ビジネスの開発）を体験する。これにより、ビジネスサイクルの理解をいっそう深めることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1・2 シーズ形成と移転（隅藏、山本貴史（株式会社東京大学 TLO 代表取締役）、大西晋嗣（九州大学 学術研究・産学官連携本部 知財・ベンチャー創出グループ グループリーダー））

5・6 起業促進（隅藏、山口泰久（FFG ベンチャービジネスパートナーズ 取締役副代表）、原田謙治（株メディカルインキュベータージャパン 取締役））

14・15 ライフサイエンスからのイノベーション（隅藏、菱山豊（文部科学省科学技術・学術政策研究所 所長））

7・8 公的機関によるイノベーション創出の組織的取組（林、出口 敦（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授））

9・10 地域イノベーション（隅藏、福嶋 路（東北大学大学院 教授）、野澤一博（流通経済大学 教授））

11・12・13 ビジネスモデル開発実習（隅藏、今津美樹（WinDos 代表取締役））

3・4 ソーシャルイノベーション（飯塚、中村 俊裕（コペルニク共同創設者兼 CEO））

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4割
- ・学生発表あるいはレポート：6割

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1:なし

4-2:

海老原城一, 中村彰二郎(2019)『SmartCity 5.0 地方創生を加速する都市 OS』インプレス

今津美樹(2014)『図解ビジネスモデル・ジェネレーション ワークショップ』翔泳社

Alexander Osterwalder, Yves Pigneur(2010), Business Model Generation: A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers, Wiley

Alexander Osterwalder, et al. (2014), Value Proposition Design: How to Create Products and Services Customers Want, Wiley

5. 履修上の注意/Note:

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6081J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策立案演習

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

※本授業は、七丈直弘・一橋大学商学部教授（本学客員教授）、林、および外部講師により行います。

科学技術イノベーション政策を、エビデンスを踏まえていかに形成し、その効果をいかに測定できるだろうか。科学技術イノベーション政策は、他の政策領域とは異なり、科学技術成果が効果を生むまでに長期かかるとともに、失敗のリスクを許容する必要があることや、想定外の効果が生じる可能性があること、研究人材の育成など環境・基盤の形成が重要であることなど、立案や評価に難しさが存在している。さらに、イノベーション政策との一体化することにより、いかに将来の社会像を構想あるいはトレンドを分析し、それを実現する方策へと展開させていくかも課題である。

本科目では、まず政策形成手法としてフォーサイトにおける各種手法（ホライズンスキャン法、シナリオ分析法、バックキャスト法等）を用いたビジョン形成と具体的な政策への落とし込みの方法について解説する。また、評価においては、ロジックモデルを用いたセオリー評価、政策導入の意思決定のための代替案との比較方法であるインパクトアセスメント、多様なインパクトを踏まえた政策効果の分析（インパクト評価）について説明する。受講者は自身の関心領域において、政策の形成と評価作業を行うことができるようになることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. 政策立案・評価手法概論（林、七丈）
- 2～4 フォーサイトの理論と演習 1（七丈、外部講師）
- 5～10 フォーサイトの理論と演習 2（七丈、外部講師）
- 11～15 評価の理論と演習（林、外部講師）

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4割
- ・学生発表：6割

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1：なし

4-2：

『一橋ビジネスレビュー』2019年 AUT（67巻2号）特集：未来洞察と経営

Shapira, P. and S. Kuhlmann eds. (2003), Learning From Science And Technology Policy

Evaluation: Experiences from the United States and Europe, Edward Elgar.

Link, N. and N.S. Vonortas eds.(2013), Handbook On The Theory And Practice Of Program Evaluation, Edward Elgar.

ロッシ、リプセイ、フリーマン(2004:大島他訳(2005)) 『プログラム評価の理論と方法』日本評論社

5. 履修上の注意/Note:

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6091E

科目名/Course Name: Politics of Innovation

担当教員/Instructor: BRUMMER Matthew/BRUMMER Matthew

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

How do politics affect science, technology, and innovation? How do science, technology, and innovation affect politics?

This course aims to provide students with an introduction to essential concepts and terms of art for the study of the relationship between politics on the one hand and science, technology, and innovation (STI) on the other. The course explores the role of both international political and domestic political theory in the study of STI. The course seeks to communicate the character of politics from diverse perspectives, with an emphasis on relating theory to questions of public concern and policies in practice. Thus, the course is both macro-theory and micro-policy focused.

The course will draw on core texts in both political science and STI to provide students with a firm grounding from which to think about a range of critical issues in at the nexus of politics and STI. By the end of the course, students will: have developed a broad understanding of the relationship between politics and STI; be able to assess and apply different theories to specific issues related to STI; be able to identify and develop their own inquiries into the core debates in both politics and STI; have developed communication and academic skills needed to undertake social science research.

The course requires students to be committed to learning and to come prepared to class, having read the assigned texts in advance. The course will be taught over 15 classes and students are expected to attend all classes. Each class will be divided into a lecture and a seminar. The course instructor will lead the lecture at the beginning of each class, after which we will turn to a seminar-based discussion where students will present and discuss the assigned reading for that day.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

The detailed course outline will be presented on the first day of class. The course is divided 3 phases. In the first phase, we will examine the core theories of International Relations, including Realism, Liberalism, and Constructivism, and their treatment of STI. In the second phase, we examine core theories of domestic politics, and their treatment of STI. In the third phase, we will apply theory to current affairs in STI.

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Students will be assessed on the following three components:

Participation (20%). Each student will present on several of the weekly reading assignments during the semester,

after which they will lead an open discussion. Additionally, attendance will be taken and will be factored into ones final participation grade.

Presentations (20%). Students are required to present the results of their final term papers. Each will be 30 minutes, consisting of: 15 minutes presentation and 15 minutes Q&A.

Final Term Paper (60%). Students will write a final term paper on a topic of their choosing and in consultation with the course instructor. Papers will be between 5,000 and 8,000 words. Details of the final term paper will be discussed in class.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

There are no required textbooks for this course. The instructor will provide all reading materials.

5. 履修上の注意/Note:

Extra credit can be earned by publishing in newspapers, magazines, or journals on a topic related to the politics of science, technology, and innovation.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6101J

科目名/Course Name: イノベーションと経済学(火、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 鈴木 潤/SUZUKI Jun

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

イノベーションと経済学は、従来切っても切れない関係にある。現代の主流派経済学においてイノベーションは、主として生産関数の外生的係数として扱われてきた。しかし、それ以外にも内生的成長理論におけるドライビングフォースの一つとしての科学研究や R&D 投資であったり、制度派経済学における投資インセンティブを強化するための知識ストック保護であったり、シュンペータ仮説やイノベーション・システム研究における産業構造変化の要因など、様々な視角が存在している。本講義では、イノベーションや技術進歩を支援するための様々なイノベーション政策と、経済学および経営学の接点に関するいくつかの重要な視点から、イノベーション研究の意義や成果、政策科学のツールとしての経済学との関係などに関する解説を行う。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- 1 導入：経済学はイノベーションをどう扱ってきたか
- 2 競争とイノベーション、シュンペータ仮説
- 3 政府の R&D 補助金と優遇税制
- 4 組織能力とイノベーション
- 5 政府調達・国有企業
- 6 科学研究と経済学
- 7 公的研究機関
- 8 大学とイノベーション
- 9 クラスタ政策
- 10 中小企業支援
- 11 ベンチャー・スタートアップ支援
- 12 知的財産権保護・標準化とイノベーション
- 13 規制・競争政策とイノベーション
- 14 コンテストとアワード
- 15 ラップアップ

3. 成績の評価方法/ Grading:

- ・授業への出席とディスカッションへの参加：70%
- ・リーディング・アサインメントの要約と報告：30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 岡田洋祐、2019 年、イノベーションと技術変化の経済学、日本評論社

4-2 鈴木・安田・後藤編著、2021年、変貌する日本のイノベーション・システム、有斐閣

以下に示すのは、各週のトピックスに関する研究論文のリストである（リストは更新・追加する場合があります）。これらの中から受講生にリーディングをアサインする。

Robert J. Gordon, 2012, Is U.S. Economic Growth Over? Faltering Innovation Confronts the Six Headwinds, NBER Working Paper W18315, <http://www.nber.org/papers/w18315>

David Audretsch and Maksim Belitski, 2020, The role of R&D and knowledge spillovers in innovation and productivity, *European Economic Review*, Volume 123

Adam Jaffe and Trinh Le, 2015, The Impact of R&D Subsidy on Innovation: A Study of New Zealand Firms, NBER Working Paper, W21479, <http://www.nber.org/papers/w21479>

Wesley Cohen and Daniel Levinthal, 1990, Absorptive Capacity: A New Perspective on Learning and Innovation, *Administrative Science Quarterly*, Vol. 35, No. 1, Special Issue: Technology, Organizations, and Innovation, pp. 128-152

Dirk Czarnitzki, Paul Hunermund, and Nima Moshgbar, 2018, Public Procurement as Policy Instrument for Innovation, ZEW Discussion Paper No. 18-001, <http://ftp.zew.de/pub/zew-docs/dp/dp18001.pdf>

Pierre Azoulay, Joshua Zivin and Gustavo Manso, 2011, Incentives and creativity: evidence from the academic life sciences, *RAND Journal of Economics*, Vol. 42, No. 3, pp. 527-554

Mazzoleni, R and Nelson, R. 2007, Public research institutions and economic catch-up, *Research Policy*, Volume 36, Issue 10, Pages 1512-1528, <https://doi.org/10.1016/j.respol.2007.06.007>.

Ajay Agrawal and Rebecca Henderson, 2002, Putting Patents in Context: Exploring Knowledge Transfer from MIT, *Management Science*, Vol. 48, No. 1, Special Issue on University Entrepreneurship and Technology Transfer, pp. 44-60

Nishimura and Okamuro, 2011, Subsidy and Networking: The effects of direct and indirect support programs of the cluster policy, *Research Policy* 40, pp. 714-727

Block and Keller, 2009, Where Do Innovations Come From?, Working Papers in Technology Governance and Economic Dynamics no. 35, <http://technologygovernance.eu/files/main/2011051801183232.pdf>

D.M. Hechavarria, A. Ingram, A review of the entrepreneurial ecosystem and the entrepreneurial society in the United States: An exploration with the global entrepreneurship monitor dataset, *Journal of Business and Entrepreneurship*, 26 (1) (2014), pp. 1-37

Bronwyn Hall, 2020, Patents Innovation and Development, NBER Working Paper W27203, <http://www.nber.org/papers/w27203>

Joseph A. Clougherty (2010) Competition Policy Trends and Economic Growth: Cross-National Empirical Evidence, *International Journal of the Economics of Business*, 17:1, 111-127, DOI: 10.1080/13571510903516995

Tom Nicholas, 2013, Hybrid Innovation in Meiji, Japan, *International Economic Review*, Vol. 54, No. 2, pp. 575-600. <https://www.jstor.org/stable/24517179>

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI6111J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策のためのミクロ経済学

担当教員/Instructor: 長根 裕美/NAGANE Hiromi

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

ミクロ経済学の未習者を念頭に、標準的なミクロ経済学のテキストに基づきつつ、エッセンスを講義する。経済学は消費者や生産者の行動メカニズムを解き明かし、その結果どのような社会状態に至るのか、またその場合どのような政策を用いれば社会状態を改善できるか、を分析するための強力なツールである。政策立案・評価やビジネスを理解するためにも、ミクロ経済学の基礎知識は必須である。

本講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を身につけることを目的とし、自ら経済現象を論理的に理解し、経済学の分析ツールでもって分析ができるようになることを到達目標とする。基本的にミクロ経済学未習者を対象として構成するため、特別な知識はいらない。必要に応じて、参考書などを紹介してフォローする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- ① 経済学とは何か？
- ② 経済モデル
- ③ 供給と需要
- ④ 規制の導入
- ⑤ 価格変化の影響を測る～弾力性
- ⑥ 個人と市場～税のケース
- ⑦ 消費者余剰と生産者余剰
- ⑧ 意思決定
- ⑨ 合理的な消費者
- ⑩ 消費者の選好と消費選択
- ⑪ 供給曲線の裏側：投入物と費用

⑫ 完全競争と供給曲線

⑬ 独占

⑭ 外部性

⑮ まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

期末試験 100%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 クルーグマン ミクロ経済学 (第2版) 東洋経済新報社

出版社: 東洋経済新報社; 第2版 (2017/3/29)

ISBN-10: 4492314822

ISBN-13: 978-4492314821

4-2

Microeconomics

Paul Krugman, Robin Wells, Worth Publishers

(上記テキストの原典)

Microeconomics 8th edition

Robert Pindyck, Daniel Rubinfeld, Pearson (MBA向けミクロ経済学のテキスト)

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7031J

科目名/Course Name: ビブリオメトリクスとその応用(金、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

科学技術政策の推進や評価のためにはエビデンスに基づいた分析が求められる。分析の中でも、論文や特許などの情報を対象にして科学技術活動やその成果を分析する方法が、ビブリオメトリクス（計量書誌学）またはサイエントメトリクス（科学計量学）と呼ばれる方法である。1960年代以降、分析のためのデータインフラが形成されるとともに、様々な分析手法が開発されてきた。さらに近年はウェブサイトやSNSにおける情報を含めた新たな指標や分析方法も開発されている。これらは、国の科学技術の生産性の分析、大学や研究機関の特徴把握や評価、研究の最前線のテーマの理解、産学連携の測定などに使用されている。本コースでは、学生はビブリオメトリクスの知識とスキルを習得し、自ら論文・特許のデータを用いた分析を行えるようになることが期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. はじめに：ビブリオメトリクスの歴史と概要
2. 論文データベースの使用方法
3. 科学研究の生産性の分析（1）：基礎的な指標と国の比較
4. 科学研究の生産性の分析（2）：大学の分析
5. 学生によるプレゼンテーション（1）
6. 引用分析
7. 書誌結合、共引用、科学の地図
8. 語の分析、共語分析
9. 共著分析
10. 研究資金と研究成果の関係の分析：謝辞
11. 人文・社会科学の分析
12. オルトメトリクス(SNS等を対象とする分析)、学際性の分析
- 13.特許の分析とサイエンスリンケージ（1）（外部講師：文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官）
- 14.特許の分析とサイエンスリンケージ（2）（外部講師：文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官）
- 15.学生によるプレゼンテーション（2）

3. 成績の評価方法/ Grading:

中間プレゼンテーションとレポート（50%）、最終プレゼンテーションとレポート（50%）

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 必須文献

なし

4-2 参考文献

藤垣裕子, 平川秀幸, 富沢宏之, 調麻佐志, 林隆之, 牧野淳一郎, 2004. 研究評価・科学論のための科学計量学入門, 丸善.

Glanzel, W. Moed, H.F., Schmoch, U., Thelwall, M. (eds.), 2019. Springer Handbook of Science and Technology Indicators. Springer.

Okubo, Y. 1997, Bibliometric Indicators and Analysis of Research Systems: Methods and Examples, OECD Science, Technology and Industry Working Papers, 1997/01, OECD Publishing, Paris.

Moed, H.F., Glanzel, W., Schmoch U., 2004. Handbook of Quantitative Science and Technology Research: The Use of Publication and Patent. Kluwer Academic Publishers.

Andres, A., 2009. Measuring Academic Research: How to Undertake a Bibliometric Study. Elsevier Science. Chandos Publishing.

Cronin, B., Sugimoto, C.R. (eds.), 2014. Beyond Bibliometrics: Harnessing Multidimensional Indicators of Scholarly Impact, The MIT Press.

5. 履修上の注意/Note:

各自のパソコンが必要。エクセルは必須。

できれば Windows が望ましいが、Mac でも可。Mac では授業にて紹介する一部のフリーソフトウェアが動かない場合があるが、代替的な分析方法も紹介する。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7061E

科目名/Course Name: Policy for Higher Education and University-Industry Cooperation(水、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Academic or scientific research in universities and public research institutions (PRIs) can be a source of innovation in industry if properly managed. In order to promote science-driven innovation, an intermediate organization to link academic research with industrial development of novel products and services is required. This lecture reviews how a policy for promotion of university-industry cooperation was designed in Japan and other countries, by indicating concrete successful or failure cases.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. Introduction: types of university-industry cooperation
2. Science and Technology Basic Law in Japan
3. Incorporatization of national universities in Japan
4. Higher education in Japan
5. University-Industry cooperation in Japan
6. Cases of technology transfer from university to industry
7. Bayh-Dole Act
8. Intellectual Property Basic Act; Strategic Program for the Creation, Protection and Exploitation of Intellectual Property
9. Function of academic knowledge in innovation
10. Guest Lecture: Issues on higher education in Japan. (Associate Professor Miho Funamori, National Institute of Informatics)
11. Guest Lecture: Issues on higher education in Japan. (Associate Professor Miho Funamori, National Institute of Informatics)
12. Japanese Science and Technology Indicators
13. Presentation and discussion (1)
14. Presentation and discussion (2)
15. Conclusion

3. 成績の評価方法/ Grading:

The following points will be evaluated.

- Participation in discussion in classes
- Presentation & Submission of presentation materials

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Hand-outs and materials will be distributed in the class.

Reference:

Japan Patent Office & Asia-Pacific Industrial Property Center (APIC), Japan Institute for Promoting Invention and Innovation (2016) Intellectual Property Management at Japanese Universities
https://www.jpo.go.jp/torikumi_e/kokusai_e/training/textbook/pdf/64_Intellectual_Property.pdf#view=fit&toolbar=1&navpanes=0

5. 履修上の注意/Note:

Each student has to make at least two presentations in the class.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7071J

科目名/Course Name: 科学技術外交論

担当教員/Instructor: 廣木 謙三/HIROKI Kenzo

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

まず科学技術外交の定義、機能、形成過程などに関する包括的な知識を習得する。そのうえで、科学技術外交の実務や研究に関して第一線で活躍する外部講師を多数招き、講義とディスカッションをオムニバス形式で行うことで科学技術外交の実際面に触れ、受講者の国際政策感覚と実務知識を深める。また、科学技術外交と国家政策・現場実務の繋がりや政策間の相互作用（科学技術外交に国家政策・現場実務がどう影響され、その逆に現場の政策要請を科学技術外交というツールを用いて国家政策に反映していくか等）などについて、SDG s の重点分野でもある水、災害分野などを具体例として理解と議論を深める。この過程で科学技術政策の形成や実施に関する実務的ノウハウを共有する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

初回授業にて通知。

3. 成績の評価方法/ Grading:

初回授業にて通知。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The 2030 Agenda for Sustainable Development:

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/21252030%20Agenda%20for%20Sustainable%20Development%20web.pdf>

4-2

UN Convention on the Law of the Non-navigational Uses of International Watercourses:

http://legal.un.org/ilc/texts/instruments/english/conventions/8_3_1997.pdf

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7081E

科目名/Course Name: Comparative Analysis of Science, Technology and Innovation Policy: Asian Experiences

担当教員/Instructor: INTARAKUMNERD Patarapong/INTARAKUMNERD Patarapong

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course is a combination of lectures and seminars. The instructor will provide lectures on theoretical and fundamental knowledge of science, technology and innovation (STI) policies. Based on such knowledge, seminars will be held to discuss STI policy experiences of several groups of countries classified by level of economic development and technological catching up.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week

- 1: Introduction: From S&T Policy to STI Policy (Lecture)
- 2: STI policy: Framework and Policy Instruments (Lecture)
- 3: Experiences of Large Developed country: USA (Seminar)
- 4: Experiences of Large Developed Country: Germany (Seminar)
- 5: Experiences of Small Developed Countries: Scandinavian Countries (Seminar)
- 6: Experiences of the First Industrialized Country in Asia: Japan (Seminar)
- 7: Experiences of Small Industrialized Country: Israel (Seminar)
- 8: Experiences of Newly Industrialized Country: Korea (Seminar)
- 9: Experiences of Newly Industrialized Country: Taiwan (Seminar)
- 10: Experiences of Newly Industrialized Country: Singapore (Seminar)
- 11: Experiences of Emerging Asian Super Power: China (Seminar)
- 12: Experiences of Emerging Asian Super Power: India (Seminar)
- 13: Experiences of Second-tier Newly Industrializing Economies: Malaysia and Thailand (Seminar)
- 14: Comparing innovation policies across countries: what have we learnt so far (Seminar)
- 15: STI Policies in the 21st century (Lecture)

3. 成績の評価方法/ Grading:

Evaluation for the course will be based upon term papers (60%), presentations (30%) and seminar participation (10%).

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

(electronics files will be given to students on the first week of the class)

Week

- 1: Introduction: From S&T Policy to STI Policy

Lundvall, B. and Borrás, S. (2005). 'Chapter 22: Science, Technology and Innovation Policy', in Fagerberg, J., Mowery, D. and Nelson, R. (eds.), *Oxford Handbook of Innovation*, Oxford University Press: New York, USA, 599-631.

Woolthuis, R. K. et al., 2005. 'A system failure framework for innovation policy design', *Technovation*, 25 (5): 609-619.

2: STI policy: framework and policy instruments

Lall, S. and Morris, T. (1998). "Market-stimulating" technology policies in developing countries: A framework with examples from East Asia,' *World Development* 26 (8), 1369-1385

Edquist, C. and Chaminade, C. (2006). *Industrial Policy from a systems-of-innovation perspective*, No. 5/2006, EIB series papers, Economics Department, European Investment Bank.

3: Experiences of Large Developed country: USA

Mowery, D. and Rosenberg (1993), 'the US Innovation System', in Nelson, R. (ed.), *National Systems of Innovation: A Comparative Study*, Oxford: Oxford University Press 29-75.

Mazzucato, M. (2013). *The Entrepreneurial State: Debunking Public vs. Private Sector Myths*, Chapter 4-5, London and New York: Anthem Press

4: Experiences of Large Developed Country: Germany

Meyer-Krahmer, F. (2001), 'The German Innovation System,' in Laredo, P. and Mustar, P., *Research and Innovation Policies in the New Global Economy*, Edward Elgar: Cheltenham, UK, 15-46

Eickelpasch, A. and Fritsch, M. (2005) *Contests for cooperation--A new approach in German innovation policy*, *Research Policy*, Elsevier, vol. 34(8), pages 1269-1282, October

5: Experiences of Small Developed Countries: Scandinavian Countries

Ormala, E/ (2001), 'Science, Technology and Innovation Policy in Finland' in Laredo, P. and Mustar, P., *Research and Innovation Policies in the New Global Economy*, Edward Elgar: Cheltenham, UK, 325-358

Edquist, C. and Lundvall, B.A. (1993), 'Comparing Swedish and Danish Systems of Innovation, in Nelson, R. (ed.), *National Systems of Innovation: A Comparative Study*, Oxford: Oxford University Press 265-298.

6: Experiences of the First Industrialized Country in Asia: Japan

Goto, A. and Odagiri, H. (1996), *Technology and Industrial Development in Japan: Building Capabilities by Learning*,

Innovation and Public Policy, chapter 2-3, Oxford University Press: Oxford, 17-63.

Odagiri, H. (2006), 'Advance of Science-based industries and the changing innovation system in Japan,' in Lundvall, B., Intarakumnerd, P., Vang, J. (eds) (2006), *Asian Innovation Systems in Transition*, Cheltenham, UK and Northampton, USA: Edward Elgar, 200-226.

7: Experiences of Small Industrialized Country: Israel

Getz, D. and Segal, V. (2008), 'The Israeli innovation system: An overview of national policy and cultural aspects', A Report prepared by Samuel Neman Institute for Public Policy Research.

Avnimelech, G. and Teubal, M. (2006) Creating venture capital industries that co-evolve with high tech: Insights from an extended industry life cycle perspective of the Israeli experience, *Research Policy* 35 (2006) 1477-1498

8: Experiences of Newly Industrialized Country: Korea

Kim L., (1999), 'Building Technological Capability for Industrialization: Analytical Frameworks and Korea's Experience,' *Industrial and Corporate Change*, 8(1):111-136.

Hwang, H-R., and Choung J-Y. (2013), 'Towards and Innovation Policy in the Post Catch-up Era,' *Asian Journal of Innovation and Policy*, 2(1): 1-19.

9: Experiences of Newly Industrialized Country: Taiwan

Lauridsen, L. (2008), 'Industrial Upgrading: Industrial Technology Policy in Taiwan', in Lauridsen, L. (2008), *State, Institutions and Industrial Development: Industrial Deepening and Upgrading Policies in Taiwan and Thailand Compared*, Shaker Verlag: Aachen, 442-513.

Mathews, J. (2002), 'The origins and dynamics of Taiwan's R&D consortia' *Research Policy*, 31(4), 633-651

10: Experiences of Newly Industrialized Countries: Singapore

Wong, P. and Anneth, S. (2011) 'OECD Review of Innovation in South-East Asia: Country Profile: Singapore'. Paris: OECD

Yeung, H. (2006), 'Innovating for Global Competition: Singapore's Pathway to High-tech Development', in Lundvall, B., Intarakumnerd, P., Vang, J. (eds) (2006), *Asian Innovation Systems in Transition*, Cheltenham, UK and Northampton, USA: Edward Elgar, 178-199

11: Experiences of Emerging Asian Super Power: China

Feng-chao Liu, Denis Fred Simon, Yu-tao Sun, Cong Cao, (2011), 'Chinas innovation policies: Evolution, institutional structure, and trajectory' *Research Policy*, 40 (7): 917-931

Chu, W. (2011), 'How the Chinese Government Promoted Global Automobile Industry,' *Industrial and Corporate Change*, 20 (5), 1-42

12: Experiences of Emerging Asian Super Power: India

Athreye S. (2005), 'The Indian software industry and its evolving service capability' *Industrial and Corporate Change*, 14(3): 393-418

Athreye,S, Kale, D., Ramani, S. (2009), 'Experimentation with strategy and the evolution of dynamic capability in the Indian pharmaceutical sector,' *Industrial and Corporate Change*, 18(4): 729-759

13: Experiences of Second-tier Newly Industrializing Economies: Malaysia and Thailand

Rasiah, Rajah (2006), 'Explaining Malaysia's Export Expansion in Palm Oil and Related Products,' in V. Chandra (ed.) *Technology, Adaptation, and Exports — How Some Developing Countries Got It Right*, World Bank, Washington DC.

Intarakumnerd, P. (2015). 'Seven Unproductive Habits of Thailand's Ineffective Technology and Innovation Policies: Lessons for other Developing Countries,' *Institutions and Economies*, 7 (1), April 2015, pp. 80-95.

14: No reading materials

15: STI Policies in the 21st century

Maria Abreu, Vadim Grinevich, Michael Kitson & Maria Savona (2010), 'Policies to enhance the 'hidden innovation' in services: evidence and lessons from the UK', *The Service Industries Journal*, 30:1, 99-118

Todtling, F. and Trippel, M (2005), 'One size fits all?: Towards a differentiated regional innovation policy approach', *Research Policy*, 34(8), 1203-1219

5. 履修上の注意/Note:

Email address: patarapong@grips.ac.jp; prpu6@hotmail.com

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7161E

科目名/Course Name: Outline of Energy Policy

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy is essential for living standard in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

In this course, I will explain most factors for planning and enforcement of energy policy.

During the first half, I will explain main objectives of energy policy, supply & demand figures, and changes of global circumstances which affect determinations of appropriate energy mix. At the same time, policy mix will be introduced including regulation, fiscal support, institutional innovation and R&D.

In the latter half, I will explain each area of interest in more detail and would like to discuss recent energy issues we face based on your first term papers.

Main target of this course is to understand every contents written in the World Energy Outlook published by IEA.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1-1: Introduction

Main objectives of Energy Policy, Global Supply & Demand Figure, Historical View of Energy Policy etc.

Week 1-2: Policy Framework

Major Policy measurements of Energy Policy, Situations of Major Energy Consuming Countries etc.

Week2-1: Oil Policy

Structure of Crude Oil Market, Policy for Securing Supply of Oil, Changes of Oil Industry etc.

Week2-2: Climate Policy and Energy

History of Climate Policy, Issues to be solved, Latest discussion at COP, outline of Renewable Energy Policy etc.

Week3-1: Nuclear Policy

Nuclear Development before the FUKUSHIMA accident and Policy Framework

Week3-2: Electricity Policy

History of Deregulation, Power Market Reform etc.

Week 4-1: Energy Technology Policy

History of Energy Technology Policy, Road to get Net Zero Emission System etc.

Week4-2: Intermediate Review

Remained Issues such as Natural Gas Market and Industry, Coal Market etc.

First Term Paper should be submitted by Tuesday of the next week.

Week5-1: Renewable Energy & Energy Conservation Policy

History, Comparison between FIT & RPS, Policy Sets for Energy Conservation etc.

Week5-2: Fukushima Accident and Nuclear Safety Policy

Discussion about the main cause of the accident and the affections over all energy policy not only in Japan but also in the world.

Week 6-1 Middle East & Russia, Resource Development Policy

Discussion about geopolitical aspect and longterm energy security issues etc.

Week 6-2: Energy Policy in Japan

History after WWII, Structure of Energy Policy in Japan, Major differences of policy measures to other countries etc.

Week 7-1: Energy Security

General background of energy security including short term security management policy etc.

Week 7-2: Energy Data Modeling

Introduction of Energy Data Modeling, How to develop Scenarios for Future Outlook etc

Week 8-1: Energy Policy for the Future

Discussion of Energy Policy for the Future

Second Term Paper will be submitted by Tuesday of the next week.

※ Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students etc.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Papers 30% ×2, Attendance of the Class 20%, Participation and Discussion at the Class 20%

Term Papers are composed of about 1000words per each.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1

World Energy Outlook 2022 International Energy Agency

(You can download by free through the URL of IEA: <https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2022>)

4-2

①The Quest Daniel Yergin, 2011

②The Commanding Heights Daniel Yergin, et. 1999

③Strategic Energy Plan of Japan 6th Edition

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/pdf/strategic_energy_plan.pdf

④White Paper of Energy in Japan 2022 (Japanese)

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022/pdf/>

⑤History of Policy by Ministry of International Trade and Industry(MITI)-Energy Policy(Japanese)

About ④⑤、important contents of these will be provided in class materials in English.

5. 履修上の注意/Note:

This class is mandatory one for the students who take the class of Energy Data Analysis in the Fall II semester.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7171E

科目名/Course Name: Energy and Environmental Science&Technology

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy is essential for living standard in the modern economy. Energy policy should take balance between energy security, economy and environmental concern for deploying variable energy resources.

Energy and Environmental technology innovation is central to meeting climate mitigation goals together with supporting economic and energy security objectives simultaneously.

This course is developed jointly with the Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ). It also provides lectures in various energy technologies by the experts of relevant research institutes such as JST, JAEA, JOGMEC, NEDO .

Based on the lectures, we will teach the way to create a sort of appropriate technology development plan to meet the goal of energy and environmental policy.

Major objective of the course is to understand the contents of relevant reports related with energy transition such as Energy Technology Perspective by International Energy Agency.

This course is also related with the course Energy Policy in Japan.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1: Introduction (Nei & Shibata)

Basic framework of energy policy (3E) and relationship between energy policy and technology development.

Week 2: Energy and Environmental Technologies (Nei & Shibata)

Basic framework of energy and environmental technology development including brief introduction of listed major technologies.

Week 3: Energy and Environmental Technology Development Policy in Japan (Nei)

Major Technology Development Plan and Project after Oil Crisis in Japan

Week 4:Energy Technology Policy for Fossil Fuel (Nei)

Major Technologies to develop Net Zero Emission in the field of Fossil Fuel deployment.

Week 5: Nuclear Reactor Technologies

An expert of JAEA (Japan Atomic Energy Agency) will explain the topic.

Week 6: Energy Innovation derived by Science & Technology with related STI policy measures

An expert of JST (Japan Science and Technology Agency) will explain the topic.

Week 7: International Activities and Intermediate Review (Shibata)

Major energy and environmental technology development plan in the world and latest movement under the energy transition.

Term Paper should be submitted by the next Tuesday.

Week 8: Resource Development Technology mainly in the Field of Oil & Gas

An Expert of JOGMEC (Energy and Metals National Corporation) will explain the topics.

Week 9: Energy Conservation Technology

An Expert of NEDO (New Energy and Industrial Technology Development Organization) will explain the topics.

Week 10: Renewable Energy Technology

An Expert of NEDO (New Energy and Industrial Technology Development Organization) will explain the topics.

Week 11: Radioactive Waste Management and Back End Fuel Cycle Technology

An expert of JAEA (Japan Atomic Energy Agency) (TBD) will explain the topic.

Week 12: Energy Technology related with DER, Smart Meter

Prof. Ishii of Waseda Univ. will explain the topic.

Week 13: Future Prospect of Energy and Environmental Science and Technology (Shibata)

Main objectives of existing development plan and trend of major activities

Week 14: Field trip to JOGMEC TRC at Chiba City (Nei,Shibata)

Site visit at JOGMEC Technology Research Center to learn more about technology for natural resource development including CCS , carbon recycling and Hydrogen.

The field trip is arranged together with the class of Energy Policy in Japan.

Week 15: Discussion

Second term paper should be submitted by the next Tuesday.

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Papers (Twice) 30% for each, Attendance and Participation of the Discussion 20% for each

Term Papers are composed of about 1000words per each.

Students who take the class of Energy Policy in Japan can submit a combined term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

①Energy Technology Perspectives 2023, 2020 IEA

<https://www.iea.org/reports/energy-technology-perspectives-2023>

<https://www.iea.org/reports/energy-technology-perspectives-2020>

②The Quadrennial Technology Review, DOE

<http://energy.gov/quadrennial-technology-review-2015>

③New Low Carbon Technology Plan, Council for Science and Technology Policy, Japan

http://www8.cao.go.jp/cstp/english/doc/new_low_carbon_tec_plan/index.html

④World Energy Outlook 2022, IEA

⑤NESTI 2050 GOJ, Cabinet Office,2016

https://www8.cao.go.jp/cstp/nesti/honbun_e.pdf

⑥6th Strategic Energy Plan, GOJ , METI 2021

https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf

5. 履修上の注意/Note:

The students who get the credit of this class are eligible to take the class Energy Data Analysis class in the Fall II semester.

Students are highly recommended to take the class Energy Policy in Japan together because we cannot provide information about

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7180E

科目名/Course Name: Advanced Energy Policy

担当教員/Instructor: 根井 寿規, 坂本 敏幸/NEI Hisanori and SAKAMOTO Toshiyuki

学期名/Term: 春後期/Spring (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course will support Ph.D. students to conduct energy policy related research .

The course is developed together with Prof. Toshiyuki SAKAMOTO, Managing Director, The Institute of Energy Economics, Japan, Professor of GRIPS.

We will select relevant issues for students to discuss.

The contents of the class is mainly for to meet with preparational works by students for their QE.

Following outline shows just examples.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1-1 Introduction (Nei)

Outline of the course, issues to be discussed about energy policy etc..

A few topics will be introduced as case studies.

We ask students about their interests.

Week 1-2 Oil Security (Nei)

At the time of Oil Crisis in 1970s, western nations conducted several policy measures including to reduce their dependency of oil consumption in power sector by suppression of new oil firing power plant construction. We will discuss several consequences.

Week 2-1 Introduction 2(SAKAMOTO)

Professor Sakamoto will explain latest issues of discussin in the global energy policy arena.

He also will suggest several issues for future discussion including more efficient energy use, creation of lower cost renewable energy supply, cleaner use of foccil fuel, the way of build safer nuclear system, power matket reform & 3E+S+M etc.

Week 2-2Asian Energy Outlook by IEEJ (SAKAMOTO)

Prof. Sakamoto will explain the isses to discuss for Asian Energy Outlook.

Week 3-1 Lower cost of renewable energy supply (SAKAMOTO)

Prof. Sakamoto will explain couple of difficulties to be overcome for creation of lower cos renewable energy supply

Week 3-2 Cleaner Use of Fossil Fuels(SAKAMOTO)

Prof. Toyoda will explain the issues to be discussed for cleaner use of fossil fuels.

Week 4-1 Special Lecture 1 (by inviting lecturers(TBD))

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

(We invited Dr. Koji Horinuki and Dr. Shigeto Kondo to discuss about the situation of the Gulf in the course on 2021)

Week 4-2 Special Lecture 1 cont.

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

Week 5-1 Safer Nuclear (SAKAMOTO)

Prof Sakamoto will explain his view on the way to create safer nuclear system.

Week 5-2 Global Challenge (SAKAMOTO)

Prof. Sakamoto will discuss about global energy policy challenge including market reform & 3E+S+M with you.

Week 6-1 Special Lecture 2

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

(We invited Dr. Nahoko Doi and Dr. David Wagon to discuss about Energy Conservation Policy in the course on 2022)

Week 6-2 Special Lecture 2 cont.

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

Week 7-1 Special Lecture 3

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

(We invited Prof. Ryoichi Komiyama of Tokyo Univ. and Mr. Yoshiaki Shibata to discuss about power market design and a new technology option for Net Zero Emission System in the course on 2021 and 2022.)

Week 7-1 Special Lecture 3 cont.

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

Week 8-1 Summary (Nei, SAKAMOTO)

Summary discussion of the course and further issues to research

3. 成績の評価方法/ Grading:

The course will be graded on a pass/fail basis.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

World Energy Outlook 2022, IEA

Energy Supply Security 2014, IEA

The Quest Daniel Yergin, 2011

The Commanding Heights Daniel Yergin, et. 1999

Strategic Energy Plan of Japan 6th Edition

White Paper of Energy in Japan 2022 (Japanese)

History of Policy by Ministry of International Trade and Industry(MITI)-Energy Policy(Japanese)

Energy & Security-strategies for a world in transition, Jan H. Kalicki/David L. Goldwyn

Energy Security in the Era of Climate Change: The Asia-Pacific Experience, Luca Anceschi、 Jonathan Symons

5. 履修上の注意/Note:

Students is expected to take the course Outline of Energy Policy, Energy Policy in Japan and/or Energy and Environmental Science and Technology in advance.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7191E

科目名/Course Name: Roles of Intellectual Property Rights in Globalized World

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Intellectual Property Rights (IPR) play important roles in innovation. In this class we focus on their function in the context of globalized world.

First seven lectures deal with IPRs in universities and research institutions and its role to foster Open Innovation. It refers to How to scout for technologies generated by universities, and research institutions, How to create IPRs on demand by crowdsourcing solutions, The long path from ideation to commercialization and Licensing deals and negotiation techniques in practice.

Next seven lectures introduce basic structure of IPR, especially, patent, trade secret, copyright, trademark, design and geographical indication, including an international framework, especially TRIPS Agreement.

The final lecture is for wrap-up of all topics.

Students are requested to make presentations and contribute to discussion in this class.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

April 5: Koichi Sumikura TRIPS Agreement, Doha Declaration by the WTO, Access to medicine, Compulsory licensing

April 12: Koichi Sumikura World Intellectual Property Organization, Patent harmonization in Europe

April 19: Koichi Sumikura Patent Troll, Patent Wars, Standard essential patents (SEPs)

April 26: Koichi Sumikura Copyright, Fair Use, Creative Commons

May 10: Koichi Sumikura Ownership on virus samples, The Convention on Biological Diversity (CBD), Access and Benefit-sharing, HeLa Cell Line

May 17: Koichi Sumikura Eco-Patent Commons, Licensing Guidelines, Patent Pooling

May 24: Koichi Sumikura, Wrap-up

May 31: Luca Escoffier IPRs in universities and research institutions

June 7: Luca Escoffier IPRs as a tool to foster Open Innovation

June 14: Luca Escoffier How to scout for technologies generated by universities, and research institutions

June 21: Luca Escoffier How to create IPRs on demand by crowdsourcing solutions

June 28: Luca Escoffier The long path from ideation to commercialization 1 of 2

July 5: Luca Escoffier The long path from ideation to commercialization 2 of 2

July 12: Luca Escoffier Licensing deals and negotiation techniques in practice (exercises carried out by students)

July 19: Presentation by students

3. 成績の評価方法/ Grading:

The following points will be evaluated.

- Participation in discussion in classes
- Presentation & Submission of presentation materials

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Hand-outs and materials will be distributed in the class.

4-2.

David Kappos & Jessica Goodman (2018) The Role of IP in Economic Growth: Looking Back, Looking Forward, Journal of Intellectual Property Association of Japan, Vol.14, No.3, 54-64 .
https://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ14-3PDF/14-3_p054-064.pdf

David J. Kappos and Ryan J. Wichtowski (2020) INTELLECTUAL PROPERTY AND INNOVATION—THE KEY TO SUSTAINABLE ECONOMIC GROWTH, Journal of Intellectual Property Association of Japan, Vol.6, No.3, 54-61. https://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ16-3PDF/16-3_p054-061.pdf

5. 履修上の注意/Note:

Each student has to make a presentation in the class.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7201J

科目名/Course Name: 科学技術とアントレプレナーシップ(水、19:30～21:00)

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

大学や公的研究機関で生み出された科学技術研究の成果は、新たなビジネス創出の礎となります。

この講義では、(1) 知識はどのように生み出されるか、(2) 知識はどのように商業化されるか、について、定量的データによるエビデンスを含む学術論文に基づいて議論します。

この講義では、科学技術イノベーション研究の代表的な学術論文を読みこなす力をつけることを目的としています。

原則として、1つの講義につき3つの論文が提示され、受講者はそのうちの1つを読んで概要をまとめてくることが求められます。

受講者は、指定された論文について、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

また、受講者は、それとは別に、自身で学術論文を選び、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

4月5日(水) イントロダクション1(牧) 講義の全体像

4月12日(水) イントロダクション2(牧) 実証分析について

4月19日(水) イントロダクション3(隅藏) 分析手法について

4月26日(水) イントロダクション4(隅藏) 分担の決定、論文の読み方について

5月10日(水) Class 01 The Vehicle of Innovation: Large Firms vs Small Firms

5月17日(水) Class 02 Where are Entrepreneurs Come from?

5月24日(水) Class 03 How Important Are Star Scientists?

5月31日(水) Class 04 Why is the Scientific Breakthrough Knowledge Localized?

6月7日(水) Class 05 Why are the Entrepreneurial Activities Localized?

6月14日(水) Class 06 What Accelerates Entrepreneurial Activities?

6月21日(水) Class 07 Why is Venture Capital Important?

6月28日(水) Class 08 How Important are Incentives to Invent and Commercialize?

7月5日(水) Class 09 IPs and Incentives at the University

7月12日(水) 受講者プレゼンテーション

7月19日(水) 受講者プレゼンテーション、まとめ

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への参加、議論への貢献

課題となった論文のまとめの提出

担当となった論文についての発表

自身で選んだ論文についての発表

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

講義で取り扱う学術論文は、以下の通りです。(予定)

Class 01: The Vehicle of Innovation: Large Firms vs Small Firms

J. Acs, Audretsch, D.B. 1988. Innovation in large and small firms: an empirical analysis. *The American economic review* 678-690.

Guzman, Stern, S. 2015. *Nowcasting and Placecasting: Entrepreneurial Quality and Performance*. University of Chicago Press.

Haltiwanger, et al. 2013. Who creates jobs? Small versus large versus young. *Review of Economics and Statistics*. 95(2) 347-361.

Class 02: Where Do Entrepreneurs Come from?

Lerner, Malmendier, U. 2013. With a little help from my (random) friends: Success and failure in post-business school entrepreneurship. *Review of Financial Studies* hht024.

Nanda, Sorensen, J.B. 2010. Workplace peers and entrepreneurship. *Management Science*. 56(7) 1116-1126.

Giannetti, Simonov, A. 2009. Social interactions and entrepreneurial activity. *Journal of Economics & Management Strategy*. 18(3) 665-709.

Class 03: How Important Are Star Scientists?

G. Zucker, Darby, M.R., Armstrong, J.S. 2002. Commercializing knowledge: University science, knowledge capture, and firm performance in biotechnology. *Management Science*. 48(1) 138-153.

Azoulay, Graff Zivin, J., Wang, J. 2010. Superstar extinction. *Quarterly Journal of Economics*. 25 549-589.

Oettl. 2012. Reconceptualizing stars: Scientist helpfulness and peer performance. *Management Science*. 58(6) 1122-1140.

Class 04: Why Do the Scientific Breakthrough Knowledge Localized?

G. Zucker, Darby, M.R. 2001. Capturing Technological Opportunity Via Japans Star Scientists: Evidence from Japanese Firms Biotech Patents and Products. *The Journal of Technology Transfer*. 26(1/2) 37-58.

G. Zucker, Darby, M.R., Brewer, M.B. 1998. Intellectual human capital and the birth of US biotechnology enterprises. *Am Econ Rev*. 88(1) 290-306.

G. Zucker, Darby, M.R. 2007. Star scientists, innovation and regional and national immigration. *National Bureau of Economic Research*.

Class 05: Why are the Entrepreneurial Activities Localized?

Casper. 2007. How do technology clusters emerge and become sustainable?: Social network formation and inter-firm mobility within the San Diego biotechnology cluster. *Research Policy*. 36(4) 438-455.

Agrawal, Cockburn, I., Galasso, A., Oettl, A. 2014. Why are some regions more innovative than others? The role of small firms in the presence of large labs. *Journal of Urban Economics*. 81 149-165.

Fallick, B., Fleischman, C.A., Rebitzer, J.B. 2006. Job-hopping in Silicon Valley: some evidence

concerning the microfoundations of a high-technology cluster. *The Review of Economics and Statistics*. 88(3) 472-481.

Class 06: What Accelerates Entrepreneurial Activities?

Di Gregorio, Shane, S. 2003. Why do some universities generate more start-ups than others? *Research Policy*. 32(2) 209-227.

Yu, Sandy, How Do Accelerators Impact the Performance of High-Technology Ventures? (August 1, 2016). Available at SSRN: <https://ssrn.com/abstract=2503510>

K. Agrawal, Catalini, C., Goldfarb, A. 2011. The geography of crowdfunding. National bureau of economic research.

Class 07: Why is Venture Capital Important?

N. Kaplan, Sensoy, B.A., Stromberg, P. 2009. Should investors bet on the jockey or the horse? Evidence from the evolution of firms from early business plans to public companies. *The Journal of Finance*. 64(1) 75-115.

Hellmann, Schure, P., Vo, D. 2013. Angels and Venture Capitalists: Complements or Substitutes? NBER Working Paper.

Ewens, M., Nanda, R., Rhodes-Kropf M. 2018. Cost of Experimentation and the Evolution of Venture Capital. NBER WORKING PAPER 24523.

Samila, Sorenson, O. 2011. Venture capital, entrepreneurship, and economic growth. *The Review of Economics and Statistics*. 93(1) 338-349.

Class 08: How Important are Incentives to Invent and Commercialize?

Ederer, F., and G. Manso. 2013. Is pay for performance detrimental to innovation? *Management Science* 59:1496-1513.

Azoulay, Graff Zivin, J.S., Manso, G. 2011. Incentives and creativity: evidence from the academic life sciences. *The RAND Journal of Economics*. 42(3) 527-554.

Roach, Sauermann, H. 2010. A taste for science? PhD scientists academic orientation and self-selection into research careers in industry. *Research Policy*. 39(3) 422-434.

Class 09: IPs and Incentives at the University

Thursby, Fuller, A.W., Thursby, M. 2009. US faculty patenting: Inside and outside the university. *Research Policy*. 38(1) 14-25.

Azoulay, P., C. C. Liu, and T. E. Stuart. 2017. Social influence given (partially) deliberate matching: Career imprints in the creation of academic entrepreneurs. *American journal of sociology* 122:1223-1271.

Singh, J. and L. Fleming (2010) Lone inventors as sources of breakthroughs: myth or reality?, *Management Science*, Vol.56, No.1, pp.41-56.

4-2 参考となる書籍：森田果『実証分析入門』（日本評論社）

5. 履修上の注意/Note:

イントロダクションが終了した後の9回の講義においては、受講者は、指定された論文を読んで、その内容を、指定されたフォーマットにまとめ、提出することが求められます。

詳細については、講義内で説明します。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7211E

科目名/Course Name: Science, Technology and Innovation Policy in Developing Country Context

担当教員/Instructor: 飯塚 倫子/IIZUKA Michiko

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

About this course:

Science, technology, and innovation (STI) policy is increasingly considered as an important means for development. The global integration of socio-economic activities made STI capacity sine qua non to deal with market competition for developing countries.

Likewise, STI policy is now considered as one of the important means of implementation for SDGs (UN Sustainable Development Goals). While emerging new technologies boost the expectation that countries can leapfrog developmental steps with advanced technologies, these can enlarge disparities if appropriate capabilities and infrastructure are not accompanied. The recent global events also suggest that underlying context of STI policy is transforming, to say the least.

Aim of this course:

This course is aimed to do the following : 1) Learn & understand basic concepts on STI policy; and 2) Familiarize with the recent discussions regarding STI policy in developing countries; 3) Build abilities to apply concepts on STI policy in actual context to understand/analyze the reality. Developing countries are a diverse set of communities with similar yet different challenges hence the course tries to capture this aspect through bringing in the presentations by the students. The learning effect of the course hinges upon active participation from students in the discussion as well as their contribution to the class presentations.

Form of learning:

In this course, participants (students) are expected to actively engage in the discussion. Please keep in mind that there is no single "right answer" on the topic we cover in this course (except for definitions of existing concepts). Students are expected to demonstrate his/her understanding applying to the cases in the presentation as well as share their experiences related to this course with colleagues.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

This course will cover following topics.

- Basic concepts related to STI policy
- Major STI indicators for policy purposes
- Emerging types of innovation
- Potential of Natural Resources for Development
- Emerging technologies and their possible impacts on developing countries

3. 成績の評価方法/ Grading:

3. Grading : (may change, this will be confirmed on the first day)

Participation to the discussion in the class: 20%

Presentations made during the class:30%

Final presentation: 20%

Final paper based on presentation (3000words-5000) 30%

Topic of final presentation/paper should be selected by the student from one of the topics covered in the class applied to a country of choice. I encourage student to be innovative on the topic of presentation/paper.

The presentation in the class should demonstrate: 1) conceptual understanding on one of the topics covered in the lecture and 2) Ability to apply your understandings to actual context 3) convey your message/idea effectively; 4) originality creativity and deep reflection on concept, theory and policy issues

The above criteria also apply to the final paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4. Textbooks and references

There are no textbooks for this course. The course will use articles, reports and other types of publications and video links when relevant.

If you are interested on this topic, useful introductory textbooks are:

1.Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, 2005, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press.

2.Chaminade, C., Lundvall, B-A., Haneef, S. (2018) Advanced Introduction to National Innovation Systems, Edward Elgar.

30pg download/1person per time limited access

3. Hall, B.& Rosenburg, N. (2010) Handbook of Economics of Innovation(vol 1 and 2), North Holland.

(3 is for more economic oriented people.)

All are available in the library and accessible online. The "real" book is also available in the library.

Background to understand the socio-economic context (may change):

Qureshi, Z (eds) (2022) An inclusive future? Technology, New Dynamics and Policy Challenges, Global Economy and Development Brookings Institute, Global forum on Democracy and Technology. May, 2022.

Below are some of the readings to give you some ideas but not all of them are use(too many). The required reading will be the selected at the start of the semester.

Introduction to Innovation key concept (required readings)

Basic concept on What can STI policy do?

1) *Fagerberg, J (2005) Innovation: a guide to the literature, in Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press [in library will be provided]

2) Goedhuys, M., H. Hollanders, and P. Mohnen, Innovation Policies for Development, Chapter 3 in: S. Dutta, B. Lanvin and S. Wunsch-Vincent (eds.), The Global Innovation Index 2015, INSEAD/WIPO, 2015.

http://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_gii_2015-chapter3.pdf

3) Soete, L, Schneegans, S. , Erocal, D., Angathevar, B., Rasiah, R.(2015)A world in search of an effective growth strategy UNESCO science report 2015 towards 2030, Geneva, UNESCO, pp. 21-55.

<http://unesdoc.unesco.org/images/0023/002354/235407e.pdf>

Innovation indicators

1) Smith, K., (2005) Measuring Innovation, in Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press.

2) *UNCTAD (2010), Science, Technology and Innovation Indicators for policy making in developing countries: an overview of experiences and lessons learned, note prepared by the UNCTAD secretariat submitted for the Trade and Development Board Investment, Enterprise and Development Commission Multi-year on Enterprise Development Policies and Capacity-building in Science, Technology and Innovation, Second session, Geneva, 20-22 January, 2010. Item 3 of the provisional agenda, TD/BC.II/MEM.1/CRP.1. https://unctad.org/en/Docs/ciimem1crp1_en.pdf

① *Mohnen, P (2019) R&D, Innovation and Productivity, Working Paper, GROWINPRO 07/2019 May. <https://www.merit.unu.edu/publications/wppdf/2019/wp2019-016.pdf>

3) Davis, K.E., Kingsbury, B. and Merry, S. E. (2012), Indicators as a Technology of Global Governance, Law and Society Review, 46 (1): 71-104.

① <https://www.iilj.org/publications/indicators-technology-global-governance/>

② linelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/j.1540-5893.2012.00473.x

4) Muller, J.Z (2018) The tyranny of metrics, Princeton University Press.

5) Gault, F., & Soete, L.(2022)Innovation Indicators. Oxford Research Encyclopedia of Business and Management. Retrieved 12 Oct, 2022, from <https://oxfordre.com/business/view/10.1093/acrefore/9780190224851.001.0001/acrefore-9780190224851-e-331>.

Innovation systems

1) Edquist, C (2005) Systems of Innovation; Perspectives and Challenges, in Fagerberg, J., Mowery, D., Nelson R.R., Edited, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press

2) Egbetokun, A., Oluwadare, A.J., Ajao, B.F. Jegede, O. O. (2017) Innovations systems research: an agenda for developing countries, Journal of Open Innovation: Technology, Market and Complexity, 3 (25): 1-16.

3) Kline, S.J. and Rosenberg, N. (1986) An overview of innovation, In Landau, R. and Rosenberg N. (eds.), The positive sum game, Washington D.C. National Academy Press.

① [ftp://ftp.ige.unicamp.br/pub/CT010/aula%202/KlineRosenberg\(1986\).pdf](ftp://ftp.ige.unicamp.br/pub/CT010/aula%202/KlineRosenberg(1986).pdf)

4) Lundvall, B-A (1992, reprinted in 2010) Introduction, In Lundvall B-A (ed) National Systems of Innovation: Toward a theory of innovation and interactive learning, London and NY, The anthem press: p1-20. [in the folder]

5) Adner, R (2006) Match your Innovation strategy to your Innovation Ecosystem, Harvard Business Review, April, 2006, 10pages

① <https://hbr.org/2006/04/match-your-innovation-strategy-to-your-innovation-ecosystem>

Emerging types of innovations

1) Iizuka, M (2013) Innovation systems framework: still useful in the new global context? UNU-MERIT Working Paper 2013-005

① Link: <https://www.merit.unu.edu/publications/wppdf/2013/wp2013-005.pdf>

2) Iizuka, M., Hane, G. (2021) Towards attaining the SDGs: cases of disruptive and inclusive innovations, Innovation and Development

3) Prahalad, C. K. and R. A. Mashelkar (2010), 'Innovation's holy grail,' Harvard Business Review, 88(7/8), 132141.

4) Christensen, C.M., Baumann, H., Ruggles, R., Sadtler, T. M.(2006) Disruptive Innovation for Social Change, Harvard Business Review, December, 2006

① <https://hbr.org/2006/12/disruptive-innovation-for-social-change>

5) Murray, R.; Mulgan, G.; Caulier-Grice, J. (2008). How to Innovate: The tools for social Innovation, NESTA and Young Foundation. (Available online: http://www.socialinnovationexchange.org/sites/default/files/event/attachments/Copy%20of%20Generating_Social_Innovation%20v4.pdf)

6) Prahalad, C.K. and Hart, S.L. (2002) 'The fortune at the bottom of the pyramid', Strategy and Business, 22: 214.

① http://etelangana.org/uploads/ebooks/CkPralhad_2014-03-26_130317/2014-03-26_130520_Fortune.pdf

1) Radjou N., Prabhu, J. Simonde A (2012) Jugaard Innovation, Wiley (In library).

2) Chataway J, Hanlin, R and Kaplinsky R (2014) Inclusive innovation: an architecture for policy development. *Innovation and Development*. 4(1): 33-54.

3) *UNCTAD (2017) New Innovation approaches to support the implementation of the sustainable development goals: pp1-27.

https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/dtlstict2017d4_en.pdf

4) Chesbrough, H.W. (2003) The Era of Open innovation, MIT Sloan Management Review. Spring, 2003
<https://sloanreview.mit.edu/article/the-era-of-open-innovation/>

5) von Hippel (2017) Chapter 1 in Free innovation MIT Press

Freely downloadable from

<https://mitpress.mit.edu/books/free-innovation>

Global Value chains and National Systems of Innovation

1) Pietrobelli, C., Rabellotti, R., (2009) The global dimension of innovation systems: linking innovation systems and global value chains: In Lundvall, B., Joseph, KJ, Chaminade, C., Vang, J. (ed) , *Handbook of innovation systems and Developing countries*. Edward Elgar, UK: pp 214-238. or

2) Pietrobelli, C., R. Rabellotti (2011) Global value chains meet Innovation Systems: Are there learning opportunities for Developing countries? *World Development*, 39 (7): 1261-1269.

3) Herstad, S.J., Block, C., Ebersberger, B., van de Velde, E. (2010) National innovation policy and global open innovation: exploring balances, trade-offs and complementarities, *Science and Public Policy*, 37(2):113-124.

4) Carlsson, B. (2006) Internationalization of innovation systems: A survey of the literature, *Research Policy*, 35: 56-67.

5) Chesbrough, H. (2006) Open Innovation: A new Paradigm for Understanding Industrial Innovation, in Chesbrough, H, Vanhaverbeke, West, J.,(eds), *Open Innovation: Researching a New Paradigm*, Oxford University Press.

6) Smith, K (2010) Globalization and Innovation systems: Policy Issues. In in Smits, R.E., Kuhlmann, S., Shapira, P (eds), *The Theory and Practice of Innovation Policy*, Edward Elgar

7) Binz, C., Truffer, B., Coenen, L (2016) Global innovation systems — toward a conceptual framework for innovation process in transitional contexts, Paper presented at SPRU 50th anniversary conference, Sept, 2016 Brighton, UK

Extended Technological Innovation systems (functions approach):

1) Bergek, A., Jacobsson, S. Carlsson, B. Lindmark, S., Rickne, A., (2008) Analysing the functional dynamics of technological innovation systems: A scheme of analysis, *Research Policy* 37(3): 407-429. or

2) Bergek, A., Jacobsson, S, Hekkert, M and Smith, K., (2010) Functionality of Innovation systems as a Rationale for and Guide to Innovation Policy in Smits, R.E., Kuhlmann, S., Shapira, P (eds), *The Theory and Practice of Innovation Policy*, Edward Elgar

3) Hekkert, M.P., Suurs, R.A.A., Negro, S.O., Kuhlmann, S., Smits, R.E.H.M (2007) Functions of innovation systems: A new approach for analysing technological change, *Technological Forecasting and Social Change*, 74: 413-432.

4) Markard, J., Hekkert, M., Jacobsson, S., (2015) The technological innovation systems framework: Response to six criticisms, *Environmental Innovation and Societal Transitions*, 16: 76-86.

5) Bergek, A., Hekkert, M., Jacobsson, S., Markard, J., Sanden, B., Truffer, B., (2015) Technological innovation systems in context: Conceptualizing contextual structures and interaction dynamics, *Environmental Innovation and Societal Transitions*, 16: 51-64.

Transitions and multi-level approach

1) Geels, F.W. (2002) Technological transitions as evolutionary reconfiguration processes: A Multi-level perspective and a case-study', *Research Policy* 31 (8-9), 1257-1274.

2) Geels, F.W. (2004) From sectoral systems of innovation to socio-technical systems Insights about dynamics and change from sociology and institutional theory, *Research Policy* 33: 897-920.

3) Smith, A. A. Stirling, and F. Berkhout (2005) The governance of sustainable socio-technical transitions. *Research policy* 34:1491-1510.

4) Markard, J. and B. Truffer. (2008) Technological innovation systems and the multi-level perspective: Towards an integrated framework, *Research Policy*, 37: pp. 596-615.

5) Geels, F. W., Schot, J (2016) Towards a new innovation theory for grand societal challenges, paper presented at SPRU 50th anniversary conference, 7-9 September, 2016, Brighton,UK.

Natural resources, STI and development

1) *Andersen, A.D., Wicken O.,(2020) Making sense of how the natural environment shapes innovation, industry dynamics and sustainability challenges, *Innovation and Development*, 1-27.

<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/2157930X.2020.1770975>

2) David, P and G. Wright (1997) Increasing Returns and the Genesis of American Resource Abundance Industrial and Corporate Change, 6 (2): 203-245.

3) Wright, G. and Czelusta, J (2004) The Myth of the Resource Curse, *Challenge*, 47(2): 6-38.

4) Pietrobelli, C., Marin. A., Olivari, J. (2018) Innovation in Mining value chains: New evidence from Latin America, *Resources Policy*, 58:1-10.

5) Crespi, G., Katz, J., Olivari, J. (2018) Innovation, natural resource-based activities and growth in emerging economies: the formation and role of knowledge intensive service firms, *Innovation and Development* 8(1):79-101.

6) CTA (2019) Digitalization of African Agriculture,

<https://www.cta.int/en/digitalisation/issue/the-digitalisation-of-african-agriculture-report-2018-2019-sid0d88610e2-d24e-4d6a-8257-455b43cf5ed6>

(7)InteGovernmental Forum on Mining, minerals Metals and Sustainable Development (IGF), *New Tech, New Deal: mining policy options in the face of new technology*, Canada.

◇ Case of EV

- Marin, A and Goya, D. (2022) Mining--the dark side of the energy transitions, *Environmental Innovation and Societal Transitions*.

- IEA (2021)*The Role of Critical Minerals in Clean Energy Transitions*.

<https://www.iea.org/reports/the-role-of-critical-minerals-in-clean-energy-transitions>

Emerging technologies

1) Garret, B. Technology will keep changing everything-and will do it faster, Atlantic council.

<http://www.atlanticcouncil.org/images/publications/Technology.pdf>

2) Juma, C (2017) Leapfrogging Progress: The misplaced Promise of Africa's mobile revolution, BreakThrough Journal No 7.

<https://nef.org/leapfrogging-progress-the-misplaced-promise-of-africas-mobile-revolution/>

3) UNCTAD Technology and innovation report (2018) Harnessing Frontier Technologies for Sustainable Development, Geneva, UNCTAD

https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/tir2018_en.pdf

Case of M-Pesa

o Mas, I. Morawczynski, O. (2009) Designing Mobile Money Services Lessons from M-PESA, Innovations, Spring, 2009.

<https://www.mitpressjournals.org/doi/pdf/10.1162/itgg.2009.4.2.77>

o Hughes, N. Lonie, S (2007) M-Pesa: Mobile Money for the Unbanked, Special Edition of Innovations for the GSMW World Congress, 2009, Spring 2009.

https://www.gsma.com/mobilefordevelopment/wp-content/uploads/2012/06/innovationsarticleonmpesa_0_d_14.pdf

4) World Economic Forum (2019) Global Technology Governance: A Multistakeholder Approach, Geneva, World Economic Forum

http://www3.weforum.org/docs/WEF_Global_Technology_Governance.pdf

5) World Economic Forum (2017) Agile Governance: Reimagining Policy making in the Fourth Industrial Revolution, Geneva, World Economic Forum.

http://www3.weforum.org/docs/WEF_Agile_Governance_Reimagining_Policy-making_4IR_report.pdf

5. 履修上の注意/Note:

There will be some guest lectures related to one of the themes of the lecture. This will be announced later.

The readings may be updated and change reflecting the current events. The list above is used in the last course.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7221J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策と評価 (Evaluation of Science, Technology and Innovation Policy)(金、19:30~21:00)

担当教員/Instructor: 林 隆之/HAYASHI Takayuki

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

科学技術イノベーション政策において「評価」の重要性は増している。研究の現場では、研究の質の評価は昔から頻繁に行われてきた。しかし、1970 年代以降、研究開発から生み出される経済・社会的効果が強く期待されるようになり、学術的な質だけではなく、より広い社会的な視点から研究開発活動を評価しマネジメントすることが求められるようになってきた。さらに 1990 年代以降に政策評価制度が導入されることにより、科学技術イノベーション政策やプログラムを対象とした評価が専門的な手法や概念を用いて行われるようになってきている。本講義では、科学技術イノベーションおよびその政策に対する評価について、歴史的背景と現在の制度を確認したうえで、評価の基礎理論を学習する。また、研究開発を対象とした評価においてどのような難しさが原理的に生じうるかを学び、ピアレビュー、ビブリオメトリクス、科学技術の経済効果、社会効果の評価について取り上げる。さらに、プログラム評価、大学や研究機関の評価、イノベーション政策における各種政策手段の評価など、学生の関心も踏まえつつ扱う予定である。

授業は講義を中心にしつつ、最新の科学技術イノベーション政策の評価に関する論文等の輪読も行う。履修者は輪読担当論文の発表が求められる。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. イントロダクション：歴史的経緯と研究評価制度
2. 評価の設計（1）：評価理論の基礎
3. 評価の設計（2）：評価理論の基礎
4. 科学技術イノベーション政策評価に特有の概念
5. プログラム評価とロジックモデル演習
6. ピアレビューと学際研究・革新的研究の評価

7. ビブリオメトリクスの活用
8. 研究の経済効果の評価(1)
9. 研究の経済効果の評価(2)
10. 研究の社会効果の評価(1)
11. 研究の社会効果の評価(2)
12. イノベーション政策の評価(1)
13. イノベーション政策の評価(2)
14. EBPM 手法の適応
15. 学生発表

※受講者の関心にあわせて変更することもあり得る

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義への出席・議論への参加 (20%)、授業における割当の報告 (30%)、発表・レポート (50%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-1 教科書

なし (資料を配付)

4-2 参考文献

- Shapira, P. and S. Kuhlmann eds. (2003), Learning From Science And Technology Policy Evaluation: Experiences from the United States and Europe, Edward Elgar.
- Callon, M., P. Laredo and P. Mustar eds. (1997). The Strategic Management of Research and Technology, The evaluation of Programs, Economica International.
- Link, N. and N.S. Vonortas eds.(2013), Handbook On The Theory And Practice Of Program Evaluation, Edward Elgar.
- Jakob Edler, Paul Cunningham, Abdullah Gok, Philip Shapira(2016), Handbook of Innovation Policy Impact, Edward Elgar publishing.
- 藤垣裕子ほか(2003)『研究評価・科学論のための科学計量学入門』丸善株式会社.
- 龍慶昭・佐々木亮(2004)『「政策評価」の理論と技法』多賀出版
- ロッシ、リプセイ、フリーマン(2004:大島他訳(2005))『プログラム評価の理論と方法』日本評論社

- ハトリー(1999:上野他訳(2004)『政策評価入門』東洋経済新報社

5. 履修上の注意/Note:

なし

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7231E

科目名/Course Name: Energy Data Analysis

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 秋後期/Fall (Session II)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy data analysis is the foundation for developing sound national energy policies as they reveal where interventions are required and what opportunities are available.

Many countries find it difficult to make informed policy decisions at the national level because of lacking qualified energy data analysis.

The pressures and complexities of international energy markets and the imperatives of global issues such as climate change means that countries need to understand and conform to international conventions in monitoring and reporting.

The job of an energy data analysis is more complex than ever before and requires the ability to ensure the quality, consistency and compatibility of energy data.

You will gain a broad understanding of energy systems as a whole, covering supply and demand, the interconnectedness and dependencies between different sectors and a multi-vector multi-sector approach to analysis.

You will learn about the theory and practice of data analysis and will gain practical experience of the challenges of working with different data sets relating to energy throughout the program and modules.

We will provide a software to develop economic outlook model and energy data base by free of charge.

Especially Master Course students could use the result of this course for writing their policy papers or independent study with energy and economic outlook.

This Class is jointly conducted with the Institute of Energy Economics, Japan.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1-1 Introduction---Structure and Schedule of the Class

Week 1-2 Abstract of Energy Economics

Week 2-1 Statistics of Energy --- Examples of Major Statistics (IEA, BP etc.), Unit conversion

Week 2-2 Introduction of Energy Balance Chart --- Energy Flow, Self Sufficient Rate etc.

Week 3-1 Analysis of Energy Balance Chart---Explanation and Exercise

Week 3-2 Introduction of Model Analysis ----Explanation of useful models such as Optimization model , General equilibrium model etc.

Week4-1 Introduction of Model Analysis- Economate , Simple Model

Week4-2 Exercise of Model --- Exercises based on given tasks

Week5-1 Model Analysis --- Make a model based on Energy Balance Chart

Week5-2 Model Analysis --- Analysis on each sector such as residential , transportation, industry etc

Week6-1 Exercise of Model ---Exercises based on given tasks

Week6-2 Cont.(Individual guidance to improve the Model)

Week7-1 Cont.(Preparation for the presentation)

Week8-1 Presentation I

Week8-2Presentation 2 and Wrap Up

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class Participation 20%, Discussion at the class 20 %, Presentation 60%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

①BP Statistical Review of World Energy 2022

<https://www.bp.com/content/dam/bp/en/corporate/pdf/energy-economics/statistical-review-2021/bp-statistical-review-of-world-energy-2022-full-report.pdf>

②Eurostat Statistic Explained --- Energy Balance

http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Energy_balance

③World Energy Balances 2022 ---IEA

④EDMC Handbook of Japans & World Energy & Economic Statistics --- The Energy Data and Modelling Center ,
The Institute of Energy Economics, Japan

5. 履修上の注意/Note:

Registered Students should have their own PC operated by Microsoft Windows 7,10 or 11 not Mac in the class.

We provide Economate software for free which is a personal computer-based software package that has been developed to forecast and analyze policy

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7241E

科目名/Course Name: History of Japanese Science, Technology and Innovation Policy

担当教員/Instructor: 有本 建男/ARIMOTO Tateo

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

In recent years, emerging technologies such as artificial intelligence, big data, gene editing, and drone have been rapidly changing the order and structure of modern society such as politics, government, industry, security, and civic life at home and abroad. The scope of science and technology(S&T) policy has also expanded from the traditional promotion of S&T ("policy for science") to addressing social, economic, security and environment issues at local, national and global levels, such as climate crisis, cities, health and energy etc. ("science for policy" and "securitization of STI", OECD). It is necessary to rethink and redesign science, technology and innovation, including value, policy making system, public-private-partnership, funding and evaluation, social implementation, security, and capacity building.

New missions and approaches of S&T are being proposed and implemented, such as the 4th Industrial Revolution(Davos), Internet of things(USA), Industry 4.0(Germany), mission-oriented innovation policy(OECD, EU), "OECD S&T Policy 2025 Initiative", and "STI for SDGs"(United Nations). In Japan as well, Society 5.0 has been advocated, and the S&T Basic Law was substantially revised for the first time in the last 25 years and the new STI Basic Plan (2021-2025) was decided by the Cabinet.

"The Sustainable Development Goals (SDGs) -"Transforming our world"", which were unanimously adopted by the United Nations in 2015, have become the common vision for humanity and the earth in the 21st century. In order to achieve 17 goals of SDGs, including climate change, poverty, health, food, cities, energy, water and waste, there are high expectations for S&T and multi-stakeholder partnership. The Corona Pandemic has amplified role and responsibility of S&T.

In order to address these complex issues, collaboration and practice by multi-stakeholders at global-regional-national-local levels will be important, transcending existing boundaries of knowledge disciplines, organizations, genders, generations and national borders. Recently, the integration of local development policy, SDGs policy and S&T policy has been deepening as local SDGs". Japans experiences and technologies in modern industrialization, overcoming pollution, and tackling big disasters have great interests from developing countries. On the other hand, USA and China disputes, Russian invasion of Ukraine and international fierce competition and governance of emerging technologies have been the focal point of human survivability and resilience in history.

This course begins with an overview of structures, functions and history of STI system in Japan and other countries. Next, Transformation of STI policies and eco-systems to realize sustainable, inclusive and resilient society is discussed at local, national, and global levels in the changing world. Other subjects are megatrends of emerging technologies, R&D funding systems, transdisciplinary & mission-oriented approach and responsible research for smart cities, aging society and mobility etc. We plan to invite experts from outside.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- (1) Discussions; Modern Society and Science & Technology
- (2) Japan's new STI Basic Law and new 5-year STI Basic Plan
- (3) General Structure and Function of STI Policy and System
- (4) Sustainable Development Goals (SDGs) and STI: No.1; General
- (5) Sustainable Development Goals (SDGs) and STI: No.2; Implementation
- (6) Modernization and S&T in Japan
- (7) Global History of S&T System
- (8) New Trends of S&T: No.1; Emerging Technologies
- (9) New Trends of S&T: No.2; Technology Governance, ELSI, Integrity and Security
- (10) R & D funding system and management
- (11) Mission-oriented Innovation Policy for Socio-Technical Transition
- (12) STI Policy and Foresight
- (13) International Landscape of STI Policies and Organizations
- (14) Science and Technology Advice and Diplomacy
- (15) Term papers and Discussions

Paper Submissions

Two term papers. Details to be shown in the class.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term papers and discussions

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- (1) "The Oxford Handbook of Innovation", edited by Jan Fagerberg, David Mowery and Richard Nelson, Oxford University Press, 2005.
- (2) "OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2023 - STI Policies as Enablers of Transitions", OECD, March 2023. OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2023: | en | OECD
- (3) "A Decade of Science & Diplomacy", by William Colglazier et al, AAAS, October 2022.
- (4) "Addressing Societal Challenges using Transdisciplinary Research", OECD/Global Science Forum, June 2020. Addressing societal challenges using transdisciplinary research | OECD Science, Technology and Industry Policy Papers | OECD iLibrary (oecd-ilibrary.org)
- (5) "The Design and Implementation of mission-oriented Innovation Policies – A New Systemic Policy Approach to Address Social Challenges", OECD Science, Technology and Industry, Policy Papers, February 2021. The design and implementation of mission-oriented innovation policies: A new systemic policy approach to address societal challenges | en | OECD.

"Mission-oriented innovation policy in Japan – Challenges, opportunities and future options", April 2021, Science, Technology and Industry Policy Paper, OECD. Mission-oriented innovation policy in Japan: Challenges, opportunities and future options | en | OECD

(6) "UNESCO Science Report – The Race against time for smarter development – The clock is ticking for transitioning to digital and 'green' society", the United Nations, Educational, Scientific and Cultural Organization(UNESCO)", 2021. UNESCO Science Report 2021 | United Nations iLibrary (un-ilibrary.org)

.....

(7) "Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development", United Nations, 2015. Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development | Department of Economic and Social Affairs (un.org) .

"Our Common Agenda- United Nations Secretary General Report", United Nations, 2021. Secretary-General's report on "Our Common Agenda" (un.org).

(8) "Mobilizing Science, Technology and Innovation for SDGs – Japanese Actions in STI for SDGs", April 2021, Japan Science and Technology Agency. sti_for_sdgs_report_en_apr_2021.pdf (jst.go.jp)

(9) "Transforming Science, Technology and Innovation for a Sustainable and Resilient Society", by M.Nakamura, T.Arimoto et al., Science and Diplomacy (AAAS), November 2021. Transforming Science, Technology, and Innovation (STI) for a Sustainable and Resilient Society | Science & Diplomacy (sciencediplomacy.org)

(10) "Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019", July 2019, The United Nations. <https://sustainabledevelopment.un.org/globalsdreport/>.

(11) "Guidebook for the preparation of STI for SDGs Roadmaps", UN Inter-Agency Task Team on STI for SDGs, September 2021. https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/26937Guidebook_STI_for_SDG_Roadmaps_final_Edition.pdf

(12) "The World in 2050" by International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA). <https://iiasa.ac.at/web/home/research/twi/TWI2050.html>. ①1stReport : "Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals", July 2018. ② 2nd Report : "The Digital Revolution and Sustainable Development - Opportunities and Challenges", July 2019. ③3rd Report : "Innovations for Sustainability - Pathways to an efficient and sufficient post-pandemic future", July 2020.

.....

(13) "Three frames for innovation policy: R&D, systems of innovation and transformative change", J.Schot and W.E.Steinmueller, Research Policy 47(2018) 1554-1567.

(14) "Declaration of the 11th World Science Forum 2022 Science for Social Justice 9 December 2022, Cape Town South Africa. <https://worldscienceforum.org/contents/draft-declaration-of-world-science-forum-2022-is-now-open-for-comments-110144>.

(15) "Technology and Industrial Development in Japan- Building Capabilities by Learning,

Innovation, and Public Policy", Hideyuki Odagiri and Akira Goto, Oxford University

Press, 1996.

(16) "Panoramic views Report 20213, Center for R & D Strategy(CRDS), Japan Science and Technology Agency(JST), April 2023 (to be published) . Executive summaries for five reports in English. <https://www.jst.go.jp/crds/en/publications/index.html>

① Panoramic View Report : Integrated Version

② Panoramic View of the Environment and Energy Field

③Panoramic View of the Systems and Information S&T Field

④Panoramic View of the Nanotechnology/Materials Research Field

⑤Panoramic View of the Life Science and Clinical Research Field

5. 履修上の注意/Note:

Shown in the class

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7251J

科目名/Course Name: 計量分析演習

担当教員/Instructor: 鈴木 潤/SUZUKI Jun

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

EBPM (エビデンスに基づく政策立案) のための政策効果の測定には、各種サーベイ結果や統計等のデータの活用が欠かせない。本講義は、基本的なデータ分析を学生自らが実際に行うことによって、適切なデータの収集やクリーニング、加工、分析、結果の解釈、などを行うことができる能力を養うことを目的とする。計量分析のツールは日々進歩しているが、それを利用したり結果を解釈したりするためには知っておくべき前提や専門用語、手法の限界、陥りがちな落とし穴などが随所に存在する。本講義では統計学の理論や数学的説明を極力避け、実務的な応用と解説を重視するため、統計分析の初心者であっても受講可能である。本演習によって基本的な分析手法と結果を解釈する能力を身に着ければ、様々なレポートや論文で示されるデータ分析結果を自ら主体的に解釈し、他者による解釈の限界などを理解することも可能になるものと期待される。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1/2 データ分析の基礎と分析ソフト・データの準備

R、R コマンド、EZR、データの観察と記述統計

3/4 グループ間の比較と検定

変数の種類、平均値の比較、中央値の比較、相関、直交表

5/6 多変量解析の基礎

因子分析・主成分分析、クラスター分析

7/8 回帰分析-1

単回帰、OLS 重回帰、残差の診断、変数選択

9/10 回帰分析-2

ダミー変数、カテゴリーデータ：ロジスティック回帰（単項、多項、順序）、一般化線形モデル

11/12 回帰分析-3

時系列データ、パネルデータの重回帰

13/14 因果関係の分析、その他

内生性と操作変数、傾向スコアによる分析、その他

15 学生発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業におけるデータ分析とディスカッションへの参加・発表：100%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 : その他

神田善伸、2020年、EZR でやさしく学ぶ統計学「改訂3版」、中外医学社

逸見功、2018年、統計ソフト「R」超入門、ブルーバックス、講談社

森田果、2014年、実証分析入門、日本評論社

R. James et.al., 2013, An Introduction to Statistical Learning: with Applications in R (Springer Texts in Statistics)

John Fox, 2016, Using the R Commander: A Point-and-Click Interface for R (Chapman & Hall/CRC The R Series Book 35)

5. 履修上の注意/Note:

受講者は、統計ソフトのインストールおよびデータを保存するため、自らのPCを持参すること（OSとしてWindows 10搭載機、また操作性の観点からマウスの利用を推奨する。Mac OS搭載機については、OSのバージョンにより統計ソフトがインストールできないことがあるので、利用する場合は自己責任で）。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7261J

科目名/Course Name: 科学技術行政システムと指標

担当教員/Instructor: 林 隆之, 飯塚 倫子/Hayashi Takayuki and Iizuka Michiko

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

※本授業科目は、伊地知寛博 成城大学教授・文部科学省科学技術・学術政策研究所第1研究グループ客員総括主任研究官 による講義を中心に行う。

また、伊神正貫 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測・政策基盤調査研究センター長から第11回に特別講義をいただく。

本授業科目は、科学技術政策やイノベーション政策に関する基本的概念や議論について総合的に習得することを目的とし、とくに、科学技術政策を形成・執行・監視・評価するための科学技術行政システムと、科学技術政策の対象である科学技術、研究開発、イノベーションの状況並びに科学技術政策の対象として実施される施策・事業・機関等の妥当性や進捗状況及びこれらのインパクトについて把握するための測定や指標に関して、基本的な知識を習得することを目標とする。具体的には、授業で取り扱う対象について、その基本的な概念等を自らの言葉によって説明できるようになることを目標とし、履修後には、その習得した知識に基づき、政策分析・立案において個別の対象に応じて実際に活用できるようになることを図る。

なお、本授業科目において「科学技術政策」や「科学技術行政システム」は、科学的研究等を通じて得られる知識や技術を基にしたイノベーションの実現を支援したりするための環境の整備等を含めた「科学技術・イノベーション政策」や「科学技術・イノベーション行政システム」として、また、「科学技術指標」についても同様に、イノベーションの実現やイノベーション活動の状況を把握する「科学技術・イノベーション指標」として、それぞれ捉える。

本授業科目では、主として、履修者が事前に指示された文献・資料等を読んでいることを前提として、担当者により、適宜、理解に必要とされる内容について講義する。また、理解を深めるために、履修者が事

前に指示された文献・資料等に示されている内容の概要について報告することや、担当者及び履修者間で討議する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1. 科学技術行政システムと指標：導入
2. 研究システム，イノベーション・システム
3. 科学技術行政システムに関連する行政学（基礎）と行政法（基礎）
4. 科学技術・イノベーション政策の概要
5. 科学技術・イノベーション行政システム(1)
6. 科学技術・イノベーション行政システム(2)
7. 科学技術・イノベーション指標(1)
8. 研究開発・イノベーション統計
9. 国際的な統計・データベース(1)
10. 国際的な統計・データベース(2)
11. 日本における科学技術指標～NISTEP による取組（特別講師：伊神正貫氏）
12. 科学技術・イノベーション指標(2)
13. 施策・事業・機関等のアセスメント，モニタリング，エバリュエーションと測定，指標
14. 科学技術行政システムと指標：総括と学生発表(1)
15. 科学技術行政システムと指標：総括と学生発表(2)

3. 成績の評価方法/ Grading:

授業にて報告する内容(30%)，授業における討議への参加状況といった授業への貢献度（40%），最終課題の発表・レポート(30%)の内容により総合的に評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

〔行政システム関連〕

西尾勝，2001，『行政学』，新版．東京：有斐閣，4-641-04977-7.

藤田宙靖, 2017, 『行政法入門』, 第7版, 東京: 有斐閣, 978-4-641-13195-8.

〔科学技術・イノベーション政策関連〕

国立国会図書館調査及び立法考査局 (編), 2011, 『科学技術政策の国際的な動向 [本編]』, 東京: 国立国会図書館.

国立国会図書館調査及び立法考査局 (編), 2012, 『国による研究開発の推進-大学・公的研究機関を中心に- [本編]』, 東京: 国立国会図書館.

Edler, J., Cunningham, P., Gok, A., and Shapira, P. (eds.), 2016, Handbook of Innovation Policy Impact, Cheltenham: Edward Elgar, 978-1784711849.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2021, OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2021: Times of Crisis and Opportunity, Paris: OECD, 978-9264784321.

Fagerberg, J., Mowery, D. C., and Nelson, R. R. (eds.), 2005, The Oxford Handbook of Innovation, Oxford: Oxford University Press, 978-0199264551.

Hall, B. H., and Rosenberg, N. (eds.), 2010, Handbook of The Economics of Innovation, Amsterdam: Elsevier, 978-0444536112.

Dodgson, M., Gann, D.M., and Phillips, N. (eds.), 2014, The Oxford Handbook of Innovation Management, Oxford: Oxford University Press, 978-0199694945.

〔指標関連〕

Glanzel, W., Moed, H.F., Schmoch, U., and Thelwall, M. (eds.), 2019, Springer Handbook of Science and Technology Indicators, Springer, 978-3030025106.

Gault, F. (ed.), 2013, Handbook of Innovation Indicators and Measurement, Elgar, 978-0-85793-364-5.

文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP), 2022, 「科学技術指標 2022」, 調査資料, No.318, 東京 :

文部科学省科学技術・学術政策研究所.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2023, Main Science and Technology Indicators, Volume 2022 Issue 2, Paris: OECD Publishing, 2304-277X.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2017, OECD Science, Technology and Industry Scoreboard 2017: The digital transformation, Paris: OECD Publishing, 978-92-64-26881-4.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2019, Measuring the Digital Transformation: A Roadmap for the Future, Paris: OECD Publishing, Paris, 978-92-64-31199-2.

National Science Board (NSB) and National Science Foundation (NSF), 2022, Science and Engineering Indicators 2022: The State of U.S. Science and Engineering, NSB-2022-1. Alexandria, VA: National Science Foundation. 及びこれに附随する一連の報告書群.

European Commission, 2020, European Innovation Scoreboard 2022, Luxembourg: Publications Office of the European Union, 978-92-76-55508-7.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2015, Frascati Manual 2015: Guidelines for Collecting and Reporting Data on Research and Experimental Development, The Measurement of Scientific, Technological and Innovation Activities, Paris: OECD publishing, 978-926423901-2.

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) and Eurostat, 2018, Oslo Manual 2018: Guidelines for Collecting, Reporting and Using Data on Innovation, 4th Edition, The Measurement of Scientific, Technological and Innovation Activities, Paris: OECD Publishing / Luxembourg: Eurostat, 978-92-64-30460-4.

[国際的な統計・データベース]

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2019, Connecting ODA and STI for inclusive development: measurement challenges from a DAC perspective, DCD/DAC(2019)38.

Iizuka, M. and Hollanders, H., 2020, Innovation Indicators: for a critical reflection on their use in Low- and Middle-

Income Countries (LMICs), GRIPS Discussion Paper, #19-29.

その他講義にて紹介する。

5. 履修上の注意/Note:

報告については、履修者に事前に担当を割り当てる場合があるが、報告者に限らず履修者はすべて、各回の授業までに、授業内で指示された文献・資料等を読み、その内容に関して一定の理解をしておくように準備学習を行うことが必要である。英語で書かれた文献・資料等を用いることがあるが、その場合も単なる訳出だけでは不十分であり、内容をよく踏まえる必要がある。

授業の進展に応じて、事前に、対象とする文献・資料等の講読・報告や課題の実施を指示するが、これら指示された準備を十分に行って毎回の授業に臨むことを必須とする。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7271J

科目名/Course Name: 知的財産マネジメント I

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

知的財産保護法制、産官学それぞれにおける知的財産戦略、ならびに産学連携施策等を主要なテーマとする、オープンなセミナーに参加し、多様なバックグラウンドの講師や参加者とともに議論し相互に学びあうことで、科学技術イノベーション政策、ならびにナショナル・イノベーション・システムにおける知的財産の役割について理解し、その戦略的活用のための知見を修得する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

4/22 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

5/20 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

6/17 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

7/15 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

※学外の一般参加者の方々とともにご参加いただきます。

上記以外の予定については、講義内で連絡いたします。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義・セミナーへの参加、議論への貢献、レポートの提出、により評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

4-2 参考資料

A Filippetti, M Savona 2017. Universityindustry linkages and academic engagements: individual behaviours and firms barriers. Introduction to the special section. The Journal of Technology Transfer 42:719-729.

A Gerbin, M Drnovsek, 2016. Determinants and public policy implications of academic- industry knowledge transfer in life sciences: a review and a conceptual framework The Journal of Technology Transfer 41:979-1076.

B Bozeman, D Fay, CP Slade.2013. Research collaboration in universities and academic entrepreneurship: the-state-of-the-art. The Journal of Technology Transfer 38:1-67.

Baltaru, R.D. 2019. Do non-academic professionals enhance universities performance? Reputation vs. organisation. Studies in Higher Education, 44:7, 1183-1196.

C De Fuentes, G Dutrénit 2016. Geographic proximity and universityindustry interaction: the case of Mexico The Journal of Technology Transfer 41:329-348.

D Meissner. 2019. Public-Private Partnership Models for Science, Technology, and Innovation Cooperation, Journal of the Knowledge Economy10:1341-1361.

D Kanama, K Nishikawa. 2017 What type of obstacles in innovation activities make firms access university

knowledge? An empirical study of the use of university knowledge on innovation outcomes. *The Journal of Technology Transfer*, 42:141-157.

Etzkowitz, H., & Leydesdorff, L. 2000. The dynamics of innovation: from National Systems and Mode 2 to a Triple Helix of university-industry-government relations. *Research Policy*, 29, 109-123.

E Villani, E Rasmussen, R Grimaldi. 2017. How intermediary organizations facilitate university-industry technology transfer: A proximity approach *Technological Forecasting & Social Change* 114 86-102.

F. Brescia, G. Colombo, P. Landoni. 2016. Organizational structures of Knowledge Transfer Offices: an analysis of the worlds top-ranked universities. *The Journal of Technology Transfer* 41:132-151.

Ford, G. S., Koutsky, T. M., & Spiwak, L. J. 2018. An economic investigation of the valley of death in the innovation sequence. Phoenix Center for Advanced Legal & Economic Public Policy Studies. <http://www.osec.doc.gov/Report-ValleyofDeathFundingGap.pdf>. Accessed, 10.

Fernandez-Esquinas, M., Pinto, H., Yruela, M. P., & Pereira, T. S. 2016. Tracing the flows of knowledge transfer: Latent dimensions and determinants of university-industry interactions in peripheral innovation systems *Technological Forecasting and Social Change*, 113, 266-279.

JA Cunningham, EE Lehmann, M Menter N Seitz 2019. The impact of university focused technology transfer policies on regional innovation and entrepreneurship. *The Journal of Technology Transfer* 44:1451-1475.

J. Jones , G. Corral de Zubielqui. 2017. Doing well by doing good: A study of university-industry interactions, innovationness and firm performance in sustainability-oriented Australian SMEs. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 262-270.

Kergroach S., Meissner D., Vonortas N. 2018. Technology transfer and commercialisation by universities and PRIs: benchmarking OECD country policy approaches. *Economics of Innovation and New Technology*. Vol. 27. No. 5-6. P. 510-530.

M Takata, K Nakagawa, M Yoshida, T Matsuyuki, T Matsubishi, K Kato, Ashley J. Stevens. 2020. Nurturing entrepreneurs: How do technology transfer professionals bridge the Valley of Death in Japan? *Technovation*, 102161.

Vinh Sum Chau, Mark W. Gilman, Cristina Maria Serbanica. 2017. Aligning university-industry interactions: The role of boundary spanning in intellectual capital transfer. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 199-209.

Y Tang, K Motohashi, X Hu, A Montoro-Sanchez. 2020. University-industry interaction and product innovation performance of Guangdong manufacturing firms: the roles of regional proximity and research quality of universities. *The Journal of Technology Transfer* 45 (2), 578-618.

5. 履修上の注意/Note:

この講義は、科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の方々については、2年目以降の方々が受講することを想定しています。

1年目の方々は、土曜日を開講される他の講義を受講してください。

（本学の修士課程を修了後に博士課程に進学した方などで、すでにそれらの科目の単位を取得済みの場合は、その限りではありません。）

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI7281J

科目名/Course Name: 知的財産マネジメントⅡ

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

知的財産保護法制、産官学それぞれにおける知的財産戦略、ならびに産学連携施策等を主要なテーマとする、オープンなセミナーに参加し、多様なバックグラウンドの講師や参加者とともに議論し相互に学びあうことで、科学技術イノベーション政策、ならびにナショナル・イノベーション・システムにおける知的財産の役割について理解し、その戦略的活用のための知見を修得する。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

10/21 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

11/18 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

12/16 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

1/20 (土) 3 限-5 限 (13:00 開始予定) 知的財産マネジメント研究会への参加

※学外の一般参加者の方々とともにご参加いただきます。

上記以外の予定については、講義内で連絡いたします。

3. 成績の評価方法/ Grading:

講義・セミナーへの参加、議論への貢献、レポートの提出により評価する。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-2 参考資料

A Filippetti, M Savona 2017. Universityindustry linkages and academic engagements: individual behaviours and firms barriers. Introduction to the special section. The Journal of Technology Transfer 42:719-729.

A Gerbin, M Drnovsek, 2016. Determinants and public policy implications of academic- industry knowledge transfer in life sciences: a review and a conceptual framework The Journal of Technology Transfer 41:979-1076.

B Bozeman, D Fay, CP Slade.2013. Research collaboration in universities and academic entrepreneurship: the-state-of-the-art. The Journal of Technology Transfer 38:1-67.

Baltaru, R.D. 2019. Do non-academic professionals enhance universities performance? Reputation vs. organisation. Studies in Higher Education, 44:7, 1183-1196.

C De Fuentes, G Dutrénit 2016. Geographic proximity and universityindustry interaction: the case of Mexico The Journal of Technology Transfer 41:329-348.

D Meissner. 2019. Public-Private Partnership Models for Science, Technology, and Innovation Cooperation, Journal of the Knowledge Economy10:1341-1361.

D Kanama, K Nishikawa. 2017 What type of obstacles in innovation activities make firms access university

knowledge? An empirical study of the use of university knowledge on innovation outcomes. *The Journal of Technology Transfer*, 42:141-157.

Etzkowitz, H., & Leydesdorff, L. 2000. The dynamics of innovation: from National Systems and Mode 2 to a Triple Helix of university-industry-government relations. *Research Policy*, 29, 109-123.

E Villani, E Rasmussen, R Grimaldi. 2017. How intermediary organizations facilitate university-industry technology transfer: A proximity approach *Technological Forecasting & Social Change* 114 86-102.

F. Brescia, G. Colombo, P. Landoni. 2016. Organizational structures of Knowledge Transfer Offices: an analysis of the worlds top-ranked universities. *The Journal of Technology Transfer* 41:132-151.

Ford, G. S., Koutsky, T. M., & Spiwak, L. J. 2018. An economic investigation of the valley of death in the innovation sequence. Phoenix Center for Advanced Legal & Economic Public Policy Studies. <http://www.osec.doc.gov/Report-ValleyofDeathFundingGap.pdf>. Accessed, 10.

Fernandez-Esquinas, M., Pinto, H., Yruela, M. P., & Pereira, T. S. 2016. Tracing the flows of knowledge transfer: Latent dimensions and determinants of university-industry interactions in peripheral innovation systems *Technological Forecasting and Social Change*, 113, 266-279.

JA Cunningham, EE Lehmann, M Menter N Seitz 2019. The impact of university focused technology transfer policies on regional innovation and entrepreneurship. *The Journal of Technology Transfer* 44:1451-1475.

J. Jones , G. Corral de Zubielqui. 2017. Doing well by doing good: A study of university-industry interactions, innovationness and firm performance in sustainability-oriented Australian SMEs. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 262-270.

Kergroach S., Meissner D., Vonortas N. 2018. Technology transfer and commercialisation by universities and PRIs: benchmarking OECD country policy approaches. *Economics of Innovation and New Technology*. Vol. 27. No. 5-6. P. 510-530.

M Takata, K Nakagawa, M Yoshida, T Matsuyuki, T Matsuhashi, K Kato, Ashley J. Stevens. 2020. Nurturing entrepreneurs: How do technology transfer professionals bridge the Valley of Death in Japan? *Technovation*, 102161.

Vinh Sum Chau, Mark W. Gilman, Cristina Maria Serbanica. 2017. Aligning university-industry interactions: The role of boundary spanning in intellectual capital transfer. *Technological Forecasting & Social Change* 123, 199-209.

Y Tang, K Motohashi, X Hu, A Montoro-Sanchez. 2020. University-industry interaction and product innovation performance of Guangdong manufacturing firms: the roles of regional proximity and research quality of universities. *The Journal of Technology Transfer* 45 (2), 578-618.

5. 履修上の注意/Note:

この講義は、科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の方々については、2年目以降の方々が受講することを想定しています。

1年目の方々は、土曜日を開講される他の講義を受講してください。

（本学の修士課程を修了後に博士課程に進学した方などで、すでにそれらの科目の単位を取得済みの場合は、その限りではありません。）

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8011E

科目名/Course Name: Research Seminar I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a course to prepare PHD and Masters students for thesis writing. This course covers subject such as: how to design research, define research questions, build hypothesis as well as apply quantitative and qualitative methodologies that are required to proceed with the research.

This course strongly encourages the student participation in terms of oral presentation and participation on discussion. Almost all the classes will have either presentation or discussion time to share view to deepen the understandings that are acquired from readings and lectures.

This course is first attempt to design a course to prepare for the thesis writing. Although this course is designed for the first year PHD and Master students, all the PHD students are strongly recommended to attend.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

meeting

Title of lecture

Assignments

Required readings*

1

Research Design, epistemology, research questions

Bring your research proposal and prepare to discuss your

research design

(1)序章、第 1 : (2) ch1&ch6

2

Hypothesis building

Short presentation on your progress in building Research

Questions (at the start of the session) & discussions

(1)第 2 章、(2) ch6

Questions

3

Quantitative methods

Discuss your choice of methodology to answer your Research

(1)第4章; (2) ch9

4

Qualitative Methods

Case study method

(1); (2)ch10 if needed (3)

5

Surveying literature, Using Theory

Literature surveys

(1) 第3章, (2) ch2, ch7

6

Presentation of his/her thesis proposal

Presentations and Q&A

*chapter number needs to be reviewed again as edition changes of the book may alter the numbering of the chapters.

Books used in the lecture ((1) and (2) are available in GRIPS library):

(1) Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks: Sage.

a.人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン,

J.W.クレスウェル, V.L.プラノ クラーク著；大谷順子訳, 京都：北大路書房, 2010.11

b. 研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法

J.W.クレスウェル著 操華子 (翻訳), 森岡 崇 (翻訳)

(2) 伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会, 2011年。

(3) Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation and contribution to the discussion (pass or fail)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please refer to the 2.Course Outline. In addition, there are as follows:

Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks: Sage.

人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン,J.W.クレスウェル,V.L.プラノ クラーク著；大谷順子訳, 京都：北大路書房。

研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法 J.W.クレスウェル著操 華子 (翻訳), 森岡 崇 (翻訳)

伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会, 2011年。

Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

Alexander George and Andrew Bennett. 2005. Case Studies and Theory Development in the Social Sciences, MIT Press.

Andrew Bennett and Jeffrey Checkel. 2015. Process Tracing: From Metaphor to Analytic Tool, Cambridge University Press.

Other relevant papers:

Bennett, A. and Elman, C. (2006) Complex Causal Relations and Case Study Methods: The Example of Path Dependence, Political Analysis, Vol 14 pp.250-267.

Bennett, A. and Elman, C. (2007) Case Study Methods in the International Relations Subfield, Comparative Political Studies, Vol 40, No. 2, pp.170-195.

Eisenhardt, K.M (1989) Building Theories from Case Study Research, The Academy of Management Journal, Vol. 14, No. 4 (Oct., 1989), pp. 532-550.

Eisenhardt, K.M(2007) Theory Building from Cases: Opportunities and Challenges, The Academy of Management Journal, Vol. 50, No. 1 (Feb., 2007), pp. 25-32.

General guideline for writing thesis

Patcheko K.(2018) Research Questions, Hypothesis, and Purpose Statements, in Patcheko, K. How to Write about Economics and Public Policy, Elsevier, Academic Press, pp 93-117.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8011E

科目名/Course Name: Research Seminar I

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This is a course to prepare PHD and Masters students for thesis writing. This course covers subject such as: how to design research, define research questions, build hypothesis as well as apply quantitative and qualitative methodologies that are required to proceed with the research.

This course strongly encourages the student participation in terms of oral presentation and participation on discussion. Almost all the classes will have either presentation or discussion time to share view to deepen the understandings that are acquired from readings and lectures.

This course is first attempt to design a course to prepare for the thesis writing. Although this course is designed for the first year PHD and Master students, all the PHD students are strongly recommended to attend.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

meeting

Title of lecture

Assignments

Required readings*

1

Research Design, epistemology, research questions

Bring your research proposal and prepare to discuss your research design

(1)序章、第 1 : (2) ch1&ch6

2

Hypothesis building

Short presentation on your progress in building Research Questions (at the start of the session) & discussions

(1)第 2 章、(2) ch6

Questions

3

Quantitative methods

Discuss your choice of methodology to answer your Research

(1)第4章; (2) ch9

4

Qualitative Methods

Case study method

(1); (2)ch10 if needed (3)

5

Surveying literature, Using Theory

Literature surveys

(1) 第3章, (2) ch2, ch7

6

Presentation of his/her thesis proposal

Presentations and Q&A

*chapter number needs to be reviewed again as edition changes of the book may alter the numbering of the chapters.

Books used in the lecture ((1) and (2) are available in GRIPS library):

(1) Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks: Sage.

a.人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン,

J.W.クレスウェル, V.L.プラノ クラーク著；大谷順子訳, 京都：北大路書房, 2010.11

b. 研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法

J.W.クレスウェル著 操華子 (翻訳), 森岡 崇 (翻訳)

(2) 伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会, 2011年。

(3) Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Participation and contribution to the discussion (pass or fail)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Please refer to the 2.Course Outline. In addition, there are as follows:

Creswell, J. W. 2003. Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches. Thousand Oaks: Sage.

人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン,J.W.クレスウェル,V.L.プラノ クラーク著；大谷順子訳, 京都：北大路書房。

研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法 J.W.クレスウェル著操 華子 (翻訳), 森岡 崇 (翻訳)

伊藤修一郎「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」東京大学出版会, 2011年。

Yin, Robert 2012. Applications of Case Study Research, Thousand Oaks: Sage.

Alexander George and Andrew Bennett. 2005. Case Studies and Theory Development in the Social Sciences, MIT Press.

Andrew Bennett and Jeffrey Checkel. 2015. Process Tracing: From Metaphor to Analytic Tool, Cambridge University Press.

Other relevant papers:

Bennett, A. and Elman, C. (2006) Complex Causal Relations and Case Study Methods: The Example of Path Dependence, Political Analysis, Vol 14 pp.250-267.

Bennett, A. and Elman, C. (2007) Case Study Methods in the International Relations Subfield, Comparative Political Studies, Vol 40, No. 2, pp.170-195.

Eisenhardt, K.M (1989) Building Theories from Case Study Research, The Academy of Management Journal, Vol. 14, No. 4 (Oct., 1989), pp. 532-550.

Eisenhardt, K.M(2007) Theory Building from Cases: Opportunities and Challenges, The Academy of Management Journal, Vol. 50, No. 1 (Feb., 2007), pp. 25-32.

General guideline for writing thesis

Patcheko K.(2018) Research Questions, Hypothesis, and Purpose Statements, in Patcheko, K. How to Write about Economics and Public Policy, Elsevier, Academic Press, pp 93-117.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8021E

科目名/Course Name: Research Seminar II

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should resister to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Sminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/Note:

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8021E

科目名/Course Name: Research Seminar II

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should resister to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Sminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/Note:

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8031E

科目名/Course Name: Research Seminar III

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Seminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/ **Note:**

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8031E

科目名/Course Name: Research Seminar III

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Seminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/Note:

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8041E

科目名/Course Name: Research Seminar IV

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II, III, IV) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II, and III, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar IV will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II, III, IV) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I usually after 6 months of his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 12 months), III (after 18 months), and IV (after 24 months) subsequently in this order.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/Note:

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8041E

科目名/Course Name: Research Seminar IV

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II, III, IV) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II, and III, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar IV will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II, III, IV) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I usually after 6 months of his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 12 months), III (after 18 months), and IV (after 24 months) subsequently in this order.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/Note:

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8051E

科目名/Course Name: Energy Security

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course aims to deepen the knowledge of energy security and of the way to review the energy security policy measurement for creating policy recommendation to improve security conditions.

The course is developed together with Mr. Ichiro Kutani, Managing Director at the Institute of Energy Economics, Japan.

In the first half of the course, we explain major issues related with energy security based on the definition by IEA (International Energy Agency).

We also provide an expert lecture and exercise of geopolitical aspect in the Gulf.

In the second half, we explain the way of preliminary assessment over energy security condition by using practical data analysis and expect students to create policy recommendations to improve security conditions mainly for developing nations.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1 Introduction (Nei, Kutani)

Outline of the course, basic concept of energy security etc.

Week 2 Outline of Energy Policy(Nei, Kutani)

Explain the outline of energy policy including trade-off relationship between energy security, economic way of supply and environmental issues.

Week 3 Oil supply security (Nei)

History of the change in the area of crude oil supply after the world war II、 the way to overcome supply interruption occurred in the era of oil crisis,

Week 4 Middle East(Dr. Koji Horinuki, JIME at IEEJ)

Turmoil in MENA and its affection over energy security, factors of geopolitical risk, case study of reducing the risk in the region..

Week 5 Middle East(Dr. Koji Horinuki, JIME at IEEJ)

Students will make presentations based on the brief analysis by using data provided by Dr. Koji Horinuki about Economic condition of MENA countries, OPEC etc.

Week 6 Counter measures for short term energy security (Nei)

Management of emergency oil response systems, security management of the choke points etc.

Week 7 Supply security in non-oil fuel sources (Nei)

Coal, Natural Gas, Renewable etc.

Week 8 Energy Security in Developing Nations1(Kutani)

Energy balance and appropriate energy mix, Selection and concentration, Centralized or distributed power system including the potential of renewable energy and its limitation, Tariff system and subsidy , etc.

Week 9 Energy Security in Developing Nations 2 (Kutani)

Building energy infrastructure and public acceptance, how to get finance for construction, energy market structure and institutional arrangement including regulation or deregulation, etc.

Week 10 How to evaluate the condition of energy security (Kutani)

Definition of energy security and security index, case study made by METI/ERIA/WEF, case study of regional cooperation for improving energy security etc.

Week 11 Nuclear Security(Nei)

Cause and consequences of TEPCO Fukushima Nuclear Accident, NPT etc.

(In the week the other energy policy related classes will be the lecture class on Nuclear.

Week 12 Group Discussion1(Kutani, Nei)

Students form several groups with 3-4 member for each.

We will give statistical data of a country to each group differently and ask to analyze the condition of energy security for creating policy recommendation.

Week 13 Group Discussion 2 (Kutani, Nei)

Students make presentations and discussion

Week 14 Long term energy supply security(Nei)

Risk for maintaining adequate investment of resource development etc.

(It might be combined with the field trip to JOGMEC TRC in order to learn more about the risk of investment over the resource development.)

Week 15 Summary (Kutani, Nei)

Summary discussion of the course and further issues to research

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students etc.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Course grades will be based on the both presentations which are one for middle east and the other for the security of developing country by the group discussion (80%) and class participation (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

- ①World Energy Outlook 2022, IEA
- ②Energy Supply Security 2014,IEA
- ③Energy & Security-strategies for a world in transition, Jan H. Kalicki/David L. Goldwyn
- ④Energy Security in the Era of Climate Change: The Asia-Pacific Experience, Luca Anceschi, Jonathan Symons

5. 履修上の注意/Note:

Students are expected to take the class Outline of Energy Policy and/or Energy and Environmental Science and Technology in advance.

Students are highly recommended to take the class Energy Data Analysis for making exercises more effective.

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8061E

科目名/Course Name: Energy Policy in Japan

担当教員/Instructor: 根井 寿規/NEI Hisanori

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Energy Policy is one of the most important policy agenda in Japan especially after the TEPCO Fukushima Accident in 2011.

In this course, I will explain most factors for planning and enforcement of energy policy in Japan.

Energy Policy in Japan is rather unique based on its history after the World War II.

The main questions we have are the root cause of the Fukushima Accidents, lack of national champion of oil & gas industry, regional monopoly of power industry, less improved liquid market in energy fields.

During the first half, I will explain main issues of energy policy we should solve, supply & demand figures, and changes of global circumstances which affect determinations of appropriate energy mix in Japan.

In the latter half, I will explain each area of interest together with experts in Government of Japan in more detail and would like to discuss recent energy issues we face.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Week 1: Introduction

Main issues of Energy Policy in Japan etc.

Week 2: Policy Framework

Major Policy framework of Energy Policy in Japan etc.

Week3: Japanese Energy Policy

IEAs Policy Review over Japan

Week4: Oil Policy

Unique situation of oil market in Japan etc.

Week5: Nuclear Policy

Nuclear Development before the FUKUSHIMA accident and Policy Framework

Week6: Deregulation & Power Market Reform

Deregulation and Institutional Innovation in the Energy Sector after 1980s , including latest situation of power market reform.

Week7: Discussions on Major Issues of Energy Policy

Brief explanations on remained issues such as Coal, Natural Gas, Global Warming, Renewable, Energy Conservation.

Term Paper should be submitted by the next Tuesday.

Week8: Latest Energy Policy in Japan

I will invite a director of METI to explain about it.

Week9: Energy Policy and Global Warming Issues in Japan

I will invite an experts on this issues to explain including the result of COP 27.

Week10: Energy Conservation and Renewable Energy

I will invite a director of METI to explain about it.

Week11: Nuclear Policy related with the FUKUSHIMA accident

I will invite Dr. Tomoya Ichimura of NRA to explain about it.

Week 12: International Activities

IEA, Cooperation with OPEC , Middle East and Russia

Week 13: Energy Technology Policy in Japan

History , Major Technology Option for Net Zero Emission Energy System etc.

Week 14: Field Trip to JOGMEC TRC

Field Trip to the Technology and Research Center of JOGMEC(Energy and Metals National Corporation) at Makuhari

Learn about the state of the art technology for natural resource development including CCS, Carbon Recycling and Hydrogen.

*Students attending the class Energy and Environmental Science and Technology) will come together.

Week 15: Energy Policy in Japan for the Future

Discussion of Energy Policy in Japan for the Future

Term Paper should be submitted by the next Tuesday.

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students etc.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Term Papers (Twice) 30% for each, Attendance and Participation of the Discussion 20% for each.

Term Papers are composed of about 1000words per each.

Students who take the class of Energy and Environmental Science & Technology can submit a combined term paper.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

①White Paper of Energy in Japan 2022 (Japanese)

<http://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022pdf/>

②History of Policy by Ministry of International Trade and Industry(MITI)-Energy Policy(Japanese)

Important contents of these will be provided in class materials in English.

③Energy Policies of IEA Countries; Japan 2020 Review

<https://www.iea.org/reports/energy-policies-of-iea-countries-japan-2020-review>

④6th Strategic Energy Plan, GOJ, 2021

https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf

5. 履修上の注意/Note:

Students are highly recommended to take the class Outline of Energy Policy in advance for getting basic knowledge of energy policy in general.

Students are highly recommended to take the class Energy and Environmental Science & Technology together becau

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8071E

科目名/Course Name: Research Seminar V

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique other's ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Seminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/ **Note:**

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8071E

科目名/Course Name: Research Seminar V

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Seminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/ **Note:**

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8081E

科目名/Course Name: Research Seminar VI

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋、冬/Fall, Winter

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique other's ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Seminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/ **Note:**

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8081E

科目名/Course Name: Research Seminar VI

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 春、夏/Spring, Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

Research Seminar series (II-VI) is intended to assist doctoral students in the preparation of a dissertation. In Research Seminar II-IV, student will make presentations on the progress of his/her research project. The goal is to apply cumulative understanding and skills to specific research situation, to communicate research ideas and their appropriate theoretical and methodological issues effectively and efficiently, and to critique others ideas paying particular attention to both theoretical and methodological rigor and reality. It is also supposed to be training for presentations at academic conference and for writing an academic journal paper. Research Seminar V-VI will focus on key issues preparing dissertation. The whole structure of his/her dissertation as well as the format standards and project management will be reviewed.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Research Seminars (II-VI) will be open every month (Fall/Winter term, and Spring/Summer term) except for August at the same time to encourage vigorous discussion. Students should register to Research Seminar I after his/her entry to the program, then Research Seminar II (after 6 months), III (after 12 months), and IV (after 18 months) V (after 24 months) VI (after 30 months) subsequently in this order. For the students who graduate earlier than the standard period of study, Research Seminar V and VI are categorized as optional courses.

Each student is to present AT LEAST 1 time per 6 months period.

Each student is to be a discussant AT LEAST 1 times per 6 months periods.

Presenters need to give paper/slide presentations to the assigned discussant at least 3 days before the presentation day.

Each presentation should be STRICTLY 20 mins. Time should not be exceeded.

The discussant will have 5-10 mins to discuss the presentation. This will be followed by general discussion (10-15mins).

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

To pass the course, students are required to participate actively to the seminar (presentations, Q&A and discussions).

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

No specific textbook.

5. 履修上の注意/ **Note:**

As this research seminar may be a good opportunity to prepare for your presentations (at oral QE, academic conference, and dissertation defense),

the students are strongly encouraged to participate as many times as you can.

In addition, the studen

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8151J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策特論VI

担当教員/Instructor: 隅藏 康一/SUMIKURA Koichi

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

3日間の集中講義として、SciREX サマーキャンプ (9月8日(金)~9月10日(日))の全日程に参加し、特定の政策課題に対するグループワークに参加して、政策提言を行う。8つ程度のグループワークが設定され、グループごとに討論・準備を行い、最終プレゼンテーションを実施する。科学技術イノベーションと社会との関りを多角的な視点から学ぶため、多様なバックグラウンドの参加者と具体的課題を念頭に政策提言までのプロセスを体験する。※オンライン開催となる可能性もあります。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

1日目 オリエンテーション、各グループ顔合わせ、グループワークなどを予定

2日目 グループごとにサイトビジットやディスカッションを予定、中間発表会を実施予定

3日目 グループワークの後、最終発表会を予定

3. 成績の評価方法/ Grading:

サマーキャンプにおける議論への参加と貢献、特に、グループワーク（事前準備、サマーキャンプ中の討論・準備、プレゼンテーションなど）への参加と貢献の状況を評価の対象とする。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

グループワークの内容に応じて、各グループの担当者から指示がある。

5. 履修上の注意/Note:

本講義は、2023年度のSciREX サマーキャンプ (9月8日(金)~9月10日(日))の全日程への参加を前提とするものである。サマーキャンプへは、SciREX事業の拠点校の学生や教員も参加し、いくつかのグループに分かれてグループワークを行う。多様な背景を有する学生間でのディスカッションを期待する。※オンライン開催の可能性もある。

※宿泊希望者は会場の宿泊施設に宿泊することができるが、宿泊なしで参加することも可能である。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:STI8161J

科目名/Course Name: 科学技術イノベーション政策特論Ⅶ

担当教員/Instructor: 上山 隆大/UEYAMA Takahiro

学期名/Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

講義タイトル「科学技術政策・イノベーション政策について考える」

この講義は、公共政策の一分野としての科学技術政策さらにより広い意味でのイノベーション政策を扱う。高度知識基盤社会に突入しつつある国々では、先端科学技術や科学知識をどのように生み出すのが経済成長に不可欠の要因となっている。加えて、近年では科学技術に由来するイノベーションの含意が拡大し、グローバルな社会的インパクトを勘案する方向へと進んでいる。

この講義では、近代社会の成立とともに明確となった科学という知的営為が、どのような背景の中で経済的要因と不可分な活動と見なされるようになったのか、また国家の運営の中で捉えるようになったのはなぜか、またそれが国家の政策として形作られるプロセスいかなるものか、といった問題をまず取り上げる。また、科学技術を生み出す拠点としての大学がどのように生まれ、変貌を遂げつつあるのか。人類の知の探求を行なうはずの大学が、社会全体の経済活動にどのように関わるようになって行ったのか。大学における研究がどのように特許の対象となり、その動きが社会的な問題を引き起こしているのか。それを国家的な戦略の中で考えるとは如何なる意味をもっているのかについて触れる。最後に、近年の科学技術・イノベーション会議における政策形成について議論し講義のまとめとする。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

第1回 オリエンテーション

科学・技術・社会（産業）の関係とはなにか？

技術革新とイノベーションは同じだろうか？

第2回 アメリカにおける科学技術政策

アメリカのイノベーションとそのグローバルな影響

第3回 ナショナル・イノベーション・システムとは何か？

第4回 大学の役割を考え直す

産学連携とは何か？：その始まりと歴史、アメリカの経験

トリプスヘリクス（大学・企業・政府）の出現：日本の経験との違い

第5回 日本における高等教育の改革と科学技術政策

第6回 我が国の科学技術・イノベーション政策

第7回 科学技術・イノベーション会議の役割

第8回 総括・ディスカッション

3. 成績の評価方法/ Grading:

Class participation and attendance is part of the grade.

Individual paper 70%

Class participation 30%

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

日本語文献の一部を挙げる。

- ・ 後藤晃・小田切宏之. サイエンス型産業 , NTT 出版, 2003, 409p.
- ・ S・シェーン. 大学発ベンチャー. 中央経済社、2004, 385p
- ・ 小田切宏之. バイオテクノロジーの経済学, 2006, 304p.
- ・ ミケーレ・ボルドリノ他. <反>知的独占：特許と著作権の経済学, NTT 出版. 2010, 433p.
- ・ 上山隆大. アカデミックキャピタリズムを超えて：アメリカの大学と科学研究の現在. NTT 出版. 2010. 331p
- ・ クレイトン・クリステンセン. イノベーションのジレンマ. 2001, 327p.
- ・ アナリー・サクセニアン. 現代の二都物語：なぜシリコンバレーは復活し、ボストンルート 128 は沈んだか. 日経 BP, 350p.

5. 履修上の注意/Note:

日程や詳細については、学期開始前に別途連絡。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:UPP1110J

科目名/Course Name: まちづくり法の基礎

担当教員/Instructor: 高橋 正史/TAKAHASHI Masafumi

学期名/Term: 春前期/Spring (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

「まちづくり」の意味や関連する政策の範囲は幅広いが、中核にあるのが、都市政策、住宅・建築政策であり、それらの政策を進めるに当たり必要なものとして、都市計画法や建築基準法をはじめとする、都市法制、住宅・建築法制が整備されている。したがって、近年の社会経済情勢の変化を踏まえた都市政策、住宅・建築政策を検討するに当たっては、これらの法制度に関する体系的な理解が前提として必要である。

本講義においては、都市計画法や建築基準法を中心とする関連法制度の全体像を概観するとともに、都市計画法における土地利用規制、建築基準法における単体規定及び集団規定、その他都市政策、住宅・建築政策に関する個別法のうち主なものを対象に、これらの概要を立法趣旨も含めて学ぶことで、本学における論文執筆等の研究活動や、今後まちづくり関係業務に従事する際に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。

初学者にとっても理解が容易であるよう、基礎知識から順を追って説明するが、これまで関係業務に従事した経験がある者にとっても、都市法制、住宅・建築法制を立法趣旨も含めて体系的に説明することから、知識の整理につながり有益であると考えます。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

本講義は、おおむね以下の流れで進めることとする。

- ガイダンス、まちづくりの歴史
- 都市計画法（全体の概要）
- 都市計画法（土地利用計画（区域区分・地域地区・地区計画）、都市計画決定権者・決定手続き）
- 都市計画法（都市施設、市街地開発事業）
- 都市計画法（開発許可）
- 土地区画整理法（土地区画整理事業）
- 都市再開発法（市街地再開発事業）
- 都市再生特別措置法（大都市の国際競争力強化、全国の都市再生、コンパクトプラスネットワークの推進）
- 住宅・建築法制（法体系と全体の概要）
- 建築基準法（単体規定（敷地・構造・防火・その他））
- 建築基準法（集団規定（接道・用途制限・形態規制））
- マンション法制（区分所有法、マンション建替え法、マンション管理法）
- 公共用地と土地収用法、所有者不明土地問題
- 少子高齢化等に対応した都市・住宅政策の課題（行政担当者からの最近の政策動向の説明を予定）

※ 講師の都合等により講義の内容・順番が変更となることがあり得る。

3. 成績の評価方法/ Grading:

レポートを重視し、講義時における貢献度（出席状況を含む。）も加味し、可否を判定する。

レポートの内容、提出期限については、初回ガイダンスにて説明の予定である。

レポートの提出期限に遅延した者は、原則として単位を認定しない。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

4-1 : 講義の際に講師より資料を配布するため、事前の準備の必要はない。

4-2 : 国土交通六法（社会資本整備編）（東京法令出版）、国土交通白書（国土交通省）、WHITE PAPER ON LAND, INFRASTRUCTURE, TRANSPORT AND TOURISM IN JAPAN（Ministry of Land, Infrastructure and Transport）ただし、法令については e-gov 法令検索、国土交通白書については国土交通省 HP より、それぞれ参照可能であることから、特段の準備の必要はない。

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:UPP3280J

科目名/Course Name: 事業評価手法

担当教員/Instructor: 城所 幸弘, 岡本 亮介, 細江 宣裕/KIDOKORO Yukihiro, OKAMOTO Ryosuke and HOSOE Nobuhiro

学期名/Term: 夏学期/Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

本講義では、費用便益分析の基礎理論を復習しつつ、現実の政策分析に応用するための事例研究を行う。本講義は、受講者の修士論文執筆に資するため、実践的活用性に配慮して講義を行う。受講者が、様々な分野の自己の興味がある政策に対して、自ら正確な費用便益分析ができることを目標としている。

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

以下は、各回の講義の予定であるが、講義の順番、内容等の変更がありうる。

第一部 費用便益分析の基礎理論（復習）

- 第1回 費用便益分析の理論的基礎-消費者余剰アプローチとヘドニックアプローチ
- 第2回 消費者余剰アプローチの概要
- 第3回 消費者余剰アプローチによる政策評価分析事例
- 第4回 ヘドニックアプローチの概要
- 第5回 ヘドニックアプローチによる政策評価分析事例

第二部 費用便益分析（政策評価）の実際

- 第6回 消費者余剰アプローチと国土交通省の費用便益評価の実際
- 第7回 道路整備事業の費用便益分析等の事例
- 第8回 航空・空港関係プロジェクトの費用便益分析の方法
- 第9回 日本における航空・鉄道ネットワークの費用便益分析
- 第10回 一般均衡アプローチ（1）内航海運の費用便益分析
- 第11回 一般均衡アプローチ（2）電力自由化の政策評価・事例研究
- 第12・13回 都市住宅政策の分析事例
- 第14・15回 受講者による費用便益分析の発表

3. 成績の評価方法/ Grading:

各講師の課題(30%)、受講者の発表（30%）、レポート（40%）による。
講義には毎回出席することが求められる。

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

第一部に関しては、以下を参照のこと。第二部に関しては、各講師が、適宜、授業の中で紹介する。

4-1

金本良嗣、蓮池勝人、藤原徹（2006）『政策評価マイクロモデル』東洋経済新報社

A. E. Boardman, D. H. Greenberg, A. R. Vining, D. L. Weimer (2018), Cost-Benefit Analysis-Concepts and Practice-5th Edition, Cambridge University Press.

5. 履修上の注意/Note:

本講義の受講の前提として「ECO2710J/7711J 費用便益分析」の単位取得が望ましい。

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: YLP5000E

科目名/ Course Name: Introduction to Japan

担当教員/ Instructor: PRESSELLO Andrea/PRESSELLO Andrea

学期名/ Term: 秋前期/Fall (Session I)

1. 本講義の概要及び到達目標/ **Course Description and the Learning Objectives :**

The aim of this course is to provide a basic understanding of Japan through the discussion of its history and culture. We will explore the major transformations, issues, and challenges faced by Japan during the centuries until today. For this purpose, domestic socio-political-economic and cultural developments as well as Japanese relations with the world will be discussed. The following main questions will be addressed: what are the important transformations in Japanese history and culture? What factors explain change and continuity? How has Japan interacted with the world in the course of its history? This is a required course for students of the Young Leaders Program.

2. 各授業のテーマ/ **Course Outline (Schedule for Each Class):**

Understanding Japan: religion, values, geography, and traditional culture

Pre-modern Japan: socio-political-economic transformations

Cultural flourishing in the Edo period (1603-1868)

Opening of Japan to the West and beginning of modernization

The making of modern institutions, economy, and society in the Meiji period (1868-1912)

Emergence of Japan as an international power

Field trip

From Taishō democracy to militarism

World War II, defeat, and the Occupation of Japan

Postwar Japan: recovery and issues I

Postwar Japan: recovery and issues II

Field Trip

Contemporary Japan: challenges and issues

3. 成績の評価方法/ **Grading:**

Term paper 60%; Participation in class 40%.

4. 参考文献等/ **Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)**

There is no textbook for this course. Reading materials (journal articles, book chapters, other) will be provided by the instructor.

5. 履修上の注意/ **Note:**

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: YLP5010E

科目名/ Course Name: Colloquium

担当教員/ Instructor: 高田 寛文/TAKADA Hirofumi

学期名/ Term: 秋、春/Fall, Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

This course will provide YLP students with an opportunity to listen and discuss various topics in public administration and public policies with young government leaders and frontrunners in various fields, with the objectives of furnishing the students with profound knowledge and understanding on policy issues viewed from a broad perspective.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Topics of each class will be provided by the respective guest speakers.

However, lectures by speakers from government organizations will be mainly focused on organizational structure, missions, issues and challenges of their organizations.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass/Fail

Following matters will be taken into consideration in grading:

1. Attendance and contribution to the discussion in the class.
2. Reports to be submitted after the class.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

No required textbooks.

Handouts will be prepared by the lecturers.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: YLP5020E

科目名/Course Name: Independent Study

担当教員/Instructor: 増山 幹高 他/MASUYAMA Mikitaka, et al.

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Submit your proposed topic and outline of your Independent Study by e-mail.

-page: one page (use the designated registration form)

-deadline: Early December

We will review your proposed theme and assign you an adviser and sub-adviser given your topic and his/her specialty.

If you have a preferred adviser, you should ask him/her for their availability as an adviser before submitting the proposal.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

- January: Selection of advisers

- July: Presentation of the study (10-minute presentation, 5-minute Q&A)

- End of July Submission of the paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

A-E grade will be awarded based on the performance at presentations and the quality of a thesis.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

5. 履修上の注意/Note:

For your adviser and sub-advisor

Submit two photocopies to the YLP-SOG coordinator (International Program Team) by the designated date.

Use the following Word settings.

-Margins: Top & Bottom: 3 cm (1.18 inch)
Left &

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: YLP5030E

科目名/Course Name: Field Trip

担当教員/Instructor: PRESSELLO Andrea/PRESSELLO Andrea

学期名/Term: 春学期/Spring

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

The aim of the field trip is to deepen the understanding of Japan by visiting sites in local areas related to Japanese history, culture, society, industry or institutions. Some of these sites are linked to topics discussed in the Introduction to Japan course, which is a required course for students of the Young Leaders Program. Before the field trip, a briefing session will be held to provide the necessary relevant information.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

TBA

3. 成績の評価方法/ Grading:

Reaction paper (80%)

Participation in a class discussion after the field trip (20%)

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

Handouts will be provided by the instructors.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:YLP5040E

科目名/Course Name: Tutorial

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

A tutorial is a small-group consultation course and required part of the degree requirements for most of the masters programs. Each group will consist of no more than five students, considering the region of their origin. A tutorial is meant to nurture the sense of connectedness with faculty members as well as among fellow students at the early stage of designing their research. To that extent, students are expected to lead and participate in rigorous discussions of their subjects of interest with the instructor and other students and explore different arguments and present their ideas.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The Instructor will provide an appropriate course outline after a tutorial group is registered.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. While grading takes into account a students contribution to discussions, the Instructor may set regular written assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

The Instructor may prepare a reading list and/or distribute relevant materials. Students may suggest readings and discussion materials suitable.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: YLP5510E

科目名/ Course Name: Independent Study

担当教員/ Instructor: 高田 寛文 他/ TAKADA Hirofumi, et al.

学期名/ Term: 秋～夏/ Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

All students in YLP School of Local Governance will work one-on-one with a supervisor on their Independent Study on a particular topic related to local governance and policy formulation. Students are supported in their research by the Center for Professional Communication (CPC) that organizes Writing Workshops as well as individual consultation throughout the year. The CPC will also help students improve their presentation skills.

Students are required to give a presentation on their research in July.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

December: Submission of proposal and assignment of a supervisor

July: Presentation of the research

End of July: Submission of the paper

3. 成績の評価方法/ Grading:

Grades will be awarded on the basis of the quality of the paper and the performance at presentation.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/ Required 4-2:その他/ Others)

Required readings will be instructed by a supervisor.

5. 履修上の注意/ Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number:YLP5540E

科目名/Course Name: Tutorial

担当教員/Instructor: 関係教員/Various

学期名/Term: 秋～夏/Fall through Summer

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

A tutorial is a small-group consultation course and required part of the degree requirements for most of the masters programs, including YLP School of Local Governance. Each group will consist of no more than five students, considering the region of their origin and other factors. A tutorial is meant to nurture the sense of connectedness with faculty members as well as among fellow students at the early stage of designing their research. To that extent, students are expected to lead and participate in rigorous discussions of their subjects of interest with the instructor and other students and explore different arguments and present their ideas.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

The instructor will provide an appropriate course outline after a tutorial group is registered.

3. 成績の評価方法/ Grading:

The tutorial will be graded on a Pass/Fail basis. While grading takes into account a students contribution to discussions, the instructor may set regular written assignments.

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/Others)

The instructor may prepare a reading list and/or distribute relevant materials. Students may suggest readings and discussion materials suitable.

5. 履修上の注意/Note:

開講年度/ Academic Year: 2023 年度/(April 2023 - March 2024)

科目番号/ Course Number: YLP5550E

科目名/ Course Name: Workshop

担当教員/ Instructor: 高田 寛文/TAKADA Hirofumi

学期名/ Term: 秋学期/Fall

1. 本講義の概要及び到達目標/ Course Description and the Learning Objectives :

Workshop will be arranged for the students in YLP School of Local Governance at the end of the Fall term, during which students will visit several local governments to meet with officials who will share their first-hand experiences and practices in policy planning and implementation. Students will also have a chance to visit various facilities such as a day care center for elderly people and a roadside station for on-the-spot sales of local products.

Students may thus be able to understand how the Japanese local government system actually functions in everyday life in Japan.

Workshop Report written by individual students and a group presentation are required.

2. 各授業のテーマ/ Course Outline (Schedule for Each Class):

Details will be announced later.

3. 成績の評価方法/ Grading:

Pass/Fail

4. 参考文献等/ Textbooks: (4-1:必携のテキスト/Required 4-2:その他/ Others)

Materials will be distributed.

5. 履修上の注意/Note: